授　業　計　画

平 成 28 年 度

東京家政学院大学

平成28年度　学 年 暦

前　期

	日	月	火	水	木	金	土	週	行　事
28年 4月						1	2	1	1日　学年開始 4日　入学式 5日～7日 オリエンテーション 8日　前期授業開始 15日・16日 オリエンテーションミーティング （通常授業休業）
	3	4	5	6	7	8	9	2	
	10	11	12	13	14	15	16	3	
	17	18	19	20	21	22	23	4	
	24	25	26	27	28	29	30	5	
5月	1	2	3	4	5	6	7	6	21日　創立記念日 （通常授業休業）
	8	9	10	11	12	13	14	7	
	15	16	17	18	19	20	21	8	
	22	23	24	25	26	27	28	9	
	29	30	31					10	
6月				1	2	3	4	10	5日千代田KVA祭
	5	6	7	8	9	10	11	11	
	12	13	14	15	16	17	18	12	
	19	20	21	22	23	24	25	13	
	26	27	28	29	30			14	
7月						1	2	14	
	3	4	5	6	7	8	9	15	
	10	11	12	13	14	15	16	16	
	17	18	19	20	21	22	23	17	
	24	25	26	27	28	29	30	18	29日　前期授業終了 30日～8月5日 前期定期試験
	31								
8月								19	6日～9月20日　夏季休業
		1	2	3	4	5	6		
	7	8	9	10	11	12	13		
	14	15	16	17	18	19	20		
	21	22	23	24	25	26	27		
	28	29	30	31					
9月					1	2	3		7日～9日　前期追・再試験 15日・16日 後期オリエンテーション
	4	5	6	7	8	9	10		
	11	12	13	14	15	16	17		
	18	19	20						

後　期

	日	月	火	水	木	金	土	週	行　事
9月				21	22	23	24	1	21日　後期開始 22日　授業日
	25	26	27	28	29	30		2	
10月							1	2	
	2	3	4	5	6	7	8	3	8日　月曜日の振替授業
	9	10	11	12	13	14	15	4	
	16	17	18	19	20	21	22	5	
	23	24	25	26	27	28	29	6	
	30	31						7	
11月			1	2	3	4	5	7	3日　学内入構禁止
	6	7	8	9	10	11	12	8	10日～13日　大学祭(KVA祭) （通常授業休業）
	13	14	15	16	17	18	19	9	
	20	21	22	23	24	25	26	10	
	27	28	29	30				11	
12月					1	2	3	11	3日　学内入構禁止
	4	5	6	7	8	9	10	12	
	11	12	13	14	15	16	17	13	
	18	19	20	21	22	23	24	14	
	25	26	27	28	29	30	31		26日～1月5日　冬季休業
29年 1月	1	2	3	4	5	6	7	15	7日　学内入構禁止 （町田キャンパス） 14日・15日　学内入構禁止 （町田キャンパス） 21日　学内入構禁止 26日　後期授業終了 25日・27日～2月2日 後期定期試験
	8	9	10	11	12	13	14	16	
	15	16	17	18	19	20	21	17	
	22	23	24	25	26	27	28	18	
	29	30	31					19	
2月				1	2	3	4	19	1日・3日　学内入構禁止
	5	6	7	8	9	10	11		
	12	13	14	15	16	17	18		15日　学内入構禁止
	19	20	21	22	23	24	25		
	26	27	28						
3月				1	2	3	4		1日～3日　後期追・再試験
	5	6	7	8	9	10	11		9日　学内入構禁止
	12	13	14	15	16	17	18		17日大学卒業式・ 大学院修了式
	19	20	21	22	23	24	25		25日～31日　春季休業
	26	27	28	29	30	31			

・国民の祝日及び休日は、通常授業は行いません。
・■は、定期試験期間をあらわす。
・□は、授業休業期間をあらわす。
・┆┆は、月曜日の振替授業を行う。
・土曜日は月曜日の振替授業のほか補講並びに行事等を行う。

Contents

領 域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
基礎科目	G501010	日本の文学	井上　眞弓	1
基礎科目	G501020	日本の言語と文化	内田　宗一	1
基礎科目	G501030	文章表現法	内田　宗一	1
基礎科目	G501040	外国の言語と文化	西本　晶絵	1
基礎科目	G501050	異文化コミュニケーション	畝部　典子	2
基礎科目	G501060	文化人類学	西海　賢二	2
基礎科目	G501070	音楽	山原　麻紀子	2
基礎科目	G501080	美学・美術史	久々湊　直子	2
基礎科目	G501080	美学・美術史	鈴木　桂子	3
基礎科目	G501090	色彩論	滝沢　真美	3
基礎科目	G501100	服飾文化論	蒲池　香津代	3
基礎科目	G501110	民俗学	西海　賢二	3
基礎科目	G501120	考古学	小瀬　康行	4
基礎科目	G502010	基礎数学a	新海　公昭	4
基礎科目	G502020	基礎数学b	新海　公昭	4
基礎科目	G502030	数学トピックス	新海　公昭	4
基礎科目	G502040	基礎統計学a	新海　公昭	5
基礎科目	G502050	基礎統計学b	新海　公昭	5
基礎科目	G502060	情報論	田中　康裕	5
基礎科目	G502070	コンピュータ概論	千葉　一博	5
基礎科目	G502070	コンピュータ概論	田中　康裕	6
基礎科目	G502080	コンピュータ演習ａ	千葉　一博	6
基礎科目	G502080	コンピュータ演習ａ	田中　康裕	6
基礎科目	G502080	コンピュータ演習ａ	小野　由美子	6
基礎科目	G502080	コンピュータ演習ａ	原田　一義	7
基礎科目	G502090	コンピュータ演習ｂ	千葉　一博	7
基礎科目	G502090	コンピュータ演習ｂ	田中　康裕	7
基礎科目	G502090	コンピュータ演習ｂ	小野　由美子	7
基礎科目	G502090	コンピュータ演習ｂ	原田　一義	8
基礎科目	G503010	人間の体	金子　和正	8
基礎科目	G503020	ダイエットとフィットネス	金子　和正	8
基礎科目	G503030	女性と健康医学	朝山　光太郎	8
基礎科目	G503040	生理心理学	市原　信	9
基礎科目	G503050	レクリエーション概論	大嶋　徹	9
基礎科目	G503060	健康スポーツ演習ａ	大嶋　徹	9
基礎科目	G503060	健康スポーツ演習ａ	外川　重信	9
基礎科目	G503060	健康スポーツ演習ａ	宮崎　晃子	10
基礎科目	G503060	健康スポーツ演習ａ	吉田　博幸	10
基礎科目	G503060	健康スポーツ演習ａ	金指　みの利	10
基礎科目	G503070	健康スポーツ演習ｂ	金子　和正	10
基礎科目	G503070	健康スポーツ演習ｂ	外川　重信	11
基礎科目	G503070	健康スポーツ演習ｂ	大嶋　徹	11
基礎科目	G503070	健康スポーツ演習ｂ	宮崎　晃子	11
基礎科目	G503070	健康スポーツ演習ｂ	吉田　博幸	11
基礎科目	G503070	健康スポーツ演習ｂ	金指　みの利	12
基礎科目	G503080	健康スポーツ演習ｃ	金子　和正	12
基礎科目	G503080	健康スポーツ演習ｃ	大嶋　徹	12
基礎科目	G503090	健康スポーツ演習ｄ	金子　和正	12
基礎科目	G503090	健康スポーツ演習ｄ	吉田　博幸	13
基礎科目	G503100	体育講義	金子　和正	13
基礎科目	G503110	体育実技	金子　和正	13
基礎科目	G504010	物理学入門	小谷　太郎	13
基礎科目	G504020	教養の化学	未　定	
基礎科目	G504020	教養の化学	倉持　宏実	14
基礎科目	G504030	化学入門	倉持　宏実	14
基礎科目	G504040	教養の生物学	岩見　哲夫	14
基礎科目	G504040	教養の生物学	沼波　秀樹	14
基礎科目	G504050	生物学入門	岩見　哲夫	15
基礎科目	G504050	生物学入門	沼波　秀樹	15
基礎科目	G504060	環境と資源	岩見　哲夫	15
基礎科目	G504060	環境と資源	沼波　秀樹	15
基礎科目	G504070	地球の科学	山崎　良雄	16
基礎科目	G504080	教養の物理学	小谷　太郎	16
基礎科目	G504090	基礎化学	未　定	
基礎科目	G504090	基礎化学	倉持　宏実	16

Contents

領 域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
基礎科目	G504100	基礎生物学	岩見　哲夫	16
基礎科目	G504100	基礎生物学	沼波　秀樹	17
基礎科目	G504110	自然史	岩見　哲夫	17
基礎科目	G505010	法学入門(日本国憲法)	尾﨑　利生	17
基礎科目	G505020	市民と法	尾﨑　利生	17
基礎科目	G505030	社会学入門	野坂　真	18
基礎科目	G505040	社会心理学	田之内　厚三	18
基礎科目	G505050	環境心理学	市原　信	18
基礎科目	G505060	経済学入門	大野　裕之	18
基礎科目	G505070	経営学入門	金森　敏	19
基礎科目	G505080	日本の歴史	熊井　保	19
基礎科目	G505090	世界の歴史	浜　由樹子	19
基礎科目	G505100	世界の地理	横地　留奈子	19
基礎科目	G505110	国際関係論	浜　由樹子	20
基礎科目	G506010	哲学入門	鈴木　元久	20
基礎科目	G506020	現代の哲学	鈴木　元久	20
基礎科目	G506030	倫理学入門	鈴木　元久	20
基礎科目	G506040	生命倫理	鈴木　元久	21
基礎科目	G506050	心理学ａ	市原　信	21
基礎科目	G506050	心理学ａ	加地　雄一	21
基礎科目	G506050	心理学ａ	木村　文香	21
基礎科目	G506060	心理学ｂ	市原　信	22
基礎科目	G506060	心理学ｂ	加地　雄一	22
基礎科目	G506060	心理学ｂ	木村　文香	22
基礎科目	G506070	ジェンダー論	鳥山　純子	22
基礎科目	G506080	大江スミ先生を語る	藤居　眞理子	23
基礎科目	G506080	大江スミ先生を語る	井上　眞弓 他	23
基礎科目	G506090	人間関係論	松井　知子	23
基礎科目	G507010	リテラシー演習	千葉　一博 他	23
基礎科目	G507010	リテラシー演習	井上　眞弓 他	24
基礎科目	G507020	海外研修(英語研修)	畝部　典子 他	24
基礎科目	G507040	英会話集中講座	マーク　ルイス	24
基礎科目	G507050	地域貢献活動	大嶋　徹 他	24
基礎科目	G508010	Basic English 1	大和田　寛	25
基礎科目	G508010	Basic English 1	大和田　寛	25
基礎科目	G508010	Basic English 1	畝部　典子	25
基礎科目	G508010	Basic English 1	田中　愛	25
基礎科目	G508010	Basic English 1	奈須　麻里子	26
基礎科目	G508010	Basic English 1	大穀　郁子	26
基礎科目	G508020	Basic English 2	大和田　寛	26
基礎科目	G508020	Basic English 2	大和田　寛	26
基礎科目	G508020	Basic English 2	畝部　典子	27
基礎科目	G508020	Basic English 2	田中　愛	27
基礎科目	G508020	Basic English 2	奈須　麻里子	27
基礎科目	G508020	Basic English 2	大穀　郁子	27
基礎科目	G508030	Listening＆Speaking１	大穀　郁子	28
基礎科目	G508030	Listening＆Speaking１	大和田　寛	28
基礎科目	G508030	Listening＆Speaking１	畝部　典子	28
基礎科目	G508030	Listening＆Speaking１	橋本　文子	28
基礎科目	G508030	Listening＆Speaking１	田中　愛	29
基礎科目	G508040	Listening＆Speaking２	大穀　郁子	29
基礎科目	G508040	Listening＆Speaking２	大和田　寛	29
基礎科目	G508040	Listening＆Speaking２	畝部　典子	29
基礎科目	G508040	Listening＆Speaking２	橋本　文子	30
基礎科目	G508040	Listening＆Speaking２	田中　愛	30
基礎科目	G508050	Reading & Writing１	大和田　寛	30
基礎科目	G508050	Reading & Writing１	橋本　文子	30
基礎科目	G508060	Reading & Writing２	大和田　寛	31
基礎科目	G508060	Reading & Writing２	橋本　文子	31
基礎科目	G508070	Comm English１	マーク　ルイス	31
基礎科目	G508080	Comm English２	マーク　ルイス	31
基礎科目	G508090	英語検定対策講座	大穀　郁子	32
基礎科目	G508090	英語検定対策講座	田中　愛	32
基礎科目	G508100	フランス語入門1	綾部　素幸	32
基礎科目	G508100	フランス語入門1	アニー　フランス	32

Contents

領 域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
基礎科目	G508110	フランス語入門2	綾部　素幸	33
基礎科目	G508110	フランス語入門2	アニー　フランス	33
基礎科目	G508120	フランス語初級1	綾部　素幸	33
基礎科目	G508130	フランス語初級2	綾部　素幸	33
基礎科目	G508140	ドイツ語入門1	鈴木　元久	34
基礎科目	G508150	ドイツ語入門2	鈴木　元久	34
基礎科目	G508160	ドイツ語初級1	鈴木　元久	34
基礎科目	G508170	ドイツ語初級2	鈴木　元久	34
基礎科目	G508180	中国語入門1	住谷　孝之	35
基礎科目	G508180	中国語入門1	辻　リン	35
基礎科目	G508190	中国語入門2	住谷　孝之	35
基礎科目	G508190	中国語入門2	辻　リン	35
基礎科目	G508200	中国語初級1	辻　リン	36
基礎科目	G508210	中国語初級2	辻　リン	36
基礎科目	G508220	韓国語入門1	徐　旼廷	36
基礎科目	G508230	韓国語入門2	徐　旼廷	36
基礎科目	G508240	韓国語初級1	徐　旼廷	37
基礎科目	G508250	韓国語初級2	徐　旼廷	37
基礎科目	G509010	アカデミック・ジャパニーズ1	森　朋子	37
基礎科目	G509020	アカデミック・ジャパニーズ2	森　朋子	37
基礎科目	G509050	日本語ラボa	森　朋子	38
基礎科目	G509060	日本語ラボb	森　朋子	38
基礎科目	G509070	日本語ラボc	森　朋子	38
基礎科目	G509080	日本語ラボd	森　朋子	38
基礎科目	G509090	社会人としての日本語	内田　宗一	39
基礎科目	G509310	日本の歴史と文化	内田　宗一	39
＜学部共通（平成25年度以前入学者）＞				
専門科目	G000520	フードサービスビジネス論	山岡　義卓	41
専門科目	G000520	フードサービスビジネス論	吉野　知子	41
専門科目	G000660	建築法規	原口　秀昭	41
専門科目	G000660	建築法規	塚田　豊	41
専門科目	G000900	遊びの次世代伝達	大嶋　徹	42
専門科目	G000930	自然体験活動実習	金子　和正	42
＜現代家政学科＞				
専門科目	G000030	インターンシップ	金森　敏	43
専門科目	G000940	キャリアデザインA	金森　敏	43
専門科目	G000950	キャリアデザインB	金森　敏	43
専門科目	G010010	現代生活論（現代家政学科 ）	現代家政学科　教員	43
専門科目	G010020	家政学原論	上村　協子 他	44
専門科目	G010040	女性史	佐藤　広美	44
専門科目	G010050	美と健康	植竹　桃子	44
専門科目	G010060	情報処理演習Ⅰ	小野　由美子	44
専門科目	G010070	情報処理演習Ⅱ	小野　由美子	45
専門科目	G010080	卒業研究A	現代家政学科　教員	45
専門科目	G010090	卒業研究B	現代家政学科　教員	45
専門科目	G010100	家族論	林　葉子	45
専門科目	G010110	家族の文化	井上　眞弓	46
専門科目	G010120	子どもと遊び	大嶋　徹	46
専門科目	G010160	家族支援論	髙橋　幸三郎	46
専門科目	G010170	家族と法	木村　くに子	46
専門科目	G010180	家庭経済学	上村　協子	47
専門科目	G010190	消費者教育	早野　木の美	47
専門科目	G010220	消費者政策と法	小野　由美子	47
専門科目	G010230	高度情報社会と消費者	小野　由美子	47
専門科目	G010240	プロシューマー調査法	小野　由美子	48
専門科目	G010250	プロシューマー演習	小野　由美子 他	48
専門科目	G010260	プロシューマー実習	上村　協子 他	48
専門科目	G010270	生活設計論	上村　協子	48
専門科目	G010290	エコロジー	沼波　秀樹	49
専門科目	G010300	環境保護論	沼波　秀樹	49
専門科目	G010330	ツーリズムb（環境）	沼波　秀樹	49
専門科目	G010340	都市計画	長野　博一	49
専門科目	G010370	祭礼と民俗芸能	西海　賢二	50

Contents

領 域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
専門科目	G010380	ライフプロデュース論	山岡　義卓	50
専門科目	G010430	ツーリズムa（地域と文化）	包　薩日娜	50
専門科目	G010450	多文化共生	森　朋子	50
専門科目	G010470	ＮＧＯ・ＮＰＯ論	信田　理奈	51
専門科目	G010480	コミュニティ論	北原　零未	51
専門科目	G010510	ファッション造形学	山村　明子	51
専門科目	G010520	ファッション造形実習Ｂ	植竹　桃子	51
専門科目	G010530	装飾マテリアル演習	蒲池　香津代	52
専門科目	G010540	現代衣生活論	山村　明子	52
専門科目	G010550	世界の服飾	蒲池　香津代	52
専門科目	G010560	日本の服飾	井上　眞弓	52
専門科目	G010580	ファッション販売論	植竹　桃子	53
専門科目	G010590	衣と消費科学	植竹　桃子	53
専門科目	G010600	ファッションカラー演習	井澤　尚子	53
専門科目	G010610	ファッションコーディネイト	山村　明子	53
専門科目	G010620	ファッション企画・設計論	蒲池　香津代 他	54
専門科目	G010640	衣服環境論	植竹　桃子	54
専門科目	G010660	インテリア設計論	大宮司　勝弘	54
専門科目	G010670	インテリア計画	大宮司　勝弘	54
専門科目	G010680	インテリアデザイン演習Ａ	大宮司　勝弘 他	55
専門科目	G010700	江戸東京学	熊井　保 他	55
専門科目	G010720	生活美学	蒲池　香津代	55
専門科目	G010730	言語コミュニケーション	内田　宗一	55
専門科目	G010740	若者文化論	内田　宗一 他	56
専門科目	G010760	生活文化論	小瀬　康行	56
専門科目	G010800	文化の継承と発信	井上　眞弓 他	56
専門科目	G010810	生活文化演習	井上　眞弓	56
専門科目	G010820	食品学実験	竹中　真紀子	57
専門科目	G010830	食のリスクマネジメント	塩見　一雄	57
専門科目	G010840	レシピの比較文化史	宇都宮　由佳	57
専門科目	G010850	食文化論	熊井　保	57
専門科目	G010860	食文化演習	熊井　保 他	58
専門科目	G010870	生活史演習	熊井　保	58
専門科目	G010880	フードコーディネート論	竹中　真紀子	58
専門科目	G010890	設計製図演習A	小林　直弘 他	58
専門科目	G010900	設計製図演習B	小林　直弘 他	59
専門科目	G010910	設計製図演習C	大橋　智子 他	59
専門科目	G010920	設計製図演習D	篠田　義男 他	59
専門科目	G010930	現代家政演習	現代家政学科　教員	59
専門科目	G010940	日本語教育概論	森　朋子	60
専門科目	G010950	社会調査法	小野　由美子	60
専門科目	G010960	食物学概論	三宅　紀子	60
専門科目	G010970	食と社会	竹中　真紀子	60
専門科目	G010980	食生活演習	竹中　真紀子 他	61
専門科目	G010990	インテリアデザイン演習Ｂ	大宮司　勝弘 他	61
専門科目	G011000	インテリアＣＡＤ演習	大宮司　勝弘	61
専門科目	G011010	建築調査	大橋　竜太	61
専門科目	G011020	衣とユニバーサルデザイン	蒲池　香津代	62
専門科目	G011100	基礎ゼミ	現代家政学科　教員	62
専門科目	G011101	日本社会史	熊井　保	62
専門科目	G011102	生活史	西海　賢二	62
専門科目	G011103	生活の経済学	古徳　佳枝	63
専門科目	G011104	情報伝達と表現	小林　直弘	63
専門科目	G011105	家庭電気・機械・情報処理	椛田　考一	63
専門科目	G011106	会計情報演習	古徳　佳枝	63
専門科目	G011107	家庭経営学概論	井上　眞弓 他	64
専門科目	G011108	家政学概論	植竹　桃子 他	64
専門科目	G011109	家族関係論	林　葉子	64
専門科目	G011110	家庭看護	吉賀　成子	64
専門科目	G011111	消費者情報論	小野　由美子	65
専門科目	G011112	消費経済論	金森　敏	65
専門科目	G011113	児童学概論	塚田　幸子	65
専門科目	G011114	保育学	塚田　幸子	65
専門科目	G011115	衣生活概論	植竹　桃子 他	66
専門科目	G011116	ファッション造形実習A	山村　明子 他	66

Contents

領 域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
専門科目	G011117	食品学概論	竹中　真紀子	66
専門科目	G011118	フードスペシャリスト論	竹中　真紀子	66
専門科目	G011119	栄養学概論	竹中　真紀子	67
専門科目	G011120	食品学	三宅　紀子	67
専門科目	G011121	調理学	三宅　紀子	67
専門科目	G011122	栄養学	竹中　真紀子	67
専門科目	G011123	食生活論	熊井　保 他	68
専門科目	G011124	調理学実習	三宅　紀子	68
専門科目	G011125	健康・食発達心理学	外山　紀子	68
専門科目	G011126	フードサービスビジネス論	吉野　知子	68
専門科目	G011127	食料経済	二瓶　徹	69
専門科目	G011128	食卓と工芸	澤田　雅彦	69
専門科目	G011129	製品・食品鑑別演習	三宅　紀子	69
専門科目	G011130	住居学概論	小池　孝子	69
専門科目	G011131	建築史Ａ	大橋　竜太	70
専門科目	G011132	建築史B	大橋　竜太	70
専門科目	G011133	住生活論	大橋　竜太	70
専門科目	G011134	住居設備	椛田　考一	70
専門科目	G011135	構造力学A	白井　篤	71
専門科目	G011136	構造計画Ａ	永井　佑季	71
専門科目	G011137	インテリア材料	白井　篤	71
専門科目	G011138	住宅施工	白井　篤	71
専門科目	G011140	建築環境学Ａ	椛田　考一	72
専門科目	G011141	住居計画	小池　孝子	72
専門科目	G011142	福祉住環境	小池　孝子	72
専門科目	G011143	社会福祉概論	髙橋　幸三郎	72
専門科目	G011144	スポーツツーリズム	大嶋　徹	73
専門科目	G011147	現代家政とKVA	現代家政学科　教員	73
専門科目	G011148	西洋服飾文化史	山村　明子	73
専門科目	G011149	江戸東京文化研究	内田　宗一	73
＜健康栄養学科＞				
専門科目	G000030	インターンシップ	金森　敏	74
専門科目	G000940	キャリアデザインA	金森　敏	74
専門科目	G000950	キャリアデザインB	金森　敏	74
専門科目	G020010	健康と食生活	加藤　理津子	74
専門科目	G020020	健康福祉学概論	西口　守 他	75
専門科目	G020030	公衆衛生学Ⅰ	松田　正己	75
専門科目	G020040	公衆衛生学Ⅱ	松田　正己	75
専門科目	G020050	公衆衛生学実習	松田　正己	75
専門科目	G020060	疫学・社会調査法	澤崎　康	76
専門科目	G020070	解剖生理学Ⅰ	原　光彦	76
専門科目	G020080	解剖生理学Ⅱ	原　光彦	76
専門科目	G020090	解剖生理学実習	原　光彦	76
専門科目	G020100	スポーツ栄養学	吉田　博幸 他	77
専門科目	G020110	運動生理学実習	吉田　博幸	77
専門科目	G020120	病原微生物学	津山　淳	77
専門科目	G020130	病理学	朝山　光太郎 他	77
専門科目	G020150	生化学Ⅰ	馬場　修	78
専門科目	G020160	生化学Ⅱ	馬場　修	78
専門科目	G020170	生化学実験	馬場　修	78
専門科目	G020180	基礎サイエンス実験	沼波　秀樹 他	78
専門科目	G020190	基礎食品学	海野　知紀	79
専門科目	G020200	応用食品学	林　一也	79
専門科目	G020210	基礎食品学実験	海野　知紀 他	79
専門科目	G020220	応用食品学実験	林　一也	79
専門科目	G020230	食文化論	瀬尾　弘子 他	80
専門科目	G020240	調理学	未　定	
専門科目	G020250	基礎調理学実習	加藤　理津子 他	80
専門科目	G020260	応用調理学実習	加藤　理津子 他	80
専門科目	G020270	調理学実験	未　定	
専門科目	G020280	食品の官能評価・鑑別論	林　一也 他	80
専門科目	G020290	食品衛生学	林　一也	81
専門科目	G020300	食品衛生学実験	林　一也	81
専門科目	G020310	基礎栄養学Ⅰ	海野　知紀	81

Contents

領 域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
専門科目	G020320	基礎栄養学Ⅱ	海野　知紀	81
専門科目	G020330	基礎栄養学実験	馬場　修	82
専門科目	G020340	食事摂取基準論	朝山　光太郎	82
専門科目	G020350	ライフステージ別栄養学Ⅰ	朝山　光太郎	82
専門科目	G020360	ライフステージ別栄養学Ⅱ	朝山　光太郎	82
専門科目	G020370	応用栄養学実習	酒井　治子 他	83
専門科目	G020380	健康行動支援プログラム論	國井　大輔	83
専門科目	G020390	栄養教育総論	辻　雅子	83
専門科目	G020400	栄養教育方法論	辻　雅子	83
専門科目	G020410	ライフステージ別栄養教育論	酒井　治子	84
専門科目	G020420	栄養教育実習Ⅰ	辻　雅子	84
専門科目	G020430	栄養教育実習Ⅱ	酒井　治子	84
専門科目	G020440	カウンセリング論	吉田　恵子	84
専門科目	G020450	食情報表現演習	呉　起東	85
専門科目	G020460	臨床栄養学Ⅰ	原　光彦	85
専門科目	G020470	臨床栄養学Ⅱ	朝山　光太郎	85
専門科目	G020480	臨床栄養アセスメント論	金澤　良枝	85
専門科目	G020490	臨床栄養ケアマネジメント論	金澤　良枝	86
専門科目	G020500	臨床栄養アセスメント実習	金澤　良枝 他	86
専門科目	G020510	臨床栄養ケアマネジメント実習	金澤　良枝 他	86
専門科目	G020520	栄養治療学	金澤　良枝	86
専門科目	G020530	公衆栄養学	田中　弘之	87
専門科目	G020540	地域栄養活動論	田中　弘之	87
専門科目	G020550	公衆栄養学実習	田中　弘之	87
専門科目	G020560	地域栄養活動演習	田中　弘之 他	87
専門科目	G020570	国際栄養活動論	松田　正己 他	88
専門科目	G020580	フードシステム論	二瓶　徹	88
専門科目	G020590	福祉栄養ケアマネジメント演習（児童）	田中　弘之 他	88
専門科目	G020590	福祉栄養ケアマネジメント演習（高齢者）	田中　弘之 他	88
専門科目	G020600	給食経営管理論	吉野　知子	89
専門科目	G020610	給食経営管理実習	吉野　知子	89
専門科目	G020620	健康フードマネジメント論	吉野　知子	89
専門科目	G020630	健康フードマネジメント実習	本間　治子	89
専門科目	G020630	健康フードマネジメント実習	吉野　知子	90
専門科目	G020640	食・空間プロデュース論	加藤　理津子	90
専門科目	G020650	健康栄養プロデュース実習	健康栄養学科　教員	90
専門科目	G020660	給食運営臨地実習	吉野　知子 他	90
専門科目	G020670	臨床栄養Ⅰ臨地実習	金澤　良枝 他	91
専門科目	G020680	臨床栄養Ⅱ臨地実習	金澤　良枝 他	91
専門科目	G020690	公衆栄養臨地実習	田中　弘之 他	91
専門科目	G020700	実践健康栄養プロデュース実習	健康栄養学科　教員	91
専門科目	G020710	総合演習Ⅰ	吉野　知子 他	92
専門科目	G020720	総合演習Ⅱ	金澤　良枝 他	92
専門科目	G020730	海外文献抄読演習	橋本　文子	92
専門科目	G020740	実践栄養英会話	マーク　ルイス	92
専門科目	G020750	食物・栄養演習A	田中　弘之 他	93
専門科目	G020760	食物・栄養演習B	田中　弘之 他	93
専門科目	G020770	食物・栄養演習C	田中　弘之 他	93
専門科目	G020780	食物・栄養演習D	田中　弘之 他	93
専門科目	G020790	食物・栄養演習E	田中　弘之 他	94
専門科目	G020800	運動生理学	吉田　博幸	94
専門科目	G021000	管理栄養士基礎演習	健康栄養学科　教員	94
専門科目	G021001	有機化学	佐山　信成	94
専門科目	G021002	健康・食発達心理学	外山　紀子	95
＜生活デザイン学科＞				
専門科目	G000030	インターンシップ	金森　敏	96
専門科目	G000940	キャリアデザインA	金森　敏	96
専門科目	G000950	キャリアデザインB	金森　敏	96
専門科目	G030010	生活デザイン演習A	生活デザイン学科　教員	96
専門科目	G030020	現代生活論（生活デザイン学科）	生活デザイン学科　教員	97
専門科目	G030030	卒業研究A	生活デザイン学科　教員	97
専門科目	G030040	卒業研究B	生活デザイン学科　教員	97
専門科目	G030050	テキスタイル材料学	花田　朋美	97
専門科目	G030060	高分子材料実験	花田　朋美	98

Contents

領 域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
専門科目	G030070	衣繊維学	花田　朋美	98
専門科目	G030090	機器分析法	花田　朋美	98
専門科目	G030110	繊維製品試験法	藤居　眞理子	98
専門科目	G030120	被服整理学	藤居　眞理子	99
専門科目	G030140	染色学	花田　朋美	99
専門科目	G030150	染色学実験	花田　朋美	99
専門科目	G030160	工芸染色技法	藤居　眞理子	99
専門科目	G030170	工芸染色実習B	藤居　眞理子	100
専門科目	G030180	服飾設計論	富田　弘美	100
専門科目	G030200	服飾造形実習C	富田　弘美	100
専門科目	G030220	アパレル商品論	富田　弘美	100
専門科目	G030240	衣構成学実習Ｂ	富田　弘美 他	101
専門科目	G030250	テキスタイルデザイン実習	蒲池　香津代 他	101
専門科目	G030260	テキスタイルアドバイザー実習	藤田　恵子	101
専門科目	G030270	消費科学	大橋　正男	101
専門科目	G030280	衣環境衛生学	植竹　桃子	102
専門科目	G030290	食品機能化学	黒田　久夫	102
専門科目	G030300	食品加工貯蔵学	黒田　久夫	102
専門科目	G030310	食品微生物学	黒田　久夫	102
専門科目	G030320	食品衛生学	山﨑　薫	103
専門科目	G030330	バイオサイエンス	山﨑　薫	103
専門科目	G030340	調理とフードコーディネート	小口　悦子	103
専門科目	G030350	調理と素材	小口　悦子	103
専門科目	G030360	調理と文化	小口　悦子	104
専門科目	G030370	食文化論	熊井　保	104
専門科目	G030380	食文化演習	熊井　保 他	104
専門科目	G030390	食・空間コーディネート論	澤田　雅彦 他	104
専門科目	G030400	食品学実験	黒田　久夫	105
専門科目	G030410	食科学演習	小口　悦子 他	105
専門科目	G030430	食企画・開発論	黒田　久夫	105
専門科目	G030440	食企画・開発実習A	黒田　久夫 他	105
専門科目	G030450	食企画・開発実習B	黒田　久夫 他	106
専門科目	G030460	食と地球環境	山岡　義卓	106
専門科目	G030470	食品素材とフードメニュー	小口　悦子	106
専門科目	G030480	フードビジネス・食産業研究	黒田　久夫	106
専門科目	G030490	住居デザイン演習Ａ	小池　孝子 他	107
専門科目	G030500	住居デザイン演習Ｂ	小池　孝子 他	107
専門科目	G030510	住居デザイン演習Ｃ	原口　秀昭 他	107
専門科目	G030520	住居デザイン演習Ｄ	原口　秀昭 他	107
専門科目	G030530	建築デザイン演習Ａ	原口　秀昭 他	108
専門科目	G030540	建築デザイン演習Ｂ	原口　秀昭 他	108
専門科目	G030550	住居ＣＡＤ演習	足立　幸寿	108
専門科目	G030560	建築ＣＡＤ演習	足立　幸寿	108
専門科目	G030570	建築総合演習	柏木　穂波	109
専門科目	G030580	建築計画	小池　孝子	109
専門科目	G030590	建築環境学Ｂ	椛田　考一	109
専門科目	G030600	建築環境システム	椛田　考一	109
専門科目	G030610	住環境調査A	椛田　考一 他	110
専門科目	G030620	構造力学Ｂ	西村　彰敏	110
専門科目	G030630	構造力学C	西村　彰敏	110
専門科目	G030640	住宅設計論	原口　秀昭	110
専門科目	G030650	構法計画	白井　篤	111
専門科目	G030660	構造計画B	西村　彰敏	111
専門科目	G030670	建築材料学	白井　篤	111
専門科目	G030680	建築施工	白井　篤	111
専門科目	G030700	基礎造形	澤田　雅彦	112
専門科目	G030710	インテリア基礎演習	高尾　純宏	112
専門科目	G030720	クラフトデザイン演習	澤田　雅彦	112
専門科目	G030730	インテリアデザイン演習	高尾　純宏	112
専門科目	G030750	メディアデザイン基礎演習	呉　起東	113
専門科目	G030760	メディアデザイン演習	呉　起東	113
専門科目	G030770	デジタルフォト論	呉　起東	113
専門科目	G030790	カラーコーディネート	高尾　純宏	113
専門科目	G030810	生活用具論	高尾　純宏	114
専門科目	G030820	インテリアデザイン論	高尾　純宏	114

Contents

領 域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
専門科目	G030830	食器デザイン論	澤田　雅彦	114
専門科目	G030840	くらしの考現学	望月　史郎	114
専門科目	G030870	生活デザイン演習D	生活デザイン学科　教員	115
専門科目	G030880	高分子材料実験Ⅰ	花田　朋美	115
専門科目	G030890	繊維学実験Ⅰ	花田　朋美	115
専門科目	G030900	アパレルデザイン論	藤田　恵子	115
専門科目	G030910	アパレルデザイン表現実習	藤田　恵子	116
専門科目	G030920	服飾造形実習A	藤田　恵子	116
専門科目	G030950	繊維製品取扱い試験法	藤居　眞理子 他	116
専門科目	G030960	高分子材料学実験Ⅱ	花田　朋美	116
専門科目	G030970	繊維学実験Ⅱ	花田　朋美	117
専門科目	G030980	デジタルデザイン演習	呉　起東	117
専門科目	G031000	生活デザイン演習B	生活デザイン学科　教員	117
専門科目	G031001	生活の経済学	古徳　佳枝	117
専門科目	G031002	サイエンス演習	岩見　哲夫 他	118
専門科目	G031003	人体の構造と機能	岩見　哲夫	118
専門科目	G031004	コミュニケーションデザイン	呉　起東	118
専門科目	G031006	デザイン概論	望月　史郎	118
専門科目	G031007	人間工学	澤田　雅彦	119
専門科目	G031008	家庭経営学概論	井上　眞弓 他	119
専門科目	G031010	家庭看護	増田　いづみ	119
専門科目	G031011	消費者情報論	小野　由美子	119
専門科目	G031012	消費経済論	金森　敏	120
専門科目	G031013	生活情報論	千葉　一博	120
専門科目	G031015	衣環境学概論	藤居　眞理子 他	120
専門科目	G031016	衣構成学実習A	富田　弘美 他	120
専門科目	G031018	食品学Ⅰ	黒田　久夫	121
専門科目	G031019	食科学概論	山﨑　薫 他	121
専門科目	G031020	栄養学Ⅰ	山﨑　薫	121
専門科目	G031021	食品学Ⅱ	黒田　久夫	121
専門科目	G031022	調理学	小口　悦子	122
専門科目	G031023	栄養学Ⅱ	山﨑　薫	122
専門科目	G031024	食生活論	熊井　保 他	122
専門科目	G031025	基礎調理	小口　悦子	122
専門科目	G031027	食料経済	山岡　義卓	123
専門科目	G031028	ものづくり論	澤田　雅彦	123
専門科目	G031029	製品・食品鑑別演習	山﨑　薫	123
専門科目	G031030	住居学概論	小池　孝子	123
専門科目	G031031	建築史A	大橋　竜太	124
専門科目	G031032	建築史B	大橋　竜太	124
専門科目	G031033	住生活論	小池　孝子 他	124
専門科目	G031034	住居設備	椛田　考一	124
専門科目	G031035	構造力学A	西村　彰敏	125
専門科目	G031036	構造計画A	西村　彰敏	125
専門科目	G031037	インテリア材料	白井　篤	125
専門科目	G031038	住宅施工	白井　篤	125
専門科目	G031040	建築環境学A	椛田　考一	126
専門科目	G031041	住居計画	小池　孝子	126
専門科目	G031042	福祉住環境	小池　孝子	126
専門科目	G031043	生活デザイン演習C	生活デザイン学科　教員	126
専門科目	G031044	被服整理学実験	藤居　眞理子 他	127
専門科目	G031045	工芸染色実習A	藤居　眞理子 他	127
専門科目	G031047	服飾造形実習B	藤田　恵子	127
専門科目	G031048	栄養学・食品衛生学実験	山﨑　薫	127
専門科目	G031049	調理学実験	小口　悦子	128
専門科目	G031051	フードスペシャリスト論	山﨑　薫	128
専門科目	G031052	生活デザイン演習E	生活デザイン学科　教員	128
専門科目	G031053	生活デザイン演習F	生活デザイン学科　教員	128
専門科目	G031055	アパレル生産実習	藤田　恵子	129
専門科目	G031058	インテリアコーディネート	原口　秀昭	129
専門科目	G032056	アパレルＣＡＤ実習	藤田　恵子	129
専門科目	G032059	住環境調査B	椛田　考一	129

Contents

領 域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
＜児童学科＞				
専門科目	G000010	卒業研究基礎ゼミ	児童学科　教員	130
専門科目	G000030	インターンシップ	金森　敏	130
専門科目	G000940	キャリアデザインA	金森　敏	130
専門科目	G000950	キャリアデザインB	金森　敏	130
専門科目	G040010	児童学研究法	児童学科　教員	131
専門科目	G040020	発達心理学	丹羽　さがの	131
専門科目	G040030	教育心理学	木村　文香	131
専門科目	G040040	教育原理	河田　敦子	131
専門科目	G040050	教育課程論（小）	齋藤　義雄	132
専門科目	G040060	保育学Ａ	丹羽　さがの	132
専門科目	G040070	保育学Ｂ	新開　よしみ	132
専門科目	G040080	児童と文化	美谷島　いく子	132
専門科目	G040090	小児保健Ⅰ	朝山　光太郎	133
専門科目	G040100	卒業研究A	児童学科　教員	133
専門科目	G040110	卒業研究B	児童学科　教員	133
専門科目	G040120	児童心理学	加地　雄一	133
専門科目	G040130	発達臨床心理学	柳瀬　洋美	134
専門科目	G040140	対人関係の発達	丹羽　さがの	134
専門科目	G040150	発達障がい論	杉野　学	134
専門科目	G040160	発達臨床論	加地　雄一	134
専門科目	G040170	心理学研究法	加地　雄一	135
専門科目	G040180	児童とカウンセリング	柳瀬　洋美	135
専門科目	G040190	心理検査法実習	加地　雄一 他	135
専門科目	G040220	社会福祉	嶋田　芳男	135
専門科目	G040230	社会的養護	塩谷　隼平	136
専門科目	G040240	社会的養護内容	横井　義広	136
専門科目	G040240	社会的養護内容	杉野　学	136
専門科目	G040270	乳児保育	和田　美香 他	136
専門科目	G040280	幼児理解	新開　よしみ	137
専門科目	G040290	保育内容総論Ａ	中田　範子	137
専門科目	G040300	保育内容総論Ｂ	中田　範子	137
専門科目	G040310	保育内容演習健康Ａ	金子　和正	137
専門科目	G040320	保育内容演習健康Ｂ	金子　和正	138
専門科目	G040330	保育内容演習言葉Ａ	和田　美香 他	138
専門科目	G040340	保育内容演習言葉Ｂ	和田　美香 他	138
専門科目	G040350	保育内容演習人間関係Ａ	丹羽　さがの	138
専門科目	G040360	保育内容演習人間関係Ｂ	柳瀬　洋美	139
専門科目	G040370	保育内容演習環境Ａ	中田　範子 他	139
専門科目	G040380	保育内容演習環境Ｂ	中田　範子	139
専門科目	G040390	保育内容演習表現A	新開　よしみ 他	139
専門科目	G040400	保育内容演習表現B	新開　よしみ 他	140
専門科目	G040410	保育方法論	細田　成子	140
専門科目	G040420	障がい児保育	中野　佐世子	140
専門科目	G040420	障がい児保育	渡邊　眞理	140
専門科目	G040430	保育実践演習	柳瀬　洋美 他	141
専門科目	G040440	算数科教育	新海　公昭	141
専門科目	G040450	生活科教育	中田　範子	141
専門科目	G040460	音楽科教育	山原　麻紀子	141
専門科目	G040470	図画工作科教育	立川　泰史	142
専門科目	G040480	国語科教育（書写を含む）	宮津　大蔵	142
専門科目	G040490	体育科教育	金子　和正	142
専門科目	G040500	社会科教育	尾﨑　利生	142
専門科目	G040510	理科教育	沼波　秀樹	143
専門科目	G040520	国語科教育法（書写を含む）	三輪　民子	143
専門科目	G040530	社会科教育法	佐藤　広美	143
専門科目	G040540	算数科教育法	新海　公昭	143
専門科目	G040550	理科教育法	黒田　篤志	144
専門科目	G040560	生活科教育法	池田　仁人	144
専門科目	G040570	音楽科教育法	山原　麻紀子	144
専門科目	G040580	図画工作科教育法	立川　泰史	144
専門科目	G040590	家庭科教育法	海野　りつ子	145
専門科目	G040600	体育科教育法	金子　和正	145
専門科目	G040620	小児保健Ⅱ	松井　知子	145
専門科目	G040630	小児保健演習	田中　和香菜	145

Contents

領 域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
専門科目	G040640	子どもの食と栄養	太田　百合子	146
専門科目	G040650	児童体育演習	金子　和正	146
専門科目	G040670	野外活動論（児童と野外環境）	金子　和正	146
専門科目	G040680	児童とことば	和田　美香	146
専門科目	G040690	児童と音楽Ａ	山原　麻紀子 他	147
専門科目	G040700	児童と音楽Ｂ	山原　麻紀子 他	147
専門科目	G040710	児童と身体表現	荒金　幸子	147
専門科目	G040720	児童と造形	立川　泰史	147
専門科目	G040730	保育表現技術	桜井　郁子	148
専門科目	G040740	英語アクティビティ	畝部　典子	148
専門科目	G040750	児童と外国語Ａ	畝部　典子	148
専門科目	G040760	児童と外国語Ｂ	松野　妙子	148
専門科目	G040770	児童と文学	石崎　公子	149
専門科目	G040800	相談援助	西口　守 他	149
専門科目	G040810	保育相談支援	柳瀬　洋美 他	149
専門科目	G040820	家庭支援論	新開　よしみ 他	149
専門科目	G040840	家庭科教育	山本　紀久子	150
専門科目	G041001	多変量統計入門	新海　公昭	150
専門科目	G041002	青年心理学	木村　文香	150
専門科目	G041003	人格心理学	未　定	
専門科目	G041004	心理学実験Ⅰ	加地　雄一 他	150
専門科目	G041005	心理学実験Ⅱ	加地　雄一 他	151
専門科目	G041006	家庭教育論	柳瀬　洋美	151
専門科目	G041007	家庭経営学概論	上村　協子	151
専門科目	G041008	児童学概論	田尻　さやか 他	151
専門科目	G041009	食科学概論	山﨑　薫 他	152
専門科目	G041010	児童福祉論	安藤　洋	152
専門科目	G041015	自然体験活動演習Ⅰ	金子　和正	152
専門科目	G041016	自然体験活動演習Ⅱ	金子　和正	152
専門科目	G041018	初等教育演習Ａ	新海　公昭 他	153
専門科目	G041019	初等教育演習Ｂ	新海　公昭 他	153
専門科目	G041020	初等教育演習Ｃ	新海　公昭 他	153
専門科目	G041024	児童臨床実習ＢⅠ	田尻　さやか 他	153
専門科目	G041025	児童臨床実習ＢⅡ	山原　麻紀子 他	154
専門科目	G041026	児童臨床実習ＣⅠ	柳瀬　洋美	154
専門科目	G041027	児童臨床実習ＣⅡ	柳瀬　洋美	154
専門科目	G041028	障害の基礎的理解	土谷　良巳	154
専門科目	G041030	特別支援教育総論	杉野　学	155
専門科目	G041034	知的障害者の心理・生理・病理	朝山　光太郎 他	155
専門科目	G041035	肢体不自由者の心理・生理・病理	岡澤　慎一	155
専門科目	G041036	病弱者の心理・生理・病理	市川　和男	155
専門科目	G041037	視覚障害者の理解と支援	土谷　良巳	156
＜人間福祉学科＞				
専門科目	G000030	インターンシップ	金森　敏	157
専門科目	G000940	キャリアデザインＡ	金森　敏	157
専門科目	G000950	キャリアデザインＢ	金森　敏	157
専門科目	G050010	現代生活論（人間福祉学科）	人間福祉学科　教員	157
専門科目	G050020	ソーシャルワーク総論Ⅰ	西口　守	158
専門科目	G050030	ソーシャルワーク総論Ⅱ	髙橋　幸三郎	158
専門科目	G050040	ソーシャルワーク各論Ⅰ	朝倉　和子 他	158
専門科目	G050050	ソーシャルワーク各論Ⅱ	朝倉　和子	158
専門科目	G050060	社会福祉調査法	小野　由美子	159
専門科目	G050070	社会福祉援助の理論と方法Ⅲ	嶋田　芳男	159
専門科目	G050080	社会福祉援助の理論と方法Ⅳ	髙橋　幸三郎	159
専門科目	G050100	人間の成長と発達	倉田　郁也	159
専門科目	G050110	ソーシャルワーク演習Ⅰ	西口　守 他	160
専門科目	G050120	社会福祉援助演習Ⅱ	嶋田　芳男 他	160
専門科目	G050130	社会福祉援助演習Ⅲ	嶋田　芳男 他	160
専門科目	G050140	社会福祉援助実習指導Ⅰ	朝倉　和子 他	160
専門科目	G050150	社会福祉援助実習指導Ⅱ	千葉　一博 他	161
専門科目	G050160	社会福祉援助実習指導Ⅲ	髙橋　幸三郎 他	161
専門科目	G050170	社会福祉援助実習	髙橋　幸三郎 他	161
専門科目	G050180	社会福祉リカレント講座Ⅰ	木本　明 他	161
専門科目	G050190	社会福祉リカレント講座Ⅱ	木本　明 他	162

Contents

領 域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
専門科目	G050200	卒業研究A	人間福祉学科　教員	162
専門科目	G050210	卒業研究B	人間福祉学科　教員	162
専門科目	G050220	社会保障論Ⅰ	木本　明	162
専門科目	G050230	社会保障論Ⅱ	木本　明	163
専門科目	G050240	社会福祉管理運営論	西口　守	163
専門科目	G050250	福祉行政論	木本　明	163
専門科目	G050260	公的扶助論	木本　明	163
専門科目	G050270	医療福祉論	砂田　淳一郎	164
専門科目	G050280	権利擁護と成年後見制度	木本　明	164
専門科目	G050290	カウンセリング論	加地　雄一	164
専門科目	G050320	就労支援	木本　明 他	164
専門科目	G050330	更生保護制度	飯田　邦男	165
専門科目	G050340	スクールソーシャルワーク	朝倉　和子	165
専門科目	G050350	精神保健福祉相談援助の理論と方法Ⅰ	中島　直行	165
専門科目	G050360	精神保健福祉相談援助の理論と方法Ⅱ	中島　直行	165
専門科目	G050370	家族支援論	髙橋　幸三郎	166
専門科目	G050380	精神保健福祉相談援助の理論と方法Ⅲ	中島　直行	166
専門科目	G050390	精神保健福祉相談援助の理論と方法Ⅳ	中島　直行	166
専門科目	G050420	精神保健福祉の制度とサービスⅠ	風間　康子	166
専門科目	G050430	精神保健福祉の制度とサービスⅡ	風間　康子	167
専門科目	G050440	精神障害者の生活支援	風間　康子	167
専門科目	G050450	精神保健福祉援助演習Ⅰ	風間　康子	167
専門科目	G050460	精神保健福祉援助演習Ⅱ	中島　直行	167
専門科目	G050470	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	中島　直行 他	168
専門科目	G050480	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	中島　直行 他	168
専門科目	G050490	精神保健福祉援助実習	中島　直行 他	168
専門科目	G050520	障害の理解	市川　和男	168
専門科目	G050540	介護技術	市川　和男	169
専門科目	G050580	社会福祉援助演習Ⅳ	髙橋　幸三郎 他	169
専門科目	G050590	社会福祉援助演習Ⅴ	西口　守 他	169
専門科目	G050620	ストレスマネジメント論	西口　守	169
専門科目	G050630	交渉法入門	西口　守	170
専門科目	G050640	ヘルスプロモーションと介護予防	鈴木　知佐子	170
専門科目	G050650	福祉の心理学	加地　雄一	170
専門科目	G050730	地域福祉論Ⅰ	嶋田　芳男	170
専門科目	G050740	地域福祉論Ⅱ	嶋田　芳男	171
専門科目	G050750	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	中島　直行	171
専門科目	G051000	基礎ゼミ	朝倉　和子 他	171
専門科目	G051001	多変量統計入門	新海　公昭	171
専門科目	G051002	青年心理学	木村　文香	172
専門科目	G051003	人格心理学	未　定	
専門科目	G051004	心理学実験Ⅰ	加地　雄一 他	172
専門科目	G051005	心理学実験Ⅱ	加地　雄一 他	172
専門科目	G051007	家庭教育論	柳瀬　洋美	172
専門科目	G051009	消費者情報論	小野　由美子	173
専門科目	G051010	消費経済論	金森　敏	173
専門科目	G051011	保育学	新開　よしみ	173
専門科目	G051012	衣環境学概論	藤居　眞理子 他	173
専門科目	G051013	食科学概論	山﨑　薫 他	174
専門科目	G051014	基礎調理	小口　悦子	174
専門科目	G051015	住居学概論	小池　孝子	174
専門科目	G051016	社会福祉Ⅰ	西口　守	174
専門科目	G051017	社会福祉Ⅱ	木本　明	175
専門科目	G051018	福祉の医学	鈴木　知佐子	175
専門科目	G051019	福祉の社会学	鈴木　元久	175
専門科目	G051021	児童福祉論	安藤　洋	175
専門科目	G051022	認知症の理解	市川　和男	176
専門科目	G051023	高齢者福祉論Ⅰ	西口　守	176
専門科目	G051024	高齢者福祉論Ⅱ	嶋田　芳男	176
専門科目	G051025	精神保健学Ⅰ	中島　直行	176
専門科目	G051026	精神保健学Ⅱ	中島　直行	177
専門科目	G051029	自然体験活動演習Ⅰ	金子　和正	177
専門科目	G051030	自然体験活動演習Ⅱ	金子　和正	177
専門科目	G051032	ナチュラルセラピー	川人　紫	177
専門科目	G051033	園芸論	本田　ともみ	178

Contents

領 域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
専門科目	G051059	心理学研究法	加地　雄一	178
＜資格科目＞				
資格科目	6100010	教師論	佐藤　広美	179
資格科目	6100020	教育原理	河田　敦子	179
資格科目	6100020	教育原理	佐藤　広美	179
資格科目	6100030	教育心理学	木村　文香	179
資格科目	6100040	教育制度論	佐藤　広美	180
資格科目	6100050	教育課程論	河田　敦子	180
資格科目	6100060	家庭科教育法A	植竹　桃子 他	180
資格科目	6100060	家庭科教育法A	上村　協子 他	180
資格科目	6100070	家庭科教育法B	植竹　桃子 他	181
資格科目	6100070	家庭科教育法B	上村　協子 他	181
資格科目	6100080	家庭科教育法C	石川　麗子 他	181
資格科目	6100080	家庭科教育法C	小野瀬　裕子	181
資格科目	6100090	家庭科教育法D	石川　麗子 他	182
資格科目	6100090	家庭科教育法D	小野瀬　裕子	182
資格科目	6100200	福祉科教育法A	嶋田　芳男 他	182
資格科目	6100210	福祉科教育法B	嶋田　芳男 他	182
資格科目	6100220	道徳教育論（小）	河田　敦子	183
資格科目	6100220	道徳教育論	河田　敦子	183
資格科目	6100230	特別活動論	長谷　徹	183
資格科目	6100230	特別活動論	齋藤　史夫	183
資格科目	6100300	教育方法・技術論（幼・小）	齋藤　義雄	184
資格科目	6100300	教育方法・技術論	木村　文香	184
資格科目	6100310	生徒指導論（小）	未　定	
資格科目	6100310	生徒指導論	未　定	
資格科目	6100310	生徒指導論	佐藤　博	184
資格科目	6100320	教育相談論	木村　文香	184
資格科目	6100350	教育実習指導	河田　敦子	185
資格科目	6100350	教育実習指導	佐藤　広美 他	185
資格科目	6100360	教育実習Ａ	河田　敦子	185
資格科目	6100360	教育実習Ａ	佐藤　広美	185
資格科目	6100370	教育実習Ｂ	河田　敦子	186
資格科目	6100370	教育実習Ｂ	佐藤　広美	186
資格科目	6100380	栄養教育実習指導	辻　雅子 他	186
資格科目	6100390	栄養教育実習	辻　雅子 他	186
資格科目	6100400	初等教育実習指導（小学校）	齋藤　義雄 他	187
資格科目	6100410	初等教育実習Ｃ	齋藤　義雄 他	187
資格科目	6100420	初等教育実習指導（幼稚園）	中田　範子 他	187
資格科目	6100430	初等教育実習Ａ	齋藤　義雄 他	187
資格科目	6100440	初等教育実習Ｂ	齋藤　義雄 他	188
資格科目	6100450	教職実践演習（中等）	河田　敦子	188
資格科目	6100450	教職実践演習（中等）	佐藤　広美 他	188
資格科目	6100460	教職実践演習（栄養）	佐藤　広美 他	188
資格科目	6100470	教職実践演習（幼・小）	立川　泰史 他	189
資格科目	6200010	学校栄養教育論Ⅰ	田中　延子	189
資格科目	6200020	学校栄養教育論Ⅱ	酒井　治子 他	189
資格科目	6300010	博物館概論	小瀬　康行	189
資格科目	6300020	博物館資料論	小瀬　康行	190
資格科目	6300030	博物館経営論	田尾　誠敏	190
資格科目	6300060	生涯学習概論	矢内　琴江	190
資格科目	6300080	博物館実習	小瀬　康行	190
資格科目	6300090	博物館資料保存論	田尾　誠敏	191
資格科目	6300100	博物館展示論	西海　賢二	191
資格科目	6300110	博物館教育論	高木　幸枝	191
資格科目	6300110	博物館教育論	佐藤　広美	191
資格科目	6300120	博物館情報・メディア論	木村　涼	192
資格科目	6400060	保育実習指導Ⅰ	新開　よしみ 他	192
資格科目	6400070	保育実習ＩＢ	新開　よしみ 他	192
資格科目	6400080	保育実習ＩＣ	柳瀬　洋美 他	192
資格科目	6400090	保育実習Ⅱ	児童学科　教員	193
資格科目	6400100	保育実習Ⅲ	柳瀬　洋美 他	193
資格科目	6400130	保育実習指導Ⅱ	丹羽　さがの 他	193
資格科目	6400140	保育実習指導Ⅲ	柳瀬　洋美 他	193

基　礎　科　目

NO. G00052001　フードサービスビジネス論

山岡　義卓

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

フードサービスビジネスは、「食に関係するサービス産業」の総称であり、その範囲は、小売業、飲食店、流通業、医療福祉、情報産業など幅広い分野におよぶ。フードサービスビジネスは、ライフスタイルの変容やグローバル化の進展など昨今の社会の変化に伴って拡大、発展してきた産業分野であるが、一方で、食の安全性の確保や食品ロスの増大といった諸問題とも深く関係している。
本授業では、私たちの日々の生活と深く関わるフードサービスビジネスについて、その普及の経緯と現代社会における役割や諸課題等を理解するとともに、今後、持続可能な社会を目指していくに際して、同産業のあり方や方向性について考える。

学習目標・到達目標

フードサービスビジネスの普及の経緯や役割、問題等を理解する。そのうえで、消費者として、あるいはサービスを提供する側の人間として、フードサービスビジネスに関わる際には、短期的な視点からの消費者メリットやビジネス上のメリットだけでなく、長期的および倫理的な観点も考慮して相応しい考え方や行動ができるようになることを目標とする。

評価方法その他

平常点30点、レポート40点、ワーク30点

週　テーマ・授業目標等

(1)ガイダンス　フードサービスビジネスとは
(2)私たちの暮らしとフードサービスビジネス
(3)フードサービスビジネスに関する諸課題①　消費社会
(4)フードサービスビジネスに関する諸課題②　グローバル化
(5)フードサービスビジネスに関する諸課題③　食の安全性
(6)フードサービスビジネスに関する諸課題④　環境問題・労働問題
(7)フードサービスビジネスと関連法規①　食品表示等
(8)フードサービスビジネスと関連法規②　食品営業等
(9)事例に見るフードサービスビジネス①
(10)事例に見るフードサービスビジネス②
(11)事例に見るフードサービスビジネス③
(12)フードサービスビジネスをつくってみる　①事業計画のつくり方
(13)フードサービスビジネスをつくってみる　②事業計画作成
(14)フードサービスビジネスをつくってみる　③発表会
(15)まとめ・振り返り

使用教科書名

テキストは使用しない。必要な文献や資料は授業の際に随時配付する。

NO. G00052031　フードサービスビジネス論

吉野　知子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

給食も含めた中食・外食の運営管理はフードサービスビジネスの１つである。国内外の中食・外食の動向や食のトレンドを学ぶ。また、食マーケットや市場が求めるメニューについての最新情報から商品開発の動向を知る。さらに、商品に付加価値をつけるサービスとホスピタリティーを理解して、総合的にフードサービスを考える。

学習目標・到達目標

国内外の食趣事情を含め中食・外食の動向とサービスの実態を理解する。食のトレンド、商品の付加価値、ホスピタリティーについて理解し、推奨する店舗や同業種の比較に関するプレゼンテーションや新商品の提案ができる。

評価方法その他

平常点(50%)、プレゼンテーション(50%)
(平常点は授業への参加状況、討論への参加、レポートの提出等で総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. フードサービスビジネスの概念
3. サービスとホスピタリティー
4. 食生活の領域と現状:内食・中食・外食
5. データから読むフードサービスビジネス①海外の食趣事情
6. データから読むフードサービスビジネス②国内の食趣事情
7. 商品・メニューのマーケティング
8. 中食・外食産業最前線
9. 食の最新トレンド情報・ヒット分析
10. 市場調査法
11. 情報収集法
12. プレゼンテーション①店舗紹介
13. プレゼンテーション②新商品企画
14. プレゼンテーション③企業比較紹介
15. まとめ

使用教科書名

プリント配布

NO. G00066001　建築法規

原口　秀昭

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

面積計算、高さ計算の練習を基本から行います。道路、敷地、防火、避難、居室などの規制を知ることで、設計、施工、不動産取引に応用できる力を養います。

学習目標・到達目標

建築法規の目的、全体像、概念を知り、建築関係法令集を自力で引けるようにします。

評価方法その他

毎回、その回でやった授業内容の小テストをして、15回分を集計して成績評価します。
その際、出席点20%、特点80%とします。

週　テーマ・授業目標等

1 法規のアウトライン
2 道路、敷地
3 用途制限 その1
4 用途制限 その2
5 面積制限 その1
6 面積制限 その2
7 面積制限 その3
8 高さ制限 その1
9 高さ制限 その2
10 高さ制限 その3
11 防火規定 その1
12 防火規定 その2
13 避難規定
14 居室 その1
15 居室 その2

使用教科書名

原口秀昭著「ゼロからはじめる建築の法規入門」彰国社

NO. G00066031　建築法規

塚田　豊

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

建築基準法を中心に関係法令との関連を平易に解説する事で、社会活動上求められる建築関係法令の全体像を理解し、またインテリア・住宅・建築関連の実務及び資格取得の重要な項目である建築関係法令を読んで理解出来るようにする。

学習目標・到達目標

建築に関係する法令への理解を深め、社会活動で必要な基礎的知識及びインテリア・住宅・建築に係わる企画、設計、施工、維持管理等の実務に役立つ建築関係法令の基礎的知識を学び、法令集の有効活用を修得する。

評価方法その他

平常点(30%)、問題演習2回(計20%)、定期試験(50%)によって総合的に評価する。
(平常点は授業への参加状況、討論への参加等で総合判断)

週　テーマ・授業目標等

1.建築基準法の意義、及び概要と歴史
2.建築基準法及び関係法令の法体系と構成、建築基準法の用語の解説
3.建築基準法の用語の定義
4.集団規定Ⅰ　敷地と道路、地域による建物の用途制限
5.集団規定Ⅱ　地域による面積制限(容積率、建ペイ率)
6.集団規定Ⅲ　地域による各種高さ制限、日影規制の概略
7.集団規定Ⅳ　防火、準防火地域内の建物規制、その他の地域地区の概略
8.第1回問題演習(集団規定に関する総合問題)
9.単体規定Ⅰ一般構造(居室、内装、等の規定)
10.単体規定Ⅱ一般構造(階段、廊下、等の規定)
11.単体規定Ⅲ構造強度
12.単体規定Ⅳ建築設備、防災関連規定、関連法としての消防法
13.第2回問題演習(単体規定に関する総合問題)
14.建築士法、建築確認申請、関係法としての都市計画法の概略
15.関連法としてのバリアフリー新法、住宅性能評価と品質確保、住宅瑕疵担保　責任の履行法、景観法等の概略
16.定期試験

使用教科書名

建築関係法令集(株式会社総合資格発行)

NO. G00090001　遊びの次世代伝達

大嶋　徹

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

浦島太郎伝説から遊びの意義を導き出すこと。さらに様々な世界の遊びに注目するとこにより伝統的な日本の遊びの特徴が見えてくる。

学習目標・到達目標

浦島太郎伝説から遊びの意義を見直してみる。

評価方法その他

平常点50%，発表・テスト50%で総合的に判定する.
（平常点はプログラム達成状況・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で総合的に判断する.）

週　テーマ・授業目標等

1.浦島太郎伝説はどこからはじまったか
2.伝承以来1300年浦島太郎伝説のモチーフについて
3.日本のいくつかの遊び観について
4.いろいろな人たちの遊び観（ニーチェ）
5.いろいろな人たちの遊び観（オルテガ・イ・ガセー）
6.いろいろな人たちの遊び観（ホイジンガ）
7.いろいろな人たちの遊び観（カイヨワ）
8.いろいろな人たちの遊び観（アンリオ）
9.テスト
10.いろいろな人たちの遊び観（フィンク）
11.いろいろな人たちの遊び観（フレーベル）
12.いろいろな人たちの遊び観（ピーパー）
13.いろいろな人たちの遊び観（エリクソン）
14.いろいろな人たちの遊び観（貝原益軒）
15.舞台装置としての龍宮城と故郷の生活
16.テスト

使用教科書名

適宜

NO. G00093001　自然体験活動実習

金子　和正

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

自然体験活動演習Ⅰと自然体験活動演習Ⅱで学んだ知識と実践的能力を基に、4泊5日の自然体験活動の実習を行う。子ども達が自然の中で生活することが、子ども達にどのような効果を及ぼすのかについて実際の経験を通じて考える。本実習を履修した後に「長期自然体験活動指導者」として登録し、全国の小学校で実施される自然体験活動へプログラムや事業評価の助言者として参加できる能力を身につけることを目的とする。さらに、子どもの発育・発達を理解した自然体験活動指導者の育成を目指す。

学習目標・到達目標

評価方法その他

週　テーマ・授業目標等

使用教科書名

NO. G00003031　インターンシップ

金森　敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

企業や行政等の現場における実践的な体験を通して、組織で働くことの意味を考えてもらう。仕事を外見だけで判断するのでなく、隠れている部分を含めて総合的に理解し、仕事を担う重さと充実感（働き甲斐）を感じてもらいたい。なお研修先の面接で許可が得られれば、研修生として受け入れてもらえる。従って、受講生の希望に沿う研修先がない場合、あるいは、面接で断られた場合は研修が受けられないケースもでてくる。また、本授業はインターン実習後も6回ほど集中講義を設け、振り返りを行う。本講義の受講者は全員参加を義務づける。これら２点を予め理解しておくこと。なお受講者は50人前後を考えている。

学習目標・到達目標

インターンシップを通して、自分の適性をチェックするひとつの機会としてほしい。
インターンシップを行う目的を理解し、積極的かつ主体的に取り組む姿勢を確立する。
インターンシップの学びをキャリアデザインに結び付ける。
インターンシップの学びを、今後の学生生活（就職活動も含む）に結びつける。
実習先企業の研究を通して、業界・職種・会社についての知識を身に付ける。

評価方法その他

基本的に、研修報告書を中心に評価を行う。ただし、研修報告書並びに研修日誌は、どちらも提出を求める。なお、受入事業所から提出される個人別の研修評価については、研修報告書の評価の際、参考にする。成績考査のウエイトは、報告書50%、宿題30%、研修日誌20%。

週　テーマ・授業目標等

1.イントロ
2.受入先情報からインターンシップについて考える
3.昨年度参加した学生（5～6）を囲んでインターンシップについて考える
4.インターンシップの目的の再設定と明確化
5.履歴書、自己紹介書の書き方（自己分析を含む）
6.実習先の概要説明、マッチングの方法
7.業界、職種、会社の全体概要を知る（マッチング継続①）
8.業界研究・職種研究（マッチング継続②）
9.企業研究（マッチング継続③）
10.社会人としての意識を育む
11.ビジネスマナー①外部講師
12.ビジネスマナー②外部講師
13.実習先の企業研究①（実習先の調整・確定）
14.実習先の企業研究②（実習先の調整・確定）
15.実習前の総振り返り
16.後期授業イントロ
17.インターンシップの振り返りシートの作成
18.インターンシップの振り返りの共有
19.今後の学生生活の取り組み方、将来のキャリアを考える
20.インターンシップの活動を就職活動に生かす
21.報告会

使用教科書名

なし。必要な資料はプリントで配布します。

NO. G00094031　キャリアデザインA

金森　敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

社会には仕事の数だけ多様な働き方がある。みなさんは、どのような働き方をどれくらいイメージできますか？また、働く際において、大学の学びはどのように活きてくると思いますか？本授業では、単に多様な職業や働き方を知るのではなく、「大学での学びとキャリア」がどのようにつながっているのかなどを含めて、多様な働き方について考えてもらう。なお本授業では、グループワークを中心に授業を行う予定なので、受講者数の上限を設ける。また、授業外においても活動があることは付言しておく。

学習目標・到達目標

多様な働き方があることを知り、多様な考え方があることを知るができる。
興味が持てる働き方と大学での学びがどう関係しているのかを「自分の言葉」で記述ができる。

評価方法その他

レポート(60%)
宿題3～4回(40%)

週　テーマ・授業目標等

1.大学を自己成長の場としよう
2.大学での学びと働く
3.社会の多様な働き方
4.「社会にでる」ってどういうこと
5.学びと社会のつながりを知ろう
6.社会を知ろう「会社・職種編・業種編・チームワーク編」
7.リーダーシップについて考える
8.学びと社会を結びつける
9.ゲスト講師（予定）
10.社会に求められる能力
11.RJPとOGへのインタビュー準備
12.RJPとOGへのインタビュー実施
13.RJPとOGへのインタビューまとめ
14.RJPとOGへのインタビュー成果報告
15.振り返り

使用教科書名

なし。必要な資料はプリントで配布します。

NO. G00095031　キャリアデザインB

金森　敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

キャリアは就職という言葉と結びつきがちであるが、この講義の目的は、広い意味での働き方、幸せな職業人生について考えるものである。就職活動に役立つ力を「入社する力」と呼び、生き方や働き方を「働き続ける力」と呼び、両者を区別する。本講義では後者の「働き続ける力」に力点がある。キャリアというとどうしても個人の考え方から始まりがちだが、まずは、現代社会に対する理解を深める必要がある。また、実際に会社で働いている人にグループでインタビューに行ってもらう予定である。なお、本授業では、グループワークを中心に授業を行うので、受講者数の上限を設ける。

学習目標・到達目標

自分がどのような時代や社会に生きているのかを認識し説明することができる。
他者とのコミュニケーションを通して、自己を見つめなおし自分の考えを他者に説明することができる。
自分の生き方や働き方を自分の言葉で記述することができる。

評価方法その他

レポート(60%)
宿題3～4回(40%)

週　テーマ・授業目標等

1.キャリア教育とは何か
2.働くとは
3.憧れの人や彼らを取り巻く職業について考える
4.これまでとこれからの時代の流れを知る
5.社会についてわかっていないことを考える
6.社会を知ろう
7.やりたいことのうそ
8.ゲスト講師（予定）
9.幸せとは
10.良い会社とは
11.良い会社を調べ、そこで働く人に対してのヒアリングの準備
12.良い会社で働く人へのヒアリング実施
13.良い会社で働く人へのヒアリングまとめ
14.良い会社で働く人のキャリアについての成果報告
15.振り返り

使用教科書名

なし。必要な資料はプリントで配布します。

NO. G01001031　現代生活論（現代家政学科）

現代家政学科　教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

21世紀を迎え、人間生活とその環境の変化は著しく、かつ、危機的な様相を深めている。地球環境、民族紛争、南北問題、格差・貧困、人種問題、国内に眼を転じれば、住宅問題、過労死・自殺の急増、介護、いじめ、虐待、食糧危機、食品安全、医療ミス、ニート・フリーター問題、そして、原発問題、などなど。世界に起きている生活の問題と日本社会に起きている問題について、その複雑な回路を学問的に解きほぐす努力を行い、問題を深め、希望と展望を語れる、そういう現代生活論を講じたい。

学習目標・到達目標

現代の生活に生起する諸問題を、具体的に考えられるようにしたい。他の人びととの意見の違いなど発見し、問題の複雑さを実感してほしい。学期末試験では、いくつかの課題について、調べたことを整理して、それに自分自身の意見が述べられるようにしたい。

評価方法その他

平常点（50%）および課題（50%）の総合評価とする。

週　テーマ・授業目標等

1.オリエンテーション
2.睡眠
3.共生社会を考える
4.家庭生活の中の衣服
5.深海から生活を考える
6.現代住宅の設計手法
7.ことばと生活文化
8.調理と食品成分の変化
9.食文化
10.現代の若者をどう見る―秋葉原無差別殺傷事件（2008年）より
11.子どもの母語習得と成人の外国語習得の違い
12.骨の健康と食生活
13.暮らしの中の度量衡―酒・醤油などの液体容量―
14.相続にみる女性と財産
15.奨学金をめぐる生活問題
16.試験

使用教科書名

特に指定しない。複数の担当教員から、必要に応じて、それぞれ参考文献などが提示される。

NO. G01002031　家政学原論

上村　協子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

①家政学とは何か②なぜ必要なのか③家政学は何ができるのかをテーマに考える。特に家庭科や農業とのかかわりに注目し、日本家政学の歴史的展開や、アメリカ家政学の影響を理解する。さらに現代社会での家政学に注目し、「家政学から生活科学、そして現代生活学」へ展開した東京家政学院の家政学の社会的意義を自分なりに考え自分の専門を理解することを目的とする。

学習目標・到達目標

家政学が歴史的にどのように出発し、その内容が変化してきたかを、教育機関における「家政学」の現れ方に着目して現代生活学への発展の理解を深めることを目的とする。東京家政学院大学の沿革にもふれつつ、家政学の発展を中心となって支えた女性たちの生き方・活動内容の変遷を追うことで歴史的視野を広げ、自分自身の現在・将来のあり方を考える手がかりとなることを期待したい。また、後半の授業で新しい家政学を考える基盤を形成する。

評価方法その他

授業ごとのレポートなど平常点30点　試験70点

週　テーマ・授業目標等

1. 現代日本社会と家政学【家政学はなぜ必要なのか】
家族・家庭生活・女性の生き方の変容と家政学　なぜ農業に注目するか
2. 日本の大学における家政学と東京家政学院の家政学
【家政学とは何か】日本の家政学原論をつくった人
3. 【家政学には何ができるか1】家庭科教育との関係
4. 【家政学には何ができるか2】―女性農業者活躍経営体と家政学―
5. 【家政学には何ができるか3】―消費者教育・社会貢献活動と家政学―
6. 【家政学とは】世界の家政学
7. 戦前期の女子教育と家政学―家庭の機能と生活者の視点
8. 家政学院と家政学―大江スミの家政学教育
9. 戦後改革期の家庭教育の再編と家政学の再出発
10. 家政学原論の樹立とその後の展開―家政学の課題
11. 学問としての家政学―農業から考える生活
12. 家族から家政学を考える
13. 消費者教育と家政学
14. 現代社会と家政学
15. 生活者と家政学

使用教科書名

特に決めません。プリントを用意しますので、大切に保管してください。試験に使います。

NO. G01004031　女性史

佐藤　広美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

女性の生き方を歴史に学びます。明治のはじめ、封建的な女性像（『女大学』など）はいかに批判されたのか。福沢諭吉は、その代表的な人物でした。彼の近代的な女性像を明らかにします。自由民権運動は女性の解放をどのように考えたのか。女性の参政権など、について語ります。明治後半から大正期にかけて女性の職業的自立や恋愛の自由が論じられます。平塚らいてうは、女性として恋愛の自由を主張します。女性は愛される対象ではなく、愛する主体なのだと説くのです。そして戦争の時代、女性たちはどのような生き方を選んだのか。戦争と女性の関わり方を考えます。

学習目標・到達目標

歴史に関心をもってほしいと思います。歴史に学び、現在を生きる教養を形成してほしいものだと思います。
現在の女性の社会的位置がどのようなものなのか。いかなる問題を抱えているのか。それを歴史的に考えられることを求めます。
いまの自分の生き方を歴史的状況にかかわらせて論じられることが重要だと思ってください。

評価方法その他

小レポート等平常点20%、試験80%、など総合評価(100%)。

週　テーマ・授業目標等

1. 女大学とは何か
2. 女大学批判
3. 福沢諭吉の女性観
4. 明六社の女性論
5. 自由民権運動と女性
6. 植木枝盛の女性観
7. 田俊子の女性論
8. 良妻賢母主義思想
9. 民法典論争と女性
10. 良妻賢母主義教育と高等女学校
11. 女性の自立と職業
12. 北村透谷の恋愛論
13. 平塚らいてうの「新しい女」の主張
14. 職業・戦争と女性
15. 生活科学、母性、戦争、
16. 試験

使用教科書名

特に決めません。プリントを用意しますので、大切に保管してください。試験に使います。

NO. G01005031　美と健康

植竹　桃子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

人は生きていく上で多くの場合、病気等のトラブルが無く「健康でありたい」と願うと同時に、「美しく見られたい、格好よく見せたい」という願いを抱くが、これらの願いが一方に偏ることなく、バランスを保ちながら生活することが望まれる。本講では、外見としての美しさ・格好のよさに関わる身のまわりの事項（つめの装飾、化粧、ハイヒール靴など）を題材として取り上げ、身体メカニズムとの関連を理解する。これにより、健康的かつ美しく生きていくための基盤となる姿勢を考える。

学習目標・到達目標

「美しく見せる」「格好良く見せる」ための手法や行為が、身体や日常生活に及ぼす影響について理解する。これを基に、健康的かつ美しく生きるための姿勢を考え、判断する力を養う。

評価方法その他

平常点(授業への参加状況など):20%
課題レポート:40%
定期試験:40%

週　テーマ・授業目標等

1. 授業の目的・概要、授業計画、評価方法
2. つめ:つめの役割、病気との関連性、日常生活に及ぼす影響
3. 毛髪:構造、パーマ、カラーリング
4. 皮膚(1):構造、役割り
5. 皮膚(2):日常生活、紫外線
6. 皮膚(3):化粧
7. からだつき(1):身体の組成
8. からだつき(2):BMIと体脂肪
9. ハイヒール靴
10. 喫煙(1):事例
11. 喫煙(2):身体への影響
12:飲酒:酔いのメカニズム、身体への影響
13:災害と日常生活・身だしなみ
14:課題発表(1):前半
15:課題発表(2):後半
16:定期試験

使用教科書名

特に指定しない(プリント配布等)

NO. G01006031　情報処理演習Ⅰ

小野　由美子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

コンピュータ演習bに引き続く授業である。
多様な統計を読み解く力をつけ、表計算ソフトを使い、集計表の作成、関数の利用、グラフの作成などについて、応用操作ができるようにする。
説明・練習と演習問題の提出を行い、事例に沿って理解を深めていく。

学習目標・到達目標

表計算ソフトで集計表の作成、関数の利用、グラフの作成などの応用操作を習得する。

評価方法その他

受講状況・学習態度(5%)、提出物(80%)、試験(15%)などを総合的に評価する。

週　テーマ・授業目標等

1 ガイダンス:授業の目的・概要、授業計画、評価方法など
2 統計調査を読む①:グラフの読み方、官庁統計、国勢調査、家計調査
3 統計調査を読む②:研究調査、事業者が実施した調査
4 データ・計算式・関数入力、罫線、表作成、印刷などの基本操作の復習
5 基本的な統計処理①:単純集計・度数分布、統計処理(平均・分散、標準偏差)の説明と練習
6 基本的な統計処理②:統計処理(クロス集計)の説明と練習
7 演習問題①:基本的な統計処理
8 アンケート調査の入力・集計の説明・練習
9 演習問題②:アンケート調査の入力
10 アンケート調査の集計・分析の説明・練習
11 演習問題③:アンケート調査の集計・分析
12 高度なグラフ作成の説明・相関係数・偏相関係数を使って、因果関係と相関関係を説明・練習
13 演習問題④:相関関係
14 質的データの読み方と基本的なまとめ方①:質的データを読み解く
15 質的データと量的データのまとめ方②:高度な関数の説明・練習
16 試験

使用教科書名

特に指定しない。講義時間内に配布する資料を用いる。

NO. G01007131　情報処理演習Ⅱ

小野　由美子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

情報処理演習Ⅰに引き続く授業である。
世の中の膨大な量の情報の中から有用な情報を探し出し役立てるためには、情報を収集・登録し、登録されたデータの中から必要なものを効率よく検索したり見やすい形式で出力する必要がある。そのためのツールがデータベースである。
ここではデータベースの基本的な考え方を学ぶとともに、データベース定義および操作に関する能力を身に付ける。

学習目標・到達目標

各種データベースの機能と特徴を理解する。
表計算ソフトによるデータベース操作を習得する。
データベースソフトを使った基本的なデータベースの定義・操作を習得する。

評価方法その他

受講状況・学習態度(5%)、提出物(80%)、試験(15%)などを総合的に評価する。

週　テーマ・授業目標等

1 ガイダンス(授業の目的・概要、授業計画、評価方法など)
2 ファイル管理とファイル編成法
3 データベースの概念と種類
4 データベース管理システムの機能
5 表計算ソフトによる基本的なデータベース操作①
6 表計算ソフトによる基本的なデータベース操作②
7 表計算ソフトによる基本的なデータベース操作③
8 表計算ソフトによる基本的なデータベース操作④
9 表計算ソフトによる高度なデータベース操作①
10 表計算ソフトによる高度なデータベース操作②
11 表計算ソフトによる高度なデータベース操作③
12 表計算ソフトによる高度なデータベース操作④
13 データベースソフトを使った基本的なデータベースの定義・操作①
14 データベースソフトを使った基本的なデータベースの定義・操作②
15 データベースソフトを使った基本的なデータベースの定義・操作③
16 期末試験

使用教科書名

特に指定しない。講義時間内に配布する資料を用いる。

NO. G01008031　卒業研究A

現代家政学科　教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

4年間の学びの集大成として、研究課題の設定・研究方法の決定・資料の収集等を主体的に行うことができるようになること。

学習目標・到達目標

大学での学びのなかから、興味のある課題を見出し、卒業論文・製作を行うこと。

評価方法その他

研究に取り組む課程での参加状況および発表・報告等総合的に判断する。

週　テーマ・授業目標等

1.ガイダンス
2.問題の分析と課題の設定(1)
3.問題の分析と課題の設定(2)
4.先行研究・参考文献の調査
5.先行研究・参考文献の調査・発展
6.先行研究・参考文献の調査・まとめ
7.研究方法の決定(1)
8.研究方法の決定(2)
9.研究方法の決定(3)
10.調査・実験実習・製作(分析・まとめを含む)(1)
11.調査・実験実習・製作(分析・まとめを含む)(2)
12.調査・実験実習・製作(分析・まとめを含む)(3)
13.調査・実験実習・製作(分析・まとめを含む)(4)
14.調査・実験実習・製作(分析・まとめを含む)(5)
15.調査・実験実習・製作(分析・まとめを含む)(6)

使用教科書名

NO. G01009031　卒業研究B

現代家政学科　教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

4年間の学びの集大成として、研究課題の設定・研究方法の決定・資料の収集等を主体的に行うことができるようになること。研究成果の報告では、プレゼンテーション力を身につけ、説明と議論を可能にすること。

学習目標・到達目標

大学での学びのなかから、興味のある課題を見出し、卒業論文・製作を行うこと。

評価方法その他

研究に取り組む課程での参加状況および発表・報告等総合的に判断する。

週　テーマ・授業目標等

1.調査・実験実習・製作(まとめ・考察を含む)(1)
2.調査・実験実習・製作(まとめ・考察を含む)(2)
3.調査・実験実習・製作(まとめ・考察を含む)(3)
4.調査・実験実習・製作(まとめ・考察を含む)(4)
5.調査・実験実習・製作(まとめ・考察を含む)(5)
6.論文作成(1)
7.論文作成(2)
8.論文作成(3)
9.論文作成(4)
10.論文作成(5)
11.論文作成(6)
12.論文要旨の作成(1)
13.論文要旨の作成(2)
14.卒論発表の準備(1)
15.卒論発表の準備(2)

使用教科書名

NO. G01010031　家族論

林　葉子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

家族は最も身近な基礎集団です。時代とともに日本の家族がどのような変遷を遂げてきたか、その背景を探っていきます。また、現代社会において「家族は変わった」と感じている者は多いでしょう。個人化や多様化が進む現代家族の実態は、未婚化や晩婚化など、これまでの枠組みでは捉えきれなくなっています。クラスでは、家族の近代化から現代家族への変遷、現代家族をめぐる現象などを探っていきます。さらに、毎日のように報道される現代家族をめぐる諸問題、その現状や背景にあるものについても探っていきます。後半は、クラスの皆さんが興味を持ち、調べてまとめあげた「私の家族」の報告を交えながら進めていきます。

学習目標・到達目標

次の内容への理解を学習の目標にしてください。
1 現代において家族とは何かを考える
2 現代のファミリー・アイデンティティについて理解する
3 現代家族への変遷について知る
4 今日の家族の問題は何かについて考え、自分の意見をまとめる

評価方法その他

小論文 30%
発表レポート 40%
発表レジュメと発表態度 30%
その他、授業態度など、総合的に評価する

週　テーマ・授業目標等

第1週 家族の「近代化」の変遷 1 近代家族の誕生
第2週 家族の「近代化」の変遷 2 近代家族の大衆化
第3週 家族の形態と機能の変化
第4週 現代家族・現代家族の住まい方
第5週 「食卓」の風景を通して見る家族の変遷
第6週 女性と家と家族変動
第7週 子どもの社会化と親子関係
第8週 離婚と離婚後
第9週 高齢者と家族
第10週 ワーク・ライフ・バランスと家族
第11週 家族と医療
第12週 地域社会の変動・ネットワークにみる家族変遷
第13週『私の家族と現代家族』
第14週『私の家族と現代家族』
第15週『私の家族と現代家族』

使用教科書名

石川実『現代家族の社会学』有斐閣ブックス
授業にてプリント配布します

NO. G01011031　家族の文化

井上　眞弓

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現代における親子が抱える問題について映像等を用いながら考察を行う。比較考証の対象として平安後期物語に見える親子関係を軸に据え、現代人が抱く世の中に対する不安感や他者との違和感について、分析してみたい。また、「住まう」という観点から家財と人間関係というモノと人のつながりを通して家族という存在を考究するワークショップを行う。その後、「近代家族」崩壊以後、どのような家族像が提起されているか、現代の小説を通した考察を行うことで、今後の家族のあり方について理解を深める。

学習目標・到達目標

家族は身近なだけに、思い込みや偏見などの醸成される母胎となりやすく、また現在の家族形態の絶対視も起こりやすい。そうした思い込みを排して、家族の歴史的な変遷や成り立ちをよく理解し、広く家族の在り方を考える公平な態度を養う。
また、歴史資料とは異なる文学作品等幅広い資料を読み取る能力を高め、分析方法を身につけることを目標とする。

評価方法その他

出席レポート(平常点)60%、教場レポート40%で評価。
(平常点は、各回に回答する小レポートによって評価する。)

週　テーマ・授業目標等

1. 母の束縛を生きる娘の問題 「ラプンツェル」を読む
2. 母の束縛を生きる娘の問題 「ラプンツェル」の映像解析1
3. 母の束縛を生きる娘の問題 「ラプンツェル」の映像解析2
4. 母の束縛を生きる娘の問題 「浮舟」
5. 違和感を生きる「虫めづる姫君」
6. リモデルできない娘「夜の寝覚」
7. ぼくのおとうさんは誰ですか 「狭衣」狭衣中将
8. ぼくのおとうさんは誰ですか 「狭衣」嵯峨の院
9. ぼくのおとうさんは誰ですか 「浜松中納言物語」
10. モノと住まいと家族関係
11. 校内特別授業「地域で支える子どもの育成」外部講師
12. 家族をつくる　西加奈子 「円卓」1
13. 家族をつくる　西加奈子 「円卓」2
14. 家族をつくる　朝井リョウ「世界地図の下書き」
15. まとめの課題「バイオリン人形」を読んで

使用教科書名

NO. G01012031　子どもと遊び

大嶋　徹

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

子どもの成長、発達にとって「遊び」の体験は重要であるが、その歴史的な変遷をたどってみると、そのプレーは必ずしも子どもたちだけのものではなかった。そうした歴史的な背景を認識した上で、子どもの遊びをめぐる現状とその問題点を把握し、そこで大人の果たすべき役割について考える。絵本、童話、童謡、遊戯、玩具、ごっこ遊びと子どもの空想・夢などを取りあげて、遊びの中で、子どもに何が育っていくのかを明らかにしていきたい。

学習目標・到達目標

子どもの成長に欠かせない遊びの役割や内容について理解し，保護者，保育者として知識を身につける。また，家庭科教諭を目指す学生は、保育分野の教育の方法など指導者として必要な知識を身に付けることを目指す。

評価方法その他

課題レポート(2本)80%，授業中の質疑応答，プラグラム達成度，学習意欲などで20%の割合で総合的に評価する。

週　テーマ・授業目標等

1.子どもの遊びの特徴
2.マザーグースのなかの遊び
3.日本の童話のなかの遊び
4.現代の遊びの環境
5.ごっこ遊び1
6.ごっこ遊び2
7.遊びと子どもの発達
8.まとめ(公園レポート)提出
9.いろいろなおもちゃ
10.子どもは玩具で舞台を創る
11.玩具と舞台でめざめるもの
12.イメージの拡大と大きな現実
13. 遊びの原風景
14.今、ここでの自分にとっての遊びとは何か？
15. 遊び、仕事、成長(ライフステージという考え)
16. 総括(グループ討論会)

使用教科書名

基本的にプリントを使用。その他必要に応じて指示する。

NO. G01016031　家族支援論

髙橋　幸三郎

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

障がいのある人がいる家族を取り巻く社会的な状況の変化を理解し、それぞれの家族のニーズに応じた多様な支援を提供するため、さまざまな種類の援助活動について理解することを目指します。校外授業として、国立ハンセン病記念館（東村山市）の見学を予定しています。校外授業への参加は、受講の条件になっています。

学習目標・到達目標

家族を取り巻いている社会的な状況の変化と家族のニーズを理解することを求めます。特にこの授業では、障がいのある人がいる家族が直面する困難とそれに応じたさまざまな支援のあり方を考えることが出来るようになることを目指します。

評価方法その他

平常点(30%)、レポート(50%)、試験(50%)による総合評価を行います。
(平常点は授業への参加状況、受講への意欲、討論への参加等で総合的に判断)

週　テーマ・授業目標等

1. 家族支援とは何をすることか
2. 障がいのある人の家族支援の先駆者:石井筆子
3. 障がいイメージの変化と福祉施設での支援
4. 母親に子どもの障がいを知らされる
5. 子どもの障がいを理解する
6. 子育て支援と福祉制度
7. 学齢期の支援
8. きょうだいとの関係支援
9. 発達障害者を抱える家族への支援
10. 精神障害者を抱える家族への支援
11. ハンセン病資料館見学
12. ハンセン病資料館見学
13. 家族が障がいをオープンにする
14. 家族から自立して生活する:ダンの自立観
15. 家族支援の課題
16. 試験

使用教科書名

使用しません。適宜プリント配布します。

NO. G01017031　家族と法

木村　くに子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

家族の法を学ぶとは、一つには、家族に生じるトラブルを解決したり、未然に予防したりすることであるが、そればかりではない。私たちの現在の家族法にはもちろん、歴史があるし、現在の制度ができた社会的な背景がある。そして、社会は常に動き、それに応じて家族法も変化しつつある。家族法を学ぶとは、家族というものに対する考え方、家族と個人、家族と社会、家族と国家との関係についても学ぶことである。家族法を学ぶことを通して、広い視野で法を学ぶことの重要性も認識してもらいたい。

学習目標・到達目標

家族法は、もっとも生活の身近な部分に関係する法といえよう。まだ家族に関する法律問題に直面したことのない人が多いと思うが、トラブルを経験して法律に関心を持った人もいるかもしれない。また、報道を通じて接する社会の動きの中には家族に関する問題、事件も多くある。家族法を学ぶことによって、身近なできごとに対処するための知識や、メディアによってもたされる情報を正しく理解するための知識、家族法へのリテラシーを養ってもらいたい。

評価方法その他

授業の区切りに、理解を確認するための小テストを行う。
評価は、定期試験70%、小テスト・平常点(授業への積極度など)30%を総合して行う。

週　テーマ・授業目標等

1. 家族と法について考える ガイダンス
2. 結婚(1)現代社会と結婚:結婚をめぐる社会の変化
3. 結婚(2)結婚の成立:法律的に結婚するとは
4. 結婚(3)夫婦の身分関係:他人同士の関係との違い
5. 結婚(4)夫婦の財産関係:夫婦の財産は誰のもの？
6. 親子(1)子の出生と法:誰が親なのか
7. 親子(2)親の責任:子どもを育てるとは
8. 親子(3)人工生殖技術と家族:解決されなければならない問題
9. 離婚(1)離婚をめぐる社会の変化
10. 離婚(2)離婚の方法
11. 離婚(3)離婚後の生活:　母子あるいは父子の生活
12. 事実婚:いろいろなパートナー関係
13. 夫婦の氏:結婚と姓の問題
14. 相続と遺言(1)相続
15. 相続と遺言(2)遺言
16. 試験

使用教科書名

教科書はとくに使わない。授業の際にレジュメ、資料を配付する。

NO. G01018031　家庭経済学

上村　協子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

日常生活に関わる経済生活情報を、積極的に収集し、信頼できる自分オリジナルのデータをもとに、生活設計・家計管理を行う基礎的な能力を養う。

学習目標・到達目標

基本的な生活スキルとして家庭経済の知識を習得し、家計の収支・資産管理の技術を身につける。前半の目標は家計調査結果の数字を読み取り活用すること。次第に、家計をとりまく経済社会・生活政策について視野をひろげる。「社会保障・税の一体改革」など身近で今日的な家庭経済の問題をとりあげて、意味を解説する。ひいては持続可能な社会を実現するため家庭経済の役割と可能性を理解し、主体的に家計管理を行う態度を養う。

評価方法その他

家計調査分析レポートおよび発表　40点
スクラップブック（授業記録・自宅学習の記録と新聞記事）30点
試験　30点

週　テーマ・授業目標等

1 家庭経済における生産と消費
2 家計の収支1（職業・年齢と収入）
3 家計の収支2（物価・消費・貯蓄）
4 家計の収支3（税金・社会保険料・年金）
5 社会保障制度の動向と生活設計
6 ライフプラン1（金融資産と負債）
7 ライフプラン2（教育・住宅・子育て）
8 ライフプラン3（冠婚葬祭）
9 ライフプラン4（社会保障と老後）
10 地域と家庭経済（家計分析1）
11 地域と家庭経済（家計分析2）
12 地域と家庭経済（家計分析3）
13 地域と家庭経済（家計分析4）
14 持続可能な社会と家計：レポート発表
15 持続可能な社会と家計：レポート発表
試験

使用教科書名

暮らしと金融なんでもデータ　平成26年度版
新訂　生活経済学　NHK出版　　重川純子

NO. G01019031　消費者教育

早野　木の美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

消費者教育では、消費者が主体的に消費者市民社会の形成に参画することの重要性について理解及び関心を深めるための教育を目指している。消費者問題の歴史を検証し、個々の消費者の特性や消費生活の多様性を様々な消費者問題の事例を引用しながら解説する。消費生活に関する行動が、将来にわたって内外の社会経済情勢及び地球環境に影響を及ぼしていることを理解させるための消費者教育教材として、ＤＶＤや資料を紹介する。今年度より「消費生活相談員資格試験」の合格者には国家資格が付与されることになることから、消費生活アドバイザー資格も含め、消費生活関連資格を説明する。また、繊維製品品質管理士、環境カウンセラー、世界遺産検定なども紹介する。

学習目標・到達目標

消費者教育とは、消費者の自立を支援するために行われる消費生活に関する教育及びこれに準じる啓発活動である。「消費者教育の推進に関する法律」が制定された。消費者教育は就学期間だけ学習するのではなく、生涯を通じ学び続けなければならず、さまざまな場面の特性に応じて、各教育主体が連携・協働することが重要である。市民が消費生活に関する知識を習得し、適正な行動に結びつける実践的能力の育成をどう進めてくかを事例に基づいて学ぶ。

評価方法その他

平常点（60％）、レポート（40％）
平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する。

週　テーマ・授業目標等

1 消費者問題の歴史。消費者教育推進法や消費者関連法規を解説。消費生活相談員資格試験や消費生活アドバイザーなどの資格について紹介する。
2 消費者問題関係の法律の説明。消費者基本法、消費者安全法、消費者行政の組織や司法について解説する。
3 民法の基礎を学ぶ。契約の無効と取消の違い。未成年者契の取消しとは。消費者契約法、特定商取引法、中途解約、広告を見るときの注意を解説する。
4 悪質商法　キャッチセールス、マルチ商法などDVDを視聴し、消費者センターに寄せられた事例から消費者教育のありかたを学習する。
5 衣生活。衣服の機能、繊維、衣服素材の性能、衣服素材の改質と加工、クリーニング事故賠償基準の算出方法を紹介。洗濯のDVDを視聴する。
6 食生活。食品の表示法一元化の背景と食品表示法の概要について説明。景品表示法など、広告表示法についても解説する。
7 法テラスの仕組や利用の仕方を説明する。離婚や相続は家事調停、金銭トラブルや賃貸住宅は民事調停であるが、裁判のイロハについて解説する。
8 東京簡易裁判所の裁判官による民事調停制度についての講演。
9 住生活。住生活の快適性、住宅と法律、不動産の売買、不動産の賃貸借について学習。賃貸借を扱ったDVDを視聴する。
10 IT関連とサービス契約。ネットショッピング、インターネットのセキュリティ対策、スマートフォンのトラブル事例。運送、医療サービスについて学習する。
11 生活と家計管理。 家計管理、クレジットの利用、電子マネー、貸金業法、金融商品、相続、遺言、生命保険、損害保険、税金について学ぶ。
12 東京都消費生活総合センター（最寄駅は飯田橋）を見学。展示室や図書室も見学する。2時間目に間に合うようにグループ別に分け時間調整を図る。
検定を紹介する。地球環境問題や環境関連法規について学習する。エコ検定と世界遺産

使用教科書名

消費者力検定　受験対策テキスト　2016年改訂版　一般社団法人日本消費者協会発行

NO. G01022031　消費者政策と法

小野　由美子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

2009年に消費者庁が発足し、関連する政策や法律の整備が展開されている。本講義では、消費者の生活に関わる政策と法律の動向を取り上げながら、私たち消費者が自立して考え、行動するための方策を探る。

学習目標・到達目標

消費者問題の実情を知り、その背後にある市場メカニズムや消費者施策の必要を理解する。自らが、日常の生活行動の中で具体的な体験から問題の所在を身近に考え、また行動できるようになる。

評価方法その他

定期試験 70%
平常点 30%
（平常点は、授業への参加状況等で総合的に判断する）

週　テーマ・授業目標等

1 消費者問題とは何か
2 消費者問題と消費者政策
3 消費者法とは何か
4 生命・身体や財産にかかわる消費者被害
5 消費者の安全に関わる政策と法律①：食品を中心に
6 消費者の安全に関わる政策と法律②：製品を中心に
7 消費者の安全に関わる政策と法律③：事故情報を中心に
8 消費者行政の実際
9 消費者被害と法律①：取引被害
10 消費者被害と法律②：高齢者や知的障害者などの被害
11 消費者団体の役割
12 企業の消費者対応
13 海外の消費者政策　―消費者教育との関わりで
14 消費者の権利と責任とは何か
15 消費者のための政策と法律のあり方
16 期末試験

使用教科書名

神山久美他編『新しい消費者教育:これからの消費生活を考える』慶應義塾大学出版会、2016年

NO. G01023031　高度情報社会と消費者

小野　由美子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現代社会における消費者と事業者の情報力の格差は著しく、高度に発達した情報社会においてそうした傾向は増々強まっている。本授業では、情報に関わる消費者問題の実情を把握し、社会的あるいは個人的な方策のあり方について学ぶ。

学習目標・到達目標

私たちの暮らしを取り巻く情報と消費者に関わる問題の存在に気づき、その背後にある市場メカニズムや消費者保護施策の必要性を理解し、関連する日常生活での経験に対して主体的に問題解決を図ることができるようになる。

評価方法その他

(1)調査報告　40%
(2)最終試験　30%
(3)平常点　30%
（平常点は、授業への参加状況等で総合的に判断する）

週　テーマ・授業目標等

1ガイダンス
2私たちの暮らしとICT①
3私たちの暮らしとICT②
4私たちの暮らしとICT③
5情報産業と暮らし①
6情報産業と暮らし②
7地域と情報①
8地域と情報②
9情報メディア①
10情報メディア②
11「情報通信白書」にみる論点
12「消費者白書」にみる論点
13通信・情報に関わる消費者トラブル
14高度情報社会における消費者の自立
15まとめ
16試験

使用教科書名

特に指定しない。必要な文献や資料は授業で案内する。

NO. G01024031　プロシューマー調査法

小野　由美子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

社会調査の意義を理解し、衣食住の身近な消費生活をテーマとして調査を行うための、基礎知識と技術を習得する。まず社会調査の目的・調査の種類と実例について理解する。次に、量的調査と質的調査によって科学的な根拠をもって生活を見直す方法を理解する。社会調査の技術を身に付け、生産消費者教育の基礎的知識と技術を習得する。

学習目標・到達目標

生産消費者(プロシューマー)教育の基盤となる知識を習得する。持続可能な消費のために何が必要であり自分は何ができるかを考えることを通じて、生産と消費の関係について理解し、持続可能な社会に対する興味・関心を深める。

評価方法その他

(1)調査報告 40%
(2)最終試験 30%
(3)平常点　30%
(平常点は、授業への参加状況等で総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等

1 社会調査・プロシューマー調査とは
2 社会調査の目的と意義:量的調査・質的調査　多様な調査方法　インターネット調査
3 社会調査史:消費者と事業者の関係の変容のなかでの社会調査　消費者問題と相談・調査
4 調査倫理と調査のデザイン:構想・計画／準備／実査／報告／データの管理　既存の調査研究の探しかた
5 社会調査の類型　具体例:国勢調査・家計調査・全国消費実態調査・社会生活基本調査など
6 社会調査の方法:因果関係とは　理論仮説・作業仮説とその検証　測定の信頼性
7 量的調査(1)種類:官庁統計　学術調査　世論調査　マーケティング・リサーチ
8 量的調査(2)調査方法:対象者の選び方　サンプリング　調査法　調査票の作成　プリテスト質問形式　基礎的集計の方法
9 量的調査(3)集計と分析:データファイルの作成　変数間の関係　資料やデータの分析の踏過程
10 質的調査
11 フィールドワーク
12 調査の実際①:資料収集　データ収集　調査票作成
13 調査の実際②:実施　基礎的集計
14 調査の実際③:調査結果分析　報告資料の作成
15 調査報告会

使用教科書名

轟亮・杉野勇編著『入門・社会調査法(第2版):2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社、2013年

NO. G01025031　プロシューマー演習

小野　由美子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

地産地消をテーマに、社会調査により資料やデータを収集し、分析し、地域や企業と連携し、報告する形に整理していく具体的な方法を習得する。消費（食）と生産（農）をテーマに、アンケート調査を実施し、フィールド調査を行う。アンケート調査とフィールド調査を接合し、調査結果を報告する。

学習目標・到達目標

企業や自治体等との連携・協働により持続可能な消費にむけた活動を実践している事例を学び、発表する。

評価方法その他

(1)アンケート調査・調査票　30点、
(2)フィールド調査報告書　30点、
(3)中間発表　20点、
(4)最終レポート　20点
計　100点

週　テーマ・授業目標等

1 オリエンテーション
2 先行研究の整理:既存統計を活用し、家族と食の消費の変容に関する基礎的知識をつける
3 調査目的と調査方法の決定　アンケート調査の目的・サンプリング方法の決定、フィールド調査インタビュー対象決定依頼
4 アンケート調査・フィールド調査:企画と設計、調査仮説の話し合い
5 アンケート調査・フィールド調査:質問文・調査票の作成　サンプリング実施
6 アンケート調査・フィールド調査:調査の実施　調査票の配布・回収
7 アンケート調査・フィールド調査:調査データの整理　(コーディング、データクリーニング)
8 フィールド調査:インタビュー調査の実施
9 フィールド調査:インタビュー調査の整理
10 アンケート調査とフィールド調査の接続　結果概要の作成
11 調査結果報告資料の作成
12 調査結果報告資料の発表
13 調査結果報告資料の振り返り
14 生産消費者演習まとめ
15 最終報告会

使用教科書名

活動に応じて指示する。

NO. G01026031　プロシューマー実習

上村　協子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

生活協同組合は消費者と生産者が一体となって、消費生活を創造する組織である。まず、分担により消費生活協同組合の①歴史②種類③生産と消費の変容との関係④流通と販売⑤地域特性⑥最近の動向などを調査する。次に仕込みが豆を中心に、納豆などの生産業者が消費生活協同組合とどのように関わっているか、消費者とつながるイベントなどでフィールド調査を実施する。消費に関する研究テーマをグループで決定し机上ではなく実際に活動することを目指す。また結果を東京の消費者団体の情報交換会で報告し、まとめの報告書を作成する。

学習目標・到達目標

生産者と消費者が連携して持続可能な消費生活を実現し消費者市民社会をつくるには何か必要か、パルシステム神奈川ゆめコープの活動などを事例に生産の現場から製品化消費者の消費生活を家計調査なども活用しつつ、自分たちができるプロジェクトを企画して実行する。

評価方法その他

調査レポート報告まで　30点
プロジェクトへの参加　40点
成果発表会での発表内容　30点

週　テーマ・授業目標等

1 授業の目的,協力企業等を説明。
2 講義「生活協同組合にみる消費生活の動向」大豆の生産から納豆の消費まで
3 講義「プロジェクトの進め方」
4 基礎調査レポート報告(1)「生活協同組合の活動」「食文化との関係」など　意見交換。
5 基礎調査レポート報告(2)「製造・流通・販売」「地域特性」消費に関わる近年の動向」など　意見交換
6事業者対象フィールド調査企画　　調査依頼　仮説構成
7 フィールド調査実施(1)　消費生活協同組合の活動現地で意見交換
8フィールド調査実施(2)　生産現場で意見交換
9 フィールド調査実施(3)　首都圏の生産者・消費者が交流する場での聞き取り
10フィールド調査まとめ
11課題抽出／課題整理／アイデア抽出／調査テーマの決定
12アンケート調査(1)調査項目の設定、対象者の選定
13アンケート調査(2)質問文・調査票の作成
14アンケート調査(3)調査実施
15報告会の実施

使用教科書名

時々に指示する。

NO. G01027031　生活設計論

上村　協子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

消費者教育、金融経済教育、キャリア教育など、さまざまな領域で求められている生涯を見通した生活設計力とは冷たい貨幣で動く経済と金融に関する理論と実践の基本を理解し、自分の10年後20年後の目標を意識し、目標実現にむけて計画をたて、資源を主体的に選択する方法と、リスクマネジメントを視野に目標が達成できなかった場合にフィードバックする方法を考える。さらに、女性と財産をテーマに、家計調査などデータを収集し分析して、経済環境・社会政策に対応して生活者を支援する専門的能力を育成する。

学習目標・到達目標

冷たい貨幣を温かいお金にする若者の金融リテラシーを身につけることを目標とする。金融庁と金融広報中央委員会が連携した金融経済教育の取組「大学における金融リテラシー向上に役立つ講座」として「最低限身に付けるべき金融リテラシー(4分野15項目)」の習得を基本に実施する。自立した社会人として必要な金融リテラシーを身に付けると共に、各業界団体(銀行、証券、保険等)の講師に接することで、今後のキャリアプランを考える。

評価方法その他

授業ごとのリアクションペーパー　30点
スクラップブックなど提出資料　20点
14回目の授業でのレポート発表(プレゼン資料・質疑含む)　20点
最終試験　30点

週　テーマ・授業目標等

1回　生活設計と金融リテラシー【金融庁】
2回　人生とお金　ライフデザインの重要性【金融広報中央委員会】
3回　お金を稼ぐ【金融広報中央委員会】
4回　お金と経済【金融広報中央委員会】
5回　ライフプランを描く①【FP協会】
6回　ライフプランを描く②【FP協会】
7回　お金を借りる①カード・ローン【全国銀行協会】
8回　お金を借りる②住宅ローンのしくみ【全国銀行協会】
9回　お金をふやす①【日本証券業協会】
10回　お金をふやす②【投資信託協会】
11回　リスクに備える①【生命保険文化センター】
12回　リスクに備える②【損害保険協会】
13回　トラブルに強くなる【金融庁】
14回　ライフプランを描く③【FP協会】
15回　学生による振り返り授業　これまでの講師からのコメント

使用教科書名

生活設計にかかわる講師の団体が提供する資料を教材として使用予定である。
金融広報中央委員会(http://www.shiruporuto.jp/)
日本FP協会(http://www.jafp.or.jp/)
生命保険文化センター(http://www.jili.or.jp/)

NO. G01029031　エコロジー

沼波　秀樹

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「エコロジー」とは，狭義には生物学の生態学のことを指すが，広義には生態学的な知見を反映しようとする文化的・社会的・経済的な思想や活動を指している。このように「エコロジー」は様々な意味を持っているが，この授業では，主に「くらし」に関係した環境問題について解説し，人類と環境との共存について学ぶ。環境保護教育・活動を実践的に学ぶために都市に自然環境を残すビオトープなどを見学する予定で，見学を通して自然保護について考える。

学習目標・到達目標

この科目は環境に対する人類の影響，特に「くらし」との関連性について見学や簡単な測定などを通して、理解することを目標にしています。

評価方法その他

定期試験(80%)，レポート(20%)の総合評価
見学に参加しないとレポートを書くことができません。見学があるので，時間帯や曜日が不規則になる場合があります。原則として開講時間以外に見学をする場合は，通常の授業に振り替えて実施します。また，見学ための入園・入館料，交通費がかかります。

週　テーマ・授業目標等

1.イントロダクション
2.地球の歴史と環境
3.地球環境と生態系
4.環境問題の歴史と環境問題の実態1(大気1)
5.環境問題の実態2(大気2)
6.環境問題の実態4(水質1)
7.環境問題の実態5(水質2・水質汚染見学)
8.環境問題の実態6(都市化に伴う問題)
9.環境問題の実態7(自然に与える影響・生物多様性)
10.くらしと身近な環境問題(まちづくりと環境;ヒートアイランドを測る)
11.環境とくらしの共生を考える1(ビオトープを例として)
12.環境とくらしの共生を考える2(ビオトープを例として)
13.環境保護教育・活動(見学)1(自然教育園見学)
14.環境保護教育・活動(見学)2(六本木ヒルズ付属ビオトープ見学)
15.環境保護教育・活動(見学)3(北の丸公園見学)
16.定期試験

使用教科書名

プリントを配布する予定。

NO. G01030031　環境保護論

沼波　秀樹

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

様々な環境問題がとりざたされている現在、人類と自然との共存が模索されている。私たちの社会システムも環境との調和に根ざしたものに変わろうとしている。この授業では、身近なくらしを見直すことから環境に関する研究や政策までミクロ・マクロ的な視点で環境と共存するための方法について学び、自然保護や保全とは何かについて考える。また、以下の見学を予定しており，見学を通して自然観や保全方策などを理解する。
①葛西臨海水族園；②国立科学博物館；③国立極地研究所

学習目標・到達目標

環境問題に対する基礎知識を学び，環境保護による持続可能な社会について理解を深める。

評価方法その他

定期試験(60%)，平常点・レポート(40%)の総合評価。
見学に参加しないとレポートを書くことができません。平常点は授業中の課題等で評価します。見学が多いので，時間帯や曜日が不規則になる場合があります。原則として開講時間以外に見学をする場合は，通常の授業に振り替えて実施します。また，見学の参加費や入園・入館料，交通費がかかります。

週　テーマ・授業目標等

1. イントロダクション(授業の概要)
2. 環境を知る1(生態学とは何か？)
3. 環境を知る2(環境条件)
4. 環境問題の現状
5. 生物と環境の関わり合いについて1(生物多様性)
6. 生物と環境の関わり合いについて2(国立科学博物館見学)
7. 生物と環境の関わり合いについて2(国立科学博物館見学)
8. 生物と環境の関わり合いについて3(地球環境と人類の活動1)
9. 生物と環境の関わり合いについて4(地球環境と人類の活動2)
10. 生物と環境の関わり合いについて5(国立極地研究所見学)
11. 生物と環境の関わり合いについて6(国立極地研究所見学)
12. 環境を保護する方法1(生活と環境問題)
13. 環境を保護する方法2(回転寿司から環境問題を考える1)
14. 環境を保護する方法3(回転寿司から環境問題を考える2)
15. 環境を保護する方法4(葛西臨海水族園見学)
16. 定期試験

使用教科書名

プリントを配布する予定。

NO. G01033031　ツーリズムb（環境）

沼波　秀樹

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

ツーリズムｄ（環境）では、特にエコツーリズムとよばれる活動について理解を深めます。エコツーリズムは、単に自然の豊かな場所に旅行することではありません。その地域の環境を、生活文化・自然生態系の総和として理解し、これらを学ぶことを目的とするもので、その活動には、訪れる地域社会の発展や貢献を目指すことも含まれています。この演習では，エコツーリズムについて，エコツアーへの参加，展示会や博物館，研究機関の見学によって実感を伴った理解を培います。特に，都心でのエコツアーに参加することにより，最も身近な都心でのエコツーリズムの実態についても理解を深めます。

学習目標・到達目標

幅広い見学を通して環境と人との関係を学び，エコツーリズムについて実感を伴った理解を深める。特に大都市・東京で環境・文化を持続可能な資源として利用することを学ぶ。

評価方法その他

演習への参加と取り組み(60%)，レポート＋課題(40%)の総合評価。
見学が多いので，時間帯や曜日が不規則になる場合があります。原則として開講時間以外に見学をする場合は，通常の授業に振り替えて実施します。また，見学の参加費や入園・入館料，交通費がかかります。また，水曜日3・4時間目に開講しますが，見学など[illegible]

週　テーマ・授業目標等

1. イントロダクション
2. エコツーリズムとは何か？
3. 都心でのエコツーリズム(都会の自然を探す)1
4. 都心でのエコツーリズム(都会の自然を探す)2
5. エコツーリズムの実例
6. 都心でのエコツアー実践1(ツアー参加)
7. 都心でのエコツアー実践2(ツアー参加)
8. 都心でのエコツーリズム(都会の自然を探す)3(国立科学博物館付属自然教育園見学)
9. エコツーリズムへの多様なアプローチ
10. 多様なエコツーリズム(エコロジー・環境関連の展示会見学)
11. 地球環境とエコツーリズム1
12. 地球環境とエコツーリズム2(国立極地研究所見学とレクチャー)
13. 自然の多様性について実感する(国立科学博物館見学)
14. エコツアーを創る1
15. エコツアーを創る2
16. エコツアー発表会

使用教科書名

プリントを配布する。

NO. G01034031　都市計画

長野　博一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

都市計画は、人間が生活する場と空間をもたらし、都市の環境と施設を科学的方法によって計画的に実現する手段である。現在起きている都市問題の解決のためには、都市計画が果たす役割は極めて大きなものがあるとともに、市民が参加する「まちづくり」を広く意識しながら、都市・地域計画を実行することが求められる。
本講では都市計画の基本的な仕組みを理解するとともに、具体的事例を通して実践的な知識を身につけることをねらいとする。

学習目標・到達目標

都市計画は建築やデザインだけでなく、市民の生活を支える役割を担っており、基本となる学問領域である。
都市や地域に興味を持ち、自らまちづくりへ参画する楽しさを知り、子育てしやすい街、バリアフリー化された街など、人々の暮らしに着目しつつ、今後の我が国の都市計画の向かう先について、幅広く考え方を養う。

評価方法その他

最終回に予定しているグループ討議内容(40%)
最終レポート(50%)、平常点(10%)による評価
※グループ討議の評価は、班としてのまとめや発表を加味して総合的に判断する

週　テーマ・授業目標等

1. 都市計画とまちづくり(都市計画の意味・意義、まちづくりとの違い、ガイダンスなど)
2. 都市計画の歴史①(近代・現代都市計画の思潮)
3. 都市計画の歴史②(我が国の都市の歴史と現在までの軌跡)
4. 都市計画法①(都市計画法と都市計画マスタープラン、事例考察)
5. 都市計画法②(用途地域＜市街化区域の話、市街化調整区域の話＞)
6. 市街地の整備①(土地区画整理事業、市街地再開発事業　事例考察)
7. 市街地の整備②(密集市街地整備、地区計画の策定、複合的な計画)
8. 交通のプランニング(道路、公共交通　役割・行政の関わり方)
9. 演習(受講生の興味により内容を決めます。振り返り含む)
10. 集客施設のプランニング(大型ショッピングモールのプランニング事例)
11. 現代都市が抱える諸問題①(人口減少、少子高齢化　※ゲストを呼びます)
12. 現代都市が抱える諸問題②(福祉のまちづくり、バリアフリー、UD)
13. 現代都市が抱える諸問題③(災害に強いまちづくり、災害復旧・復興)
14. 現代都市が抱える諸問題④(都市計画における地方分権と市民参加)
15. まとめ(グループ討議　※テーマはこちらで用意する)

使用教科書名

・教科書:「都市計画とまちづくりがわかる本」(彰国社)＜2400円＋税＞
※講義でも使用しますので、必ず購入するようにしてください。
・講義中:毎度スライドを使用します。別途講義メモを配布します。
※講義スライドは、講義終了後翌日以降にWEBサイトへUPします。

NO. G01037031　祭礼と民俗芸能

西海　賢二

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

民俗学を受講しているものが望ましい。全国各地の祭礼と民俗芸能をスライド・ビデオを使って紹介し、祭礼と民俗芸能が地域の活性化に果たしてきた役割を考える。

学習目標・到達目標

日本人は世界でも指折りのお祭り大好きな国です。この祭礼に伴って全国各地で行われている七万とも八万とも言われる民俗芸能の一部を紹介しつつなぜ祭礼や民俗芸能を域社会は望んでいたのかなど、衣食住などや社会構成などとくに地域料理と祭礼などにも視点を拡大して紹介したい。とくに祭礼の「おもてなし」文化も併せて紹介したい。

評価方法その他

出席と秋冬の民俗芸能を（東京・神奈川中心に）3・4回見学してレポートを作成する。

週　テーマ・授業目標等

1. 日本の民俗芸能　北海道・東北・関東
2. 　:
3. 春の民俗芸能
4. 　:
5. 　:
6. 夏の民俗芸能
7. 　:
8. 日本の民俗芸能
9. 　:
10. 秋の民俗芸能
11. 　:
12. 　:
13. 冬の民俗芸能
14. 　:
15. 　:

使用教科書名

なし

NO. G01038031　ライフプロデュース論

山岡　義卓

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

大学卒業後の人生においては、職業人としてだけでなく、家庭人（子ども、親、妻など）や市民などさまざまな役割を担いつつ、また、同時に結婚、出産、育児、介護などさまざまなライフイベントに向き合いながら歩んでいくことになる。本授業では、現代家政学の学びを踏まえ、関連する文献や資料等を参照しつつ、また、前向きに人生を創造して生きる女性の事例研究等を通して、「Life」、すなわち「いのち」、「人生」、「生活」の3つの視点から、女性のキャリアについて考える。

学習目標・到達目標

キャリア形成、特に女性のライフキャリアに関する基本的な知識や考え方を身に付け、「Life」、すなわち「いのち」、「人生」、「生活」の3つの視点をもって、卒業後の歩みを描けるようになることを目標とする。

評価方法その他

平常点（授業への参加状況、発言等）50点、レポート50点。

週　テーマ・授業目標等

1)ガイダンス　ライフ・プロデュースとは
(2)女性のワークキャリアに関する現状
(3)ライフキャリアに影響を及ぼす社会環境　①ワークルール
(4)ライフキャリアに影響を及ぼす社会環境　②税と社会保障制度
(5)ライフキャリアに影響を及ぼす社会環境　③雇用政策
(6)これからのライフキャリアを考える　社会の変化　①福祉・環境・経済
(6)これからのライフキャリアを考える　社会の変化　②地域コミュニティ
(7)これからのライフキャリアを考える　社会の変化　③消費生活の変化
(8)事例研究（ゲスト講師：予定）
(9)事例研究（ゲスト講師の講義の振り返り）
(10)新しいライフキャリア①
(12)新しいライフキャリア②
(12)生命倫理について
(13)豊かさとは何か
(14)「私のライフキャリア」を考える
(15)まとめ、振り返り

使用教科書名

テキストは使用しない。必要な文献や資料は授業の際に随時配付する。

NO. G01043031　ツーリズムa（地域と文化）

包　薩日娜

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本講義では，自らツアー運営企画と旅行プランなどを計画し，地域の魅力と文化を発信する方法と体験する方法両側の立場から，問題を考え，グローバルな視野を持ってツーリズム学を体系的に理解することを目的とします。講義では，グローバル化，情報化した社会を背景において，ツーリズムの歴史と歩みを海外と国内と大きな二つの柱から紹介し，時代に適応した，インターネットアプリとオリンピックの内容を加えて，ツーリズムの地域にとってどのような役割を担うものかについて学びます。また，日本の過疎高齢化農村地域では，都市と農村交流や移住定住促進など様々な政策が提案され，地域活性化をはかり，農村地域が持つ多様な機能や文化の魅力を発見し

学習目標・到達目標

① ツーリズムの基本的な理論を理解する。
② ツーリズムの課題をグローバルな視点から捉えることを身につける。
③ ツーリズムの諸課題について説明し批評することができる。

評価方法その他

平常点(20%)
グループ討論(20%)
定期試験(60%)
(平常点は，授業への参加状況やグループワークへの参加態度・成果等で総合的に判

週　テーマ・授業目標等

1 ガイダンス，授業の進め方，ツーリズムとは何か
2 ツーリズムとは何か
3 ツーリズムの概要と事例(海外)
4 ツーリズムの概要と事例(国内)
5 ツーリズムと地域
6 ツーリズムと文化
7 ツーリズムとインターネット
8 ツーリズムとオリンピック
9 文化体験プラングループワーク(海外・国内)
10 グループワーク成果発表
11 ツーリズムと農業農村(海外)
12 ツーリズムと農業農村(国内)
13 農業農村体験ツアー
14 農業農村体験ツアープログラムの作成
15 まとめ
16 定期試験

使用教科書名

特定のテキストは使用しません。関連資料のプリント等を適宜配布します。

NO. G01045031　異文化理解

森　朋子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

まずは、異文化を理解するということがどのようなことなのかを学んでいく。その過程において、異文化理解とは母語文化と外国文化の間だけに起きることではないことについても言及していく。次に多文化共生の例を外国および日本の中に見ていき、より良い多文化共生社会を構築していくにはどうしたら良いかを考えていく。

学習目標・到達目標

グローバル化が進んだ今日では、外国に出かけなくても学校、職場、地域が多文化共生社会となっているのが現状である。そのような時代において、異文化理解についての知識を持ち、多文化共生を進められる能力を持つことは「より良い暮らし」を実現するために必須と言える。この授業では、真の意味で国際人としての素養を身につけることを目標としている。

評価方法その他

中間試験　40%
期末試験　40%
平常点　20%
（平常点は授業に臨む態度、発言、出席率等により総合的に判断する）

週　テーマ・授業目標等

1)イントロダクション
2)異文化理解とは1
3)異文化理解とは2
4)異文化理解とは3
5)異文化理解とは4
6)異文化理解とは5
7)中間試験
8)多文化共生の例1
9)多文化共生の例2
10)多文化共生の例3
11)多文化共生の例4
12)多文化共生社会をめざして1
13)多文化共生社会をめざして2
14)多文化共生社会をめざして3
15)多文化共生社会をめざして4
16)期末試験

使用教科書名

プリントを配付する。

NO. G01047031　NGO・NPO論

信田　理奈

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現代社会の各分野でＮＧＯ（非政府組織）とＮＰＯ（非営利組織）が注目されています。その活動は、医療福祉、人権、子どもの健全育成、男女共同参画、平和、国際協力、環境、まちづくり、災害救援など多岐にわたり、私たちの生活と密接に関連しています。国際社会におけるＮＧＯの数と役割は増大し、アムネスティ・インターナショナルのような世界最大規模を誇る国際人権ＮＧＯもあります。日本では１９９５年の阪神淡路大震災と２０１１年の東日本大震災での救援活動を通じて、ＮＧＯ・ＮＰＯの活動が注目されました。１９９８年には通称「ＮＰＯ」法が成立し、多くのボランティア団体や市民組織が誕生しています。授業ではＮＧＯ・ＮＰＯの歴史とはた

学習目標・到達目標

NGO・NPOの歴史や制度を理解し、その多様な活動の現状と課題を捉えます。さらに市民活動についての意見や考えを発信できる能力を培い、自らも市民組織に参加する意欲を喚起します。

評価方法その他

平常点（授業に取り組む姿勢と積極性）、小テストおよび期末レポートにより総合判定します（配点：平常点50%、小テスト20%、期末レポート30%）。

週　テーマ・授業目標等

1. ガイダンス（授業の全体像と進め方、履修上の心得など）
2. NGO／NPOとは何か（1）　歴史とあゆみ
3. NGO／NPOとは何か（2）　しくみと法制度
4. NGO／NPOとは何か（3）　活動分野と内容
5. NGO／NPOとは何か（4）　マネジメント（管理運営）
6. 活動事例（1）　医療福祉（高齢者、障がい者）
7. 活動事例（2）　国際協力、開発援助、多文化共生
8. 活動事例（3）　環境、まちづくり、災害救援、地域安全
9. 活動事例（4）　子どもと教育（貧困、虐待、居場所づくり、学習支援）
10. 活動事例（5）　男女共同参画、人権（女性）
11. 活動事例（6）　男女共同参画、人権（LGBT）
12. フィールド調査（1）　グループワークと発表
13. フィールド調査（2）　グループワークと発表
14. フィールド調査（3）　グループワークと発表
15. まとめ（授業の振り返りとNGO・NPOの今後を考える：全体討論）

使用教科書名

指定せず、レジュメと資料を配布します。

NO. G01048031　コミュニティ論

北原　零未

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

人間は常に何らかのコミュニティを形成し、帰属している。
コミュニティなしには生きられない。人と人とのつながりが希薄になったと言われる現代であるが、はたしてそれは本当なのか。
そして、地域のつながりが希薄になることは悪いことなのか、もしそうなら現代社会はなぜそうなったのか。
また、そうした現代にどのようなコミュニティが出現しているのか、家庭、労働現場、地域社会、ネット・コミュニティなど広くとりあげる。

学習目標・到達目標

そもそもコミュニティとは何か、人間にとってコミュニティは必要不可欠なのかを考えること。
その上で、現代社会にとってコミュニティとは何か、どのような働きをするのか、また今求められるコミュニティとはどのようなものか、「コミュニティ」の歴史と現状を知ること。

評価方法その他

最終試験(40%)、授業中に数回実施する小テスト(30%)、および平常点(30%)の総合点で評価。
(あくまで平常点なので、ただ出席していれば良いというものではありません。居眠り・内職など集中していない場合は欠席と看做します。)

週　テーマ・授業目標等

1. 初回ガイダンス：コミュニティとは何か
2. 人間の帰属意識とは何か
3. なぜコミュニティが必要なのか
4. ムラ社会と女性
5. 若者とコミュニティ
6. 地縁的つながりの衰退と現代社会
7. 現代人は地域社会を拒否したのか
8. 仮想空間コミュニティの出現
9. 仮想空間コミュニティと若者
10. SNSは人とのつながりを破壊したのか
11. 協働とコミュニティ
12. 外国人コミュニティ
13. 災害とコミュニティ
14. これからのコミュニティの可能性
15. まとめ：個人にとってのコミュニティの価値と必要性

使用教科書名

毎回レジュメ・資料を配付。

NO. G01051031　ファッション造形学

山村　明子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現代の服飾文化でスタンダードとされている洋服の構造を理解し、その設計方法と表現上の特徴について学ぶ。衣服の構造を理解するにはまずその基体となる人体の形状と寸法を理解する必要がある。そして衣服を製作する素材となる布帛を立体的な人体の体型に適合させ、かつ表現的な要素となる布帛の立体化の技法を学ぶ。その上で、身頃原型の作図し、衣服製作に必要な基本的な設計について理解することが目的である。また、服飾デザインの基本的原理を学び、デザインの意味・効果を考える。

学習目標・到達目標

服飾の構造と人体の形状、大きさの関係について理解する。
服飾デザインの意味を理解する。

評価方法その他

授業への参加態度　レポート　中間・期末試験の総合評価

週　テーマ・授業目標等

第1週：衣服の構造の特徴　平面構成と立体構成
第2週：人体の構造
第3週：人体の計測
第4週：体型・体格
第5週：体型変化：成長・性差
第6週：衣料品サイズ
第7週：中間テスト、スタイル画
第8週：動作と体型変化
第9週：平面製図と立体構成
第10週：身頃原型
第11週：布帛の立体化の技法
第12週：デザイン理論　点と線
第13週：錯視
第14週：服飾デザインの原理
第15週：服飾デザインの形とイメージ
第16週：テスト

使用教科書名

プリントを配布

NO. G01052031　ファッション造形実習Ｂ

植竹　桃子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現代では、日本の伝統的文化の継承が注目されており、本講ではその中の和服を対象として、和服の構造および基礎的構成技法を、造形実習を通して学ぶ。まず、和服用の生地、和服の構造、着装の観点から、和服の基本的特徴を理解した上で、ゆかた（女物ひとえ長着）の造形実習を行う。本講では、ゆかたを造形することのみに留まらず、特徴のある構成技法を様々な場面で利用できる応用力の修得を目指す。また、現代社会における柔軟で応用的な和服の取り入れ方や発展のさせ方まで考える。

学習目標・到達目標

1. 和服に対する基本的・総合的な知識を身につける。2. 布地や縫製用機器・道具の取扱い、および各種構成技法（並縫い、本くけ、耳ぐけ等）を正しく行える実力をつける。 3. 1および2を、衣生活をはじめとした日常生活の中で適切に応用できる力をつける。

評価方法その他

平常点（授業への参加状況、課題への取り組み等）40%、
提出物30%、課題レポート30%

週　テーマ・授業目標等

1. 授業目的、教材説明、和服の特徴
2. 縮小モデルの作成、採寸、サイズ設定、用布量の見つもり、基礎縫い
3. 用布の折積もり、基礎縫い
4. 裁断（そで、身ごろ）
5. しるしつけ（そで、身ごろ）
6. そで縫い
7. 背縫い、えり肩明き、肩当てつけ
8. おくみのしるしつけ、えり下くけ、おくみつけ
9. おくみつけの始末
10. 脇縫い、脇縫いの始末
11. 脇縫いの始末
12. えりのしるしつけ、えりつけ
13. えりつけの始末
14. 掛けえりつけ、すその始末
15. そでつけ、仕上げ

使用教科書名

プリント配布

NO. G01053031　装飾マテリアル演習

蒲池　香津代

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

ファッションやインテリア素材として布地は重要なものであるが、現代では日々新しい素材が開発され、豪華で魅力的なものが次々と提供されている。
世界各地にはどのような布があり、どのような装飾がされているか実物標本を見ながら学ぶ。装飾された布地を制作するには、染め、織り、刺繍など様々な技法がある。実際にその技法を用いて布地の制作および布地への装飾を試み、個性的なインテリアグッズやファッション商品への展開を考える。

学習目標・到達目標

機織造形の表現方法を学び、自分の個性を生かしたオリジナルな作品を制作する。
刺繍や織などの基礎的知識と技術を学ぶ。

評価方法その他

作品60%、試験20%、平常点20%（授業への参加状況）

週　テーマ・授業目標等

1.装飾技法について
2.刺繍作品制作のプロセス、デザイン
3.基礎技法の実習
4.基礎技法の実習
5.応用作品の実習
6.応用作品の実習、仕上げ方法
7.特別講習（外部講師）
8.織物の概要説明、織り機、三原組織、整経
9.織り機にセット
10.基本織りの制作
11.基本織りの制作、基本織りの仕上げ
12.応用作品の設計
13.応用作品の制作
14.応用作品の制作
15.応用作品の仕上げ、レポート制作
16.筆記試験

使用教科書名

資料を配布する。

NO. G01054031　現代衣生活論

山村　明子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

今日の社会における衣生活はアパレル産業との関わりを考えずには成立しない。その為、アパレル産業の現状と問題点を探り、ファッション商品と消費の関係、商品の価値、廃棄と資源の再活用について考える。また、ジュニア・シニア世代のファッションについて視野を広め、衣生活の将来的なあり方を考える。

学習目標・到達目標

今日の社会における衣生活における問題点を理解し、持続可能な衣生活とファッションとの共存を考える。

評価方法その他

平常点:授業への参加態度(20%)試験(80%)

週　テーマ・授業目標等

第1週:衣生活の問題点を考える
第2週:アパレル産業
第3週:ファストファッション
第4週:現代のファッションとグローバリゼーション
第5週:現代のファッションとCSR
第6週:商品生産の現場;女工哀歌
第7週:商品の価値を考える
第8週:消費と廃棄
第9週:3Rとファッションデザイン
第10週:持続可能なファッションを考える
第11週:シニアファッション
第12週:ユニバーサルファッション
第13週:子ども服と安全
第14週:服育
第15週:まとめ
第16週:テスト

使用教科書名

プリント配布

NO. G01055031　世界の服飾

蒲池　香津代

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

世界各地には様々な民族服が存在する。今日ではその着用者は少なくなってきたが、儀式やイベントなどには着用されている。制作はほとんどが手作業で行われ、制作者はその技術を、着装者は美を競ってきた。民族服の構成、色彩、装飾の特徴を知り、新たな発想に役立てる。

学習目標・到達目標

世界各地の代表的服飾の特徴を知り、気候や文化との関わりや民族衣装としての役割を知る。

評価方法その他

出席および授業への取り組み20%、レポート30%、テスト50%

週　テーマ・授業目標等

1、世界の服飾の概要説明
2、アジア地域（韓国など）
3、アジア地域（タイなど）
4、アジア地域（中国など）
5、アジア地域（インドなど）
6、民族衣装着装
7、ヨーロッパ地域（東欧）
8、ヨーロッパ地域（北欧）
9、南米地域　（アンデス地方）
10、地域を選び調査
11、調査
12、調査
13、報告書の作成準備
14、パワーポイント作成
15、発表
16、試験

使用教科書名

使用しない。必要に応じてプリント資料を配付する。

NO. G01056031　日本の服飾

井上　眞弓

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

この授業は、2年生の科目としての位置づけにより、「過去を振り返り、現在を問う」ことの実践が求められている。したがって、現代に残存している日本の伝統的服飾がどのような由緒・歴史をもっているのかについて認識し、そのような知識をもとに現代の服飾表現を幅広い視野で分析できるよう、受講生の調査・作業を織り込みながら講義を行う。さらに伝統的服飾を現代へ活かす方策について、きものデザイナーであり、装丁家でもある林佳恵氏による校内特別授業を予定している。

学習目標・到達目標

私たちは、技術や知識を伝承してきた人々の営々たる努力により、現代に引き継がれた伝統的服飾品や服飾文化を享受することができている。こうした歴史的文化的な観点で日本の服飾を捉える際の基本的知識・事項の修得を第1の目標とするが、さらに、その修得が可能となった受講者においては、現代の服飾や住まいに関する領域において提案できる力を養うことを第2の目標として掲げておく。

評価方法その他

平常点（授業中の課題・レスポンスシートの内容を含む）40%、課題発表（レポート）30%。振り返りシート30%

週　テーマ・授業目標等

1　布について（オリエンテーション）
2　日本の風土と服飾の関係について
3　古代布の周辺
4　王朝の服飾(1)女房装束
5　王朝の服飾(2)襲色目
6　王朝の色彩表現(1)
7　江戸の色彩表現(2)
8　日本の文様(1)古代
9　日本の文様(2)江戸時代
10　老舗における逆張り経営戦略について
11　現代における服飾製品の活用法(1)林佳恵氏講演
12　現代における服飾製品の活用法(2)持続可能な開発のための教育
13　現代における服飾製品の活用法(3)女性への自立支援とエシカルファッション
14　博物館資料の扱い方・計測
15　振り返りシートによるまとめと課題発表

使用教科書名

テキストは特に指定しない。必要に応じてプリントを用意する。

NO. G01058031　ファッション販売論

植竹　桃子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

ファッション商品を販売する現場は、消費者が商品の検討を経て購買を決心する場であると同時に、生産者側には消費者のニーズを商品企画等へつなげるための貴重な実態情報収集の場でもあり、消費者・生産者の両者にとって極めて重要である。本講では、ファッション販売の基本およびファッション商品知識を身につけ、販売の現場で、消費者個々のニーズをつかみ適切に商品の専門的知識・技術・情報を提供できる人材を育成する事を目指す。また、ファッション販売能力検定試験２・３級の受験サポートも、授業の中に組み込む。

学習目標・到達目標

ファッション商品の特質を理解し、ファッション商品の基本的な知識（組成、取扱い・管理、サイズなど）と、ファッション販売の実務の基本を身につける。さらに、学んだ成果を資格とすることを目指す。（希望者は、ファッション販売能力検定試験2・3級を団体受験）

評価方法その他

平常点（授業への参加状況、課題への取り組み等）:20%
課題レポート:20%
定期試験:60%

週　テーマ・授業目標等

1. ファッション販売とは
2. 販売知識(1)ファッション商品の流れ
3. 販売知識(2)消費者は何を求めているか
4. ファッション・マーケティング知識
5. ファッション販売業務
6. ファッション販売技術
7. 店舗演出
8. ファッション販売に関する研究事例
9. アパレル業界の職種と業務
10. ファッション商品知識(1)繊維素材の特徴
11. ファッション商品知識(2)取扱い・管理
12. ファッション商品知識(3)商品苦情
13. ファッション商品知識(4)サイズ規格
14. タウンウォッチング発表会
15. まとめ
16. 試験

使用教科書名

ファッション販売[1]改訂版／日本ファッション教育振興協会

NO. G01059031　衣と消費科学

植竹　桃子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

アパレル商品に対して、現代の消費者は高品質・高付加価値を要求し、生産者は商品を豊富に供給している。本講では、このような現状のもとでアパレル商品の生産者と消費者をつなぐ立場から、消費生活を的確に支える能力を養うことを目的とする。授業の進行としては、まず、アパレル業界における生産および流通の仕組みやアパレル商品の特質を理解した上で、社会環境と関連させながらアパレル産業の動向をとらえる。さらに事例を扱いながら、アパレル商品に対して消費者が直面する問題・課題への取り組み方を考える。

学習目標・到達目標

アパレル産業、アパレル商品の生産・流通・販売の特質と現状を理解する。現代生活の中でアパレル商品が抱える問題点を把握し、生産者と消費者双方のアパレル製品に対するあり方を、具体的事象から学び取る。

評価方法その他

平常点（授業への参加状況、討論への参加等）:20%
定期試験:前半40%，後半40%

週　テーマ・授業目標等

1. 身のまわりの衣生活を振り返る
2. アパレル商品の性質
3. アパレル商品の企画・設計
4. アパレル産業の生産・流通
5. ファッションビジネス
6. アパレル市場
7. アパレル産業のグローバル化
8. 衣生活からみた循環型社会
9. アパレル商品に関する法規・表示(1)各種表示
10. アパレル商品に関する法規・表示(2)サイズ，原産国表示
11. アパレル商品に求められる消費性能
12. アパレル商品の消費性能と消費者苦情(1)クリーニング
13. アパレル商品の消費性能と消費者苦情(2)通信販売
14. アパレル商品の消費性能と消費者苦情(3)各種事例
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

特に指定しない（プリント配布）

NO. G01060031　ファッションカラー演習

井澤　尚子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

ファッションデザインの基礎、色彩論等をベースに、ファッションコーディネイトにおける色彩表現を学ぶ。授業後半は企業連携を予定しており、実際店舗におけるテキスタイルのトータルデザインとして、クッション等の企画・設計・制作を行う。衣生活の多様性を考え、実践に即したコーディネイト感覚を磨く。特別授業では、外部講師による「パーソナルカラーの実践」を予定している。

学習目標・到達目標

ファッション分野における色彩論の基礎を習得するとともに、実際の店舗におけるテキスタイルデザインとしてクッション等の制作を行う。本学科で学んだ生活者としての視点と、女子大生としての感覚を作品制作に活かしてもらいたい。

評価方法その他

平常点（30%）、提出課題（50%）、作品プレゼンテーション（20%）
（平常点は授業への参加状況・取り組み等で総合的に判断する）

週　テーマ・授業目標等

1.イントロダクション
2.色相環のコラージュ
3.ファッションと流行色
4.ファッションイメージとファッションカラー
5.配色技法について(1)
6.配色技法について(2)
7.特別授業（パーソナルカラー）
8.ファッションと素材
9.企画と設計計画（1）対象とデザイン
10.企画と設計計画（2）デザインパターン作成
11.材料について、材料の購入
12.制作(1)
13.制作(2)
14.仕上げ、プレゼンテーション準備
15.プレゼンテーション、まとめ

使用教科書名

特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配付する。

NO. G01061031　ファッションコーディネイト

山村　明子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

ファッションデザインの基礎、色彩論等をベースに、ファッションコーディネイトにおける色彩表現を学び、あわせて衣服のリメイクに必要な縫製技術を習得する。ファッションコーディネイトの必要性から、現在の衣生活環境の価値基準を考える。自分らしさを表現するリメイク作品のプレゼンテーションでは、ほかのアイテムとの組合せの実践から、衣服の有効利用を考え、コーディネイト感覚を磨く。外部講師による「パーソナルカラーの実践」、校外授業では「銀アクセサリー製作」を予定している。

学習目標・到達目標

本授業は、生活者の視点から、ファッションコーディネイトの題材として、衣服のリメイクを取りあげる。ファッション分野で学んだ内容を基礎にして、本授業内容を十分理解し、衣服のリメイク実践では縫製技法を習得、自分らしいファッションコーディネイト表現とプレゼンテーションを目標とする。

評価方法その他

平常点（30%）提出課題（50%）、作品プレゼンテーション（20%）
（平常点は授業への参加状況・取り組み等で総合的に判断する）

週　テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 色相環のコラージュ
3. ファッションと流行色
4. カラーパレット制作(1)
5. カラーパレット制作(2)
6. ファッションイメージとファッションカラー
7. 特別授業（パーソナルカラー）
8. ファッションと素材
9. 衣服のリメイクについて
10.校外授業（日伸貴金属）
11.衣服のリメイク計画
12.衣服のリメイク実践(1)
13.衣服のリメイク実践(2)
14.衣服のリメイク実践(3)
15.プレゼンテーション、まとめ

使用教科書名

使用しない。必要に応じてプリント資料を配付する。

NO. G01062031　ファッション企画・設計論

蒲池　香津代

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
ファッション商品は流行、社会規範、年齢、消費者のライフスタイル、経済状態や社会状況、個々人の嗜好など多くの要素を満足させるような企画をすることが必要である。様々な要素を考慮しつつ、1グループ1アイテムの商品企画を行い、実際に製品を試作しファッション産業における諸問題を検討する。

学習目標・到達目標
ファッションの企画はどのように立てられるかを学び、実際に企画、設計をして製品試作を行うと共にファッション産業の概要を知る。

評価方法その他
平常点（授業への取り組み）30%、レポート10%、試験60%

週　テーマ・授業目標等
1、オリエンテーション　採寸
2、原型製図1
3、原型製図2
4、アパレルCADについて
5、ファッション企業の概要を知る＜外部講師＞
6、企画
7、試作
8、再検討、見積もり
9、材料購入
10、裁断
11、縫製方法の検討
12、制作
13、制作、仕上げ
15、工程における諸問題の検討
16、試験

使用教科書名
使用しない。資料を配布

NO. G01064031　衣服環境論

植竹　桃子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
衣服は、人間に最も近い環境である。この「衣服環境」を快適に保つための、人体の体温調節機能や外部環境に適応した「衣服気候」、人体の形態・運動変形に適応した「衣服の運動機能性」、皮膚の構造・生理に適応した「衣服の接触快適性」について学ぶ。さらに様々な着用場面に視点を広げ、機能的で快適な衣服環境の実現を追求する。

学習目標・到達目標
衣服の繊維素材，構造，サイズ，着装法等の衣服の各要素と、着用者の「人体」との関わりを理解し、「快適な衣服環境」を設計する力を修得する。

評価方法その他
平常点（授業への参加状況、討論への参加等）:20%
定期試験:80%

週　テーマ・授業目標等
1. 衣服環境の快適性に関わる要因
2. 衣服と人体形態(1)人体の構造・形態
3. 衣服と人体形態(2)動作に伴う体表の変形
4. 衣服圧と人体生理
5. 人体の体温調節システム
6. 衣服気候(1)着衣による熱移動
7. 衣服気候(2)着衣による水分移動
8. 皮膚・衣服の衛生
9. 着衣による気候適応―世界の民族服の視点から―
10. スポーツウェアの動作適合性・温熱生理
11. 乳幼児の身体的特徴と衣服(1)おむつ
12. 乳幼児の身体的特徴と衣服(2)衣生活行動の発達
13. 誰もが快適な衣生活を送るための配慮
14. はき物の快適性
15. 災害と衣生活
16. 定期試験

使用教科書名
衣環境の科学（田村照子編著，建帛社）

NO. G01066031　インテリア設計論

大宮司　勝弘

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
最初に家具の歴史、モダンムーブメントといった現代インテリアの背景について学習する。
次に建築構造・構法といった安全で堅固な空間を担保するための技術、仕上げ材料や床の間などインテリアの設えについて学習する。
最後に関連法規などインテリアをコーディネートする際に必要な実務の知識を習得する。
なお、UR技術研究所（八王子市）と東京ビッグサイト（有明）での校外学習を行う。交通費などの負担があるので注意すること。

学習目標・到達目標
インテリアの設計手法を学ぶ。
歴史・家具・構法・材料・関連法規など、インテリアをコーディネートする際に必要な背景や実務の知識を習得する。

評価方法その他
学期末の筆記試験（70%）、平常点（30%）

週　テーマ・授業目標等
1）インテリアの歴史1（西洋古典）
2）インテリアの歴史2（西洋近代）
3）インテリアの歴史3（西洋近代）
4）インテリアの歴史4（日本近代・戦前）
5）インテリアの歴史5（日本近代・戦後）
6）現代建築・インテリア
7）八王子UR技術研究所の見学※
8）インテリアトレンドショーJAPANTEX2016の見学
9）建築構造1（木造）
10）建築構造2（鉄筋コンクリート造・鉄骨構造）
11）インテリア材料1（木材）
12）インテリア材料2（ガラス）
13）インテリア構法1（床・壁）
14）インテリア構法2（天井・造作）
15）インテリア関連法規
16）定期試験

※見学先の都合により順序が前後することがある

使用教科書名
特に指定しない。

NO. G01067031　インテリア計画

大宮司　勝弘

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
快適な空間づくりを目指すためには、人体寸法や家具寸法など必要寸法の把握、および必要な設備やインテリアエレメントについて学ぶ必要がある。
授業では最初に基本的な寸法、色彩などの考え方を把握し、次に住まいの空間ごとに必要な寸法、配置手法について学習する、そしてインテリアを構成する部材について学習し、インテリアをコーディネートするために必要とされる技術を習得する。

学習目標・到達目標
インテリア計画とはあくまで人間を中心に置いた内部空間の計画である。これには技術だけでなく、人間どものとの関係の中で生じるさまざまな要素を総合的にまとめあげる技術が必要とされる。
この授業ではインテリアをコーディネートするために必要とされる技術についてその概要を学び、その後に続くインテリア設計論およびインテリアデザイン演習を通して専門知識と技術を習得するための、基礎的知識を習得する。

評価方法その他
平常点(30%)、期末試験(70%)

週　テーマ・授業目標等
1）住宅の種類と平面計画
2）人体寸法と動作空間
3）造形と色彩
4）リビング、ダイニングの計画
5）キッチンの計画
6）寝室、子供室、書斎の計画
7）サニタリーの計画
8）玄関、廊下、階段の計画
9）収納スペースの計画
10）家具
11）建具1（戸・サッシ）
12）建具2（金物）
13）内装材1（床材・カーペット）
14）内装材2（壁材・天井材）
15）ウィンドートリートメント

使用教科書名
特に指定しない。

NO. G01068031　インテリアデザイン演習A

大宮司　勝弘

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

授業ではまず現代のインテリア空間の実例を調査・研究し、デザインの現状を調査する。次に平面図・断面図・展開図による室内空間の表現方法ならびにアイソメトリック図やパース（透視図）の描き方、模型制作の手法などインテリア空間のプレゼンテーションの手法を習得する。そして、これら成果をもとに、みずからインテリアを計画し、図面および模型を作成する。

学習目標・到達目標

建築・インテリア系の講義で得た知識を利用してインテリア設計を実践する。

なお、基礎的な建築製図力を必要とするため、設計製図演習AおよびBの単位取得済を履修条件とする。また、1回の校外授業と模型製作などで交通費、材料等の実費負担が必要になります。

評価方法その他

平常点(30%)ならびに提出物(70%)による。

週　テーマ・授業目標等

① 04.08 第1課題『襟とポッケ』
② 04.22 第1課題『襟とポッケ』
③ 05.06 ニチベイ日本橋ショールーム見学
④ 05.13 産学連携特別課題デコブラインド(ニチベイ)出題
⑤ 05.20 第2課題『ライト・シェイプ・カラー』+特別課題(ニチベイ)構想発表
⑥ 05.27 第2課題『ライト・シェイプ・カラー』
⑦ 06.03 第2課題『ライト・シェイプ・カラー』
⑧ 06.10 第1・2課題のまとめ
⑨ 06.17 第3課題『ロング・キッチン』+特別課題(ニチベイ)発表会
⑩ 06.24 第3課題『ロング・キッチン』
⑪ 07.01 第3課題『ロング・キッチン』
⑫ 07.08 第3課題『ロング・キッチン』
⑬ 07.15 第3課題『ロング・キッチン』
⑭ 07.22 第3課題『ロング・キッチン』
⑮ 07.29 第3課題『ロング・キッチン』
⑯ 08.05 講評会

使用教科書名

NO. G01070031　江戸東京学

熊井　保

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

江戸は徳川幕府の首府として栄え、明治時代以降は東京と名を変え、日本の首都として機能してきた都市である。本科目は、江戸および東京について、江戸時代から明治時代までを主たる対象として、その歴史や文化など多様な角度からの分析を行うことを通じて、その特色や都市としての性格を理解することをめざすものである。具体的には、町の仕組み、住民の生活と娯楽などの歴史的発展に関する内容や、言語文化などの文化的事項について言及する予定である。

学習目標・到達目標

江戸時代から明治時代にかけての江戸・東京のくらしや歴史、言語、文化を学び、それらが現代の生活にどのようにつながっているのかを理解するとともに、そこから何を学び取ってこれからの我々のくらしに活かしていくべきかを考えようとする姿勢を身につける。

評価方法その他

平常点20%、試験(中間・期末)80%。平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。

週　テーマ・授業目標等

1.江戸の社会(1)徳川家康の登場
2.江戸の社会(2)振袖火事と防災都市の建設
3.江戸の社会(3)町方支配と都市機能、日本橋
4.江戸の社会(4)長屋の暮らし
5.江戸の社会(5)名主日記から見た18世紀初頭の江戸
6.江戸の社会(6)浮世風呂の世界
7.中間試験(7)浮世風呂の世界
8.答案返却、江戸の社会(8)浮世風呂の世界
9.江戸のことばと文化(1)江戸語の形成
10.江戸のことばと文化(2)江戸語の階層
11.江戸のことばと文化(3)江戸語の特色
12.江戸のことばと文化(4)江戸語の発音
13.東京のことばと文化(1)江戸語から東京語へ
14.東京のことばと文化(2)東京語と標準語
15.東京のことばと文化(3)言文一致
16.期末試験

使用教科書名

特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配布する。

NO. G01072031　生活美学

蒲池　香津代

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

ファッション、インテリア、食生活を彩る食器など、私たちは身近な生活においてもつねに快適さ、美しさを意識して求めている。「役にたたないもの、美しいと思わないものを家に置いてはならない」と言ったウィリアム・モリスは生活そのものを芸術化しようとした。現代の私たちはモリスの時代よりはるかに物質的に豊かになった。が、同時に多くの複雑な問題も抱えている。モリスの運動を振り返りつつ、日本で「用の美」を唱えた民芸運動、さらには現在の日本における環境問題と利便性の追求とのバランスについても検討する。

学習目標・到達目標

「美しい」生活の仕方とはどのような生活なのかを考える。
心の豊かさと美しい生活、美しい生活とは何か。物心両面から考える。
また持続可能な地球と私たちの生活の在り方についても考究する。

評価方法その他

出席および授業中の態度20%、期末試験60%　レポート20%

週　テーマ・授業目標等

1. 生活の中の美
2. ウィリアム・モリス、マッキントッシュ
3. ジャポニズム
4. 日本の民芸運動
5. 日本の工芸品
6. 西洋の工芸
7. 西洋の食器類
8. アフタヌーンティーパーティーのマナー
9. アーミッシュの生き方を知る(1)
10. アーミッシュの生き方を知る(2)
11. アーミッシュの生き方を考える
12. 今までのライフスタイルを見直す(1)
13. 今までのライフスタイルを見直す(2)
14. これからのライフスタイルを考える
15. まとめ
16. 試験

使用教科書名

使用しない。必要に応じてプリント資料を配付する。

NO. G01073031　言語コミュニケーション

内田　宗一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

コミュニケーションは、人が他者と関わりながら生きてゆく上で必須のものであり、社会や文化を形作ってゆく基盤となるものである。コミュニケーションには様々な形があり、ことばを媒体とする言語コミュニケーションと、しぐさや表情、外見などといった要素による非言語コミュニケーションとに、大きく分けて捉えることができる。この授業では、このうちの言語コミュニケーションを主たる対象として、コミュニケーションをめぐる諸問題を考えてゆく。また、それを通じて受講生各自のコミュニケーション能力が向上することも期待したい。

学習目標・到達目標

言語コミュニケーションの特性および日本語の言語文化について理解する。あわせて、ここで得た知見をもとに自らのコミュニケーションのありようについて考え、その能力を向上させようとする姿勢を身につける。

評価方法その他

平常点20%、レポート30%、期末試験50%。平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。出欠は毎回確認する。

週　テーマ・授業目標等

1.コミュニケーションとは
2.言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション
3.コミュニケーションと文化
4.日本の言語文化とコミュニケーション　敬語の種類としくみ
5.日本の言語文化とコミュニケーション　誤りやすい敬語
6.日本の言語文化とコミュニケーション　敬語使用の実態と意識
7.日本の言語文化とコミュニケーション　接客敬語をめぐる諸問題
8.日本の言語文化とコミュニケーション　断り表現のしくみ
9.日本の言語文化とコミュニケーション　断り表現の種類
10.日本の言語文化とコミュニケーション　断り表現の使い分け
11.日本の言語文化とコミュニケーション　感謝表現のしくみ
12.日本の言語文化とコミュニケーション　感謝表現の使い分け
13.日本の言語文化とコミュニケーション　感謝と謝罪の関係性
14.日本の言語文化とコミュニケーション　依頼表現のしくみ
15.日本の言語文化とコミュニケーション　依頼表現の使い分け

使用教科書名

特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配付する。

NO. G01074031　若者文化論

内田　宗一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

社会の中で10代から20代にかけての若年層は、既存のルール・文化に抵抗し、あるいは迎合し、自らの価値観を示してきた。若者が発信する文化にはその時代と社会の新しい感性が潜んでいる。この授業では主に昭和から平成にかけてのファッションの流行と、「若者ことば」という言語文化に関する考察を通じて、そこに投影された若者の感覚について論じてゆく。それらが培われてきた背景、及び今後の日本文化の発展についても論じていく。

学習目標・到達目標

若者文化の特色や変遷を理解する。若者文化に投影された若者の感覚や価値観、若者文化を培った背景について理解し、説明することができる。

評価方法その他

平常点20%、中間試験40%、期末試験40%。平常点は授業への参加状況、作業への取り組み等で総合的に判断する。なお、出欠は毎回確認する。

週　テーマ・授業目標等

第1週　若者ことばとは
第2週　若者ことばの特色
第3週　若者ことばの分析1　さ入れことばの使用実態
第4週　若者ことばの分析2　さ入れことばの使用意識
第5週　若者ことばの分析3　ぼかし表現の使用実態
第6週　若者ことばの分析4　ぼかし表現の機能
第7週　まとめ・中間試験
第8週　1950年代ファッション　シネマファッション
第9週　1960年代ファッション　ヒッピーとサイケ
第10週　1970年代ファッション　フォークソング
第11週　1970年代後半ファッション　ファッション雑誌
第12週　1980年代ファッション　女子大生ブーム
第13週　1990年代ファッション　バブル景気とギャルの多様化
第14週　2000年代ファッション　ローティーン
第15週　2000年代　エイジレス志向　かわいいとは何か
第16週　試験

使用教科書名

特に指定しない。プリント資料を配布する。

NO. G01076031　生活文化論

小瀬　康行

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

長さ、かさ、重さをはかるという行為とその概念は、古くから度・量・衡の世界として理解がなされてきた。今日、わが国ではメートル法のもとで生産活動、商業活動などの社会の営みが行われているが、それ以前には、メートル法とは別の単位が存在していたことを理解し、その一部は今なお生活のなかに根づいていることを明らかにする。

学習目標・到達目標

暮らしの中には、いたるところに「はかる」行為が存在する。時間、速さ、重さ、長さ、かさなど数え上げればきりがないが、こうした行為が計量(はかる)という概念をつくりあげ、生産活動や商業活動を支えていると言っても過言ではない。本講義では長さ、かさ、重さに視点をあてて暮らしの中にみられる計量という概念について学習する。

評価方法その他

小テスト(複数回)(80%)、平常点(20%)
(平常点は授業への参加状況、討論への参加などで総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等

1. 序論:新旧度量衡の葛藤
2. 単位の世界:暮らしの中にはさまざまな単位があり、度量衡変換表を検討しながら世界の単位系について学ぶ。
3. わが国古来の長さの単位ともものさし:大陸からものさしが伝播する以前にあったとされる身体尺とよばれる長さの基準と現代に残る古い尺度について学ぶ。
4. 曲尺の観察と特色:わが国の代表的なものさしである曲尺の単位(分、寸、尺など)と曲尺目盛の意味について学ぶ。
5. 曲尺と土地の面積:長さをはかることは面積をはかることにつながることを理解し面積の単位とその考え方を学ぶ。
6. かさの単位と量:かさの単位(勺、合、升など)とその意味するところを考えるとともに江戸時代における枡製造者についても触れる。
7. 枡の構造とメートル法:枡の基準がどのように定まってきたのか、江戸時代から明治時代に至るまでのその歴史的な過程を学ぶ。
8. 枡と米:かさを正確にはかる行為の重要性は、米の量を正確にはかるところにあったことを学び、同時に米俵のかさと重さについても理解する。
9. 重さの単位とはかる道具:江戸時代の重さの単位(匁、貫、斤など)と、天秤と棹秤の2種類のはかりの存在について学ぶ。
10. はかりの構造と歴史:両替天秤としての天秤はかりと、商業用はかりとしての棹秤の構造の差異と歴史的意味を考える。
11. 重さと貨幣:重さを考えることは必然的に金銀銭の三種類の貨幣制度やあるいは秤量貨幣、数量貨幣などにも関連してくることを学ぶ。
12. 江戸時代の家計簿と度量衡:金銭の出入が記録されている江戸時代の日記を分析しながら、当時の家計を考える。
13. 近代の度量衡(1):度量衡取締条例
14. 近代の度量衡(2):度量衡取締条例

使用教科書名

授業中に配布する。

NO. G01080031　文化の継承と発信

井上　眞弓

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

この授業においては、伝統的生活文化に支えられて残存する文化遺産がいかなるものかその価値を理解し、それを未来に向けてどう伝え、また、どのように活用することができるのかについて考究する。前半は、日本における伝統的文化の現代における状況調査と継承の方法について考察し、未来に向けた新しい文化創造の可能性について講義する。後半は、主に服飾史の観点から、日本における西洋服飾文化の受容について分析ならびに考察を行い、それを踏まえた現代における新しい文化の発信方法について講義する。

学習目標・到達目標

伝統的な文化がどのように受け継がれてきたか、その受容の歴史を踏まえつつ受講者自らが文化的資産の現代における新しい意義を見出し、それらを自らの力で発信することをめざす。

評価方法その他

平常点30%(授業内課題含む)、発表10%、課題・レポート(前半・期末の2回)60%

週　テーマ・授業目標等

1.オリエンテーション
2.文化遺産とともに生きる街―文化の継承と発信事例研究1
3.文化遺産とともに生きる街―地域と博物館・美術館の連携事業について
4.上野の街　見学(街角ミュージアムの実践)
5.文化遺産とともに生きる街―文化の継承と発信事例研究2
6.「三宅一生」展見学
7.文化の継承に関する発表会
8.日本の服飾(長着)のデザイン要素:形態、素材
9.日本の服飾からの洋服デザインの発想:三宅一生
10.日本の服飾からの洋服デザインの発想:川久保玲
11.日本の服飾からの洋服デザインの発想:山本耀司
12.日本の服飾からの洋服デザインの発想:matohu
13.日本のセンス　クール
14.日本の染色技術と産業の継承
15.上野見学の振り替え

使用教科書名

特に指定しないが、必要に応じてプリントを配布する。

NO. G01081031　生活文化演習

井上　眞弓

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

生活文化はくらしている土地との結びつきのなかでどのように位置づけられるのか、実際に街を歩いてその実態を調査し、その調査結果の分析を行う。2011.3.11以降の日本が直面するコミュニティの問題を含めて生活文化の時間軸・空間軸での変容を辿りつつ、次世代に何をつないでいくか、何を伝えていくか、受講生とともに考究していきたい。具体的には、人とモノとくらしの関係を考察し、東京の過去・現在・未来を考える活動である「街角ミュージアム」の実践となる。

学習目標・到達目標

それぞれの地域に生きる人間が営む生活文化と社会の関係について理解する。ここで得た知見をもとに現代家政学的視点による自身の研究課題について、具体的な方向性を獲得することができるような問題意識を持つ。

評価方法その他

平常点(授業内レポートを含む)40%、発表30%　期末レポート30%
平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。

週　テーマ・授業目標等

1.オリエンテーション　現代家政学科で学ぶ生活文化について
2.街を見る　BIDの観点から
3.街を見る　広告と生活文化
4.街に行く　シオサイト
5.事後学習
6.発表会
7.街を見る　都市文化学の立場から
8.街を見る　生活文化学の立場から
9.次世代に伝える生活文化
10.ワークショップ1
11.ワークショップ2
12.ワークショップ　まとめ
13.発表会
14.校内特別授業「農あるくらし」(外部講師による講演)
15.授業のふりかえり(まとめ)

使用教科書名

特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配布する。

NO. G01082031　食品学実験

竹中　真紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
食品を総合的に理解するために、実際に食品を用いた加工実験や調理実験を行い、食品の性質や加工・調理過程での変化とその加工原理について理解する。結果のまとめ方や実験レポートの書き方についても学習する。

学習目標・到達目標
食品成分の性質を理解し、調理・加工過程でのそれらの成分の変化や成分間反応、食品加工の原理について理解する。

評価方法その他
平常点(30%)、レポート(70%)

週　テーマ・授業目標等
1.ガイダンス
2.果実の加工(いちごジャムの瓶詰)
3.野菜の加工(スィートピクルス)、計量についての実験
4.穀類の発酵(甘酒)
5.乳の加工(バター、カッテージチーズ)
6.小麦の性質
7.小麦の加工(うどん)
8.砂糖溶液の加熱変化に関する実験(タフィー、ピーナッツの砂糖衣)
9.卵の加工(マヨネーズ)
10.魚の加工(かまぼこ)
11.乳の発酵(ヨーグルト)
12.大豆の加工(豆腐)
13.野菜の加工(トマトケチャップの瓶詰)
14.食肉の加工(ソーセージ)
15.大豆の加工(大豆の水煮缶)
使用教科書名
プリント配布

NO. G01083031　食のリスクマネジメント

塩見　一雄

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
食品の海外依存や食の外部化など、食生活の変化に伴って私たちの食の安全・安心は大きく揺らいでいる。わが国における食品リスクの現状とリスク要因（微生物、自然毒、有害化学物質など）、食品の安全基準や表示のあり方、食品の安全性を確保するためのリスク管理のあり方などについて、身近な食生活を中心に食料・環境問題までに視点を広げて検討する。

学習目標・到達目標
「食の安全・安心」は私達が食に求める最重要条件である。「食の安全・安心」を確保するために必要な基礎知識を学習するとともに、食生活や食料・環境問題など広い視点から食の安全を捉える姿勢を養うことを目標とする。
1. 食品衛生に関する基礎知識を理解する
2. 食品リスクの現状と課題を理解する
評価方法その他
平常点(40%)、定期試験(60%)
(平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等
1. 食品の安全性に関わる項目と食品衛生行政
2. 微生物の基礎知識
3. 食品の腐敗・変敗とその防止
4. 食中毒の分類と発生状況
5. 微生物性食中毒
6. 自然毒食中毒(1):動物性自然毒
7. 自然毒食中毒(2):植物性自然毒
8. 化学性食中毒
9. 食品の安全性の確保
10. 家庭における食品の安全保持
11. 環境汚染と食品
12. 器具および容器包装
13. 水の衛生
14. 食品の安全流通と表示
15. 食品の安全管理
16. 定期試験
使用教科書名
使用教科書名：日本フードスペシャリスト協会編「三訂　食品の安全性」建帛社

NO. G01084031　レシピの比較文化史

宇都宮　由佳

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
本講義では，レシピを空間軸と時間軸で比較する．
前半は，空間軸すなわち地域比較を主として，ムギやコメなど食材別にレシピを比較する．あわせて食事作法や食のタブーについて，自然環境だけなく文化的背景を踏まえ，レシピの違いが生じる要因を理解していく．
後半は，日本を中心に時間軸で，日本人が摂取してきた料理，レシピの時代変遷を把握する．なぜ，現代のような食事になったのか理解すると共に，将来どうあるべきかも考える力を養う．

学習目標・到達目標
1. 様々なレシピを通して，その地域の自然環境，宗教，文化的・歴史的背景の影響を理解する．
2. 異文化との交流により，新たなレシピの誕生し，それが現在進行形あることを学び．あわせて、自らも食文化の継承者であり，同時に創造者であることを認識する．
3.「食文化」を視点に「文化」についての研究方法を習得する．
評価方法その他
平常点(20%)，小レポート(30%)，定期試験(50%)
(平常点は授業のリアクションペーパー)

週　テーマ・授業目標等
1.授業の進め方 レシピ文化の考え方・研究方法について
2.ムギのレシピ比較―ヨーロッパとアジア
3.コメのレシピ比較―ヨーロッパとアジア、炊飯法
4.麺のレシピ比較―原料，製法
5.レシピから見る食事作法の比較
6.レシピから見る食物禁忌と宗教の影響
7.豆・豆製品のレシピ比較ー大豆製品を中心に
8.だしのレシピ比較
9.酒のレシピ比較
10.日本の時代変遷によるレシピ比較1－縄文・弥生時代
11.日本の時代変遷によるレシピ比較2－古墳～平安時代
12.日本の時代変遷によるレシピ比較3ー鎌倉・室町時代
13.日本の時代変遷によるレシピ比較4－安土桃山時代
14.日本の時代変遷によるレシピ比較5ー江戸時代
15.日本の時代変遷によるレシピ比較6ー明治～昭和時代
16.試験
使用教科書名
毎回，教員が用意したプリント(1-2枚)を配布して授業を進める．学生はA4サイズのファイルブックを用意しておくこと．

NO. G01085031　食文化論

熊井　保

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
第２次大戦後の日本において欧米諸国の食事が推奨されたが，伝統的な和食を中心とした食文化を駆逐するまでには至らなかった。現在では，日本の食文化は世界において注目され，日本各地の郷土食にも関心が注がれている。この科目は，日本の食文化がどのように発展したのか，日常の食事，ハレの食事，地域差，料理に使用された食材はどこで生産されどのように運ばれたのか，などに注目しながら検討する

学習目標・到達目標
日本の食文化が世界の中でどのような位置を占めるのかを把握すること。
日本の食文化の内容について，食事様式，日常の食事，主食と副菜，調味料，外食文化などの位置づけを把握すること。

評価方法その他
平常点20%、中間試験・レポート80%。平常点は授業への参加状況で判断する。

週　テーマ・授業目標等
1 はじめに
2 世界の食文化(1)主要穀物と食文化圏
3 世界の食文化(2)粉食文化と粒食文化
4 日本の食文化
5 異文化接触
6 主食の文化
7 中間試験
8 副食の文化
9 調味料・油脂・香辛料
10 菓子・茶・酒
11 日本料理
12 日常の食生活
13 非常の食生活
14 外食文化
15 行事食
16 レポートまたは試験
使用教科書名
江原絢子・石川尚子編『日本の食文化 その伝承と食の教育』アイ・ケイ コーポレーション

NO. G01086031　食文化演習

熊井　保

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
この科目は主として江戸時代の食文化に関係した史料について検討を加える。江戸時代のものは活字になった利用しやすいものと本学附属図書館大江文庫所蔵の料理本（古文書）の両方を活用し講読する。これらの基礎の上に江戸時代料理の再現をする。また各人の郷土料理についてのレポートとそれらの再現料理をする。
履修条件
1）「基礎調理」を履修していること。
2）実習費用がかかるので別途徴収する。

学習目標・到達目標
世界中から注目されている日本食の原点について理解を深めることを目的とする。具体的作業として、本学附属図書館大江文庫所蔵の料理本を利用して江戸時代料理を再現する。

評価方法その他
平常点40%、レポートまたは試験60%。平常点は授業への参加状況で判断する。

週　テーマ・授業目標等
1　江戸料理の基礎
2　江戸期史料(1)『近世風俗志』五
3　江戸期史料(2)『近世風俗志』五
4　江戸料理本(1)『料理物語』
5　江戸料理本(2)再現料理本の解読
6　江戸料理の再現実習
7　江戸料理本(3)『料理物語』
8　江戸料理本(4)『料理物語』
9　江戸料理本(5)再現料理本の解読
10　江戸料理の再現実習
11　江戸料理本(6)『料理物語』
12　郷土料理の準備
13　郷土料理の再現実習
14　郷土料理報告会
15　江戸料理及び郷土料理についてのレポート
16　まとめ

使用教科書名
特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配布する。

NO. G01087031　生活史演習

熊井　保

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
本学附属図書館大江文庫は、江戸時代の食生活、女子教育、服装、住居など生活文化全般にわたる本を多数所蔵している。日本は第２次世界大戦後に欧米諸国をモデルとして戦前の伝統的な生活を捨て去ってきたが、地球環境の問題、エネルギーの問題が出てきた現代生活の中で、江戸時代の中に今後の生活に参考とすべきものが含まれているとして江戸時代の見直しがされている。この科目は江戸時代女性の生活を知るための知識習得を目的とする。「東京方角」ではくずし字入門について学び、「女実語教」では女子教育について学ぶ。江戸時代女性の百科事典である「女重宝記」は活字本を使用する。

学習目標・到達目標
江戸庶民の衣食住や女子教育について理解するためには、当時の教科書を検討することが必要である。活字のものばかりでなく、古文書で書かれたものものも少しではあるがのぞいてみたい。

評価方法その他
平常点20%、試験（中間・期末）80%。平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。

週　テーマ・授業目標等
1　江戸の生活
2　東京方角(1)社会科教材の入門
3　東京方角(2)社会科教材、変体かな
4　東京方角(3)社会科教材、変体かな
5　東京方角(4)社会科教材、漢字くずし
6　東京方角(5)社会科教材、漢字くずし
7　中間試験
8　女実語教(1)女子教育の入門
9　女実語教(2)女子教育、変体かな
10　女実語教(3)女子教育、変体かな
11　女実語教(4)女子教育、漢字くずし
12　女実語教(5)女子教育、漢字くずし
13　女重宝記(1)百科事典、活字本
14　女重宝記(2)百科事典、活字本
15　女重宝記(3)百科事典、活字本
16　期末試験

使用教科書名
特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配付する。

NO. G01088031　フードコーディネート論

竹中　真紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
食材に関する科学的知識、栄養と食品、食の安全性、調理科学などについて学んだことを基礎として、食生活におけるそれらの応用について具体的事項を中心に学ぶ。食に関する文化と歴史、テーブルウェア、メニュープランニング、食事に関するマナーとサービス、テーブルコーディネートなどについて学習する。

学習目標・到達目標
人々の食生活において、「健康を維持するための食」に並んで重要なのが「文化としての食」であることを理解できる。さらに「循環型社会」、「食育」など食をめぐる新しい課題にも関心をもつようになる。

評価方法その他
定期試験の得点(100%)

週　テーマ・授業目標等
1. フードコーディネートとは
2. 食に関する文化と歴史
3. 食卓のコーディネート
4. 日本料理、中国料理、西洋料理の食卓のコーディネート
5. 食卓のサービスとマナー
6. 日本料理、中国料理、西洋料理のサービスとマナー
7. メニュープランニング
8. 日本料理、中国料理、西洋料理のメニュープランニング
9. 食空間のコーディネート
10. フードサービスマネジメント
11. フードサービスの起業
12. 投資計画、収支計画
13. 食企画の実践コーディネート
14. 食企画の実践現場
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名
「新版フードコーディネート論　第2版」 日本フードスペシャリスト協会編、建帛社

NO. G01089031　設計製図演習A

小林　直弘

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
本授業は、住宅設計やインテリア設計を専門として学ぶための基礎となる製図方法の習得する事を目的とします。なお、本演習の履修には、指定の製図道具が必要になります。また模型製作などで材料等の実費負担が必要になります。

学習目標・到達目標
1. 建築設計を進める上で基礎的技術である製図の技法を習得する。
2. 構造別の住宅を対象として図面の表現方法を習得する。
3. 各種図面、模型などの制作を通して、建築計画のプレゼンテーション手法を習得する。

評価方法その他
講義は演習形式のため、講義中に課題を実施します。評価方法は、平常点20%、課題点80%とする。平常点は講義への取り組み、積極性を課題点は、製図技術の精度、完成度、理解度とします。

週　テーマ・授業目標等
1　4月13日　　:ガイダンスと製図基礎
2　4月20日　課題1　:線の練習／レタリング・文字の練習
3　4月27日　課題2　:製図基礎／建築図面の表示記号
4　5月11日　課題3　:木造住宅／配置図・平面図の表現方法(台東区　旧平櫛田中邸)
5　5月18日　課題3　:木造住宅／配置図・平面図の表現方法
6　5月25日　課題4　:木造住宅／断面図・立面図の表現方法
7　6月　1日　課題4　:木造住宅／断面図・立面図の表現方法
8　6月　8日　課題5　:木造住宅／展開図の表現方法
9　6月15日　課題6　:RC住宅／配置図・平面図の表現方法(大阪市　住吉の長屋)
10　6月22日　課題6　:RC住宅／配置図・平面図の表現方法
11　6月29日　課題7　:RC住宅／断面図・立面図の表現方法
12　7月　6日　課題7　:RC住宅／断面図・立面図の表現方法
13　7月13日　課題8　:RC住宅／展開図の表現方法
14　7月20日　課題9　:模型作製図面の作成
15　7月27日　課題9　:模型制作
16　8月　3日　定期試験等:課題最終提出日

使用教科書名
瀬川康秀『初学者の建築講座　建築製図』市ヶ谷出版社

NO. G01090031　設計製図演習B

小林　直弘

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本授業は、建物を立体的に把握する事を目的とします。立体表現の基礎を学び、部屋ごと寸法や納まりを確認し、パースを作成します。設計製図演習Ａ・Ｂの総括として、図面、模型、パースを作成し、総合的なプレゼンテーション手法の上達を目指します。
なお、本演習の履修は設計製図演習Ａの単位取得済であることを条件とします。また模型製作などで材料等の実費負担が必要になります。

学習目標・到達目標

1. 木造住宅の設計製図手法を習得する。
2. 立体表現図法を習得する。
3. 部屋ごとの細部の納まりや寸法を確認し建築を立体的に把握する。
4. 建築計画のプレゼンテーション手法を習得する

評価方法その他

講義は演習形式のため、講義中に課題を実施します。評価方法は、平常点20%、課題点80%とする。平常点は講義への取り組み、積極性を課題点は、製図技術の精度、完成度、理解度とします。

週　テーマ・授業目標等

1　9月21日　課題1　:パースの基礎／アクソメとアイソメ
2　9月28日　課題2　:和室(六畳)の知識とパース
3　10月　5日　課題2　:和室(六畳)のパースと着彩
4　10月12日　課題3　:居室の知識と設計
5　10月19日　課題3　:居室の知識と設計
6　10月26日　課題3　:建築細部の知識と設計
7　11月　2日　課題4　:透視図法の基礎
8　11月　9日　課題5　:居室のパースと彩色
9　11月16日　課題6　:総合表現(木造住宅の平面図トレース)
10　11月30日　課題6　:総合表現(木造住宅の平面図トレース)
11　12月　7日　休講(12月10日に振替)
11　12月10日　課題5　:現地見学(江戸東京たてもの園:前川國男邸)
12　12月14日　課題6　:総合表現(木造住宅の断面図・展開図トレース)
13　12月21日　課題6　:総合表現(木造住宅の断面図・展開図トレース)
14　1月11日　課題6　:総合表現(木造住宅の模型作製)
15　1月18日　課題6　:総合表現(木造住宅の模型作製)
16　1月25日　定期試験等:課題最終提出日及び講評会

使用教科書名

瀬川康秀.「初学者の建築講座　建築製図」.市谷出版社.2004
※適宜、参考資料プリントを配布する。

NO. G01091031　設計製図演習C

大宮司　勝弘

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

設計製図演習AおよびBで学んだ基礎知識と手法を活かし、小規模な住宅の設計２課題に取り組みます。身近な生活を想定し、図面に表現することで、ものを作り上げる喜びを感じながら、技術の上達も目指します。

第一課題「コンクリート壁式構造の小住宅」
決まったブロックの組み合わせにより、住宅を設計する手法を学ぶ。

第二課題「私の家族の家」
[illegible]

学習目標・到達目標

独立住宅の設計作図を通して、作図技術、プレゼンテーション技術、設計技術などの習得と上達を目指します。
なお、本演習の履修は設計製図演習Bの単位取得済を条件とします。また、1回の校外授業と模型製作などで交通費、材料等の実費負担が必要になります。

評価方法その他

平常点20%、課題(提出期限、ポスターセッションを含む)80%とする。

週　テーマ・授業目標等

第1週ガイダンス　第1課題　小住宅設計課題の説明
第2週第1課題、第2課題敷地見学、周辺調査事例研究
第3週エスキース
第4週平面図、断面図、立面図のエスキース
第5週平面図、立面図、断面図製図
第6週平面図、立面図、断面図製図
第7週模型製作、第1課題提出
第8週第2課題　住宅設計課題の説明、エスキース
第9週平面図、断面図、立面図のエスキース
第10週平面、立面図、断面図製図
第11週平面、立面図、断面図製図
第12週平面、立面図、断面図製図
第13週模型製作
第14週模型製作
第15週　　製図補足、プレゼンテーションまとめ
第16週ポスターセッション(作品発表会)

使用教科書名

NO. G01092031　設計製図演習D

大宮司　勝弘

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

第1課題は条件をすこし緩やかにして「環境」の中での木造建築の可能性とデザインの楽しさを、グループワーキングも加えながら考えるものとします。
第２課題は、一転、都心部の狭小な敷地でのSHOPを含んだ鉄筋コンクリート造の住宅設計を考えています。この課題では「都市」と「複合」というコンテクストを考慮しながら設計の可能性を考えることにします。

学習目標・到達目標

2つの課題の設計演習を通じて、デザインを楽しみながら、設計、作図、プレゼンテーション技術の習得、上達を目的とします。

なお、本演習の履修は設計製図演習Cの単位取得済を条件とします。また、2回の校外授業と模型製作などで交通費、材料等の実費負担が必要になります。

評価方法その他

平常点20%、課題(提出期限、ポスターセッションを含む)80%とする。

週　テーマ・授業目標等

第1週イントロダクション・第1課題の説明「木造のレストハウス」
第2週事例研究/敷地調査
第3週平面、立面、断面のエスキース
第4週模型の作製
第5週パース、プレゼンテーションの準備
第6週ポスターセッション
第7週第2課題の説明「都市に棲む/富士見のいえ(RC住宅)」
第8週事例研究/敷地調査／家具の資料
第9週平面、立面、断面のエスキース1
第10週平面、立面、断面のエスキース2
第11週模型製作
第12週パースの作成
第13週プレゼンテーションの計画
第14週プレゼンテーション準備
第15週ポスターセッション

使用教科書名

NO. G01093031　現代家政演習

現代家政学科　教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現代家政学科は、学生の興味や進むべき進路を見据えて、「食文化」　「リビング」　「ファッション」「総合家政」の各分野を横断的に学べることを特徴としている。この授業では、各分野での学びへの理解、教員や他の学生との対話、演習などを通して、現代家政分野における問題の新たな発見や興味・関心の学問的深まりを目的とする。なお、「総合家政」は、便宜上、「現代家政・生活教育、生活文化」と「生活ビジネス」、　の二つに分け、5つの分野（グループ）で行う。

学習目標・到達目標

現代家政学科の学びの特徴を理解し，4年間大学で学ぶ目標を見つける。

評価方法その他

平常点(60%)，課題＋授業評価(40%)の総合評価。
(平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等

1. 時間割を作ろう(学科の学びの特徴の説明と時間割作成)
2. 大学での学びを考えよう
3. 大学を知ろう
4. 分野別の学びの特徴の理解と課題への取り組み
5. 分野別の学びの特徴の理解と課題への取り組み
6. 分野別の学びの特徴の理解と課題への取り組み
7. 分野別の学びの特徴の理解と課題への取り組み
8. 分野別の学びの特徴の理解と課題への取り組み
9. 分野別の学びの特徴の理解と課題への取り組み
10. 分野別の学びの特徴の理解と課題への取り組み
11. 分野別の学びの特徴の理解と課題への取り組み
12. 分野別の学びの特徴の理解と課題への取り組み
13. 分野別の学びの特徴の理解と課題への取り組み
14. 問題の発見や関心の深まりを考える
15. 上記「学び」の理解をまとめる
16. 発表会(試験)

使用教科書名

プリント等を配布する。

NO. G01094031　日本語教育概論

森　朋子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

1)世界では日本語をどのぐらいの人がどのような目的で学んでいるのかを学び、日本や日本語が世界の中でどのような位置づけにあるかを学んでいく。
2)幼児の言語習得と成人の外国語習得の違いを学び、「なぜ外国語は母語のように自然に身につかないのか」という疑問を解決していく。
3)外国語教授法の種類を学び、外国語習得との関係を考えていく。
4)日本語の特徴とその指導を学び、外国語を学ぶ際に「形」を覚えるだけでは機能しないことを考察していく。

学習目標・到達目標

世界の日本語学習者の現状、幼児の母語習得と成人の外国語習得の違い、外国語教授法、日本語の特徴とその指導を学ぶことを通し、私達が普段無意識に使用している言語の役割および習得の過程についての考察を深めていく。

評価方法その他

中間試験　40%
期末試験　40%
平常点　20%
（平常点は授業に臨む態度、発言、出席率等により総合的に判断する）

週　テーマ・授業目標等

1)イントロダクション・日本語学習者の現状
2)幼児の母語習得と成人の外国語習得の違い
3)外国語教授法1
4)外国語教授法2
5)外国語教授法3
6)外国語教授法4
7)中間試験
8)日本語の音声の特徴と指導1
9)日本語の音声の特徴と指導2
10)日本語の音声の特徴と指導3
11)日本語の語彙の特徴と指導1
12)日本語の語彙の特徴と指導2
13)日本語の文法の特徴と指導1
14)日本語の文法の特徴と指導2
15)日本語の文法の特徴と指導3
16)期末試験

使用教科書名

プリントを配布する

NO. G01095031　社会調査法

小野　由美子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

社会調査のうち質的調査について学ぶ。質的調査とは数値ではない文書を中心にしたデータを取り扱う。聞き取り調査と内容分析などについて説明と演習を通して理解を深める。

学習目標・到達目標

社会調査の質的調査の目的と意義を理解し、先行調査の結果を読み取る経験を通して、質的調査の企画、実施、結果報告といった一連の知識と技術を学ぶ。

評価方法その他

(1)調査報告　40%
(2)最終試験　30%
(3)平常点　30%
（平常点は、授業への参加状況等で総合的に判断する）

週　テーマ・授業目標等

1ガイダンス　質的調査とは何か
2質的調査の概要
3問題と仮説
4対象の選択
5質的調査の方法
6聞き取り調査(1)さまざまな聞き取り調査
7聞き取り調査(2)データの収集と分析方法
8聞き取り調査(3)演習①
9聞き取り調査(4)演習②
10内容分析(1)さまざまな内容分析
11内容分析(2)データ収集と分析手法
12内容分析(3)演習①
13内容分析(4)演習②
14 調査者の責任と配慮、社会への貢献
15質的調査のまとめ
16試験

使用教科書名

谷富夫・芦田徹郎編『よくわかる質的調査 技法編』ミネルヴァ書房、2009年

NO. G01096031　食物学概論

三宅　紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

人が健康に生活するため、食生活は重要であるばかりでなく、社会的、文化的な面からも様々な機能を果たしている。中学校・高等学校の家庭科の教員として食物学分野の教育を担当するために必要な食生活に関する基本的な知識を習得し、よりよい食生活を実行できる力を養うことを目標とする。食と栄養、食品の機能、食品と調理・加工などを中心に、食文化、食と社会環境についても取り上げ、総合的に食物学について学習する。

学習目標・到達目標

人が心身ともに健康で豊かな生活をおくるために食生活の果たす役割は大きい。私たちの生活をよりよくするために学ぶ家庭科の食物分野の教育を担うことができるよう、食品学、栄養学に関する基本的な知識を習得し、よりよい食生活を営むことができる食に関する総合力を身につけることを目標とする。

評価方法その他

定期試験80%、平常点20%
（平常点は授業への参加状況、課題提出等で総合的に判断する）

週　テーマ・授業目標等

1.はじめに
2.食と健康、栄養素の種類と消化吸収
3.栄養素の機能(炭水化物)
4.栄養素の機能(脂質)
5.栄養素の機能(タンパク質)
6.栄養素の機能(ビタミン、ミネラル)
7.食品中のその他の成分の機能、食生活の設計
8.植物性食品の調理・加工(穀類)
9.植物性食品の調理・加工(いも類、豆類)
10.植物性食品の調理・加工(野菜類)
11.植物性食品の調理・加工(海藻類、果物類)
12.動物性食品の調理・加工(肉類、魚介類)
13.動物性食品の調理・加工(卵、乳類)
14.その他の食品の調理・加工(甘味料、油脂等)
15.その他の食品の調理・加工(ゲル化剤、嗜好飲料等)、まとめ
16.定期試験

使用教科書名

食物学概論 ／ 藤原葉子 編著 ／ 光生館

NO. G01097031　食と社会

竹中　真紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現代における食品の生産から消費までの流れやそれに関わる社会システムを踏まえて、私たちは氾濫する情報にまどわされずに食品（の成分）をどのようにとらえどのように食品を選択し豊かな食生活を築いていくのかを考えていく。

学習目標・到達目標

人々の食生活は長い歴史の中で変化し続け現代の食生活があること、また現代の食生活においては加工や流通の技術が発達した一方で食の安全や信頼などに関する様々な問題が発生していることも踏まえて、人々の健全なくらしにおける食のあり方を考える。

評価方法その他

平常点(30%)、試験(70%)

週　テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 食生活の変遷
3. 食品の生産から消費まで
4. 栄養素とそれ以外の食品成分
5. 豊かな食生活における食品添加物の位置付け
6. 食生活における健康志向(1)
7. 食生活における健康志向(2)
8. 食育と社会の関わり(1)
9. 食育と社会の関わり(2)
10. 食の安全(1)
11. 食の安全(2)
12. くらしの中の食情報(1)
13. くらしの中の食情報(2)
14. 食品の表示と宣伝広告
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

NO. G01098031　食生活演習

竹中　真紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

講義、決められたテーマに沿った調理の計画、調理実習を通して知識を修得するとともに実践力を養い、また発表を通して知識の定着を図る。1～6回目の授業では「食育」と「郷土料理」に焦点を当て、7～15回目の授業では調理機器メーカーとの連携により、新しい調理機器を用いたメニュー開発を実践する。

学習目標・到達目標

人々の食生活をより豊かなものにするために必要な知識を修得するとともに実践力を養い、今後の豊かな食生活に活かすことができるようになる。また、食育や企業連携を通して、食と社会との関わりについて理解する。

評価方法その他

平常点(40%)、課題(30%)、発表(30%)

週　テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 食育についての講義
3. 郷土料理をテーマとした食育(調理準備1)
4. 郷土料理をテーマとした食育(調理準備2)
5. 郷土料理をテーマとした食育(調理実習)
6. 郷土料理をテーマとした食育(発表)
7. 新しい調理機器を用いたメニュー開発(企業における企画開発についての特別講義)
8. 新しい調理機器を用いたメニュー開発(調理準備1)
9. 新しい調理機器を用いたメニュー開発(調理準備2)
10. 新しい調理機器を用いたメニュー開発(試作1)
11. 新しい調理機器を用いたメニュー開発(試作1の改善)
12. 新しい調理機器を用いたメニュー開発(試作2)
13. 新しい調理機器を用いたメニュー開発(発表準備)
14. 新しい調理機器を用いたメニュー開発(調理・発表・講評)
15. 調理機器メーカー見学

使用教科書名

NO. G01099031　インテリアデザイン演習B

大宮司　勝弘

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

授業ではまずキッチン、ダイニング空間の実例を調査・研究し、デザインの現状を調査する。また詳細図、建具図、家具図による室内空間の表現方法ならびにパース（2点透視図）の描き方、模型制作の手法などのインテリア空間のプレゼンテーションの手法を習得する。そしてこれら成果をもとに、みずからインテリアを計画し、図面および模型を作成する。

学習目標・到達目標

インテリアデザイン演習Aに引き続きインテリア設計を実践する。建具、家具などの設計手法を学び、より詳細なインテリア設計を行う。
なお、インテリアデザイン演習Aの単位取得済を履修条件とする。また模型製作などで材料等の実費負担が必要になります。

評価方法その他

平常点(30%)ならびに提出物(70%)による。

週　テーマ・授業目標等

① 09.23　第1課題『菜園と小屋のある暮らし』
② 09.30　第1課題『菜園と小屋のある暮らし』
③ 10.07　第1課題『菜園と小屋のある暮らし』
④ 10.14　第1課題『菜園と小屋のある暮らし』
⑤ 10.21　第1課題『菜園と小屋のある暮らし』
⑥ 10.28　第1課題『菜園と小屋のある暮らし』
⑦ 11.04　第1課題『菜園と小屋のある暮らし』
11.11　休講(KVA祭)
⑧ 11.18　第2課題『BIO HOTEL』
⑨ 11.25　第2課題『BIO HOTEL』
⑩ 12.02　第2課題『BIO HOTEL』
⑪ 12.09　第2課題『BIO HOTEL』
⑫ 12.16　第2課題『BIO HOTEL』
⑬ 01.06　第2課題『BIO HOTEL』
⑭ 01.13　第2課題『BIO HOTEL』
⑮ 01.20　第2課題『BIO HOTEL』
⑯ 01.27　講評会

使用教科書名

NO. G01100031　インテリアCAD演習

大宮司　勝弘

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

授業では最初に２次元（平面）ＣＡＤの基本操作の習得を行い、次にデータの扱い方の取得、画像データの取り込みなどを含めたプレゼンテーション技法、最後に３次元（立体）ＣＡＤの操作へ発展させていく。
ＣＡＤソフトウェアはＶｅｃｔｏｒＷｏｒｋｓを使用する。２次元を得意とする他の建築業務用ソフトと違い、３次元のモデリングや写真を貼りこんだレイアウトを可能とするなど、プレゼンテーション向きのソフトである。
ソフトウェアのライセンス数やパソコンの台数に限りがあるため、履修人数の制限を行う場合がある。

学習目標・到達目標

現在、建築インテリア業界ではその企画、設計の実務においてCAD(コンピュータ支援設計)が必修となっている。この授業では実社会において役立つCADの基本操作方法を身に付けることを目的とし、CADを利用した製図技術やプレゼンテーション技法を学習する。
なお、基礎的な建築製図力を必要とするため、設計製図演習AおよびBについて単位取得済であることを履修条件とする。

評価方法その他

平常点(30%)及び提出課題(70%)によって、総合的に評価する。

週　テーマ・授業目標等

1)イントロダクション・CADソフトの取り扱いかた
2)2次元(平面)CAD基本描画(1)線
3)2次元CAD基本描画(2)図形
4)2次元CAD基本描画(3)住宅の平面図
5)2次元CAD基本描画(4)住宅の断面図
6)2次元CAD基本描画(5)住宅の展開図
7)CADデータの扱い方(1)
8)画像ファイルの取り込み・レイアウト
9)3次元(立体)CAD基本描画(1)住宅の立体作成
10)3次元CAD基本描画(2)住宅の立体作成
11)3次元CAD基本描画(3)住宅の立体作成
12)3次元CAD基本描画(4)住宅のパース描画
13)CADデータの扱い方(2)
14)プレゼンテーションテクニック
15)課題提出

使用教科書名

NO. G01101031　建築調査

大橋　竜太

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

わが国ならびに諸外国の建築保存と歴史を活かしたまちづくりの歩みを概観するとともに、その過程で検討されてきた先達たちの考えを学ぶ。それと同時に、関連する現行法と諸制度について学び、それがどのように運用されているかを知る。また、実際に行われてきた建築保存の実例や歴史まちづくりの実例をさまざまな観点から検討し、より実践的な知識を身に着ける。

学習目標・到達目標

都市の歴史環境や伝統的な景観を保存・活用したまちづくりについて考える。健全な都市環境の形成にとって、その都市の景観や歩んできた歴史の尊重はきわめて重要である。わが国は、諸外国と比べ、遅れをとっていたが、昨今、これらを意識したまちづくりが各地で行われるようになった。こういったまちづくりに携わることができるように、それを実践するための制度等に関して学ぶとともに、先進的な事例を調査・検討しながら、明日のまちづくりを追求する。

評価方法その他

3回のプレゼンテーション(60%)と平常点(授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する:40%)による

週　テーマ・授業目標等

1. イントロダクション(未来の都市空間を考える／建築・都市の個性とは何か)
2. 歴史を活かしたまちづくり(諸外国の建築保存)
3. わが国のまちづくりに欠けていたもの(わが国の建築保存)
4. 建築・町並みの調べ方
5. 東京駅周辺の歴史的変遷を調べる
6. 東京駅周辺の歴史を感じる(歴史的建造物の見学1)
7. 東京駅周辺の変遷をプレゼンテーションする
8. 日本橋・銀座に残る歴史的建造物を調べる
9. 日本橋・銀座周辺の歴史遺構を見る(歴史的建造物の見学2)
10. 歴史的建造物の過去・現在・未来をプレゼンテーションする
11. 歴史的建造物を守り、活かす
12. 文化財建造物の保存の技術
13. 建築医になる
14. 身近な建築を調べる
15. 身近な建築の将来を考え、プレゼンテーションする

使用教科書名

特に定めない

NO. G01102031　衣とユニバーサルデザイン

蒲池　香津代

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
ユニバーサルデザインについての理解を深め、あらゆる人への配慮する気持ちを持つことや行動が出来るようになり、共生社会の構築に貢献できるようになること。

学習目標・到達目標
ユニバーサルデザインとは人種、性別、年齢、身体的特徴などに関わらず、あらゆる人が区別されることなく、便利でかつ快適に使えることを前提としたデザインのことである。衣服については機能性、安全性、審美性を始め、健康や表示などあらゆることに配慮することが必要である。ノーマライゼーションを目指す社会においては不可欠なことである。事例を参考にしながら理解を深め、現在あるものをどのように改良すればより良くなるかを考える。

評価方法その他
授業への取り組み20%　試験60%　レポート20%

週　テーマ・授業目標等
1.生活とデザイン(1)
2.生活とデザイン(2)
3.社会の動向とデザイン
4.生活と衣服
5.人間の特性と衣生活
6.ユニバーサルデザイン
7.カラーユニバーサルデザイン
8.ユニバーサルファッション
9.ユニバーサルファッションへの工夫
10.特別講師による事例紹介
11.疑似体験
12.生活場面での工夫
13.ユニバーサルファッションへの取り組み(1)(特別講師)
14.ユニバーサルファッションへの取り組み(2)(特別講師)
15.まとめ
16.試験

使用教科書名
使用しない。必要に応じてプリント資料を配付する。

NO. G01110031　基礎ゼミ

現代家政学科　教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
「生活の質の向上」を考えることは，現代家政学科の学びの中核をなしている。この講義では，企業活動と生活，各分野の研究と生活，社会見学，社会で活躍するOGの姿を通して，現代家政学科での学びと実社会との関わりについて実感を伴った理解を促す。そして，各自が現代家政演習で見つけた４年間の学習目標をより具体化することを目的とする。
主に教室での講義と校外施設等の見学を行う。

学習目標・到達目標
現代家政学科での学びと実社会の関わりについて理解を深めることを目標とする。

評価方法その他
平常点(60%)，課題＋授業評価(40%)の総合評価。
(平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等
1. オリエンテーション
2. 各自の4年間の目標と後期時間割の確認
3. 現代家政学科の学びと実社会との関わり1(企業やNPO団体などの講演)
4. 現代家政学科の学びと実社会との関わり2(企業やNPO団体などの講演)
5. 各分野の研究と学科での学びの関わり1(ゼミ)
6. 各分野の研究と学科での学びの関わり2(ゼミ)
7. 各分野の研究と学科での学びの関わり3(ゼミ)
8. 各分野の研究と学科での学びの関わり4(ゼミ)
9. 社会見学レポートの書き方・発表方法
10. 特別公開講座
11. 社会見学1
12. 社会見学2
13. 社会見学3
14. 社会見学4
15. 現代家政学科の学びと実社会との関わり3(社会で活躍するOGの講演)16. 社会見学発表会

使用教科書名
プリント等を配布する予定。

NO. G01110131　日本社会史

熊井　保

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
日本史の中で、江戸時代においては武士身分、農民身分、町人身分が特にいわれ、第２次世界大戦以後においてもなお学生身分、女性の身分というように身分というものが頻繁に使用されている。この身分というものの歴史的展開について、身分の発生から古代・中世・近世・近代まで具体的な史料をもとに検討する。各時代において社会的に差別されたものの存在がなんであったのか、女性の社会的地位については特に注意して言及したい。

学習目標・到達目標
身分と差別について認識すること。

評価方法その他
平常点20%、試験(中間・期末)80%。平常点は授業への参加等で総合的に判断する。

週　テーマ・授業目標等
1　古代の身分(1)身分の発生、邪馬台国、卑弥呼
2　古代の身分(2)律令制と渡来人
3　中世の身分(1)武家政権の成立
4　中世の身分(2)非農業民と交易
5　近世の身分(1)幕藩体制の成立
6　近世の身分(2)武士と武士道
7　中間試験
8　近世の身分(3)農民
9　近世の身分(4)商工民
10　近世の身分(5)賤民の成立
11　近世の身分(6)賤民の展開
12　近世の身分(7)女性
13　近世の身分(8)女大学
14　近世の身分(9)老人と障害者
15　近代の身分ー解放運動、水平社
16　期末試験

使用教科書名
特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配布する。

NO. G01110231　生活史

西海　賢二

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
生活史とは、衣食住など我々の日常生活のあらゆる局面を通時間的な観点から考えていくものである。しかし、今日この領域には社会学者、文化人類学者、民俗学者、歴史学者など多様な人々が関心をよせ、惰報論、社会論、時間論、社会福祉論、空間論、精神論など多様な展開をみせている。この講義では歴史学、民俗学をベースにしながら衣食住を題材に生活史の一端、たとえば台所道具の変遷や1950年代以降の日本の生活革命を紹介しながら講義をすすめたい。

学習目標・到達目標
日本人の生活文化について「生活史」という歴史的経線を振り返りながら日本文化の生活の深層を考えてみたい。

評価方法その他
出席および博物館展示・講座などの出席によるレポート提出。

週　テーマ・授業目標等
1. 生活史の諸相(歴史・民俗から)
2. 生活史と生活革命(1)
3. 生活史と生活革命(2)
4. 生活史と生活革命(3)
5. 生活史と衣食住(1)
6. 生活史と衣食住(2)
7. 生活史と衣食住(3)
8. 生活史と衣食住(4)
9. 生活史と衣食住(5)
10. 生活史と衣食住(6)
11. 生活史と衣食住(7)
12. 生活史と衣食住(8)
13. 生活史と衣食住(9)
14. 生活史と衣食住(10)
15. 生活史と衣食住(11)

使用教科書名
レジュメを配布する。

NO. G01110331　生活の経済学

古徳　佳枝

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

実生活において必要となる経済関連の知識として、ＦＰ（ファイナンシャル・プランナー）資格初級レベルの知識獲得を目的とする。具体的には、「Ａ．ライフプランニングと資金計画」「Ｂ．リスク管理」「Ｃ．金融資産運用」「Ｄ．タックスプランニング」「Ｅ．不動産」「Ｆ．相続・事業承継」の６分野、そのうち特に「金融」「タックス」に重点を置く。ただし、単なる知識取得を目的とするのではなく、自身の実生活に応用可能な実践的学びの場としていくため、講義には積極的に参加・発言することが望まれる。

学習目標・到達目標

私たちは日々の生活のために何らかの経済取引を行い続けている。「モノやサービスを買う・消費する」「お金を貯める、増やす」「借りる」「リスクに備える」「税を払う」などの経済取引において合理的な意思決定を行う際に、日本の法律や制度を知っているかどうかは大きな差につながる。本講義では、消費者・生活者としての視点を主軸にしつつ、それに加えて、将来金融業界に関わる職業人としても役に立つ金融経済の知識やスキルの習得を目標とする。

評価方法その他

平常点(60%)、第15回講義で実施する総合確認テスト(40%)
（平常点は授業への参加状況、授業中に課す課題の提出等により、総合的に判断する）

週　テーマ・授業目標等

1.パーソナル・ファイナンスの全体像(オリエンテーション含む)
2.ライフプランニングと資金計画
3.キャッシュフロー表の作成
4.社会保険制度と年金制度
5.タックスプランニング①(税制の全体像と所得税の基礎)
6.タックスプランニング②(所得税の計算)
7.タックスプランニング③(源泉徴収制度とその他の税)
8.リスクマネジメント(生命保険と損害保険)
9.金融資産運用①(経済・景気指標と金利)
10.金融資産運用②(各種金融商品の概要)
11.金融資産運用③(ポートフォリオ運用)
12.不動産運用設計(不動産の取引、法令上の規制、税金)
13.相続・事業承継の基礎知識(相続税)
14.相続・事業承継の基礎知識(贈与税)
15.FPとは何か、FP試験の概要、総合確認テスト

使用教科書名

「ファイナンシャル・プランニング入門-for Students-〔第3版〕」日本ファイナンシャル・プランナーズ協会編、2014年発行

NO. G01110431　情報伝達と表現

小林　直弘

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現代社会で重要な能力の一つにコミュニケーション能力がある。情報を正しく理解し、伝えることがコミュニケーションの始まりである。そこで、本授業では、「情報の収集　→　分類　→　情報の再構築　→　情報の可視化」の流れるプロセスを理解し、如何に情報の表現を行うかを講義や事例を用いて説明を行う。また、グループワークを用いて、実際に情報を収集し、分類、情報の可視化を演習形式で行い、コミュニケーションを理解することを目的とする。

学習目標・到達目標

情報とその伝達の関係を理解し、情報を収集、分類、可視化（表現）することに、より正確な情報を伝達出来ることを学習目標とする。

評価方法その他

課題50%、プレゼンテーション30%、授業の参加及び平常点20%(但し4回以上欠席すると単位は修得できません)

週　テーマ・授業目標等

1　4月13日　講義のオリエンテーション、情報伝達と表現の概要
2　4月20日　広告デザインとコミュニケーション
3　4月27日　インフォメーションデザインと実例
4　5月11日　グラフィックデザインの要素（デザイン原理）
5　5月18日　演習：個別テーマ決定、ブレインストーミング
6　5月25日　演習：情報の収集
7　6月　1日　演習：情報の分類
8　6月　8日　演習：グループ構成、テーマ決定、ブレインストーミング
9　6月15日　演習：表現の基礎1
10　6月22日　演習：表現の基礎2
11　6月29日　演習：表現の基礎3
12　7月　6日　制作：情報の可視化1
13　7月13日　制作：情報の可視化2
14　7月20日　制作：情報の可視化3
15　7月27日　制作：情報の可視化4
16　8月　3日　プレゼンテーション

使用教科書名

授業中に指定する。

NO. G01110531　家庭電気・機械・情報処理

椛田　考一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

私たちの生活は家電機器や給湯機器などのエネルギー消費をともなって成り立っている。機器の仕組みや使用方法などを知ることによって、環境負荷の小さな生活を営むことが可能になる。この授業では、家庭で使用されるエネルギー（電気・ガス・石油・再生可能エネルギー・水）および情報の供給システムを学ぶとともに、家電機器、ガス石油機器および情報機器の仕組み、望ましい使用方法、性能表示の見方を知り、その省エネルギー性能、環境負荷、経済性について適切に評価できる能力を身に付ける。

学習目標・到達目標

家庭で使用されるエネルギーの視点から、その生活実態を評価できること。

評価方法その他

平常点(30%)、課題(70%)の総合評価
（平常点は授業への参加状況等を総合的に判断する）

週　テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2.「住まう」を考える
3. 地球環境と生活環境 （生活環境学 p.194-204）
4. 水環境　（生活環境学 p.150-166）
5. 廃棄物　（生活環境学 p.176-182）
6. 生活とエネルギー （暮らしの中のエネルギー消費を知る）
7. 家庭用エネルギー消費の実態 （エネルギーの種類と用途を知る）
8. 電力 （電気とは 電気料金の仕組みを知る）
9. 石油とガス （化石エネルギーとは 料金の仕組みを知る）
10. 家電機器の省エネルギー性能 （省エネルギー性能を知る）
11. 給湯機器の仕組み （お湯の作り方・機器の使い方を知る）
12. 暖冷房機器の仕組み （暖冷房の原理・機器の使い方を知る）
13. 照明機器の仕組み （照明の原理・機器の使い方を知る）
14. 建物の環境性能 （建築物総合環境性能評価システムを知る）
15. 住宅のエネルギー管理システム （HEMSを知る）

使用教科書名

NO. G01110631　会計情報演習

古徳　佳枝

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

企業と会計を支えている制度の概要について理解するため、財務諸表の中心となる貸借対象表と損益計算書の構造・作成方法を解説します。財務諸表作成の基礎となる簿記の記帳技術（仕訳など）について具体的に実践しながら学びます。その上で、貸借対照表と損益計算書の読み方、会計数値の見方について説明し、実際の企業の財務諸表を検証することによって、会計情報の知識を実務的に応用することを目的とします。

学習目標・到達目標

本講義では財務会計の基礎理論を学ぶことを目標とします。財務会計とは、企業のさまざまな経済取引を記録・測定し、利益・その他を報告するために行われる会計のことであり、財務会計を知り、企業の財務諸表を読みとくことで、企業活動の成果を把握することができます。
会計の基礎となる複式簿記の初歩的なルールを理解し、財務諸表の構造を理解する（日商簿記3級レベル程度）ことを目標とします。

評価方法その他

平常点（30%）、授業中の小テスト4回（40%）、第15回の実習課題提出（30%）
（平常点は、各回に提出したシートへの記入状況等によって判断する）

週　テーマ・授業目標等

1.企業活動における会計の意義
2.財務諸表とは何か
3.貸借対照表の構造
4.損益計算書の構造
5.取引の仕訳
6.総勘定元帳と試算表の作成
7.精算表の作成
8.固定資産と減価償却費
9.連結財務諸表とは
10.キャッシュ・フロー計算書と株主資本等変動計算書
11.財務諸表分析①
12.財務諸表分析②
13.法人税の基礎知識
14.企業会計の実習①
15.企業会計の実習②

使用教科書名

「企業と会計」水口剛・平井裕久・後藤晃範著（税務経理協会）2011年

NO. G01110731　家庭経営学概論

井上　眞弓

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

人間が人間らしく生きる拠点が家庭であり、家庭生活を中心とした家族・コミュニティの営みが家政＝家庭経営である。現代社会における家庭経営の課題を、「家族」「消費者」をキーワードに、概説する。特に、親と子、夫と妻など家族を核とする人と人の関係や、仕事や消費といった日々の生活と生命の再生産の営みを中心に現代社会の危機的状況を生活者の視点から見直し、誰もが安心してくらせる、持続可能性のある消費者市民社会につくりかえる方法を、自分の生活設計と重ねながら考える。

学習目標・到達目標

生活者の視点から、誰もが安心してくらせる、持続可能性のある社会につくりかえる方法を考えます。前半は家族の問題について、ワークショップを中心に捉えます。後半は、消費者教育を中心にした生活課題解決の方法を社会的に考えます。これらの学びを通して、自立した経済生活を営むための基礎的な力を身につけます。

評価方法その他

平常点　　50点　（上村分:25点　井上分:25点）
レポート・試験50点　（上村分:25点　井上分:25点）

週　テーマ・授業目標等

1　くらしをつくりかえる家庭経営学
2　「住まう」という観点から家族写真を読む
3　映像にみる家族　家族構成の観点から
4　映像にみる家族　生活文化継承の観点から
5　映像にみる家族　コミュニティの観点から
6　ワークショップ　家族の風景
7　ワークショップのまとめ
8　育児をめぐる生活時間調査について
9　自立のための意思決定
10 社会人になるための経済学
11 カード社会の歩き方
12 消費者市民社会
13 リスクマネジメント
14　持続可能な消費のための教育
15　授業の振り返り
16　試験

使用教科書名

暮らしをつくりかえる　生活経営力／朝倉書店／2010
これであなたもひとり立ち/金融広報中央委員会
消費生活能力検定試験受験対策問題集2／(財)日本消費者協会　消費生活能力検定委員会／日新印刷株式会社／2006

NO. G01110831　家政学概論

植竹　桃子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

生きる力の基盤となる衣食住、地域の暮らしに必要な知識と技術を概説する。家族・消費生活、児童から高齢者までの家庭と地域の生活、衣食住の生活改善の知識と技術を理解し、生活の質を高める方法を習得する。生活者の視点で、現代社会のなかで、家政の知と技がどのように、生活における人と人の関わりあい、人と心の関わりあい、人と物との関わりあい、人と事がらの関わりあいを支えてきたのかを考える。

学習目標・到達目標

家政学の視点から生活の歴史を振り返り、現状を分析し、持続可能な社会にむけて、今後の課題をみつける力を育成する。

評価方法その他

平常点(授業への参加状況、討論への参加等):20点
定期試験:80点

週　テーマ・授業目標等

1. 家政学概論とは
2. 消費生活(1)衣生活
3. 消費生活(2)法律と契約，悪質商法
4. 消費生活(3)生活と家計管理
5. 消費生活(4)食生活
6. 消費生活(5)住生活・環境
7. 消費生活(6)まとめ
8. 住生活(1)住生活の変遷
9. 住生活(2)現代の住生活と消費者
10. 食生活(1)食生活の変遷
11. 食生活(2)現代の食生活と消費者
12. 衣生活(1)衣生活の変遷
13. 衣生活(2)現代の衣生活と消費者
14. 家庭経済(1)家庭経済の変遷
15. 家庭経済(2)現代の家庭経済と消費者
16. 試験

使用教科書名

「消費者力をつける　消費者力検定テキスト」日本消費者協会編

NO. G01110931　家族関係論

林　葉子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

家族関係はさまざまな人間関係の中でもっとも身近な人間関係であり、誰もがその経験から家族についてのイメージをいだいている。今日、家族はかつてない激しい社会変動の中でかたちも機能も多様化し、さまざまな問題をかかえている。家族関係の基礎理論や家族の心理を学び、諸問題への対応について考察する。

学習目標・到達目標

次の内容への理解を学習の目標にしてください。
1 さまざまな結婚・家族のかたちから家族とは何かを考える
2 ファミリー・アイデンティティについて
3 家族の定義の変遷について
4 基本用語の概念を理解する(世帯・家庭・居住規制・家族周期)

評価方法その他

小論文　30%(毎回、授業の時に提出)
レポート　30%(学期末に提出)
学期末テスト　40%　(学期末に実施する)
そのほか、授業への参加状況など、総合的に評価する

週　テーマ・授業目標等

1. 家族とは
2. 家族分析のてがかり
3. 青年期の異性交際
4. 配偶者選択
5. 結婚の意味と機能
6. 離婚、その後
7. ライフサイクル
8. 家族の危機
9. 家族の役割構造
10. 家族の視力構造と情緒構造
11. 子どもの養育と社会化
12. 老親の扶養
13. 家族と社会的ネットワーク
14. 家族の変動
15. まとめ

使用教科書名

森岡清美、望月嵩共著『新しい家族社会学』培風館　最新版

NO. G01111031　家庭看護

吉賀　成子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

家庭看護の対象は、人とその生活全般である。生活体としての人とかかわるためには、精神・身体・社会生活等広範囲な側面を基盤とした総合的な視点が必要である。本講義では、日常的にかかりやすい病気や生活習慣病を取り上げ、家庭看護に必要な知識や技術を学習し、実践するための基礎を学ぶ。

学習目標・到達目標

病気の予防、家庭での看護、高齢者の介護などに関する知識と技術を習得する。
家庭での看護や介護などを実践する能力と態度を習得する。

評価方法その他

平常点(30%)、レポート課題(50%)、試験(20%)による総合評価
(平常点は授業への参加状況、受講への意欲、覚論への参加等で総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等

1　オリエンテーション
2　健康とは　病気の予防と早期発見
3　家庭における看護
4　不調を訴えたときの看護　1)基本的な生活とその観察
5　不調を訴えたときの看護　2)看護の基本技術
6　家族の年代別の健康管理　1) 母子保健と看護
7　家族の年代別の健康管理　2) 小児保健と看護
8　家族の年代別の健康管理　3) 小児保健と看護
9　家族の年代別の健康管理　4)成人保健と看護
10　家族の年代別の健康管理　5)成人保健と看護
11　家族の年代別の健康管理　6)精神保健と看護
12　家族の年代別の健康管理　7)高齢者の看護(認知症)
13　家族の年代別の健康管理　8)高齢者の看護(寝たきり、終末期)
14　救急手当
15　救急蘇生法
16　まとめ・試験

使用教科書名

「暮らしの看護」 笠場一則 編著 建帛社

NO. G01111131　消費者情報論

小野　由美子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

IT化、グローバル化、少子高齢化など、著しい変化をみせる社会において、一人の消費者・生活者として、自らの生活をどう守り、いかに創造していくかについて、消費者をめぐる情報の観点から検討する。消費生活に関する情報には消費者マークに代表される表示やチラシといった広告のほか、企業や行政、消費者団体などから提供・発信される情報がある。これらの消費者情報は消費者にもたらされるだけでなく、消費者から提供・発信することも重要である。講義では具体的な消費者問題を取り上げながら、情報の収集と整理、内容の分析と評価、情報発信などの技術について、消費者の視点から学ぶ。

学習目標・到達目標

現代市場の構造問題である消費者問題のさまざまな実相を知る。消費者行政や消費者法について理解を深める。主体形成としての消費者教育の役割を認識し、意識変容や行動変容の重要性を認識できるようになる。

評価方法その他

(1)期末試験 40%
(2)視察レポートの提出 30%
(3)平常点 30%
(平常点は、授業への参加状況等で総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等

1 ガイダンス
2 消費者情報とは何か:企業、行政、消費者の立場から
3 消費者教育をめぐる動向
4 企業と消費者教育
5 企業における消費者情報:消費者信用情報と利用者
6 行政における消費者情報①:消費者教育の実践
7 行政における消費者情報②:消費生活相談情報
8 行政における消費者情報③:消費者事故情報
9 メディアリテラシーとは何か
10 生活と宣伝・広告、チラシ広告の検討
11 消費者マーク:記号・絵表示・絵文字の活用
12 消費者情報の収集と整理:新聞記事の活用方法
13 消費者情報に関わる統計の分析と評価
14 消費者情報をめぐる取組み:消費者ニーズの活用
15 まとめ

使用教科書名

国民生活センター編『くらしの豆知識(2016年版)』2015年

NO. G01111231　消費経済論

金森　敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

消費経済について、消費者の視点を中心に授業を行う。主に、①個人消費者へのマーケティング、②個人としての消費者、③社会的存在としての消費者の３点から消費経済を学ぶ。①個人消費者へのマーケティングでは企業経営、②個人としての消費者では人間の心理・認知行動、③社会的存在としての消費者では集団心理などが関係する。これら3点から消費経済をダイナミックに見ていく。なお本授業では、グループワークを中心に授業を行うので、受講者数の上限を設ける。

学習目標・到達目標

消費経済としての、消費者行動の全体像を把握することができる。
消費者としての自身の行動について、理論を用いて他者に説明することができる。

評価方法その他

期末試験(60%)
宿題3～4回(40%)

週　テーマ・授業目標等

1.イントロ
2.なぜ人の好みはこんなにも違うのか:セグメンテーション
3.どのように消費者を納得させるのか:コミュニケーション
4.売れるお店はどうやって作る:店頭マーケティング
5.人間はしょせんパブロフの犬か:学習とは何か
6.思い出は美化される:記憶
7.好き嫌いは、どのように生まれるのか:態度
8.なぜそれを買ったのか？意思決定
9. 消費で自己表現をしている:アイデンティティ
10. 家族の買い物は誰が決めているのか:家族
11. なぜ友人同士の服装は似てしまうのか:集団
12. なぜものが集団のシンボルになるのか:ステイタス
13. 日本人は全員納豆が好き:サブカルチャー
14. 聖地巡礼も消費者行動:文化
15. 全体の振り返り
16. 定期試験

使用教科書名

なし。必要な資料はプリントで配布します。

NO. G01111331　児童学概論

塚田　幸子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

子どもとは何か。私たちは子どもについてどのように考え、関わっていったらよいか。児童学における基礎的課題（子ども観、子どもの発達等）を、現実の生活と関連して捉え、子どもについての理解をすすめる。また、子どもの問題の解明への実践変革的知識が深まるようにする。

学習目標・到達目標

児童学における基礎的課題(子ども観、子どもの発達、社会的状況等)について、理解する。子ども、および、子どもをとりまく物的環境および人的環境へのかかわり方について考察する。

評価方法その他

授業内課題への取り組み状況　30%、レポート　70%

週　テーマ・授業目標等

1. 児童学とは
2. 子どもとは何か(1)子ども観の歴史的変遷
3. 子どもとは何か(2)現在の子どものおかれている状況と子どもの問題
4. 子どもと共に育つ―おとなと共に育ちあう子ども観
5. 心の発達と人間関係(1)心の発達の基盤(2)人への働きかけの転換と関係における主導性
6. 同上(3)自我の成長と自己コントロール(4)友達関係の体験(5)心の発達と人間関係
7. 子どもと保育(1)生きる力を育む保育(2)遊びの意義
8. 同上(3)保育者のかかわり方(4)保育の現在(保育所・幼稚園・認定こども園・学童保育)
9. 子どもとことば(1)「ことば」を考える意味(2)ことばとは何か
10. 同上(3)ことばの発達
11. 子どもと環境(1)幼稚園教育の基本(2)子どもにとっての環境(3)人的環境
12. 同上(4)幼児理解(5)子どもたちの人間関係
13. 子どもの問題へのアプローチ(1)子どもの権利を守る――社会全体での子育て
14. 同上(2)子育て支援と相談活動
15. かかわりを育むには――児童学の実践――
16. レポート

使用教科書名

「共に育つ―人間探究の児童学」宣協社　2010年

NO. G01111431　保育学

塚田　幸子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

実際に子どもと触れあう機会を自らつくり、乳幼児と実際に触れあう機会を持つことによって、また、参考書、資料、昔話等を手がかりに、大人とは異なる、子どもとはどういう存在か、子どもを育てるとはどういうことかを考えていく。

学習目標・到達目標

現代においては子どもと触れあう機会を持たないまま母親となる女性も増加している現状を踏まえ、実際に子どもと触れあう機会を持つこと、講義内容を理解することによって大人とは異なる子どもという存在を理解し、子どもを育てる力を養成する。

評価方法その他

平常点(40%)、定期試験(60%)
(平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等

1　資料(子どもの絵)を見て、子どもの絵を表現者である子どもの内面から読み解く。
2　子どもの絵を活動として捉え、生活と発達の観点から縦断的に見ていく。
3　『保育者の地平』より、①保育者の行為と子どもの中に育てるもの
4　同上、②子どもの世界をともに歩む
5　同上、③「いま」を充実させる
6　同上、④保育の中で発達を考える
7　同上、⑤願いや悩みを表現する遊び
8　同上、⑥保育の知と身体の知
9　同上、⑦深層の視野・歴史の視野・保育実践者の視野・障碍の視野
10　『昔話の魔力』より、Ⅰ 昔話の伝える本質的メッセージについて
11　同上、Ⅱ 成長発達段階ごとの危機と獲得すべき価値について①幼児期の課題を「エンゼルとグレーテル」より
12　同上、Ⅱ②児童期・青年期の課題を「しらゆきひめ」より
13　同上、Ⅱ③同上の課題を「シンデレラ(灰かぶり)より」
14　同上、Ⅱ④青年期の課題を「眠れる森の美女(いばら姫)」より
15　同上、Ⅱ⑤壮年期の課題を「キューピッドとプシケ」より
①～⑤を通して女性の成熟と成長の姿を示す。
16　テストとしてのレポート

使用教科書名

NO. G01111531　衣生活概論

植竹　桃子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
前半では、衣服の着用目的、着用基体となる人体の計測方法、衣服の形態や表現、社会との関連などを学ぶ。後半では、衣服を構成する繊維・糸・布地について、また衣服を選択・購入・管理・保管するプロセスにしたがって基本的知識を習得し、更なる学びや各種試験につなげる。

学習目標・到達目標
人間に最も近い環境を形成する「衣服」について、全般にわたる基本的事項を理解する。

評価方法その他
平常点（授業への参加状況、教材観察等）:20%
担当者別の筆記試験:80%

週　テーマ・授業目標等
1. 衣服と私たちの生活
2. 人体計測方法と部位
3. 衣服の分類
4. 衣服の基本形態と表現(1)
5. 衣服の基本形態と表現(2)
6. 衣服と社会
7. 前半のまとめ
8. 衣服の材料(1)繊維・糸の種類・特徴
9. 衣服の材料(2)布地の種類・特徴
10. 衣服の管理(1)衣服の洗濯
11. 衣服の管理(2)衣服の保管
12. 既製衣料品の取扱い表示
13. 既製衣料品のサイズ表示
14. 現代生活における衣生活経営
15. 後半のまとめ
16. 定期試験

使用教科書名
特に指定しない（プリントの配布等）

NO. G01111631　ファッション造形実習A

山村　明子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
衣服によるファッション表現の基礎となる衣服の基本的な構造及び構成方法を学ぶ。人体の形状や動作性に適合する衣服の形態、ミシン縫製の基礎的な技術、及び被服材料の造形上の特性を修得する。中学・高校の家庭科教育の被服領域に対応。実習課題として、手縫いの基礎縫い（サンプルつくり）、ミシン縫製の基礎、手縫い作業の基礎、家庭科教材研究　（ハーフパンツの製作）およびステップアップ課題（チュニック丈ワンピースの製作）を取り上げる。

学習目標・到達目標
衣服製作の手縫い、ミシン縫製の基本的な技術を習得する。体型と衣服の形態の関連について、製図として理解する。

評価方法その他
平常点:授業への参加態度(20%)作品・課題(80%)

週　テーマ・授業目標等
第1週:ガイダンス、洋裁道具の説明、人体計測、ハーフパンツの作図
第2週:ハーフパンツの裁断、材料特性
第3週:ミシン縫製の基礎
第4週:ハーフパンツの縫製
第5週:ハーフパンツの縫製、仕上げ
第6週:ワンピースのデザインと製図
第7週:ワンピースのデザインと製図
第8週:ワンピースの裁断
第9週:ワンピースの縫製　仮縫い
第10週:ワンピースの試着点検　手縫いの基本縫い
第11週:ワンピースの縫製　ダーツとギャザー
第12週:ワンピースの縫製　ファスナーをつける
第13週:ワンピースの縫製
第14週:ワンピースの縫製　仕上げ
第15週:ワンピースの提出　製作に関する課題提出

使用教科書名
プリントを配布

NO. G01111731　食品学概論

竹中　真紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
食生活の基礎となる食品は多種多様であるが、食品の基本的な性質を決定する基本的な成分は水、炭水化物、たんぱく質、脂質などに限られており、またそれらは調理・加工・保存中に変化する。一方で、食品の嗜好性に深く関わる微量成分（呈味成分、香気成分、色素など）の存在も重要である。これら食品中に含まれる成分の性質とその機能（栄養性、嗜好性、生理機能）について学習する。

学習目標・到達目標
食品に含まれる成分と、それらの調理・加工・貯蔵中の変化、さらに食品成分とおいしさや機能性との関連について学習し、健康な食生活のための基本となる食品材料の特性について理解する。

評価方法その他
定期試験の得点(100%)

週　テーマ・授業目標等
1. 人と食べ物
2. 食品成分を理解する－有機化学の基礎－
3. 食品の成分(水)
4. 食品の成分(炭水化物)
5. 食品の成分(脂質)
6. 食品の成分(タンパク質)
7. 食品の成分(ビタミン)
8. 食品の成分(無機質、核酸)
9. 味の成分
10. 香りの成分
11. 色の成分
12. 成分間の相互作用
13. 食品の物性とおいしさ
14. 食品成分表
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名
食べ物と健康I（はじめて学ぶ健康・栄養系教科書シリーズ③）喜多野宣子、近藤民恵、水野裕士　著　化学同人

NO. G01111831　フードスペシャリスト論

竹中　真紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
食について総合的に幅広く学習し、フードスペシャリストの必要性について理解する。さらに食生活の変遷、食品の流通と消費、食に関する法律、食産業の現状や食に関する課題などについても学ぶ。

学習目標・到達目標
フードスペシャリストの役割について理解し、食物獲得の歴史、食生活の変遷、食品の製造や流通、表示制度、また現代における食に関する諸問題について学び問題意識をもつ。

評価方法その他
定期試験の得点(100%)

週　テーマ・授業目標等
1.フードスペシャリストとは
2.人類の歩みと食物
3.食品加工・保存技術史
4.世界の食
5.日本の食
6.現代日本の食生活
7.食料の供給と食料自給率
8.食品製造業
9.食品流通業
10.外食産業
11.食品の品質規格と表示
12.JAS法と食品表示法による表示
13.健康や栄養に関する表示制度
14.食情報と消費者保護
15.まとめ
16.定期試験

使用教科書名
四訂　フードスペシャリスト論（第3版）　日本フードスペシャリスト協会編　建帛社

NO. G01111931　栄養学概論

竹中　真紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食生活が多様化するなかで、健康な生活をおくるためには正しい栄養知識に基づいた食生活が求められる。摂取した食物に含まれる成分、特に栄養素がどのような特性を持ち私たちのからだにとってどのような役割をもつかについて学ぶ。また、それらがどのように消化・吸収されて体内に入っていき、代謝されてそれぞれの機能を果たすようになるのかについて学習し、栄養と食生活について考える。

学習目標・到達目標

栄養とは何か、健康な食生活における栄養の役割の理解を目的とする。栄養学の基礎となる、栄養学のあゆみ、栄養素の種類、性質、機能、消化・吸収、代謝等について理解する。

評価方法その他

定期試験の得点(100%)

週　テーマ・授業目標等

1. 栄養とは
2. 栄養学のあゆみ
3. 栄養素とそのはたらき(エネルギーになる栄養素)
4. 栄養素とそのはたらき(からだをつくる栄養素)
5. 栄養素とそのはたらき(からだのはたらきを調節する栄養素(1))
6. 栄養素とそのはたらき(からだのはたらきを調節する栄養素(2))
7. からだと水
8. 食物繊維のはたらき
9. 消化と吸収(消化の流れとパターン)
10. 消化と吸収(吸収のしくみ)
11. 消化と吸収(栄養素の体内輸送)
12. 消化と吸収(消化吸収率)
13. エネルギー代謝(栄養素とエネルギー)
14. エネルギー代謝(エネルギー消費と基礎代謝)
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

基礎栄養学　第2版　(はじめて学ぶ健康・栄養系教科書シリーズ⑤)　杉山英子、小長谷紀子、里井恵子　著　化学同人

NO. G01112031　食品学

三宅　紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

私たちの健康は適切な食物の摂取と規則正しい食生活によって維持される。現在、食品の生産・加工などの技術革新や流通手段の発達により多種多様な食品を入手しているが、個々の食品の特性を知り、適切に組み合わせて利用することが重要である。代表的な食品の性質、成分の特徴と調理・加工・貯蔵などにおける変化、機能、利用などについて学ぶ。

学習目標・到達目標

食品素材の特性、成分の特徴と調理・加工・貯蔵などにおける変化、機能、その利用法について理解する。

評価方法その他

定期試験80%、平常点20%
(平常点は授業への参加状況、課題提出等で総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等

1.はじめに、穀類(粉食と粒食)
2.穀類(米)の特徴
3.穀類(小麦、雑穀類)の特徴
4.いも類の特徴
5.豆類・種実類の特徴
6.野菜類の特徴.
7.果実類の特徴
8.きのこ類、藻類の特徴
9.食肉類の特徴
10.魚介類の特徴
11.特別講義「私たちの生活の中での酵素について」
12.乳・乳製品、卵類の特徴
13.油脂類
14.甘味料、嗜好飲料の特徴
15.発酵食品・調味料の特徴、まとめ
16.定期試験

使用教科書名

食べ物と健康　マスター食品学Ⅱ　小関正道　編著　建帛社

NO. G01112131　調理学

三宅　紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

調理とは食材を衛生的、栄養的に安心で、なおかつ嗜好的に優れた食べ物として供するまでの一連の過程である。その過程で起こる諸現象について、食品材料の種類と調理特性、食品成分と調理変化、食味・食感への影響について調理操作や調理器具との関連から科学的な法則性について学習する。また、人間と食べ物、環境との関係を理解し、調理の技術やおいしさの向上、豊かな食生活の実践に繋がる理論を系統的に学習する。

学習目標・到達目標

調理とは何かを学び、食品材料の種類と調理特性、調理過程での食品成分の変化、調理操法の特徴、嗜好性への影響などについて科学的、系統的に理解する。食べ物と人間や社会、環境との関連を理解し、豊かな食生活に繋げる能力を身につける。

評価方法その他

定期試験80%、平常点20%
(平常点は授業への参加状況、課題提出等で総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等

1.調理の目的
2.おいしさの科学
3.調理操作と調理器具(1)非加熱調理操作
4.調理操作と調理器具(2)加熱調理操作その1
5.調理操作と調理器具(3)加熱調理操作その2
6.特別講義「うま味が私たちの食生活に果たす役割」
7.植物性食品の調理性(1)穀類(米)
8.植物性食品の調理性(2)穀類(小麦、その他)
9.植物性食品の調理性(3)いも類、豆類
10.植物性食品の調理性(4)野菜類、果実類
11.動物性食品の調理性(1)肉類
12.動物性食品の調理性(2)魚介類
13.動物性食品の調理性(3)卵類、乳類
14.抽出食品素材、調味料と調理(でんぷん、油脂類、砂糖など)
15.食事設計－献立と供食－、まとめ
16.定期試験

使用教科書名

「調理学－生活の基盤を考える」　南道子　舟木淳子　編著　学文社

NO. G01112231　栄養学

竹中　真紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

私たちが健康に生活していくためには適正な栄養の食生活、適度な運動、休養の3要素の関わりが重要である。実際の食生活において、何を、どれだけ、どのように食べればよいのかについてライフステージと栄養も含めて学習する。さらに、生活習慣病、食物アレルギー、ダイエット志向など食生活が関わる様々な問題について考えていく。

学習目標・到達目標

私たちが健康に生活していくために、各栄養素をどれだけ、どのように摂取したらよいのかをライフステージ別の特徴も含めて理解し、実際の食生活に活用できるようになることを目標とする。

評価方法その他

定期試験(100%)

週　テーマ・授業目標等

1. 健康と栄養
2. からだの仕組み
3. 食事と栄養(1)糖質、脂質
4. 食事と栄養(2)たんぱく質、ビタミン
5. 食事と栄養(3)無機質、水分
6. 食事と健康(1)栄養状態の判定
7. 食事と健康(2)日本人の食事摂取基準
8. わが国の食生活の変化と健康状況
9. 健康増進のための指針
10. 健康とダイエット
11. ライフステージと栄養(1)胎児期および妊娠・授乳期、成長期
12. ライフステージと栄養(2)成人期、高齢期
13. 生活習慣病と栄養
14. 免疫と栄養
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

三訂　栄養と健康　日本フードスペシャリスト協会編　建帛社

NO. G01112331　食生活論

熊井　保

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

近年、日本が輸入している食品の安全性の問題、インスタント食品の登場、外食産業の発達、食生活と健康、食料自給率、地場産業における食材の供給など食にかかわる問題はテレビ・新聞・雑誌などで頻繁にとりあげられ、関心がもたれている。現代における食生活は第２次大戦後に欧米諸国の食生活をモデルとしたが、近年、伝統的な和食文化は健康食として世界において注目され、日本各地の郷土食にも関心が注がれている。安全で健康な食生活をするために、本講義は前近代の食生活がどのように展開してきたのかを踏まえ、近現代における食生活の諸問題を検討する。

学習目標・到達目標

1、前近代の食生活の変遷を理解する。
2、現在の食生活が海外に依存していることを理解する。
3、伝統食の見直しを理解する。

評価方法その他

平常点20%、中間試験・レポート80%。平常点は授業への参加などで総合的に判断する。

週　テーマ・授業目標等

1 原始・古代の食生活
2 中世の食生活(1)―武士と禅宗
3 中世の食生活(2)―茶の湯と南蛮文化―
4 近世の食生活(1)―武士の食事―
5 近世の食生活(2)―町人の食事―
6 近世の食生活(3)―農民の食事―
7 中間試験
8 近代の食生活―文明開化と西洋料理―
9 現代の食生活の問題ー現代食生活事情から考えるー
10 食生活の画期1975年頃の食事情と日本型食生活の提唱
11 食料生産・加工技術と流通の革新
12 外食と中食による食生活の変化
13 海外依存の食生活ー食料の輸入と自給率の変化―
14 世界の食糧事情と環境の変化
15 これからの食生活ー伝統食の見直しの動きー
16 レポートまたは試験

使用教科書名

特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配布する。

NO. G01112431　調理学実習

三宅　紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

日本料理・西洋料理・中国料理の調理実習を通じて基礎的な調理技術を習得し、調理過程を系統的に把握する。合わせて、食材の性質、食品の衛生的な取り扱い方、栄養効率の向上や嗜好性の優れた調理法、食卓の演出、食事作法など調理に関する基礎的な総合能力を養う。

学習目標・到達目標

健康な食生活のために必要な基礎的な調理技術を習得し、調理過程における食品成分の変化、調理操作の意義を科学的に理解する。食材の性質を最大限活かした調理法、食品の衛生的な取り扱い方などを学習する。さらに私たちの食生活を豊かにする食卓の演出、食事作法など食文化を含めた調理に関する総合能力を身につける。

評価方法その他

平常点40%、実習ノート・課題提出15%、実習テスト10%、ペーパーテスト35%
（平常点は授業への参加状況・実習への取り組み等で総合的に判断する）

週　テーマ・授業目標等

1.オリエンテーション、切り方、計量について
2.日本料理の基礎　炊飯の基本、煮干しだしのとり方、青菜の茹で方、あえ物のポイント
3.日本料理の基礎　塩味ご飯、混合だし汁のとり方、肉の調理、野菜の脱水
4.日本料理の基礎　しょうゆ味ご飯、吸い物、卵の調理(1)、乾物の調理
5.西洋料理の基礎　ピラフ、野菜の吸水、ゼラチンの調理(1)
6.西洋料理の基礎　ひき肉の調理、野菜の加熱調理、デンプンの調理性
7.中国料理の基礎　炒め物、あえ物、寒天の調理
8.中国料理の基礎　小麦粉の調理(グルテン)、野菜の調理、スープ
9.中国料理の基礎　もち米の調理、卵の調理(2)、小麦粉の調理(膨化)
10.日本料理の基礎　魚の扱い、具たくさんの汁物、希釈卵の蒸し物
11.行事食　クリスマス料理
12.行事食　正月料理
13.西洋料理の基礎　イースト発酵、スープ、ゼラチンの調理(2)
14.行事食　ひなまつりの献立(すし飯、潮汁、和菓子)
15.まとめ、実習テスト
16.定期試験

使用教科書名

特に指定しない。プリント配布

NO. G01112531　健康・食発達心理学

外山　紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食と健康は身体の問題と考えられがちだが，心が深く関与している。本講義では，食と健康のの心理的側面の発達を新生児期から順に解説していく。心と身体が切っても切り離せない関係にあること，他者とのつながりの中で食をみていくことの重要性を理解してもらうことが，本講義の目的である。

学習目標・到達目標

発達のプロセス，発達の各時期における食や健康行動の特徴を理解する。
食や健康の問題を，発達心理学の知識に基づいてとらえられるようになる。

評価方法その他

平常点50%，到達度の確認50%。

週　テーマ・授業目標等

1ガイダンス
2味覚の発達・好き嫌いの形成
3食べ物の分配と共食
4哺乳と離乳
5食と身体・生活
6動物飼育を通した学び
7作物栽培を通した学び
8食の社会性
9食に関する理解
10健康と病気に関する理解
11食・健康と自己・仲間関係
12青年期の食
13食・健康と階層
14食と世代
15到達度の確認

使用教科書名

外山紀子・野村明洋(2012). 食をつなげる・食でつながる. 新曜社

NO. G01112631　フードサービスビジネス論

吉野　知子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

給食も含めた中食・外食の運営管理はフードサービスビジネスの１つである。国内外の中食・外食の動向や食のトレンドを学ぶ。また、食マーケットや市場が求めるメニューについての最新情報から商品開発の動向を知る。さらに、商品に付加価値をつけるサービスとホスピタリティーを理解して、総合的にフードサービスを考える。

学習目標・到達目標

国内外の食総事情を含め中食・外食の動向とサービスの実態を理解する。食のトレンド、商品の付加価値、ホスピタリティーについて理解し、推奨する店舗や同業種の比較に関するプレゼンテーションや新商品の提案ができる。

評価方法その他

平常点(50%)、プレゼンテーション(50%)
（平常点は授業への参加状況、討論への参加、レポートの提出等で総合的に判断する）

週　テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. フードサービスビジネスの概念
3. サービスとホスピタリティー
4. 食生活の領域と現状:内食・中食・外食
5. データから読むフードサービスビジネス①海外の食総事情
6. データから読むフードサービスビジネス②国内の食総事情
7. 商品・メニューのマーケティング
8. 中食・外食産業最前線
9. 食の最新トレンド情報・ヒット分析
10. 市場調査法
11. 情報収集法
12. プレゼンテーション①店舗紹介
13. プレゼンテーション②新商品企画
14. プレゼンテーション③企業比較紹介
15. まとめ

使用教科書名

プリント配布

NO. G01112731　食料経済

二瓶　徹

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本講義では、食品等が消費されるまでの流れを分断して考えるのではなく、それぞれのつながりを理解することを目的としています。
その結果、フードシステムの各段階の機能と課題を把握することができ、将来、食産業で活躍する学生が、時代とともにどのような「フードシステム」が望ましいかを考え、実践できるスキルを身に付けることができるよう、カリキュラムを組んでいます。受講生は「フードシステム」等への理解を習得したい初心者を対象とし、それらがより理解を深められるよう、身近なテーマを題材にしながら、講義を進めていきます。

学習目標・到達目標

「フードシステム」とは、食に関する生産から消費までの一連の流れのことを指しており、その流れを体系的なものとして捉える考え方です。
本講義では、前半に「フードシステム」の概念を理論と身近な食品を例に考え、理解し、後半は「フードシステム」が時代とともにどのように変遷してきたかを考え、今後の「フードシステム」の望ましいあり方について、自分自身の考えを持てるようになることを目的とします。

評価方法その他

毎回、講義終了時に提出していただくリアクションペーパー内容と期末試験によって評価します。

週　テーマ・授業目標等

1. イントロダクション：「フードシステム」とは？
2. 食生活の変化とその社会的背景①
3. 食生活の変化とその社会的背景②
4. 食品の流通とその変遷①
5. 食品の流通とその変遷②
6. 食品小売業の変遷と今①
7. 食品小売業の変遷と今②
8. 外食・中食産業の起源と今
9. 食品流通の仕組み：生鮮食品と加工食品の生産と流通
10. 食の安心・安全と流通①：顔が見える流通とは
11. 食の安心・安全と流通②：異業種による農業・食品産業
12. フードシステムのグローバル化：自分たちの食べ物は、どこから来たのか？
13. フードシステムと環境問題：フードシステムから環境問題を考える
14. 正しい食品の選択：消費者が正しい食意識・食行動をするためには
15. まとめ

＊開講日及び講義内容は、初回のガイダンスの際にアナウンスします

使用教科書名

日本フードスペシャリスト協会 編(2016)『新版 食品の消費と流通』建帛社.

NO. G01112831　食卓と工芸

澤田　雅彦

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食事に用いられる生活用具について、その材料、作り方、デザインの方法、そして使い方について解説する。食事では日常的にさまざまな工芸品・工業製品が使われているが、陶磁器と漆器を中心にとりあげ、食生活と食器、そしてものづくりの技術やデザインとの関係を考えるきっかけとしたい。またそういった考察を通して、日常生活のなかで使われるありふれた道具に対する関心を深め、暮らしを楽しむ道具の使い方についても考える。

学習目標・到達目標

日本の陶磁器と漆器の原材料と制作方法について理解し、器の性質に応じた使い分けができるようになることを目標とする。

評価方法その他

試験80%・平常点20%（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。）

週　テーマ・授業目標等

1.食生活と工芸のかかわり
2.材料の性能について
3.食器の材料①陶磁器とガラス
4.食器の材料②金属
5.食器の材料③木とプラスチック
6.陶磁器の作り方①粘土の調整と土練り
7.陶磁器の作り方②成形
8.陶磁器の作り方③成形の仕上げと施釉
9.陶磁器の作り方④本焼きと窯
10.陶磁器の作り方⑤絵付け
11.陶磁器の選び方と使い方
12.漆器について①漆の性質
13.漆器について②漆器の素地材料
14.漆器について③漆の椀の作り方（下地と塗り）
15.漆器について④選び方と使い方
16.試験またはまとめ

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G01112931　製品・食品鑑別演習

三宅　紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食品の品質には、安全性、栄養性、生理機能性、嗜好性、経済性などさまざまな要素が関わる。豊かな食生活を営むためには、食品の特性を理解し、品質を見分ける能力を身につけることは重要である。個々の食品の鑑別方法について、演習をとりいれながら学ぶ。また、特に嗜好性は人間の五感によって評価されるが、この人の感覚による食品の評価について個人差を十分に考慮したうえで科学的に行う方法について演習を通して学習する。

学習目標・到達目標

食品の品質を評価する方法として、官能評価法、化学的評価法、物理的評価法について学習し、特に、味覚、嗅覚、視覚、触覚、聴覚という人間の五感を活用して判断する官能評価法を中心に演習し、食品鑑別の基礎を理解する。

評価方法その他

平常点30%、課題提出40%、定期試験30%、
（平常点は演習への取り組みおよび発表等の評価を含む）

週　テーマ・授業目標等

1.はじめに　食品の品質とは
2.官能評価の概要、味覚と閾値
3.官能評価の手法（比較法1）
4.官能評価の手法（比較法2）
5.官能評価演習および発表（第1回）
6.官能評価の手法（順位法）
7.官能評価の手法（評点法その1）
8.官能評価の手法（評点法その2）
9.官能評価演習および発表（第2回）
10.食品の化学的評価法・物理的評価法
11.食品の鑑別評価（植物性食品1）
12.食品の鑑別評価（植物性食品2）
13.食品の鑑別評価（動物性食品1）
14.食品の鑑別評価（動物性食品2）
15.まとめ
16.定期試験

使用教科書名

三訂 食品の官能評価・鑑別演習／日本フードスペシャリスト協会 編／建帛社

NO. G01113031　住居学概論

小池　孝子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

住居全般についての基礎的知識を習得する。個人・家族の生活の拠点である住居について、様々な角度から検討を行う。

学習目標・到達目標

住居は個人や家族の生活の拠点であり、人間生活の最も基本的な場である。人間にとって住まいとは何かを考え、人間らしい生活を送るための空間としての住居のあり方について理解する。

評価方法その他

小課題20%、レポート40%、テスト40%により総合的に評価する。

週　テーマ・授業目標等

1） ガイダンス・住居の機能
2） 寸法と空間
3） 日本の住まいの変遷（1）
4） 日本の住まいの変遷（2）・生活様式と住居
5） 現代の家族と住まい
6） 日本の住宅政策
7） 住居の選択と管理
8） 住まいと環境
9） 安心・安全な住まい
10） 高齢者・障害者の住まい
11） 福祉と住まい
12） 子どもと住まい
13） 集まって住む
14） 空き家問題
15） まちづくりと住民参加
16） 定期試験

使用教科書名

特にテキストは指定しない。

NO. G01113131　建築史A

大橋　竜太

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

授業は、主としてパワーポイントを用いながらすすめる。おのおのの時代の建築を、タイプごとに分け、それらを代表する具体的な実例をいくつか取り上げ、それぞれの建築の特徴を解説していく。用いる資料は、写真ばかりでなく、しばしば建築図面を用い、建築のもつ機能性や、設計者の意図を探る。また、構造上の特質や、建築形態のもつ意味等を、作り手・使い手の立場や、そのバックグラウンドとなる社会背景等を鑑みながら検討し、建築や生活空間に対する理解を深めていく。

学習目標・到達目標

日本建築史の通史を学ぶ。竪穴住居や高床住居などの原始的な建築から最新の現代建築に至るまで、また、住宅、社寺、公共建築など、さまざまなタイプの伝統的な日本建築に関して、実例を詳細に検討しながら、その建築的・社会的意義に関して概観する。それにより、木構造など日本建築に特有な技術的な発展過程を学ぶと同時に、わが国の建築文化・生活様式の変化を学び、建築を通して伝統文化に対する理解を深めることを目指す。

評価方法その他

学期末試験（80%）および平常点（提出物等：20%）による

週　テーマ・授業目標等

1. イントロダクション
2. 先史時代の建築
3. 神社建築の成立
4. 仏教建築の伝来
5. 古代の都市計画と寝殿造り
6. 中世の仏教建築
7. 中世の神社建築
8. 書院造り
9. 城郭建築
10. 茶室と数寄屋
11. 近世社寺建築
12. 民家建築
13. 西洋建築の移入
14. 近代住宅建築
15. 現代建築
16. 学期末試験

使用教科書名

「建築史」編纂委員会編著、『コンパクト版　建築史【日本・西洋】』、彰国社

NO. G01113231　建築史B

大橋　竜太

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

授業は、主としてパワーポイントを用いながらすすめる。おのおのの時代の建築を、代表的な実例をとりあげながら、建築的特徴を解説していく。その際、写真資料、図面、模型等を用い、空間の理解を中心に、作り手・使い手の考え方、また、その空間が必要とされた社会背景等に関して、考察を加えていく。

学習目標・到達目標

西洋建築史の通史を学ぶ。ヨーロッパ大陸を中心に展開してきた西洋建築は、現代建築の根幹をなしており、その歴史の習得は、現代建築までつながる世界の建築文化の理解につながる。そこで、各国を代表する著名な西洋建築をひとつずつ詳細に検討することによって、世界の建築文化の系譜を学ぶと同時に、個々の建築とその建設の背景を探り、建築文化の理解をはかる。これらを通して、国際的文化人としての素養を身につけることを目指す。

評価方法その他

学期末試験（80%）および平常点（提出物等：20%）による

週　テーマ・授業目標等

1. イントロダクション
2. 古代オリエント・エジプト建築
3. ギリシア建築
4. ローマ建築
5. 初期キリスト教建築・ビザンティン建築・イスラム建築
6. ロマネスク建築
7. ゴシック建築
8. 中世の世俗建築
9. ルネサンス建築
10. バロック建築
11. リヴァイヴァル建築
12. 新材料を用いた建築
13. 都市・住宅問題と建築
14. 近代建築運動
15. モダニズム建築
16. 学期末試験

使用教科書名

「建築史」編纂委員会編著、『コンパクト版　建築史【日本・西洋】』、彰国社

NO. G01113331　住生活論

大橋　竜太

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

住生活の歴史をふまえ、家族と住まいのかかわりや住生活をとりまく諸問題について検討する。また、良好な住空間を計画するために、理想とされる住空間の構成のタイプ、設備、関連法規など、建築計画の基本的な事項を一通り概観するとともに、設計・製図の基本を学ぶ。そのため、実際に住空間の設計を試み、快適で安全な住生活のあり方を実践的に考察する。これらの学習を通し、教職課程に必要な住生活分野の知識と技術の習得を目的とする

学習目標・到達目標

住まいの伝統ならびに現代の問題点を把握し、よりよい住空間とは何かを考察する。同時に、空間の表現方法（製図）の基礎を習得する。

評価方法その他

課題(50%)、学期末試験(50%)により、総合的に評価する。

週　テーマ・授業目標等

01.イントロダクション
02.さまざまな住まい
03.住まいの発展
04.住まいの歴史
05.住まいの近代化とnLDK住宅
06.住宅地と集合住宅
07.住まいの管理
08.住まいの建築計画
09.中間試験
10.図面の表現方法
11.自分の部屋を図面で表現する
12.住空間の計画－平面図を描く①
13.住空間の計画－平面図を描く②
14.住空間の計画－展開図を描く①
15.住空間の計画－展開図を描く②
16.課題の提出

使用教科書名

特に定めない

NO. G01113431　住居設備

椛田　考一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

私たちが生活する住まいは様々な設備システムを維持管理することによって成り立っている。その設備システムには、快適性、利便性、機能性、安全性、信頼性、経済性、省エネ・省資源、環境保全性、保守管理性が求められており、住居を供給する立場からも、生活者としても、それらを適切に評価できる能力を身につける必要がある。受講者が住居において使用する、給排水衛生設備、暖冷房設備、換気設備、電気・情報設備、防災設備について講義を行う。

学習目標・到達目標

[建築士指定科目]住まいの設備システムについて、その名称、働きを説明できること。

評価方法その他

定期試験(70%)、レポート及び授業中の課題(30%)による総合評価

週　テーマ・授業目標等

1. 1. ガイダンス
2. 2. 設備システムから見た戸建住宅と集合住宅の違い
3. 3. (1) 建築と水環境
4. (2) 水に関する基礎知識
5. (3) 給水設備
6. (4) 給湯設備
7. (5) 排水通気設備
8. (6) 衛生器具
9. (7) 浄化槽
10. (8) ガス設備
11. 4. 住宅の照明設備
12. 5. 住宅の電気設備
13. 6. 住宅の暖冷房設備
14. 7. 住宅の換気設備
15. 8. 住居内の設備と事故
16. 試験

使用教科書名

「建築の設備」入門　新訂版／同編集委員会編／彰国社／2009年

NO. G01113531　構造力学A

白井　篤

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

構造力学の入門編として、建築（住居）における力学への興味を喚起し、新しい空間構成を想像する能力の育成を目的としている。そのために、各種建築物のかたちと強さの関係について、平易に解説すると共に、実際にそれら建築物の構造模型を制作し、簡単な実験（一点で支える力の実験、両端で支える力の実験、梁の変形など）と計算を行うことによって、力学を含む数学的な知識の向上を図る。また、構造形式の異なる建築物（ラーメン構造、トラス構造、アーチ構造、膜構造、折板構造など）についても紹介する。

学習目標・到達目標

構造物に作用する荷重とそれによって生ずる支持反力及び部材応力を理解し、説明できる。また、これらの力の釣合い条件をもとに、柱、梁、トラスに生ずる応力を計算できる。

評価方法その他

平常点(60%)、宿題(20%)、定期試験の得点(20%)により、総合的に評価する。なお、平常点は、授業の最後に行う小テストの点数によって判断する。

週　テーマ・授業目標等

1.ガイダンス
2.力とかたち①　1点で支える力の実験と計算
3.力とかたち②　実験結果の解説
4.力とかたち③　図心の求め方(制作)
5.力とかたち④　図心の求め方(計算)
6.かたちと変形　片持ち梁
7.力の合成と分解①(図式解法)
8.力の合成と分解②(図式解法－計算)
9.力の合成と分解③(支持反力の算出)
10.力の合成と分解④(支持反力の算出)　宿題①
11.力の合成と分解⑤(支持反力の算出)　宿題②
12.トラス①(部材応力の算出－節点法)　宿題③
13.トラス②(部材応力の算出－節点法)　宿題④
14.トラス③(部材応力の算出－切断法)　宿題⑤
15.トラス④(部材応力の算出－切断法)
16.定期試験

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G01113631　構造計画A

永井　佑季

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

授業は、建築における構造デザインについて学ぶ内容とします。
構造に関する歴史的変遷を通して構造デザインの基礎知識を学び、現代建築における構造デザインの実例を通して、鉄骨構造、木質構造、鉄筋コンクリート構造等の概略の知識を習得します。その他、スタジアムのような大空間やシェル構造等の空間構造、さらに、ガラスやアルミ等の建築に使われる材料にも着目して、幅広く構造について学んでいきます。

学習目標・到達目標

建築における、意匠設計と構造設計の関係性について理解を深めながら、各種構造に関する基礎知識を習得することを、目標とします。
将来、建築のデザイン関係の仕事(設計やインテリアデザイン等)をする際に有用となる基礎的な構造の知識を身につけることを目指します。

評価方法その他

平常点(授業中のレポート課題含む)(60%)
学期末の課題レポート(40%)

週　テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 意匠設計と構造設計 / 構造デザインとは
3. 石と木の時代
4. 鉄の時代 / 20世紀の可能性への挑戦
5. 人物でつづる空間構造・構造デザインのあゆみ
6. 現代の建物に使われる構造、構造形態
7. 鉄骨構造
8. 木質構造
9. 鉄筋コンクリート構造/基礎
10. 特別レクチャー1(意匠設計と構造エンジニアの協働1)
11. 特別レクチャー2(意匠設計と構造エンジニアの協働2)
12. 空間構造(イメージとテクノロジーにより出来る空間)
13. 特殊な材料を使った構造/空間構造　ケーブル、膜
14. 特殊な材料を使った構造/空間構造　ガラス、アルミ、ブロック
15. 構造設計とは何か/構造設計と建築基準法/構造デザインの目指すもの

使用教科書名

特に指定しない

NO. G01113731　インテリア材料

白井　篤

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

建築材料の中から、インテリアを中心とした仕上げ材料（壁材料、天井材料、床材料など）を取り上げて、それらの材料（せっこうボード、繊維補強系ボード、軽量気泡コンクリート、タイル、れんが、石材、ガラス、塗料、断熱材、接着剤、プラスチックなど）の基本的事項を平易に解説する。また、インテリア材料は構造材料とは異なり、安全性や耐久性以外に、機能性、快適性、美観性などの性能も要求される。そこで、各部位に要求される性能条件と材料との関連性を理解させると共に、建築仕上げ材料選定にあたっての基礎的知識を養う。

学習目標・到達目標

各種の建築仕上げ材料について、その基本的事項(種類、性質など)を説明できること。

評価方法その他

平常点(50%)と定期試験の得点(50%)により、総合的に評価する。なお、平常点は、授業の最後に行う小テストの点数によって判断する。

週　テーマ・授業目標等

1.ガイダンス
2.屋根材料(1)－粘土瓦
3.屋根材料(2)－スレート
4.屋根材料(3)－金属板
5.内外装仕上げ材料(1)－木質系材料
6.内外装仕上げ材料(2)－せっこうボード
7.内外装仕上げ材料(3)－繊維補強系ボード
8.内外装仕上げ材料(4)－ALC
9.内外装仕上げ材料(5)－タイル
10.内外装仕上げ材料(6)－れんが
11.内外装仕上げ材料(7)－石材
12.内外装仕上げ材料(8)－左官材料
13.内外装仕上げ材料(9)－ガラス
14.その他の材料(1)－塗装材料、接着剤
15.その他の材料(2)－断熱材料
16.定期試験

使用教科書名

適宜、資料を印刷・配付する。

NO. G01113831　住宅施工

白井　篤

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

住宅生産の最終段階である施工について、住宅の主要構造形式である木構造を中心として、地業工事、主体工事、内外装仕上げ工事（タイル工事、左官工事、塗装・吹付け工事など）、床工事（カーペット敷き込み工事、畳敷き工事など）の順に施工方法を平易に解説する。また、住宅などの建築物を建設する際に必要となる敷地とその周辺並びに地盤の調査方法についても学ぶ。

学習目標・到達目標

木造住宅の施工方法について、工事種別ごとに説明できること。

評価方法その他

平常点(45%)、レポート(10%)、定期試験の得点(45%)により、総合的に評価する。
なお、平常点は、授業の最後に行う小テストの点数によって判断する。

週　テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 施工・管理計画①－工事契約、工程表
3. 施工・管理計画②－材料管理、各種届出
4. 仮設・地業工事①－地盤調査
5. 仮設・地業工事②－基礎の種類
6. 主体工事
7. 内外装工事
8. 内外装仕上げ工事①(タイル工事)
9. 内外装仕上げ工事②(タイル工事)
10. 内外装仕上げ工事③(左官工事)
11. 内外装仕上げ工事④(ガラス・建具工事)
12. 床工事①(合成樹脂系)
13. 床工事②(カーペット敷き、畳敷き)
14. 屋根工事(天井工事を含む)
15. その他の工事(断熱工事・設備工事)
16. 定期試験

使用教科書名

適宜、資料を印刷・配付する。

NO. G01114031　建築環境学A

椛田　考一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
建築環境学は建築の内外空間の環境形成を計画・評価する分野であり、建築設計において建物性能を決める重要なポイントのひとつである。この授業では、建築環境を形成する物理的要素である「熱・空気」の基本的性質を学ぶとともに、その環境を評価する我々の感覚の特性を知ることによって、建物・設備性能が居住者へ与える影響を理解する。また、それらの知識を踏まえて、居住者にとって望ましい建築環境を構築するための具体的な手法を学ぶ。

学習目標・到達目標
［建築士指定科目］建築環境を構成する、熱・空気の基本的性質を説明できること。

評価方法その他
定期試験(70%)、レポート及び授業中の課題(30%)による総合評価

週　テーマ・授業目標等
1. 0. 建築環境学及び建築設備の位置付け
2. 安全・衛生と快適
3. 1. 建築環境学の概要
4. 4. 熱環境 (1)温熱感
5. (2)外界条件
6. (3)日照環境
7. (3)日照環境
8. (4)建物の熱性能
9. (4)建物の熱性能
10. (4)建物の熱性能
11. (5)湿気環境
12. (5)湿気環境
13. 3. 空気環境(1)空気と人の健康
14. (2)室内の空気汚染対策
15. (2)室内の空気汚染対策
16. 試験

使用教科書名
生活環境学[改訂版]／岩田利枝 他／井上書院／2015

NO. G01114131　住居計画

小池　孝子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
家族の暮らしの場である住居について、現代的な課題を踏まえたうえで、それぞれの家族にとって快適な住宅、住宅地のあり方について検討をおこなう。

学習目標・到達目標
住居はそこに住む家族のためのものであると同時にまちの財産でもある。住宅および住宅地を計画する際に必要となるさまざまなことがらについて理解し、住居設計のための基礎知識を習得する。

評価方法その他
小課題20%、レポート2題80%により総合的に評価する。

週　テーマ・授業目標等
1) ガイダンス・家族と住まい
2) 家族のかたちと住まいのかたち
3) 家族の変化と新しい住まいのかたち
4) 居住歴と原風景
5) 住居の設計プロセス
6) 生活行為と生活時間
7) 生活行為と住空間
8) 独立住宅の平面構成
9) 独立住宅の計画手法(工法)
10) 生活の外部化と地域施設
11) 住宅でまちをつくる
12) 集合住宅地の計画
13) 集合住宅の平面構成
14) 密度計画・集合住宅団地の歴史
15) 集合住宅団地の再生

使用教科書名
特にテキストは指定しない。

NO. G01114231　福祉住環境

小池　孝子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
近い将来の超高齢者社会に備え、高齢者や障害者が在宅で自立した生活をおくるための住環境整備が求められている。本授業は、この福祉住環境整備分野の初歩的な知識を習得することを目的とし、高齢者や身体障害者を対象とした住環境整備についての基礎知識を学ぶとともに、在宅介護の現状と問題点、特徴、必要な視点等から、介護保険制度の対象となる住宅改修、福祉用具、特定疾病等、建築・福祉・医療などに関して体系的な幅広い知識を学ぶ。

学習目標・到達目標
高齢者や身体障害者を対象とした住環境整備についての基礎知識とともに、在宅介護の現状と問題点、特徴、必要な視点等から介護保険制度の対象となる住宅改修、福祉用具、特定疾病等、建築・福祉・医療などに関して体系的な幅広い知識を習得する。

評価方法その他
小課題20%、レポート40%、テスト40%により総合的に評価する。

週　テーマ・授業目標等
1. ガイダンス
2. 福祉・ノーマライゼーション・リハビリテーションの考え方
3. 福祉住環境の意義と役割
4. 福祉住環境整備と介護保険制度
5. 福祉住環境整備の意義
6. 高齢者・障害者の住環境整備－1
7. 高齢者・障害者の住環境整備－2
8. 高齢者・障害者の住環境整備－3
9. 日本の住宅と住生活上の課題
10. 福祉住環境整備の技術－1
11. 福祉住環境整備の技術－2
12. 福祉住環境整備の技術－3
13. 福祉用具の活用
14. 関連法規
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名
特にテキストは指定しない。

NO. G01114331　社会福祉概論

髙橋　幸三郎

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
子ども・障害・高齢分野の福祉を中心に、あなたの身近な地域との関係で援助のあり方について考えていきます。

学習目標・到達目標
「福祉」を自分の言葉で説明できるようになることを学習目標にします。

評価方法その他
●学期末テスト(社会福祉援助のあり方を事例をとおして説明する。事例に関する主題の記述・援助を必要としている状態の記述・解決のための活動に関する記述の明確さが基準になります。)
●リアクションペーパー

週　テーマ・授業目標等
1.キーワードで考える社会福祉
2.社会福祉とは:リアクションペーパーに基づく解説
3. 地域から福祉を考える(「私の地域の宝物」)
4.地域援助活動①:犯罪のないまちづくり
5.地域援助活動②:孤独死
6.地域援助活動③:高齢者福祉施設への参加
7.地域援助活動④:福祉施設づくり
8.福祉援助を考える①:障害児の子育て支援
9.福祉援助を考える②:発達障害
10.福祉援助を考える③:学齢期
11.福祉援助を考える④:成人期
12.家族と離れて生活する子どもたち
13.ハンセン病資料館の見学
14.体験学習:ブラインドウォーク
15.まとめ:福祉援助のあり方を事例で示す
16. 定期試験

使用教科書名
『地域づくりの福祉援助』(ミネルヴァ書房)

NO. G01114431　スポーツツーリズム

大嶋　徹

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

1. グランド・ツアーとは何かを明らかにすること
2. スポーツツーリズムとは何かを明らかにすること
3. 日本の遊行について知ること
4. グランド・ツアーとスポーツツーリズムの関わりを明らかにすること

学習目標・到達目標

18世紀イギリスで行われていたグランド・ツアーをてがかりにして現代のスポーツツーリズム、すなわちレジャー活動やスポーツ観光の特徴を明らかにする。なぜわれわれは旅行するのか。その目的はさまざまである。安息を求めて、救済、気晴らし、逃避、教育（自己開発）、休息、冒険、人とのつながりを求めて、レクリエーション、健康、自己確認、社会的地位の確認、鮮烈な新しさ、回復、征服、支配など枚挙にいとまがない。総じて、そもそもスポーツツーリズムとは何かを探求していく。

評価方法その他

授業プログラム達成度、質疑応答、グループディスカッション等の積極性で50%、テスト50%で評価する。

週　テーマ・授業目標等

1.グランド・ツアーのはじまり
2.グランドツアーの全盛期
3.ゲーテのイタリヤ紀行
4.グランドツアーから目的志向的旅行へ
5.スポーツツーリズムのはじまりー健康回復的旅行、すなわち巡礼ー
6.巡礼から教育志向的旅行へ
7.日本の遊行1
8.日本の遊行2
9.日本的スポーツツーリズム
10.グランドツアーと日本の遊行と世界志向的スポーツツーリズム1
11.グランドツアーと日本の遊行と世界志向的スポーツツーリズム2
12.モータースポーツツーリズム
13.リゾート型スポーツツーリズム
14.世界志向的スポーツツーリズムと地域型スポーツツーリズム
15.まとめとテスト

使用教科書名

毎回プリントを配布する。

NO. G01114731　現代家政とKVA

現代家政学科　教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現代家政学科での学びの振り返りを行い、さらに今後の学び、卒業後のあり方を考え、展開していくための基盤を築くことを目的とする。また、4年次で「卒業研究A」「卒業研究B」を履修するための基本的習得事項を定着させる。現代家政学科において生活に関わる分野を横断的に学んだことを生かして、本学の建学の精神である「KVA」の視点から、現代社会のニーズや生活課題に対して取り組んでいく姿勢を育成したい。

学習目標・到達目標

現代家政学科の最終学年を迎える直前の時点で、「卒業研究」に向けて、現代家政学科での教育内容を振り返り、自身の将来展望や、大学の学びと社会の課題との関わりについて、建学の精神である「KVA」に立ち戻って考えることを目標とする。

評価方法その他

平常点50%、レポート等の課題50%の総合評価

週　テーマ・授業目標等

1. ガイダンス、卒研ゼミ紹介(1)
2. 卒研ゼミ紹介(2)
3. 卒研ゼミ紹介(3)
4. 卒研ゼミ紹介(4)
5. 就職内定報告会
6. 卒業後のキャリアプラン（外部講師による講演）
7. 働くこととKVA 精神の関わり（外部講師による講演）
8. 学長による特別講義「大学と社会をつなぐ」
9. 社会の課題と大学の学び（外部講師による講演）
10. 卒研発表会出席（2月）
11. 卒研発表会出席（2月）
12. 卒研のための情報の収集方法（文献検索等）
13. 各配属ゼミでのプレゼミ(1)
14. 各配属ゼミでのプレゼミ(2)
15. 各配属ゼミでのプレゼミ(3)

使用教科書名

特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配付する。

NO. G01114831　西洋服飾文化史

山村　明子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

近世以降のヨーロッパでの社会的変動と服飾デザインの変化を関連づけて理解することで、服飾文化と社会的価値観との相互作用に着目する。時代を象徴する『姫』の存在とそのファッションを考えることで、服飾を切り口とした社会や人へのアプローチについて考える。

学習目標・到達目標

西洋式服飾文化の歴史的な背景を概観し、今日の服飾意識がどのように形成されてきたのかを理解する。服飾文化と社会と人々とのかかわりについて理解する。

評価方法その他

平常点(20%)、試験(80%)

週　テーマ・授業目標等

1. 導入:ファッションと人間社会　歴史を見る眼
2. 16世紀
3. エリザベス1世
4. 17世紀　オランダ服飾
5. 17世紀　フランスバロック
6. 18世紀 フランスロココ
7. マリー・アントワネット
8. 19世紀 フランス革命
9. 19世紀 男性服飾
10. 19世紀　ロマンティックスタイル
11. ウェディングドレス
12. 19世紀　スポーツ服とエリザベート
13. 720世紀　生活様式の転換
14. まとめ
15. アクセサリーミュージアムの見学
16. 試験

使用教科書名

ファッションの歴史―西洋服飾史―(朝倉書店)

NO. G01114931　江戸東京文化研究

内田　宗一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

東京の面白いところは、日本文化の伝統の上に築かれた江戸の文化と、近代化と共に西欧からもたらされた文化とが共存し、コーディネートされて、世界標準の近代文化に包含されながら生き残っていることである。本演習では、文化的資料を読み、実際に街に出かけて、江戸の文化や近代東京の文化に触れられるスポットを見学し、理解した上で、それらを現在の私たちのくらしにどのように生かしていけるのかについて考えていく。前半は近世の江戸文化に関わる事象を、後半は近代以降の東京の文化に関わる事象を、それぞれ主な考察対象とする。

学習目標・到達目標

江戸文化と近代文化とが共存するという都市東京の文化的特色を踏まえた上で、新旧それぞれの文化のありようについて具体的事例に即して学び、理解を深める。あわせて、それらの文化が現代の私たちの生活にどのようにつながっているのかを理解するとともに、そこから何を学び取ってこれからの我々のくらしに生かしていくべきかを考えようとする姿勢を身につける。

評価方法その他

評価方法　平常点20%、授業内課題（制作物、レスポンスシート等）40%、見学レポート20%、期末レポート20%。平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。出欠は毎回確認する。

週　テーマ・授業目標等

1.出版文化の歴史
2.江戸の出版文化
3.和本に触れる
4.和本を作る(1)下綴じ
5.和本を作る(2)表紙付け
6.和本を読む
7.江戸文学から読み解く江戸の文化(1)本屋
8.江戸文学から読み解く江戸の文化(2)食
9.江戸文学から読み解く江戸の文化(3)蕎麦・うどん
10.江戸文学から読み解く江戸の文化(4)水
11.江戸文学から読み解く江戸の文化(5)水道
12.明治・大正文学から読み解く東京の文化(1)書生
13.明治・大正文学から読み解く東京の文化(2)女学生
14.明治・大正文学から読み解く東京の文化(3)婦人雑誌
15.校外授業　東京都水道歴史館

使用教科書名

特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配付する。

NO. G00003031　インターンシップ

金森　敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

企業や行政等の現場における実践的な体験を通して、組織で働くことの意味を考えてもらう。仕事を外見だけで判断するのでなく、隠れている部分を含めて総合的に理解し、仕事を担う重さと充実感（働き甲斐）を感じてもらいたい。なお研修先の面接で許可が得られれば、研修生として受け入れてもらえる。従って、受講生の希望に沿う研修先がない場合、あるいは、面接で断られた場合は研修が受けられないケースもでてくる。また、本授業はインターン実習後も6回ほど集中講義を設け、振り返りを行う。本講義の受講者は全員参加を義務づける。これら２点を予め理解しておくこと。なお受講者は50人前後を考えている。

学習目標・到達目標

インターンシップを通して、自分の適性をチェックするひとつの機会としてほしい。
インターンシップを行う目的を理解し、積極的かつ主体的に取り組む姿勢を確立する。
インターンシップの学びをキャリアデザインに結び付ける。
インターンシップの学びを、今後の学生生活（就職活動も含む）に結びつける。
実習先企業の研究を通して、業界・職種・会社についての知識を身に付ける。

評価方法その他

基本的に、研修報告書を中心に評価を行う。ただし、研修報告書並びに研修日誌は、どちらも提出を求める。なお、受入事業所から提出される個人別の研修評価については、研修報告書の評価の際、参考にする。成績考査のウエイトは、報告書50%、宿題30%、研修日誌20%。

週　テーマ・授業目標等

1.イントロ
2.受入先情報からインターンシップについて考える
3.昨年度参加した学生（5～6）を囲んでインターンシップについて考える
4.インターンシップの目的の再設定と明確化
5.履歴書、自己紹介書の書き方（自己分析を含む）
6.実習先の概要説明、マッチングの方法
7.業界、職種、会社の全体概要を知る（マッチング継続①）
8.業界研究・職種研究（マッチング継続②）
9.企業研究（マッチング継続③）
10.社会人としての意識を育む
11.ビジネスマナー①外部講師
12.ビジネスマナー②外部講師
13.実習先の企業研究①（実習先の調整・確定）
14.実習先の企業研究②（実習先の調整・確定）
15.実習前の総振り返り
16.後期授業イントロ
17.インターンシップの振り返りシートの作成
18.インターンシップの振り返りの共有
19.今後の学生生活の取り組み方、将来のキャリアを考える
20.インターンシップの活動を就職活動に生かす
21.報告会

使用教科書名

なし。必要な資料はプリントで配布します。

NO. G00094031　キャリアデザインA

金森　敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

社会には仕事の数だけ多様な働き方がある。みなさんは、どのような働き方をどれくらいイメージできますか？また、働く際において、大学の学びはどのように活きてくると思いますか？本授業では、単に多様な職業や働き方を知るのではなく、「大学での学びとキャリア」がどのようにつながっているのかなどを含めて、多様な働き方について考えてもらう。なお本授業では、グループワークを中心に授業を行う予定なので、受講者数の上限を設ける。また、授業外においても活動があることは付言しておく。

学習目標・到達目標

多様な働き方があることを知り、多様な考え方があることを知るができる。
興味が持てる働き方と大学での学びがどう関係しているのかを「自分の言葉」で記述ができる。

評価方法その他

レポート（60%）
宿題3～4回（40%）

週　テーマ・授業目標等

1.大学を自己成長の場としよう
2.大学での学びと働く
3.社会の多様な働き方
4.「社会にでる」ってどういうこと
5.学びと社会のつながりを知ろう
6.社会を知ろう「会社・職種編・業種編・チームワーク編」
7.リーダーシップについて考える
8.学びと社会を結びつける
9.ゲスト講師（予定）
10.社会に求められる能力
11.RJPとOGへのインタビュー準備
12.RJPとOGへのインタビュー実施
13.RJPとOGへのインタビューまとめ
14.RJPとOGへのインタビュー成果報告
15.振り返り

使用教科書名

なし。必要な資料はプリントで配布します。

NO. G00095031　キャリアデザインB

金森　敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

キャリアは就職という言葉と結びつきがちであるが、この講義の目的は、広い意味での働き方、幸せな職業人生について考えるものである。就職活動に役立つ力を「入社する力」と呼び、生き方や働き方を「働き続ける力」と呼び、両者を区別する。本講義では後者の「働き続ける力」に力点がある。キャリアというとどうしても個人の考え方から始まりがちだが、まずは、現代社会に対する理解を深める必要がある。また、実際に会社で働いている人にグループでインタビューに行ってもらう予定である。なお、本授業では、グループワークを中心に授業を行うので、受講者数の上限を設ける。

学習目標・到達目標

自分がどのような時代や社会に生きているのかを認識し説明することができる。
他者とのコミュニケーションを通して、自己を見つめなおし自分の考えを他者に説明することができる。
自分の生き方や働き方を自分の言葉で記述することができる。

評価方法その他

レポート（60%）
宿題3～4回（40%）

週　テーマ・授業目標等

1.キャリア教育とは何か
2.働くとは
3.憧れの人や彼らを取り巻く職業について考える
4.これまでとこれからの時代の流れを知る
5.社会についてわかっていないことを考える
6.社会を知ろう
7.やりたいことのうそ
8.ゲスト講師（予定）
9.幸せとは
10.良い会社とは
11.良い会社を調べ、そこで働く人に対してのヒアリングの準備
12.良い会社で働く人へのヒアリング実施
13.良い会社で働く人へのヒアリングまとめ
14.良い会社で働く人のキャリアについての成果報告
15.振り返り

使用教科書名

なし。必要な資料はプリントで配布します。

NO. G02001031　健康と食生活

加藤　理津子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

和食は「日本人の伝統的な食文化」として、平成25年にユネスコ無形文化遺産に登録された。
しかし、一方で栄養素摂取のアンバランス、食糧需給率の低下と食品ロスの増加、食生活の乱れに伴う生活習慣病患者の増加、食や食文化を大切にする心の喪失など、「栄養素」、「食品」、「料理」、「食事」、「生活習慣」の各レベルでの多様な問題が生じている。
そこで、健康状態に応じた「栄養素」、「食品」、「料理」、「食事」、「生活習慣」を適切に選択し、献立を立案するための知識と技術を学ぶ。授業の前半に基礎知

学習目標・到達目標

① 健康づくりに必要な「栄養素」、「食品」、「料理」、「食事」、「生活習慣」を理解し、説明できる。
② 健康状態に応じた「栄養素」、「食品」、「料理」、「食事」を選択し、献立を立案できる。
③ 献立作成に必要な知識（食事摂取基準、食品成分表、食品構成、食文化等）を理解し、説明できる。

評価方法その他

提出物30%（1回でも未提出の場合は、評価の対象外とする）
定期試験50%
平常点20%（受講態度、予習の状況、プレゼンテーション等を総合的に判断する）

週　テーマ・授業目標等

1.　オリエンテーション：授業の概要、授業の進め方、諸注意事項など
2.「栄養素」：栄養素の種類と働き、1日の摂取量（日本人の食事摂取基準[2015年版]）
3.「食品」：栄養素の供給源、食品成分表、廃棄率、購入量、栄養価の算出方法
4.「料理」：調理操作、配合、調味の基本
5.「食事」と「生活習慣」：食事の基本形、生活リズムと食事、食事と生活習慣病
6.　食文化1：食文化の形成、食事のマナー
7.　食文化2：日本料理の変遷、年中行事と食べもの、伝統食・郷土食
8.　食生活の現状と対策：食糧需給、食品ロス
9.　栄養管理：栄養管理の手順、栄養状態の診断（アセスメント）
10. 献立作成1：献立作成の手順、食品構成の作成
11. 献立作成2：食品構成の作成、献立の作成
12. 献立作成3：献立の作成
13. 献立作成4：献立評価の方法
14. 献立作成5：献立のプレゼンテーション
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

「七訂食品成分表2016」 女子栄養大出版部
「調理のためのベーシックデータ第4版」 女子栄養大出版部
「日本人の食事摂取基準[2015年版]」 第一出版

NO. G02002031　健康福祉学概論

西口　守

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

この授業では、社会福祉を取り巻く環境、また現代社会の中で生じている深刻な生活問題、そしてその軽減支援のためのソーシャルワークの方法についてできるだけ実践的に理解する

学習目標・到達目標

社会福祉の意義と意味、またソーシャルワークの理念と方法を学び、現代社会の直面する生活問題について理解する

評価方法その他

平常点/10%
テスト/レポート80%
その他/10%
これらの総合点
平常点：出席や授業態度、予習の状況の他（授業態度や発言などを評価/10%

週　テーマ・授業目標等

第1回 西口　守 身近な生活問題を考える 新聞記事やテレビのニュースから生活困難の意味を理解する
第2回 西口　守 社会保障の概念規定 社会保障と社会福祉の関連や概念を整理しまとめる。
第3回 西口　守 社会福祉とソーシャルワーク ソーシャルワークの意味と意義を学ぶ
第4回 西口　守 ソーシャルワークの理念と方法 ソーシャルワークの方法を直接、間接援助技術に大別し理解する
第5回 坂﨑　隆浩 児童福祉① 児童福祉の理解~その意味と歴史～
第6回 坂﨑　隆浩 児童福祉② 児童福祉の理解～児童福祉の制度～
第7回 坂﨑　隆浩 児童福祉③ 児童福祉の理解～児童の教育と福祉=幼稚園、保育所の一元化問題を踏まえて
第8回 坂﨑　隆浩 児童福祉④ 児童福祉の理解～児童福祉の実際
第9回 西口　守 高齢者福祉① その歴史と課題/基本的な理解
第10回 西口　守 高齢者福祉② 介護保険制度/制度の総括的理解
第11回 西口　守 高齢者福祉③ 介護保険制度/そのサービス/介護予防/地域包括ケア
第12回 西口　守 障がい者支援施策 障がい者支援施策とサービスの方法
第13回 西口　守 職種間連携 コーディネーションとマネジメント/チームケアの課題
第14回 西口　守 サービスの品質管理 ISOとリスクマネジメントについて
第15回 西口　守 総括授業 14回の授業を振り返り、整理
第16回 西口　守 試験

使用教科書名

授業開始時にご案内します

NO. G02003031　公衆衛生学Ⅰ

松田　正己

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

公衆衛生は疾病を予防し、寿命を延長させ身体的、精神的、社会的、霊的にも健康の増進を図るために学ぶ、自然を対象とする科学(science)と人間の作った技術(art)の体系である。地域社会集団や国といった集団における健康問題を把握する方法としての公衆衛生学について学習する。公衆衛生学の視点から健康および健康問題について学習し、社会の動向も併せて保健活動や施策について学習する。プライマリー・ヘルス・ケアやヘルスプロモーション、健康問題の現状、現在国が進めている健康づくり施策、保健予防活動について学習し、人々を取り巻く環境と健康、労働と健康問題等を理解する。

学習目標・到達目標

公衆衛生の基本的な考え方、理念、方法、歴史、現在等について学習する。集団における健康問題を把握する方法としての公衆衛生学について理解する。健康と社会、環境の関係を理解する。

評価方法その他

定期試験(80%)と平常点(20%)

週　テーマ・授業目標等

1 公衆衛生と社会・環境・健康、管理栄養士ガイドライン(法、ライフ・サイクル)
2 人口動態、比の計算、指数、対数、と公衆衛生
3 ミニテスト1
4 公衆衛生と生活、食品、感染症、人権、健康危機管理
5 食の安全に関する過去の事例、VDO雪印
6 公衆衛生と食の国際化、グローバル化、VDO狂牛病
ミニテスト2
7 公衆衛生の理念 疾病の自然史と予防の5段階
8 公衆衛生の理念 プライマリ・ヘルス・ケアの4原則、8分野
9 公衆衛生の理念 1次予防—3次予防
10 公衆衛生の理念 ヘルスプロモーションの5方法
11 ミニテスト3
12 健康と環境
13 健康と環境　VDO環境と水
14 ミニテスト4
15 特別講義(国際保健)、まとめ

使用教科書名

1.最新 保健学講座 1　公衆衛生看護学概論　4版編集／金川　克子　メヂカルフレンド社 2015(後期も使用)
2.松田正己編、グローバル化・健康福祉政策と公衆衛生・倫理」－現代公衆衛生学、第二版－、クオリティケア、2013(後期も使用)

NO. G02004031　公衆衛生学Ⅱ

松田　正己

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

健康日本21の概要、それを実現するために必要なわが国における保健医療福祉介護の対応策、ケアシステム、及び社会保障制度によって提供されている具体的なサービスの内容や、費用と財源、各種多様な福祉関連施設ならびに社会保障を担う人々について、その資格や職務内容、社会保障制度、地域社会で展開されている保健活動と法律について理解する。健康福祉に関する自己学習能力を高め、ヘルス・リタラシーを向上させる方法を学ぶ。

学習目標・到達目標

公衆衛生学Ⅰで学習した事を基礎に、理念レベル、統計レベル、政策・指標レベル(健康日本21)の公衆衛生学を統合的に学ぶ。また、ケアの分かる管理栄養士を目指し、保健医療福祉介護の対応策、ケアシステム、及び、わが国における社会保障、社会保険、社会福祉制度の歴史と現状、対象別の各種の公衆衛生・保健活動を理解する。

評価方法その他

定期試験(80%)と平常点(20%)

週　テーマ・授業目標等

1.健康論、寿命と死亡、健康寿命と健康日本21
2.寿命と死亡、保健統計
3.寿命と死亡、死亡率、有病率
4.ミニテスト1
5.健康日本21、健康寿命と格差の是正
6.健康日本21、計画策定の過程
7.　健康日本21、 数値目標、精神保健(VDO　やどかり)、自殺対策
8.　健康日本21、数値目標、感染症対策とケア、性行動(VDO　エイズ)
9. 健康日本21、数値目標、地域保健の対応策とケアシステム(結核対策、母子保健)、産業保健　学校保健
10.　ミニテスト2
11.　危機管理・災害保健・放射線
12.　ケアと難病対策と障害保健(VDO　ありがとう)、高齢者福祉保健、地域作り型保健活動
13.　ミニテスト3
14.　特別講義(国際保健・協力隊)
15.　ミニテスト4(人生プラン、ライフサイクルと公衆衛生)、まとめ

使用教科書名

1.松田正己編、グローバル化・健康福祉政策と公衆衛生・倫理」－現代公衆衛生学、第二版－、クオリティケア、2013(前期も使用)
2.最新 保健学講座 1　公衆衛生看護学概論　4版編集／金川　克子　メヂカルフレンド社 2015

NO. G02005031　公衆衛生学実習

松田　正己

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

自分の生活プラン、将来設計を公衆衛生の統計データと結びつけて、作成する。その過程で、わが国における保健医療福祉介護の対応策、ケアシステム、及び社会保障制度によって提供されている具体的なサービスの内容や、費用と財源、各種多様な福祉関連施設ならびに社会保障を担う人々について、その資格や職務内容、社会保障制度、地域社会で展開されている保健活動と法律について理解する。健康福祉に関する自己学習能力を高め、ヘルス・リタラシーを向上させる方法を学ぶ。

学習目標・到達目標

公衆衛生学I,IIで学習した事を基礎に、対象別の保健活動、保健医療福祉介護の対応策、ケアシステム、及び、わが国における社会保障、社会保険、社会福祉制度の歴史と現状を、健康日本21の数値目標や統計データの読み方の学習とともに理解する。

評価方法その他

授業中の発表(40%)と平常点(60%)

週　テーマ・授業目標等

1.自分の生活プラン、統計データ
2.自分の生活プランと公衆衛生と統計データ
3.放射線の測定の練習(内)
4.放射線の測定(外)
5.データの視覚化(GIS)
6.いのちのケアのグループ・ワーク(テーマ決め)
7.　同(グループ展開)
8.　同(グループ発表1)
9.　同(グループ発表2)
10.　公衆衛生学とモデル(自然史、1-3次予防)、保健統計
11.　将来設計、地域診断
12.　同(グループ発表3)
13.　将来設計と公衆衛生の統計データ
14.　発表(グループ発表4)
15.　まとめ

使用教科書名

1. 松田正己他編、いのちの地域ケア いのちの倫理を考える(第3版)、やどかり出版、2014

NO. G02006031　疫学・社会調査法

澤崎　康

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
公衆衛生学は集団を対象とする学問である。地域社会や国といった集団における健康問題を把握する公衆衛生学的技法である「疫学」について学ぶ。集団の健康問題を解明する疫学的手法について理解し、チーム医療の一員である管理栄養士としての疫学的能力を養う。また、社会を的確に反映した「社会調査法」はどのように行えば良いのであろうか。統計学を踏まえ、集団における健康問題を把握する方法としての「疫学」と「社会調査法」について理解していく。この授業は、管理栄養士国家試験対策に直結する内容とする。

学習目標・到達目標
疫学ならびに社会調査法の基礎を学ぶ。

評価方法その他
平常点(40点)、定期試験(60%)
(平常点は授業への参加状況、グループディスカッションと発表等で総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等
「疫学」
1.オリエンテーション、疫学とは(概念・歴史)
2.曝露と仮説、記述疫学、分析疫学、介入研究、症例対照研究(オッズ比)
3.コホート研究(相対危険度、寄与危険度)
4.感度と特異度(クロス集計)
5.ROC曲線(偽陽性率)
6.疫学のまとめ

「社会調査法」
7.社会調査法とは(種類・特徴・歴史)
8.社会調査をはじめるまえに(バイアス、交絡因子)
9.調査票(質問紙)について考える
10.サンプリング法(作為抽出法、無作為抽出法)と回答法
11.社会調査法のまとめ
12.社会調査法演習①
13.社会調査法演習②
14.社会調査法演習③
15.社会調査法演習④
使用教科書名
グローバル化・健康福祉政策と公衆衛生・倫理—現代公衆衛生学第2版—　松田正己編集　クオリティケア　2013

NO. G02007031　解剖生理学Ⅰ

原　光彦

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
「解剖学」は体の「構造」を、「生理学」は体の「機能」を学ぶ学問です。
「解剖生理学」は、「解剖学」と「生理学」を統合・簡略した科目で、人体栄養学の基礎となります。
この講義の教育目的は、管理栄養士が臨床栄養の現場で基礎知識として持つべき、人体の正常な解剖学を学習することです。
授業は、ヒトの細胞や組織について論じた後、骨、筋肉、血液、循環器、呼吸器、消化器、内分泌、腎・泌尿器、神経、感覚器について講義を行ってゆきます。

学習目標・到達目標
人体を構成する細胞の構造や機能に関する知識を深め、主な組織や器官の名称を記憶する。
更に、正常(健康)な人体の構造や機能を理解する。

評価方法その他
定期試験の成績で100%評価します。
15回の講義の内、正当な理由なく5回以上欠席すると定期試験の受験資格を失います。

週　テーマ・授業目標等
1遺伝子・細胞の構造
2組織・器官の構造
3面と方向・骨格系の構造
4筋系の構造
5血液・生体防御系の構造
6循環器系の構造
7内分泌系の構造
8消化管の構造
9肝・胆・膵の構造
10呼吸器系の構造
11腎・泌尿器系の構造
12生殖器系の構造
13神経系・感覚器系の構造
14皮膚の構造と栄養
15全体総括
16試験
使用教科書名
管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト(第3版)/岩堀修明/文光堂/2011年

NO. G02008031　解剖生理学Ⅱ

原　光彦

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
解剖生理学Ⅱでは、すでに解剖生理学Ⅰで習得した解剖学の基礎的な知識に基づいて、管理栄養士にとって重要な領域である「人体の構造と機能」についてわかりやすく解説する。特に正常機能（生理学）について理解を深め、２年次後期より始まる応用栄養学、臨床栄養学などの基礎となる知識を網羅する。

学習目標・到達目標
正常における栄養学や、スポーツ栄養、骨代謝・血液疾患・内分泌代謝・消化器・腎臓・神経系などの各種疾患における栄養学を学ぶ上で基礎となる人体の正常な構造と機能の概要を理解する。

評価方法その他
試験100%で行う。

週　テーマ・授業目標等
1細胞・遺伝子の構造と機能
2組織・器官の構造と機能
3生殖器系の構造と機能
4骨格系・筋系の構造と機能
5感覚器系の構造と機能
6循環器系の構造と機能
7呼吸器系の構造と機能
8腎・泌尿器系の構造と機能
9血液系の構造と機能
10免疫系の構造と機能
11内分泌系の構造と機能
12消化管の構造と機能
13肝・胆・膵の構造と機能
14神経系の構造と機能
15全体総括と問題演習
16試験
使用教科書名
管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト(第3版)/岩堀修明/文光堂/2011年
(1年次解剖生理学Ⅰと同じテキスト)

NO. G02009031　解剖生理学実習

原　光彦

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
解剖生理学Ⅰ・解剖生理学Ⅱで学ぶ「人体の構造と機能」を、器官系別に可能な限り実体験することで理解を深める。さらに、臨床栄養の現場で、医療チームの一員として疾病予防や栄養サポートを実施するために必要な臨床医学の基礎を体験的に習得する。

学習目標・到達目標
人体の構造と機能の実際を、可能な限り自ら観察し体験することで、臨床医学の基礎を習得する。

評価方法その他
平常点50%、レポート50%
(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等
1ガイダンス:実習予定と注意事項、レポートの記載法
2体表解剖学、身体計測値を用いた栄養状態の評価
3運動器系の解剖生理:徒手筋力検査など
4神経系の解剖生理:疲労やストレスの評価など
5循環器系(1):診察法、脈拍、心音、心電図
6循環器系(2):血圧測定、動脈硬化の評価
7呼吸器系の解剖生理:呼吸機能検査など
8腎・泌尿器系の解剖生理:尿検査など
9血液・アレルギー疾患:血液型の判定、アナフィラキシーショックへの対応
10消化器系の解剖生理と感染予防:嚥下機能の評価など
11内分泌系の解剖生理:経口糖負荷試験
12一次救急蘇生法:AEDの使い方
13細胞・組織学(1):主な臓器の組織を顕微鏡で観察
14細胞・組織学(2):主な臓器の組織を顕微鏡で観察
15実験予備日
＊実習内容や順番は変更となる可能性があります
使用教科書名
管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト(第3版)/岩堀修明/文光堂/2011年/ISBN 978-4-8306-0035-7(解剖生理学Ⅱのテキスト)

NO. G02010031　スポーツ栄養学

吉田　博幸

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

運動生理学の知識をベースに，栄養（飲食）に関わる事柄について講義形式で授業を進める。前半（運動生理学）に関しては，まず運動を行ったときの身体の一過性変化について理解してほしい。そして，トレーニングを行うことによる身体の慢性変化の話につなげていく。後半ではスポーツ選手の栄養学的課題と栄養素の関わりと，よりよいスポーツ活動のための食事について，実例とともに説明する。

学習目標・到達目標

運動生理学の基礎を知る。
栄養摂取についてスポーツ選手と一般人との違いを知る。

評価方法その他

中間試験(50%)，期末試験(50%)

週　テーマ・授業目標等

1運動生理学の復習1
2運動生理学の復習2
3エネルギー消費量(個人種目1)
4エネルギー消費量(個人種目2)
5エネルギー消費量(球技1)
6エネルギー消費量(球技2)
7中間試験
8スポーツ選手の身体組成
9エネルギー補給とからだづくり
10コンディション維持と骨づくり
11貧血予防
12水分補給とサプリメント(ドーピング)
13試合期、トレーニング期の食事
14スポーツ選手の栄養教育
15実際の栄養管理
16期末試験

使用教科書名

前半:なし(授業時に資料を配布する)／後半:不明

NO. G02011031　運動生理学実習

吉田　博幸

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

自らの身体能力（体力）および運動を行ったときの身体の一過性変化を実習を通して理解することが目的である。運動の発現にまず必要な筋力をどのようにして測定するか。力を最大スピードで発揮したときのパワーをどのように測定するか。運動を持続させるための持久力をどのように測定するか，など専門的な手法で測定する。これらのデータを分析して，自分の身体を客観的に（数字で）見つめなおしてほしい。

学習目標・到達目標

筋力や持久力の測定方法を知る。
統計的手法により数値が持つ意味を判断する。

評価方法その他

各授業後にまとめるレポートの内容による(100%)

週　テーマ・授業目標等

1オリエンテーション
2新体力テスト
3テスト結果の解析
4基礎代謝量の測定
5測定結果の解析
6自転車エルゴメータでの酸素摂取量の測定①
7自転車エルゴメータでの酸素摂取量の測定②
8自転車エルゴメータでの酸素摂取量の測定③
9自転車エルゴメータでの酸素摂取量の測定④
10測定結果の解析
11測定結果の解析
12筋力・パワーの測定①
13筋力・パワーの測定②
14測定結果の解析
15測定結果の解析／レポート作成

使用教科書名

1回目の授業で配布する。

NO. G02012031　病原微生物学

津山　淳

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

微生物は身の回りに多く存在し、我々に様々な影響を与えている。病原微生物学では微生物の基礎的な知識を習得した上で、主に感染症を引き起こす微生物について学んでいく。感染機構および宿主の防御機構、主な感染症の概要、感染症の予防について解説する。初めて微生物を学ぶことを想定し、基本的な内容から丁寧に説明するが、時によっては最新の研究成果も紹介していく。

学習目標・到達目標

感染症を引き起こす病原体の種類と構造について理解する。
宿主の防御機構と感染症が成立する過程を理解する。
主な感染症およびそれを引き起こす微生物について基礎的な知識を獲得する。

評価方法その他

試験100%(100点満点)で行う。
試験は定期試験のみ。
試験の内容、形式は授業時に告知する。

週　テーマ・授業目標等

1.微生物とは何か
2.感染の基本と自然免疫システム
3.獲得免疫システム
4.細菌の分類とグラム陽性球菌
5.通性嫌気性グラム陰性桿菌
6.好気性菌 芽胞菌
7.嫌気性菌 マイコバクテリウム 非定型細菌
8.ウイルス Ⅰ
9.ウイルス Ⅱ
10.ウイルス Ⅲ
11.プリオン 真菌
12.蠕虫と原虫
13.感染性食中毒
14.ワクチン 消毒・滅菌
15.法令・院内感染予防
16.定期試験

使用教科書名

資料をこちらで配布するので特に必要ない

NO. G02013031　病理学

朝山　光太郎

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

授業概要：管理栄養士が臨床医や看護師と栄養サポートチームの中で活躍するためには、医学の基礎知識が確実で実際に即している必要がある。病理学では、疾患のメカニズムの基本概念を習得する。従来の臓器別配列の授業形式と異なり、病態のメカニズムによる分類を用いることにより、実践的な内容とした。

学習目標・到達目標

人体における疾病の成り立ちのメカニズムの基本を理解する。

評価方法その他

試験100%(100点満点)で行う。
試験は定期試験のみ。
試験の内容、形式は授業時に告知する。
平常点は特に加算しない。

週　テーマ・授業目標等

1.病理学の領域
2.細胞・組織とその障害
3.再生と修復
4.循環障害
5.循環障害・炎症
6.炎症
7.老化と老年病
8.代謝異常Ⅰ
9.腫瘍
10.先天異常
11.免疫とアレルギー
12.代謝異常Ⅱ
13.生命の危機
14.感染症
15.新生児の病理
16.試験

使用教科書名

カラーで学べる病理学(第4版)/渡辺照男/ヌーヴェル・ヒロカワ/2014年

NO. G02015031　生化学Ⅰ

馬場　修

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

生化学は生命現象の本質を化学的方法によって解明しようとする学問である。生化学Ⅰでは，一般的な生化学の知識を習得するとともに，特に食品学，栄養学，調理学との関連を重視し，我々が食品に含まれる栄養素をどのように体内に取り入れ，どのように生命の維持と生命現象の発現に利用しているかについて概説する

学習目標・到達目標

生体成分の構造と性質を理解する。
生体成分の相互関係を理解する。
生体成分の代謝について理解する。

評価方法その他

筆記試験(100%)

週　テーマ・授業目標等

1. 生命の化学的基礎
2. たんぱく質と酵素(1)
3. たんぱく質と酵素(2)
4. たんぱく質と酵素(3)
5. 糖質とその代謝(1)
6. 糖質とその代謝(2)
7. 糖質とその代謝(3)
8. 生体酸化還元とエネルギー生産
9. 脂質と生体膜
10. 脂質とその代謝(1)
11. 脂質とその代謝(2)
12. 脂質とその代謝(3)
13. アミノ酸代謝(1)
14. アミノ酸代謝(2)
15. プリン，ピリミジンとその代謝

使用教科書名

基礎から学ぶ生化学／奥　恒行他編／南江堂／2008

NO. G02016031　生化学Ⅱ

馬場　修

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

生化学は生命現象の本質を化学的方法によって解明しようとする学問である。生化学Ⅱでは生化学Ⅰにひきつづいて，一般的な生化学の知識を基礎に，栄養学との関連を重視しながら，栄養素の代謝の調節の仕組み，食生活環境の変化に対する身体の適応の仕組みについて学ぶ。

学習目標・到達目標

生体における代謝調節の仕組みについて理解する。
生体成分の相互変換、相互関係について理解する。

評価方法その他

筆記試験(100%)

週　テーマ・授業目標等

1. 物質代謝の相互関連と代謝の調節
2. 酵素活性の調節－アロステリック酵素とフィードバック制御
3. DNAの構造と機能
4. RNAの構造と機能
5. 遺伝情報の伝達
6. 遺伝情報の発現とその調節(1)
7. 遺伝情報の発現とその調節(2)
8. ホルモンと代謝の調節(1)
9. ホルモンと代謝の調節(2)
10. カルシウムの代謝
11. 消化と吸収
12. 呼吸とpHの調節
13. 鉄とヘムの代謝
14. 筋収縮の生化学
15. 免疫の生化学

使用教科書名

基礎から学ぶ生化学／奥　恒行他編／南江堂／2008

NO. G02017031　生化学実験

馬場　修

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

生化学的知識、すなわち生体成分の性質やそれらが示す化学反応と生命機序を理解するための基礎的実験を行う。 他の実験と同様、実験をうまく進めていくためには、正確な実験操作と細かな観察や記録が不可欠であることはもちろん、どのような原理によっているのか、実験で得られた数値などの結果から、どのような結論が導けるのかなどを理解する。

学習目標・到達目標

生体成分の諸性質並びに測定法について理解する。
測定結果の解析・評価方法を理解する。

評価方法その他

レポート(50%)、授業への取り組み・参加態度(50%)

週　テーマ・授業目標等

1 実験予定と実験についての諸注意
2 糖質実験Ⅰ(グルコースの代謝)
3 糖質実験Ⅱ(グルコースの代謝)
4 脂質実験Ⅰ(脂質の抽出・定量)
5 脂質実験Ⅱ(脂質の抽出・定量)
6 核酸実験Ⅰ(核酸の抽出)
7 核酸実験Ⅱ(核酸の抽出)
8 酵素の基礎実験Ⅰ(反応時間、基質との親和性)
9 酵素の基礎実験Ⅱ(反応時間、基質との親和性)
10 尿中成分の定量Ⅰ(尿素窒素、クレアチニン)
11 尿中成分の定量Ⅱ(尿素窒素、クレアチニン)
12 ビタミン実験Ⅰ(ビタミンCの定量)
13 ビタミン実験Ⅱ(ビタミンCの定量)
14 結果の解析
15 結果の解析

使用教科書名

新しい生化学・栄養学実験

NO. G02018031　基礎サイエンス実験

沼波　秀樹

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食品学実験や栄養学実験など実験科目の基礎となる科目である。自然科学分野の理解は講義を聴くだけでは不十分で、体験に基づく理解が不可欠である。化学及び生物学の分野より、特に必要と思われる基本的な実験を行い、基本的実験技術を体得するとともに、実験結果の分析、観察、考察力を養い、レポートの書き方を習得する。

学習目標・到達目標

自然科学の基本的な事項が、実験に裏打ちされた理解の上に成り立っていることを学ぶ。実験結果の整理を通して、文献・書籍を自ら調べ、理解を深める習慣をもつ。(化学分野)
基礎的な実験によって基本的な生物現象について理解する。また，実験に対する取り組み方やレポートの書き方などについても学び，2年次以降に行われるより高度な実験に対する基礎力を養う。(生物学分野)

評価方法その他

生物分野と化学分野の総合評価
化学分野:平常点(実験態度を含む授業への参加状況)50%＋レポート50%
生物分野:レポート＋実技試験(100%)

週　テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 生物学分野(1)顕微鏡の基本操作
3. 生物学分野(2)動物・植物細胞の観察
4. 生物学分野(3)染色体・DNA・酵素実験解説
5. 生物学分野(4)染色体の観察と核型分析
6. 生物学分野(5)DNAの抽出と定性分析
7. 生物学分野(6)ATPによる筋収縮実験
8. 生物学分野(7)コハク酸脱水素酵素の実験
9. 化学分野(1)溶液の調製
10. 化学分野(2)中和滴定
11. 化学分野(3)酸化還元滴定
12. 化学分野(4)緩衝溶液
13. 化学分野(5)陽イオンの定性分析
14. 化学分野(6)有機化合物の定性分析
15. 化学分野(7)分子模型
16. 顕微鏡実技試験(生物分野)

使用教科書名

教員作成の実験テキストを配付する。

NO. G02019031　基礎食品学

海野　知紀

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食品の構成成分（水分，タンパク質，炭水化物，脂質，ビタミン，ミネラル，色素成分，呈味成分，香気・におい成分など）の物理的・化学的性質を理解するとともに，食品成分間の反応や調理・加工特性など，我々が食している食品について総合的に学ぶ。また，食品の機能性をベースとした食品（特定保健用食品，特別用途食品，栄養機能食品，機能性表示食品など）について関連法規の枠組みを講義する。

学習目標・到達目標

食品に含まれる各種成分の化学的特徴を習得する。また，人間と食品の関わりについて，食品利用の歴史的変遷はもとより，栄養面，嗜好面，安全面への影響を説明できるようにする。さらに，食品成分の具体的な機能性や疾病予防に対する役割を学び，それらを適切に利用するために食品表示制度の仕組みを把握する。

評価方法その他

定期試験(80%)、小テスト(20%)

週　テーマ・授業目標等

1. 食生活と健康，食料と環境問題
2. 食品の主要成分(水分)
3. 食品の主要成分(炭水化物)
4. 食品の主要成分(脂質)
5. 食品の主要成分(タンパク質)
6. 食品の主要成分(ビタミン)
7. 食品の主要成分(ミネラル)
8. 食品の嗜好成分(色素成分)
9. 食品の嗜好成分(呈味成分)
10. 食品の嗜好成分(香り成分)
11. 食品の物性
12. 食品成分の反応(化学的変化・酵素的変化)
13. 食品の機能性
14. 特定保健用食品・特別用途食品・栄養機能食品・機能性表示食品
15. 栄養成分の表示(強調表示)
16. 定期試験

使用教科書名

食べ物と健康Ⅰ食品成分を理解するための基礎(喜多野宣子・近藤民恵・水野裕士)化学同人

NO. G02020031　応用食品学

林　一也

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

農産物（穀類、いも類、野菜類など）や畜産物、水産物などの食品の成分や特徴を学ぶ。また、それらを基に加工される食品の加工方法等についても学習する。貯蔵法や加工法のいずれにおいても、伝統的な方法に加えて、新しい技術や手法も次々と作り出されている。ここでは、食品の様々な貯蔵法の原理と身近な食品加工法の基礎について理解させる。ここの食品の諸性質やその食品の特長を生かした加工方法等を学ぶことにより、食材や加工食品の高度な利用方法等を理解させる。

学習目標・到達目標

普段食べている食品がいったいどんなものであるのか，その原料に使われている食材がどんなものか，またその性質は，その加工法は，さらには食材の旬とは，など，食品に関する基礎知識を学ぶことによって，管理栄養士として食や栄養を扱う上での食品，食材の基礎を確立させる。

評価方法その他

筆記試験(70%)出席(30%)

週　テーマ・授業目標等

第1回現在の食品に関する状況(食料受給率や供給、消費など)
第2回穀類とその加工品
第3回いも類とその加工品
第4回豆類、種実類とその加工品
第5回野菜類とのその加工品
第6回果実類とその加工品
第7回キノコ類、海草類とその加工品
第8回食肉類とその加工品
第9回乳類、卵類とその加工品
第10回魚介類とその加工品
第11回発酵食品(味噌、醤油、醤油)
第12回発酵食品(アルコール類など)
第13回油脂、甘味料
第14回食塩など調味料、嗜好品
第15回食品に関する新技術
第16回　試験

使用教科書名

改訂 食品学Ⅱ　第2版／菅原龍幸編著／建帛社／2011

NO. G02021031　基礎食品学実験

海野　知紀

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食品成分の分析技術，品質管理技術の進歩は目覚ましいものがある。基礎食品学実験では，食の専門家として必要とされる実験技術を習得し，食品の成分間反応などの実際を確認する。それとともに日本食品標準成分表で採用されている分析方法についても理解する。

学習目標・到達目標

食品中の各種成分の定性・定量法について，滴定法，クロマトグラフィー法などの基礎的な実験方法を修得する。さらに，食品成分の性質と成分間反応などが食品の嗜好性・栄養性に及ぼす影響について，基礎食品学で学んだ知識と関連づけて理解する。

評価方法その他

レポート(60%)、平常点(40%)
(平常点は授業への参加状況・実験に対する積極性で総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等

1. 実験の基礎(薬品・器具の扱い方，結果の記録方法と報告など)
2. 重量測定(水分，灰分)
3. タンパク質の性質(等電点沈殿)
4. 無機質の定量(モール法による醤油の塩化物イオンの定量)
5. 糖の定性(薄層クロマトグラフィーによる清涼飲料水中の糖質の検出)
6. 糖の定量(高速液体クロマトグラフィーによる清涼飲料水中の糖質の定量)
7. ポリフェノールの定量(緑茶飲料に含まれるポリフェノールの定量)
8. 食品成分間反応(アミノカルボニル反応)
9. タンパク質の定量(ケルダール法:試料の分解)
10. タンパク質の定量(ケルダール法:アンモニア蒸留)
11. 脂質の定量(ソックスレー抽出法による総脂質の定量)
12. ビタミンの定量(食品中のL-アスコルビン酸の定量)
13. 食品成分間反応(L-アスコルビン酸の酵素的変化)
14. 無機質の定量(原子吸光法によるカルシウムの定量)
15. 脂質の性質(油脂のケン化価の比較)

使用教科書名

プリント配布

NO. G02022031　応用食品学実験

林　一也

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

加工食品を実際に作り、それらの加工法の原理や基礎的な知識を深める。さらに、食品の加工過程で起きる様々な変化を観察し、食品加工の必要性、意義などを学ぶ。さらに、実際につくった加工食品と市販品との違い（食品添加物等の使用の有無）を比較する。また、食品開発における基礎についても学ぶ。

学習目標・到達目標

伝統的な加工食品や新しい製造技術など，加工食品の製造方法を理解することで，食品に関する興味を深め，基礎知識を習得する。

評価方法その他

レポート(50%)、出席(50%)

週　テーマ・授業目標等

第1回ガイダンス、発酵食品の原理(納豆)
第2回豆タンパク質の加工変化(豆腐)
第3回乳の変化(チーズ)
第4回発酵(味噌)
第5回缶詰製造
第6回肉類の加工(ソーセージ)
第7回果実類のゲル化(マーマレード)
第8回乳類発酵(ヨーグルト)
第9回糖蔵の原理(ミカンシロップ)
第10回高圧殺菌法(レトルト食品)
第11回糖質マンナンの変化(コンニャク)
第12回カビの酵素による糖化実験(甘酒)
第13回乳脂肪の変化(バター)
第14回小麦タンパク質の粘性(パスタ)
第15回糖質の加熱変化(キャラメル化)

使用教科書名

プリント配布

NO. G02023031　食文化論

瀬尾　弘子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食文化とは何か？それが食物学でどのような位置づけにあるかを知る。
また、世界の特徴的な食文化の形成要因を、自然環境、社会環境の両面から考え、世界における日本の食文化の位置づけを把握する。
さらに、日本の食文化の形成・発展の歴史を、主食・副食、日常食・非常の食、外食、郷土食、食の教育などのテーマごとに変遷を学び、現代の食生活の背景を知ると共に、現在および将来の食生活に、学んだことを活かす道を考える能力を養う。

学習目標・到達目標

①世界の食文化形成の要因と特徴を知る
②日本の自然環境の特徴と食文化形成との関係を知る
③日本の伝統食品の特徴と歴史を理解する
④日本の伝統食を現代に生かす能力を養う
⑤現代の食生活の課題解決に食文化が有効なことを知る

評価方法その他

試験または課題レポート(70%)、平常点(30%)の総合評価
(平常点は授業への参加状況および授業時の小レポート、提出物等で総合的に評価)

週　テーマ・授業目標等

1. 食物学、食物の役割
2. 世界の食文化形成と自然環境
3. 世界の食文化形成と社会環境
4. 日本の食文化形成の要因と特徴(1)日本の食文化形成と展開
5. 日本の食文化形成の要因と特徴(2)異文化接触と受容
6. 日本の料理形式の形成と特徴
7. 日本の料理形式の発展　まとめ(1)
8. 日常食の変遷(1)　前近代
9. 日常食の変遷(2)　近代～現代
10. 現代の食生活(1)
11. 現代の食生活(2)
12. 学校給食と課題
13. 伝統食の活かし方
14. 現代の食生活の課題と食育
15. まとめ(2)

使用教科書名

テキストは指定せず、毎回プリントを配布し授業を進める。

NO. G02025031　基礎調理学実習

加藤　理津子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

調理操作は、栄養効果や安全性はもちろんのこと、見た目や香りなど食欲を高めるよう食品を加工することである。その過程で生じる様々な現象には科学的根拠がある。本授業では、小グループ（4～5人）ごとに調理実習を行い、基本的な調理技術を身につける。また、調理学の基礎として、様々な調理法を実践して調理操作中の現象を確認する。学習した内容は、毎回、レポートにまとめる。

学習目標・到達目標

① 基本的な調理技術を身につける。
② 食品の扱い方、適切な分量、調味、標準的な配合、調理法の特徴を理解し、説明できる。

評価方法その他

提出物40%(1回でも未提出の場合は、評価の対象外とする)
定期試験30%
平常点30%(実習時のみ身だしなみ、取り組み状況等を総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション:実習中の服装、実習室の使い方、実習中の諸注意事項など
2. 調理の基本1:計量の方法
3. 調理の基本2:包丁の使い方、味覚官能、だしのとり方
4. 調理の基本3:炊飯の方法、調味の方法
5. 日本料理1:飯、汁物、主菜(茹)、副菜
6. 日本料理2:飯、汁物、主菜(焼)、副菜
7. 日本料理3:飯(炊き込み)、主菜(蒸)、副菜、果物
8. 日本料理4:飯、汁物、主菜(焼)、副菜
9. 日本料理5:飯、汁物、主菜(炒)、副菜、果物
10. 日本料理6:飯、汁物、主・副菜(揚)、菓子
11. 西洋料理1:パン、前菜、メイン(肉)、菓子
12. 西洋料理2:麺、スープ、メイン(魚)、菓子
13. 西洋料理3:アフタヌーンティー
14. 中華料理:前菜、スープ、炒め物、点心、飯
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

「食事コーディネートのための主食・主菜・副菜料理成分表第3版」 群羊社
「七訂食品成分表2016」 女子栄養大出版部
「調理のためのベーシックデータ第4版」 女子栄養大出版部

NO. G02026032　応用調理学実習

加藤　理津子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

基礎調理学実習の内容をふまえ、西洋料理・中国料理の基礎として、主に材料と器具・調理法を学び、行事食や身近な食品の加工も実習する。

学習目標・到達目標

食生活を楽しく、より充実させ、目の前にある食材や物事に感謝する気持ちが大切である。心身共に健康で明るい日常を過ごせるように世界の様々な料理や生活文化を知り、事象に関心を持つこと。

評価方法その他

平常点(50%)定期試験(50%)
(平常点は授業の出席状況・提出物等で総合的に判断する。)

週　テーマ・授業目標等

1、実習　行事食　　彼岸料理
2、実習　西洋料理　主にスープ・サラダ・アントルメを
3、実習　西洋料理　魚・肉料理と組み合わせ実習する。
4、実習　食品加工　パン作り
5、実習　西洋料理
6、実習　中国料理　点心・炸菜・炒菜・蒸菜・溜菜等を
7、実習　中国料理　主に家庭でよく食べる身近な料理を
8、実習　中国料理　実習する。
9、実習　西洋料理　(パイ生地を使って)ソーセージパイ
10、実習　西洋料理　(パイ生地を使って)アップルパイ
11、実習　食品加工　手打ちうどん
12、実習　行事食　　クリスマス料理(ローストチキン)
13、実習　行事食　　正月料理
14、実習　行事食　　正月料理
15、実習　行事食　　雛料理
16、試験

使用教科書名

NO. G02028031　食品の官能評価・鑑別論

林　一也

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

統計処理を含め、具体的な食品について官能評価法、鑑別法について学ぶ。官能検査の目的と意義、官能検査の基本と実施法、官能検査の方法と解析法（比較法、識別法、順位法、評点法など）について学ぶ。演習また、食品の化学的、物理的評価法も含めて教授する。個別食品の鑑別法に関しては、鮮度、熟度の判定法なども含めて行う。

学習目標・到達目標

官能検査の種類・実施方法・検定方法等の基本や、個別食品の食品の鮮度・熟度の鑑別法を習得する。

評価方法その他

リポート35%，試験35%，出席30%

週　テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション:食品の官能評価の目的及び授業の進行方法等
2. 官能検査の基本と実施方法
3. 試料の調製法
4. 比較試験法
5. 識別試験法
6. 評点法
7. 統計処理1
8. 食品の化学的評価法
9. 食品の物理的評価法1
10. 食品の物理的評価法2
11. 食品の鑑別法1
12. 食品の鑑別法2
13. 食品の鑑別法3
14. まとめ
15. 試験

使用教科書名

プリント配布

NO. G02029031　食品衛生学

林　一也

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
食品の取り巻く情勢は、食の多様化、流通の国際化、食品をめぐる環境の変化などめまぐるしく変化してきている。また、国民の健康志向が増大し、残留農薬や異物混入、添加物、違法表示など、食品の安全、安心への期待、関心が高まっている。国際的に整合性のある食品衛生管理への要望が高まっており、管理栄養士にもその責務が求められている。本講義では、様々な食品衛生に関する項目（微生物、食品添加物、行政、農薬、化学物質、その他）を学び、食品衛生管理を行ううえでの基礎とする。

学習目標・到達目標
管理栄養士に必要な食品衛生の基礎を習得することが目標。

評価方法その他
試験（70%）、出席（30%）

週　テーマ・授業目標等
第1回　食品衛生行政および関連法規
第2回　食品の表示
第3回　食品と微生物（微生物の種類）
第4回　食品と微生物（微生物の諸性質）
第5回　食品と微生物（培養方法、防止方法）
第6回　食品の変質と防止方法
第7回　食中毒の定義
第8回　食中毒の種類
第9回　寄生虫と衛生動物
第10回　感染症，BSE，インフルエンザウイルス
第11回　食品汚染物質（カビ毒，農薬，ダイオキシン，発ガン物質，アクリルアミド）第12回　食品添加物
第13回　食品の包装容器
第14回　食品衛生対策，水の衛生，HACCP，ISO
第15回　食品の安全，遺伝子組換え食品
第16回　試験

使用教科書名
食べ物と健康 食品の安全 有薗幸司（編集） 南江堂 2013

NO. G02030031　食品衛生学実験

林　一也

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
食品衛生の立場から、食品の安全性を確かめる物理的，化学的並びに微生物学的諸検査を、身近な食品を対象にして行う。

学習目標・到達目標
微生物の扱い方や水道水の分析方法，遺伝子組換え食品など，食品衛生に関する実験の仕方を習得する。

評価方法その他
レポート（60%）・出席及び授業態度（40%）を総合して判定する。

週　テーマ・授業目標等
1 ガイダンス
2 微生物培養培地作製
3 食品の細菌検査（標準平板培養法，大腸菌群テスト）
4 食品の細菌検査（生菌数，大腸菌群数，大腸菌確定検査）
5 真菌類の食品からの分離（カビ，酵母）
6 真菌類の形態観察，細菌類の分離
7 細菌類の顕微鏡観察（グラム染色など）
8 微生物の抗生物質耐性試験
9 微生物の紫外線，温度耐性試験
10 調理環境と調理器具の微生物汚染度測定
11 遺伝子組換え食品の検出試験
12 食品添加物（着色料）の検出
13 食品添加物（発色剤）の検出
14 米の品質試験，水道水の残量塩素試験
15 GC-MSによる残留農薬の検出

使用教科書名
プリント配布

NO. G02031031　基礎栄養学Ⅰ

海野　知紀

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
栄養と健康および疾病との係わり、栄養と食生活の関係、栄養学の歴史的背景から栄養の定義について学ぶ。また、栄養素の機能について理解を深めるために、栄養素の生理的作用、体構成成分としてのエネルギー源の役割、栄養素の体内相互変換および機能性について体系的に学ぶ。さらに、個体の栄養状態に適合した栄養マネジメントを行うためには、生活活動や生活のリズムにより食欲が大きく変化することも予想されることから、食物の摂取のタイミングによる栄養素の消化・吸収の変化についても基本的概念を中心に解説する。

学習目標・到達目標
基礎栄養学Ⅰでは，「栄養」の定義，その意義を学ぶとともに，摂食行動から消化・吸収および栄養素の体内運搬までの基本的な概念を理解する。特に，食後・食間期の糖質やたんぱく質の代謝変化について，エネルギー源としての生理的意義を修得し，さらには食品たんぱく質の栄養価の評価法を説明できるようにする。

評価方法その他
定期試験（80%）、小テスト（20%）

週　テーマ・授業目標等
1. 栄養の定義、栄養と健康・疾患
2. 遺伝形質と栄養の相互作用
3. 空腹感と食欲、食事のリズムとタイミング
4. 消化器系の構造と機能
5. 消化過程，管腔内消化の調節
6. 膜消化・吸収
7. 栄養素別の消化・吸収（たんぱく質，炭水化物）
8. 栄養素別の消化・吸収（脂質，ビタミン，ミネラル）
9. 栄養素の体内動態，生物学的利用度
10. たんぱく質・アミノ酸の体内代謝
11. アミノ酸の臓器間輸送
12. 摂取するたんぱく質の量と質の評価
13. 糖質の体内代謝
14. 血糖とその調節，エネルギー源としての作用
15. 食物繊維，難消化性糖質
16. 定期試験

使用教科書名
栄養科学イラストレイテッド基礎栄養学 改訂第2版（羊土社）

NO. G02032031　基礎栄養学Ⅱ

海野　知紀

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
ヒトの健康維持・増進には，栄養素やエネルギー量の摂取バランスが重要な要因の一つと考えられる。基礎栄養学Ⅱにおいては，食品中の脂質，ビタミン，ミネラルなどの栄養素が人体の機能維持において果たす役割，その過不足がもたらす欠乏症と過剰症，吸収・代謝の動態などについて解説する。特に，エネルギー産生栄養素は，食事との係わりのなかで具体的な状況を想定して理解することが重要となるので，食後と食間期の代謝の違いとそれに伴って起こる代謝調節の全体像についても解説する。

学習目標・到達目標
基礎栄養学Ⅰに引き続き，栄養素（脂質，ビタミン，ミネラル）の役割を説明できるようにする。摂取する脂質の量・質が生活習慣病の発症に関連することも指摘されていることから，その重要性について理解を深める。ビタミン，ミネラルは，欠乏と過剰の観点からそれらの生理的意義を修得する。エネルギー代謝は，その測定原理を理解するとともに，エネルギー必要量の算出法を学び，管理栄養士に要求される個人および集団の健康維持・増進、疾病予防の活用に発展できるようにする。

評価方法その他
定期試験（80%）、小テスト（20%）

週　テーマ・授業目標等
1. 脂質の体内代謝，脂質の臓器間輸送
2. 貯蔵エネルギーとしての作用
3. コレステロール代謝の調節
4. 摂取する脂質の量と質の評価
5. ビタミンの構造と機能
6. ビタミンの栄養学的機能
7. ビタミンの生物学的利用度
8. ミネラルの分類と栄養学的機能
9. 硬組織とミネラル，生体機能の調節作用，酵素反応の賦活作用
10. 鉄代謝と栄養，ミネラルの生物学的利用度
11. 水の出納
12. 竜解質代謝と栄養
13. エネルギー代謝の概念
14. エネルギー消費量，臓器別エネルギー代謝
15. エネルギー代謝の測定法
16. 定期試験

使用教科書名
栄養科学イラストレイテッド基礎栄養学 改訂第2版（羊土社）

NO. G02033031　基礎栄養学実験

馬場　修

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
栄養素が生体にとってどのような吸収・代謝経路をたどり、生理的役割を果たしているか、またそれらが体内で利用された後、どのように排泄されているかなどについて、実験的手法および動物実験を通して理解する。

学習目標・到達目標
栄養素の消化を実験を通して理解する。
栄養条件を変えて飼育した動物の反応を観察し
個体レベルと栄養素の関係について理解する。

評価方法その他
レポート(50%)、授業への取り組み・参加態度(50%)

週　テーマ・授業目標等
1 実験の予定と諸注意
2 糖質実験(でんぷんの消化Ⅰ)
3 糖質実験(でんぷんの消化Ⅱ)
4 タンパク質実験(タンパク質の消化Ⅰ)
5 タンパク質実験(タンパク質の消化Ⅱ)
6 動物実験(飼料の作成)
7 脂質の消化
8 クロマトグラフィー
9 動物実験(体重、摂餌量の測定)
10 動物実験(解剖)
11 統計解析の手法と解説
12 血液成分の分析NEFA,TG
13 血液成分の分析TChol,HDLChol
14 データ解析
15 データ解析
使用教科書名
プリントを配布

NO. G02034031　食事摂取基準論

朝山　光太郎

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
食事摂取基準論は応用栄養学の一分野に分類される。解剖生理学、基礎栄養学、などの基礎知識に基づいて、「日本人の食事摂取基準」の基本理論や策定の概念に対する理解を深め、各栄養素についての策定された内容のアウトラインを掴むようにする。

学習目標・到達目標
管理栄養士国家試験に要求される食事摂取基準に関する知識を、系統的・網羅的に学習し、実際の献立作成、栄養指導などの実践において、「日本人の食事摂取基準(2010年版)」を利用できる素養を身につける。

評価方法その他
出席状況によって定期試験の受験資格を判定し、成績評価は定期試験の成績で行う。

週　テーマ・授業目標等
1.食事摂取基準:総論
2.食事摂取基準:エネルギー
3.食事摂取基準:エネルギー
4.食事摂取基準:たんぱく質
5.食事摂取基準:たんぱく質・脂質
6.食事摂取基準:脂質
7.食事摂取基準:炭水化物・エネルギー産生栄養素バランス
8.食事摂取基準:脂溶性ビタミンⅠ
9.食事摂取基準:脂溶性ビタミンⅡ
10.食事摂取基準:水溶性ビタミンⅠ
11.食事摂取基準:水溶性ビタミンⅡ・多量ミネラル
12.食事摂取基準:微量ミネラルⅠ
13.食事摂取基準:微量ミネラルⅡ
14.食事摂取基準:水・対象特性Ⅰ(妊婦・授乳婦・乳児・小児)
15.食事摂取基準:対象特性Ⅱ(高齢者)・高血圧
16.試験
使用教科書名
厚生労働省策定　日本人の食事摂取基準(2015年版)/第一出版編集部編/第一出版/2014年

NO. G02035031　ライフステージ別栄養学Ⅰ

朝山　光太郎

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
ライフステージ別栄養学Ⅰは応用栄養学の一分野に分類される。ライフステージ別の栄養学とそれに関連した病態生理についての学習にあたる。ライフステージ別栄養学Ⅰにおいてはライフステージの概論にはじまり、妊娠期（児の側からみれば胎児期）、授乳期および、出生後の乳幼児期から、思春期にいたる成長期における各段階の栄養と母性栄養学を包括的に学ぶ。

学習目標・到達目標
管理栄養士国家試験のガイドラインにおける応用栄養学分野の母性栄養と成長発達に関する知識を系統的・網羅的に学習する。

評価方法その他
出席状況によって定期試験の受験資格を判定し、定期試験の成績によって成績判定を行う。

週　テーマ・授業目標等
1.ライフステージ栄養学の概要
2.栄養アセスメント:身体計測、臨床診査、臨床検査
3.妊娠期、分娩、産褥期の生理と栄養
4.妊娠期、分娩、産褥期の栄養アセスメントと病態生理
5.授乳期の生理、栄養アセスメントと病態生理
6.正常新生児、乳児の生理的発達と栄養アセスメント
7.未熟児、新生児の病態生理と栄養学的問題
8.母乳および調製粉乳の生化学と母乳栄養の利点
9.乳児期の栄養と離乳食
10.小児の先天代謝異常症と特殊ミルク
11.幼児期の生理的発達と栄養アセスメント
12.幼児期の病態生理と栄養ケア
13.学童期の生理的発達と栄養アセスメント
14.学童期の病態生理と栄養ケア
15.思春期の生理的発達、病態生理と栄養ケア
16.試験
使用教科書名
応用栄養学:改訂第5版/渡邊令子ほか/南江堂/2015年/

NO. G02036031　ライフステージ別栄養学Ⅱ

朝山　光太郎

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
ライフステージ別栄養学Ⅱは応用栄養学の一分野に分類される。成人期、更年期、高齢者などの各ライフステージの栄養学とそれに関連した病態生理についての学習と、栄養とエネルギー代謝、スポーツと栄養、環境ストレス（疾患、生体リズム、温度環境、高所、高圧、低圧、無重力など）の条件下における栄養を学ぶ。

学習目標・到達目標
管理栄養士国家試験のために要求されるライフステージ別栄養学の成人期以降に関する基本となる知識を系統的・網羅的に学習する。

評価方法その他
出席状況で定期試験の受験資格を判定し、定期試験の成績で成績評価を行う。

週　テーマ・授業目標等
1.臨床検査の読み方Ⅰ
2.臨床検査の読み方Ⅱ
3.メタボリックシンドロームの病態と診断
4.メタボリックシンドロームの特定健診の仕組み
5.メタボリックシンドロームの特定保健指導の仕組み
6.成人期の生活習慣病と栄養
7.更年期の病態生理と栄養
8.高齢期の身体・精神的変化および栄養とQOL
9.高齢期の病態生理と栄養ケア
10.成人のエネルギー代謝と栄養素(概説)
11.運動生理とエネルギー代謝
12.筋肉トレーニングと栄養補給
13.競技スポーツと栄養
14.ストレス応答・日内リズムと栄養
15.温度環境・高圧、低圧、無重力環境と栄養
16.試験
使用教科書名
健康・栄養科学シリーズ:応用栄養学:改訂第5版/渡邊令子ほか/南江堂/2015年/

NO. G02037031　応用栄養学実習

酒井　治子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

ライフステージ別栄養学Ⅰ・Ⅱ、食事摂取基準論で学んだ理論を基に、身体状況や栄養状態を踏まえ、具体的な食事による栄養ケアの実習を通して、栄養管理（マネージメント）の方法を学ぶ。 妊娠や発育、加齢など人体の構造や機能の変化の特徴を十分に理解し、栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）に対応したケアプランニングとその評価を行う実践力を養う。

学習目標・到達目標

各ライフステージ別の栄養アセスメントの項目とその基準を抽出する力、また、具体的な食事による栄養ケア内容の選定をする力、栄養ケアプランニングとその評価を行う実践力を身につける。

評価方法その他

テスト60%、出席・授業態度20%、レポート20%)などから総合的に評価する

週　テーマ・授業目標等

第 1週･･･栄養マネージメントの理論

第 2週･･･妊娠・授乳期の栄養ケアの特徴とプランニング

第 3週･･･妊娠・授乳期の栄養ケアのプランニング

第 4週･･･妊娠・授乳期の栄養ケアの実習(オリジナル献立)と評価

第 5週･･･乳汁期・離乳期の栄養ケアの特徴

第 6週･･･乳汁期の栄養ケアの実習と評価

第 7週･･･離乳期の栄養ケアの実習(統一献立)

第 8週･･･離乳期の栄養ケアのプランニング)

第 9週･･･離乳期の栄養ケアの実習(オリジナル献立)と評価

第10週･･･幼児期の栄養ケアの特徴と実習(統一献立)

第11週･･･幼児期の栄養ケアのプランニング

第12週･･･幼児期の栄養ケアの実習(オリジナル献立)と評価

第13週･･･高齢期の栄養ケアの特徴と実習(統一献立)

第14週･･･高齢期の栄養ケアのプランニング

第15週･･･高齢期の栄養ケアの実習(オリジナル献立)と評価

使用教科書名

子どもの食生活, 上田玲子、酒井治子他, ななみ書房
2011年
応用栄養学, 田中平三他, 南江堂,2006年

NO. G02038031　健康行動支援プログラム論

國井　大輔

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

メタボリックシンドロームの早期発見・早期改善を目指すべく導入された特定健診・保健指導は、内臓脂肪の蓄積に注目した生活習慣病予防のためのアプローチである。しかし、生活習慣病の発症を未然に防ぐ取り組みとはいえ、慣れ親しんだ習慣を変えることは容易ではない。この講義では、健康づくり支援のハイリスクアプローチである特定保健指導を中心に、成果につなげる健康づくり（行動変容）支援プログラムに関する理解だけでなく、支援者としての心構え、健康づくり支援プログラムの開発に必要な考え方を通して、実践の場で役立つ知識・技術の習得を目指す。

学習目標・到達目標

特定保健指導を含めた健康づくりでは、単に正しい情報提供をするだけでなく、対象者の生活スタイルや思考パターンを考慮した改善環境の見極めとフォローが重要になってくる。支援者が自身の「強み」と「弱み」を知ることから、初対面の対象者と関わる心構えとノウハウを習得する。信頼関係の構築から、支援介入方法の選択・評価・フィードバックまで、行動科学的なアプローチで対象者を導いていくためのスキル習得を目標とする。

評価方法その他

出席(ミニ課題)20%＋レポート20%＋テスト60%による総合評価

週　テーマ・授業目標等

1.健康づくりと行動変容支援とは(導入)
2.健康づくりと支援者の役割 ①
3.健康づくりと支援者の役割 ②
4.健康づくりと支援者の役割 ③
5.健康づくりと支援者の役割 ④
※レポート課題1 → 1ヶ月後レポート提出
6.行動変容理論とアプローチ技法 ①
7.行動変容理論とアプローチ技法 ②
8.行動変容理論とアプローチ技法 ③
※レポート課題2 → 1ヶ月後レポート提出
9.行動変容プログラムの開発 ①
10.行動変容プログラムの開発 ②
11.行動変容プログラムの開発 ③
12.行動変容プログラムの開発 ④
13.ケーススタディ
14.健康行動支援プログラム論のまとめ
※レポート課題の解説とディスカッション含む
15.テスト

使用教科書名

栄養科学シリーズNEXTシリーズ「栄養カウンセリング論 第2版」(講談社)

あくまで「実践」で役に立つスキルを習得するための講義である。実際の現場で得られた情報やデータを活用し、食と健康つなぐ専門家としての知識、技術、考え方を学び、意識を高めて

NO. G02039031　栄養教育総論

辻　雅子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本講義では、栄養教育者としての心構えをはじめ、栄養教育の概念・歴史を学ぶとともに、現代の健康や栄養上の問題点について考え、栄養教育の必要性・意義・目的を学ぶものである。さらに、具体的な教育の対象・場があることを学び、適切な栄養教育マネジメントを実施できるようにアセスメントから計画・実施・評価までの一連のPDCAサイクルを理解し、学びを深めるものとする。

学習目標・到達目標

栄養教育の概念・歴史を理解したうえで、現代の健康や栄養上の問題点を参考に、栄養教育の必要性・意義・目的を理解する。さらに、具体的な教育の対象・場があることを学び、適切な栄養教育マネジメントを実施できるようにアセスメントから計画・実施・評価までの一連のPDCAサイクルを理解することを目標とする。

評価方法その他

定期試験70%、小テスト・レポート10%、平常点20%(平常点は授業への参加状況や討論への参加等で総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等

1 栄養教育の概念
2 栄養教育・栄養指導の歴史
3 栄養教育の対象と機会
4 栄養教育の法的根拠
5 栄養教育のための理論的基礎
6 栄養カウンセリング
7 組織づくり・地域づくりへの展開
8 栄養教育マネジメント
9 健康・食物摂取に影響を及ぼす要因のアセスメント
10 栄養教育の目標設定
11 栄養教育計画立案
12 カリキュラム・指導案立案
13 栄養教育プログラムの実施
14 栄養教育の評価
15 栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル
16 試験

使用教科書名

サクセス管理栄養士講座　栄養教育論
池田小夜子・斎藤トシ子・川野因　第一出版

NO. G02040031　栄養教育方法論

辻　雅子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本講義では栄養教育の方法について学ぶ。対象者の特性の把握・教育の目標設定・教育方法の選択・カリキュラムの立て方、実施に必要な教育方法、教育の評価方法を理論的に学ぶうえで、行動科学理論を学ぶ。また、近年、個人教育に頻繁に用いられているカウンセリングについては、その基本と栄養教育への応用方法を学ぶ。また、栄養教育を効果的に展開するための技法についても理論的に学ぶ。

学習目標・到達目標

栄養教育総論での学びをふまえ、栄養教育方法の概念及び歴史を理解する。とくに近年栄養教育は、学習者の行動変容を目的として行われ、その基本には行動科学の手法を用いる場合が多くなってきた。現代の健康や栄養上の問題点を参考に、栄養教育の必要性・意義・目的を理解し、さらに、本授業で学ぶ行動科学の基礎の学びを食行動変容への応用に必要な知識を理解することに展開していく方法を学ぶことを目的とする。

評価方法その他

定期試験60%、小テスト・レポート20%、平常点20%(平常点は授業への参加状況や討論状況・発表等で総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等

1 栄養教育のための理論的基礎
2 栄養教育と行動科学
3 行動科学の理論とモデル
4 ヘルス・ビリーフ・モデル
5 トランスセオレティカルモデル
6 計画的行動理論
7 社会的認知理論
8 ソーシャルサポート
9 行動カウンセリング
10 行動分析
11 ストレスとコーピング
12 行動変容技法と概念
13 行動置換・オペラント強化法
14 認知再構成・行動契約
15 セルフモニタリング・ソーシャルスキルトレーニング
16 試験

使用教科書名

1.サクセス管理栄養士講座　栄養教育論　池田小夜子・斎藤トシ子・川野因　第一出版
2.医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎　松本千明　医歯薬出版株式会社

NO. G02041031　ライフステージ別栄養教育論

酒井　治子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

栄養教育総論、栄養教育方法論を踏まえて、乳幼児期から高齢期にいたるライフステージ別に、各特性に応じた栄養教育の内容と方法、また、食環境づくりの実践方法を、さらに、栄養教育の国際的な動向を学習していく。

学習目標・到達目標

乳幼児期から高齢期にいたるライフステージ別に、各特性に応じた栄養教育の内容と方法を学ぶ。また、複雑化する現代社会の中で、どのようにすれば健康の維持増進ができるかを食環境との関連から捉え、実践する方法を理解する。さらに、国際的な動向を踏まえて、今後の栄養教育のあり方をグローバルな視点から的確な判断ができる力を養う。

評価方法その他

出席状況・学習態度10%、定期試験70%、小テスト20%などから総合的に評価する

週　テーマ・授業目標等

第1週 オリエンテーション　Ⅰ. ライフステージ別栄養教育　1. 妊娠・授乳期の栄養教育①
第2週 1. 妊娠・授乳期の栄養教育の特徴②
第3週 2. 乳幼児期の栄養教育①
第4週 2. 乳幼児期の栄養教育②
第5週 1・2のまとめ（国家試験での出題傾向）
第6週 3. 学童期・思春期の栄養教育
第7週 4. 成人期の栄養教育
第8週 5. 高齢期の栄養教育
第9週 6. 障がい児・者の栄養教育
第10週 3～6のまとめ（国家試験での出題傾向）
第11週 Ⅱ. 食環境づくりにおける栄養教育
1. 食環境づくりの意義と、環境整備のための法律・制度・施策
第12週 2. 食物へのアクセス面での展開
第13週 3. 情報へのアクセス面での展開
4. 食環境にかかわる組織・集団への栄養教育
第14週 Ⅲ. 栄養教育の国際的な動向
1. 先進諸国における栄養教育
第15週 2. 開発途上国における栄養教育

使用教科書名

1) 健康・栄養科学シリーズ　栄養教育論,丸山千寿子、足達淑子、武見ゆかり編　南江堂 2013
2)子どもの食生活－栄養・食育・保育－上田玲子・酒井治子他編著　ななみ書房 2013

NO. G02042031　栄養教育実習Ⅰ

辻　雅子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

栄養教育を効果的に行なうには、専門知識を教育的理論に基づいて応用できなければならない。本実習では、対象の把握から実施およびその評価にいたる一連のプロセスを理解する。すなわち、対象者から得られたさまざまな情報を整理し、対象者の特性を的確に把握して、問題点を見いだし、栄養教育の目標を設定し、教育実施にむけた計画が立てられ、適正な栄養教育を実践することができるような基礎知識・方法を学ぶ。

学習目標・到達目標

栄養教育総論や方法論での今までの学びより、本実習では、対象の把握から調査実施およびその評価にいたる一連のプロセスを理解し、方法を習得する。すなわち、対象者から得られたさまざまな情報を整理し、対象者の特性を的確に把握して、問題点を見いだし、栄養教育の目標を設定し、教育の実施にむけた計画が立てられることを目標とする。

評価方法その他

レポート60%、グループワーク20%、平常点20%（平常点は授業への参加状況・グループワークへの参加等で総合的に判断する）

週　テーマ・授業目標等

1 栄養教育のアセスメント
2 調査方法－方法の決定
3 調査方法－調査票作成
4 調査方法－調査実施
5 情報の処理－データの特性を読む
6 情報の処理－データの関連性を知る
7 情報の処理－解析方法
8 既存情報の収集と活用
9 栄養教育目標設定
10 栄養教育計画作成
11 教材作成
12 プレゼンテーション案作成
13 栄養教育の実施－ロールプレイング1
14 栄養教育の実施－ロールプレイング2
15 栄養教育の評価

使用教科書名

パソコン&データ活用法　林直樹・久保昌子・永井成美　東山書房

NO. G02043031　栄養教育実習Ⅱ

酒井　治子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

栄養教育総論、方法論、ライフステージ別栄養教育論などの理論を基に、様々な学習者に応じた多様な場での栄養教育のあり方について実習を通して学んでいく。
特に、個人に対する栄養教育と、集団に対する栄養教育等、学習者の実態把握についても量的な質問紙調査とともに、質的調査を実施する能力を養うことができる授業である。

学習目標・到達目標

栄養教育総論、方法論、ライフステージ別栄養教育論などの理論を基に、社会的実践の一形態としての栄養教育実習を行う中で、修得した知識や技術の統合化を行い、総合的な展開力を養う。

評価方法その他

テスト60%、レポート20%、出席及び授業態度20%

週　テーマ・授業目標等

設定した学習者（小集団と個人）の条件に対応し、栄養教育、ヘルスプロモーション等の理論をふまえた教育目標を設定。学習案の立案、ロールプレイングによる実施、評価までのプロセスをフルコースで行う。

使用教科書名

NO. G02044031　カウンセリング論

吉田　恵子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

カウンセリングについての理解を深めるために、諸理論、心理アセスメントなどを学ぶ。また社会に出てから実践で役に立つカウンセリングの基本的な知識・姿勢・技術を面接実習や演習を通して身に付け、カウンセリングマインドを養うとともに、管理栄養士として、栄養カウンセリングが実践できる能力を習得できることを到達目標とする。

学習目標・到達目標

カウンセリングの理論、技術を学び、カウンセリングマインド（人間関係を大切にする姿勢）を養うとともに、社会に出てから、管理栄養士として、栄養カウンセリングが実践できる能力を修得できることを到達目標とする。
クラスでは理論だけでなく実際に役立つ事柄を取り扱う。学生は実践に役立てるとともに、豊かな人間性の発達及び、社会適応能力の向上を目指す。

評価方法その他

平常点（30%）
レポート、提出物（60%）
その他（10%）
（平常点は授業への参加状況・討議への参加等で総合的に判断する）

週　テーマ・授業目標等

1.オリエンテーション
2. 栄養教育におけるカウンセリングの位置づけ
3. 栄養教育に必要な栄養カウンセリングスキル
栄養カウンセリングの基本的態度　受容　実習（1）
4. 栄養教育に必要な栄養カウンセリングスキル
共感　傾聴　実習（2）
5. 栄養カウンセリングに必要なカウンセリング理論
精神分析療法　実習（3）
6. 栄養カウンセリングに必要なカウンセリング理論
来談者中心療法　実習（4）
7. 栄養カウンセリングに必要なカウンセリング理論
行動療法　実習（5）
8. 栄養カウンセリングに必要なカウンセリング理論
交流分析　実習（6）
9. 栄養カウンセリングに必要なカウンセリング理論
家族療法　実習（7）
10.心理アセスメントとは　実習（8）
11.面接によるアセスメント　実習（9）
12.心理テストによるアセスメント　実習（10）
13.栄養教育に関係が深い疾病や健康に関する保健活動　実習（11）
14.カウンセリングに必要な食行動理論　実習（12）
15.ライフステージと食行動の特徴　実習（13）

注:授業は全体のスピードや学生の要望などにより変更することがあります。

使用教科書名

石井　均　編著「栄養士のためのカウンセリング論」建帛社

小松啓子・大谷貴美子編「栄養カウンセリング論」第2版　講談社

NO. G02045031　食情報表現演習

呉　起東

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
現代社会では情報伝達能力は必須である。自分の考えをまとめて効率よく人に伝達し理解してもらわなければならない。人間に一番大切と言っても過言ではない食の様々な情報を効率よく伝える事を本授業の目的とする。

学習目標・到達目標
2次元グラフィックスツールを学習し、食に関わる情報の処理、データの特性・関連性を知り、収集情報の分析と選択をする。最終的には媒体の制作を行う。

評価方法その他
課題50%、最終報告書30%、授業の参加及び平常点20%(但し4回以上欠席すると単位は修得できません)

週　テーマ・授業目標等
1回目 授業のオリエンテーション、2次元CGの概要
2回目 課題1の説明、2次元CGの基礎
3回目 2次元CGの基礎ーツールを理解
4回目 2次元CGの基礎ープリミティブ図形の演習
5回目 2次元CGの基礎ー図形の応用演習
6回目 2次元CGの基礎ー曲線の演習
7回目 2次元CGの基礎ー色彩の演習
8回目 総合課題
9回目 総合課題
10回目 既存情報の収集について
11回目 情報の処理 データの特性・関連性を知る
12回目 収集情報の分析と選択
13回目 収集した情報の活用
14回目 媒体作成
15回目 媒体作成
16回目 プレゼンテーション

使用教科書名
授業を行う際に資料を配布する。

NO. G02046031　臨床栄養学Ⅰ

原　光彦

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
臨床病態における栄養マネジメントは、各方面の医療スタッフとともにチームを組んで行われる。
その中で管理栄養士は多岐にわたる医学的素養を要求される。
臨床栄養学Ⅰでは、解剖生理学や病理学で学んだ知識を臓器系別の疾患ごとに再構築して、各疾患の病態・症状・診断・治療の基礎について解説する。

学習目標・到達目標
解剖生理学や病理学で学んだ知識を器官系別の疾患について整理し、主な疾患の症状、診断、病態、治療について理解する。

評価方法その他
試験100%で行う。

週　テーマ・授業目標等
1循環器系1(心臓の形態・機能と主な疾患)
2循環器系2(血管の形態・機能と主な疾患)
3呼吸器系の形態・機能と主な疾患
4消化器系の形態・機能と主な疾患
5肝胆膵の形態・機能と主な疾患
6内分泌系の形態・機能と主な疾患
7代謝系の形態・機能と主な疾患
8造血器系の形態・機能と主な疾患
9アレルギー・自己免疫疾患
10腎・尿路系の形態・機能
11腎・尿路系の主な疾患
12生殖器・乳腺・運動器の形態・機能と主な疾患
13脳・神経系・感覚器の形態・機能と主な疾患
14皮膚の機能と主な疾患～褥瘡と栄養
15全体総括
16試験

使用教科書名
カラーで学べる病理学(第3版)/渡辺照男/ヌーヴェル・ヒロカワ(1年次の病理学と同じテキスト)

NO. G02047031　臨床栄養学Ⅱ

朝山　光太郎

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
入院患者の臨床病態における栄養マネジメントは、各方面の医療スタッフが協力してディスカッションしながら、施行されることが多くなってきている。このためには管理栄養士は多岐にわたる疾患群について確実な医学的素養を要求される。既に臨床栄養学Ⅰで履修した内容を基礎として、各病態に対する実践的な医学的知識を身につけることをこの授業では行う。

学習目標・到達目標
管理栄養士国家試験のガイドラインからみた、臨床栄養学分野に関する問題点を網羅的に学習し、将来的に、病院(管理)栄養士として勤務する場合を想定して、Nutrition Support Team(NST)の一員として活躍できるための医学的基礎知識を習得する。

評価方法その他
出席状況により定期試験の受験資格を判定し、成績判定は定期試験の成績で行う。

週　テーマ・授業目標等
1.栄養障害・肥満の病態と栄養マネジメント
2.代謝疾患の病態
3.代謝疾患の栄養ケア・マネジメント
4.消化管疾患と病態
5.消化管疾患の栄養ケア・マネジメント
6.肝・胆・膵疾患の病態と栄養マネジメント
7.循環器疾患の病態と栄養マネジメント
8.腎・尿路疾患と病態
9.腎・尿路疾患の栄養ケア・マネジメント
10.呼吸器疾患・血液疾患の病態と栄養マネジメント
11.骨疾患・免疫疾患・アレルギー疾患の病態と栄養マネジメント
12.周術期およびクリティカルケアの病態と栄養マネジメント
13.摂食機能障害・身体・知的障害の病態と栄養マネジメント
14.小児疾患・産婦人科疾患の病態と栄養マネジメント
15.老年症候群の病態と栄養マネジメント
16.試験

使用教科書名
管理栄養士講座 三訂臨床栄養学Ⅱ/鈴木博ほか/建帛社/2015年/

NO. G02048031　臨床栄養アセスメント論

金澤　良枝

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
疾病者の病態を理解し、栄養評価、栄養管理の在り方を理解する。

学習目標・到達目標
疾病者の病態や栄養状態に基づいて、適切な栄養管理アセスメントが出来るようにする。

評価方法その他
出席、試験

週　テーマ・授業目標等
1 オリエンテーション
2 医療制度、NST
3 栄養評価・身体計測
4 栄養評価・食事評価(1)
5 栄養評価・食事評価(2)
6 栄養ケア計画
7 肥満の栄養アセスメントと食事管理
8 糖尿病の栄養アセスメントと食事管理
9 高血圧の栄養アセスメントと食事管理
10 脂質異常症の栄養アセスメントと食事管理
11 腎疾患の栄養アセスメントと食事管理
12 胃腸疾患の栄養アセスメントと食事管理
13 肝臓膵臓疾患の栄養アセスメントと食事管理
14 心疾患の栄養アセスメントと食事管理
15 まとめ

使用教科書名
新臨床栄養学栄養ケアマネジメント
栄養食事療法の実習

NO. G02049031　臨床栄養ケアマネジメント論

金澤　良枝

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
各種疾病を理解し、栄養マネジメントについて学習する。

学習目標・到達目標
疾病者の病態や栄養状態に適した、栄養管理や栄養教育について学ぶ。

評価方法その他
出席　試験

週　テーマ・授業目標等
1 オリエンテーション
2 消化器疾患(1)
3 消化器疾患(2)
4 内分泌代謝疾患(1)
5 内分泌代謝疾患(2)
6 内分泌代謝疾患(3)
7 循環器疾患(1)
8 循環器疾患(2)
9 腎臓疾患(1)
10 腎臓疾患(2)
11 肝臓、胆嚢、膵臓疾患
12 血液疾患
13 骨代謝疾患
14 外科的栄養管理
15 まとめ

使用教科書名
新臨床栄養学ケアマネジメント
栄養療法の実習

NO. G02050031　臨床栄養アセスメント実習

金澤　良枝

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
疾病者の病態を理解し、身体計測などの栄養評価や安静時代謝、各種疾病の栄養管理指導の在り方を実習する。

学習目標・到達目標
疾病者の病態や栄養状態に基づいて、適正な栄養管理アセスメントが出来るよう実習を行う。

評価方法その他
出席、レポート、 試験

週　テーマ・授業目標等
1 オリエンテーション
2 食事摂取量の評価(1)
3 食事摂取量の評価(2)
4 身体計測(1)
5 身体計測(2)
6 身体計測(3)
7 安静時代謝の測定(1)
8 安静時代謝の測定(2)
9 骨量の測定
10 身体活動量の算出
11 栄養評価の媒体作成(1)
12 栄養評価の媒体作成(2)
13 食事分析
14 食事分析の媒体作成
15 まとめ

使用教科書名
新臨床栄養学ケアマネジメント
栄養食事療法の実習

NO. G02051031　臨床栄養ケアマネジメント実習

金澤　良枝

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
疾病者の病態の特徴に基づいた食事管理の方法や栄養指導方法について学ぶ。

学習目標・到達目標
疾病者の病態や栄養状態を把握し、適切な栄養管理について学ぶ。

評価方法その他
出席、レポート提出、試験

週　テーマ・授業目標等
1 オリエンテーション
2 食組構成について、易消化食の献立作成
3 糖尿病食品交換表、エネルギーコントロール食の献立作成
4 易消化食の調理実習
5 エネルギーコントロール食の調理実習
6 脂質コントロール食の献立作成
7 脂質コントロール食の調理実習
8 腎臓病食品交換表、治療用特殊食品の説明
9 たんぱく質コントロール食の献立作成
10 治療用特殊食品を用いた調理実習
11 減塩食の調理実習
12 たんぱく質コントロール食の調理実習
13 糖尿病性腎症の献立作成
14 糖尿病性腎症の調理実習
15 嚥下食の調理実習

使用教科書名
病態栄養ガイドブック
臨床栄養学栄養ケアマネジメント

NO. G02052031　栄養治療学

金澤　良枝

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
医療現場において活躍できる管理栄養士となれよう、各種病態の栄養管理について学ぶ。さらに患者教育のあり方や媒体作成など具体的患者指導が出来るよう授業を展開する。

学習目標・到達目標
各種疾病の栄養療法を習得する。

評価方法その他
試験(80%)、平常点(20%)による総合評価

週　テーマ・授業目標等
1 オリエンテーション
2 栄養評価と栄養補給法
3 糖尿病の栄養治療・症例検討
4 糖尿病腎症の栄養治療・症例検討
5 脂質異常症の栄養治療・症例検討
6 高血圧の栄養治療・症例検討
7 慢性腎臓病の栄養治療 ・症例検討
8 栄養治療のための媒体作成
9 栄養治療のための媒体作成
10 栄養治療のための媒体作成
11 透析療法の栄養管理
12 消化管術後の栄養治療
13 嚥下咀嚼と栄養管理
14 妊娠と栄養管理
15 まとめ

使用教科書名

NO. G02053031　公衆栄養学

田中　弘之

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

住民のQOLの向上と、健康の保持・増進のために、地域、国家のような集団・社会レベルで栄養問題と、それを取り巻く自然、文化、経済的要因との関連を分析し、あるいはニーズを把握し、適切な公衆栄養プログラムを計画・実施・モニタリング・評価・フィードバックするための知識と技能を養う。公衆栄養学では、特に、わが国および諸外国の健康・栄養問題の現状、課題及びそれらに対応した公衆栄養政策について理解を深める。

学習目標・到達目標

集団や地域における人々の健康・栄養状態や社会・生活環境の特徴に基づいた公衆栄養活動について基礎的な理解をする。

評価方法その他

平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合判断する(10%)、定期試験(60%)、小テスト(毎授業内におけるテスト)(30%)などから総合的に評価する

週　テーマ・授業目標等

第1週･･･1. 公衆栄養の概念, 公衆栄養活動の意義

第2週･･･2. わが国の健康・栄養問題の現状と課題　1)高齢社会と健康・栄養問題　2)健康状態の変化

第3週･･･3)国民健康・栄養調査の沿革

第4週･･･3)国民健康・栄養調査の方法

第5週･･･4)食事の変化

第6週･･･5)食生活の変化

第7週･･･6)食環境の変化　(1)食品生産・流通面の要因

第8週･･･(2)食情報の提供面の要因

第9週･･･3. わが国の栄養政策　1)管理栄養士・栄養士養成制度

第10週･･･2)食生活指針と食事バランスガイド、運動指針、休養指針

第11週･･･3)健康日本21の背景と目標設定

第12週･･･3)健康日本21の地方計画

第13週･･･4. 諸外国における健康・栄養問題　1)現状と課題

第14週･･･2)健康・栄養施策-1

第15週･･･　健康・栄養施策-2

使用教科書名

公衆栄養学, 田中平三他編, 南江堂, 2010

NO. G02054031　地域栄養活動論

田中　弘之

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

公衆栄養マネジメントの概念、既存の理論的枠組みを理解し、公衆栄養プログラムの計画策定・実施する手法や技能を修得すると共に、具体的な公衆栄養プログラムについての理解を深める。地域住民を主体としたネットワークづくりや、食環境整備を含めた地域での公衆栄養活動の進め方について理解する。

学習目標・到達目標

わが国や諸外国の健康・栄養問題に関する動向とそれらに対応した主要な栄養政策について理解する。

評価方法その他

平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合判断する(10%)、定期試験(60%)、小テスト(毎授業内におけるテスト)(30%)などから総合的に評価する

週　テーマ・授業目標等

第1週･･･1. 公衆栄養マネジメントの概念とプロセス

第2週･･･2. 公衆栄養アセスメント

第3週･･･3. 住民参加とコミュニティ・オーガニゼーション

第4週･･･4. 公衆栄養活動のための法規

第5週･･･5. 公衆栄養マネージメント　1)公衆栄養プログラムの実施と地域連携

第6週･･･2)母子の公衆栄養プログラムの実際　1

第7週･･･2)母子の公衆栄養プログラムの実際　2

第8週･･･3)学童・思春期公衆栄養プログラムの実際

第9週･･･4)成人・高齢者の公衆栄養プログラムの実際

第10週･･･5)給食施設指導・食環境づくりプログラムの実際

第11週･･･6. 栄養疫学　(1)

第12週･･･6. 栄養疫学　(2)

第13週･･･7. 食事摂取基準　1)概念

第14週･･･2)活用－1

第15週･･･　活用－2

使用教科書名

NO. G02055031　公衆栄養学実習

田中　弘之

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

公衆栄養学で学んだ理論を基に、集団の栄養問題、社会ニーズを把握するために、社会調査法を用いて公衆栄養学の観点から地域診断を行い、それに基づいて地域栄養計画策定の方法論を学ぶ。グループで設定した対象地域・者にあわせて、ディスカッションし、自分の意見を表現する力，意見をまとめる力を習得する。

学習目標・到達目標

集団や地域における健康・栄養問題とそれをとりまく自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析しそれらを総合的に評価・判定する能力を身につける。

評価方法その他

平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合判断する(10%)、グループワークへの積極性(10%)、レポート(20%)，定期試験(60%)から総合的に評価する

週　テーマ・授業目標等

第1週･･･1. オリエンテーション(実習のねらい)

第2週･･･2. 健康増進計画の中での地域栄養計画の位置づけ

第3週･･･3. 地域栄養計画実習(各段階における具体的な進め方)

第4週･･･1)地域特性の把握、体制づくり、社会資源との連携(住民参加)と多部門の参画の重要性

第5週･･･2)上位目標(QOL、健康目標)の決定

第6週･･･3)行動・ライフスタイルの診断

第7週･･･4)準備、強化、実現、環境要因の診断(情報アプローチと環境アプローチの融合)

第8週･･･5)運営・政策診断→事業の優先順位づけ

第9週･･･6)事業計画の作成1

第10週･･･6)事業計画の作成2

第11週･･･7)評価計画の作成

第12週･･･8)発表資料の作成

第13週･･･4. グループでの地域栄養計画案の発表と総合討議

第14週･･･4. －2グループでの地域栄養計画案の発表と総合討議

第15週･･･まとめ

使用教科書名

公衆栄養学, 田中平三編, 南江堂, 2007

NO. G02056031　地域栄養活動演習

田中　弘之

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

地域栄養活動をすすめための理論や方法を基に、集団における栄養問題や、社会ニーズを把握するために社会調査法を用いて地域診断を行い、それに基づいて地域栄養計画策定のための方法論を学ぶ。また、市町村、保険者、事業者、学校等の健康の増進に関わる各主体が、健康づくりに活用できる社会的資源の状況を踏まえた健康課題に対応した、個人の自発的な意志が関わる生活習慣の改善を促すための計画を提案し、実践・評価するまでの実践力を養う。

学習目標・到達目標

地域栄養活動論で学んだ、地域栄養活動をすすめための理論や方法を基に、集団における栄養問題や、社会ニーズを把握するために社会調査法を用いて地域診断を行い、それに基づいて地域栄養計画策定のための方法論を学ぶ。また、その知識を活かすべく、地域での健康課題に対応した地域栄養活動に学生が実際に参画し、保健所などの実務者(管理栄養士など)とともに学ぶ中で、自らが計画を提案し、実践・評価するまで実践力を養うことを目的とする。

評価方法その他

平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合判断する(20%)、レポート(80%)などから総合的に評価する

週　テーマ・授業目標等

第1週　オリエンテーション　地域栄養活動計画の策定方法

第2週　地域栄養活動計画の策定の実際

第3週　地域の特性について(1)

第4週　地域活動支援法(2)－コミュニティワークとは－

第5週　地域活動支援法(3)－コミュニティワークの展開－

第6週　地域活動支援法(4)－ネットワークづくり－

第7週　地域福祉を支える人・組織及び課題

第8週　地域栄養活動計画演習(1)

第9週　地域栄養活動計画演習(2)

第10週　地域栄養活動計画演習(3)

第11週　地域栄養活動計画発表

第12週　グループインタビューを活用した質的調査法

第13週　グループインタビューを活用した質的調査の演習(1)

第14週　グループインタビューを活用した質的調査の演習(2)

第15週　グループインタビューを活用した質的調査の演習(3)

使用教科書名

NO. G02057031　国際栄養活動論

松田　正己

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

我が国の政治・経済は、国際的な環境の中で成立しており、日常生活もグローバル化の中で、国際的なことと切り離せない。国際的な場面における栄養士の活動を理解するため、幅広く、世界の保健協力の実情を理解し、将来の活動の場の広がり考えていく。

学習目標・到達目標

国際的な保健活動、栄養活動について学ぶ。特に、NCD(慢性非感染性疾患)、生活習慣病の予防対策は、世界の課題となりつつあるので、栄養士の果たす役割が大きくなりつつあることを実際に体感する。

評価方法その他

平常点(60点)とレポート(40点)

週　テーマ・授業目標等

1 国際保健とは　松田
2 タイとPHC、ヘルスプロモーション　松田
3 国際保健(アフリカ)　熱田
4 国際保健(アジア)　熱田
5 国際保健(アジア)　熱田
6 国際的な栄養の概要　熱田
7 国際栄養の視点　熱田
8 国際的なエイズと地域　澤崎
9 国際的なエイズ調査の活動　澤崎
10 世界のエイズの国際活動・タイ 澤崎
11 エイズの国際活動・アフリカ　澤崎
12 世界のエイズの活動と日本　澤崎
13 JICA, 協力隊の話　青年海外協力協会,松田
14 協力隊の話　青年海外協力協会,松田
15 イエメン、ホンデュラス、まとめ　松田

使用教科書名

変わりゆく世界と21世紀の地域健康づくりーやってみようﾌﾟﾗｲﾏﾘｰ・ﾍﾙｽ・ｹｱ(第3版)松田正己他編　やどかり出版、2010

NO. G02058031　フードシステム論

二瓶　徹

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本講義では、食品等が消費されるまでの流れを分断して考えるのではなく、それぞれのつながりを理解することを目的としています。
その結果、フードシステムの各段階の機能と課題を把握することができ、将来、食産業で活躍する学生が、時代とともにどのような「フードシステム」が望ましいかを考え、実践できるスキルを身に付けることができるよう、カリキュラムを組んでいます。
受講生は「フードシステム」等への理解を習得したい初心者を対象とし、それらがより理解を深められるよう、身近なテーマを題材にしながら、講義を進めていきます。

学習目標・到達目標

「フードシステム」とは、食に関する生産から消費までの一連の流れのことを指しており、その流れを体系的なものとして捉える考え方です。
本講義では、前半に「フードシステム」の概念を理論と身近な食品を例に考え、理解し、後半は「フードシステム」が時代とともにどのように変遷してきたかを考え、今後の「フードシステム」の望ましいあり方について、自分自身の考えを持てるようになることを目的とします。

評価方法その他

毎回、講義終了時に提出していただくリアクションペーパー内容と期末試験によって評価します。

週　テーマ・授業目標等

1. イントロダクション:「フードシステム」とは？
2. 食生活の変化とその社会的背景①
3. 食生活の変化とその社会的背景②
4. 食品の流通とその変遷①
5. 食品の流通とその変遷②
6. 食品小売業の変遷と今①
7. 食品小売業の変遷と今②
8. 外食・中食産業の起源と今
9. 食品流通の仕組み:生鮮食品と加工食品の生産と流通
10. 食の安心・安全と流通①:顔が見える流通とは
11. 食の安心・安全と流通②:異業種による農業・食品産業
12. フードシステムのグローバル化:自分たちの食べ物は、どこから来たのか？
13. フードシステムと環境問題:フードシステムから環境問題を考える
14. 正しい食品の選択:消費者が正しい食意識・食行動をするためには
15. まとめ

＊開講日及び講義内容は、初回のガイダンスの際にアナウンスします

使用教科書名

日本フードスペシャリスト協会 編(2016)『新版 食品の消費と流通』建帛社.

NO. G02059031　福祉栄養ケアマネジメント演習（児童）

田中　弘之

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

乳児院、保育所、養護施設、障がい児・者施設、高齢者福祉施設での実践事例を基に、それぞれの現場での中心となる制度や法律の基礎から、栄養ケアマネジメントの実践力までを養う。１～４週は全体の栄養ケアマネジメントの仕組み、そして咀嚼・嚥下機能の生涯発達と支援、さらに、５週以降は、児童・高齢者福祉現場での就職の希望者に応じて、就職後、即戦力となる能力を身につける。

学習目標・到達目標

子どもから高齢者まで、保健と福祉の両方の観点から、日常生活に根付いた栄養ケアマネージメントを理解する。

評価方法その他

平常点20%　レポート80%

週　テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション 栄養ケアマネジメントの仕組み(1)
2. 栄養ケアマネジメントの仕組み(2)
3. 保育所で期待される食育とは
4. 保育所における食育の内容
5. 保育所における食育の計画と評価(演習1)
6. 保育所における食育の計画と評価(演習2)
7. 保育所における食事の提供
8. 食を通した子育て支援
9. 保育所の役割と保育の原理
10. 子どもの発達と保育の内容(1)
11. 子どもの発達と保育の内容(2)
12. 保育の計画と評価(1)
13. 保育の計画と評価(2)
14. 食と保育の文化(1)
15. 食と保育の文化(2)

使用教科書名

坂崎:新保育所保育指針サポートブック 保育課程から指導計画作成まで, 保育総合研究会監修, 世界文化社, 平成19年 12月15日

酒井:子どもの食生活, 上田玲子、酒井治子他, ななみ書房, 2008年(応用栄養学実習で使

NO. G02059032　福祉栄養ケアマネジメント演習（高齢者）

田中　弘之

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

高齢者福祉施設での実践事例を基に、それぞれの現場での中心となる制度や法律の基礎から、栄養ケアマネジメントの実践力までを養う。1～2週は全体の栄養ケアマネジメントの仕組み、3週目以降は高齢者福祉施設に入所するご利用者に提供する介護サービスの実際と、その目的や効果を具体的な事例を基に学ぶ。

学習目標・到達目標

保健と福祉の両方の観点から、日常生活に根付いた栄養ケアマネジメントを理解する。介護保険制度における高齢者福祉施設の役割や課題を理解するとともに、栄養士をはじめ、介護職員や看護職員、生活相談員や介護支援専門員など他職種との連携による質の高い介護サービスの実現に向けた取り組みを学び、理解する。

評価方法その他

平常点(40%)、レポート(60%)

週　テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション　栄養ケアマネジメントの仕組み(1)
2. 栄養ケアマネジメントの仕組み(2)
3. 高齢者が陥りやすい症状(1)脱水、低栄養
4. 高齢者が陥りやすい症状(2)褥瘡、摂食・嚥下障害
5. 高齢者ケアにおける食事のポイント
6. 栄養補助食品の種類と活用
7. 栄養ケアマネジメントの実際(1)施設
8. 栄養ケアマネジメントの実際(2)在宅
9. チームケアの基本となるコミュニケーション
10. 品質管理
11. 高齢者福祉施設におけるリスクマネジメント
12. 施設サービス計画書のつくりかた
13. 高齢者施設における看取り介護
14. 要介護高齢者に対する食事介助などの介護技術
15. 要介護高齢者の食事形態(経管栄養・ソフト食など)

使用教科書名

特に指定しない

NO. G02060031　給食経営管理論

吉野　知子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

給食における栄養管理、安全・衛生管理、作業管理および施設管理等の給食運営の理論を学ぶ。さらに食品流通や給食に関わる経営全般を総合的に判断し、栄養面、安全面、経営面全体のマネジメントを行うための基礎理論について理解する。具体的には、特定給食施設の概要と管理栄養士の配置基準、人事・労務管理、原価管理、給食業務の流れ、栄養管理と栄養教育、食事計画と献立作成、食材料管理、大量調理の特性と作業管理、HACCPと安全・衛生管理等について学ぶ。

学習目標・到達目標

特定給食施設における給食経営管理の理論（組織管理・マネジメント、システム、食材料管理、栄養・食事管理、品質管理、衛生管理、危機管理　等）を説明できる。

評価方法その他

定期試験(80%)、平常点(20%)
（平常点は授業への参加状況、課題の提出状況等で総合的に判断する）

週　テーマ・授業目標等

1.ガイダンス
2.給食の概念と特定給食施設
3.給食経営管理の対象と組織
4.給食の組織と人事・労務管理
5.給食経営と会計・原価管理
6.栄養管理と栄養教育
7.食事計画と献立作成
8.食材料管理
9.生産・作業管理
10.安全・衛生管理とHACCP
11.施設・設備管理
12.給食管理における評価とその方法
13.各種給食運営の特徴
14.給食の関係法規
15.まとめ
16.テスト

使用教科書名

給食経営管理論/太田和枝、山部秀子、平澤マキ/第一出版

NO. G02061032　給食経営管理実習

吉野　知子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

給食経営管理論の理論を実践する。特にこの実習では生産管理を中心に学ぶ。給食経営の理念や目標を明確にし、 対象者のニーズに応じ、栄養給与目標に従った「食事」という製品を作る。HACCPの概念に基づいた作業工程表を作成し、製品の品質管理および経営管理（コスト、労務、食材、施設・設備、時間、顧客、危機、情報）を行う。

学習目標・到達目標

給与栄養目標量、喫食者の嗜好などをふまえ、条件に応じた給食の生産管理を実施できる。

評価方法その他

実習点(80%)、定期試験(20%)
（実習点は授業への参加状況、実習技能、班のチームワークと貢献度、班の作成ファイル等で総合的に判断する）

週　テーマ・授業目標等

1. 実習ガイダンス　給食システム計画　給食の理念と目標
2. 栄養管理計画・栄養教育計画
3. 食事計画　献立計画　食材・発注管理
4. 衛生安全管理　生産管理　作業工程管理
5. 品質管理　評価
6. 試作
7. 試運転
8. 第1回給食運営（運営・サポート・評価・ホール）
9. 第2回給食運営（運営・サポート・評価・ホール）
10.第3回給食運営（運営・サポート・評価・ホール）
11.第4回給食運営（運営・サポート・評価・ホール）
12.第5回給食運営（運営・サポート・評価・ホール）
13.第6回給食運営（運営・サポート・評価・ホール）
14.総合評価
15.まとめ
16.テスト

使用教科書名

給食マネジメント実習/松月弘恵、韓順子、亀山良子/医歯薬出版

NO. G02062031　健康フードマネジメント論

吉野　知子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

対象者に応じたフードサービスという視点から、栄養アセスメントからはじまる栄養管理（栄養計画、食事計画）という給食経営・生産（会計、財務、品質評価等）における理論を学ぶ。また各種給食施設の特徴を学び、具体的に献立管理や生産に関しても理解を深め、給食経営管理実習に繋げる。また３年生が運営する給食を喫食することを原則とし、実際の給食を例にあげて解説する。

学習目標・到達目標

給食経営管理におけるマーケティング、外食産業・給食デリバリーサービスおよび各種給食施設の運営上の特徴と管理栄養士の役割を説明できる。

評価方法その他

定期試験の得点(80%)、平常点(20%)
（平常点は授業への参加状況、課題の提出状況等で総合的に判断する）

週　テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 給食経営管理の基礎1　給食管理の基本、人事管理、会計管理
3. 給食経営管理の基礎2　給食経営のアウトソーシング
4. 給食経営管理の基礎3　フードビジネス・外食経営の動向
5. 給食経営情報と活用1　給食におけるマーケティングと顧客情報管理
6. 給食経営情報と活用2　メニューのマーチャンダイジング
7. 給食経営情報と活用3　危機管理、給食のシステム化と施設・設備
8. 給食経営計画の展開とポイント1　栄養・食事計画と生産管理
9. 給食経営計画の展開とポイント2　提供サービス計画
10.給食経営計画の展開とポイント3　品質管理と評価
11.給食経営の実際1　各種給食施設の経営① 病院・学校
12.給食経営の実際2　各種給食施設の経営② 福祉施設・事業所
13.対象集団のアセスメント1
14.対象集団のアセスメント2
15.まとめ（関連法規含む）
16.テスト

使用教科書名

給食マネジメント論/鈴木久乃・太田和枝・定司哲夫編著/第一出版

NO. G02063031　健康フードマネジメント実習

本間　治子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

健康フードマネジメント論の理論を実践する。給食経営管理実習を発展させ、実際に対象者の栄養アセスメントや食行動スタイルを踏まえたうえで栄養計画を立案し、給食運営をマネジメントする。「給食を好ましい食べ方」の気づきとなる栄養教育媒体ととらえ、モデルとしての食事提案とそのテーマにあった栄養情報の提供を行う。また、生産管理では特にHACCPシステムの理解と厨房設備のドライシステムの運用を習得する。さらに提供料理の品質測定を行いQC活動へと発展させる。

学習目標・到達目標

給食運営において、基本食から目的に応じた献立展開ができ、複数の種類の生産管理と品質管理を実施できる。

評価方法その他

実習点(80%)、定期試験(20%)
（実習点は授業への参加状況、実習技能、班のチームワークと貢献度、班の作成ファイル等で総合的に判断する）

週　テーマ・授業目標等

1. 実習ガイダンス　経営計画
2. 栄養管理計画・栄養教育計画
3. 食事計画　献立計画　食材・発注管理
4. 衛生安全管理　生産管理
5. 作業工程管理
6. 品質管理　評価活動
7. 試作
8. 第1回給食運営
9. 第2回給食運営
10.第3回給食運営
11.第4回給食運営
12.第5回給食運営
13.第6回給食運営
14.総合評価　まとめ
15.ライフステージ別栄養・食事管理について
16.テスト

使用教科書名

給食マネジメント実習/松月弘恵、韓順子、亀山良子/医歯薬出版

NO. G02063032　健康フードマネジメント実習

吉野　知子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

健康フードマネジメント論の理論を実践する。給食経営管理実習を発展させ、実際に対象者の栄養アセスメントや食行動スタイルを踏まえたうえで栄養計画を立案し、給食運営をマネジメントする。「給食を好ましい食べ方」の気づきとなる栄養教育媒体ととらえ、モデルとしての食事提案とそのテーマにあった栄養情報の提供を行う。また、生産管理では特にHACCPシステムの理解と厨房設備のドライシステムの運用を習得する。さらに提供料理の品質測定を行いQC活動へと発展させる。

学習目標・到達目標

給食運営において、基本食から目的に応じた献立展開ができ、複数の種類の生産管理と品質管理を実施できる。

評価方法その他

実習点(80%)、定期試験(20%)
(実習点は授業への参加状況、実習技能、班のチームワークと貢献度、班の作成ファイル等で総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等

1. 実習*ガイダンス*　経営計画
2. 栄養管理計画・栄養教育計画
3. 食事計画　献立計画　食材・発注管理
4. 衛生安全管理　生産管理
5. 作業工程表管理
6. 品質管理　評価活動
7. 試作
8. 第1回給食運営
9. 第2回給食運営
10. 第3回給食運営
11. 第4回給食運営
12. 第5回給食運営
13. 第6回給食運営
14. 総合評価　まとめ
15. ライフステージ別栄養・食事管理について
16. テスト

使用教科書名

給食マネジメント実習/松月弘恵、蝉順子、亀山良子/医歯薬出版

NO. G02064031　食・空間プロデュース論

加藤　理津子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食に関連する空間には、食品の加工品を調理した食物を販売するデパート、スーパーマーケット、コンビニエンスストアや街の商店、食べる場を提供する飲食店、調理し食べる家庭の台所や食卓などの空間、そして客をもてなす食事空間がある。これまで学んだ管理栄養士の視点を生かし、食・空間のプロデュースに関連する道具・器具や、消費者のニーズ、トレンド、また心地よく食べるための環境づくりについて、企画・演出、提案方法を課題を通して実践力を養う。
校外見学に係る経費（実習材料費、交通費等）は、自己負担になります。

学習目標・到達目標

「食事」はくつろぎの場であり、人と人を結ぶ場である。満足し気持良く食事するために必要な心がまえを考え、料理と色・食器・道具・飾り花などと食文化とマナー等を実習を含めて理解し、心地よい食事の場を構築できるようにする。

評価方法その他

試験、レポート、プレゼンテーション、授業態度から総合的に評価する。

週　テーマ・授業目標等

1. *ガイダンス*　食事空間のコーディネートとは
2. 食事の文化　日本の食事の歴史について
3. 食事の文化　日本料理様式について
4. 外国の食事について
5. フードサービスマネージメントとは
6. 食事空間やキッチンの環境
7. 食器、箸の様式、使い方
8. テーブルコーディネイトとは
9. 食器とテーブルウエアのトレンド　校外見学①
10. 食器とテーブルウエアのトレンド　校外見学②
11. 実習　クリスマスリース作り
12. 盛り付け、器の使い方
13. 実習　ナフキンの折り方、テーブル花の飾り方
14. 料理の器の取り合わせ　プレゼンテーション
15. アフタヌーンティーについて
16. 試験

使用教科書名

NO. G02065031　健康栄養プロデュース実習

小野　かお里

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

様々な実践活動の場で組織の役割を学び、人々を取り巻く社会構造への認識を深め、将来の管理栄養士の立場からヒューマンサービスの意義を理解する。「食」を通してあらゆるライフステージに適した生活を創造し、乳幼児から高齢者に至る様々な健康状態の人々の健康づくりをプロデュースできる管理栄養士を目指す。

学習目標・到達目標

実践活動の場での管理栄養士および栄養士の位置付け、組織、役割、業務、食を通した取り組み、他職種との連携、情報発信や地域とのかかわり等を理解し、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、プロデュース能力の向上を図る。

評価方法その他

学内授業での出席状況、学外施設での実習出席状況、提出物状況、授業態度等から総合的に判断する。
単位を取得できた場合の成績評価はP(合格)とする。
ただし、学外施設でのオリエンテーションおよび学外施設での実習を欠席した場合は、[illegible]

週　テーマ・授業目標等

1. 実習の概要(前年度報告会)
2. 実習*ガイダンス*、実習計画
3. 事前学習(1)
4. 事前学習(2)
5. 事前学習(3)
6. 事前学習(4)
7. マナー講習
8. 学外施設での実習
9. 学外施設での実習
10. 学外施設での実習
11. 学外施設での実習
12. 学外施設での実習
13. 学外施設での実習
14. まとめ
15. 実習報告会

使用教科書名

管理栄養士の学外実習の手引き(配付)

NO. G02066031　給食運営臨地実習

吉野　知子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

履修条件：以下の指定科目を3科目以上取得していること
食品衛生学、給食経営管理論、健康フードマネジメント論、給食経営管理実習

特定給食施設において給食の運営を学ぶ。給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービスの提供に関する技術を習得する。具体的には小学校、事業祖、高齢者福祉施設のいずれかにおいて給食の運営に関する管理技術、栄養・食事計画の立案能力、給食業務に関する情報処理能力等を習得する。

学習目標・到達目標

特定給食施設(事業所、介護保険施設、病院、小学校、保育所)において、給食運営を行うために必要な、食事計画や調理を含めた給食サービス提供に関する技術を身につけることができる。

評価方法その他

実習施設での指導者の評価、実習報告書の内容を総合的に評価する。単位を取得できた場合の成績評価はP(合格)とする。

週　テーマ・授業目標等

1.事前学習

学内での事前課題学習

実習施設による事前集中講義

2.実習内容

各施設の給食運営について

①施設の概要・特徴

②給食部門の組織、経営管理

③栄養管理・献立管理

④食材管理・生産管理・衛生管理

3.事後学習

実習課題・報告書の提出

報告会

使用教科書名

NO. G02067031　臨床栄養Ⅰ臨地実習

金澤　良枝

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
事前学習（学内）、病院での実習、実習後（学内）の学習を行う。

学習目標・到達目標
病院で実習を行う。病院のシステム、医療スタッフとしての関わり、ベットサイドへの訪問など、病院管理栄養士の業務や患者の栄養アセスメント、栄養マネージメントについて2週間の学外実習で学ぶ。

評価方法その他
実習状態、レポート

週　テーマ・授業目標等
（事前学習）

学内での事前学習

実習施設における事前集中講義

（2週間の実習）

実習施設での実習

（事後学習）

グループでの発表準備、まとめ、媒体作成

使用教科書名

NO. G02068031　臨床栄養Ⅱ臨地実習

金澤　良枝

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
臨床栄養Ⅰ臨地実習終了後の実習となる。

学習目標・到達目標
医療チームの一環として加わり、患者の栄養アセスメントとその判定、それに応じた栄養ケアプランの作成、治療の実施と評価のプロセスの詳細などについて1週間の実習で学ぶ。

評価方法その他
実習状態、レポートなど

週　テーマ・授業目標等
（1週間の実習）

実習施設での実習

使用教科書名

NO. G02069031　公衆栄養臨地実習

田中　弘之

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識及び技能を修得すること

学習目標・到達目標
1). 区市町村
目標
区市町村における地域診断の方法を理解するとともに、住民への身近なサービスである健康日本21、食育推進活動及び母子保健活動を通じた健康づくり対策を知る。
健診、健康教育

評価方法その他
平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合判断する(10%)、グループワークへの積極性(20%)、レポート(70%)などから総合的に評価する

週　テーマ・授業目標等
1. 市町村
(1)実態把握及び分析
(2)計画の策定及び事業の施策化
(3)評価
(4)ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組
(5)健康なまちづくり
(6)人材及び住民組織の育成
(7)連携体制づくり
(8)健康危機管理
(9)その他業務に関連する法律(健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等)
2. 保健所
(1)実態把握及び分析
(2)計画の策定及び事業の施策化
(3)評価
(4)専門的な栄養指導、食生活支援
(5)特定給食施設等への指導
(6)食生活に関する正しい知識の普及
(7)充実した食環境の整備
(8)市町村に対する技術的な支援
(9)人材育成
(10)連携体制づくり
(11)健康危機管理
(12)その他業務に関連する法律(健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法
食品衛生法等)

使用教科書名

NO. G02070031　実践健康栄養プロデュース実習

健康栄養学科　教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
所属する研究室において、管理栄養士としての自分の進路を見つけ出すことができるように、管理栄養士が広く活躍する場を踏まえた社会での実践体験を含む研究課題とする。学生が研究課題を理解し、社会で求められているニーズを把握し、実践力を養うことで、社会に貢献することを学ぶ。

学習目標・到達目標
4年間の学業の集大成とし、進路を切り開くことができる「自ら考え実行する力」を身につける。

評価方法その他

週　テーマ・授業目標等
第1週　オリエンテーション

第2週　～　第14週　所属する研究課題

第15週 発表

使用教科書名

NO. G02071031　総合演習Ⅰ（3年）

吉野　知子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

臨地実習前の事前学内ガイダンスと各班の実習テーマに関する事前準備を行う。病院、事業所、小学校、高齢者福祉施設、介護保健施設、保健所等実習先の指導者から講義を受け、社会における管理栄養士の役割や業務について理解する。

学習目標・到達目標

実習先の特徴や概要を把握し、実習に必要な基本的事項や管理栄養士の使命や役割について、理解し説明できる

評価方法その他

平常点、レポートから総合的に評価する。
（平常点は授業への参加の状況・意欲から総合的に判断する）

週　テーマ・授業目標等

1.総合ガイダンス:臨地実習の概要説明(2年次実施)
2.ガイダンス:臨地実習に向けて全体ガイダンス
3.外部講師による事前講義(1):給食運営　衛生管理全般
4.外部講師による事前講義(2):給食運営　事業所
5.外部講師による事前講義(3):給食運営　保育園
6.外部講師による事前講義(4):給食運営　小学校
7.外部講師による事前講義(5):給食運営　介護保険施設
8.外部講師による事前講義(6):公衆栄養　保健所・保健センター
9.外部講師による事前講義(7):臨床栄養　病院
10.事前準備(1):給食運営臨地実習
11.事前準備(2):給食運営臨地実習
12.事前準備(3):公衆栄養臨地実習
13.事前準備(4):公衆栄養臨地実習
14.事前準備(5):臨床栄養臨地実習
15.事前準備(6):臨床栄養臨地実習

使用教科書名

NO. G02072032　総合演習Ⅱ（4年）

金澤　良枝

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

臨床栄養、公衆栄養、給食経営管理について実習で体験した内容について情報交換を行い、テーマ別に学習する。実習先の指導者からの講義を通して管理栄養士の専門性についてさらに理解を深める。

学習目標・到達目標

評価方法その他

週　テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 就職活動とマナー
3. 働くときに役立つ知識
4. 実習先指導者による講義
5. 実習先指導者による講義
6. 実習先指導者による講義
7. 実習先指導者による講義
8. 実習先指導者による講義
9. 実習先指導者による講義
10. 実習先指導者による講義
11. 事後学習
12. 報告会
13. 報告会
14. 報告会
15. 報告会
15. 報告会

使用教科書名

NO. G02073031　海外文献抄読演習

橋本　文子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

世界の食文化について書かれた文献を読み、各国の食の文化について関心を深めていく。

学習目標・到達目標

世界のさまざまな食文化について英語で書かれた文献を読みながら、それぞれの食文化についての知識を得るとともに英語の読解力の向上を目指す。

評価方法その他

定期試験60%、平常点40%で総合的に評価します。(平常点は授業への積極的な参加、課題の発表などから総合的に判断します。)

週　テーマ・授業目標等

1 Introduction
2 1 English Tea (1)
3 1 English Tea (2)
4 1 English Tea (3)
5 4 The Route of Coffee (1)
6 4 The Route of Coffee (2)
7 4 The Route of Coffee (3)
8 5 The Culture of the Knife and Fork (1)
9 5 The Culture of the Knife and Fork (2)
10 5 The Culture of the Knife and Fork (3)
11 6 The Culture of Chopsticks (1)
12 6 The Culture of Chopsticks (2)
13 6 The Culture of Chopsticks (3)
14 7 The Culture of Eating with the Fingers (1)
15 7 The Culture of Eating with the Fingers (2)
16 定期試験

使用教科書名

A Global Tour of Dietary Culture 世界の食文化 / 成美堂 / 2007年

NO. G02074031　実践栄養英会話

マーク　ルイス

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

This intermediate course provides students practice in English conversational patterns of speaking and listening, with some emphasis on health and nutrition. Students will be provided with speaking models and practical time to speak with classmates.

学習目標・到達目標

The content of this course moves from simple introductions to more complex conversational topics. Students taking this course should gradually feel some ease when discussing topics concerning health and nutrition

評価方法その他

Evaluation will be determined by attendance and attitude (40%) and by a final interview conversation with a partner. This final interview will show how comfortable students have become using everyday English patterns.

週　テーマ・授業目標等

Week 1: How was your spring vacation?
Week 2: Do you like studying? / What are your goals for this semester?
Week 3: How often do you visit a doctor/dentist?
Week 4: How often do you exercise? What kind of exercise do you like?
Week 5: Do you take any vitamin supplements?
Week 6: Do you try to eat a lot of fruits and vegetables?
Week 7: Have you ever eaten out with friends in Yokohama?
Week 8: When did you last go to a hair salon?
Week 9: Do you work? How many hours per week do you work?
Week 10: Do you like going out for a drink or eating out with friends?
Week 11: Are you worried about anything at the moment?
Week 12: Do you get along with your father?
Week 13: Do you believe in fortune telling?
Week 14: Have you ever seen the Milky Way Galaxy?
Week 15: Final interview with a partner

使用教科書名

Say What You Like 3, by Matt Takahashi, Hot Cocoa Press

NO. G02075031　食物・栄養演習A

田中　弘之

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
管理栄養士国家試験科目である社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学を中心に、過去問題、練習問題等を利用しながら出題ポイントを解説する。

学習目標・到達目標
管理栄養士国家試験においての合格基準を満たすため、各出題領域での知識を確実にする。

評価方法その他
定期試験（管理栄養士国家試験範囲より100%）

週　テーマ・授業目標等
1. 基礎栄養　人体
2. 基礎栄養　人体
3. 基礎栄養　応用栄養
4. 基礎栄養　応用栄養
5. 基礎栄養　応用栄養
6. 基礎栄養　臨床栄養
7. 基礎栄養　臨床栄養
8. 生化学　人体
9. 生化学　人体
10. 食べ物　人体
11. 食べ物　人体
12. 食べ物　人体
13. 食べ物　人体
14. 食べ物　食べ物
15. 食べ物　食べ物
16. 定期試験

使用教科書名
クエスチョンバンク管理栄養士国家試験問題解説（メディックメディア）

NO. G02076031　食物・栄養演習B

田中　弘之

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
管理栄養士国家試験科目である社会・環境と健康、人体の構造と機能および疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学を中心に、過去問題、練習問題等を利用しながら出題ポイントを解説する。

学習目標・到達目標
管理栄養士国家試験においての合格基準を満たすため、各出題領域での知識を確実にする。

評価方法その他
試験（管理栄養士国家試験範囲より100%）

週　テーマ・授業目標等
1. 基礎栄養　栄養教育
2. 基礎栄養　栄養教育
3. 食べ物(基礎食品)栄養教育
4. 食べ物(基礎食品)人体(生化学)
5. 人体(生化学)　人体(生化学)
6. 人体(生化学)　食べ物(調理)
7. 人体(生化学)　食べ物(調理)
8. 人体(生化学)　公衆栄養
9. 給食経営管理　公衆栄養
10. 給食経営管理　公衆栄養
11. 給食経営管理　公衆栄養
12. 給食経営管理　公衆栄養
13. 給食経営管理　公衆栄養
14. 給食経営管理　公衆栄養
15. 給食経営管理　公衆栄養
16. テスト

使用教科書名
クエスチョンバンク管理栄養士国家試験問題解説（メディックメディア）

NO. G02077031　食物・栄養演習C

田中　弘之

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
管理栄養士国家試験科目である栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論を中心に、過去問題、練習問題等を利用しながら出題ポイントを解説する。

学習目標・到達目標
管理栄養士国家試験においての合格基準を満たすため、各出題領域での知識を確実にする。

評価方法その他
試験（管理栄養士国家試験範囲より100%）

週　テーマ・授業目標等
1. 人体(解生・臨医)　人体(解生・臨医)
2. 人体(解生・臨医)　人体(解生・臨医)
3. 人体(解生・臨医)　人体(解生・臨医)
4. 人体(解生・臨医)　人体(解生・臨医)
5. 人体(解生・臨医)　人体(解生・臨医)
6. 応用栄養　人体(解生・臨医)
7. 応用栄養　食べ物(食品衛生)
8. 応用栄養　食べ物(食品衛生)
9. 臨床栄養　食べ物(応用食品)
10. 臨床栄養　食べ物(応用食品)
11. 臨床栄養　社会・環境
12. 臨床栄養　社会・環境
13. 臨床栄養　社会・環境
14. 臨床栄養　社会・環境
15. 臨床栄養　社会・環境
16. テスト

使用教科書名
クエスチョンバンク管理栄養士国家試験問題解説（メディックメディア）

NO. G02078031　食物・栄養演習D

田中　弘之

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
管理栄養士国家試験科目である社会・環境と健康、人体の構造と機能および疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学を中心に、過去問題、練習問題等を利用しながら出題ポイントを解説する。

学習目標・到達目標
管理栄養士国家試験においての合格基準を満たすため、各出題領域での知識を確実にする。

評価方法その他
試験（100%）

週　テーマ・授業目標等
1. 基礎栄養　人体(解生・臨医)
2. 基礎栄養　人体(解生・臨医)
3. 食べ物(基礎食品)　人体(解生・臨医)
4. 栄養教育　人体(解生・臨医)
5. 栄養教育　人体(解生・臨医)
6. 栄養教育　人体(解生・臨医)
7. 栄養教育　人体(解生・臨医)
8. 栄養教育　人体(解生・臨医)
9. 栄養教育　応用栄養
10. 栄養教育　応用栄養
11. 公衆栄養　応用栄養
12. 公衆栄養　臨床栄養
13. 公衆栄養　臨床栄養
14. 公衆栄養　社会・環境
15. 公衆栄養　社会・環境
16. テスト

使用教科書名
クエスチョンバンク管理栄養士国家試験問題解説（メディックメディア）

NO. G02079031　食物・栄養演習E

田中　弘之

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
管理栄養士国家試験科目である栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論を中心に、過去問題、練習問題等を利用しながら出題ポイントを解説する。

学習目標・到達目標
管理栄養士国家試験においての合格基準を満たすため、各出題領域での知識を確実にする。

評価方法その他
試験(100%)

週　テーマ・授業目標等
1 給食経営管理論　社会・環境と健康
2 給食経営管理論　社会・環境と健康
3 給食経営管理論　社会・環境と健康
4 給食経営管理論　社会・環境と健康
5 給食経営管理論　臨床栄養
6 給食経営管理論　臨床栄養
7 人体(解生・臨医)　臨床栄養
8 人体(解生・臨医)　臨床栄養
9 臨床栄養　食べ物(応用食品)
10 臨床栄養　食べ物(応用食品)
11 臨床栄養　食べ物(応用食品)
12 臨床栄養　食べ物(応用食品)
13 臨床栄養　食べ物(食品衛生)
14 社会・環境　食べ物(食品衛生)
15 社会・環境　食べ物(食品衛生)
16 試験

使用教科書名
クエスチョンバンク管理栄養士国家試験問題解説(メディックメディア)

NO. G02080031　運動生理学

吉田　博幸

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
身体運動を行なったときには，その運動を遂行するのに最も適した状態となるように身体が変化する。また，ある種のトレーニングを長期間継続すると，その運動を行うのに適した身体に変化する。このような，一過性または継続的な運動の身体に対する影響を，生理学的観点から捉えていくのが本講義の目的である。特に健康との関りで，「運動処方」につながる話が中心となる。

学習目標・到達目標
運動を行った時身体に起こる変化を数字で理解する。
健康のための運動，競技のための運動，リハビリのための運動などについて違いを理解する。

評価方法その他
中間試験(50%)と期末試験(50%)による

週　テーマ・授業目標等
1運動とからだ(骨・関節)
2運動とからだ(筋1)　筋収縮のエネルギー源
3運動とからだ(筋2)　筋力
4運動とからだ(神経)
5運動とからだ(呼吸循環1)　心拍数，心拍出量，換気量
6運動とからだ(呼吸循環2)　最大酸素摂取量
7運動とからだ(呼吸循環3)　乳酸，無酸素性作業域地
8中間試験
9エネルギー消費量
10身体作業能力
11運動と環境
12運動と栄養1　エネルギー摂取量
13運動と栄養2　糖質
14運動と栄養3　たんぱく質
15運動と栄養4　ミネラル，ドーピング
16期末試験

使用教科書名
なし

NO. G02100031　管理栄養士基礎演習

山岸　美穂

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
専門科目の導入にあたって、健康栄養学科でどのように学び、どのように過ごしていくのか、全体を理解する。また、管理栄養士が活躍する場や活躍する可能性のある場の見学を通して、管理栄養士の社会的役割を理解するとともに、気づいたこと、学んだことをグループ討議などで深め、4年間の学びの体系をイメージしながら、学びの意欲を高める。

学習目標・到達目標
実践現場の見学を通し、管理栄養士が活躍する様々な分野や社会的役割を学ぶことで、管理栄養士業務に対する理解を深め、管理栄養士を目指す気持ちを育む。

評価方法その他
平常点(60%)、課題(40%)による総合評価。成績評価は「P合格／D不合格」とする。
(平常点は、授業への出席状況・授業態度、討議への参加状況等を総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等
第1週　オリエンテーション／健康栄養学科のカリキュラムの特徴と4年間の学び
第2週　管理栄養士の役割と、そのための臨地実習(管理栄養士基礎演習・健康栄養プロデュース実習などを含む)の意義
第3週　講演(社会で活躍する管理栄養士を招いて)
第4週　管理栄養士に必要な基礎知識について(講義)1
第5週　管理栄養士に必要な基礎知識について(講義)2
第6週　管理栄養士に必要な基礎知識について(演習)1
第7週　管理栄養士に必要な基礎知識について(演習)2
第8週　実習先でのコミュニケーションの取り方、身だしなみ、マナー
第9週　実践現場の見学1／ソフトを用いた栄養価計算について1
第10週　実践現場の見学2／ソフトを用いた栄養価計算について2
第11週　発表のためのレポート作成
第12週　見学内容の発表と討議
第13週　食事様式セミナー実習　食事マナーの基本
第14週　基礎統計1(集中講義)
第15週　基礎統計2(集中講義)

使用教科書名
特に指定しない。

NO. G02100131　有機化学

佐山　信成

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
有機化学はメタノールのような簡単な分子からビタミンB12や糖、タンパク質のような高分子まで多くの有機化合物を対象としている。有機化合物（炭素化合物）は日常生活に欠かせない食品や繊維・医薬品・動植物の生体内にみられ、それらの化合物を学ぶ有機化学は私たちの生活を化学的に説明し、生活方法の指針を示す学問の一つである。本講義は化学入門（基礎科目）の履修を前提に行う。有機化合物の基本構造や性質、有機化学反応について体系的に学ぶ。また糖やアミノ酸、タンパク質等の分子構造や性質について理解し説明できる学力を身につける。

学習目標・到達目標
生化学等を学ぶ上で必要とされる生体分子や日常生活に関連する化学物質について有機化学の観点から、それらの性質や反応性について説明できる基礎学力を身につける

評価方法その他
平常点(40%)および定期試験の得点(60%)により評価する。
平常点は授業への参加状況・演習・課題レポート等により総合的に判断する。

週　テーマ・授業目標等
1. 有機化合物の構造式と結合、官能基
2. アルカン、アルケン、命名法
3. アルキン、芳香族化合物
4. アルコール、フェノール、エーテル
5. アルデヒド、ケトン
6. カルボン酸
7. カルボン酸誘導体
8. アミン
9. 演習(1)
10. 炭水化物
11. 立体化学
12. アミノ酸、タンパク質
13. 核酸
14. 脂質
15. 演習(2)
16. 定期試験

使用教科書名
マクマリー有機化学概説　第6版(伊東・児玉訳、東京化学同人)
(適宜、プリントも配布する。)

NO. G02100231　健康・食発達心理学

外山　紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食と健康は身体の問題と考えられがちだが，心が深く関与している。本講義では，食と健康のの心理的側面の発達を新生児期から順に解説していく。心と身体が切っても切り離せない関係にあること，他者とのつながりの中で食をみていくことの重要性を理解してもらうことが，本講義の目的である。

学習目標・到達目標

発達のプロセス，発達の各時期における食や健康行動の特徴を理解する。
食や健康の問題を，発達心理学の知識に基づいてとらえられるようになる。

評価方法その他

平常点50%，到達度の確認50%

週　テーマ・授業目標等

1ガイダンス
2味覚の発達・好き嫌いの形成
3食べ物の分配と共食
4哺乳と離乳
5食と身体・生活
6動物飼育を通した学び
7作物栽培を通した学び
8食の社会性
9食に関する理解
10健康と病気に関する理解
11食・健康と自己・仲間関係
12青年期の食
13食・健康と階層
14食と世代
15到達度の確認

使用教科書名

外山紀子・野村明洋(2012)．食をつなげる・食でつながる．新曜社

NO. G00003001　インターンシップ

金森　敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

企業や行政等の現場における実践的な体験を通して、組織で働くことの意味を考えてもらう。仕事を外見だけで判断するのでなく、隠れている部分を含めて総合的に理解し、仕事を担う重さと充実感（働き甲斐）を感じてもらいたい。なお研修先の面接で許可が得られれば、研修生として受け入れてもらえる。従って、受講生の希望に沿う研修先がない場合、あるいは、面接で断られた場合は研修が受けられないケースもでてくる。また、本授業はインターン実習後も6回ほど集中講義を設け、振り返りを行う。本講義の受講者は全員参加を義務づける。これら２点を予め理解しておくこと。

学習目標・到達目標

インターンシップを通して、自分の適性をチェックするひとつの機会としてほしい。
インターンシップを行う目的を理解し、積極的かつ主体的に取り組む姿勢を確立する。
インターンシップの学びをキャリアデザインに結び付ける。
インターンシップの学びを、今後の学生生活（就職活動も含む）に結びつける。
実習先企業の研究を通して、業界・職種・会社についての知識を身に付ける。

評価方法その他

基本的に、研修報告書を中心に評価を行う。ただし、研修報告書並びに研修日誌は、どちらも提出を求める。なお、受入事業所から提出される個人別の研修評価については、研修報告書の評価の際、参考にする。成績考査のウエイトは、報告書50%、宿題30%、研修日誌20%。

週　テーマ・授業目標等

1.イントロ
2.受入先情報からインターンシップについて考える
3.昨年度参加した学生(5～6)を囲んでインターンシップについて考える
4.インターンシップの目的の再設定と明確化
5.履歴書、自己紹介書の書き方(自己分析を含む)
6.実習先の概要説明、マッチングの方法
7.業界、職種、会社の全体概要を知る(マッチング継続①)
8.業界研究・職種研究(マッチング継続②)
9.企業研究(マッチング継続③)
10.社会人としての意識を育む
11.ビジネスマナー①外部講師
12.ビジネスマナー②外部講師
13.実習先の企業研究①(実習先の調整・確定)
14.実習先の企業研究②(実習先の調整・確定)
15.実習前の総振り返り
16.後期授業イントロ
17.インターンシップの振り返りシートの作成
18.インターンシップの振り返りの共有
19.今後の学生生活の取り組み方、将来のキャリアを考える
20.インターンシップの活動を就職活動に生かす
21.報告会

使用教科書名

なし。必要な資料はプリントで配布します。

NO. G00094001　キャリアデザインA

金森　敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

社会には仕事の数だけ多様な働き方がある。みなさんは、どのような働き方をどれくらいイメージできますか？また、働く際において、大学の学びはどのように活きてくると思いますか？本授業では、単に多様な職業や働き方を知るのではなく、「大学での学びとキャリア」がどのようにつながっているのかなどを含めて、多様な働き方について考えてもらう。なお本授業では、グループワークを中心に授業を行う予定なので、受講者数の上限を設ける。また、授業外においても活動があることは付言しておく。

学習目標・到達目標

多様な働き方があることを知り、多様な考え方があることを知るができる。
興味が持てる働き方と大学での学びがどう関係しているのかを「自分の言葉」で記述ができる。

評価方法その他

レポート(60%)
宿題3～4回(40%)

週　テーマ・授業目標等

1.大学を自己成長の場としよう
2.大学での学びと働く
3.社会の多様な働き方
4.「社会にでる」ってどういうこと
5.学びと社会のつながりを知ろう
6.社会を知ろう「会社・職種編・業種編・チームワーク編」
7.リーダーシップについて考える
8.学びと社会を結びつける
9.ゲスト講師(予定)
10.社会に求められる能力
11.RJPとOGへのインタビュー準備
12.RJPとOGへのインタビュー実施
13.RJPとOGへのインタビューまとめ
14.RJPとOGへのインタビュー成果報告
15.振り返り

使用教科書名

なし。必要な資料はプリントで配布します。

NO. G00095001　キャリアデザインB

金森　敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

キャリアは就職という言葉と結びつきがちであるが、この講義の目的は、広い意味での働き方、幸せな職業人生について考えるものである。就職活動に役立つ力を「入社する力」と呼び、生き方や働き方を「働き続ける力」と呼び、両者を区別する。本講義では後者の「働き続ける力」に力点がある。キャリアというとどうしても個人の考え方から始まりがちだが、まずは、現代社会に対する理解を深める必要がある。また、実際に会社で働いている人にグループでインタビューに行ってもらう予定である。なお、本授業では、グループワークを中心に授業を行う予定なので、受講者数の上限を設ける。

学習目標・到達目標

自分がどのような時代や社会に生きているのかを認識し説明することができる。
他者とのコミュニケーションを通して、自己を見つめなおし自分の考えを他者に説明することができる。
自分の生き方や働き方を自分の言葉で記述することができる。

評価方法その他

レポート(60%)
宿題3～4回(40%)

週　テーマ・授業目標等

1.キャリア教育とは何か
2.働くとは
3.憧れの人や彼らを取り巻く職業について考える
4.これまでとこれからの時代の流れを知る
5.社会についてわかっていないことを考える
6.社会を知ろう
7.やりたいことのうそ
8.ゲスト講師(予定)
9.幸せとは
10.良い会社とは
11.良い会社を調べ、そこで働く人に対してのヒアリングの準備
12.良い会社で働く人へのヒアリング実施
13.良い会社で働く人へのヒアリングまとめ
14.良い会社で働く人のキャリアについての成果報告
15.振り返り

使用教科書名

なし。必要な資料はプリントで配布します。

NO. G03001001　生活デザイン演習A

生活デザイン学科　教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

生活デザイン学科の教育の入門編として、専門科目を学ぶための基礎となる考え方や手法を、体験的に学習する。「まねる」をキーワードとして複数の課題を設定する。また江戸東京たてもの園の見学も行う。

学習目標・到達目標

生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを理解すること。

評価方法その他

平常点(20%)、課題(40%)の総合評価。(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。)

週　テーマ・授業目標等

1. 授業の進め方と日程の説明
2. オリエンテーションミーティングのまとめ
3. 各課題の内容と目的の説明
4. 江戸東京たてもの園見学
5. 江戸東京たてもの園見学についての発表
6. 課題「まねる」1
7. 課題「まねる」2
8. 課題「まねる」3
9. 課題「まねる」4
10. 課題についての発表と講評

・授業は集中講義の形式で行う。
・課題「まねる」の授業は1回につき180分
・授業内容と日程の詳細については初回授業で告知する。

使用教科書名

適宜、資料を印刷・配付する。

NO. G03002001　現代生活論（生活デザイン学科）

生活デザイン学科　教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

多様な専門分野の教員による「生活デザイン学科で学ぶこと」というテーマの講義を通して、学生自身が「生活デザイン学科でなにを学ぶのか」「生活デザイン学科で学ぶ意味はなにか」といったことを考える機会を持つ。また、卒業生との懇談会も実施する。
多様な事例を見聞することにより、生活デザイン学科で学ぶ「目的・意義」を再認識することが望まれる。

学習目標・到達目標

生活デザイン学科で学ぶ「目的・意義」を再認識できること。

評価方法その他

平常点(50%)、課題(50%)の総合評価。(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。)

週　テーマ・授業目標等

1. 授業内容の解説と授業日程の説明
2. 生活デザイン学科で学ぶこと①
3. 生活デザイン学科で学ぶこと②
4. 生活デザイン学科で学ぶこと③
5. 生活デザイン学科で学ぶこと④
6. 生活デザイン学科で学ぶこと⑤
7. 生活デザイン学科で学ぶこと⑥
8. 生活デザイン学科で学ぶこと⑦
9. 生活デザイン学科で学ぶこと⑧
10. 生活デザイン学科で学ぶこと⑨
11. 生活デザイン学科で学ぶこと⑩
12. 生活デザイン学科で学ぶこと⑪
13. まとめ①
14. まとめ②
15. レポート作成

・授業日程の詳細については初回授業で告知する。

使用教科書名

適宜、資料を印刷・配付する。

NO. G03003001　卒業研究A

生活デザイン学科　教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

卒業研究の履修には、３年次終了時点で、卒業要件単位を９０単位以上修得していることを条件とする。修得単位が９０単位未満の場合は、９０単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。卒業研究の内容は、家政学及びそれに関連する分野とする。形式は、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも差し支えないが、教員の指導によるものとする。なお、共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

学習目標・到達目標

衣・食・住・もの分野のうちの一つの分野について、1)より進んだ専門知識を持ち、活用する事ができ、問題点の設定と論理的な思考に基づき自らの見解を築くことができる。2)問題意識を持ち、主体的に取り組むとともに他人と協力し、その解決に取り組むことができる。3)習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形として表現できる。

評価方法その他

1)研究要旨の合否判定
2)発表会におけるプレゼンテーションの合否判定
1),2)全てに合格した場合、総合的(100%)に評価する

週　テーマ・授業目標等

1. 指導教員による個別指導(1)
2. 指導教員による個別指導(2)
3. 指導教員による個別指導(3)
4. 指導教員による個別指導(4)
5. 指導教員による個別指導(5)
6. 指導教員による個別指導(6)
7. 指導教員による個別指導(7)
8. 指導教員による個別指導(8)
9. 指導教員による個別指導(9)
10. 指導教員による個別指導(10)
11. 指導教員による個別指導(11)
12. 指導教員による個別指導(12)
13. 発表要旨の作成
14. プレゼン作品・資料の作成
15. 分野別発表会におけるプレゼン

使用教科書名

NO. G03004001　卒業研究B

生活デザイン学科　教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

卒業研究の履修には、３年次終了時点で、卒業要件単位を９０単位以上修得していることを条件とする。修得単位が９０単位未満の場合は、９０単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。卒業研究の内容は、家政学及びそれに関連する分野とする。形式は、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも差し支えないが、教員の指導によるものとする。なお、共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

学習目標・到達目標

衣・食・住・もの分野のうちの一つの分野について、1)より進んだ専門知識を持ち、活用する事ができ、問題点の設定と論理的な思考に基づき自らの見解を築くことができる。2)問題意識を持ち、主体的に取り組むとともに他人と協力し、その解決に取り組むことができる。3)習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形として表現できる。

評価方法その他

1)研究要旨の合否判定
2)発表会におけるプレゼンテーションの合否判定
1),2)全てに合格した場合、総合的(100%)に評価する

週　テーマ・授業目標等

1. 指導教員による個別指導(1)
2. 指導教員による個別指導(2)
3. 指導教員による個別指導(3)
4. 指導教員による個別指導(4)
5. 指導教員による個別指導(5)
6. 指導教員による個別指導(6)
7. 指導教員による個別指導(7)
8. 指導教員による個別指導(8)
9. 指導教員による個別指導(9)
10. 指導教員による個別指導(10)
11. 指導教員による個別指導(11)
12. 指導教員による個別指導(12)
13. 発表要旨の作成
14. プレゼン作品・資料の作成
15. 分野別発表会におけるプレゼン

使用教科書名

NO. G03005001　テキスタイル材料学

花田　朋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

私たちの生活に欠くことのできない被服を科学的に考えるためには、被服材料の性能を正しく理解することが必要である。この講義では、原料となる繊維、繊維からなる糸、糸を組み合わせた織物・編物の構造と代表的な衣料用繊維の性質について解説し、被服材料の物理・化学的性質と性能について理解する。

学習目標・到達目標

被服材料に用いられる代表的な衣料用繊維の構造や特性について理解する。更に、布帛は糸により構成され、糸は繊維の集合体であることを理解し、被服の性能はそれらの構造と性質が複合して発現していることを学び、被服を科学的に捉える思考を身につける。

評価方法その他

定期試験80%・平常点20%(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等

1.テキスタイル材料学って何？
2.被服着用の目的と被服の消費性能
3.繊維について
4.糸について
5.織物の種類と構造(1)
6.織物の種類と構造(2)
7.編物の種類と構造
8.繊維の分類と特徴(1)
9.繊維の分類と特徴(2)
10.繊維の分類と特徴(3)
11.繊維の分類と特徴(4)
12.繊維の分類と特徴(5)
13.被服材料の性能(1)
14.被服材料の性能(2)
15.まとめ
16.筆記試験

使用教科書名

適宜プリントを配布する

NO. G03006001　高分子材料実験

花田　朋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
繊維や被服材料の構造と性質を理解するためには、衣服を構成している基本物質である高分子についての理解が必要である。この授業では求められる繊維の性質と、高分子材料、糸、布の構造との相関関係についての実験をできる限り少人数で行い、その理解を深める。

学習目標・到達目標
高分子材料実験は実験・観察を通して繊維材料の性質を理解すると共に、その元となる繊維を形成している高分子化合物への理解を深めることを目標とする。
到達目標：主要な天然繊維・合成繊維布帛の基本となるいくつかの性質の評価手段を説明できる。

評価方法その他
各テーマ実験を行い、そのレポートを提出してその実験項目の終了となる。
従って実験を行っても、レポートの未提出は欠席扱いとなる。
評価は授業への取り組み方・平常点(20%)・レポート(80%)による。

週　テーマ・授業目標等
1.実験プログラムの説明
2.繊維の太さ測定(1)
3.糸の引張強伸度測定(1)
4.糸の引張強伸度測定(2)
5.紡しわ・プリーツ保持性試験(1)
6.プリーツ保持性試験(2)
7.破裂強さ試験
8.考察
9.引裂き強さ試験
10.剛軟性測定(ハートループ・45° カンチレバー)
11.織物の寸法安定性(1)
12.織物の寸法安定性(2)
13.帯電性試験(1)
14.帯電性試験(2)
15.総合的考察

使用教科書名
実験書を配布する

NO. G03007001　衣繊維学

花田　朋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
衣料用繊維として用いられている各種繊維の分子構造や物理・化学的性質を解説する。更に、高感性繊維、高機能性繊維について、できるだけ多くのサンプルを手に取りながら、新しい繊維とその技術を説明し、繊維を形成する高分子がいかに多彩に変身するか等について解説する。

学習目標・到達目標
繊維材料の構造や性質について考察するためには、その基本物質である高分子についての理解が必要である。各種繊維を分子論的、微細構造的に捉え、繊維集合体として理解する。また、高感性、高機能性繊維の発想の原点、及び製造技術進展の背景を理解し、快適な衣服についての理解を深めることを目標とする。

評価方法その他
定期試験80%・平常点20%(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等
1.繊維の概要
2.繊維高分子の構造
3.繊維高分子の構造と性質
4.セルロース繊維
5.タンパク質繊維(1)
6.タンパク質繊維(2)
7.化学繊維の製造
8.再生繊維
9.合成繊維(1)
10.合成繊維(2)
11.合成繊維(3)
12.高感性・高機能性繊維(1)
13.高感性・高機能性繊維(2)
14.高感性・高機能性繊維(3)
15.まとめ
16.筆記試験

使用教科書名
適宜プリントを配布する

NO. G03009001　機器分析法

花田　朋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
衣の実験分野で使用頻度の高い赤外・紫外可視吸収スペクトル、測色等の光学的測定機器、示差熱分析、示差走査熱量分析等の熱的測定機器および化合物の分離・精製に用いられるクロマトグラフィー等について、その原理・試料調整・測定法等の基礎を学び、解析法の基礎演習も行う。

学習目標・到達目標
衣分野で取り扱う素材の性質を知るための代表的手法である光学的測定、熱的測定および化合物の分離・精製に用いられるクロマトグラフィー等の測定原理と得られる情報・意味を理解出来ることを目標とする。

評価方法その他
定期試験(80%)と平常点(20%)の総合評価(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等
1.講義概略の説明
2.測色の基礎(1)
3.測色の基礎(2)
4.色の測定と解析
5.赤外吸収スペクトルの基礎(1)
6.赤外吸収スペクトルの基礎(2)
7.赤外吸収スペクトルの解析
8.紫外可視吸収スペクトルの基礎(1)
9.紫外可視吸収スペクトルの基礎(2)
10.紫外可視吸収スペクトルの解析
11.熱測定の基礎
12.熱測定の解析
13.クロマトグラフィーの基礎
14.クロマトグラフィーの基礎と解析
15.分析法のまとめ
16.筆記試験

使用教科書名
適宜プリントを配布する

NO. G03011001　繊維製品試験法

藤居　眞理子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
快適な衣生活を送るため、消費者側に立って、繊維製品試験の原理と方法、得られる測定結果と評価について説明する。

学習目標・到達目標
1級衣料管理士の資格科目として必要な知識を得ることを目的とし、JIS試験法を中心として、品質管理や苦情処理のための試験方法、結果のまとめ方が理解できることを目標にする。

評価方法その他
レポートを50%、出席状況を主にした平常点を50%とする。

週　テーマ・授業目標等
1. 繊維製品試験法の目的と意義
2. 内外の繊維製品試験規格
3. 試験条件とサンプリング法
4. 糸の試験　糸の種類と構造
5. 糸の試験　糸の各種性能
6. 布(織物、編物、不織布の試験)布の種類と構造
7. 布の消費性能　形態安定性、外観特性
8. 布の消費性能　着心地特性
9. 布の消費性能　耐久性
10. 製品の試験　縫製部の試験(縫目強さ、滑脱抵抗力、その他の縫製欠点)
11. 製品の試験　接着新と布地(はく離強さ、接着部の外観
12. 衣服の外観保持性　着用試験
13. 衣服の外観保持性　ドライクリーニング・洗濯
14. 衣服の外観保持性　染色堅ろう度
15. 苦情処理　クレーム事例
16. 試験(レポート提出)

使用教科書名
使用しない。

NO. G03012001　被服整理学

藤居　眞理子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

人体保護、体温保持や個人の表現に不可欠な被服について、初期の性能を変化させないために必要な洗濯、しみ抜き、漂白、加工、仕上げ、保管について、その理論と方法を科学する立場で学び、環境を考慮した最終的な廃棄に至るまでを学ぶ。

学習目標・到達目標

衣類の洗濯、手入れについて科学的な視点から考え理解し、快適な衣生活を送るため、環境に配慮した取り扱い方法を学び、洗濯の必要性、洗浄理論、洗濯方法、保管、廃棄方法、洗濯と環境との関係を理解する事を目標とする。

評価方法その他

本学既定の出席状況を満たしていること。
筆記試験(100%)

週　テーマ・授業目標等

1. 洗濯の歴史
2. 被服の汚れ
3. 被服の洗浄(洗濯用水と洗剤)
4. 被服の洗浄(洗濯条件)
5. 被服の洗浄(家庭洗濯)
6. 被服の洗浄(家庭洗濯と家庭用洗濯用機器)
7. 被服の洗浄(商業洗濯)
8. 被服の洗浄(洗濯による損傷・劣化とその防止法)
9. 被服の洗浄(家庭洗濯の問題点)
10. 洗浄試験と評価
11. 洗浄メカニズム
12. しみ抜き
13. 漂白と増白
14. 仕上げ
15. 被服の保管、被服整理と環境
16. 試験

使用教科書名

被服管理学／増子　他／朝倉書店

NO. G03014001　染色学

花田　朋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

染色は古代から人類の生活に密接に関連する重要な分野で、多くの自然科学に関連する、いわゆる境界領域の科学である。この講義では、まず染色の一般概論を述べ、次いで着色理論、染色各論などを、できるだけ平易に解説する。

学習目標・到達目標

繊維製品に施されている染色の概略。すなわち染料、染料の用法、染色方法等の基礎的な知識を身につけると共に、染着にかかわる繊維・染料間に働く親和力の理解を深めることを目標とする。
到達目標:染料の種類と各種繊維への適用を説明できる。

評価方法その他

定期試験80%・平常点20%(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等

1光と色
2光源色と物体色
3混色と等色
4表色
5天然染料の概説
6合成染料の概説
7染料の分類
8セルロース繊維の染色(1)
9セルロース繊維の染色(2)
10タンパク繊維の染色
11合成繊維の染色
12染料-繊維間の結合(1)
13染料-繊維間の結合(2)
14染着平衡
15染着速度
16筆記試験

使用教科書名

適宜プリントを配布する

NO. G03015001　染色学実験

花田　朋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

染色学の講義で習得した知識をもとに、染色の基礎を実際に体得する。
簡単な染料を合成し、その染料を用いての染色や各種染料・繊維間での染色条件等を検討し、染着の機構を理解する。

学習目標・到達目標

染料、染色に関する基礎的な実験を行い、講義で学んだ内容を実体験に基づいて理解することを目標とする。
到達目標:与えられた繊維に適用出来る染料の選択とその手法を例示できる。

評価方法その他

各テーマ実験を行い、そのレポートを提出してその実験項目の終了となる。
従って実験を行っても、レポートの未提出は欠席扱いとなる。
評価は授業への取り組み方・平常点(20%)・レポート(80%)による。

週　テーマ・授業目標等

1.実験概略の説明
2.酸性染料Orange・の合成(1)
3.酸性染料Orange・の合成(2)
4.酸性染料Orange・の合成(3)
5.Orange・による羊毛の染色
6.ナフトール染料による木綿の染色(1)
7.ナフトール染料による木綿の染色(2)
8.アクリル繊維の染色(1)
9.アクリル繊維の染色(2)
10.木綿の建て染め染料による染色(1)
11.木綿の建て染め染料による染色(2)
12.各種染料による染色(1)
13.各種染料による染色(2)
14.各種染料による染色(3)
15.総合的考察

使用教科書名

実験書を配布する

NO. G03016001　工芸染色技法

藤居　眞理子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

我が国の代表的な伝統工芸染色技法を解説する。教材としてビデオおよび標本を使用する。

学習目標・到達目標

我が国の代表的な伝統工芸染色技法を知ることにより、先人の知恵と努力、技法の特徴、衰退の原因、今後の在り方などについて理解し考察する力を養う。また優れた伝統工芸染色を存続させるために各自が出来ることを考える。

評価方法その他

本学規定の出席状況を満たす事
授業中のレポートを50%、定期試験の得点を50%とする。

週　テーマ・授業目標等

1. 序説
2. 染色の分類
3. 染色の歴史
4. 三纈の技法
5. 絞り染めの技法
6. 有松(鳴海)絞り等の技法
7. 藍染め等
8. 糊防染の技法と特色
9. 友禅染の発祥
10. 京友禅
11. 加賀友禅・東京友禅等
12. 型染めの技法
13. 型染めの分類と特徴
14. 江戸小紋等
15. まとめ
16. 試験

使用教科書名

テキストは用いず、ビデオ鑑賞や実物標本を用いる。

NO. G03017001　応用染色実習・演習

藤居　眞理子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
染色の基礎を踏まえ工芸的手法で染色品を制作し、繊維製品の審美性を高めるための染色の意義を理解する。

授業を通し、小さな努力の積み重ねの大切さ、自由にならない作品制作のもどかしさとそれに対応できる柔軟な発想と応用力、前向きな姿勢、一段階ごとの出来上がりを詳細に評価し、一喜一憂するのではなく、それを乗り越えて成し遂げることの大切さ体験する。
作り上げた達成感と喜びを味わい、自分が丹精込めて創りだした作品をいつくしむ心

学習目標・到達目標
わが国の代表的な伝統染色技法である絞り染め、ろうけつ染め、友禅染めの小作品制作を体験し、染色技法の特徴を理解し、初歩技術の習得とデザイン力、色彩感覚を身につけることができる。
化学染料と天然染料の染色方法と発色の違いと理解できる。技術の習得とデザイン力、色彩感覚を身につけることができる。

評価方法その他
本学既定の出席状況を満たしていること。
作品制作およびレポート(100%)

週　テーマ・授業目標等
1. 学習上の心構えと諸注意
2. 染色の基礎　衣料用繊維の染色
3. 染色の基礎　各種染色技法における染色技法の特徴と制作工程
4. 絞り染め　図案の考案と下絵描き
5. 絞り染め　各種絞り技法
6. 絞り染め　浸染(天然染料での染色方法を含む)
7. ろうけつ染め　図案の考案と下絵描き
8. ろうけつ染め　ろう描き
9. ろうけつ染め　染色
10. 友禅染め　図案の考案と下絵描き
11. 友禅染め　糸目糊置き
12. 友禅染め　糸目糊置きと地入れ
13. 友禅染め　色挿しと蒸し
14. 友禅染め　糊伏せと地入れ
15. 友禅染め　地染め
16. 友禅染め　蒸し、水元、仕上げ

使用教科書名
使用しない。

NO. G03018001　服飾設計論

富田　弘美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
アパレルの設計製作に関して、人体構造や人体の形態、人体とアパレル、デザインとアパレルパターンの関係、素材、副資材、縫製技法などを理解し、適正な評価ができる設計の基本を学ぶ。

学習目標・到達目標
着衣基体としての人体および人体形態の把握法、人体を包むアパレル(衣服)の形状、具体化するための素材やパターン、縫製技法などの要点を理解する。

評価方法その他
平常点30%(授業への参加状況・提出期日などで総合的に判断する)レポート提出40%、提出物(製図・原型など)30%

週　テーマ・授業目標等
1. アパレル設計と生産、人体の構造1(人体の構造と計測)
2. 人体の構造2(衣料サイズシステム)
3. 身頃原型の製作1(後・前身頃の製図)
4. 身頃原型の製作2(ダーツ計算、トレース)
5. 身頃原型の製作3(トワル裁断、縫製)
6. 身頃原型の製作4(縫製、試着補正点検、パターン修正)
7. 身頃原型の製作5(試着補正点検、パターン修正)
8. デザインとパターンへの展開1(胸ぐせ処理、衿のバリエーション)
9. デザインとパターンへの展開2(スカート・袖のバリエーション)
10. 材料の選定(主素材)
11. 特別授業 (副資材)
12. アパレルの縫製(布地の立体化技法、縫い糸と針)
13. ファッションデザイン画1(素材表現、下描き)
14. ファッションデザイン画2(点検、彩色)
15. ファッションデザイン画3(彩色、仕上げ)

使用教科書名
プリント配布

NO. G03020001　服飾造形実習C

富田　弘美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
裏付２枚袖のテーラードジャケットを課題として、素材の種類、ジャケットの構成とシルエット、パターンメーキング、芯地・裏地の扱い、プレスの仕方、ポケットの種類と縫製等を学んで、立体的な形態を造形するための総合的な知識と制作技術を習得する。

学習目標・到達目標
表地、裏地、芯などから構成された衣服のパターンメーキング、素材、縫製技術などを学び、デザイン、製作への応用力を身につける。

評価方法その他
平常点40%(授業への参加・状況、提出期日などで総合的に判断する)作品50%、部分縫い10%

週　テーマ・授業目標等
1. ジャケットのシルエット、パターンメーキング1(身頃)、生地と副資材準備
2. パターンメーキング2(衿、袖)、生地と副資材標本作成
3. パターンのトレースとパターン展開
4. 表生地と芯地の裁断、芯地の扱い、しるしつけ
5. 仮縫い合わせ
6. 試着点検、補正とパターン修正、裏地・見返し・衿裁断
7. 袖の縫製1(表袖)
8. 袖の縫製2(裏袖と表裏合わせ)、ポケットの構造と部分縫い練習
9. 表身頃・衿の縫製
10. ポケットの縫製
11. 裏身頃・衿の縫製
12. 表身頃と裏身頃の合わせ
13. 袖付け、中仮縫い点検、ボタンホール(ミシン)
14. 裏地の処理
15. ボタンホール(ミシン)、仕上げ
16. 発表、提出

使用教科書名
プリント配布

NO. G03022001　アパレル商品論

富田　弘美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
アパレルにおけるマーケティング、企画、設計、商品、販売、小売企業などを具体的な事例を交えて学び、ファッションビジネスを理解する。
また、現状のファッションビジネスを把握し、今後のこの業界の将来について考えや意見まとめて発表する。

学習目標・到達目標
ファッションビジネスの仕組みを把握し、アパレル企業における企画から商品化までのプロセスを理解できる。

評価方法その他
平常点30%(授業への参加状況へなどで総合的に判断する)プレゼンテーション70%

週　テーマ・授業目標等
1. ファッションビジネスとその現状、ファッション情報取集
2. ファッションビジネスの仕組み
3. アパレルとマーケティング
4. ターゲット設定、商品企画・設計、企業の商品企画事例
5. ターゲット分析、調査方法、体操着の調査事例
   体操着のデザイン事例(コンセプト、色彩、素材、デザイン画設定)
6. ファッション商品(婦人服)
7. ファッション商品(和服)
8. ファッション販売
9. ファッション小売企業の組織と職務
10. ファッション小売企業と経営戦略
11. 発表内容の質問、相談
12. ファッションビジネスの課題と展望
13. ファッションに関する情報の発表準備1
14. ファッションに関する情報の発表準備2
15. プレゼンテーション

使用教科書名
プリント配布

NO. G03024001　衣構成学実習B

富田　弘美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
浴衣の着装に必要な半幅帯、ワンピース型肌襦袢などを製作する。半幅帯は各自の浴衣にコーディネイトした色、柄、素材などで製作し、新しい帯結びを考える。
また、衣服と自身の肌や髪の色、さなわち、パーソナルカラーの専門講師による特別授業、基礎のミシン縫い、コンシールファスナー付けと裏地の始末、英語による浴衣の着付けなどを学ぶ。

学習目標・到達目標
浴衣の特徴や着こなしを把握し、自身の生活の場面において着装を楽しむことができる。

評価方法その他
平常点20%（授業への参加状況・提出期日などで総合的に判断する）、作品50%、プレゼンテーション30%

週　テーマ・授業目標等
1. 基礎のミシン縫い1（基礎縫い準備、縫い代始末）
2. 基礎のミシン縫い2（コンシールファスナー、縫い代始末）
3. 基礎のミシン縫い3（裏地の扱い）
4. 基礎のミシン縫い4（巻きロック応用）
半幅帯1（積もり、芯、裁断）
5. ワンピース型肌襦袢1（身体計測、見積もり、裁断）
6. ワンピース型肌襦袢2（裁断、印つけ、縫製）
7. ワンピース型肌襦袢3（身頃とペティコートを合わせる）
8. ワンピース型肌襦袢4（仕上げ）
9. 特別授業
10. 半幅帯2（印つけ、表地の縫製）
11. 半幅帯3（芯入れ、しつけ）
12. 半幅帯4（引き返し口のとじ、仕上げ、帯結びの検討）
13. 英語による浴衣の着付け
発表準備1
14. 発表準備2
15. 浴衣と帯のコーディネイトおよび着装のプレゼンテーション（着装と評価）

使用教科書名
プリント配布

NO. G03025001　テキスタイルデザイン実習・演習

蒲池　香津代

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
テキスタイルは衣服やインテリアの素材として多く用いられているが使用材料や制作技法などにより様々に変化する。本講では、手織り機を使用して織物制作を行い、基本的知識を習得すると共に繊維素材・織組織・織密度の違いによる表現効果やテクスチャーの差、また色彩効果などについての理解を深める。応用作品では目的や用途を考慮した設計をし、材料を各自で選択して制作を行う。さらに、プリントデザインやファッションスタイルに適合したテキスタイル素材の選び方を学ぶ。また、簡単な刺繍の基礎練習も行う。

学習目標・到達目標
織物の組織、糸と織密度との関係、風合いなどについて理解を深める。テキスタイルのデザイン方法や利用方法を学習する。

評価方法その他
提出物（制作レポートを添付）60%　試験20%　平常点（授業への取り組み）20%

週　テーマ・授業目標等
1. オリエンテーション、編織物について　コラージュの制作
2. 織物についての概要説明、三原組織、繊維素材、布地の風合い、整経
3. 糸密度と糸の太さと織物の関係、綜絖通し、筬通し
4. 糸の種類・組織と風合いとの関係、機へセット
5. 基礎織り
6. 基礎織り
7. 基礎織り
8. 刺繍基礎作品制作
9. 刺繍基礎作品制作
10. 応用作品企画
11. 応用作品制作
12. 応用作品制作
13. 応用作品制作
14. 仕上げ
15. まとめ
16. 試験

使用教科書名
資料を配布

NO. G03026001　テキスタイルアドバイザー実習

藤田　恵子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
繊維製品の試験、検査、企画、生産、流通、販売などの関連企業や、消費者行政機関などの該当部門において、45時間（1週間）以上の実習を行い、職場の現状を体得する。

学習目標・到達目標
TAの役割を理解し、自ら問題意識を持ち、進んでそれに取り組み解決する能力を養うことを目標とする。
卒業後、テキスタイルアドバイザーとして関連の実務につくために、在学中に実習を通して現場の状況と実務を体得することができる。

評価方法その他
平常点30%（実習、説明会、報告会の参加状況などを総合的に評価する。）
レポート提出30%
報告会での口頭発表40%

週　テーマ・授業目標等
受入先の実態に応じて以下の内容で実習する。

A. 企画・設計業務

B. 流通・販売業務

C. 品質管理・品質保証業務

D. 試験・検査業務

E. 消費者対応・相談業務

F. その他

使用教科書名

NO. G03027001　消費科学

大橋　正男

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
衣料品を中心した繊維製品が多様化、消費者が個性化しているため、供給側と需要（消費者）側のあり方が問題になっている。
供給側から複雑化する経済のの仕組みの中でアパレル・流通の体制、需要側から品質等を通して、現状を把握し、情報化、国際化の時代での今後のあり方を考察する。
並びに、ＴＡ（衣料管理士）過程の必修科目のため、繊維製品の生産・流通・消費に関する知識を体系的に学ぶ。
以上をより理解するため、可能であれば、検査機関または素材展を見学する。

学習目標・到達目標
TA(衣料管理士)として、また賢い消費者になるために、繊維製品の品質、消費者行動、繊維製品の生産・流通・消費などの考え方・知識を収得する。

評価方法その他
レポート60%、出席状況・態度20%、課題(講義中に出題する複数の簡易レポート)20%。以上を目安に総合評価する。

週　テーマ・授業目標等
1.オリエンテーション　消費科学とは
2.繊維製品の品質　品質とは
3.繊維製品の品質　品質の評価
4.繊維製品の品質　品質保証
5.繊維製品の品質　品質表示
6.繊維製品の品質　安全性、消費者苦情
7.消費者行動　消費者行動の特徴
8.消費者行動　消費者行動の要因
9.消費者行動　商品・店舗と消費者
10.消費者行動　消費者調査
11.繊維製品の生産・流通・消費　産業の構
12.繊維製品の生産・流通・消費　生産
13.繊維製品の生産・流通・消費　流通
14.繊維製品の生産・流通・消費　消費・環境対応
15.まとめ
ただし、検査機関または素材展の見学も考えられ、内容の省略と順序に違いが生じることもあり得る。

使用教科書名
『衣生活のための消費科学』
日本衣料管理協会刊行委員会/(社)日本衣料管理協会/平成23年

NO. G03028001　衣環境衛生学

植竹　桃子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
衣服は、人間に最も近い環境である。この衣環境を快適に保つための、人体の体温調節機能や外部環境に適応した「衣服気候」、人体の形態・運動変形に対応した「衣服の運動機能性」、皮膚の構造・生理に対応した「衣服の接触快適性」について学ぶ。さらに様々な着用場面に視点を広げ、機能的で快適な衣環境の実現を追求する。

学習目標・到達目標
「人間—衣服—外部環境」という一連のシステムの中で、人間，外部環境における諸要因に適応した、快適な衣環境を設計する力をつける。

評価方法その他
平常点（授業への参加状況、討論への参加等）:20%
定期試験:80%

週　テーマ・授業目標等
1. 衣環境の快適性に関わる要因
2. 衣服と人体形態（1）人体の構造・形態
3. 衣服と人体形態（2）動きに伴う体表の変形
4. 衣服圧と人体生理
5. 人体の体温調節システム
6. 衣服気候（1）着衣による熱移動
7. 衣服気候（2）着衣による水分移動
8. 着衣による気候適応
9. 皮膚・衣服の衛生
10. スポーツウェアの動作適合性・温熱生理
11. 乳幼児の身体的特徴と衣服(1)おむつ
12. 乳幼児の身体的特徴と衣服(2)衣生活行動の発達
13. ユニバーサル・ファッション（1）高齢者
14. ユニバーサル・ファッション（2）ハンディキャップ
15. はき物の快適性
16. 定期試験

使用教科書名
衣環境の科学（田村照子編著，建帛社）

NO. G03029001　食品機能科学

黒田　久夫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
近年の栄養学や食品科学の発展は目覚ましく、食品のおいしさ（2次機能）と、食と健康（3次機能）に関する多くの知見が報告されています。また、それらのメカニズムを利用して新しい食品素材や技術が次々と実用化されています。本講義では、最新の研究成果を紹介しながら、食品の2次機能と3次機能の基礎と製品応用例を学んで行きます。

学習目標・到達目標
どのような食品成分・素材が2次機能や3次機能を持ちどのように機能するか、そのメカニズムを説明することができる。

評価方法その他
課題提出(50%)
期末テスト(50%)

週　テーマ・授業目標等
1.ガイダンス
2.食品の2次機能①:2次機能の研究法
3.食品の2次機能②:味覚と味覚物質（1）旨味・甘味・苦味・コク味
4.食品の2次機能③:味覚と味覚物質（2）酸味・塩味
5.食品の2次機能④:嗅覚と香り物質
6.食品の2次機能⑤:体性感覚（刺激や触感）
7.食品の2次機能⑥:おいしさ・嗜好・食欲
8.食品の3次機能①:3次機能の研究法（1）ゲノム栄養学
9.食品の3次機能②:3次機能の研究法（2）機能性成分の探索とエビデンスの収集
10.食品の3次機能③:食物繊維・オリゴ糖
11.食品の3次機能④:フラボノール・カロテノイド
12.食品の3次機能⑤:脂質
13.食品の3次機能⑥:ペプチド
14.食品の3次機能⑦:その他
15.食品の3次機能⑧:機能性食品の未来と課題
16.テスト

使用教科書名
プリントを配布します。

NO. G03030001　食品加工貯蔵学

黒田　久夫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
食品は生物を素材とすることから、そのままの状態では腐敗・変質し品質が劣化します。従って、安全で品質が安定した食品を作るには、適切な加工法や貯蔵法が必要になります。また、食品は加工・包装することによりおいしさや利便性が改善され、付加価値を高めることができます。本講義では、食品の品質劣化のメカニズムを理解し、加工貯蔵の基本的な技術を学びます。

学習目標・到達目標
食品の品質劣化のメカニズムと、それを抑制する加工貯蔵技術を説明することができる。

評価方法その他
課題提出(20%)
期末テスト(80%)

週　テーマ・授業目標等
1.ガイダンス／食品加工の目的、原理と技術
2.加工①:植物性食品の加工
3.加工②:動物性食品の加工
4.加工③:油脂とその加工品
5.加工④:発酵食品・調味料
6.加工⑤:食品加工と製造技術
7.加工⑥:レオロジー
8.貯蔵①:貯蔵における劣化要因と貯蔵法
9.貯蔵②:包装技術
10.貯蔵③:食品の貯蔵と流通
11.加工貯蔵による食品成分の化学的変化
12.食品添加物
13.食品の表示と規格
14.バイオテクノロジーと食品
15.まとめ
16.テスト

使用教科書名
プリントを配布します。

NO. G03031001　食品微生物学

黒田　久夫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
微生物は、私達が生きて行く上で必要不可欠な存在ですが、目に見えないため普段はその恩恵に気がつきません。本講義では、そのような微生物の世界について、「微生物と食」と「微生物とヒト」をテーマに、微生物学の基礎、発酵食品の製造法、微生物フローラ等について学びます。

学習目標・到達目標
微生物学の基礎を理解し、微生物と食との関わり、微生物とヒトとの関係について学ぶ。

評価方法その他
課題提出(50%)
期末テスト(50%)

週　テーマ・授業目標等
1.ガイダンス
2.微生物学の歴史
3.微生物の取扱い方法
4.微生物の種類と分類
5.微生物の栄養・増殖・代謝・発酵
6.発酵食品①:酒類
7.発酵食品②:発酵調味料
8.発酵食品③:穀類・豆・野菜の発酵食品
9.食品の腐敗と微生物
10.微生物による食性病害
11.ヒトと微生物①:腸内フローラ（1）
12.ヒトと微生物②:腸内フローラ（2）
13.ヒトと微生物②:その他のフローラ
14.微生物とバイオテクノロジー
15.まとめ
16.テスト

使用教科書名
プリントを配布します。

NO. G03032001　食品衛生学

山﨑　薫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食品に対する多様な要望の中でも安全性は基本的必要条件である。食品衛生の対象は食品だけでなく食品添加物、器具、容器包装、おもちゃ、洗剤なども含まれる。近年の食中毒の発生状況からみた傾向、食品添加物の安全性と発ガンの問題、食品と感染症や寄生虫との関係などについての理解を深め、食生活の中で留意すべき点についても学ぶ。

学習目標・到達目標

食品の生産、流通、消費という流れを見通す視点に立って、食品の安全性を確保するための基礎知識を習得する。

評価方法その他

筆記試験100%

週　テーマ・授業目標等

1. 食品の安全性、食品の腐敗・変敗とその防止(1)
2. 食品の腐敗・変敗とその防止(2)
3. 食中毒(1)
4. 食中毒(2)
5. 食中毒(3)
6. 食品の安全性の確保(1)
7. 食品の安全性の確保(2)
8. 家庭における食品の安全保持
9. 環境汚染と食品
10. 器具および容器包装
11. 水の衛生
12. 食品の安全流通と表示(1)
13. 食品の安全流通と表示(2)
14. 食品の安全流通と表示(3)
15. 食品の安全管理
16. 定期試験

使用教科書名

三訂／食品の安全性/日本フードスペシャリスト協会編/建帛社

NO. G03033001　バイオサイエンス

山﨑　薫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

バイオサイエンスは生命活動を支えている生体物質や細胞内で起こる代謝反応を化学的にとらえる学問である。食べ物を食べるとどのようにエネルギーになるのかといった事象に関わる部分、遺伝子組換えやクローン技術などの先端技術を支えている部分を、主に分子レベルで理解することを目的としている。

学習目標・到達目標

生命現象のしくみの中で栄養素の代謝、生理・病理的変化、個体の調節といった内容を中心に、生化学的断面から構造、機能、物質の変化を理解する。

評価方法その他

筆記試験100%

週　テーマ・授業目標等

1. ヒト・栄養・食品に関わる化学
2. 人体の構造
3.代謝の概要
4.生体のエネルギー
5.たんぱく質・酵素の構造と機能
6.たんぱく質・アミノ酸の代謝
7.糖質の構造と機能
8.糖質の代謝
9.脂質の構造と機能
10.脂質の代謝
11.核酸，遺伝子の構造と機能およびその代謝
12.ビタミンの栄養
13.個体の恒常性(ホメオスタシス)とその調節機構
14.免疫，アレルギー
15.まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

生化学 ヒトのからだの構成と働きを学ぶために （(はじめて学ぶ)健康・栄養系教科書シリーズ）／小野廣紀，千裕美，日比野久美子,吉澤みな子／化学同人

NO. G03034001　調理とフードコーディネート

小口　悦子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

日本および諸外国の食文化・調理文化を背景とした料理形式の特徴と料理方法について学び、さまざまな目的にあうメニュープランを立てる力を養うことを目的とする。さらに、調理技能、テーブルセッティング、食卓作法について実習を通して学び、多様な趣向・目的に合わせたプランをコーディネートできる力を養うことを目的とする。

学習目標・到達目標

1. 日本・西洋・中国料理の調理技術と食材の取り扱い方を習得する。2. 本膳、懐石、精進、会席料理の特徴を理解し、献立立案を可能にする。3. 食器・器具(磁器・陶器・木製・塗り物・金属製など)の種類とその特徴を理解し、適切な取扱いができる。4. 行事や各種プランに合わせたメニュープランニングと食卓演出(コーディネー)、サービスマナーを修得する。これらから、フードサービス、食企画の実践へと繋がりがもてるようになることを目標とする。

評価方法その他

平常点(40%授業への参加状況)、実習ノート・提出物(30%)、実習試験(20%)、筆記試験(10%)の総合評価。

週　テーマ・授業目標等

1.授業目的と進め方、フードコーディネートとは、実習の心得
2.行事と献立(節句料理　雛まつりの献立実習)
3.行事と献立(節句料理　端午の節句の献立実習)
4.日本料理の実習と器と盛り付けによる演出実習
5.季節向き日本料理の実習と演出(初夏)実習
6.お茶とお菓子(ティーパーティーの献立実習と演出)
7.精進料理の実習
8.懐石料理(1)初夏
9.懐石料理(2)初夏
10.中国料理の特徴と演出　点心
11.中国料理も特徴と演出
12.西洋料理の調理実習と演出実習
13.西洋料理の調理実習と演出実習
14.器・カトラリーの種類、食事マナー、ナプキンワーク、メニュープランニング
15.ブッフェスタイルの献立実習と演出とマナー
16. 定期試験(実習試験・筆記試験)

使用教科書名

『三訂　フードコーディネート論』
日本フードスペシャリスト協会編

調理とフードコーディネートのテキスト配布

NO. G03035001　調理と素材

小口　悦子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食生活の源泉である食材は、多種多様である。それぞれの食材も調理条件により食味の異なった料理となる。日常使用頻度の高い素材について、その性質を生かした調理法を究めることにより、料理への創造性を養うことを目的とする。あわせて、素材の適性な組み合わせ、献立構成、地域の素材を使った料理の提案など調理全般についての応用力を養うことを目的とする。

学習目標・到達目標

1. 食材の調理特性を生かすための調理技術を修得する。
2. 食材の創造性のある組み合わせを可能にする。
3. 食材の特性を生かした献立立案を可能にする。

評価方法その他

平常点(40%、授業への参加状況)、課題(30%)、ノートおよびレポート(30%)の総合評価。

週　テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション　授業目的と内容および進め方
2. 米を主とした献立　春の行楽弁当
3. 小麦粉を主とした献立による実習(中国料理)
4. いも類を主とした献立による実習(西洋料理)
5. いも類を主とした献立による実習(日本料理)
6. 豆類を主とした献立による実習　(日本料理)
7. 魚介類(たい)を主とした献立による実習(日本料理)
8. 魚介類を主とした献立による実習(日本料理)
9. 肉類を主とした献立による実習　(中国料理)
10. 卵を主とした献立による実習　(日本料理)
11. 牛乳・乳製品を主とした献立実習(西洋料理)
12. 野菜を主とした献立による実習　(西洋料理)
13. 野菜を主とした献立による実習　(日本料理)
14. 素材の組み合わせによる献立実習(日本料理)
15. 地域の素材を活用した料理法の提案
16. 定期試験(実習試験)

使用教科書名

プリントを配布する。

NO. G03036001　調理と文化

小口　悦子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食文化的視点から調理実習をおこなう。諸外国の種々の料理の調理法、副材料との組み合わせ、調味法を実習を通して学び、気候風土や文化による違いと食事との関連をを理理解する。
日本国内の各地域の伝統的な郷土料理の実習、伝統食品や伝統野菜を用いた実習を通して食文化の特徴や背景を考える。また、欧米と日本のこども向け料理書のレシピの実習を通して、材料、調理法、諸注意等から食育と食文化的特徴を比較考察する。築地市場見学、日本料理（会席）の試食とプロの料理人からの説明などを通して、食材の流通の現状と食事様式とマナーの実際を学ぶ。

学習目標・到達目標

日本と諸外国の料理の実習を通して、それぞれの地域の調理技術や調理手法を習得することができる。また、国や地域による食文化的背景との関連性を見出すことができるようになること。

評価方法その他

実習試験(30%)、ノート提出(30%)、平常点(40%、授業への参加状況)の総合評価。

週　テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション　世界の食文化と調理の概要
2. 世界の粉食文化と調理　無発酵パン（中国、インド、メキシコ）と料理
3. 世界の粉食文化と調理　発酵パン（中国、ドイツ、イタリア）と料理
4. 世界の粉食文化と調理　そば粉　（イタリア）
5. 日本の粉食文化　そば粉を用いた献立（日本料理）
6. 世界と日本の粉・粒食文化と調理　米粉・米
6. 世界と日本の粉・粒食文化と調理　雑穀粉・雑穀
7. 地域の食材と食文化　京都伝統野菜を使った献立（1）賀茂茄子他
8. 地域の食材と食文化　京都伝統野菜を使った献立（2）九条ねぎ他
9. 日本の伝統食品と調理　氷こんにゃく、六条豆腐他
10. 日本の伝統食品と調理　三輪そうめん、ゆば他
11. 伝統的な郷土食の調査と献立作成・実習
12. 欧米と日本のこども向け料理書のレシピからの実習（料理書調査・翻訳）
14. 欧米と日本のこども向け料理書のレシピからの実習
15. 築地市場見学と日本料理の食事様式の学習と試食
16. 定期試験（実習試験）

使用教科書名

実習用資料を配布する。

NO. G03037001　食文化論

熊井　保

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

第２次大戦後の日本において欧米諸国の食事が推奨されたが、伝統的な和食を中心とした食文化を駆逐するまでには至らなかった。現在では、日本の食文化は世界において注目され、日本各地の郷土食にも関心が注がれている。この科目は、日本の食文化がどのように発展したのか、日常の食事、ハレの食事、地域差、料理に使用された食材はどこで生産されどのように運ばれたのか、などに注目しながら検討する

学習目標・到達目標

日本の食文化が世界の中でどのような位置を占めるのかを把握すること。
日本の食文化の内容について、食事様式、日常の食事、主食と副菜、調味料、外食文化などの位置づけを把握すること。

評価方法その他

平常点20%、中間試験・レポート80%、平常点は授業への参加状況で判断する。

週　テーマ・授業目標等

1　はじめに
2　世界の食文化（1）主要穀物と食文化圏
3　世界の食文化（2）粉食文化と粒食文化
4　日本の食文化
5　異文化接触
6　主食の文化
7　中間試験
8　副食の文化
9　調味料・油脂・香辛料
10　菓子・茶・酒
11　日本料理
12　日常の食生活
13　非常の食生活
14　外食文化
15　行事食
16　レポートまたは試験

使用教科書名

江原絢子・石川尚子編『日本の食文化　その伝承と食の教育』アイ・ケイ　コーポレーション

NO. G03038001　食文化演習

熊井　保

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

この科目は主として江戸時代の食文化に関係した史料について検討を加える。江戸時代のものは活字になった利用しやすいものと本学附属図書館大江文庫所蔵の料理本（古文書）の両方を活用し購読する。これらの基礎の上に江戸時代料理の再現をする。また各人の郷土料理のレポートとそれらの再現料理をする。
履修条件
1）「基礎調理」を履修していること。
2）実習費用がかかるので別途徴収する。

学習目標・到達目標

世界中から注目されている日本食の原点について理解を深めることを目的とする。具体的作業として、本学附属図書館大江文庫所蔵の料理本を利用して江戸時代料理を再現する。

評価方法その他

平常点40%、レポートまたは試験60%。平常点は授業への参加状況で判断する。

週　テーマ・授業目標等

1　江戸料理の基礎
2　江戸期史料（1）『近世風俗志』五
3　江戸期史料（2）『近世風俗志』五
4　江戸料理本（1）『料理物語』
5　江戸料理本（2）再現料理本の解読
6　江戸料理の再現実習
7　江戸料理本（3）『料理物語』
8　江戸料理本（4）『料理物語』
9　江戸料理本（5）再現料理本の解読
10　江戸料理の再現実習
11　江戸料理本（6）『料理物語』
12　郷土料理の準備
13　郷土料理の再現実習
14　郷土料理報告会
15　江戸料理及び郷土料理についてのレポート
16　まとめ

使用教科書名

特に指定はしない。必要に応じてプリント資料を配布する。

NO. G03039001　食・空間コーディネート論

澤田　雅彦

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食を共にすることがクローズアップされている現在、「食」を活性化させ、共に食べることによってコミュニケーションを活発にさせる場＝食空間をつくる（コーディネート）が求められている。食卓を通して人間関係を深め、生活文化の継承の場として、それぞれのライフスタイルに合ったコーディネートをすることが必要である。食空間コーディネーターの仕事は、食文化についての知識やテーブルウエアや色彩の知識が問われている。食器を始め空間演出を実例を通して学びます。

学習目標・到達目標

テーブルコーディネートとは食卓演出。食空間コーディネートとは食卓を取り巻く空間全体である。料理、食器、花、クロス、音楽、照明などの種々の素材の知識を習得すると共に、実践的なコーディネートの実例を体験する。

評価方法その他

試験またはレポート80%・平常点20%（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。）

週　テーマ・授業目標等

1. 食空間コーディネートとは
2. 西洋の食文化と食卓史
3. 洋食器の歴史
4. テーブルセッティング実習
5. 紅茶文化
6. 日本の食文化と年中行事
7. 和食器の歴史
8. 食器のデザインと素材①
9. 食器のデザインと素材②
10. 陶磁器の作り方①
11. 陶磁器の作り方②
12. 磁器・陶器・炻器・土器の見分けかたと使い分け
13. 漆器の作り方と使い方①
14. 漆器の作り方と使い方②
15. まとめ

・第1週より第7週までを小池先生が、第8週より第15週を沢田が担当する。試験は、両教員より出題する。

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G03040001　食品学実験

黒田　久夫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
食品成分の同定と定量は、食品の品質と安全性を確認する重要な方法の一つです。本実習では、その基本的な原理を学び、体験を通して手技を習得します。また、食品成分が加工や保存によりどのように変化するか、実験を通して理解します。

学習目標・到達目標
食品分析の基本的な原理を理解し、実験手技の基礎を習得する。また、食品成分の性質と変化について、実験を通してそのメカニズムを理解する。

評価方法その他
ラボノート(50%)
レポート(50%)

週　テーマ・授業目標等
1.オリエンテーション／演習：科学的思考法～クリティカルに考えるとは
2.ラボノートの書き方／試薬の調製法と実験器具の取扱い／実験を安全に行うために
3.定性分析(1)糖
4.定性分析(2)アミノ酸
5.定量分析(1)糖
6.定量分析(2)有機酸
7.味覚の閾値測定
8.食品成分の構造と性質(1)タンパク質
9.食品成分の構造と性質(2)脂質
10.食品成分の構造と性質(3)炭水化物
11.食品成分の構造と性質(4)ビタミンC
12.食品成分の構造と性質(5)食品の色素
13.食品成分の構造と性質(6)食品の褐変反応
14.食品成分の構造と性質(7)食品の酵素
15.まとめ
16.結果報告会

使用教科書名
プリントを配布します。

NO. G03041001　食科学演習

小口　悦子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
食領域の研究の概要を学び、自ら課題を見出し考えられるようになること。さらに、自らの考えることについて他者への説明を可能にし、研究成果に関するプレゼンテーションと議論を可能にすることを目的とする。

学習目標・到達目標
4年間の学習の集大成である研究について、主体的に取り組み、その過程において自ら目標設定ができるようになること。

評価方法その他
平常点(授業の参加状況・討論への参加等総合的に判断する)60%、成果報告40%の総合評価。

週　テーマ・授業目標等
1. ガイダンス
2. 食と食品
3. 食と栄養
4. 食と調理
5. 食と文化
6. 食と環境
7. 食とコーディネート
8. 情報処理
9. 調査法①　聞き取り調査
10. 調査法②　アンケート調査
11.結果の解析と統計処理
12. プレゼンテーション
13. ゼミ①　調査系論文購読
14. ゼミ②　実験・実習系論文購読
15. ゼミ③　実験・実習系論文購読
16. 定期試験(成果発表)

使用教科書名
必要に応じて資料を配布する。

NO. G03043001　食企画・開発論

黒田　久夫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
現在、製造業におけるものづくりは、高品質の製品を一定の水準で作る品質重視の考え方から、市場のニーズに対して柔軟に応え、ウォンツを発掘し提案するマーケティングの考え方にシフトしており、食品開発においてもその流れが現れています。本講義では、食品開発のマーケティングに必要な様々な考え方と手法を学び、ケーススタディと演習を通して食企画開発の具体例を研究し、企画方法を習得します。

学習目標・到達目標
食品の企画開発に必要な様々な考え方と手法を習得し、実践のための基礎を養う。

評価方法その他
課題提出50%
定期試験50%

週　テーマ・授業目標等
1.ガイダンス：食品開発に必要なコンピテンシー
2.個の力を高める①：ビジョン
3.個の力を高める②：デザイン思考
4.個の力を高める③：感性
5.個の力を高める④：創造性
6.チームで取り組む①：ユーザー中心主義と顧客を分析するツール
7.チームで取り組む②：プロジェクトマネジメントツール
8.チームで取り組む③：コミュニケーション
9.食企画開発の前提知識：食品の法・制度・科学・技術
10.食企画開発ケーススタディ研究①
11.食企画開発ケーススタディ研究②
12.食企画開発ケーススタディ研究③
13.食企画の実践：基礎演習①
14.食企画の実践：基礎演習②
15.まとめ：食企画開発のプロフェッショナルとして活躍するために
16.テスト

使用教科書名
プリントを配布します。

NO. G03044001　食企画・開発実習A

黒田　久夫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
現在、製造業におけるものづくりは、高品質の製品を一定の水準で作る品質重視の考え方から、市場のニーズに対して柔軟に応え、ウォンツを発掘し提案するマーケティングの考え方にシフトしており、食品開発においてもその流れが現れています。本演習では、食品開発のマーケティングに必要な様々な考え方と手法をグループワークにより習得し、実践のための基礎力を養います。また、代表的な加工技術について、食品企業とのコラボレーションにより習得します。

学習目標・到達目標
体験を通して食品の加工技術を習得する。食品の企画開発に必要な考え方と手法をグループワークにより学び、基本的な企画開発力を習得する。

評価方法その他
実習ノート(50%)
レポート(50%)

週　テーマ・授業目標等
1.オリエンテーション
2.食企画開発実習①：パンの加工
3.食企画開発実習②：乳・乳製品の加工
4.食品の法、制度と科学技術：グループワークを通して理解を深める
5.個の力を高める①：ビジョンの構築～マッピングで自己分析する
6.個の力を高める②：デザイン思考を実践する
7.個の力を高める③：「感性」をディスカッションする
8.個の力を高める④：「創造性」をディスカッションする
9.チームで取り組む①：顧客(ユーザー)を分析する
10.チームで取り組む②：プロジェクトマネジメントツールを使ってみる
11.チームで取り組む③：コミュニケーションについてディスカッションする
12.食企画開発実習③
13.食企画開発実習④
14.食企画開発実習⑤
15.食企画開発実習⑥
16.成果発表会：まとめと振り返り

使用教科書名
プリントを配布します。

NO. G03045001　食企画・開発実習B

黒田　久夫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
食企画開発実習Aで習得したマーケティングの考え方と手法を発展させ、企業とのコラボレーションによる食品の企画開発を実践します。また、食品の加工技術と鑑別法を実習により体験し、技術を身につけます。

学習目標・到達目標
企業とのコラボレーションによる食品の企画開発を実践し、企画開発を担う能力を養う。体験を通して食品開発に必要な加工技術と鑑別法を習得する。

評価方法その他
実習ノート(50%)
レポート(50%)

週　テーマ・授業目標等
1.オリエンテーション
2.食品の加工技術を習得する①:発酵(1)
3.食品の加工技術を習得する②:発酵(2)
4.食品の加工技術を習得する③:加工・保存(1)
5.食品の加工技術を習得する④:加工・保存(2)
6.食品の鑑別法を習得する①
7.食品の鑑別法を習得する②
8.食企画開発プロジェクト①:ユーザープレゼンテーション
9.食企画開発プロジェクト②:ユーザーを分析する(1)
10.食企画開発プロジェクト②:ユーザーを分析する(2)
11.食企画開発プロジェクト③:仮説を構築する
12.食企画開発プロジェクト④:試作する(1)
13.食企画開発プロジェクト⑤:試作する(2)
14.食企画開発プロジェクト⑥:評価する
15.食企画開発プロジェクト⑦:提案する
16.成果発表会:まとめと振り返り

使用教科書名
プリントを配布します。

NO. G03046001　食と地球環境

山岡　義卓

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
食の営みは、自然の恵みをいただくことであるがゆえに、地球環境と密接に関係している。すなわち、私たちの食生活は地球環境に影響を及ぼすし、一方、地球環境の変化が私たちの食生活に影響を及ぼすこともある。この授業では，地球環境の変化が私たちの食ととのように関係しているのかを学習する。また、未来の変化を推察し、これらかの食のあり方についても考える。

学習目標・到達目標
食と地球環境の関係の観点から、現代の食に関する問題点を把握し，自ら問題解決に向けての取り組みを進められるようになること。

評価方法その他
平常点20点、中間レポート20点、定期試験60点。

週　テーマ・授業目標等
(1)ガイダンス
(2)食と地球環境の関係
(3)日本の食料需給・世界の食料需給
(4)地球環境と食にまつわる諸課題　①地球温暖化
(5)地球環境と食にまつわる諸課題　②水資源の問題
(6)地球環境と食にまつわる諸課題　③生物多様性
(7)地球環境と食にまつわる諸課題　④遺伝子組換食品
(8)地球環境と食にまつわる諸課題　⑤食の工業化・グローバル化
(9)地球環境と食にまつわる諸課題　⑥廃棄物問題とリサイクル
(10)地球環境と食にまつわる諸課題　⑦東日本大震災と食
(11)地球環境に配慮した食の営み　①地産地消
(12)地球環境に配慮した食の営み　②CSA・スローフード
(13)地球環境に配慮した食の営み　③フェアトレード・フードマイレージ
(15)ワーク　地球環境の視点からこれからの食品消費を考える
(15)全体振り返り

使用教科書名
テキストは使用しない。必要な文献や資料は授業の際に随時配付する。

NO. G03047001　食品素材とフードメニュー

小口　悦子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
食品は、それらを作るための素材（原材料）の調理的・栄養的な特性が活かされている。これには、伝承・経験を繰り返し、その調理法には科学的な必然性があることが見出される。この授業は、食品の持つ調理的特性を実験・実習を通して理解し、新しい利用法について試作・検討を行うことにより、メニュー展開への応用力・実践力を養うことを目的とする。

学習目標・到達目標
食品素材の特性を活かした多様な調理法・メニュー展開ができるようになること。

評価方法その他
平常点(授業への参加状況や討論への参加等で総合的に判断する)40%、レポート(60%)の総合評価。

週　テーマ・授業目標等
1. オリエンテーション
2. 小麦粉の調理特性と代替食品による効果
3. 小麦粉の代替食品による調理法の検討と評価(米粉・コーンスタート他)
4. イモ類の粘性を利用した調理の可能性　ヤマイモ、長イモ、さつまいも
5. イモ類の粘性を利用した膨化調理と評価(1)饅頭への利用
6. イモの粘性を利用した膨化調理の可能性(2)パン、クリームへの利用
7. 低カロリーに視点をあてた食品素材の利用法の検討と評価(おから)
8. 低カロリーに視点をあてた食品素材の利用法の検討と評価(こんにゃく)
9. 豆腐の新たな利用法の検討と評価
10. 乳製品の新たな利用法の検討と評価(ヨーグルト他)
11. 野菜・果物の新しい利用法の検討(1)野菜いりバターケーキへの利用
12. 野菜・果物の新しい利用法の検討(2)ジャム、饅頭、クッキーへの利用
13. 野菜・果物の新しい利用法の検討(3)バターケーキへの利用
14. 各種素材の利用法の提案(試作)
15. 各種素材の利用法の提案と評価(発表)

使用教科書名
プリントを配布する。

NO. G03048001　フードビジネス・食産業研究

黒田　久夫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
フードビジネス・食産業の構造・歴史・業種別特徴・ビジネス戦略を学び、経営学の基礎を理解した後、成功している食品企業の具体例を研究します。また、フード・マネジメントの考え方と手法を講義と演習形式で学びます。

学習目標・到達目標
日本のフードビジネス・食産業のしくみを理解し、企業の強み・弱みを分析できるようになる。フード・マネジメントの考え方と手法を習得する。

評価方法その他
課題提出(50%)
期末テスト(50%)

週　テーマ・授業目標等
1. ガイダンス
2. 日本のフードビジネス・食産業①:産業構造／歴史
3. 日本のフードビジネス・食産業②:2015-2016トレンド
4. 日本のフードビジネス・食産業③:製造業
5. 日本のフードビジネス・食産業④:流通・サービス
6. 日本のフードビジネス・食産業⑤:TPPとグローカル戦略／グローバル企業
7. 経営学の基礎①:会計学の基礎(1)
8. 経営学の基礎②:会計学の基礎(2)
9. 経営学の基礎③:食品リスクへの対応とCSR
10. エクセレントカンパニーのケーススタディ①
11. エクセレントカンパニーのケーススタディ②
12. フード・マネジメント演習①:業態開発
13. フード・マネジメント演習②:出店・販売促進
14. フードビジネス・食産業の未来:課題とトレンド予測
15. まとめ
16. テスト

使用教科書名
プリントを配布します。

NO. G03049001　住居デザイン演習A

小池　孝子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本授業は、近い将来、建築やインテリアのプロ(専門職)として、また、本学科で学んだ知識や技術を生かした職業に就くことを目指すための初歩的で基礎的な製図手法や技術を習得する演習授業である。

学習目標・到達目標

初めて建築製図を学ぶ授業で、住宅をはじめとする建物の基本的な図面作成方法と構成及び構法と模型製作方法を学習する導入授業である。①基礎的な図面の表現法及び手法(技法)を習得する。②基本的な建築やインテリアとしての建築製図分野の全般的な知識を習得する。

評価方法その他

平常点:15%／課題:85%による総合評価、但し全課題提出を条件とする。平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。

週　テーマ・授業目標等

1. 課題1:線の練習
2. 課題2:レタリング・文字の練習
3. 課題3:建築図面の表示記号
4. 課題4:木造住宅／配置図・平面図の表現方法－1
5. 〃　:木造住宅／配置図・平面図の表現方法－2
6. 〃　:木造住宅／配置図・平面図の表現方法－3
7. 課題5:木造住宅／断面図・立面図の表現方法－1
8. 〃　:木造住宅／断面図・立面図の表現方法－2
9. 課題6:RC住宅／平面図の表現方法－1
10. 〃　:RC住宅／平面図の表現方法－2
11. 課題7:RC住宅／断面図・立面図の表現方法－1
12. 〃　:RC住宅／断面図・立面図の表現方法－2
13. 課題8:住吉の長屋:安藤忠雄設計／模型製作－1
14. 〃　:住吉の長屋:安藤忠雄設計／模型製作－2
15. 〃　:住吉の長屋:安藤忠雄設計／模型製作－3
16. 課題提出

使用教科書名

「新しい建築の製図」「新しい建築の製図」編集委員会／学芸出版社／2005
「図解 すまいの寸法・計画事典」岩井一幸 ／彰国社／2004

NO. G03050001　住居デザイン演習B

小池　孝子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

10m角の独立住宅の設計作図を通して、設計技術、作図技術、プレゼンテーション技術などの習得と上達を目指す。平面図、立面図、断面図、パースなどの作図を行い、模型を作成する。さらに、図面の着彩、模型写真の撮影などを通して、プレゼンテーション技術の上達をも目標とする。

学習目標・到達目標

基礎的な設計課題を通し、住まい手の求める生活像を実現する住宅設計の基本プロセスを習得する。

評価方法その他

平常点:30%／提出課題の完成度:70%による総合評価とする。平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。

週　テーマ・授業目標等

1. 課題説明・コンセプト立案
2. エスキース(配置図・平面図)
3. エスキース(断面図)
4. エスキース(立面図)
5. 清書(配置図・平面図)
6. 清書(断面図)
7. 清書(立面図)
8. パース作成(一点透視図法)－1
9. パース作成(一点透視図法)－2
10. 模型製作－1
11. 模型製作－2
12. 模型写真の撮り方
13. レイアウトの手法
14. 印刷、着彩・写真貼付
15. 仕上げ・課題提出

使用教科書名

「新しい建築の製図」「新しい建築の製図」編集委員会／学芸出版社／2005
「図解 すまいの寸法・計画事典」岩井一幸 ／彰国社／2004
(住居デザイン演習Aと共通)

NO. G03051001　住居デザイン演習C

原口　秀昭

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

RC造区分所建物内の住宅の設計、RC造テナントビル内の店舗の設計を通して、設計製図の基本をマスターすること、デザイン、プレゼンテーション技法の上達を目指す。

学習目標・到達目標

住宅、店舗の基本寸法、基準寸法が分かり、インテリアの基本設計ができるようになる。

評価方法その他

出席、ポスターセッションの作品提示、作品評価等による。配点は出席点20%、課題評価80%。

週　テーマ・授業目標等

第1週・・・課題説明
第2週・・・事例研究、設計趣旨の提出
第3週・・・平面スケッチの提出
第4週・・・平面図の提出
第5週・・・断面図の提出
第6週・・・立面図(展開図)の提出
第7週・・・ポスターセッション(発表会)
第8週・・・提出課題説明
第9週・・・平面スケッチの提出
第10週・・・平面図の提出
第11週・・・断面図の提出
第12週・・・立面図の提出
第13週・・・パースの提出
第14週・・・模型の提出
第15週・・・ポスターセッション(発表会)

使用教科書名

NO. G03052001　住居デザイン演習D

原口　秀昭

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

木造住宅課題の設計演習を通じて、デザインを楽しみながら、設計、作図、プレゼンテーション技術の習得、上達を目的とします。

学習目標・到達目標

木造住宅、RC住宅の基本構造が分かり、基本設計ができるようになる。

評価方法その他

出席、ポスターセッション(発表会)と作品、提出期限によって評価します。配点は出席点20%、課題評価80%。

週　テーマ・授業目標等

第1週・・・木造住宅の課題説明
第2週・・・事例研究、設計趣旨の提出
第3週・・・ボリューム模型、平面スケッチの提出
第4週・・・平面図の提出
第5週・・・断面図の提出
第6週・・・立面図の提出
第7週・・・ポスターセッション(発表会)
第8週・・・課題説明
第9週・・・平面スケッチの提出
第10週・・・平面図の提出
第11週・・・断面図の提出
第12週・・・立面図の提出
第13週・・・パースの提出
第14週・・・模型の提出
第15週・・・ポスターセッション(発表会)

使用教科書名

NO. G03053001　建築デザイン演習A

原口　秀昭

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
集合住宅の課題に取り組むことにより、基本コンセプトを考え、デザイン、製図、プレゼンテーション技法の修練、RC造、設備等の基本知識の習得などを目標としています。

学習目標・到達目標
集合住宅の基本設計をまとめ、それを平面図、立面図、断面図、パースなどの図面に書くことができるようになる。

評価方法その他

週　テーマ・授業目標等
第1週・・・課題説明
第2週・・・事例研究、設計趣旨の提出
第3週・・・平面スケッチの提出
第4週・・・平面図の提出
第5週・・・断面図の提出
第6週・・・立面図（展開図）の提出
第7週・・・ポスターセッション（発表会）
第8週・・・提出課題の評価、検討
第9週・・・変更点の提出
第10週・・・変更平面スケッチの提出
第11週・・・平面図の提出
第12週・・・断面図の提出
第13週・・・立面図（展開図）の提出
第14週・・・パースの提出
第15週・・・ポスターセッション（発表会）

使用教科書名

NO. G03054001　建築デザイン演習B

原口　秀昭

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
幼稚園、美術館の課題によって、大型建築物の設計能力を向上させ、平面図、立面図、断面図、パースなどの図面に表せる能力を身につける。

学習目標・到達目標
大型建築物の設計製図ができるようになる。

評価方法その他
配点は出席点20%、課題評価80%。

週　テーマ・授業目標等
第1週・・・幼稚園の課題説明
第2週・・・事例研究、設計趣旨の提出
第3週・・・ボリューム模型、平面スケッチの提出
第4週・・・平面図の提出
第5週・・・断面図の提出
第6週・・・立面図の提出
第7週・・・ポスターセッション（発表会）
第8週・・・美術館の課題説明
第9週・・・事例研究、設計趣旨の提出
第10週・・・ボリューム模型、平面スケッチの提出
第11週・・・平面図の提出
第12週・・・断面図の提出
第13週・・・立面図の提出
第14週・・・パースの提出
第15週・・・ポスターセッション（発表会）

使用教科書名

NO. G03055001　住居CAD演習

足立　幸寿

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
建築設計においてCADの基礎を身に付けることを目的とし、設計製図の基本を学習する。本講義では、フリーソフトの中でも特に一般的なJWCAD for windowsを使用し、基礎的操作から図面作成のテクニックまで、さらに3次元CADやプレゼンテーション技法の習得を目指し、住宅の基本設計図を適切に表現するための必要な知識と技法を学ぶ。

学習目標・到達目標
CADによる設計図の基本的な表現スキルを身に付ける。

評価方法その他
授業中の小テスト(20%)
最終課題(80%)

週　テーマ・授業目標等
1JW_CAD　概要と基本
2JW_CAD　作図系・編集系コマンドの基本操作
3JW_CAD　作図系・編集系コマンドの応用操作　住宅平面図の作成　基本図
4JW_CAD　作図系・編集系コマンドの応用操作　プレゼンの作成　画像編集
5JW_CAD　集合住宅平面図作成　他
6JW_CAD　集合住宅平面図作成　他
7JW_CAD　プレゼンテーション作成
8.SketchUp　SketchUpとの連携エクスポート・インポートと環境設定
9.SketchUp　立体化　3Dモデリング（小テスト：JW－CADの確認）
10.SketchUp　外観パース　マンションの立体化
11.SketchUp　内観パース　（51C型・サザエさん）
12.SketchUp　KERKYTHEAとの連携エクスポート
13.KERKYTHEA　レンダリング（総合復習）
14.KERKYTHEA+GINP　プレゼンテーション
15.KERKYTHEA+GINP　プレゼンテーション（最終課題）

使用教科書名
Jw_cad徹底解説(操作解説編)2012-2013

NO. G03056001　建築CAD演習

足立　幸寿

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
住居CAD演習で習得したスキルを基本に実社会に応用できる設計製図手法を身に付けることを目的とし、建築設計におけるプレゼンテーション技法のテクニックを学習する。本講義ではすべてフリーソフトを使用し、２次元から３次元図面作成のテクニックをさらに効果的に視覚化できる動画によるプレゼンテーション技法の習得を目指し、建築をわかりやすく適切に表現するために必要な知識と技法を学ぶ。差別化を図る為に動画によるポートフォリオを作成する。

学習目標・到達目標
紙媒体によるプレゼンテーション、さらに動画等のディバイスによるプレゼンテーションスキルを身に付ける。

評価方法その他
授業中の小テスト(20%)
最終課題(80%)

週　テーマ・授業目標等
1. JW-SU-GE-AR　フリーソフトの連携の概要　動画
2. SketchUp　写真合成の手法
3. SketchUp　モンタージュ写真
4. KERKYTHEA　添景の貼り付け
5. KERKYTHEA+GINP　断面パース・インテリアパースの基本
6. KERKYTHEA+GINP　ライティングの基本
7. KERKYTHEA+Inkscape　プレゼンテーションの基本
8. SU+GE+PP　それぞれの動画エキスポート
9. GoogleEarth総合プレゼン　小テスト
10.PP・MM　ポートフォリオの作成
11.PP　最終課題発表　プレゼンテーション
12.SU　動画ウォークスルーのプレゼンテーション
13.Inkscape　A1プレゼンテーション
14.GE+PP(動画)　ポートフォリオ+プレゼンテーション
15.MM　ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵﾑｰﾋﾞｰによるプレゼンテーション（最終課題）

使用教科書名

NO. G03057001　建築総合演習

柏木　穂波

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本授業は、建築やインテリアのプロ（専門職）として、学んだ知識や技術を生かした職業に就くことを目指す資格取得の実践課題を中心に進める。また、各課題は授業時間内に完成するスケジュールを組んでいる。

学習目標・到達目標

本授業は、住居を含む建築についての建築製図法及び建築計画法について、実務作業に近い計画方法を学び、主に2級建築士資格試験の「建築製図」課題を作成することを習得する。与えられた条件を満たしながら、いかに効率よく計画できるか、そして、その作図技能について学ぶことを目標とする

評価方法その他

平常点:20%／課題:80%による総合評価、但し全課題提出を条件とする。平常点とは授業への参加状況等で総合的に判断する。

週　テーマ・授業目標等

1. 課題1:RC住宅の計画と製図　その1
2. 〃　その2
3. 〃　その3
4. 〃　その4
5. 課題2:木造住宅の計画と製図　その1
6. 〃　その2
7. 〃　その3
8. 〃　その4
9. 課題3:木造住宅の計画と製図　その1
10. 〃　その2
11. 〃　その3
12. 〃　その4
13. 課題4:RC住宅の計画と製図　その1
14. 〃　その2
15. 〃　その3

使用教科書名

「特に指定しない」
適宜、シラバスに沿ってプリント及び関連資料を配布する。

NO. G03058001　建築計画

小池　孝子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

建築計画学とは、建築をつくる上での基礎となる技術であり、人間の生活と空間との対応が重視される分野で、授業は建築計画に関する基礎的理論を学んだ後、各種建物に共通する基礎的問題や空間性能について具体的な建築としての各種施設を概説しながら進行する。

学習目標・到達目標

建築計画の基本概念を理解することで、寸法の単位や寸法のシステム等寸法、人間の心理・行動と空間との関連、建築・住居の安全性に関する基本的な考え方及び技術者の社会的業務、各種施設の機能・形態別の特色と居住性などの基本的な「建築士」としての建築計画分野の全般的な知識を習得することができる。

評価方法その他

小課題30%、小テスト30%、定期試験40%により総合的に評価する。

週　テーマ・授業目標等

1. ガイダンス／建築計画とは
2. 寸法の決まり方
3. 空間移動と安全性
4. 空間と知覚
5. 空間イメージ
6. 空間の評価
7. 幼稚園・保育所
8. 小学校・図書館
9. 美術館・劇場
10. 事務所・ホテル
11. 病院・診療所
12. 商業建築
13. 高齢者・障害者への配慮
14. 地球環境への配慮
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

特にテキストは指定しない。

NO. G03059001　建築環境学B

椛田　考一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

建築環境学は建築の内外空間の環境形成を計画・評価する分野であり、建築設計において建物性能を決める重要なポイントのひとつである。この授業では、建築環境を形成する物理的要素である「光・音」の基本的性質を学ぶとともに、その環境を評価する我々の感覚の特性を知ることによって、建物・設備性能が居住者へ与える影響を理解する。また、それらの知識を踏まえて、居住者にとって望ましい建築環境を構築するための具体的な手法を学ぶ。

学習目標・到達目標

[建築士指定科目]建築環境を構成する、光・音の基本的性質を説明できること。

評価方法その他

定期試験(70%)、レポート及び授業中の課題(30%)による総合評価

週　テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 5.光環境と色彩 (1)生活環境の中の光と色 (2)光と視覚
3. (2)光と視覚 (3)見えの効果
4. (4)光環境のデザイン
5. (4)光環境のデザイン
6. (5)色彩環境のデザイン
7. 2.音環境　(1)生活の中の音 (2)音の基礎知識
8. (2)音の基礎知識
9. (3)騒音の評価
10. (4)建物の音響性能
11. (4)建物の音響性能
12. (5)よりよい音環境づくりのために
13. 8.電気設備　(1)電気設備の基礎知識
14. (2)配線設備
15. (3)照明設備
16. 試験

使用教科書名

生活環境学[改訂版]／岩田利枝 他／井上書院／2015

NO. G03060001　建築環境システム

椛田　考一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

私たちが建物の中で生活するためには、建築設備（給排水衛生・空気調和・電気・搬送・防災）が必要不可欠である。この授業では、安全で快適な居住環境を形成するために必要な建築設備のシステムを学び、建築と設備のかかわりを理解することによって、平面・断面計画上の設備スペースについて知る。また、省エネルギー手法について、エネルギー消費性能とライフサイクルアセスメント（環境評価）および経済性の関係についても学ぶ。

学習目標・到達目標

[建築士指定科目]建築設備の名称とその働きを説明できること。また、設備システムを選択する上で、考慮すべき点を説明できること。

評価方法その他

定期試験(70%)、レポート及び授業中の課題(30%)による総合評価

週　テーマ・授業目標等

1. 1. ガイダンス
2. 2. 建物内のエネルギーの流れ
3. 3. 空調設備 (1)自然環境と建築環境
4. (2)太陽エネルギーの利用と遮蔽
5. (3)空調負荷
6. (4)空調熱源装置と使用エネルギー
7. (5)空調方式
8. (6)熱搬送方式
9. (7)室内空気分布と吹き出し口
10. (8)換気設備
11. (9)自動制御設備
12. 5. 防災設備
13. 6. 建築と省エネルギー
14. 7. 設備計画とスペース
15. 8. 電気設備
16. 試験

使用教科書名

「建築の設備」入門　新訂版／同編集委員会編／彰国社／2009年

NO. G03061001　住環境調査A

椛田　考一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
住環境を構成している建築空間、建築環境について理解を深めるために、体験学習を行う。建築空間は、階段の実測を通して空間の図面表現を理解する。建築環境は、建築空間の音・光・熱・空気環境の計測を通して人間の感覚を理解する。

学習目標・到達目標
［建築士指定科目］建築空間の図面表現、建築環境と人間の感覚について、説明できること。

評価方法その他
平常点(60%)、レポート及び課題(40%)の総合評価
（平常点は授業への参加状況等を総合的に判断する）

週　テーマ・授業目標等
1. A. 建築物の実測(1)階段の実測
2. (2)階段の実測
3. (3)階段の実測
4. (4)平面図および断面図の作成
5. (5)平面図および断面図の作成
6. (6)平面図および断面図の作成
7. (7)平面図および断面図の作成
8. B. 都市再生機構　技術研究所　見学の説明及び課題提示
9. 見学会
10. 課題発表会
11. C. 建築環境計測(1)人の作り出す空間[1] 講義
12. (2)人の作り出す空間[2] 計測
13. (3)熱環境の計測
14. (4)光環境の計測
15. (5)空気環境および音環境の計測

使用教科書名

NO. G03062001　構造力学B

西村　彰敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
構造力学Aの復習を行いつつ、静定構造物の構造力学の理解を深める。また、応力度、ひづみ度、たわみについての考え方を理解し、不静定構造物への導入を計る。さらには、部材に生ずる応力度と材料の許容応力度を比較することにより、許容応力度設計法を学ぶ。

学習目標・到達目標
圧縮、引っ張り、および、曲げモーメントによる応力度の概念を理解し、許容応力度設計法に基づいた構造物の安全評価ができる。

評価方法その他
授業における演習レポート(50%)、及び、試験(50%)による。

週　テーマ・授業目標等
1 概要説明(構造物の強度と安全)
2 支持反力、軸力部材の考え方(構造力学1レビュー)
3 曲げモーメント図、せん断力図(構造力学1レビュー)
4 材料の強度と許容応力度(木材、鋼、コンクリート)
5 応力度、曲げ応力度の計算－－－断面積、断面係数
6 曲げ応力度と曲げ変形　－－－断面2次モーメント
7 断面の性質(その1:断面係数、断面1次モーメント)
8 断面の性質(その2:断面2次モーメント、断面2次半径)
9 柱・梁の曲げ変形(偏心荷重による複合応力と変形)
10 同上　計算練習
11 圧縮応力度、座屈応力度(座屈長さ、細長比)
12 構造計算と構造力学(その1:設計荷重、小梁の計算)
13 構造計算と構造力学(その2:交差梁、床板の計算)
14 構造計算と構造力学(その3:座屈と柱の設計)
15 定期試験

使用教科書名

NO. G03063001　構造力学C

西村　彰敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
不静定構造力学、および、実務的な設計計算手法を学ぶ。

学習目標・到達目標
柱、梁部材の力学特性を理解し、それらが骨組みとして構築された時の役割を理解する。

評価方法その他
授業における演習レポート(50%)、及び、学期末計算課題レポート(50%)による。

週　テーマ・授業目標等
1 概要説明(静定構造・不静定構造・構造設計詳細)
2 曲げモーメントと曲げ変形(モールの定理他)
3 ラーメン構造の力学(その1:D値法)
4 同上
5 同上
6 同上
7 ラーメン構造の力学(その2:固定モーメント法)
8 同上
9 同上
10 アーチ・ドーム・シェル構造の考え
11 構造力学と建築設計(その1:構造設計例を教材として)
12 構造力学と建築設計(その2:荷重条件と安全検証)
13 トラスの解法と、部材の許容応力度設計
14 ラーメン構造の終局強度設計
15 計算課題レポート

使用教科書名
各講義時間に、資料を配付する

NO. G03064001　住宅設計論

原口　秀昭

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
建築、インテリアデザインの基本、法規や木造建築の基本を学び、デザイン演習の補助とし、応用可能な基礎的能力を高めます。授業の前半は建築家、デザイナーの作品を解説、後半は木造などの技術の基礎を解説、最後にその授業でやったことの小テストを行います。

学習目標・到達目標
建築、インテリアデザインの基本が分かり、デザイン演習に応用できるようになる。

評価方法その他
各授業の最後に、その授業でやったことの小テストを行い、その合計点で評価します。
配点は出席点20%、テストの得点80%で評価。

週　テーマ・授業目標等
1 面積計算
2 容積率、建ぺい率
3 面積計算、ドライエリアなど
4 コルビュジェ、近代建築の5原則、家具の大きさ
5 コルビュジェ、木造の在来構法、枠組み壁構法
6 ミース、W造、RC造、S造
7 ミース、RC像、S造
8 アアルト、基礎
9 カーン、パラペット、ペントハウス、ドレイン、笠木
10 ガウディ、平面図、断面図の間違いやすいところ
11 マッキントッシュ、屋根形
12 ワグナー、基礎、土台
13 柱の入れ方
14 床組み
15 小屋組み

使用教科書名

NO. G03065001　構法計画

白井　篤

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
建物全般の中で最も基礎的な木構造を中心にして、建物がどのようにして建てられているか、各部材の構成方法はどのようになっているかについて、構造や構法の名称（在来軸組構法、木造枠組壁構法、木質系プレファブ構法など）、造作部材の呼び名を含めて具体的に解説する。また、建物を設計・施工し、維持管理するために必要な知識である、建物の構成要素である各部位の材料と、それらが統合された建物全体としての構成及び性能についても学ぶ。

学習目標・到達目標
木造在来軸組構法について、部材の名称とその役割を説明できること。

評価方法その他
平常点(45%)、レポート(10%)、定期試験の得点(45%)により、総合的に評価する。
なお、平常点は、授業の最後に行う小テストの点数によって判断する。

週　テーマ・授業目標等
1.ガイダンス(木造住宅の構法の種類)
2.住宅の品質確保促進法について
3.地業・基礎
4.木材の接合①
5.木材の接合②
6.軸組①－土台、大引、根太
7.軸組②－柱、梁
8.軸組③－桁、筋かい
9.軸組④－壁量計算
10.軸組⑤－壁量計算
11.床、壁、天井
12.小屋組①－和小屋
13.小屋組②－洋小屋
14.屋根－形、勾配
15.造作
16.定期試験

使用教科書名
適宜、資料を印刷・配付する。

NO. G03066001　構造計画B

西村　彰敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
構造力学の知識を基に、木構造、鉄骨構造、鉄筋コンクリート構造、基礎構造について、構造設計法に焦点を当てて講義、する。また、演習課題を通して、実務的な知識を学ぶ。これらは、建築デザイン演習、環境デザイン演習において必要とする構造の知識である。 建築士受験範囲を網羅する。

学習目標・到達目標
建築計画、インテリアデザインにおいて、構造の知識による判断が出来る、あるいは、構造計画に基づいた建築デザインを考えることが出来る。

評価方法その他
出席(30%)、演習レポート(30%)、および、定期試験(40%)

週　テーマ・授業目標等
1 概要説明(地震被害の歴史と耐震設計法の変遷)
2 木造軸組構造 1 床、梁の強度
3　2 壁量計算に基づく耐震設計
4　3 基礎の計算
5 鉄骨構造 1 鉄骨構造の設計、および、施工について
6　2 床、梁、および、柱の設計
7　3 接合部の設計(溶接接合、ボルト接合)
8　4 鉄骨構造・諸規定
9 鉄筋コンクリート(RC)構造の設計
1 RC構造の設計、および、施工について
10　2 床、梁、および、柱断面の計算
11　3 構造計画と耐震設計方針
12　4 壁式構造とラーメン構造の耐震性
5 RC構造・諸規定
13　6 許容応力度設計と終局強度設計
14 耐震設計法まとめ
15 定期試験

使用教科書名
構造用教材 日本建築学会 丸善

NO. G03067001　建築材料学

白井　篤

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
現在のように次々に建築用新素材や新製品が開発されている時代には、各種の建築物の用途に応じた適正な建築材料の選択と使用方法が必要になる。そこで、建築材料の中から、建物の柱、梁などの構造材料として用いられているコンクリート、木材及び鋼材について取り上げて、それら材料の基本的事項（種類、特徴、性能など）を平易に解説する。また、部位に要求される性能条件と材料の性質との関連性を理解させると共に、建築材料選定に当たっての基礎的知識を養う。

学習目標・到達目標
構造材料(コンクリート、木材、金属など)について、その基本的事項(種類、性質など)を説明できること。

評価方法その他
平常点(60%)とレポート(40%)により、総合的に評価する。なお、平常点は、授業の最後に行う小テストの点数によって判断する。

週　テーマ・授業目標等
1. ガイダンス
2. コンクリート用材料①(セメント)
3. コンクリート用材料②(骨材及び混和材料)
4. コンクリート供試体の作製
5. 硬化前のコンクリートの性質
6. 木質系材料の種類と性質
7. 木材の圧縮強さ試験
8. 木材の圧縮強さ試験のレポートの作成
9. コンクリートの圧縮強度試験
10. コンクリートの各種試験のレポートの作成
11. 硬化後のコンクリートの性質
12. 金属系材料
13. 鉄筋の引張試験
14. 鉄筋の引張試験のレポートの作成
15. 鉄筋コンクリートの耐久性
16. レポートの提出

使用教科書名
適宜、資料を印刷・配付する。

NO. G03068001　建築施工

白井　篤

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
建築生産の最終段階である施工について、建築物の主要構造形式である鉄筋コンクリート造と鋼構造を中心として、地業工事、主体工事、防水工事の順に施工方法を平易に解説する。また、施工する際に重要となる、積算・見積りの方法についても学ぶ。

学習目標・到達目標
鉄筋コンクリート造及び鋼構造で建てられた建築物の施工方法について、工事種別ごとに説明できること。

評価方法その他
平常点(45%)、レポート(10%)、定期試験の得点(45%)により、総合的に評価する。
なお、平常点は、授業の最後に行う小テストの点数によって判断する。

週　テーマ・授業目標等
1.ガイダンス
2.仮設・地業工事①　－　地盤調査
3.仮設・地業工事②　－　基礎フーチング工事・杭工事
4.仮設・地業工事③　－　根切り・山留め工事
5.仮設:地業工事④　－　足場
6.主体工事①　－　鉄筋工事
7.主体工事②　－　型枠工事
8.主体工事③　－　コンクリート工事
9.主体工事④　－　鉄骨工事
10.主体工事⑤　－　鉄骨工事(接合)
11.防水工事①　－　アスファルト防水
12.防水工事②　－　シート防水／塗膜防水
13.防水工事③　－　金属シート防水／モルタル防水
14.防水工事④　－　シーリング防水など
15.積算
16.定期試験

使用教科書名
適宜、資料を印刷・配付する。

NO. G03070001　基礎造形

澤田　雅彦

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
デザインの基本となる、基礎的な造形訓練を行う。ものをよく見て描くこと、具象的な形から抽象的な形を作ること、平面的な形を立体に変換すること、正確な寸法を測って作ること等、いくつかの手法を体験する。同時にそれらの体験を通して、さまざまな材料の特徴や、基本的な道具の使い方と加工方法の基礎を身につける。

学習目標・到達目標
かたちの発想方法を身につけ、素材に適した加工方法が選択できるようになることを目標とする。

評価方法その他
提出された課題40%・制作の過程40%・平常点20%（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。）

週　テーマ・授業目標等
1. ガイダンス／授業内容と日程の説明
2. レタリング：書体の観察と模写
3. レタリング：文字を切り抜いた立方体の制作①
4. レタリング：文字を切り抜いた立方体の制作②
5. 粘土（陶土）で立方体を作る①
6. 粘土（陶土）で立方体を作る②
7. 陶土のペン立ての制作①成形
8. 陶土のペン立ての制作②仕上げ
9. 形の観察と抽象化：自然物の観察とスケッチ
10. 形の観察と抽象化：自然物を抽象化した立体の制作
11. 木で曲面を作る：アイデアの展開と試作
12. 木で曲面を作る：作品の制作（木の切削作業）
13. 陶土の立方体とペン立ての施釉作業
14. 紙による曲面の表現①
15. 紙による曲面の表現②
16. 作品合評会

使用教科書名
特に指定しない。

NO. G03071001　インテリア基礎演習

髙尾　純宏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
照明の方法、効果、器具の種類、設置場所と設置方法など照明の基礎を学ぶ。（レポート）照明器具の材料は紙、布、木、金属、プラスチック、陶器、有機素材など様々な材料が考えられるが、照明効果を考慮して材料を選択し、材料の特性を生かしたフォルムを考える。今回は最初であるので、紙の特性である折るを生かしたペーパーフォールディングのランプシェード制作（1点目）。次に、平面材である紙、布、線材であるヒモを使用した照明器具を考える（２点目）。授業は素材研究、照明効果の実験、簡単な図面の作成、モデル等を経て制作を行う。

学習目標・到達目標
照明の基礎知識を学び、材料の特性を活かした照明器具の制作を行うことにより、照明についての考え方を習得する。

評価方法その他
課題①、②の作品とプレゼンテーションパネル及びレポート（80%）、平常点（20%）

週　テーマ・授業目標等

使用教科書名

NO. G03072001　クラフトデザイン演習

澤田　雅彦

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
陶土と木を素材とし、スケッチによるアイデアの展開・製図の作成・試作品の制作という一連の手順をふんで食器具を制作する。その制作を通して生活の中の道具のあり方を考えながら、デザインのプロセスを実践的に理解する。制作にあたっては、既存の食器具の調査や生活の観察と検討をおこない、その結果に基いて計画的に作品を制作することを原則とする。その過程を通して制作のための基礎的な技術と、デザインの基本的な考え方を身につける。

学習目標・到達目標
陶器の制作技法の初歩と、簡単な生活用品のデザインの考え方を身につけることを目的とする。

評価方法その他
提出された課題40%・制作の過程40%・平常点20%（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。）

週　テーマ・授業目標等
1.ガイダンス／授業内容と日程の説明
2.陶器制作の基礎①土練り
3.陶器制作の基礎②既製品の実測と図面の作図
4.陶器制作の基礎③成形
5.陶器制作の基礎④底削りと仕上げ
6.茶碗の制作①アイデアスケッチ
7.茶碗の制作②デザインの決定と製図の作図
8.茶碗の制作③成形
9.茶碗の制作④底削りと仕上げ
10.木のバターナイフの制作①アイデアスケッチ
11.木のバターナイフの制作②試作品の制作
12.木のバターナイフの制作③デザインの決定
13.木のバターナイフの制作④最終作品の制作
14.茶碗の制作⑤施釉と窯入れ
15.作品の制作意図のまとめとプレゼンテーション準備
16.作品合評会

使用教科書名
特に指定しない。

NO. G03073001　インテリアデザイン演習

髙尾　純宏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
家具の基本的な知識を習得し、先ず椅子の構造を理解するために有名な椅子の図面を基に模型製作を行う。次に平面材であり、ある程度自由な形を作ることができる厚み15ｍｍのシナ合板を使ったオリジナルの椅子のデザインを考える。三図面、模型の制作、側面型定規の制作を経て、椅子制作を行う。

学習目標・到達目標
家具についての基礎知識、モデル製作による椅子構造の理解（有名な椅子の図面を基に）プロダクトデザインのプロセスを学ぶ。

評価方法その他
模型（2点）三面図、椅子作品及びプレゼンテーションパネル（80%）平常点（20%）

週　テーマ・授業目標等
1. 家具の基礎知識
2. 模型製作による椅子構造の理解／有名な椅子の資料を基に
3. 合板による椅子のデザイン　アイデアスケッチ
4.　1/10のラフ模型による検討
5.　三面図作成
6.　1/5の模型制作
7.　側面型定規作成　〃
8.　　制作
9.　〃
10.　〃
11.　〃
12.　〃
13.　〃
14　〃
15. 写真撮影・パネル製作（プレゼンテーション）

使用教科書名

NO. G03075001　メディアデザイン基礎演習

呉　起東

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
情報社会に流れている様々な情報を収集し、論理的に分析することにより、より正確な情報に変え、可視化することが出来る。
本授業では、映像制作を通じでマルチメディアの原理を理解し、情報伝達を理解することを目的とする。

学習目標・到達目標
映像表現を用いて情報を伝遊することを学習目標とする。

評価方法その他
課題50%、最終報告書30%、授業の参加及び平常点20%(但し4回以上欠席すると単位は修得できません)

週　テーマ・授業目標等
1オリエンテーション、映像制作について？
2コンセプト、シナリオ作成1
3コンセプト、シナリオ作成2
4絵コンテ制作1
5絵コンテ制作2
6ロケーション
7撮影
8撮影
9撮影
10撮影
11編集
12編集
13編集
14編集
15編集
16プレゼンテーション

使用教科書名
授業を行う際に資料を配布する。

NO. G03076001　メディアデザイン演習

呉　起東

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
情報を伝達するメディアは様々である。このメディアデザイン演習Bでは映像を用いて如何に正確な情報を伝えるかを学ぶ事を目的とする。

学習目標・到達目標
CMの企画、シナリオ、演出、撮影、編集を学び、30秒CMの制作を行う。

評価方法その他
課題50%、最終報告書30%、授業の参加及び平常点20%(但し4回以上欠席すると単位は修得できません)

週　テーマ・授業目標等
1回目　オリエンテーション
2回目　CMの企画、アイディア会議
3回目　ストーリ制作
4回目　ストーリ制作
5回目　絵コンテ制作
6回目　絵コンテ制作
7回目　撮影準備会議
8回目　撮影
9回目　撮影
10回目　撮影
11回目　撮影
12回目　編集
13回目　編集
14回目　編集
15回目　試写会
16回目　プレゼンテーション

使用教科書名
授業を行う際に資料を配布する。

NO. G03077001　デジタルフォト論

呉　起東

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
カメラの仕組みと写真の理論、撮影の実習を通じて、写真を理解する。写真は情報伝達の表現手段の一つである。まず、「表現する」ために必要な能力を育つことを目的とする。
実際に風景、人物などの撮影や色々な場面の撮影を行いながら理論を理解し、その結果を用いて様々なデジタル処理を行う。

学習目標・到達目標
写真の理論と撮影の実習。写真は情報伝達の表現手段の一つである。まず、「表現する」ために必要な能力を育つことを目標とする。

評価方法その他
課題50%、最終報告書30%、授業の参加及び平常点20%(但し4回以上欠席すると単位は修得できません)
注)カメラの機材の関係で人数制限があります。CG演習を履修することが望ましい。

週　テーマ・授業目標等
1 授業の説明
2 講義　カメラの種類と機能、レンズの種類・絞りとシャッターの機能
3 撮影演習　1　絞り、シャッター速度などカメラの基本原理の理解
4 撮影演習　1　絞り、シャッター速度などカメラの基本原理の理解
5 撮影演習　2　季節をテーマとして撮影
6 撮影演習　2　季節をテーマとして撮影
7 プレゼンテーション及び評価
8 撮影演習　3　人物をテーマとして撮影
9 撮影演習　3　人物をテーマとして撮影
10 プレゼンテーション及び評価
11 撮影演習　4　製品をテーマとして撮影
12 撮影演習　4　製品をテーマとして撮影
13 プレゼンテーション及び評価
14 デジタル補正1
15 デジタル補正2
16 統括

使用教科書名
授業中に指定する。

NO. G03079001　カラーコーディネート

髙尾　純宏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
この授業では、私たちを取り巻く「色」のことを深く知ることで、インテリア、ファッション、グラフィック、エクステリア環境など色彩のもつ特性を活かして、ニーズに合った色のアドバイスやコンサルティングを中心に色彩が関わる分野の幅広い知識を学ぶことができる。

学習目標・到達目標
色彩は、外界からの情報を五感から取得している様々な情報である。特に視覚情報は対象の大きさ、形、運動、質感、及び色彩などで、本授業では色が人の心に与える影響、色彩学の中で色彩と人の心の関わりなど、「色彩検定2級」及び「カラーコーディネート2級」の基本的な知識を習得することを学習目標とする。

評価方法その他
平常点:35%(小テスト2回を含む)／定期試験65%による総合評価。なお、平常点は、授業への参加・討論への参加等で総合的に判断する。

週　テーマ・授業目標等
1. 色の表示－マンセル表示系
2. 色の表示－色名の基本
3. 光と色－光の性質
4. 色彩調和－配色の種類
5. 色彩調和－色彩技法
6. 色彩調和－色彩調和論
7. 配色イメージ
8. 色の見え方
9. ビジュアルデザイン
10. ファッション－ファッションビジネス
11. ファッション－ファッションコーディネート
12. プロダクト
13. インテリアとイクステリア－インテリア
14. インテリアとイクステリア－イクステリア
15.「色彩検定」の総括
16. 定期試験

使用教科書名
「特に指定しない。」

NO. G03081002　生活用具論

高尾　純宏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

文化の視点から総合的に食を観察する食文化。台所と食卓の視点で食について観察する食事文化。ここでは、食に関わるモノ（生活用具）を通して人の文化を考える。

学習目標・到達目標

食に関わる道具と日本独自の食の文化との関わりを理解する。箸を使用する文化圏は東アジアであるが、箸だけで食事をする国は日本だけである。椀を手で持つことを含めて、箸のみで食事ができる様に調理されているからである。その背後には様々な包丁の種類やまな板、箸の種類や小皿の存在がある。また箸の先端が細く、様々な使用方法ができることも日本独自である。箸という食の道具（食具）を観るだけで日本独自の文化が見えてくることを理解したい。

評価方法その他

レポート(80%)平常点(20%)

週　テーマ・授業目標等

第1週・・・ガイダンス

第2週・・・西の文化と東の文化。雑煮

第3週・・・日本料理／寿司ブーム

第4週・・・日本の味／肉じゃが

第5週・・・コメの食文化／電気釜

第6週・・・三大食法（手食・箸食・ナイフ食）

第7週・・・魚醤・味噌・醤油

第8週・・・桶と樽／升

第9週・・・個卓から共卓へ／懐石料理

第10週・・台所の変遷／ダイニングキッチン

第11週・・包丁とまな板

第12週・・器の文化／北大路魯山人／尾形乾山

第13週・・寿司／小野二郎

第14週・・食のライフスタイル／食の産業化、食の世界化

第15週・・まとめ

使用教科書名

随時資料を配付する。

NO. G03082001　インテリアデザイン論

高尾　純宏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

異物をのみこんだり、すぐに転んだりと、子どもには危険が多い。そんな事故を防ぎ、創造性を育むように工夫した「子ども目線」の製品が少しずつ広がっている。玩具や子供向けの製品に限らず、建築空間、住宅・施設・公園・景観などのデザインも含まれる。子どもに優しいデザインは、大人を含め、障害者にとっても優しいデザイン（ユニバーサルデザイン）である。セーフティデザイン安全安心の提案、ユニバーサルデザイン福祉対応の提案、エコロジーデザイン環境対応の提案などを解説する。

学習目標・到達目標

「キッズデザイン」の普及が期待され、企業のものづくりにとっても、ユニバーサル、エコ、サステナブルデザインの理念とも密接につながる「キッズデザイン」は、今後大いに注目すべきテーマであるといえる。子供のためのデザインとは、また子供に優しいデザインとはどのようなことかを理解する。

評価方法その他

レポート(80%)平常点(20%)

週　テーマ・授業目標等

1, ガイダンス

2, 子供にとっての安心、安全

3, キッズデザイン、製品(1)

4,　〃　(2)

5,　〃　(3)

6, 玩具　(1)

7,　〃　(2)

8,　〃　(3)

9, 子供服

10, 子供と住まい

11, 子供と環境

12, ユニバーサルデザイン(1)

13,　〃　(2)

14, エコデザイン

15, まとめ

使用教科書名

NO. G03083001　食器デザイン論

澤田　雅彦

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

陶磁器・漆器・金属製食器具などの具体的な制作事例を紹介しながら、制作工程と技術、材料、道具について解説を行い、食器をデザインする際の、技術的な基礎知識を学ぶ。また陶芸や漆芸の歴史についても簡単に解説をして、制作技術の発展の過程と、食器のデザイン及び生活とのかかわりについても考える。これらの考察を通して、素材と技術と形の関係についても理解を深め、食器デザインの基盤となる考え方を身につけることをめざす。

学習目標・到達目標

陶磁器や漆器等の様々な食器の制作方法と扱い方を理解できる。

評価方法その他

試験またはレポート80%・平常点20%（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。）

週　テーマ・授業目標等

1. ガイダンス／授業内容の説明

2. 日本の陶芸の歴史①土器と生活

3. 日本の陶芸の歴史②窯とろくろの発達

4. 日本の陶芸の歴史③釉薬の利用

5. 日本の陶芸の歴史④茶道とやきもの

6. ヨーロッパのやきもの①古代ギリシャ

7. ヨーロッパのやきもの②中世スペイン

8. ヨーロッパのやきもの③中世以降のイタリア

9. ヨーロッパのやきもの④磁器

10. ヨーロッパ・日本・中国のやきもののデザイン①

11. ヨーロッパ・日本・中国のやきもののデザイン②

12. 漆器のデザイン①加飾の技法

13. 漆器のデザイン②古代の漆器

14. 漆器のデザイン③漆器の色

15. まとめ

16. 試験またはレポート提出

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G03084001　くらしの考現学

望月　史郎

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現代生活にあふれている多くのものが果たす役割は、生活の諸相を丹念に観察したり体験したりすることで理解が深まる。この講義では、かつての生活ともの、現代生活ともの、そこに至る変化の過程などを注意深く見ながら学び、生活観察とデザインの結びつきを考察する。

学習目標・到達目標

・生活観察の基礎的な考え方を理解し、その方法を体験する。
・観察・記録またはそれに関連する資料を集め、バラバラに見える情報を整理することによって、問題発見、計画への反映を行うための能力を高める。
・ものの意味や役割を、できるだけ幅広く理解する。

評価方法その他

平常点35%、小レポート15%、最終レポート50%

週　テーマ・授業目標等

1. イントロダクション－講義日程と内容の概要

2. 生活観察の意義

3. ひと昔前の生活と現代生活の比較

4. ひと昔前と現代との、生活観とデザイン観の比較

5. ものに囲まれた現代生活の観察

6.『サザエさん』に描かれたものと生活の観察(1)変化の実態

7.『サザエさん』に描かれたものと生活の観察(2)変化の傾向

8. 生活用具の変遷(1)電化製品広告と時代背景

9. 生活用具の変遷(2)製品開発コンセプトの変遷

10. 生活用具の変遷(3)造形の変遷

11. 一具多用のもの文化

12. 図像の象徴的表現と生活文化

13. ものの象徴的意味(物理的機能との対比)

14. 行動観察に基づく開発・計画

15. まとめ

使用教科書名

使用しません。必要に応じて資料を配付します。

NO. G03087001　生活デザイン演習D

生活デザイン学科　教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
2年次前期の生活デザイン演習Cと同様、生活デザイン学科の専門分野の内容を体験的に学ぶために、各教員の授業の補完的または発展的な内容の授業、学外学内のイベント等への参加などのプログラムを展開する。

学習目標・到達目標
生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを理解し、授業を専門的、主体的に学ぶための考え方や手法を身につける。

評価方法その他
平常点(40%)、課題(60%)の総合評価。(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。)

週　テーマ・授業目標等
・授業は、生活デザイン学科の教員が提示する、いくつかのテーマに沿って行う。

・授業は集中講義の形式で行うが、授業の内容・進め方・日程については、テーマごとに

独自に設定する。

・授業内容と日程の詳細については、4月の学科ガイダンスで告知する。

・他学年と合同で実施するプログラムもある。

使用教科書名
適宜、資料を印刷・配付する。

NO. G03088001　高分子材料実験Ⅰ

花田　朋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
テキスタイル材料学、衣繊維学の講義で習得した知識を、自分の手で実験し観察する事は習得した事柄の理解をより深めると共に、実生活における有効な応用を可能にする手段となる。ここでは主に糸・布を対象とした1)各種繊維布の分解による布構造の観察と性質、2) 機械的性質としての引張り強伸度、摩擦・摩耗試験、および3) 帯電性等の項目について実験し、繊維の性質を背景とした糸、糸を組み合わせた布の構造と性質について理解する。

学習目標・到達目標
高分子材料学実験Ⅰは実験・観察を通して繊維材料の性質を理解すると共に、得られた結果からどんな結論が導かれるかを考える能力を高めることを目標とする。
到達目標:主要な布構造と性質の関係が理解出来、引張り敎伸度、帯電性等のチャートを読む事が出来る。

評価方法その他
各テーマ実験を行い、そのレポートを提出してその実験項目の終了となる。
従って実験を行っても、レポートの未提出は欠席扱いとなる。
評価は授業への取り組み方・平常点(20%)・レポート(80%)による。

週　テーマ・授業目標等
1.実験プログラムの説明
2.糸の観察(1)
3.糸の観察(2)
4.織物の構造(1)
5.織物の構造(2)
6.引張強伸度試験(1)
7.引張強伸度試験(1)
8.考察
9. 吸湿・吸水性試験(1)
10.吸湿・吸水性試験(2)
11.吸湿・吸水性試験(3)
12.摩耗・摩擦試験
13.ドレープ性試験(1)
14.ドレープ性試験(2)
15. 総合的考察

使用教科書名
実験書を配布する

NO. G03089001　繊維学実験Ⅰ

花田　朋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
テキスタイル材料学、衣繊維学の講義で習得した事柄を、自分の手で実験し観察する事は習得した事柄の理解を深めると共に、実生活における有効な応用を可能にする手段である。この実験では繊維と糸を中心とした実験を行い、1)各種繊維の観察と性質として顕微鏡観察、繊維の燃焼性、呈色性を、2)各種糸の構造観察と性質等の項目について実験し、各種性質を利用した繊維の鑑別から糸・布にいたる一連の流れの中での相関を理解させる。

学習目標・到達目標
繊維学実験Ⅰは実験・観察を通して繊維材料の性質を理解すると共に、得られた結果からどんな結論が導かれるかを考える能力を高めることを目標とする。
到達目標:主要な天然繊維・合成繊維の鑑別ができる。

評価方法その他
各テーマ実験を行い、そのレポートを提出してその実験項目の終了となる。
従って実験を行っても、レポートの未提出は欠席扱いとなる。
評価は授業への取り組み方・平常点(20%)・レポート(80%)による。

週　テーマ・授業目標等
1.実験プログラムの説明
2.顕微鏡の取扱いと繊維の観察(1)
3.顕微鏡による繊維の観察(2)
4.繊維の燃焼性(1)
5.繊維の燃焼性(2)
6.着色による繊維の鑑別(1)ー鑑別用試薬ー
7.着色による繊維の鑑別(2)ー混合インクー
8.考察
9.耐薬品性試験(1)
10.耐薬品性試験(2)
11.ビニロンの製造(1)ー紡糸ー
12.ビニロンの製造(2)ーアセタール化ー
13.未知試料の鑑別(1)
14.未知試料の鑑別(2)
15.総合的考察

使用教科書名
実験書を配布する

NO. G03090001　アパレルデザイン論

藤田　恵子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
アパレル製品の企画・設計・流通・管理や、衣服デザインに関する基礎的な知識を学ぶ。１回はアパレルメーカーの講師による特別授業を予定している

学習目標・到達目標
アパレルデザインの基礎を学ぶ。

評価方法その他
平常点40%、レポート・作品30%、試験30%

週　テーマ・授業目標等
1. 1章　商品企画とアパレルデザイン
2. 1章　商品企画とアパレルデザイン
3. 特別授業
4. 2章　ファッションの変遷とその背景
5. 2章　ファッションの変遷とその背景
6. 3章　衣服デザインの基礎
7. 3章　衣服デザインの基礎
8. 4章　フォーム
9. 4章　フォーム
10. 5章　カラー
11. 5章　カラー
12. 6章　テキスタイル
13. 6章　テキスタイル
14. 7章　着装とデザイン
15. 8章　コストとデザイン

使用教科書名
『改訂 アパレルデザインの基礎』 日本衣料管理協会　2004

NO. G03091001　アパレルデザイン表現実習

藤田　恵子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

ファッションデザイン画と、ドレーピング(立体裁断)実習を通して、アパレルの基礎技術を学ぶ。1回はアパレルメーカーの講師による特別授業を予定している。

学習目標・到達目標

アパレルデザインの表現法としてデザイン画や、ドレーピング(立体裁断)の実習により、アパレルの商品化の基礎技術を修得する。

評価方法その他

平常点40%、作品30%、試験30%
授業参加状況、作品製作の取り組み等総合的に判断する。

週　テーマ・授業目標等

1.デザイン画(ヌード正面、着衣)
2.デザイン画(パンツ、スカート、衿、袖)
3.特別授業(アパレル企業の講師による)
4.デザイン画(創作下絵)
5.デザイン画(創作完成)
6.ドレーピングの説明、ボディライン入れ
7.ドレーピング、スカート用シーチングの準備
8.ドレーピング、スカート実習
9.ドレーピング、スカートパターン修正、縫い代整理
10.ドレーピング、スカートのパターンを紙に転写、次週の準備
11.ドレーピング、上半身実習
12.ドレーピング、上半身実習
13.ドレーピング、上半身修正、縫い代整理、紙に転写
14.ドレーピング、上半身とスカートをつなげる
15.ドレーピング、上半身とスカートをつなげる試験

使用教科書名

随時テキストとプリント配布

NO. G03092001　服飾造形実習A

藤田　恵子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

人体下半身の形状を理解し、その計測法を学ぶ。さらに計測値に基づいて下衣の基本的なショートパンツとスカートの製図を書き、立体の形状とパターンとの関係を理解する。自身のサイズのショートパンツとスカートの制作を通して、基礎的な制作技術を習得する。

学習目標・到達目標

下衣の基本的なショートパンツおよびスカートの制作をする。制作に必要な人体下半身の計測法を学び、計測値を基に自身のサイズの製図をし、作品を完成させて着装発表をする。

評価方法その他

平常点40%、作品制作30%、レポート30%
授業の参加状況、作品制作の取り組み方等を総合的に判断する

週　テーマ・授業目標等

1. 各種スカート、ショートパンツの説明、用具の説明、人体計測
2. ショートパンツ・スカートの製図
3. ショートパンツパターンの整理、布裁断、印付け
4. ショートパンツ、ポケット作り・付け、
5. ショートパンツ、脇・股下・股上縫合
6. ショートパンツ、裾・ウエスト始末、ゴム通し、完成
7. スカートのパターン整理、裁断、印付け
8. 仮縫い
9. 補正、脇・ダーツなどの本縫い
10. ファスナー付け
11. ベルト付け、レポート作成の説明
12. ベルト付け完成、ヘムの始末
13. 前カン付け
14. 仕上げアイロン
15. ショートパンツ・スカートの着装発表、レポートの提出

使用教科書名

製作したテキスト配布

NO. G03095001　繊維製品取扱い試験法

藤居　眞理子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

繊維製品には取扱い絵表示がついている。実験を通じ取扱い絵表示を正しく理解し、身のまわりの繊維製品の取扱いについて適切な方法を学ぶ。

学習目標・到達目標

繊維製品の素材や加工に関する知識を基礎に、商品についている取扱い絵表示の意味と適切な取扱い方法を理解することを目的とする。

評価方法その他

レポートを80%、平常点を20%とする。

週　テーマ・授業目標等

1.実験上の心構えと諸注意(危険防止)
2.洗い方について　液温30℃限度、弱い手洗い
3.洗い方について　液温30℃限度、洗濯機弱水流または弱い手洗い
4.洗い方について　液温40℃限度、洗濯機弱水流または弱い手洗い
5.洗い方について　液温40℃限度、洗濯機使用
6.洗い方について　液温60℃限度、洗濯機使用
7.漂白試験①
8.漂白試験②
9.アイロンの掛け方　210℃、高い温度
10.アイロンの掛け方　160℃、中温程度
11.アイロンの掛け方　120℃、低い温度
12.ドライクリーニング試験
13.絞り方試験
14.干し方試験
15.まとめ

使用教科書名

適宜プリントを配布する。

NO. G03096001　高分子材料学実験Ⅱ

花田　朋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

繊維や被服材料の構造と性質を理解するためには、衣服を構成している基本物質である高分子についての理解が必要である。この授業では求められる繊維の性質と、高分子材料、糸、布の構造との相関関係についての実験をできる限り少人数で行い、その理解を深める。

学習目標・到達目標

高分子材料実験Ⅱは実験・観察を通して繊維材料の性質を理解すると共に、その元となる繊維を形成している高分子化合物への理解を深めることを目標とする。
到達目標：主要な天然繊維・合成繊維布帛の基本となるいくつかの性質の評価手段を説明できる。

評価方法その他

各テーマ実験を行い、そのレポートを提出してその実験項目の終了となる。
従って実験を行っても、レポートの未提出は欠席扱いとなる。
評価は授業への取り組み方・平常点(20%)・レポート(80%)による。

週　テーマ・授業目標等

1.実験プログラムの説明
2.繊維の太さ測定(1)
3.糸の引張強伸度測定(1)
4.糸の引張強伸度測定(2)
5.紡しわ・プリーツ保持性試験(1)
6.プリーツ保持性試験(2)
7.破裂強さ試験
8.考察
9.引裂き強さ試験
10.剛軟性測定(ハートループ・45°カンチレバー)
11.織物の寸法安定性(1)
12.織物の寸法安定性(2)
13.帯電性試験(1)
14.帯電性試験(2)
15.総合的考察

使用教科書名

実験書を配布する

NO. G03097001　繊維学実験Ⅱ

花田　朋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
繊維製品、染料、加工剤等の構造や加工・成分の分析に用いられる各種の機器を用いて、その使用法と結果の意味を理解することを目的とする。

学習目標・到達目標
繊維材料の性質を知るための代表的測定である熱的測定、光学的測定を実体験し、測定原理と結果の意味を理解することを目標とする。

評価方法その他
各テーマ実験を行い、そのレポートを提出してその実験項目の終了となる。
従って実験を行っても、レポートの未提出は欠席扱いとなる。
評価は授業への取り組み方・平常点(20%)・レポート(80%)による。(花田)

週　テーマ・授業目標等
1.実験概略の説明
2.繊維の熱分析測定(1)ーフィルムの作製ー
3.繊維の熱分析測定(2)ーサンプルの作成ー
4.繊維の熱分析測定と解析(3)
5.繊維の熱分析測定と解析(4)
6.赤外吸収スペクトル測定(1)
7.赤外吸収スペクトル測定(2)
8.赤外吸収スペクトル測定(3)
9.染料の可視吸収スペクトル測定(1)
10.染料の可視吸収スペクトル測定(2)
11.染料の可視吸収スペクトル測定(3)
12.染色布の測色(1)
13.染色布の測色(2)
14.染色布の測色(3)
15.総合的考察

使用教科書名
実験書を配布する(花田)

NO. G03098001　デジタルデザイン演習

呉　起東

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
情報の伝達、表現方法である２次元CGの基礎学習を目的とする。この授業は2次元CGの代表的なツールであるPhotoshopやIllustratorを用いて課題を行いながら基礎的な学習を行う。

学習目標・到達目標
PhotoshopやIllustratorの基本を学び情報を加工し表現出来ることを目標とする。

評価方法その他
課題50%、最終報告書30%、授業の参加及び平常点20%(但し4回以上欠席すると単位は修得できません)

週　テーマ・授業目標等
1 授業のオリエンテーション、2次元CGの概要
2 課題1の説明、2次元CGの基礎A?Photoshop1
3 2次元CGの基礎A?Photoshop2　小課題 1-1
4 2次元CGの基礎A?Photoshop3　小課題 1-2
5 2次元CGの基礎A?Photoshop4　小課題 1-3
6 総合課題 1
7 総合課題 1
8 課題2の説明2次元CGの基礎B Illustrator1
9 2次元CGの基礎B?Illustrator2　小課題 2
10 2次元CGの基礎B?Illustrator3　小課題 2-2
11 2次元CGの基礎B?Illustrator4　小課題 2-3
12 総合課題 2
13 総合課題 2
14 完成＆制作レポート
15 プレゼンテーション1
16 プレゼンテーション2

使用教科書名
授業を行う際に資料を配布する。

NO. G03100001　生活デザイン演習B

生活デザイン学科　教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
前期の生活デザイン演習Aに引き続き、生活デザイン学科で学ぶための基礎となる考え方や手法を、体験的に学習する。「はかる」をキーワードとして複数の課題を設定する。また卒業生を招いて懇談会を開催し、生活デザイン学科での学習の意義と将来の進路についても考える。

学習目標・到達目標
生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを理解すること。

評価方法その他
平常点(20%)、課題(80%)の総合評価。(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。)

週　テーマ・授業目標等
1. 授業の進め方と日程の説明
2. 課題「はかる」1
3. 課題「はかる」2
4. 課題「はかる」3
5. 課題「はかる」4
6. 課題「はかる」5
7. 卒業生との懇談会
8. 課題についての発表と講評

・授業は集中講義の形式で行う。
・課題「はかる」の授業は1回につき180分
・授業内容と日程の詳細については初回授業で告知する。

使用教科書名
適宜、資料を印刷・配付する。

NO. G03100101　生活の経済学

古徳　佳枝

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
実生活において必要となる経済関連の知識として、ＦＰ（ファイナンシャル・プランナー）資格初級レベルの知識獲得を目的とする。具体的には、「Ａ．ライフプランニングと資金計画」「Ｂ．リスク管理」「Ｃ．金融資産運用」「Ｄ．タックスプランニング」「Ｅ．不動産」「Ｆ．相続・事業承継」の６分野、そのうち特に「金融」「タックス」に重点を置く。ただし、単なる知識取得を目的とするのではなく、自身の実生活に応用可能な実践的学びの場としていくため、講義には積極的に参加・発言することが望まれる。

学習目標・到達目標
私たちは日々の生活のために何らかの経済取引を行い続けている。「モノやサービスを買う・消費する」「お金を貯める、増やす」「借りる」「リスクに備える」「税を払う」などの経済取引において合理的な意思決定を行う際に、日本の法律や制度を知っているかどうかは大きな差につながる。本講義では、消費者・生活者としての視点を主軸にしつつ、それに加えて、将来金融業界に関わる職業人としても役に立つ金融経済の知識やスキルの習得を目標とする。

評価方法その他
平常点(60%)、第15回講義で実施する総合確認テスト(40%)
(平常点は授業への参加状況、授業中に課す課題の提出等により、総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等
1.パーソナル・ファイナンスの全体像(オリエンテーション含む)
2.ライフプランニングと資金計画
3.キャッシュフロー表の作成
4.社会保険制度と年金制度
5.タックスプランニング①(税制の全体像と所得税の基礎)
6.タックスプランニング②(所得税の計算)
7.タックスプランニング③(源泉徴収制度とその他の税)
8.リスクマネジメント(生命保険と損害保険)
9.金融資産運用①(経済・景気指標と金利)
10.金融資産運用②(各種金融商品の概要)
11.金融資産運用③(ポートフォリオ運用)
12.不動産運用設計(不動産の取引、法令上の規制、税金)
13.相続・事業承継の基礎知識(相続税)
14.相続・事業承継の基礎知識(贈与税)
15.FPとは何か、FP試験の概要、総合確認テスト

使用教科書名
「ファイナンシャル・プランニング入門-for Students-〔第3版〕」日本ファイナンシャル・プランナーズ協会編、2014年発行

NO. G03100201　サイエンス演習

岩見　哲夫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食の分野を学ぶ上で，科学の思考法を理解しておくことはとても重要です。また，化学・生化学・生物学は，栄養学・調理学・食品学等の基礎を成し，その理論のみならず方法論（実験法）の理解も重要です。本実習では，化学・生化学・生物学分野の代表的な実験を通して，食の分野を学ぶ上で必要な実験技術と，背景にある科学的思考を学習します

学習目標・到達目標

科学実験の基礎的実験技術を習得し，その過程で科学的思考法を理解できるようにする。また，グループワークを通じて仮説構築とその検証，そして考察するといった，科学分野において必要とされている習慣を身につける。

評価方法その他

ラボノートおよび実習中の態度(50%)，レポート(サブノート内容を含む)(50%)。平常点は授業への参加状況を総合的に評価する。

週　テーマ・授業目標等

1 オリエンテーション／班分け・準備作業，科学的思考法の説明
2 科学実験の基本とラボノート・サブノートの書き方
3 生物学①:生物学実験の内容と解説／顕微鏡の使い方・ミクロメーターの使い方
4 生物学②:植物細胞の観察
5 生物学③:動物細胞の観察
6 生物学④:魚類の解剖／骨格標本の観察
7 生物学⑤:ATPによる筋収縮実験
8 生物学⑥:植物の解剖と形態観察
9 化学①:化学・生化学の実験内容と解説／試薬の調製と器具の使い方
10 化学②:容量分析／中和滴定
11 化学③:容量分析／酸化・還元滴定
12 化学④:アミノカルボニル反応
13 生化学①:植物色素の抽出とクロマトグラフィーによる分離
14 生化学②:脂質の酸化と大豆リポキシゲナーゼ
15 生化学④:大麦の発芽とα-アミラーゼ
16 成果報告会

使用教科書名

適宜，テキストを配付する。

NO. G03100301　人体の構造と機能

岩見　哲夫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食の機能を理解するためには，ヒトの体の構造や働き，さらには病気に関する知識も必要となる。人体を構成する骨格・筋肉・神経・内臓器官などは，驚くほど合理的な構造をもち，極めて効率的に所定の機能を果たしている。そこで，本講義では，人体の構造と機能を系統的に理解するために，細胞・組織から，器官，器官系と段階を追って学習し，人体の全体像について理解を深める。

学習目標・到達目標

人体の基本構造と主要な器官の働きを理解する。特に，日々の生活において私たちの体がどう機能しているかを学習し，食の専門分野を学ぶ際に必要な基礎知識とその知識を元にさまざまな生命現象の原因を推察・理解する能力を身に付ける。

評価方法その他

毎回実施する質問・アンケートへの回答状況(20%)および定期試験の得点(80%)による総合評価。

週　テーマ・授業目標等

1 OL/人体概観
2 細胞の構造と機能
3 体を構成する組織
4 骨格系/骨格の形態と各部の構成
5 筋肉系/形態と機能
6 循環器系
7 血液/血液の構成と機能
8 生体防御系/免疫の種類と機構
9 消化器系/全体の構成
10 消化器系/各部分の働き
11 消化器系/消化と吸収
12 腎・尿路系
13 内分泌系
14 呼吸器系
15 神経系と感覚器系
16 定期試験

使用教科書名

適宜，資料を配付する。

NO. G03100401　コミュニケーションデザイン

呉　起東

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現代社会で最も必要なのは情報とコミュニケーション能力と言える。情報を正しく理解し、伝えるのがコミュニケーションの始まりである。本授業では、情報の収集　→　分類　→　情報の再構築　→　情報の視覚化に流れるプロセスを理解し、如何に情報の表現を行うかを講義や事例を用いて説明を行う。
また、グループワークを用いて、実際に情報を収集し、分類、情報の視覚かを体験しながらコミュニケーションを理解することを目的とする。

学習目標・到達目標

情報とコミュニケーションの関係を理解し、情報を収集、分類、可視化することにより正確な情報を伝達出来ることを学習目標とする。

評価方法その他

課題50%、最終報告書30%、授業の参加及び平常点20%(但し4回以上欠席すると単位は修得できません)

週　テーマ・授業目標等

1講義のオリエンテーション、情報とコミュニケーション。
2広告デザインとコミュニケーション
3インフォメーションデザインと実例
4グラフィックデザインの要素(デザイン原理)
5演習:チーム構成、テーマ決定、ブレインストーミング
6演習:情報の収集
7演習:情報の分類
8演習:表現の基礎1
9演習:表現の基礎2
10演習:表現の基礎3
11演習:表現の基礎4
12制作:情報の可視化1
13制作:情報の可視化2
14制作:情報の可視化3
15制作:情報の可視化4
16プレゼンテーション

使用教科書名

授業中に指定する。

NO. G03100601　デザイン概論

望月　史郎

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現代社会の中で見られるさまざまなデザインの事例を通じて、デザインの概念、領域、プロセス、方法論、思考法などについて学習する。基礎知識としてデザインの諸相を理解するだけでなく、「デザインとは何か」ということとデザイン思考の応用法とを、自分で考えて言葉で表現する。

学習目標・到達目標

・デザインの諸相を基礎知識として理解する
・「デザインとは何か」を自分で考え表現する。

評価方法その他

平常点35%、小レポート15%、最終レポート50%

週　テーマ・授業目標等

1. イントロダクション－講義日程と内容の概要
2. 身近なものに見られるデザインとその領域
3. 行動観察に基づくデザイン
4. 身近なものから考えるデザインのプロセス
5. デザイナーの仕事に見られるデザインのプロセス
6. デザインの辞書的定義の分析
7. デザインの事例(1)　工業デザイン
8. デザインの事例(2)　視角伝達デザイン
9. デザインの試作　シンボルマークづくりの小演習
10. デザインの事例(3)　環境デザイン
11. デザインの現場(1)　デザイナーの仕事と思考法
12. デザインの現場(2)　社会の中のデザイン
13. デザインの事例(4)　複合領域デザイン　サイン
14. デザインの事例(5)　コミュニティデザイン
15. まとめ

使用教科書名

教科書は使用しない。資料を配付する。

NO. G03100701　人間工学

澤田　雅彦

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
人間工学は、人間と機械をひとつのまとまり「人間－機械系（マン－マシンシステム）」ととらえ、機械や作業環境の性能・形態・状況が、人間の心と体の感覚や運動などの能力・特徴によく適合し、人間－機械系の性能が十分かつ安全に発揮されることをめざす。そのために生理学・解剖学・動作研究・社会学など様々な立場から人間を客観的に観察・分析し、人間－機械系を最も合理的に設計しようとする科学である。その人間工学の概略について解説する。

学習目標・到達目標
人間工学の考え方の基本と、人間工学とデザインの関係を理解することを目標とする。

評価方法その他
試験またはレポート80%・平常点20%（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。）

週　テーマ・授業目標等
1.人間工学の定義
2.人間工学の源流と発展
3.人間工学と社会
4.人間工学とデザイン
5.人間特性の理解①人体寸法
6.人間特性の理解②人体の構造と機能
7.人間特性の理解③視覚と聴覚
8.人間特性の理解④神経系・ストレス
9.人体工学と生活（事例紹介）
10.人間工学の製品設計への応用①
11.人間工学の製品設計への応用②
12ユニバーサルデザイン
13.製品安全①
14.製品安全②
15.まとめ
16.試験またはレポート提出

使用教科書名
特に指定しない。

NO. G03100801　家庭経営学概論

井上　眞弓

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
人間が人間らしく生きる拠点が家庭であり、家庭生活を中心とした家族・コミュニティの営みが家政＝家庭経営である。現代社会における家庭経営の課題を、「家族」「消費者」をキーワードに、概説する。特に、親と子、夫と妻など家族を核とする人と人の関係や、仕事や消費といった日々の生活と生命の再生産の営みを中心に現代社会の危機的状況を生活者の視点から見直し、誰もが安心してくらせる、持続可能性のある消費者市民社会につくりかえる方法を、自分の生活設計と重ねながら考える。

学習目標・到達目標
生活者の視点から、誰もが安心してくらせる、持続可能性のある社会につくりかえる方法を考えます。前半は消費者教育を中心にした生活課題解決の方法を社会的に考え、後半は家族の問題について、ワークショップを中心に捉えます。これらの学びを通して、自立した経済生活を営むための基礎的な力を身につけます。

評価方法その他
平常点　　50点（上村分:25点　井上分:25点）
レポート・試験50点　（上村分:25点　井上分:25点）

週　テーマ・授業目標等
1.くらしをつくりかえる家庭経営学
2.自立のための意思決定
3.社会人になるための経済学
4.カード社会の歩き方
5.消費者市民社会
6.リスクマネジメント
7.持続可能な消費のための教育
8.「住まう」という観点から家族写真を読む
9. 映像にみる家族　家族構成の観点から
10.映像にみる家族　生活文化継承の観点から
11.映像にみる家族　コミュニティの観点から
12.ワークショップ　家族の風景
13.ワークショップのまとめ
14.育児をめぐる生活時間調査について
15.授業の振り返り
16.試験

使用教科書名
(1)暮らしをつくりかえる生活経営力/朝倉書店/2010
(2)これであなたもひとり立ち　金融広報中央委員会

NO. G03101001　家庭看護

増田　いづみ

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
家庭とは、生活を共にする家族の集まりである。家族が健康で日常生活を営むために年代別による健康問題と管理について述べることできる。また加齢、病気などで障がいがあってもその人らしく生活を過ごすための知識・技術も必要である。家庭看護では、健康や疾患、加齢についての基礎知識とともに、生活を支援するための技術についても学ぶ。

学習目標・到達目標
健康と病気の定義について説明ができる
年代別の健康問題と管理について述べることできる
高齢者の心身の特徴について説明ができる。
加齢や病気で障がいがあってもその人の望む生活ができるよう、生活を支援する技術と知識を身につけることができる。

評価方法その他
課題（評価）70%　授業中の活動状況30%として総合的に評価する。
授業への主体的な参加も重視する。
平常点は授業への参加状況、受講への意欲、討論への参加等で総合的に判断する。

週　テーマ・授業目標等
1オリエンテーション 家庭看護を学ぶ意義
2健康と病気①健康について
3健康と病気②看護と介護
4病気と看護①家族の年代別健康管理理
5病気と看護②病気の種類と特徴
6　病気と看護③生活習慣病について
7病気と看護④家庭での看護
8病気と看護⑤看護の基本技術
9高齢者の介護①高齢者の心身の特徴徴
10高齢者の介護②高齢者の福祉
11高齢者の介護③介護の基本
12高齢者の介護④高齢者疑似体験
13高齢者の食事介護について
14高齢者の排泄介護について
15高齢者の移動介護について
16課題提出

使用教科書名
家庭看護・福祉　新訂版　内海　滉ほか　実教出版

NO. G03101101　消費者情報論

小野　由美子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
IT化、グローバル化、少子高齢化など、著しい変化をみせる社会において、一人の消費者・生活者として、自らの生活をどう守り、いかに創造していくかについて、消費者をめぐる情報の観点から検討する。消費生活に関する情報には消費者マークに代表される表示やチラシといった広告のほか、企業や行政、消費者団体などから提供・発信される情報がある。これらの消費者情報は消費者にもたらされるだけでなく、消費者から提供・発信することも重要である。講義では具体的な消費者問題を取り上げながら、情報の収集と整理、内容の分析と評価、情報発信などの技術について、消費者の視点から学ぶ。

学習目標・到達目標
現代市場の構造問題である消費者問題のさまざまな実相を知る。消費者行政や消費者法について理解を深める。主体形成としての消費者教育の役割を認識し、意識変容や行動変容の重要性を認識できるようになる。

評価方法その他
(1)期末試験 40%
(2)視察レポートの提出 30%
(3)平常点 30%
（平常点は、授業への参加状況等で総合的に判断する）

週　テーマ・授業目標等
1　ガイダンス
2　消費者情報とは何か:企業、行政、消費者の立場から
3　消費者教育をめぐる動向
4　企業と消費者教育
5　企業における消費者情報:消費者信用情報と利用者
6　行政における消費者情報①:消費者教育の実践
7　行政における消費者情報②:消費生活相談情報
8　行政における消費者情報③:消費者事故情報
9　メディアリテラシーとは何か
10　生活と宣伝・広告、チラシ広告の検討
11　消費者マーク:記号・絵表示・絵文字の活用
12　消費者情報の収集と整理:新聞記事の活用方法
13　消費者情報に関わる統計の分析と評価
14　消費者情報をめぐる取組み:消費者ニーズの活用
15　まとめ
16　期末試験

使用教科書名
国民生活センター編『くらしの豆知識（2016年版）』2015年

NO. G03101201　消費経済論

金森　敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

消費経済について、消費者の視点を中心に授業を行う。主に、①個人消費者へのマーケティング、②個人としての消費者、③社会的存在としての消費者の３点から消費経済を学ぶ。①個人消費者へのマーケティングでは企業経営、②個人としての消費者では人間の心理・認知行動、③社会的存在としての消費者では集団心理などが関係する。これら3点から消費経済をダイナミックに見ていく。なお本授業では、グループワークを中心に授業を行うので、受講者数に上限を設ける。

学習目標・到達目標

消費経済としての、消費者行動の全体像を把握することができる。
消費者としての自身の行動について、理論を用いて他者に説明することができる。

評価方法その他

期末試験(60%)
宿題3～4回(40%)

週　テーマ・授業目標等

1.イントロ
2.なぜ人の好みはこんなにも違うのか:セグメンテーション
3.どのように消費者を納得させるのか:コミュニケーション
4.売れるお店はどうやって作る:店頭マーケティング
5.人間はしょせんパブロフの犬か:学習とは何か
6.思い出は美化される:記憶
7.好き嫌いは、どのように生まれるのか:態度
8.なぜそれを買ったのか？意思決定
9. 消費で自己表現をしている:アイデンティティ
10. 家族の買い物は誰が決めているのか:家族
11. なぜ友人同士の服装は似てしまうのか:集団
12. なぜものが集団のシンボルになるのか:ステイタス
13. 日本人は全員納豆が好き:サブカルチャー
14. 聖地巡礼も消費者行動:文化
15. 全体の振り返り
16. 定期試験

使用教科書名

なし。必要な資料はプリントで配布します。

NO. G03101301　生活情報論

千葉　一博

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「情報とはなにか」ということから説き起こし、情報の本質を理解する。そして情報は第4の経営資源であるということを説明する。
　また、情報を伝達するメディアについても概説し、その課題と問題点を探る。

学習目標・到達目標

　高度な情報社会の今日、個人の生活でも仕事でも情報活用能力が要求されている。情報社会の現代、私たちの生活と情報は切っても切り離せない関係になっている。それゆえに起因するさまざまな問題が生じていることは周知のことであろう。これらの問題を正しく認識し、その解決策を自分で考えなければならない。そのための情報リテラシーを習得し、また生活における情報の活用と有効利用ができるようになることを目的とする。

評価方法その他

平常点(50点)とレポート、試験(50点)の成績を総合的に評価する。
(平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等

1. 高度情報社会と生活
2. 情報とはなにか1
3. 情報とはなにか2
4. 情報とはなにか3
5. 情報社会1
6. 情報社会2
7. デジタルとアナログ
8. メディアとはなにか
9. メディア(新聞)
10. メディア(放送)
11. メディア(通信)
12. メディアの融合(マルチメディア)
13. 情報メディア
14. 情報社会と生活1
15. 情報社会と生活2
16. 試験

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G03101501　衣環境学概論

藤居　眞理子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

健康で豊かな衣生活を目標に、服飾史、被服デザイン、被服製作、被服材料、被服衛生、被服管理などの分野の基礎を総括的に講義し、被服の役割と機能を分かりやすく概説する。

学習目標・到達目標

被服・服飾の領域全般を広く学び、魅力的で賢い衣生活を送ることに役立つ基礎知識を習得する。

評価方法その他

1～7週担当者と8～15週担当者による担当者別の筆記試験(80%)および平常点(20%)による総合評価

週　テーマ・授業目標等

1. 被服学の領域、被服の着用目的・起源
2. 被服の基本形態と表現(1)
3. 被服の基本形態と表現(2)
4. 服飾の変遷(1)
5. 服飾の変遷(2)
6. 服飾の変遷(3)
7. 服飾の変遷(4)
8. 被服材料(1)天然繊維
9. 被服材料(2)天然繊維と合成繊維
10. 被服材料(3)合成繊維と新合繊
11. 糸・布地・加工・性能
12. 被服の性能と衛生
13. 被服管理(1)被服の整理・洗濯の意義と方法
14. 被服管理(2)洗剤の成分と働き・合理的な洗濯と仕上げ
15. 被服管理(3)洗浄の実際等
16. 試験

使用教科書名

プリントの配布等

NO. G03101601　衣構成学実習A

富田　弘美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

成人女子用の浴衣製作を通じて、和服の構成と縫製方法を習得する。国際的な文化交流に役立つように、和服の基礎知識として歴史、素材などを学ぶ。
さらに、手縫いの基本である運針を身につけ、基礎的な手縫いの手法を体系的に学ぶ。また、浴衣地で和装小物を製作し、浴衣に合わせて自分らしい着こなしを考える。

学習目標・到達目標

日本の民族衣装である和服の構造を理解し、浴衣の製作および着装することができる。

評価方法その他

平常点30%(授業への参加状況・提出期日などで総合的に判断する)作品40%、提出物20%、授業ないでの小テスト10%

週　テーマ・授業目標等

1. 和服の種類と構成、浴衣地の説明と選択、基礎の手縫い1(準備)
2. 基礎の手縫い2(縫製)、運針、道具説明、採寸、寸法計算
3. 基礎の手縫い3(仕上げ)、浴衣の柄合わせと裁断
4. 袖部分の製作1(印つけ、縫製)
   和装小物製作1(生地の糊づけ)
5. 袖部分の製作2(丸みの始末、袖口ぐけ、袖仕上げ)
   和装小物製作2(印つけ、裁断)
6. 身頃部分の製作1(身頃印つけ、背縫い)
   和装小物製作3(チュール、ビーズの準備)
7. 身頃部分の製作2(肩当て、脇縫い、脇縫い代始末)
   和装小物製作4(組立)
8. 身頃部分の製作3(衽印つけ、衽縫い代始末)
9. 身頃部分の製作4(衽つけ、衿下ぐけ)
   部分標本1(準備)
10. 身頃部分の製作5(裾上げ、角の始末)
    部分標本2(角の始末)
11. 身頃部分の製作6(角の始末)
12. 衿部分の製作1(柄合わせ、衿印つけ、掛衿、衿先止め)
    部分標本2(衿先の止め)
13. 衿部分の製作2(衿つけ、三つ衿芯、衿先の止め)
14. 衿部分の製作3(衿先の止め、本ぐけ)
15. 身頃と袖部分の製作(袖付け、縫い代始末、いしき当て、仕上げ)
16. 着付、着装評価、提出

使用教科書名

プリント配布

NO. G03101801　食品学Ⅰ

黒田　久夫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

今日、栄養設計・食品表示・食品開発・食の安全等において、食品の成分を物質レベルで説明することが求められています。本講義では、代表的な食品成分の構造と機能を理解し、調理・加工・保存等でどのような変化を受けるかを学習します。

学習目標・到達目標

化学・生化学の用語を用いて、食品中の成分とその性質・機能を説明できる。

評価方法その他

課題提出(20%)
期末テスト(80%)

週　テーマ・授業目標等

1.ガイダンス:食品成分の化学構造と機能を学ぶ意義
2.化学の復習
3.食品の分類と成分:日本食品標準成分表
4.アミノ酸
5.タンパク質
6.糖
7.炭水化物
8.脂肪酸と脂質
9.水:イオン化・酸と塩基・水分活性
10.ミネラル・ビタミン
11.嗜好性成分(2次機能成分)
12.健康機能性成分(3次機能成分)
13.食品成分間反応①
14.食品成分間反応②
15.まとめ
16.テスト

使用教科書名

食品学(第2版 補訂) (スタンダード栄養・食物シリーズ5) 東京化学同人
このテキストは、食品学IIと共用します。

NO. G03101901　食科学概論

山﨑　薫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「食」は心豊かに健康な日常生活を送る上で重要な要素である。「食」を取り巻く環境や現状、変遷を踏まえ、日本国内に限らず、大きくな視野で「食」を捉え、幅広く最新の話題も交えながら総合的に学ぶ。

学習目標・到達目標

「食」に関する事柄を総体的に概略を理解する。

評価方法その他

筆記試験100%

週　テーマ・授業目標等

1. ヒトと食べ物
2. 日本の食文化(1)
3. 日本の食文化(2)
4. 日本の食文化(3)
5. 日本の食文化(4)
6. 世界の食文化(1)
7. 世界の食文化(2)
8. 世界の食文化(3)
9. 食べ物の特性と活用(1)畜肉・乳
10. 食べ物の特性と活用(2)魚介・卵
11. 食べ物の特性と活用(3)穀類
12. 食べ物の特性と活用(4)野菜
13. 食べ物の特性と活用(5)果物
14. 食べ物の特性と活用(6)調味料
15. 食べ物の特性と活用(7)飲料
16. 定期試験

使用教科書名

適宜、資料を配布します。

NO. G03102001　栄養学Ⅰ

山﨑　薫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「栄養」とは、私たちが外界から食物を摂取して生命を維持することで、成長、運動、思考、健康保持などの全ての生活を営む現象である。よって、日常摂取している食物には生きていくために必要とされる成分（栄養素）が含まれていなくてはならない。食物はどのように生体内に取り入れられ、栄養素は生体内でどのように働き、身体構成成分へと変化するのかを学ぶ。さらに、健康な生活をおくるにはどのように、どれくらい、いつ、食物を摂取したらよいかなどを学ぶ。

学習目標・到達目標

食生活を通した健康に関与する栄養の営みを習得する。

評価方法その他

筆記試験100%

週　テーマ・授業目標等

1. 健康と栄養
2. 食事と栄養(1)生体リズムと栄養物質
3. 食事と栄養(2)炭水化物(糖質)
4. 食事と栄養(3)炭水化物(糖質)・脂質
5. 食事と栄養(4)脂質
6. 食事と栄養(5)たんぱく質
7. 食事と栄養(6)たんぱく質・ミネラル(無機質)
8. 食事と栄養(7)ミネラル(無機質)
9. 食事と栄養(8)ビタミン
10. 食事と栄養(9)ビタミン・水分
11. 食事と栄養(10)水分
12. 食事と栄養(11)消化・吸収
13. 食事と栄養(12)代謝(糖質)
14. 食事と栄養(13)代謝(脂質)
15. 食事と栄養(14)代謝(たんぱく質)
16. 定期試験

使用教科書名

三訂 栄養と健康/日本フードスペシャリスト協会編/建帛社

NO. G03102101　食品学Ⅱ

黒田　久夫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

世界には様々な食品素材があり、さらにそれらを組み合わせ加工することにより膨大な種類の食品が生産されています。本講義では、日本食品標準成分表にリストアップされている食品素材を中心に、食品素材の構造・特徴・含有成分・加工特性等を学びます。ここで得た知識は、他の食分野の講義や実習・実験の基礎となりますので、充分に学習して知識を習得するよう努めて下さい。

学習目標・到達目標

代表的な食品素材の構造・特徴・含有成分・加工調理法を説明することができる。

評価方法その他

課題提出(20%)
期末テスト(80%)

週　テーマ・授業目標等

1.ガイダンス／食品学Iの復習
2.植物性食品①:穀類
3.植物性食品②:いも類・豆類・種実類
4.植物性食品③:野菜類・果実類
5.植物性食品④:きのこ類・藻類・他
6.動物性食品①:食肉
7.動物性食品②:卵・乳類
8.動物性食品③:魚介類
9.油脂
10.調味料・香辛料
11.加工食品と表示
12.酒類・嗜好飲料・菓子
13.機能性食品
14.官能検査
15.まとめ
16.テスト

使用教科書名

食品学(第2版 補訂) (スタンダード栄養・食物シリーズ5) 東京化学同人
このテキストは、食品学Iと共用します。

NO. G03102201　調理学

小口　悦子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

調理過程でおこる科学的な諸現象について食品材料の性質と調理操作上のかかわりを理論的に学ぶとともに、おいしさを左右する要因について総合的に理解する。

学習目標・到達目標

1. 調理の意義を理解する。
2. 食品の調理特性を理解し、調理操作にともなう食品素材の呈味、物性、栄養成分の変化を理解する。
3. 調理操作と調理機器の特徴と関係性を理解し、テクスチャーやおいしさとの関連性を理解する。
4. 献立作成に関する基本を修得する。

評価方法その他

筆記試験90%、平常点（授業への参加状況）10%

週　テーマ・授業目標等

1. 調理学の意義・対象、食事の目的、様式
2. 食べ物のおいしさ（味・におい）
3. 〃　（温度・テクスチャー・その他）
4. 非加熱調理操作と調理器具
5. 加熱調理操作と調理器具・設備
6. 植物性食品の調理性（穀類）
7. 〃　（穀類・野菜・果物）
8. 〃　（豆類、いも類）
9. 動物性食品の調理性（鶏卵）
10. 〃　（肉類）
11. 〃　（魚介類）
12. 〃　（乳・乳製品）
13. 成分抽出素材の調理性（でんぷん、砂糖）
14. 〃　（ゲル化素材）
15. 調理と環境、まとめ
16. 試験

使用教科書名

スタンダード栄養・食物シリーズ6／調理学　畑江敬子・香西みどり編

NO. G03102301　栄養学Ⅱ

山﨑　薫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食組が豊富になり、食生活が多様化する中、日々の活動や健康な生活をおくるには正しい栄養知識に基づいた食生活が求められる。体内に取り込まれた食物（栄養素）が、どの様な特性や役割を持つか、いつどの様に摂取したら良いかを、食生活の問題点なども併せて学ぶ。

学習目標・到達目標

食生活を通した健康に関与する栄養の営みを習得する。

評価方法その他

試験100%

週　テーマ・授業目標等

1. 栄養素と代謝について
2. 栄養素と代謝について
3. 食事と健康（1）
4. 食事と健康（2）
5. 食事と健康（3）
6. 食品の機能性と栄養（1）
7. 食品の機能性と栄養（2）
8. 健康とダイエット
9. ライフステージと栄養（1）
10. ライフステージと栄養（2）
11. 生活習慣病と栄養（1）
12. 生活習慣病と栄養（2）
13. 免疫と栄養
14. 情報社会と健康
15. 健康づくりのための食生活指針
16. 定期試験

使用教科書名

三訂 栄養と健康／日本フードスペシャリスト協会編／建帛社

NO. G03102401　食生活論

熊井　保

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

近年、日本が輸入している食品の安全性の問題、インスタント食品の登場、外食産業の発遠、食生活と健康、食料自給率、地場産業における食材の供給など食にかかわる問題はテレビ・新聞・雑誌などで頻繁にとりあげられ、関心がもたれている。現代における食生活は第２次大戦後に欧米諸国の食生活をモデルとしたが、近年、伝統的な和食文化は健康食として世界において注目され、日本各地の郷土食にも関心が注がれている。安全で健康な食生活をするために、本講義は前近代の食生活がどのように展開してきたのかを踏まえ、近現代における食生活の諸問題を検討する。

学習目標・到達目標

1、前近代の食生活の変遷を理解する。
2、現在の食生活が海外に依存していることを理解する。
3、伝統食の見直しを理解する。

評価方法その他

平常点20%、中間試験・レポート80%。平常点は授業への参加などで総合的に判断する。

週　テーマ・授業目標等

1 原始・古代の食生活
2 中世の食生活（1）―武士と禅宗―
3 中世の食生活（2）―茶の湯と南蛮文化―
4 近世の食生活（1）―武士の食事―
5 近世の食生活（2）―町人の食事―
6 近世の食生活（3）―農民の食事―
7 中間試験
8 近代の食生活―文明開化と西洋料理―
9 近代の料理書・料理雑誌と食生活への影響
10 近代以降の女子の食教育
11 日常食の変化と地域性
12 高度経済成長期の食生活の変化
13 食料の需要と供給
14 外食・中食・内食と変化
15 これからの食生活―伝統食の見直しの動き―
16 レポートまたは試験

使用教科書名

特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配布する。

NO. G03102501　基礎調理

小口　悦子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

日本・西洋・中国料理の調理実習を通して基礎的調理技術、食品の性質とその取り扱い方、食事作法など食事に関する基礎的総合的能力を養うことを目的とする。また、原則として１回の食事となる献立を実習しながら、それぞれの料理様式の特徴や食卓の調え方についても理解し、多様な場面で実践することが可能となることを目的とする。

学習目標・到達目標

1. 食材の下処理法や衛生的な取扱い方を身につける。
2. 食品の種類と概量を理解でき、味付け（調味割合）の基本を身につける。
3. 日本・西洋・中国料理の基礎な調理法を理解し、技術を身につける。
4. 栄養価計算を可能にし、食品の栄養的な特徴を理解する。また、献立作成、食器・調理器具扱い方、配膳法、食事のマナーを身につける。

評価方法その他

平常点（30%、授業への参加状況）、筆記試験(20%)、実習試験(20%)、ノート等提出物(30%)の総合評価。

週　テーマ・授業目標等

1.オリエンテーション目的と進め方、実習上の心得、準備等
2.栄養価計算について、菓子の実習
3.日本料理の基礎・1　白飯、かき卵汁、魚照り焼き、背菜胡麻和え、果物
4.日本料理の基礎・2　親子丼、味噌汁、鰺香味揚げ、酢の物、果物甲州煮
5.日本料理の基礎・3　栗ご飯、薩摩汁、鯖みぞれ煮、酢の物、餅菓子
6.日本料理の基礎・4　松茸飯、滑まし汁、立田揚げ、白和え、果物
7.日本料理の基礎・5　炊き込み飯、味噌汁、栗銑の煮物、柿なます、饅頭
8.日本料理の基礎・6　散らしずし、茶わん蒸し、お浸し、餅菓子
9.西洋料理の基礎・7　赤飯、蛤潮汁、いり鶏、天ぷら、寄せ菓子
10.西洋料理の基礎・1　ビーフシチュー、バターライス、冷野菜、ババロア
11.西洋料理の基礎・2　オードブル、肉料理、温野菜、冷野菜、焼き菓子
12.西洋料理の基礎・3　スープ、肉料理、温・冷野菜、カスタードプリン
13.西洋料理の基礎・4　スープ、リゾット、冷野菜、アップルパイ　冷菜、
14.中国料理の基礎・1　炸菜、湯菜、鹹点心（炒飯）、甜点心
15.中国料理の基礎・2　冷菜、炸菜、点心（粥）、甜点心
16. 定期試験

使用教科書名

五訂増補　食品成分表　2016/　女子栄養大学出版部委
五訂増補　調理のためのベーシックデータ/　女子栄養大学出版部
「基礎調理」のテキストを配布する。

NO. G03102701　食料経済

山岡　義卓

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「食」は、いのちの源であり、私たちが生きていく上では欠くことのできない営みである。この点において、食料は、他の財貨とは本質的に異なる性質を有する。本授業では、食料の有するこうした特性を踏まえたうえで、現代社会における食品の生産、流通、消費のシステムを概観し、その経緯や現状の諸課題について理解し、さらに、今後の社会における望ましいあり方を考える。

学習目標・到達目標

現代社会における食品の生産、流通、消費のシステムの経緯と現状を理解し、そのうえで、今後の社会における望ましいあり方を考え、行動できるようになる。

評価方法その他

平常点20点、中間レポート20点、定期試験60点

週　テーマ・授業目標等

(1)ガイダンス
(2)食料経済とは
(3)食品の生産から消費まで
(4)食品輸入と食料自給率
(5)食生活形態の変化
(6)食品消費の変化
(7)食品流通の概要
(8)卸売流通
(9)小売流通
(10)生鮮食品の流通
(11)加工食品の流通
(12)フードビジネスとフードマーケティング
(13)食品消費と安全
(14)食品消費と環境問題
(15)まとめ、振り返り

使用教科書名

NO. G03102801　ものづくり論

澤田　雅彦

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

日常生活の中で使われている様々なものについて、主にその材料と制作技術について解説する。それによって、ものを作る、あるいは生産するために必要な基本的な考え方を理解する。また材料や作り方の理解を通して、日常生活のなかで使われるありふれたものや道具に対する関心を深め、あわせて暮らしを楽しむためのもの・道具の使い方についても考える。

学習目標・到達目標

ものづくりの基本的な技術と、材料の種類及びその特徴について理解し、生活の中でものづくりが果たす役割について理解できる。

評価方法その他

試験80%・平常点20%（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。）

週　テーマ・授業目標等

1. ガイダンス／授業内容の説明
2. デザインとものづくり／デザインの考え方と手法
3. ものづくりの基本(1)ものづくりと材料
4. ものづくりの基本(2)技術と道具について
5. ものづくりの基本(3)造形のこと・美しい形とは？
6. ものづくりの基本(4)ものづくりの工程について
7. ものづくりのための材料(1)金属について
8. ものづくりのための材料(2)木材
9. ものづくりのための材料(3)プラスチック
10. 陶磁器の作り方(1)素材(粘土)について
11. 陶磁器の作り方(2)成型方法
12. 陶磁器の作り方(3)釉薬と焼成方法
13. 陶磁器の作り方(4)絵付け
14. 陶磁器の作り方(5)窯の種類と構造
15. 陶磁器の種類と使い方
16. 試験またはレポート提出

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G03102901　製品・食品鑑別演習

山﨑　薫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食品を評価する際に、嗜好に直接結びつく官能評価ならびに個別の食品に関する鑑別知識は大変重要である。官能検査は味覚、嗅覚、視覚、触覚、聴覚の五感を持つヒトを一種の計測機器と考え、ヒトの感覚を用いて、評価、測定する方法である。また、食生活の多様化により、利用する食品の種類も多くなっている中、食の安全性確保の上でも食品の品質を見抜く能力も必要である。その両者の考え方、手法、具体的な実施方法について、演習を通して習得することを目的とする。

学習目標・到達目標

食の官能評価の考え方、手法、具体的な実施方法を習得するとともに食品の鑑別法についても評価法を習得する。

評価方法その他

試験・レポート内容50%、出席・授業態度50%

週　テーマ・授業目標等

1. 食品の品質と味覚
2. 食品の官能評価(1)
3. 食品の官能評価(2)
4. 食品の官能評価(3)
5. 食品の官能評価(4)
6. 食品の官能評価(5)
7. 食品の官能評価(6)
8. まとめ(1)
9. 食品の鑑別評価(1)
10. 食品の鑑別評価(2)
11. 食品の鑑別評価(3)
12. 食品の鑑別評価(4)
13. 食品の鑑別評価(5)
14. 食品の鑑別評価(6)
15. まとめ(2)
16. 定期試験

使用教科書名

三訂／食品の官能評価・鑑別演習／日本フードスペシャリスト協会編／建帛社

NO. G03103001　住居学概論

小池　孝子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

住居全般についての基礎的知識を習得する。個人・家族の生活の拠点である住居について、様々な角度から検討を行う。

学習目標・到達目標

住居は個人や家族の生活の拠点であり、人間生活の最も基本的な場である。人間にとって住まいとは何かを考え、人間らしい生活を送るための空間としての住居のあり方について理解する。建築製図の基本的な技術を習得する。

評価方法その他

小課題20%、製図課題40%、テスト40%により総合的に評価する。

週　テーマ・授業目標等

1) ガイダンス・住居の機能
2) 寸法と空間
3) 日本の住まいの変遷(1)
4) 日本の住まいの変遷(2)・生活様式と住居
5) 現代の家族と住まい
6) 日本の住宅政策
7) 住居の選択と管理
8) 住まいと環境
9) 安心・安全な住まい
10) 高齢者・障害者の住まい－集まって住む(1)
11) 集まって住む(2)
12) 住まいの設計
13) 住まいの設計／製図(1)
14) 住まいの設計／製図(2)
15) 住まいの設計／製図(3)
16) 定期試験

使用教科書名

定行まり子「生活と住居」光生館

NO. G03103101　建築史A

大橋　竜太

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

授業は、主としてパワーポイントを用いながらすすめる。おのおのの時代の建築を、タイプごとに分け、それらを代表する具体的な実例をいくつか取り上げ、それぞれの建築の特徴を解説していく。用いる資料は、写真ばかりでなく、しばしば建築図面を用い、建築のもつ機能性や、設計者の意図を探る。また、構造上の特質や、建築形態のもつ意味等を、作り手・使い手の立場や、そのバックグラウンドとなる社会背景等を鑑みながら検討し、建築や生活空間に対する理解を深めていく。

学習目標・到達目標

日本建築史の通史を学ぶ。竪穴住居や高床住居などの原始的な建築から最新の現代建築に至るまで、また、住宅、社寺、公共建築など、さまざまなタイプの伝統的な日本建築に関して、実例を詳細に検討しながら、その建築的・社会的意義に関して概観する。それにより、木構造など日本建築に特有な技術的な発展過程を学ぶと同時に、わが国の建築文化・生活様式の変化を学び、建築を通して伝統文化に対する理解を深めることを目指す。

評価方法その他

学期末試験（80%）および平常点（提出物等：20%）による

週　テーマ・授業目標等

1. イントロダクション
2. 先史時代の建築
3. 神社建築の成立
4. 仏教建築の伝来
5. 古代の都市計画と寝殿造り
6. 中世の仏教建築
7. 中世の神社建築
8. 書院造り
9. 城郭建築
10. 茶室と数寄屋
11. 近世社寺建築
12. 民家建築
13. 西洋建築の移入
14. 近代住宅建築
15. 現代建築
16. 学期末試験

使用教科書名

「建築史」編纂委員会編著、『コンパクト版　建築史【日本・西洋】』、彰国社

NO. G03103201　建築史B

大橋　竜太

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

授業は、主としてパワーポイントを用いながらすすめる。おのおのの時代の建築を、代表的な実例をとりあげながら、建築的特徴を解説していく。その際、写真資料、図面、模型等を用い、空間の理解を中心に、作り手・使い手の考え方、また、その空間が必要とされた社会背景等に関して、考察を加えていく。

学習目標・到達目標

西洋建築史の通史を学ぶ。ヨーロッパ大陸を中心に展開してきた西洋建築は、現代建築の根幹をなしており、その歴史の習得は、現代建築までつながる世界の建築文化の理解につながる。そこで、各国を代表する著名な西洋建築をひとつずつ詳細に検討することによって、世界の建築文化の系譜を学ぶと同時に、個々の建築とその建設の背景を探り、建築文化の理解をはかる。これらを通して、国際的文化人としての素養を身につけることを目指す。

評価方法その他

学期末試験（80%）および平常点（提出物等：20%）による

週　テーマ・授業目標等

1. イントロダクション
2. 古代オリエント・エジプト建築
3. ギリシア建築
4. ローマ建築
5. 初期キリスト教建築・ビザンティン建築・イスラム建築
6. ロマネスク建築
7. ゴシック建築
8. 中世の世俗建築
9. ルネサンス建築
10. バロック建築
11. リヴァイヴァル建築
12. 新材料を用いた建築
13. 都市・住宅問題と建築
14. 近代建築運動
15. モダニズム建築
16. 学期末試験

使用教科書名

「建築史」編纂委員会編著、『コンパクト版　建築史【日本・西洋】』、彰国社

NO. G03103301　住生活論

小池　孝子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

住生活および住環境について、現代における問題点を理解し、その解決方法をについて検討する。

学習目標・到達目標

住生活について科学的に分析し理解する能力、および住生活に関する課題の発見能力・問題解決能力を養う。

評価方法その他

小課題20%、レポート40%、定期試験40%により総合的に評価する。

週　テーマ・授業目標等

1) ガイダンス
2) 尺度（三角スケールの使い方、コピー倍率）
3) 敷地の把握と機能図
4) ゾーニングと動線
5) 木造在来軸組工法（平屋）の部材名称と施工順序
6) 木造在来軸組工法（2階建）の部材名称と施工順序
7) 階段の構造・種類・各部名称・寸法
8) 直階段の書き方
9) 折り返し階段、螺旋階段の書き方
10) 高齢者と住まい
11) 子どもと住まい
12) 福祉と住まい
13) 空き家問題
14) 都市計画とまちづくり
15) まちづくりと住民参加

使用教科書名

特にテキストは指定しない。

NO. G03103401　住居設備

椛田　考一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

私たちが生活する住まいは様々な設備システムを維持管理することによって成り立っている。その設備システムには、快適性、利便性、機能性、安全性、信頼性、経済性、省エネ・省資源、環境保全性、保守管理性が求められており、住居を供給する立場からも、生活者としても、それらを適切に評価できる能力を身につける必要がある。受講者が住居において使用する、給排水衛生設備、暖冷房設備、換気設備、電気・情報設備、防災設備について講義を行う。

学習目標・到達目標

[建築士指定科目]住まいの設備システムについて、その名称、働きを説明できること。

評価方法その他

定期試験(70%)、レポート及び授業中の課題(30%)による総合評価

週　テーマ・授業目標等

1. 1. ガイダンス
2. 2. 設備システムから見た戸建住宅と集合住宅の違い
3. 3. (1) 建築と水環境
4. (2) 水に関する基礎知識
5. (3) 給水設備
6. (4) 給湯設備
7. (5) 排水通気設備
8. (6) 衛生器具
9. (7) 浄化槽
10. (8) ガス設備
11. 4. 住宅の照明設備
12. 5. 住宅の電気設備
13. 6. 住宅の暖冷房設備
14. 7. 住宅の換気設備
15. 8. 住居内の設備と事故
16. 試験

使用教科書名

「建築の設備」入門　新訂版／同編集委員会編／彰国社／2009年

NO. G03103501　構造力学A

西村　彰敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

構造力学の入門編として、建築（住居）における力学への興味を喚起し、新しい空間構成を想像する能力の育成を目的としている。そのために、各種建築物のかたちと強さの関係について、平易に解説すると共に、実際にそれら建築物の構造模型を制作し、簡単な実験（一点で支える力の実験、両端で支える力の実験、梁の変形など）と計算を行うことによって、力学を含む数学的な知識の向上を図る。また、構造形式の異なる建築物（ラーメン構造、トラス構造、アーチ構造、膜構造、折板構造など）についても紹介する。

学習目標・到達目標

構造物に作用する荷重とそれによって生ずる支持反力及び部材応力を理解し、説明できる。また、これらの力の釣合い条件をもとに、柱、梁、トラスに生ずる応力を計算できる。

評価方法その他

平常点（60%）、宿題（20%）、定期試験の得点（20%）により、総合的に評価する。なお、平常点は、授業の最後に行う小テストの点数によって判断する。

週　テーマ・授業目標等

1.ガイダンス
2.力とかたち①　1点で支える力の実験と計算
3.力とかたち②　実験結果の解説
4.力とかたち③　図心の求め方（制作）
5.力とかたち④　図心の求め方（計算）
6.かたちと変形　片持ち梁
7.力の合成と分解①（図式解法）
8.力の合成と分解②（図式解法－計算）
9.力の合成と分解③（支持反力の算出）
10.力の合成と分解④（支持反力の算出）　宿題①
11.力の合成と分解⑤（支持反力の算出）　宿題②
12.トラス①（部材応力の算出－節点法）　宿題③
13.トラス②（部材応力の算出－節点法）　宿題④
14.トラス③（部材応力の算出－切断法）　宿題⑤
15. トラス④（部材応力の算出－切断法）
16. 定期試験

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G03103601　構造計画A

西村　彰敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

構造力学の知識を基に、木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造建物他の特徴について講義する。実在の建築物を教材とし、建築物の形、建築物の強度、安全性を含めて、建築、ｲﾝﾃﾘｱ計画における、構造ﾃﾞｻﾞｲﾝの役割について学ぶ。

学習目標・到達目標

構造の知識を、建築計画、インテリアデザインに活用する能力を得る。

評価方法その他

授業における演習レポート（50%）、及び、期末試験（50%）による。
演習ﾚﾎﾟｰﾄは、出席点を含む

週　テーマ・授業目標等

1 架構の仕組み：力の流れ
2 梁の曲げ応力と、安全検討（その1：木構造、鉄骨構造）
3　同上　（その2：鉄筋コンクリート構造）
4 柱、基礎、支持地盤の強度と安全検討
5 トラス部材の直応力と、安全検討
6　同上　座屈と、許容圧縮応力度
7 空間デザイン　1．釣り構造、シェル構造と空間のイメージ
8　2．大屋根、大スパン床板、支持構造
9　3．構造部材と非構造部材
・・・（この頃、レポート課題提示）・・・
10 構造デザイン　1．吹き抜け空間、地下室とドライエリア
11　2．階段 as インテリアモニュメント
12 構造詳細　1．木造建物の仕口、鉄骨造の仕口
13　2．鉄筋コンクリート造の仕口
14　3．詳細図の作成（レポート課題、提出期限）
15 レポートおよび課題の講評

使用教科書名

構造用教材　日本建築学会　丸善

NO. G03103701　インテリア材料

白井　篤

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

建築材料の中から、インテリアを中心とした仕上げ材料（壁材料、天井材料、床材料など）を取り上げて、それらの材料（せっこうボード、繊維補強系ボード、軽量気泡コンクリート、タイル、れんが、石材、ガラス、塗料、断熱材、接着剤、プラスチックなど）の基本的事項を平易に解説する。また、インテリア材料は構造材料とは異なり、安全性や耐久性以外に、機能性、快適性、美観性などの性能も要求される。そこで、各部位に要求される性能条件と材料との関連性を理解させると共に、建築仕上げ材料選定にあたっての基礎的知識を養う。

学習目標・到達目標

各種の建築仕上げ材料について、その基本的事項（種類、性質など）を説明できること。

評価方法その他

平常点（50%）と定期試験の得点（50%）により、総合的に評価する。なお、平常点は、授業の最後に行う小テストの点数によって判断する。

週　テーマ・授業目標等

1.ガイダンス
2.屋根材料(1)－粘土瓦
3.屋根材料(2)－スレート
4.屋根材料(3)－金属板
5.内外装仕上げ材料(1)－木質系材料
6.内外装仕上げ材料(2)－せっこうボード
7.内外装仕上げ材料(3)－繊維補強系ボード
8.内外装仕上げ材料(4)－ALC
9.内外装仕上げ材料(5)－タイル
10.内外装仕上げ材料(6)－れんが
11.内外装仕上げ材料(7)－石材
12.内外装仕上げ材料(8)－左官材料
13.内外装仕上げ材料(9)－ガラス
14.その他の材料(1)－断熱材料
15.その他の材料(2)－塗料／接着剤
16.定期試験

使用教科書名

適宜、資料を印刷・配付する。

NO. G03103801　住宅施工

白井　篤

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

住宅生産の最終段階である施工について、住宅の主要構造形式である木構造を中心として、地業工事、主体工事、内外装仕上げ工事（タイル工事、左官工事、塗装・吹付け工事など）、床工事（カーペット敷き込み工事、畳敷き工事など）の順に施工方法を平易に解説する。また、住宅などの建築物を建設する際に必要となる敷地とその周辺並びに地盤の調査方法についても学ぶ。

学習目標・到達目標

木造住宅の施工方法について、工事種別ごとに説明できること。

評価方法その他

平常点（45%）、レポート（10%）、定期試験の得点（45%）により、総合的に評価する。
なお、平常点は、授業の最後に行う小テストの点数によって判断する。

週　テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 施工・管理計画①－工事契約、工程表
3. 施工・管理計画②－材料管理、各種届出
4. 仮設・地業工事①－地盤調査
5. 仮設・地業工事②－基礎の種類
6. 主体工事
7. 内外装工事
8. 内外装仕上げ工事①（タイル工事）
9. 内外装仕上げ工事②（タイル工事）
10. 内外装仕上げ工事③（左官工事）
11. 内外装仕上げ工事④（ガラス・建具工事）
12. 床工事①（合成樹脂系）
13. 床工事②（カーペット敷き、畳敷き）
14. 屋根工事（天井工事を含む）
15. その他の工事（断熱工事・設備工事）
16. 定期試験

使用教科書名

適宜、資料を印刷・配付する。

NO. G03104001　建築環境学A

椛田　考一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

建築環境学は建築の内外空間の環境形成を計画・評価する分野であり、建築設計において建物性能を決める重要なポイントのひとつである。この授業では、建築環境を形成する物理的要素である「熱・空気」の基本的性質を学ぶとともに、その環境を評価する我々の感覚の特性を知ることによって、建物・設備性能が居住者へ与える影響を理解する。また、それらの知識を踏まえて、居住者にとって望ましい建築環境を構築するための具体的な手法を学ぶ。

学習目標・到達目標

[建築士指定科目]建築環境を構成する、熱・空気の基本的性質を説明できること。

評価方法その他

定期試験(70%)、レポート及び授業中の課題(30%)による総合評価

週　テーマ・授業目標等

1. 0. 建築環境学及び建築設備の位置付け
2. 安全・衛生と快適
3. 1. 建築環境学の概要
4. 4. 熱環境 (1)温熱感
5. (2)外界条件
6. (3)日照環境
7. (3)日照環境
8. (4)建物の熱性能
9. (4)建物の熱性能
10. (4)建物の熱性能
11. (5)湿気環境
12. (5)湿気環境
13. 3. 空気環境(1)空気と人の健康
14. (2)室内の空気汚染対策
15. (2)室内の空気汚染対策
16. 試験

使用教科書名

生活環境学[改訂版]／岩田利枝 他／井上書院／2015

NO. G03104101　住居計画

小池　孝子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

家族の暮らしの場である住居について、現代的な課題を踏まえたうえで、それぞれの家族にとって快適な住宅、住宅地のあり方について検討をおこなう。

学習目標・到達目標

住居はそこに住む家族のためのものであると同時にまちの財産でもある。住宅および住宅地を計画する際に必要となるさまざまなことがらについて理解し、住居設計のための基礎知識を習得する。

評価方法その他

小課題20%、レポート2題80%により総合的に評価する。

週　テーマ・授業目標等

1) ガイダンス・家族と住まい
2) 家族のかたちと住まいのかたち
3) 家族の変化と新しい住まいのかたち
4) 居住歴と原風景
5) 住居の設計プロセス
6) 生活行為と生活時間
7) 生活行為と住空間
8) 独立住宅の平面構成
9) 独立住宅の計画手法(工法)
10) 生活の外部化と地域施設
11) 住宅でまちをつくる
12) 集合住宅地の計画
13) 集合住宅の平面構成
14) 密度計画・集合住宅団地の歴史
15) 集合住宅団地の再生

使用教科書名

特にテキストは指定しない。

NO. G03104201　福祉住環境

小池　孝子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

近い将来の超高齢者社会に備え、高齢者や障害者が在宅で自立した生活をおくるための住環境整備が求められている。本授業は、この福祉住環境整備分野の初歩的な知識を習得することを目的とし、高齢者や身体障害者を対象とした住環境整備についての基礎知識を学ぶとともに、在宅介護の現状と問題点、特徴、必要な視点等から、介護保険制度の対象となる住宅改修、福祉用具、特定疾病等、建築・福祉・医療などに関して体系的な幅広い知識を学ぶ。

学習目標・到達目標

高齢者や身体障害者を対象とした住環境整備についての基礎知識とともに、在宅介護の現状と問題点、特徴、必要な視点等から介護保険制度の対象となる住宅改修、福祉用具、特定疾病等、建築・福祉・医療などに関して体系的な幅広い知識を習得する。

評価方法その他

小課題20%、レポート40%、テスト40%により総合的に評価する。

週　テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 福祉・ノーマライゼーション・リハビリテーションの考え方
3. 福祉住環境の意義と役割
4. 福祉住環境整備と介護保険制度
5. 福祉住環境整備の意義
6. 高齢者・障害者の住環境整備－1
7. 高齢者・障害者の住環境整備－2
8. 高齢者・障害者の住環境整備－3
9. 日本の住宅と住生活上の課題
10. 福祉住環境整備の技術－1
11. 福祉住環境整備の技術－2
12. 福祉住環境整備の技術－3
13. 福祉用具の活用
14. 関連法規
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

特にテキストは指定しない。

NO. G03104301　生活デザイン演習C

生活デザイン学科　教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

生活デザイン学科の専門分野の内容を体験的に学ぶために、各教員の授業の補完的または発展的な内容の授業、学外学内のイベント等への参加などのプログラムを展開する。プログラムは学期の最初に生活デザイン学科で設定し、2年次3年次合同のプログラムもある。個人での作業にとどまらず、グループの中で協力して計画と作業を進め、問題を解決する力を養う。

学習目標・到達目標

生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを理解し、授業を専門的、主体的に学ぶための考え方や手法を身につける。

評価方法その他

平常点(40%)、課題(60%)の総合評価。(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。)

週　テーマ・授業目標等

・授業は、生活デザイン学科の教員が提示する、いくつかのテーマに沿って行う。

・授業は集中講義の形式で行うが、授業の内容・進め方・日程については、テーマごとに独自に設定する。

・授業内容と日程の詳細については、4月の学科ガイダンスで告知する。

使用教科書名

適宜、資料を印刷・配付する。

NO. G03104401　被服整理学実験

藤居　眞理子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
衣料用洗剤の洗浄力に関して、起泡性、浸透力、界面張力等を測定し臨界ミセル濃度を求める。また、人工汚染布を用いた洗浄力試験を行い、市販洗剤の性能を評価すると共に、洗浄に関する要因とそれらの相関性などを考察する。これらの実験を通じ、生活に関わる身近な問題を科学的に観察する方法を学ぶ。

学習目標・到達目標
被服の洗浄に関わる現象を理解し、有効な洗濯および取扱いが出来ることを目標にする。また、衣管理学の中の洗濯、しみ抜き、漂白、増白などについて実践的に学び、適切で効果的な方法と条件を学び、実生活で活用できる能力を身につける。

評価方法その他
レポートを80%、平常点を20%とする。

週　テーマ・授業目標等
1. ガイダンス　　諸注意
2. 洗剤水溶液の性能1 溶解性・pHの測定
3. 洗剤水溶液の性能2 起泡力の測定
4. 洗剤水溶液の性能3 浸透力の測定
5. 洗剤水溶液の性能4 浸透力の測定
6. 洗剤水溶液の性能5 水の硬度測定
7. 洗剤水溶液の性能6 水の硬度測定
8. 洗剤水溶液の性能7 比界面張力の測定
9. 洗剤水溶液の性能8 比界面張力の測定
10. 洗浄力試験1　　洗浄力の測定1
11. 洗浄力試験2　　洗浄力の測定
12. 洗浄力試験3　　洗浄力の測定
13. 家庭洗濯1　　漂白剤の効果
14. 家庭洗濯2　　漂白剤の効果
15. 家庭洗濯3　　漂白剤の効果
16. レポート提出締切

使用教科書名
適宜プリントを配布する。

NO. G03104501　工芸染色実習A

藤居　眞理子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
染色の基礎を踏まえ初歩的な工芸的手法で小作品を制作し、繊維製品の審美性を高めるための染色の意義を理解する。

学習目標・到達目標
わが国の代表的な染色技法である刷り込み染め、板締め、型染を取り上げ、被染物の素材として紙、布、革を用いて初歩的な小作品制作を体験することにより、染色の楽しさや染色技法の特徴を理解し、初歩技術の習得とデザイン力、色彩感覚を身につけることができる。

評価方法その他
本学既定の出席状況を満たしていること。
レポートと作品(100%)

週　テーマ・授業目標等
1. ガイダンス
2. 紙の染色1摺込み染1
3. 紙の染色2摺込み染2
4. 紙の染色3摺込み染3
5. 紙の染色4板締め染1
6. 紙の染色5板締め染2
7. 布の染色1型染1
8. 布の染色2型染2
9. 布の染色3型染3
10. 布の染色4型染4
11. 布の染色5型染5
12. 布の染色6江戸更紗1
13. 布の染色7江戸更紗2
14. 革の染色1墨流し染1
15. 革の染色2墨流し染2
16. レポート・作品提出締切

使用教科書名
使用しない。
必要に応じプリントを配布する。

NO. G03104701　服飾造形実習B

藤田　恵子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
上半身の形状を理解し、その計測法を学ぶ。さらに計測値に基づいて基本的なブラウスの製図を書き、立体の形状とパターンとの関係を理解する。自身のサイズの衿付き長袖ブラウスの制作を通して、上衣の基本的な制作技術を習得する。
履修条件：「服飾造形実習・演習A」の履修をしていること

学習目標・到達目標
衿付き長袖ブラウスの制作をする。ブラウス制作のための人体計測法を学び、計測値を基に自信のサイズの作品を完成させ、着装発表をする。

評価方法その他
平常点40%、作品30%、レポート30%
授業の参加状況、作品制作の取り組み方等を総合的に判断する

週　テーマ・授業目標等
1. オリエンテーション、テキスト配布、各種ブラウスの説明、人体計測、製図
2. ブラウス製図
3. 布裁断、印付け
4. 印付け、仮縫い(ダーツ、脇、肩、見返し、衿、袖)
5. 仮縫い(袖作り)
6. 仮縫い(袖付)
7. 補正、本縫い(ダーツ、肩、脇)、接着芯貼り(衿、カフス、見返し)
8. 衿作り
9. 衿付け
10. 袖作り(見返し)
11. 袖作り(カフス)
12. 袖付け
13. ボタンホール(練習)、
14. ボタンホール仕上げ、ボタン付け、仕上げアイロン
15. 着装発表、レポート提出

使用教科書名
制作したテキスト使用

NO. G03104801　栄養学・食品衛生学実験

山﨑　薫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
栄養や食品衛生について、教科書や講義などから修得した知識を客観的に分析する力を基礎的な実験を行いながら養う。栄養学分野では、生化学的な要素も取り入れながら、栄養成分の科学的性質や化学反応について実験を行う。食品衛生学実験では、食品衛生に関連する微生物学実験、食品添加物の分析などを行いながら、扱う試料、薬品の性質も理解し、安全な実験実施への心構えも修得していく。

学習目標・到達目標
栄養、食品衛生に関係する事項を実験的手法を用いて体得するとともに、化学的なデータ解析を初歩を学び、習得する。両分野とも、結果の予測、実験操作の習熟、細やかな観察力、得られた結果に対する分析力を積み上げることを目的とする。

評価方法その他
試験・レポート内容50%、出席・授業態度50%

週　テーマ・授業目標等
1. ガイダンス(実験を始まるにあたっての心構えと安全確保について)
2. 基礎実験Ⅰ
3. 基礎実験Ⅱ
4. 酵素反応に関する実験Ⅰ
5. 酵素反応に関する実験Ⅱ
6. 核酸に関する実験Ⅰ
7. 核酸に関する実験Ⅱ
8. グラム染色と顕微鏡による細菌の観察
9. 洗浄前後の手、まな板の生菌数測定Ⅰ
10. 洗浄前後の手、まな板の生菌数測定Ⅱ・食品中の細菌数(生菌数)測定Ⅰ
11. 食品中の細菌数(生菌数)測定Ⅱ
12. 食品成分の変質試験
13. 食品添加物の分析
14. 食品洗浄の検査
15. 水質検査
16. 定期試験

使用教科書名
必要資料を適宜、配布する。

NO. G03104901　調理学実験

小口　悦子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

調理学実験では、調理操作上で起こる様々な現象について、その諸条件と食品の物性や化学性への変化との関連性、および食感、食味への影響を学び、食品の調理特性と嗜好性の向上に関与する要因について理解する。また、調理の実際において実践展開ができる応用力をつけることを目的とする。

学習目標・到達目標

1. 調理学実験の基本的な手法を学ぶ。
2. 調理条件と食味への影響について科学的な機構を理解する。

評価方法その他

レポート内容(60%)、平常点(40%、授業への参加状況)の総合評価

週　テーマ・授業目標等

1. 調理学実験における測定の基礎
2. 味覚　閾値と味の相互作用、色と味覚の関係
3. 米と米粉　米の吸水と炊飯、米粉の調理特性
4. 小麦粉の種類と特徴　グルテン形成に及ぼす要因
5. クッキーの性状におよぼす材料配合割合の影響
6. 野菜・果物の色　酵素的褐変とpH、加熱による変化
7. 卵の調理性　熱凝固性、希釈性
8. 卵の調理性　乳化性、起泡性
9. 牛乳・乳製品の調理特性(1)　酸・熱による変化
10. 牛乳・乳製品の調理特性(2)　生クリームの気泡生
11. いも類の取り扱い方
12. 肉の加熱と調味液によるテクスチャーと味の変化
13. 魚肉の加熱と調味液によるテクスチャーと味の変化
14. 成分抽出素材と調理(1)　寒天、ゼラチン、カラギーナンゲルの調理特性
15. 成分抽出素材と調理(2)　砂糖、

使用教科書名

健康を考えた調理科学実験／今井悦子他／アイ・ケイコーポレーション

NO. G03105101　フードスペシャリスト論

山﨑　薫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「食」は心豊かに健康な日常生活を送る上で重要な要素である。「食」を取り巻く環境や現状、変遷を踏まえ、日本国内に限らず、大きくな視野で「食」を捉え、栄養性、安全性、嗜好性、加工・貯蔵性など幅広く最新の話題も交えながら総合的に学ぶ。フードスペシャリストの意義とその概要、活用等の基本知識を習得する。

学習目標・到達目標

食」に関する事柄を総体的に概略を理解する。

評価方法その他

試験100%

週　テーマ・授業目標等

1. 食に関わる職業
2. フードスペシャリストとは
3. 人類と食物
4. 人類と食物
5. 世界の食
6. 世界の食
7. 日本の食
8. 日本の食
9. 現代日本の食生活
10. 現代日本の食生活
11. 食品産業の役割
12. 食産業の役割・食品の品質規格と表示
13. 食品の品質規格と表示
14. 食品の品質規格と表示・食情報と消費者保護
15. 食情報と消費者保護
16. 定期試験

使用教科書名

四訂/フードスペシャリスト論/第2版/フードスペシャリスト協会/建帛社/

NO. G03105201　生活デザイン演習E

生活デザイン学科　教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

生活デザイン学科の専門分野の内容を体験的に幅広く学ぶため、各教員の授業の補完的または発展的な内容の授業、卒業研究の予備的授業（プレゼミ）、学外学内のイベント等への参加などのプログラムを展開する。2年次3年次合同のプログラムもあり、グループの中で協調を図りながら、異なる立場のメンバーと共に計画を完遂する力を養う。

学習目標・到達目標

プログラムの企画・実施を通して、組織的に作業を成し遂げる経験をすることにより、計画を実行する力を身につけ、自分が得意とする能力を自己認識できる。

評価方法その他

平常点(40%)、課題(60%)の総合評価。(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。)

週　テーマ・授業目標等

・授業は、生活デザイン学科の教員が提示する、いくつかのテーマに沿って行う。

・授業は集中講義の形式で行うが、授業の内容・進め方・日程については、テーマごとに

独自に設定する。

・授業内容と日程の詳細については、4月の学科ガイダンスで告知する。

・他学年と合同で実施するプログラムもある。

使用教科書名

テーマ毎に適宜、資料を印刷・配付する。

NO. G03105301　生活デザイン演習F

生活デザイン学科　教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

前期の生活デザイン演習F同様、生活デザイン学科の専門分野の内容を体験的に幅広く学ぶため、各教員の授業の補完的または発展的な内容の授業、卒業研究の予備的授業（プレゼミ）、学外学内のイベント等への参加などのプログラムを展開する。4年次の卒業研究、そして社会に出てからの様々な活動の手がかりを得ることを期待する。

学習目標・到達目標

プログラムの企画・実施を通して、組織的に作業を成し遂げる経験をすることにより、計画を実行する力を身につけ、自分が得意とする能力を自己認識できる。

評価方法その他

平常点(40%)、課題(60%)の総合評価。(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。)

週　テーマ・授業目標等

・授業は、生活デザイン学科の教員が提示する、いくつかのテーマに沿って行う。

・授業は集中講義の形式で行うが、授業の内容・進め方・日程については、テーマごとに

独自に設定する。

・授業内容と日程の詳細については、4月の学科ガイダンスで告知する。

・他学年と合同で実施するプログラムもある。

使用教科書名

テーマ毎に適宜、資料を印刷・配付する。

NO. G03105501　アパレル生産実習

藤田　恵子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
アパレル産業の工程の基礎を学んだ後、実際に販売する目的で小物の商品企画をし、製作して、学園祭で販売する。

学習目標・到達目標
アパレル製品の商品化の過程を学ぶ。更にグループで小物の商品化を企画し、製作し、販売する。

評価方法その他
平常点:40点、商品企画・製作:30点、レポート:30点

週　テーマ・授業目標等
1. オリエンテーション、プロジェクトの説明
2. 工業用パターンメーキング、縫製仕様書
3. 工程分析表、商品の試作開始
4. シーチングによる試作、見積もり
5. 学内特別授業　デザイナーによるワークショップ
6. シーチングによる試作、工程分析表
7. 中間発表
8. プロジェクト実物製作開始
9. 学外特別授業
10. 商品製作開始
11. 商品製作
12. 商品製作
13. 商品製作
14. 商品製作、プレゼンテーション(パネル)準備
15. 商品完成、プレゼンテーション(パネル完成)

使用教科書名
テキストを初回に配布する

NO. G03105801　インテリアコーディネート

原口　秀昭

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
インテリアの概要、歴史、デザイン、材料、納まり、構法、建具と金物、カーテンとブラインド、設備、環境、構造などの基本をマスターする。技術的、用語的な解説だけではなく、なるべくデザインに関連させて説明する。

学習目標・到達目標
インテリアに関する総合的な知識を持ち、目的に応じた適切な商品選択とコーディネートができる。

評価方法その他

週　テーマ・授業目標等
1 インテリア、インテリアコーディネートとは　古代、中世のインテリアデザイン
2 近代のインテリアデザイン 1
3 近代のインテリアデザイン 2
4 近代のインテリアデザイン 3
5 日本のインテリアデザイン
6 インテリア材料 1
7 インテリア材料 2
8 床、壁、天井の納まり
9 建具と金物 1
10 建具と金物 2
11 カーテンとブラインド
12 設備 1
13 設備 2
14 環境
15 構造

使用教科書名

NO. G03205601　アパレルＣＡＤ実習

藤田　恵子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
アパレルCADを使用して、直線や曲線を描くことを学び、最終的にはアパレル生産に必要な簡単なパターンの製作ができるようにする。特別授業でデザイナーによるワークショップを計画している。

学習目標・到達目標
アパレルCADのソフトを用いて上半身原型、スカート、ブラウスの製図を描き、製図を部分的に展開することもできるようにする。

評価方法その他
平常点:40点、課題:30点、レポート:30点

週　テーマ・授業目標等
1. アパレルCAD概要　CAD実習　直線
2. CAD実習　四角形
3. CAD実習　課題
4. CAD実習　移動
5. 学内特別授業　デザイナーによるワークショップ
6. CAD実習　課題
7. CAD実習　曲線　課題
8. CAD実習　原型製図　課題
9. 学外特別授業
10. CAD実習　ブラウス製図
11. CAD実習　ブラウス製図完成　課題
12. CAD実習　グレーディング
13. CAD実習　マーキング　出力
14. CAD実習　「アパレル生産実習」企画作品の製図
15. CAD実習　「アパレル生産実習」企画作品の製図完成　課題

使用教科書名
テキストを初回に配布する

NO. G03205931　住環境調査B

椛田　考一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
住環境を評価する手法について紹介するとともに、基礎的な調査や実験を行うことによって、その分析・評価手法を修得する。具体的には、居住者に対するインタビュー調査、視環境を対象とした心理評価(空間の開放感や圧迫感の評価実験、照明環境の評価実験)、温熱環境を対象とした心理評価(暑熱環境での環境評価実験)について実施する。

学習目標・到達目標
[建築士指定科目]住環境を評価するための基礎的な調査・実験手法を説明できる。

評価方法その他
平常点(60%)、レポート及び課題(40%)の総合評価。
(平常点は授業への参加状況等を総合的に判断する。)

週　テーマ・授業目標等
1. ガイダンス
2. A. デザインサーベイ(1)調査計画
3. (2)相原駅前空間の現地調査
4. (3)現地調査のまとめ
5. (4)プレゼン資料の作成
6. (5)調査結果のプレゼン
7. B. インタビュー調査(1)評価グリット法の習得
8. (2)調査の実施
9. (3)調査結果のプレゼン
10. C. 視環境の心理評価(1)照明環境の評価実験
11. (2)被験者実験の実施
12. (3)実験結果のプレゼン
13. D. 温熱環境の心理評価(1)暑熱環境の評価実験
14. (2)被験者実験の実施
15. (3)実験結果のプレゼン

使用教科書名

NO. G00001002　卒業研究基礎ゼミ

児童学科　教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

児童学科専任全教員が少人数のゼミ形式で分担して行う。４年次に開講される卒業研究A・B履修に先立ち、各自が取り組みたいテーマをもとに研究の基礎について学ぶ。具体的には、資料の収集、購読及び討議を通して仮説や探求したい点を絞り込み、論文の構成や書き方について理解を深める。また、「児童学研究法」の学習内容を参考に研究方法を設定し、各自が主体的に取り組む。なお児童学を研究するにあたり、子どもの個人情報の保護に関する注意事項や子どもの利益になる研究とは何かを念頭に置きながら取り組むことを前提とする。

学習目標・到達目標

児童学の研究の基礎を理解し、各自取り組みたいテーマに基づいた、文献収集、分析をし、論文作成の基礎を身につける。

評価方法その他

平常点(60%)および各テーマごとのミニ課題やレポート(40%)の総合評価

週　テーマ・授業目標等

(1)卒研基礎プレゼミとして児童学科教員が5テーマに分かれ、1テーマ5コマを担当する。

(2)卒研基礎プレゼミグループ

①心理と発達a、b

②生活と教育a、b

③福祉と保育a、b

④健康と環境a、b

⑤文化と社会a、b

(3)児童学科でのこれまでの学びと「児童学研究法」で学んだことをもとに、それぞれのテーマについて理解を深める。1テーマでは同一内容の授業を5回繰り返す。各テーマでは、子どもの個人情報の保護に関する注意事項や、子どもの利益になる研究とは何かについて、必ず授業で取り上げる。

使用教科書名

NO. G00003001　インターンシップ

金森　敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

企業や行政等の現場における実践的な体験を通して、組織で働くことの意味を考えてもらう。仕事を外見だけで判断するのでなく、隠れている部分を含めて総合的に理解し、仕事を担う重さと充実感（働き甲斐）を感じてもらいたい。なお研修先の面接で許可が得られれば、研修生として受け入れてもらえる。従って、受講生の希望に沿う研修先がない場合、あるいは、面接で断られた場合は研修が受けられないケースもでてくる。また、本授業はインターン実習後も6回ほど集中講義を設け、振り返りを行う。本講義の受講者は全員参加を義務づける。これら２点を予め理解しておくこと。

学習目標・到達目標

インターンシップを通して、自分の適性をチェックするひとつの機会としてほしい。
インターンシップを行う目的を理解し、積極的かつ主体的に取り組む姿勢を確立する。
インターンシップの学びをキャリアデザインに結び付ける。
インターンシップの学びを、今後の学生生活（就職活動も含む）に結びつける。
実習先企業の研究を通して、業界・職種・会社についての知識を身に付ける。

評価方法その他

基本的に、研修報告書を中心に評価を行う。ただし、研修報告書並びに研修日誌は、どちらも提出を求める。なお、受入事業所から提出される個人別の研修評価については、研修報告書の評価の際、参考にする。成績考査のウエイトは、報告書50%、宿題30%、研修日誌20%。

週　テーマ・授業目標等

1.イントロ
2.受入先情報からインターンシップについて考える
3.昨年度参加した学生(5～6)を囲んでインターンシップについて考える
4.インターンシップの目的の再設定と明確化
5.履歴書、自己紹介書の書き方(自己分析を含む)
6.実習先の概要説明、マッチングの方法
7.業界、職種、会社の全体概要を知る(マッチング継続①)
8.業界研究・職種研究(マッチング継続②)
9.企業研究(マッチング継続③)
10.社会人としての意識を育む
11.ビジネスマナー①外部講師
12.ビジネスマナー②外部講師
13.実習先の企業研究①(実習先の調整・確定)
14.実習先の企業研究②(実習先の調整・確定)
15.実習前の総振り返り
16.後期授業イントロ
17.インターンシップの振り返りシートの作成
18.インターンシップの振り返りの共有
19.今後の学生生活の取り組み方、将来のキャリアを考える
20.インターンシップの活動を就職活動に生かす
21.報告会

使用教科書名

なし。必要な資料はプリントで配布します。

NO. G00094001　キャリアデザインA

金森　敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

社会には仕事の数だけ多様な働き方がある。みなさんは、どのような働き方をどれくらいイメージできますか？また、働く際において、大学の学びはどのように活きてくると思いますか？本授業では、単に多様な職業や働き方を知るのではなく、「大学での学びとキャリア」がどのようにつながっているのかなどを含めて、多様な働き方について考えてもらう。なお本授業では、グループワークを中心に授業を行う予定なので、受講者数の上限を設ける。また、授業外においても活動があることは付言しておく。

学習目標・到達目標

多様な働き方があることを知り、多様な考え方があることを知るができる。
興味が持てる働き方と大学での学びがどう関係しているのかを「自分の言葉」で記述ができる。

評価方法その他

レポート(60%)
宿題3～4回(40%)

週　テーマ・授業目標等

1.大学を自己成長の場としよう
2.大学での学びと働く
3.社会の多様な働き方
4.「社会にでる」ってどういうこと
5.学びと社会のつながりを知ろう
6.社会を知ろう「会社・職種編・業種編・チームワーク編」
7.リーダーシップについて考える
8.学びと社会を結びつける
9.ゲスト講師(予定)
10.社会に求められる能力
11.RJPとOGへのインタビュー準備
12.RJPとOGへのインタビュー実施
13.RJPとOGへのインタビューまとめ
14.RJPとOGへのインタビュー成果報告
15.振り返り

使用教科書名

なし。必要な資料はプリントで配布します。

NO. G00095001　キャリアデザインB

金森　敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

キャリアは就職という言葉と結びつきがちであるが、この講義の目的は、広い意味での働き方、幸せな職業人生について考えるものである。就職活動に役立つ力を「入社する力」と呼び、生き方や働き方を「働き続ける力」と呼び、両者を区別する。本講義では後者の「働き続ける力」に力点がある。キャリアというとどうしても個人の考え方から始まりがちだが、まずは、現代社会に対する理解を深める必要がある。また、実際に会社で働いている人にグループでインタビューに行ってもらう予定である。なお、本授業では、グループワークを中心に授業を行う予定なので、受講者数の上限を設ける。

学習目標・到達目標

自分がどのような時代や社会に生きているのかを認識し説明することができる。
他者とのコミュニケーションを通して、自己を見つめなおし自分の考えを他者に説明することができる。
自分の生き方や働き方を自分の言葉で記述することができる。

評価方法その他

レポート(60%)
宿題3～4回(40%)

週　テーマ・授業目標等

1.キャリア教育とは何か
2.働くとは
3.憧れの人や彼らを取り巻く職業について考える
4.これまでとこれからの時代の流れを知る
5.社会についてわかっていないことを考える
6.社会を知ろう
7.やりたいことのうそ
8.ゲスト講師(予定)
9.幸せとは
10.良い会社とは
11.良い会社を調べ、そこで働く人に対してのヒアリングの準備
12.良い会社で働く人へのヒアリング実施
13.良い会社で働く人へのヒアリングまとめ
14.良い会社で働く人のキャリアについての成果報告
15.振り返り

使用教科書名

なし。必要な資料はプリントで配布します。

NO. G04001001　児童学研究法

児童学科　教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現代生活における児童学研究の基本的方法（研究における問題・課題の成立、研究方法、分析・考察の仕方など）について学ぶ。第1週目の授業で詳しい説明を行う。

学習目標・到達目標

4年間の児童学の理論・方法・実践の集大成としての卒業研究に向けての研究力を養う。

評価方法その他

平常点50%、レポート50%。平常点は毎回の授業で行う小テスト、授業参加態度・状況などに基づき総合的に評価する。

週　テーマ・授業目標等

第1週　イントロダクション、問題・課題の成立

第2週　文献法(1)

第3週　文献法(2)

第4週　文献法(3)

第5週　観察法(1)

第6週　観察法(2)

第7週　事例法(1)

第8週　事例法(2)

第9週　調査法(1)

第10週　調査法(2)

第11週　実験法(1)

第12週　実験法(2)

第13週　行為法(1)

第14週　行為法(2)

第15週　研究法のまとめ

使用教科書名

なし

NO. G04002001　発達心理学

丹羽　さがの

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

人は生涯を通じて発達的に変化していく。その発達の過程を、特に心的活動の変化に焦点を当てて学習する。まず、発達心理学の考え方や研究法の基本、発達の諸理論を学ぶ。その上で、胎児期から老年期に至るまでの各時期の発達課題や発達的特徴について、具体的事例や視聴覚教材も参照しながら基本的知識を身に付ける。人の発達に関する知見を、保育・教育実践に結び付けることができるよう、事例や自分自身の体験とも関連させながら具体的に理解し、考えを深める。

学習目標・到達目標

・生涯発達心理学の考え方や研究法の基本、発達の諸理論を学ぶ。
・胎児期から老年期までの発達に関する基本的な知識を身につける。
・発達心理学の知見を保育・教育実践において活かすことができるよう、自分の体験や事例と結び付けて具体的に理解し、考えを深める。

評価方法その他

平常点(50%)、定期試験(50%)
(平常点は、リアクションペーパー、授業中のワークや話し合いへの参加状況、課題の提出状況等により総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等

＜授業計画＞

1. オリエンテーション
2. 生涯発達心理学の考え方
3. 胎児期と周生期の発達
4. 乳児期の発達①－運動・認知の発達－
5. 乳児期の発達②－社会性の発達－
6. 歩行開始期の発達
7. 幼児期の発達①－認知の発達－
8. 幼児期の発達②－社会性の発達－
9. 乳幼児期の発達と子育て
10. 児童期の発達①－認知の発達－
11. 児童期の発達②－社会性の発達－
12. 思春期・青年期の発達
13. 成人期の発達
14. 老年期の発達
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

教科書は特に指定しない。適宜資料を配布する。

NO. G04003001　教育心理学

木村　文香

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

学校・家庭・社会でよりよい教育を展開するために必要な、教育心理学の基礎的概念と基本的事項を様々な具体例から習得させ、生涯発達的観点から乳児期から死に至るまでの能力の発達過程と、個々の発達に応じた教育的対応への理解を深めさせる。障害のある幼児、児童・生徒の心身の発達及び学習の過程も理解させ、実践的な問題解決能力を習得させる。

学習目標・到達目標

「教師」という立場で、生徒、保護者、他の教師、関連諸機関に接するにあたり、必要な教育心理学的な知識、およびと心理学に基づく考え方やものの見方を概観する。その上で、生徒にまつわるさまざまな現場での問題解決手段の一つとして、これらの考え方やものの見方を用いることができるようになることをこの授業の到達目標とする。そのため、テキストや資料を基にした講義を行うが、受講者が主体的に「考える」ことを重視する予定である。

評価方法その他

授業への姿勢(50%)、及び定期試験の結果(50%)をもとに総合的に判断します。

週　テーマ・授業目標等

1.イントロダクション――教育心理学とは――

2.発達と教育1――家族と発達――

3.発達と教育2――身体・運動機能の発達――

4.発達と教育3――認知の発達――

5.発達と教育4――社会性――

6.個別性の客観的な評価――パーソナリティと知能――

7.子どもの学び1――動機づけ――

8.子どもの学び2――学習のメカニズム――

9.子どもの学び3――記憶と技能学習――

10.特別支援教育と障害1――特別支援教育とは――

11.特別支援教育と障害2――障害特性――

12.教育評価

13.学級集団――適応と不適応――

14.現代の教育問題

15.総括

16.定期試験

使用教科書名

『教育心理学』丸善出版　¥2,700

NO. G04004001　教育原理

河田　敦子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

教育が人間にとってどのような意味をもっているかを根本的に考えるために、人類の歴史、教育の歴史、教科書問題、学力とは何か、生涯教育の必要性、子どもの権利等の多様な観点から理解が深められるように授業を行う。

学習目標・到達目標

教育が人間固有の営みであることを理解し、現代教育問題の本質にあるものを見つめられるようになることを学習目標とする。教育の意義を理解することで、教職を志す者としての心構えを身につけ、広い視野で社会貢献できる教員を目指す姿勢が備わることも目標である。

評価方法その他

平常点30%、小テスト20%、最終レポート50%で総合評価。
積極的な授業参加態度と真面目に考える姿勢を持つことが評価のポイントとなる。

週　テーマ・授業目標等

1. 教育が人間にとってもつ意味
2. 人間は教育をどのように考えてきたか
3. 「子ども」の発見
4. 西洋における教育の歴史
5. 近代日本に影響を与えた西洋教育思想
6. 近世日本の教育思想
7. 近世日本の教育者たち
8. 近代日本公教育制度の歴史(1)学制の頒布と教育令
9. 近代日本公教育制度の歴史(2)初代文部大臣森有礼の教育政策と教育勅語
10. 教科書の歴史
11. 大正自由教育運動について
12. 学力とは何か
13. 学力はどのように評価できるか
14. 生涯教育
15. 現代日本における教育課題

使用教科書名

『やさしい教育原理・新版補訂版』有斐閣　著者　田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二

NO. G04005001　教育課程論

齋藤　義雄

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現在、学校教育にはさまざまな問題が山積しており、新たな学校教育のあり方が求められている。そこで中心となるのが、学校における子どもの学びの総体である教育課程の充実である。この講義では、教育課程をとらえる際に必要な視点や教育課程を規定している学習指導要領など、必要な基本的事項について、歴史的な視点を中心に講義を行う。

学習目標・到達目標

この講義では、あらゆる子どもの学びを保障する教育課程のあり方について考え、深めるために必要な教育課程に関する基本的な知識や概念を獲得することを目標とする。

評価方法その他

試験70%、レポート・平常点30%。
試験:基礎的・基本的な用語を理解し、覚える。
レポート:期限や枚数を厳守する。
平常点:授業への参加状況。

週　テーマ・授業目標等

第1回　ガイダンス・教育課程とカリキュラム
・教育課程と学力問題について概説する。
第2回　近代日本の教育課程の歩み①近代学校創設と教育課程の確立
・教育勅語を中心に明治初期の教育課程について説明する。
第3回　近代日本の教育課程の歩み②教育課程の近代化と年限延長
・大正自由教育を中心に明治末期・大正期の教育について説明する。
第4回　近代日本の教育課程の歩み③戦時下国民学校の教育課程
・国民学校を中心に、昭和初期の教育課程について説明する。
第5回　現代日本の教育課程の歩み①経験主義からの影響
・戦後の経験主義の教育課程について説明する。
第6回　現代日本の教育課程の歩み②系統性重視への転換
・学習指導要領により系統主義に移行したことを説明する。
第7回　現代日本の教育課程の歩み③教育の現代化
・教育内容の現代化について説明する。
第8回　現代日本の教育課程の歩み④人間性重視への転換
・ゆとり教育への転換について説明する。
試験

使用教科書名

『新しい時代の教育課程　第3版』出版社　有斐閣　著者　田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵

NO. G04006001　保育学A

丹羽　さがの

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

保育とは何か、保育の理念と概念、社会的役割や制度的位置づけ、保育の原理と方法など、保育を行う上で基本となる知識、考え方を学ぶ。これまでの日本、諸外国における保育の歴史を学び、我が国の保育の特色と現状、課題を把握する。特に、子育て支援、小学校教育との接続のあり方、子ども・子育て新制度などを取りあげ、理解を深める。また、保育実践の基礎となる子ども観、保育観、発達観について学生自身のもつそれらを確かめ、その多様性や専門家である保育者との違いに気がつく。

学習目標・到達目標

1. 保育の意義について理解する。2. 保育所保育指針・幼稚園教育要領における保育の基本について理解する。3. 保育の内容と方法の基本について理解する。4. 保育の思想と歴史的変遷について理解する。5. 保育の現状と課題について考察する。

評価方法その他

定期試験(60%)、受講姿勢(20%:ワーク、ディスカッションへの取り組み等から総合的に判断する)、課題等提出物(20%)

週　テーマ・授業目標等

1. 保育原理で学ぶこと:保育とは何か
2. 保育実践の基礎となる子ども観・保育観・発達観
3. 保育の理念と概念
4. 保育の社会的役割と責任
5. 保育の制度的位置づけ
6. 保育所保育指針・幼稚園教育要領における保育の基本
7. 保護者支援
8. 保育の目標
9. 保育の方法
10. 保育の環境
11. 保育の計画と評価
12. 諸外国における保育の歴史
13. 日本における保育の歴史
14. 諸外国の保育の現状と課題
15. 日本の保育の現状と課題
16. 定期試験

使用教科書名

保育所保育指針(厚生労働省)、幼稚園教育要領(文部科学省)
幼保連携型認定こども園　教育・保育要領

NO. G04007001　保育学B

新開　よしみ

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

保育所・幼稚園における保育者の専門性について理論的に学ぶ。環境を通した保育、遊びを中心とした保育といった基本原理をふまえた上で、保育実践者として、いかに子どもの発達や実態を把握・理解し、いかなる方法・内容で日々の保育を展開していくべきか考えていく。また、保育技術や保育における記録や計画のあり方など，保育者として身につけるべき技術について考究していく。さらに、現代の保育所・幼稚園に求められる保育者としての成長のプロセスや同僚関係のあり方について学ぶ。

学習目標・到達目標

●保育者に求められる役割と専門性について理解する
●さまざまな保育者のあり方(保育者論)に触れ，保育者として身につけるべき資質や技術について理解する
●保育者の成長と同僚関係のあり方について理解する

評価方法その他

平常点(提出物を含む)20%・試験(またはレポート)80%の割合で評価する。

週　テーマ・授業目標等

1. 保育者になるということ
2. わが国の保育観と保育者の役割
3. 社会的養護における保育者の役割
4. 保育者の専門性(1)子ども理解
5. 保育者の専門性(2)保育の計画
6. 保育者の専門性(3)環境構成と援助
7. 保育者の専門性(4)省察と記録
8. 保育者の専門性(5)子育て支援
9. 保育者の同僚性と協働
10. 保育における評価
11. 保育者と保幼小の連携
12. 保育実習とキャリア形成
13. 海外の保育を学ぶ
14. 保育者としてのアイデンティティとキャリア形成
15. まとめ～保育者の専門性とは
16. テスト

使用教科書名

保育者のためのキャリア形成論/石川昭義・小原敏郎編著/建帛社/2015

NO. G04008001　児童と文化

美谷島　いく子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

子どもを取り巻くさまざまな文化について学ぶ。
・児童文化史を概観し、児童文化の流れを把握する。
・年中行事や伝承遊び等の伝承文化について学び，基礎的な知識を習得する。
・現代の子どもの暮らしについて学び、子どもの生活文化についての理解を深める。
・現代の子どもの遊びの現状を具体的に検討することによって、子どもを取り巻く文化についての考察を深める。
・子どもにとってもっとも身近な児童文化財のひとつである絵本について学び、知識を深める。
[illegible]

学習目標・到達目標

○児童文化について、基礎的な知識を学ぶ
○子どもにかかわるさまざまな伝承文化について学ぶ
○子どもに身近な児童文化財である絵本や紙芝居について、基礎的な知識を習得する
○睡眠や食事等の、子どもの生活文化について学ぶ
○現代の子どもと遊びについて考察する

評価方法その他

平常点40%・課題60%
(平常点は、毎回の授業でのミニレポート、授業への参加状況等を総合して判断します)

週　テーマ・授業目標等

1. 児童文化について
2. 伝承文化と子ども　生育儀礼
3. 伝承文化と子ども　年中行事
4. 伝承文化と子ども　昔話
5. グリム兄弟『子どもと家庭のメルヘン』
6. わらべ唄
7. 絵本の「読み聞かせ」
8. 世界の絵本の歴史　世界図絵　チャップブック　ク他
9. 世界の絵本の歴史　もじゃもじゃペーター、
ピータラビットのおはなし他
10. 日本の絵本の歴史
11. 絵本の種類　赤ちゃん絵本他
12. IBBYとバリアフリー絵本
13. 紙芝居
14. かるた
15. 子どもの生活　睡眠　食事

使用教科書名

皆川美恵子・武田京子編著「改訂　児童文化」ななみ書房　ISBN 978-4-903355-07-8

NO. G04009001　小児保健Ⅰ

朝山　光太郎

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

小児期の健やかな成長、発達の支援を目標とし、身体的、精神的、社会的に健全な状態で守り、育てられるようにする。子どものからだの仕組み、機能に関して知識を得て、幼児生理の特性を知るなど、小児の保健学的特性を学ぶ。次に、小児の疾病・異常や事故、虐待などについて学び、その特徴と予防法を理解して、緊急時の対応を可能にする。小児の保健は家庭や地域社会と密接な関係にあり、今日発生している小児の心身の健康に関する問題と養育環境との関係を理解する。それらの問題への対処法を学ぶ。

学習目標・到達目標

就学前教育や保育実践において必ず必要とされる保健活動を明確にとらえられるための理論的な基礎を習得する。小児の健康問題を理解し、親が安心して子どもを産み育てられる環境づくりについて考察し、具体的な対策をたてられるようにする。

評価方法その他

出席(30%)、試験(70%)の総合評価。

週　テーマ・授業目標等

1.小児保健の基本
2.小児の身体発育、小児の生理機能
3.小児の運動機能、精神発達
4.小児の食事・栄養
5.小児の生活環境Ⅰ
6.小児の生活環境Ⅱ、
7.小児の虐待、小児を取り巻く環境
8.保育の多様化について、新生児期の問題点、
9.健康と病気、異常(アレルギーを含む)
10.事故と応急処置、小児の感染症
11.感染症Ⅱ、予防接種
12.感染症ガイドライン、小児期の病気Ⅰ(感染症)
13.小児期の病気Ⅱ:栄養障害、喘息、消化器病、呼吸循環器病、
14.小児期の病気Ⅲ:血液病、腎臓・内分泌・代謝病、皮膚の病気、神経精神　疾患他
15.母子保健、保健行政
16.試験

使用教科書名

子どもの保健(第6版) /巷野悟郎編/診断と治療社/2016年/

NO. G04010001　卒業研究A

児童学科　教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

子どもの福祉と保育，心理と発達，健康と環境，文化と社会，生活と教育の5つの学びの分野及びその他の児童学関連分野から，先行研究をふまえつつ自らの研究課題を設定し，研究方法を吟味し，研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事する。中間報告会では，これまでの研究成果をプレゼンテーションし，卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。なお，授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。

学習目標・到達目標

4年間の児童学科における学びの集大成として，自ら研究課題を設定し研究計画を立て，主体的に研究活動に取り組むこと。また，研究を進めていく中で，課題をより深め，発展させていくこと。

評価方法その他

平常点(60%)，中間報告(プレゼンテーション)(40%)による総合評価。
(平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 問題の分析と課題領域の設定
3. 先行研究一週目
4. 先行研究二週目
5. 先行研究三週目
6. 先行研究四週目
7. 先行研究のまとめと研究課題の設定
8. 研究方法，手続きの検討
9. 研究方法，手続きの決定
10. 研究計画の立案
11. 調査・データ収集等一週目
12. 調査・データ収集等二週目
13. 調査・データ収集等三週目
14. 調査・データ収集等四週目
15. 調査・データ収集等五週目
16. 中間報告会

使用教科書名

NO. G04011001　卒業研究B

児童学科　教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理，分析，考察を行い，研究の成果をまとめた論文及び要旨を作成・提出する。卒業研究発表会では，最終的な研究成果を口頭で発表し，質疑応答を行う。なお，授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。

学習目標・到達目標

卒業研究Aにおける研究課題を発展させ，分析と考察を重ねながら，最終的な結論を導き出す。卒業論文・要旨・発表資料を作成する。研究成果についての発表と質疑応答を通して，今後の課題を明らかにする。

評価方法その他

平常点(40%)，研究論文(50%)，研究発表(プレゼンテーション)(10%)による総合評価。
(平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等

1. 研究データの整理，分析，考察一週目
2. 研究データの整理，分析，考察二週目
3. 研究データの整理，分析，考察三週目
4. 研究データの整理，分析，考察四週目
5. 研究データの整理，分析，考察五週目
6. 研究データの整理，分析，考察六週目
7. 論文構成の検討
8. 論文作成一週目
9. 論文作成二週目
10. 論文作成三週目
11. 論文作成四週目
12. 論文作成五週目
13. 論文作成六週目
14. 要旨作成
15. 発表資料作成
16. 卒業研究発表会

使用教科書名

NO. G04012001　児童心理学（ＰＡ）

加地　雄一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

まず、代表的な心理的発達段階論のなかで児童期がどのように位置づけられているかを紹介する。次に、児童期における心理的諸機能の発達の様子を述べる。これらにより、人間の生涯発達における児童期の意義が明確になるようにしたい。

学習目標・到達目標

児童期における心理的諸機能の発達の実態を知り、生涯発達における児童期の意義を理解する。

評価方法その他

平常点と学期末の試験により評価する(各50%)。
(平常点は授業への参加状況、討論への参加等で総合的に判断する。)

週　テーマ・授業目標等

1 序論　児童心理学の対象と方法
2 第1章　幼児期から児童期、そして青年期へ
3 第2章　発達段階論にみる児童期
4　フロイトの発達段階論　エリクソンの発達段階論
5 第3章　知的機能の発達
6　ピアジェの知的発達論
7　多重知能論
8 第4章　情意的機能の発達
9　情意的機能とは　EQの発達
10 第5章　社会的機能の発達
11　ギャング・エイジ　道徳性の発達
12　向社会的行動の発達
13 第6章　自我の発達
14　自我としつけ　自己価値感
15 第7章　子ども達の幸福のために
16 試験

使用教科書名

使用しない。

NO. G04013001　発達臨床心理学

柳瀬　洋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

人間のライフサイクルを「生涯発達」という連続性のなかで捉え、乳児期・幼児期、学童期・思春期、青年期、成人期、老年期の各時期に生ずる様々な悩みや問題について理解を深める。また、直面する課題に即した臨床実践のあり方や支援に必要な心理臨床の基礎的理論、技法、実践を学ぶ。発達臨床心理学の意義と課題、子どもの問題のとらえ方、臨床心理学の基礎理論、発達と学習、心理的アセスメントと援助の方法、事例研究、等から理解し学ぶ。

学習目標・到達目標

1. 人間のライフサイクルにおいて直面するさまざまな問題について「生涯発達」という視点から理解を深めていく。
2. 課題に対応するために必要な心理臨床の基礎的な理論・方法を学ぶ。
3. 心理劇（ロールプレイ）等を通じて、問題の把握と問題解決への実践力を養う。

評価方法その他

テスト（60％）、平常点（40％：学習態度及び出席状況、ミニ課題）

週　テーマ・授業目標等

1. 発達臨床心理学の意義と課題
2. 乳児期・幼児期の発達と心理臨床
3. 学童期・思春期の発達と心理臨床
4. 青年期の発達と心理臨床
5. 成人期の発達と心理臨床
6. 老年期の発達と心理臨床
7. 臨床心理学の基礎知識
8. 関係性の発達と臨床心理学
9. 心理的アセスメントの方法〈1〉観察
10. 心理的アセスメントの方法〈2〉発達検査・心理検査
11. 心理的アセスメントの方法〈3〉総合的理解と見立て
12. 心理的援助の方法〈1〉遊戯療法、箱庭療法
13. 心理的援助の方法〈2〉集団心理療法（心理劇の基礎）
14. 心理的援助の方法〈3〉集団心理療法（課題解決の心理劇）
15. まとめとミニテスト

使用教科書名

NO. G04014001　対人関係の発達

丹羽　さがの

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

乳幼児期から老年期に至るまでの、生涯にわたる対人関係の発達の過程を概観する。社会の変化を背景として対人関係のあり方も変化してきていることを理解する。現代に生きる子どもたちの対人関係の課題について取り上げ、ソーシャルスキルトレーニングなどの支援について学ぶ。大人の対人関係の課題については、学生自身の対人関係について振り返りつつ考えていく。また、複数の人間が集まる集団について、集団の機能、グループダイナミクス、リーダーの役割など、社会心理学領域からの知見を学ぶ。

学習目標・到達目標

人にとっての人間関係の重要性を理解する。
1. 人間関係の発達について理解する。2. 今日の人間関係の諸問題を理解する。3. 自分の人間関係を振り返る

評価方法その他

小テスト（40％）、提出物・課題（30％）、平常点（30％：受講姿勢;ワークやディスカッションへの取り組み等から総合的に評価する）

週　テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション:人にとっての人間関係
2. 乳児期の人間関係
3. 幼児期の人間関係
4. 児童期の人間関係
5. 思春期・青年期の人間関係①:ソーシャルスキル・トレーニング
6. 思春期・青年期の人間関係②:恋愛関係
7. 成人期の人間関係
8. 現代社会における人間関係
9. 人間関係の法則①:対人コミュニケーション
10. 人間関係の法則②:自己開示・自己呈示
11. 人間関係の法則③:恋愛関係の法則
12. 集団のダイナミクス
13. 組織の人間関係
14. 人にとっての人間関係を考える:DVD鑑賞
15. まとめと小テスト

使用教科書名

特に指定しない。適宜資料を配布する。

NO. G04015001　発達障がい論

杉野　学

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

・自閉症、高機能自閉症、アスペルガー症候群、学習障害（ＬＤ）、注意欠陥多動性障害（ＡＤＨＤ）等についての理解と指導や支援方法について理解する。
・幼稚園、小学校、特別支援学校における指導事例を取り上げ、障害が及ぼす学習面・行動面・コミュニケーション面等への影響と二次障害について理解し、具体的な指導や支援の在り方について学ぶ。
・個別指導、集団指導、校内支援、保護者・地域関係機関との連携について、発達障害等のある幼児児童やその家族にとって望ましい支援の在り方について考える。

学習目標・到達目標

自閉症、高機能自閉症、アスペルガー症候群、学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）等について、正確な知識を身につけるとともに、障害の特徴や個々の特性に応じた指導や支援のあり方を考える。

評価方法その他

定期試験50％、平常点50％とし、授業回数全体にわたり総合的に評価する。平常点は、授業への出席状況、討論への参加、課題に対するレポートの取り組み等で総合的に判断する。

週　テーマ・授業目標等

1　発達障害と特別支援教育
2　発達障害の種類、定義、障害特性の理解と教育
3　幼稚園、小学校、特別支援学校の教育課程編成と指導
4　自閉症スペクトラムの理解と支援
5　学習障害の理解と支援
6　注意欠陥多動性障害の理解と支援
7　アセスメントを活用した発達障害児への指導
8　発達検査・知能検査の学習指導への活用
9　発達障害児への指導上の基本的な考え
10　幼稚園、小学校における発達障害児への配慮と支援の実際
11　特別支援学校幼稚部・小学部における発達障害児への配慮と支援の実際
12　特別支援学校小学部における「社会性の学習」
13　学校教育におけるSST、TEACCH等の支援プログラムの活用例
14　校内支援、保護者・地域関係機関との連携による支援の実際
15　発達障害に関する最近の動向
16　定期試験

使用教科書名

特に指定しない。プリントや映像資料等で授業を進める。参考文献は、適宜紹介する。

NO. G04016001　発達臨床論

加地　雄一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

発達障害とその心理臨床、療育、特別支援教育、について学ぶ。
発達障害は子どもの時期に起こる障害であり、それ故その特性と発達の段階に応じた全人的な早期療育、早期対応が重要である。また、親や家族に対しての療育上の援助も同様に不可欠である。家庭、園、学校、等における、実際の事例や問題を通して、行動や認知、情緒面に課題がある子どもの心理と教育、親や家族へのメンタルケアについて学ぶ。

学習目標・到達目標

発達障害とは何か、その心理臨床と療育について理解する。各発達障害（発達障害の課題）について、教科書を中心にグループでまとめ、発表し、全体で学びあう過程を体験する。実習（実際）の体験と関連させ、発達障害と対応の仕方の理解を深める。

評価方法その他

平常点（30％：学習・発表態度及び出席状況、小レポート）
課題レポート（70％）

週　テーマ・授業目標等

1. 発達障害とは何か
2. 現代社会と障害のとらえ方
3. 自閉症と体験世界
4. 自閉症と発達臨床
5. 広汎性発達障害の諸問題と対応
6. アスペルガー症候群と発達臨床
7. ダウン症候群と発達臨床
8. 多動児と発達臨床
9. 学習障害と発達臨床
10. 非行と発達障害
11. 乳幼児健診と早期療育
12. 発達障害と虐待
13. 発達障害とかかわり方
14. 特別支援教育ー保育園、幼稚園
15. 特別支援教育ー学校
16. まとめ

使用教科書名

そだちの臨床／杉山登志郎／日本評論社／2009
発達障害の豊かな世界/杉山登志郎／日本評論社／2001

NO. G04017001　心理学研究法

加地　雄一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

心理学分野における研究法の基礎から応用にいたるまでをわかりやすく実演・講義する。科学的研究の原理から始め、行動観察、アンケート法による各種調査、実験計画法による心理学研究のデザインのたてかた、得られたデータの処理と分析法、結果の解釈、研究結果のプレゼンテーション、研究における倫理的問題等について具体的に紹介する。
心理学a、bを履修していること。

学習目標・到達目標

新たな知識・情報を学習し日常生活場面への活用も考える。

評価方法その他

期末試験80%、平常点（出席・コメント等の参加度）20%

週　テーマ・授業目標等

第1週　心理学研究法の紹介
第2週　科学的研究とは　1
第3週　科学的研究とは　2
第4週　仮説の立て方について（帰納と演繹）
第5週　データによる行動の記述　1（行動観察）
第6週　データによる行動の記述　2　（データの集計とビジュアル化）
第7週　心理統計について　1　（統計の基礎）
第8週　心理統計について　2　（有意差の検定）
第9週　実験計画法　1
第10週　実験計画法　2
第11週　アンケートによる調査について　1（調査計画）
第12週　アンケートによる調査について　2　（結果の分析と解釈）
第13週　心理学的アセスメント　1　（パーソナリティ）
第14週　心理学的アセスメント　2　（知能）
第15週　心理学的アセスメント　3　（行動）
第16週　試験

使用教科書名

教材を毎回の授業に先立ちウェブサイトから提供します。
http://ichiichi3.web.fc2.com/index.htm

NO. G04018001　児童とカウンセリング

柳瀬　洋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

人は生きていく上で、苦しみや哀しみと無縁ではいられません。時には「何が辛く苦しいのか」すら分からないほど困難な状態に陥ってしまう場合もあります。そのような場合、まず困っている自分自身に気づき、理解し、その状況を客観的に再認識するところから始めると、新たなかかわり方の工夫が可能となり、問題解決へと結びついていくことが少なくありません。本講義では事例検討を交えながら基本的なカウンセリングの理論と技法、実践を統合的に理解し自分と向き合いながら、人が人を理解し支えるとはどういうことなのか、子どもの心に寄り添うとはどういうことなのかについて考えていきます。

学習目標・到達目標

・自己の課題に気づき、課題と向き合うために必要なスキルを身につける。
・課題や悩みを抱える相手に寄り添うということについて理解を深め、支えていくために必要な姿勢を育み、カウンセリング・スキルの基礎を学ぶ。

評価方法その他

平常点（授業への参加状況・討論への参加などで総合的に判断）30%、期末レポート50%、その他の提出課題等20%による総合評価

週　テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. カウンセリングとは何か
3. 日常生活におけるカウンセリング
4. こころとからだのメッセージ
5. “Who am I?”～私の「自分探し」
6. 自分を理解するということ
7. セルフカウンセリング～マイ・カウンセラーとの対話
8. 自己を表現するということ～セルフアサーション
9. 語ることの意味と聴くことの意味
10. カウンセリングにおける基本的な態度
11. カウンセリングの展開と気づきのプロセス
12. カウンセリングの理論と技法①クライエント中心療法
13. カウンセリングの理論と技法②認知療法
14. カウンセリング体験～ロールプレイ
15. まとめ～事例検討とスーパーヴィジョン

使用教科書名

NO. G04019001　心理検査法実習

加地　雄一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

子どもの発達検査、知能検査、性格・人格検査などの各種の心理検査に関する基礎知識の習得とともに、人間理解の一つの方法として心理学的臨床観察と検査方法に関して実習を行う。

学習目標・到達目標

心理検査の基本的な意味を知り、心理臨床活動で、どのように実施していくかを理解する。いろいろな心理検査をグループで実際に実施してみて、個々の検査の特色、実施の仕方、配慮点などを、総合的に理解する。

評価方法その他

平常点（50%：出席状況、授業態度）、
レポート（50%）

週　テーマ・授業目標等

1. 心理検査とは何か
2. 乳幼児の問題と心理的アセスメントの実際
3. 発達検査実習①乳幼児発達診断法、デンバー式発達スクリーニング検査
4. 発達検査実習②K-ABCテスト
5. 発達検査実習③K式発達テスト
6. まとめ一小レポート
7. 知能検査実習①田中ビネー式
8. 知能検査実習②WISC,WIPSI
9. まとめ一小レポート
10. 性格検査実習①箱庭法
11. 性格検査実習②文章完成法
12. 性格検査実習③バウムテスト
13. まとめ一小レポート
14. 相談場面の展開一診断即治療の心理劇
15. 診断即治療・心理劇を活用した行為評価法
16. 総合レポート

使用教科書名

各種テスト解説書

NO. G04022001　社会福祉

嶋田　芳男

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

社会福祉は、従来のような限定された福祉から普遍化された福祉へと変化し、特にその傾向は高齢者福祉領域において顕著となっている。そこで、講義では社会福祉全般の制度概要及び近年の動向について示していくとともに、今後の福祉のあり方について考えていきたい。

学習目標・到達目標

社会福祉の概要を理解する

評価方法その他

平常点20%（授業への参加状況）、定期試験80%

週　テーマ・授業目標等

1. 社会福祉の基礎概念（1）―社会福祉の意味と理念―
2. 社会福祉の基礎概念（2）―社会福祉の原理―
3. 社会福祉をとりまく環境（1）　－少子社会と高齢社会の到来　－
4. 社会福祉をとりまく環境（2）－家族と地域社会の動向と課題－
5. わが国における社会福祉の展開（1）―明治期～大正期―
6. わが国における社会福祉の展開（2）―昭和期～今日―
7. 社会福祉を支える仕組み（1）―法体系―
8. 社会福祉を支える仕組み（2）―行政組織―
9. 社会福祉を支える専門職
10. 社会保障の概要－医療保険・年金保険制度について－
11. 公的扶助の概要（1）―生活保護の原理―
12. 公的扶助の概要（2）―扶助の種類と内容―
13. 社会福祉援助の方法
14. 高齢者と障害者の福祉－高齢者の現状と介護保険制度―の仕組みと内容－（1）
15. 高齢者と障害者の福祉－障害者の現状と障害者自立支援法―の仕組みと内容－（2）
16. 定期試験1. 社会福祉の基礎概念（1）

使用教科書名

『社会福祉形成分析論』大学図書出版
必要に応じ、授業時にプリントを配布

NO. G04023001　社会的養護

塩谷　隼平

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

社会的養護について、原理、理論、援助方法、課題などの視点から、実践例を通して総合的に学ぶ。特に児童福祉施設における社会的養護について取り扱い、施設養護における子どもの育ちとケアの方法の理解を深める。また、そのために必要な子どもの心理的発達について説明し、子どもの抱える心理的な問題とその援助方法についても学ぶ。さらに児童虐待をはじめとした現代社会における子どもを取り巻く養護の諸問題について保育士としてできることを考えていく。

学習目標・到達目標

1. 社会的養護についての理解を深める
2. 児童福祉施設の種類や役割を知る
3. 施設養護における子どもの育ちとそのケアについての知識を得る
4. 子どもの心理的発達について自分の体験をもとに学ぶ
5. 児童虐待の問題について自分に何ができるのかを考える

評価方法その他

平常点(50%)、定期試験(50%)
平常点は授業への参加状況などから総合的に判断する

週　テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション　社会的養護とは
2. 児童福祉施設の役割と歴史
3. 児童福祉施設の種類と現状
4. 児童福祉施設における援助
5. 児童養護施設
6. 乳児期の心の発達
7. 乳幼児期の心の発達
8. 幼児期の心の発達
9. 児童期前期の心の発達
10. 児童期後期の心の発達
11. 思春期の心の発達
12. 児童虐待の現状
13. 児童虐待の原因
14. 児童虐待の影響
15. 児童虐待の援助
16. 定期試験

使用教科書名

特に指定しない

NO. G04024001　社会的養護内容

横井　義広

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

施設で子ども達と関わりあうための基礎となる重要な概念について身についているかどうか自己評価・相互検討を行い、スーパーヴァイズを受ける。併せて養護技術の基礎を習得する。子どもとの関わりの中で主体的に考え判断できるような態度を形成する。児童期にふさわしい生活プログラムを作成するなどの演習をとおして、居住型児童施設に生活する児童の立場についての理解を深める。日常的に展開されている児童の具体的な活動や生活の援助の方法を学ぶ。児童の心身の成長や発達を保障し、援助するために必要な知識や技能を習得する。

学習目標・到達目標

評価方法その他

定期試験85%　授業内レポート5%　授業態度10%

週　テーマ・授業目標等

第1週　養護内容（1)基本的な日常生活の援助
第2週　養護内容（2)心の傷を癒したり、心をはぐくむための援助
第3週　養護内容（3)親子関係を調整するための援助
第4週　養護内容（4)学校や地域などとの関係を調整するための援助
第5週　養護内容（5)自己実現・自立への援助
第6週　児童福祉施設における生活場面の事例検討（1)実践例を講読する
第7週　児童福祉施設における生活場面の事例検討（2)課題解決の可能性を共に探求する
第8週　施設養護プログラムの実際を知る（1)生活のリズムと日課　事例
第9週　施設養護プログラムの実際を知る（2)衣食住と生活の喜び　事例
第10週　施設養護プログラムの実際を知る（3)生活習慣の形成と生活技術の習得　事例
第11週　施設養護プログラムの実際を知る（4)心身の発達と性の理解　事例
第12週　施設養護プログラムの実際を知る（5)個人の尊重と集団生活　事例
第13週　地域社会との連携・・・学校教育と施設、地域社会、ボランティア
第14週　施設養護と社会福祉援助技術　援助者としての資質・倫理
第15週　試験

使用教科書名

児童養護の原理と実践的活用/浅井春夫監修・中山正雄編集/保育出版社

NO. G04024002　社会的養護内容

杉野　学

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

児童養護施設や障害児入所施設等で生活する子どもたちの日常を知り、保育者としての支援のあり方を具体的に理解することをねらいとする。そのためには、社会的養護を必要とする多様な子ども達に対する理解を深めるとともに、具体的な支援内容・方法を知ることは欠かせない。授業では、障害のある子どもをはじめとした多様な子どもたちの生活、心理、支援内容・方法などについて考究することを通して、保育士として必要な資質・能力を高める。

学習目標・到達目標

児童養護施設や障害児入所施設等で暮らす障害のある子どもたちの生活、心理、支援について理解を深める。また、障害のある子どもたちに対する様々な支援内容・方法を考察するとともに、保育者としての使命や実践的指導力を高めることを目的とする。

評価方法その他

定期試験50%、平常点50%とし、授業回数全体にわたり総合的に評価する。平常点は、授業への出席状況、討論への参加状況、授業ごとの振り返りシートへの記入内容、課題に対するレポートの取り組み等で総合的に判断する。

週　テーマ・授業目標等

1. 社会的養護の概要
・社会的養護の定義、原理　・児童虐待　・障害児の入所増加　・障害児入所施設の種類

2. 障害児入所施設の子どもの生活と支援のあり方
・障害児入所施設の概要　・障害者総合支援法との関連　・障害児入所施設における支援　・児童福祉施設と保育士

3. 知的障害児の障害特性と支援を理解する
・知的障害児の特性　・知的障害児施設の生活と支援の実際
・知的障害児施設の役割　・障害者ケアマネジメント

4. 肢体不自由児の障害特性と支援を理解する
・肢体不自由児の特性　・重症心身障害児施設・肢体不自由児施設の生活と支援の実際
・肢体不自由児施設の役割　・生活支援介護

5. 発達障害児の心理・発達と支援のあり方
・発達障害児の特性と支援　・児童養護施設の生活と支援の実際

6. 発達障害と特別支援教育
・特別支援教育　・発達障害児の理解と支援　・自閉症スペクトラムの子どもへの接し方
・特別支援学校と施設との連携

7. 児童養護施設における支援事例の考察
・日常生活の支援・個別及び集団における支援　・注意欠陥多動性障害児への支援に関する事例研究・支援計画の作成

使用教科書名

テキストは特に指定しない。授業は、プリント及び映像資料等で進める。

NO. G04027001　乳児保育

和田　美香

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

学生が主体的に学習する授業を教育目的とする，3歳未満児の発達過程を、家庭育児と保育所保育と乳児院・あるいは子育て支援の場における専門職として、子どもの育つ道筋やその特徴について、個別性を尊重し、個人差に留意できるよう学ぶ。
講義については、教科書や保育所保育指針を手掛かりとして「乳児保育の基本となる考え方」を知る。乳児保育に関する賛否両論の歴史を踏まえて、乳児院における保育所における乳児保育の現状を知る。さらに視聴覚教材を手掛かりとして、乳児期の発達と生活について知る。
また、乳児保育現場見学とその事前・事後指導を手掛かりとして、乳児保育で豊かな

学習目標・到達目標

保育所保育指針及び解説書に旨及されている「保育士の専門性」が、3歳未満児を対象として、学生に身につくようにするのが本授業の目標である。すなわち①3歳未満児の発達に関する専門的知識を基に、子どもの育ちを見通し、その成長を援助する技術、②3歳未満児の発達過程や意欲を踏まえ、子ども自らが生活していく力をこまやかに助ける生活援助の知識・技術、③保育内外の空間や物的環境、さまざまな遊具や素材、自然環境や人的環境を生かし、保育の環境を構成していく技術、

評価方法その他

平常点(授業への参加状況・討論への参加などで総合的に判断する)
(40%)授業を通して出される課題(30%)テスト(30%)

週　テーマ・授業目標等

乳児保育の教科書に記述される内容を学習できるようにする。具体的には以下のとおりである。

1　乳児保育の基本となる考え方／乳児とは何か(私たちが抱く乳児像)
2　乳児に関する保育観の経緯と現状／乳児の発達と遊び(0～1歳)
3　乳児の生活(日課と遊び)／乳児の発達と遊び(1～2歳)
4　乳児の生活(食事と睡眠)／乳幼児の発達と遊び(2～3歳)
5　乳児の生活(排泄と健康・安全)／着替えとオムツ替えの実技練習
6　乳児の生活(子どものいる場所)／乳児の過ごす環境を考える
7　乳児保育の見学に向けてオリエンテーション(保育所での環境と生活の仕方)／見学実習事前学習
8　保育所・子育て支援施設見学の実施(1)
9　保育所・子育て支援施設見学の実施(2)
10　見学交流報告会(1)
11　見学交流報告会(2)／日々の生活の中から見えてくる子どもの姿(1)
12　日々の生活の中から見えてくる子どもの姿(2)(乳児が生活する場所の問題)／乳児と遊具
13　生活を支える保育者の役割・子どもと生活を共にする保育者の役割／乳児を取りまく現代社会の課題(1)－家庭とのつながり
14　保育計画と評価／乳児を取りまく現代社会の課題(2)－他機関との連携
15　テスト／まとめ(育てられるものから育てるものへ)

使用教科書名

阿部和子「演習　乳児保育の基本」萌文書林

NO. G04028001　幼児理解

新開　よしみ

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

目の前の幼児のありのままの姿から幼児の内的世界を理解し、その育ちの芽を見出すことは、保育の出発点であり、保育者の専門性の中核である。この授業では、幼児理解の基本をそれに基づく援助の可能性・工夫についてさまざまな視点から学び、考えていく。

学習目標・到達目標

・幼児理解の基本的視点について理解する
・幼児理解の具体的な方法を知る
・事例を読み取り，子どもの内面について考察できるようにする

評価方法その他

平常点（出席率・課題提出物）50％+試験またはレポート50％の割合で評価する。

週　テーマ・授業目標等

1. 保育の基本と幼児理解
2. 保育の場と幼児理解
3. 「わたし」の中の子どもと出会う
4. 幼児理解の基本的視点
5. 遊びや行動から読み取る
6. 保育者の基本姿勢―かかわりながら理解する
7. 保育とカウンセリングマインド
8. 「よさ」をとらえる目
9. 発達する姿をとらえる目
10. 幼児理解と記録
11. エピソードの取り出しと読み取り
12. 事例検討①
13. 事例検討②
14. 事例検討③
15. まとめ

使用教科書名

幼児理解と評価/文部科学省/ぎょうせい

NO. G04029001　保育内容総論Ａ（ＰＡ）

中田　範子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現行の幼稚園教育要領や保育所保育指針で示されている内容を踏まえ、乳幼児期の発達を理解しながら、幼稚園等保育現場で展開されている保育の内容について総体的に学ぶ。また、わが国の保育の基本の一つである「環境を通しての教育」や「遊びによる総合的な指導」についての理解を深める。
　具体的には、子どもの様子や保育者のかかわりについての事例や園生活の概要を紹介するビデオから、子どもの内面を読み取り、幼児期の遊びの意義やより良い保育のあり方について実践と結び付けながら理解する。

学習目標・到達目標

①乳幼児期の発達に即し、育ちを支える保育者の援助の在り方について考察することができる。
②乳幼児期における環境の重要性や、「環
境を通した教育」の意義について理解できる。
③幼稚園教育要領に示す各領域のねらい及び内
容を踏まえ、遊びを通して子どもが育つ姿と保育者の援助の

評価方法その他

学期末に行う定期試験及び授業内に提出するレポート等から総合的に評価する。
評価の比率は、定期試験(0.8)、授業内提出レポート(0.2)である。

週　テーマ・授業目標等

1 保育内容とは
2 幼児の園生活と保育者の援助(1)
3 幼児の園生活と保育者の援助(2)
4 乳幼児の特性と保育内容
5 幼稚園教育と幼稚園教育要領
6 保育所保育と保育所保育指針
7 保育の基本と保育内容
8 領域・ねらい・内容
9 環境を通した教育
10 遊びを中心とした保育(1)
11 遊びを中心とした保育(2)
12 3歳未満児の生活と保育
13 3歳児の生活と保育
14 4歳児の生活と保育
15 5歳児の生活と保育

使用教科書名

後藤範子著「子どもと保育の探求」大学図書出版

NO. G04030001　保育内容総論Ｂ

中田　範子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「保育内容総論A」で学習した内容を踏まえ、現行の幼稚園教育要領の5領域にそれぞれ示されているねらい、内容、内容の取扱いについての理解を深めながら、年齢に応じた保育の計画と実践のあり方について学ぶ。
具体的には、討議、ロールプレイなどの演習、教材研究や指導計画の作成などから、より良い保育のあり方について検討し、今後の課題を見出す。また、子どもや保育を取り巻く環境や今日的課題に視点を広げ、求められる保育内容について検討する。

学習目標・到達目標

到達目標①:各年齢の発達に即した保育者の関わり方や保育内容について具体的に理解する。
到達目標②:国内・国外の保育の実際を参考にしながら、よりよい保育内容を構築するための保育環境や教材について調査し、保育を計画する基礎を習得する。
到達目標③:それまで得られた保育に関するあらゆる知識を結び付けながら、実際に保育を行うことを想定して指導計画(活動案)を作成する。

評価方法その他

学期末のレポート課題に加えて数回の小レポート及びサブノートの提出を課し、総合的に評価する。
評価の比率は、レポート課題(0.7)、小レポート及びサブノート(0.3)である。

週　テーマ・授業目標等

1 ガイダンス
2 子ども同士の関係と保育者の援助(1)
3 子ども同士の関係と保育者の援助(2)
4 0～1歳児の生活と保育内容
5 1～2歳児の生活と保育内容
6 3歳児の生活と保育
7 4歳児の生活と保育
8 5歳児の生活と保育
9 諸外国の保育
10 保育をデザインする
11 保育に活用する教材について
12 保育を計画する
13 音楽遊びの展開
14 造形遊びの展開
15 運動遊びの展開

使用教科書名

後藤範子著「子どもと保育の探求」大学図書出版

NO. G04031001　保育内容演習健康Ａ

金子　和正

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

乳幼児期の健康は乳幼児の行動力を高めるだけでなく、その後の児童期、青年期へと成長していくための基礎である。乳幼児が健康に育つための基礎理論と保育環境と保育実践例を学ぶ。乳幼児が健やかに育つために「おとなの育てる機能」とその機能を働かせる「保育」における具体的な方法を修得する。
授業時間外の学習として児童学科承認の保育実践活動に参加し、総合的な指導力・実践力を修得する。

学習目標・到達目標

幼児期の身体の発達を正しく理解すること、また、現場に出て戸惑うことなく子どもたちの身体や健康に向き合うことができるようになることを目的とする。「健康」を多くの側面から捉えられる力を修得する。

評価方法その他

授業時間内の学習（授業への2／3以上の出席を基本として、平常点50％、課題・レポートの内容50％）及び授業時間外学習を総合して評価する。

週　テーマ・授業目標等

1. 健康観の変遷と社会環境
2. 乳幼児の健康の現状と課題
3. 乳幼児の身体と働きⅠ（呼吸・循環器系）
4. 乳幼児の身体と働きⅡ（筋肉・骨・神経）
5. 乳幼児の身体と働きⅢ（運動能力）
7. 発育・発達と運動遊びⅠ（室内遊び）
8. 発育・発達と運動遊びⅡ（戸外遊び）
9. 運動習慣の形成と必要性
10. 生活習慣と健康
11. 乳幼児の食事と健康
12. 乳幼児の遊びや運動と健康
13. ケガの予防と救急法
14. 保育者の危機管理
15. まとめ
16. テスト

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G04032001　保育内容演習健康B

金子　和正

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

乳幼児期の健康は乳幼児の行動力を高めるだけでなく、その後の児童期、青年期へと成長していくための基礎である。乳幼児が健康に育つための基礎理論と保育環境と保育の実践例を学ぶ。特に、乳幼児が健やかに育つために働く「おとなの育てる機能」とその機能を働かせる「保育」における具体的な方法を修得する。授業時間外の学習として児童学科承認の保育実践活動(子ども体験塾、その他のボランティア活動)に参加し、総合的な指導力・実践力を修得する。

学習目標・到達目標

子どもの健康を総合的に捉えられる能力を身につける。子どもは発育発達に大きな個人差が生じ、一定の側面だけで健康について評価することは望ましいものではない。様々な観点から子どもの健康を考え、健康の維持・増進をどのように捉えていくのかを考えられるようにする。過去から現在、さらにこれからの子どもを取り巻く環境についても考え、大人として、保育者としてどのように子どもの健康を取り上げていくべきなのかを考えられるようにする。

評価方法その他

出席と毎回の小テストの総合評価とする。平常点50%、小テスト50%とする。

週　テーマ・授業目標等

1.子どもの健康は今
2.子どもの健康を計るバロメーターは何か
3.様々な食生活と生活習慣
4.子どもに運動習慣をつけることの意義
5.日本の子どもと外国の子どもの生活習慣について
6.運動刺激は子どもになぜ必要か
7.子どもの発育・発達に応じた運動
8.子どもの運動能力の測定方法
9.親と子どもの健康観と運動観
10.コミュニティーの重要性
11.保育園、幼稚園で行う健康教育、健康指導
12.保育園の健康教育の実際
13.幼稚園の健康教育の実際
14.小学校の健康教育の実際
15.まとめ
16.テスト

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G04033001　保育内容演習言葉A

和田　美香

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

領域のねらい「生活の中で、言葉の興味や関心を育て、話したり、聞いたり、相手の話を理解しようとするなど、言葉の豊かさを養うこと」を柱にして、保育のあり方、子どもの姿の捉え方、について考えることを目的とする科目である。言葉の機能や乳幼児期の言葉の発達について理解しそれらの知識を総合的に保育実践に取り入れる力を養う。保育の中で活動を展開できる技術を獲得する他、指導計画を作成し模擬保育を行うなかで、その技術をさらに実践的

学習目標・到達目標

子どもが言葉を獲得する発達的な道筋と、言葉を使うことによって子どもが育っていく過程を理解する。その上で、領域「言葉」のねらいと内容を中心に、保育のあり方、子どもの姿の捉え方等を実践的に学ぶ。

評価方法その他

平常点(40%)、定期試験(60%)
(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等

1. 保育内容「言葉」とは
2. 言葉の機能
3. 前言語期のコミュニケーションの発達
4. 話し言葉の発達
5. 書き言葉の発達
6. 保育の中の言葉
7. 伝承遊びと遊び歌
8. ごっこ遊びと劇あそび
9. 児童文化財について
10. 昔話と素話について
11. 言葉を豊かにする言葉あそび
12. 言葉でのかかわりに配慮を必要とする子ども
13. 領域「言葉」と小学校「国語」の関連
14. 言葉をめぐる相談の実際と対応
15. 現代における言葉の諸問題
16. 定期試験

使用教科書名

『実践　保育内容シリーズ4　言葉　一藝社』

NO. G04034001　保育内容演習言葉B

和田　美香

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

専門家として必要な「語す姿勢や呼吸の意識化」をする。声を出したり、それを人に届けることを楽しむ。さまざまな素材を読みこなせるよう演習する。組み立てを考えて読むことで、その内容が聞き手にしっかりとどけられるようにする。日常生活の遊びを劇遊びにつなげていく方法や、劇遊びによって日常生活の充実を促す方法を考える。１５回の授業のうち前半は保育内容の統合性を顕在化するために、KVA祭で人形劇や朗読劇などの制作・演出・発表、という実践演習を行う。後半は、『言葉』に焦点を当てた指導案作成と模擬保育を行う。

学習目標・到達目標

幼児教育場面で必要になる表現力・指導力や実践力を養います。
具体的には「4～50名の前で、マイクがなくても自分の声を届けることができるようにする。声を出し続けても壊れない身体作り」「子どもの興味・関心や発達の状態、年間行事や季節、を考えて絵本や童話が選択できる」「絵本やお話を提供する場合に、その組み立てを考えて、語り聞かせることができる」子どもたちと共に既成の絵本・紙芝居や劇遊びなどを活かして、お話の世界を享受できるよ

評価方法その他

授業時間内の参加状況・討論への参加・指導案・模擬保育などで統合的に判断します。(50%)　実技演習評価とレポート(50%)総合して評価します。

週　テーマ・授業目標等

1. 呼吸法・姿勢(実践演習)
2. 自分の声・人に伝わる声(実践演習)
3. 音声による表現・交流(実践演習)
4. 日本語の音韻と音声(実践演習)
5. 声に出して読む・話すように読む(実践演習)
6. 組み立てを考えて読む。(講義と実践演習)
7. 紙芝居・ペープサート・パネルシアターを活かす。(実践演習)
8. 絵本を読む(絵・絵本・本を読むこと。指導案の作成)
9. 絵本を読み聞かせる(伝わるように読むには。指導案の作成)
10. 絵本を今ここで子どもと共に読む(指導案の作成)
11.素話を語り聞かせ①(模擬保育)
12. 素話を語り聞かせ②(模擬保育)
13.絵本の「先」を創る劇あそび①(模擬保育)
14.日常保育を統合する劇あそび②(模擬保育)
15.文化財や機器を活かした劇あそび③(模擬保育)

使用教科書名

NO. G04035001　保育内容演習人間関係A

丹羽　さがの

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

人間関係が希薄化しているといわれる現代において、乳幼児期に人とかかわる力の基礎を培うことの重要性はますます増している。子どもが初めての集団生活を経験する場である保育所・幼稚園は、人とかかわる力の基礎が育つ土壌であり、保育者が適切な支援を行うことが求められる。この科目では、乳幼児期の人間関係の発達を学び、人とかかわる力を育てる保育のあり方について考える。また、子どもとの関係には保育者自身がもつ感情や価値観が影響することを理解し、自らの人間関係のもち方について客観的に振り返り、課題を自覚する。

学習目標・到達目標

1.乳幼児期の人間関係の発達について基本的な知識を身につける。2.「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」の「人間関係」の領域について理解する。3.子どもたちの人間関係を育むような保育者としてのかかわり方や役割について理解する。

評価方法その他

平常点(ディスカッションへの参加、ワークへの取り組み等で総合的に評価)(30%)、課題・提出物(30%)、小テスト(40%)。

週　テーマ・授業目標等

1.オリエンテーション:領域「人間関係」とは
2.人とのかかわりから見る乳幼児期の発達①:乳幼児期の自己・情動の発達
3.人とのかかわりから見る乳幼児期の発達②:乳幼児期の社会性の発達
3.子どもと保育者のかかわり
4.遊びの中の人とのかかわり①:人とのかかわりと遊び
5.遊びの中の人とのかかわり②:遊びのなかでの人とのかかわり
6.生活を通して育つ人とのかかわり①:保育所・幼稚園での生活
8.生活を通して育つ人とのかかわり②:家庭での生活
9.人とのかかわりをはぐくむ保育者の役割①:子どもとの信頼関係の構築
10.人とのかかわりをはぐくむ保育者の役割②:仲間関係の援助
11.人とのかかわりが難しい子どもへの支援
12.自らの人間関係を振り返る
13.保育・幼児教育の現代的課題と領域「人間関係」①:多様性に応じた保育・幼児教育
14.保育・幼児教育の現代的課題と領域「人間関係」②:保幼小連携
15.まとめと小テスト

使用教科書名

特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

NO. G04036001　保育内容演習人間関係B

柳瀬　洋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「保育内容演習人間関係B」は、保育現場において子どもも大人（保育者、保護者）も共に育ちあう「人間関係」をめざし、実践演習を中心に進める。具体的にはKVA祭という機会を実践の場として生かし、地域の子どもを対象とした劇制作と上演経験を通して、保育者自身のチームワークのあり方とチームアプローチの基礎を実践的に学ぶと共に、総合的な指導力と実践力の習得を本授業のねらいとする。

学習目標・到達目標

・グループワークへの取り組みを通じ、メンバー間の役割分担と連携、チームワークのあり方を実践的に学び、保育者間の連携について理解を深める。
・保育者として子どもたちにどのような保育活動を提供したらいいのか、「人間関係」という視点からの保育目標の設定、保育計画の立て方や保育者の役割について、実際に経験し考える。

評価方法その他

平常点（授業への参加状況・討論への参加などで総合的に判断）（40％）、グループワーク（劇制作活動および発表）への取り組み（30％）、レポート（30％）

週　テーマ・授業目標等

1. 保育者チームによるグループワーク（劇制作活動）の計画
2. 劇制作活動に向けての準備計画と役割分担
3. 保育者間の連携のあり方を考える
4. グループワーク①（劇制作活動）
5. グループワーク②（劇制作活動）
6. グループワーク③（劇制作活動）
7. グループワーク④（劇制作活動）
8. グループダイナミクスを考える（1）
9. グループダイナミクスを考える（2）
10. グループダイナミクスを考える（3）
11. 劇発表
12. 劇制作活動と上演経験のふりかえり
13. 子どもを支える保育者同士の人間関係
14. 子どもの人間関係の発達に保育者が果たす役割
15. まとめ

使用教科書名

特になし。必要に応じて資料を配布します。

NO. G04037001　保育内容演習環境A

中田　範子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

幼児を取り巻く環境の現状を踏まえ、幼稚園教育要領、保育所保育指針に示す「環境を通した教育」と領域「環境」のねらい及び内容についての理解を深める。
幼児と様々な環境と関わる姿と保育者の援助、幼児を対象とした環境教育の具体的な方法について演習を交えながら具体的に学ぶ。

学習目標・到達目標

到達目標①:幼稚園教育要領、保育所保育指針の示す「環境を通した教育」の考え方を理解できる。
到達目標②:「環境を通した教育」が保育の実際にどのように具現化されるのかについて理解できる。
到達目標③:幼児が楽しみながら身近な自然環境に親しむことのできる方法や内容について考察

評価方法その他

主にレポート課題(60％)、発表・提出物(40％)により総合的に評価する。

週　テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 領域「環境」
3. 春の自然と伝統行事
4. 春の自然を体験する
5. 植物を育てよう【生物にかかわる幼児の経験と知識1】
6. 子どもの感覚と遊び
7. 数と形
8. みのまわりのかたち
9. 虫取りをしよう【生物にかかわる幼児の経験と知識2】
10. 「子どもの見え方」を体験する
11. 「子どもの見え方」を体験する
12. 夏の自然と伝統行事
13. 夏の自然を体験する
14. 環境を通した教育
15. 子どもを取り巻く環境の変化

使用教科書名

無藤隆・中坪史典・後藤範子編著「保育内容環境」大学図書出版

NO. G04038001　保育内容演習環境B

中田　範子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

保育内容演習環境Aで学習した内容を踏まえ、幼稚園教育要領、保育所保育指針に示す「環境を通した教育」に基づいた保育内容を具体的に計画し、理解を深める。

学習目標・到達目標

到達目標①:「環境を通した保育」の考え方を基盤として、小学校教育への接続を視野に入れた保育を具体的に計画することができる。
到達目標②:子どもを取り巻く環境を把握しながら、保育現場での子育て支援について理解を深める。
到達目標③:幼児が季節の移り変わりに気づき、身近な自然環境に親しむことができる内容や方法

評価方法その他

主にレポート課題(50％)、発表・提出物(50％)により総合的に評価する。

週　テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 秋の自然と伝統行事
3. 秋の自然を体験する
4. 小学校教育への接続と環境教育
5. 動物飼育活動の意義と方法
6. 栽培活動の意義と方法
7. 自然科学と社会をめぐる問題について
8. 園生活と行事
9. 園外保育の計画
10. 園生活と社会環境①保護者との連携
11. 園生活と社会環境②子育て家庭を取り巻く環境
12. 園生活と社会環境③地域社会とのかかわり
13. 園生活と社会環境④地域資源を生かした保育
14. 冬の自然と伝統行事
15. 冬の自然を体験する

使用教科書名

無藤隆・中坪史典・後藤範子編著「保育内容環境」大学図書出版

NO. G04039001　保育内容演習表現A

新開　よしみ

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

子どもの感性、表現する意欲、創造性を豊かにはぐくむための保育の内容と方法について学ぶ。領域「表現」においては、乳幼児のさまざまな表現をとらえ、その意味を理解し、育ちの見通しをもった援助に結びつけていくことが重要である。また、子どもの主体的な表現活動を支えるためには、保育環境を意図的に構成するとともに、環境の一部である保育者自身が感性を磨き、自らの心やからだに問いかけながら豊かに表現するスキルを身につけることも大切である。この授業では、さまざまな「表現遊び」を演習・体験しながら、保育における表現活動の指導の可能性について探究する。

学習目標・到達目標

●保育における領域「表現」のねらい及び内容を理解する
●子どもの行為・遊びを「表現」の視点からとらえる
●乳幼児の表現をはぐくむ環境構成と基本的な指導法について理解する
●表現者（保育者）としてのスキルを磨く
●乳幼児期にふさわしい指導案を作成し、模擬的に実践できる

評価方法その他

1）授業時間内の演習評価（授業への参加状況・課題への取り組み・発表態度を含む）50％
2）提出物の評価（指導案・レポート等）50％
を100点満点に換算して成績評価点とする。

週　テーマ・授業目標等

1.からだで表すトレーニング
2. 身体表現遊びの実際
3. 身体表現遊び模擬保育（1）
4. 身体表現遊び模擬保育（2）
5. 身体表現遊び模擬保育（3）
6. からだで感じて（1）においマップ
7. からだで感じて（2）えのぐで遊ぶ
8. 身近な素材の発見（1）コラージュで遊ぶ
9. 身近な素材の発見（2）つくって遊ぶ
10. 身近な素材の発見（3）新聞紙で遊ぶ
11. 子どもの音楽表現（1）声
12. 子どもの音楽表現（2）耳
13.子どもの音楽表現（3）モノと身体
14.子どもの音楽表現（4）つくる
15.子どもの音楽表現（5）まとめ
16. 課題提出

使用教科書名

感性をひらく表現遊び/岡本拡子編著/北大路書房/2013

NO. G04040001　保育内容演習表現B

新開　よしみ

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

子どもの感性、表現する意欲、創造性を豊かにはぐくむための保育の内容と方法について、演習を通して具体的・体験的に学ぶ。前半は，総合的な表現活動体験として「わくわくシアター」の制作と発表を行う。後半は，身体表現・造形表現・音楽表現などさまざまな「表現遊び」のための教材研究を行い，指導案を作成し，模擬保育を行うことを通して、保育における表現活動の指導の可能性について探究する。

学習目標・到達目標

●保育における領域「表現」のねらい及び内容を理解する
●子どもの行為・遊びを「表現」の視点からとらえる
●乳幼児の表現をはぐくむ環境構成と基本的な指導法について理解する
●表現者（保育者）としてのスキルを磨く
●乳幼児期にふさわしい指導案を作成し、模擬的に実践できる

評価方法その他

1)授業時間内の演習評価（授業への参加状況・課題への取り組み・発表態度を含む）50%
2)提出物の評価（指導案・レポート等）50%
を100点満点に換算して成績評価点とする。

週　テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. わくわくシアター制作(1)
3. わくわくシアター制作(2)
4. わくわくシアター制作(3)
5. わくわくシアター制作(4)
6. わくわくシアター制作(5)
7. わくわくシアターリハーサル
8. わくわくシアター発表
9. 音楽表現の事例研究
10. 造形・身体表現の事例研究
11. 音楽表現の教材研究
12. 造形・身体表現の教材研究
13. 模擬保育(1)
14. 模擬保育(2)
15. 模擬保育(3)
16. 課題提出

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G04041001　保育方法論

細田　成子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現代社会とのかかわりの中で保育理論を構造的に解明して、保育方法の内容を検討し、保育実践を整理、再考する。幼児が主体的自発的に遊び、活動する中で、価値のある学習がうまれ、心身の発達が助長される。そのように環境を構成し、子どもの発達を保障する取り組みができるような保育方法を研究する。特に集団保育において子どもの人間関係の発達を促す保育者の役割に注目して、幼稚園および保育所における保育の計画や指導方法について学習を深める。

学習目標・到達目標

1)今までに培われてきた保育の理念と形態および方法について検討し、今後めざす保育方法を探求する。
2)保育環境を担う保育者のかかわり方を学び、集団保育における子どもの育ちを援助する方法について理解を深める。
3)主体的に学ぶことを通して、自発性や創造性など保育実践につながる資質を向上させる。

評価方法その他

授業時間内の学習（授業への参加態度・理解の程度および学んだことを文章化する力を総合的に評価）60%、定期試験40%

週　テーマ・授業目標等

1. 保育方法の基本理念、保育所保育指針、幼稚園教育要領のめざすもの
2. 現代社会における子どもの生活と保育
3. 環境を通して子どもを育てる
4. 遊びを通して子どもを育てる一保育指導の形態と方法
5. 人間関係を育てる保育者の役割
6. 保育者の子どもへのかかわり方
7. 集団保育の中で育つ子どもの姿一人間関係の発達
8. 集団指導の方法一個と集団を発展させるリーダー機能
9. 集団指導の方法一集団の発展段階における技法
10. 子どもの発達と子ども集団の発展
11. 指導計画の立案
12. 指導計画の検討
13. 親子と共に育つ保育者の役割
14. 地域の子育て活動としての保育者の役割
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

吉川暁美　日吉佳代子　宮下美智代ほか著　人間関係一かかわりあい・育ちあい一　不昧堂出版　2010
文部科学省　幼稚園教育要領＜平成20年告示＞　フレーベル館
厚生労働省　保育所保育指針＜平成20年告示＞　フレーベル館

NO. G04042001　障がい児保育（1クラス）

中野　佐世子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

障害児保育を支える理念に関して理解を深め、保育所、障害乳幼児通園施設等での保育の変遷と現状、および今後の課題を理解する。
障害についての基本的考え方としては、障害を持つ子どもを「要助児」と捉える。そして保育者としての役割は「助けることを必要としている子ども（self - help needed person）であることに気づいて、保育者として自分が何をしたらいいか、役割の可能性を探ることにある。
このように「障害児保育」をとらえ、福祉・保育・心理などの知見を総合的に学ぶ。

学習目標・到達目標

様々な障害があることを知り、正しく理解し、助けを必要としている子ども遠（要助児）への対応の仕方を、考え・行動することのできる保育者となる。

評価方法その他

平常点40%　レポート20%　試験40%　の割合で評価する
（平常点とは、授業への参加状況や、リアクションペーパーの内容等を総合的に評価するものである。）

週　テーマ・授業目標等

第1週　「障害」のとらえ方 -「障害」とは
第2週　「障害」のとらえ方 -「障害児とは」「要助児の概念」
第3週　障害児保育を支える理念
第4週　障害に応じた保育支援　視覚障害　Ⅰ＜視野・色覚・視力＞
第5週　障害に応じた保育支援　視覚障害　Ⅱ＜援助・ガイドの方法＞
第6週　障害に応じた保育支援　聴覚言語障害　Ⅰ＜聞こえのしくみ＞
第7週　障害に応じた保育支援　聴覚言語障害　Ⅱ＜会話の方法＞
第8週　障害に応じた保育支援　肢体不自由
第9週　障害に応じた保育支援　知的障害
第10週　障害に応じた保育支援　発達障害
第11週　障害児を取り巻く保育の現状　―　保育の現状と課題
第12週　障害児を取り巻く保育の現状　―　専門機関とのよりよい連携
第13週　保育現場における留意事項
第14週　遊びや対人関係の援助、食事動作、排泄動作、行為動作などの生活動作に関する具体的な保育技術
第15週　家庭への支援、家庭との連携と協力

使用教科書名

①「手話ソングブック　～ともだちになるために～」　すずき出版　新沢としひこ　中野　佐世子　共著

②「ハッピーコミュニケーションのすすめ」中野　佐世子著　書店での取り扱いがないため、講義

NO. G04042002　障がい児保育

渡邊　眞理

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

保育の対象となる子どもたちは、一人一人が多様な存在であり、きめこまかな保育活動を行う必要がある。この授業では、障害児の実態、心理、保育方法を、適切に理解することに努め、障害児の特性や配慮すべき事柄、障害児保育の歴史と制度、障害児をとりまく保育集団や人間関係などのあり方、障害児に対する保育技術、などを学習する。

学習目標・到達目標

障害児とその保育集団に関する適切な理解を深め、子ども一人一人にかけがえのない個性と発達があることを知り、保育者として、多様な子どもたちにどのように接していけばよいかを理解する。

評価方法その他

平常点50%・試験50%を原則的めやすとし、授業回数全体にわたり総合的に評価する。
平常点とは、授業の出席状況、授業への積極性、課題に対する取り組み等々にかんがみ、総合的観点から評価するものである。

週　テーマ・授業目標等

1 オリエンテーション（学習の目的と方法）
2 障害児保育の意義と保育の役割
3「障害」とは何か
4 障害児の人権と保育士の使命
5 障害の特性と配慮・支援のあり方（知的障害）
6 障害の特性と配慮・支援のあり方（発達障害）
7 障害の特性と配慮・支援のあり方（身体障害）
8 障害児支援のあり方についてのまとめ
9 障害児の生活と環境
10 障害児保育の理念と動向
11 障害児保育の歴史と制度の現状
12 障害児保育の場と福祉サービス
13 問題事例の考察（話し合い、文献調べ）
14 問題事例の考察（考察の整理、レポート作成）
15 これまでの授業のまとめとレポート発表
16試験と総括

使用教科書名

『ソーシャルインクルージョンのための障害児保育』（堀智晴／橋本好市／直島正樹編著 ミネルヴァ書房2014版）　参考図書として、授業者の著書『そのままでいいんだよ』『待つことを学びなさい』（飯島勤・創風社）『子どもと家庭の福祉を学ぶ』（松本園子／堀口美智子／森和子・ななみ書房）を用いる。

NO. G04043001　保育実践演習

柳瀬　洋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

地域社会が抱える児童にかかわる問題を取り上げ、多面的に分析・考察し、先の見通しを立て、課題解決の可能性を広げる。これらの実践活動を振り返り発表する。

学習目標・到達目標

これまでの児童学科における学びに基づいて、保育、心理、健康、福祉、文化などの視座から、地域社会が抱える児童にかかわる問題に具体的に取り組む。3年次までの経験の積み重ねをもとに、最終学年において、学内だけでなく地域や社会とつながり、貢献へとつながるようにする。児童学の専門的な理論と方法と実践を学ぶ。

評価方法その他

ポスター発表40％　平常点60％で総合的に評価します。主体的に参加し、取り組むことを期待します。

週　テーマ・授業目標等

第1回目　保育実践演習*ガイダンス*

第2～第28回目（次の①～⑤のうち、いずれかまたは全てを選択し、授業回数に入れる。

これ以外では、子ども体験塾準備や各を授業回数に入れることもできる。その他、各教員

の指導に基づく、子どもにかかわる実践、研究などを組み込むことができる。）

① 子ども体験塾（4コマ分）

② 学外への見学、ボランティア

③ 特別公開講座

④ 特別授業等の学内での講座

⑤ 森のようちえん

第29～第30回目　午前または午後に実践報告会（ポスターセッション）を実施（2コマ分）

使用教科書名

各指導教員の指示に従うこと

NO. G04044001　算数科教育

新海　公昭

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

学習指導要領における小学校算数科の目標および「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の基礎的内容を学びます。小学校から高校までに学習する算数・数学を系統別に概観し、特に躓きやすい分野について再考します。さらに、これらをわかりやすく指導するにあたって教師に必要とされる、より広く深い数学的内容について学習します。また、新学習指導要領になり、「算数的活動（数学的活動）」のさらなる充実を図る必要があり、これを受けて種々の学会や研究会において、先生方の様々な取り組みの実践報告がなされています。
最新の実践報告もふまえながら一緒に「算数的活動」の充実についても考えます。

学習目標・到達目標

整数、小数と分数、数についての見方や感覚、四則演算、概数と見積り、長さ、様々な量とその単位、量の大きさについての感覚、量の比較と測定、面積や体積、図形についての理解、平面図形、立体図形、図形の構成・性質、図形についての感覚、見取図、展開図、関数の考え、式のもつ意味、統計、算数的活動、インフォーマル算数

評価方法その他

中間テスト(30点)、期末テスト(30点)、平常点(40点)
（平常点は、課題への取り組みと授業への貢献度（授業内での発表や質問）を総合的に評価します。）

週　テーマ・授業目標等

第1週　新学習指導要領の概略
第2週　インフォーマル算数（1）数、量
第3週　インフォーマル算数（2）図形、論理
第4週　数と計算（1）数の体系、四則演算
第5週　数と計算（2）記数法
第6週　量と測定（1）単位
第7週　量と測定（2）長さ、面積、体積
第8週　中間テスト
第9週　図形（1）平面図形と面積
第10週　図形（2）立体図形と体積
第11週　数量関係（1）文字式
第12週　数量関係（2）グラフ
第13週　数量関係（3）統計
第14週　アクティブラーニングについて
第15週　算数的活動について
第16週　期末テスト

使用教科書名

特になし。毎回プリントを配布する。

NO. G04045001　生活科教育

中田　範子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

生活科で取り扱われている、自分と社会との関わり、自分と自然との関わり、および自分自身と自分の生活についての基本的事項について、学生自身の生活から考えを深め、それを生活科教育の中でどう扱うかについて言及する。
可能な限り、野外や学外での踏査を取り入れ、体験を通して小学校低学年の児童への生活科教育に役立つ知識、概念、技能を習得する。

学習目標・到達目標

1.幼稚園教育から小学校教育への接続の重要性を踏まえ、生活科の意義と内容の基本を理解する。
2.生活科で取り上げている児童と人・自然・社会・家庭などとのかかわりについて実践例を踏まえながらその意義と内容を理解する。

評価方法その他

授業内に提出するレポート・課題(40%)、学期末レポート(60%)で総合的に評価する。

週　テーマ・授業目標等

1. *ガイダンス*
2. 幼稚園教育と小学校教育の接続について
3. 生活科創設の経緯と意義
4. 学校と生活
5. 家庭と生活
6. 地域と生活
7. 8. 公共物や公共施設の利用
9. 季節の変化と生活
10. 自然や物を使った遊び
11. 動植物の飼育・栽培
12. 生活や出来事の交流
13. 自分自身の成長
14 子どもと情報化社会、国際交流
15 子どもと事故、災害、安全教育

使用教科書名

特に指定しない。適宜授業時に紹介する。

NO. G04046001　音楽科教育

山原　麻紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

子どもの音楽表現の発達の諸相を知ると同時に、小学校の音楽科の指導に関する知識と実践を学ぶ。学習指導要領の内容に沿って、音楽科の各領域（歌唱・器楽・鑑賞・音楽づくり）の内容について理解を深める。また、歌唱や器楽、鑑賞等の実践を通して、音楽実践力の向上を図る。必要に応じてピアノの指導も行う。

学習目標・到達目標

子どもの音楽的発達の諸相と、音楽表現の多様性を実感するとともに、教科教育としての音楽科の目標・内容・方法を理解することを目指す。

評価方法その他

出席30%、授業態度30%、発表および提出物40%で評価する

週　テーマ・授業目標等

1　オリエンテーション
2　音楽科の目標とは
3　歌う活動（1）／音楽科の歴史
4　歌う活動（2）／学習指導要領
5　歌う活動（3）／学習指導計画（歌唱活動）
6　合奏を楽しもう（1）／学習指導計画（鑑賞活動）
7　合奏を楽しもう（2）／学習指導計画（合奏活動）
8　合奏を楽しもう（3）／音楽会企画（1）テーマについて
9　音楽をつくろう（1）／音楽会企画（2）選曲について
10　音楽をつくろう（2）／音楽会企画（3）編曲について
11　ミニ音楽発表会
12　音楽科と他教科の関連
13　学習指導案の作成（1）主題による題材構成
14　学習指導案の作成（2）楽曲による題材構成
15　音楽学習の評価について
16　まとめ　授業実践へ向けて

使用教科書名

初等科音楽教育研究会(2009)『最新 初等科音楽教育法 小学校教員養成課程用 』音楽之友社

NO. G04047001　図画工作科教育

立川　泰史

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

小学校図画工作科の指導に必要な基礎的な知識と基本的な技能について、具体的な実技演習を通して学ぶ。
「みる・つくる」活動の実践事例や実際の経験から、図画工作科の特性を理解する。材料や用具に関する指導方法・表現と鑑賞などの領域と授業の具体的な展開について体験的に理解する。

学習目標・到達目標

小学校図画工作科の目標と内容，及び教育的な意義の理解を深め，演習を通して実践的な指導力を増う。
教科の特性を知り、具体的な題材事例に触れることを通して、題材開発や実践的な指導と評価の脂質・能力を高める。

評価方法その他

平常点20%、ポートフォイリオ（制作過程と成果の記録）40%、小論レポート40%などを総合的に判断する。

週　テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション（子どもと造形表現・子ども文化と美術）
2. A表現（1）造形遊び一低学年
3. A表現（1）造形遊び一中・高学年
4. A表現（2）絵や立体に表す一低学年
5. A表現（2）絵や立体に表す一中・高学年
6. A表現（2）工作に表す
7. デジタル機器・ICT・メディアを活用する造形表現
8. からだと造形表現
9. ことばと造形表現
10. コミュニケーション題材と造形表現
11. 鑑賞活動（1）相互観賞場面の展開と方法
12. 観賞活動（2）身のまわりの生活や自然・文化的作品を活用する展開と方法
13. 子どもの協働場面をいかす表現活動
14. 領域を超えた表現活動のバリエーション
15. 計画と実践について（事例観察と討論）・まとめ

使用教科書名

小学校学習指導要領解説・図画工作編／文部科学省／日本文教出版・株／平成20年8月／定価85円

NO. G04048001　国語科教育（書写を含む）

宮津　大蔵

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

学習指導要領をもとに、小学校国語科の教科構造、目標、内容等について幅広く考察することによって、実際に授業を行うために不可欠な知識や方法論を身につける。

概要：
・小学校国語科の教科構造、目標、内容について
・国語科各領域の現代的課題について
・授業設計の際の課題、留意点について
・学習者評価、授業評価における課題、留意点について

学習目標・到達目標

小学校国語科の授業を行うための基本的な事項を理解し、適切な授業計画を立てることができる。

評価方法その他

平常点（40%）レポート（60%）

週　テーマ・授業目標等

第1回：シラバスに基づくガイダンス
第2回：小学校国語科の構造
第3回：国語科の目標、内容
第4回：国語科の教育課程
第5回：学習指導要領の変遷
第6回：各領域の課題①
第7回：各領域の課題②
第8回：各領域の課題③
第9回：各領域の課題④
第10回：国語科授業設計の課題
第11回：国語科教材研究の実際
第12回：国語科授業観察・評価の課題①
第13回：国語科授業観察・評価の課題②
第14回：書写指導留意点
第15回：まとめと評価

使用教科書名

「小学校学習指導要領解説　国語編」文部科学省
その他のものは随時、資料を配布する。

NO. G04049001　体育科教育

金子　和正

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

子どもたちの健康の維持・増進、体力の向上及び健康な生活を維持するための基本の習得は小学校体育の目標です。体育科教育の各運動領域の特性について理解し、それぞれの領域の指導方法や展開について学びます。学習指導案の作成と模擬授業の展開から体育科教育の実践力を養います。

学習目標・到達目標

小学校の体育授業を実際に展開できるようになることを目標とします。小学校教育の中では、様々な授業条件の中で子どもたちひとり一人を見据えた授業を展開しなくてはなりません。運動の得意な子ども、あるいは不得意な子どもに対して、教員は体育に対する子どもの「やる気」を起こさせながら授業を展開していかなくてはなりません。多くの模擬授業を経験することで、実際の現場で対応できる能力を修得します。

評価方法その他

授業への出席（40%）、指導案作成と模擬授業の展開（30%）、課題の提出（30%）

週　テーマ・授業目標等

1. 小学校教科教育「体育科教育」の目的
2. 小学生の成長と体育
3. 運動の指導方法と展開例
4. 体育科教育の指導計画と指導案の作成
5. 基本の運動の理解と指導について
6. マット運動の理解と指導について
7. 球技運動の理解と指導について
8. 指導案作成と授業の展開Ⅰ
9. 指導案作成と授業の展開Ⅱ
10. 指導案作成と授業の展開Ⅲ
11. 指導案作成と授業の展開Ⅳ
12. 指導案作成と授業の展開Ⅴ
13. 指導案作成と授業の展開Ⅵ
14. 指導者と学習者の理解
15. まとめ
16. テスト

使用教科書名

文部科学省「小学校学習指導要領解説-体育編-」

NO. G04050001　社会科教育

尾﨑　利生

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

小学校社会科の学習目標と内容を学習指導要領にそって把握し、社会科の基礎的な知識・洞察力を身につけ、社会科に含まれる諸領域に関する教材研究能力を養う。また、各自が教材開発とその工夫を試み、指導案づくりの基礎的な力を涵養することをめざす。

学習目標・到達目標

社会科の基礎的な概念や知識を総合的に身につけ、授業の展開能力を高める。

評価方法その他

教材開発・指導案（60%）、平常点（40%）
（平常点は授業への参加状況、模擬授業への取り組み姿勢等で総合的に判断する）

週　テーマ・授業目標等

1. 社会科教育の目標の概要
2. 社会科教育カリキュラム開発の推移
3. 地理的内容(1)
4. 地理的内容(2)
5. 歴史的内容(1)
6. 歴史的内容(2)
7. 政経的内容(1)
8. 政経的内容(2)
9. 地域社会の教材化・指導案づくり
10. 国土と資源・産業の教材化・指導案づくり
11. 日本の歴史と社会の教材化・指導案づくり
12. 政経、国際関係の教材化・指導案づくり
13. 教材開発および指導案の発表(1)
14. 教材開発および指導案の発表(2)
15. 教材開発および指導案の発表(3)
16. まとめ

使用教科書名

小学校学習指導要領解説　社会編
文部科学省

NO. G04051001　理科教育

沼波　秀樹

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

理科の学習では，子どもが自然に対して興味・関心をもち，問題解決の活動を通して科学的なものの見方や考え方をするようになることが期待されている。小学校理科の目標と各区分の内容を理解し，子どもの自然認識の形成を図る基本的な指導法を習得する。理科離れ・理科嫌いと言われる最近の子どもにいかに興味を持たせるかについても考える。

学習目標・到達目標

小学校理科の目標と各区分の内容を理解し，子どもの自然認識の形成を図る基本的な考え方を習得する。

評価方法その他

定期試験・レポート(80%)，平常点(20%)の総合評価。
(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)
見学時に入館料と交通費がかかる。

週　テーマ・授業目標等

1.イントロダクション
2.小学校理科の初歩的知識の確認
3.小学校理科教育の目標と内容
4.小学校理科全体の目標
5.学年進行を経験する(植物の成長を例として)
6.各学年の目標と内容1
7.各学年の目標と内容2
8.各学年の目標と内容3
9.「生物とその環境」－植物の成長を例として－
10.「物質とエネルギー」－電気と磁気1－簡単な実験
11.「物質とエネルギー」－電気と磁気2－学年進行と内容
12.社会教育施設との連携－博物館の見学の事前準備－
13.社会教育施設との連携－博物館の見学1－
14.社会教育施設との連携－博物館の見学2－
15.小学校理科における環境教育

使用教科書名

文部科学省「小学校学習指導要領解説・理科編」，文部科学省「小学校学習指導要領解説・総則」
その他，プリントを配付する。

NO. G04052001　国語科教育法（書写を含む）

三輪　民子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

小学校の国語科教育の目標・内容を確認し、授業をするための要点を捉える。これらを実践的に学ぶために、小学校教科書教材の分析や授業実践記録を参照して授業の有り様について探究する。また、実際に指導案を作成し、模擬授業を体験するなどして、実践的力量をつけていくための基礎を学ぶ。

学習目標・到達目標

・国語科教育に対して関心を持つ。
・国語科教育の目標・内容について知り，考察する。
・国語の授業を創造する実践的な態度を身につける。

評価方法その他

・課題レポート　50点
・通常講義ミニレポート　50点

週　テーマ・授業目標等

1. 小学校国語科教育の目標と内容(1)
2. 小学校国語科教育の目標と内容(2)
3. 教材研究の実際(1)
4. 教材研究の実際(2)
5. 教材研究の実際(3)
6. 国語科授業展開の方法(1)
7. 国語科授業展開の方法(2)
8. 国語科授業展開の方法(3)
9. 模擬授業と討論(1)
10. 模擬授業と討論(2)
11. 模擬授業と討論(3)
12. 書写指導の方法(1)
13. 書写指導の方法(2)
14. 国語科における学習評価のあり方
15. まとめ

使用教科書名

特になし。

NO. G04053001　社会科教育法

佐藤　広美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

小学校の社会科の目標・内容を確認し，子どもたちに如何に授業を行うか，その要点をのべる。また社会科誕生（戦後に誕生した新しい科目である）から現在に至る，すぐれた社会科授業を分析し，遺産を学びたい。

学習目標・到達目標

学習指導要領と実際の教科書の比較ができること。
教科書と実際の授業の違いを比較し、教師の工夫、子どもの認識の深まり、など、具体的に検討できること。
社会科を基礎づける社会科学の基本文献にあたり、教科書の記述そのものを検討できること。

評価方法その他

授業への出席、発言、レポートの提出、試験など総合評価。

週　テーマ・授業目標等

1. 社会科教育法、オリエンテーション
2. 社会科の歴史、戦前、
3. 社会科の歴史、戦後の誕生
4. 社会科教育の目標と方法
5. 社会科教育の目標と方法、その2
6. 社会科教育と子ども
7. 社会科教育と地域
8. 社会科教育と文化
9. 社会科教育と道徳教育の関連
10. 社会科教育、3年生
11. 社会科教育、4年生
12. 社会科教育、5年生
13. 社会科教育、6年生
14. 社会科教育と評価
15. まとめ
16. 試験

使用教科書名

小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説社会編

NO. G04054001　算数科教育法

新海　公昭

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

まず、算数科学習指導要領を基に、算数教育の特質とそのねらいについての理解を深めます。次に、教科書や具体的な教材・教具を使用しながら、四つの領域「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」および「算数的活動」の内容と、学年ごとの学習内容を教える立場で概観し、指導方法を考えます。最後に、指導案の作成と模擬授業および協議会を通して、指導方法、評価の在り方について学びます。

学習目標・到達目標

算数科教育では、学習指導要領に明記されている算数科の目標および各領域の学習内容について理解を深めました。算数科教育法では、、教える側の立場で、児童がつまずきやすい学習単元の指導方法を考えるとともに、授業における教材・教具(ICTを含む)の重要な役割を理解し関心を深め、指導案の作成を通して学習指導の要点を確認し、模擬授業を通して実践的な学びを実現します。算数科の学習評価や授業の評価活動についても理解します。後半では、特別講師による今

評価方法その他

講義への貢献(30点)
指導案作成と模擬授業と模擬授業への貢献(40点)
最終課題(テストまたはレポート)(30点)

週　テーマ・授業目標等

1. ガイダンス、算数科の特質と目標、学習指導案の作成
2.「数と計算」 かけ算、わり算を中心に、模擬授業
3.「図形」 平面図形・立体図形を中心に、模擬授業
4.「数と計算」「数量関係」 分数と小数を中心に、模擬授業
5.「数と計算」 分数学習の実際、模擬授業
6.「量と測定」 伴って変わる二つの数量の関係、模擬授業
7.「量と測定」 単位量当たりの大きさ、模擬授業
8. 学習評価の授業評価について
9. 模擬授業と協議会Ⅰ　1年生中心(指導法を中心に)
10. 模擬授業と協議会Ⅱ　2年生中心(指導法を中心に)
11. 模擬授業と協議会Ⅲ　3年生中心(指導法を中心に)
12. 模擬授業と協議会Ⅳ　4年生中心(教材や教具の工夫を中心に)
13. 模擬授業と協議会Ⅵ　5年生中心(教材や教具の工夫を中心に)
14. 特別講師による今日的な課題に対する種々の教育法の提案
15. 模擬授業と協議会Ⅴ　6年生中心(現場の先生の視点から教育評価を中心に)
16. テストまたはレポート

使用教科書名

「小学校学習指導要領解説　算数編」 文部科学省
小学校算数教科書　1, 2, 3, 4, 5, 6年(全6社)

NO. G04055001　理科教育法

黒田　篤志

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

子どもに対して，理科の楽しさや興味・関心をもたせるためには，子どもの考えに基づいた問題が大切となる。本授業では，子どもの問題解決的な学習を構成できる資質・能力を身につけることを目的とする。初等理科での授業実践に必要な基礎的内容・方法を学ぶ授業内容となる。

学習目標・到達目標

(1)教科理科に関する基礎的な知識を体験的に獲得し，理科の授業づくりができるようにすること。
(2)観察・実験などを通して，実践的指導力の基礎を獲得できること。
(3)理科授業において子どもの科学概念，表現を認め，生かせる教師となるための手立てを見いだすこと。

評価方法その他

授業でのポートフォリオ作成(30%)，平常点(30%)，事後テスト(40%)の結果より評価する。(平常点は，授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する。)

週　テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション，小学校理科の歴史と学習指導要領。
2. 理科の目標について学ぶ。
3. 科学概念，子どもの科学概念について学ぶ。
4. 小学校理科授業の実践・問題解決的な学習と効果的な導入について学ぶ。
5. 小学校理科授業の実践・明確な見通しをもたせる工夫について考える。
6. 小学校理科授業の実践・主体的な学習について考える。
7. 小学校理科授業の実践・安全な観察・実験について学ぶ。
8. 小学校理科授業の実践・多様な学習形態について学ぶ。
9. 小学校理科授業の実践・効果的な板書について考える。
10. 小学校理科授業の実践・ノート指導・発問について考える。
11. 小学校理科授業の実践・理科の評価について考える。
12. 理科器具について学ぶ。
13. 理科指導案について学ぶ。
14. 授業ビデオの視聴，全体の協議により理科授業の定型を学ぶ。
15. 小テスト・全講義のまとめをする。

使用教科書名

森本信也・森藤義孝著「小学校理科の指導」第2版，建帛社

NO. G04056001　生活科教育法

池田　仁人

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

生活科の成果と課題の検討、授業参観（ビデオによる）を通して授業構成原理を探求し、生活科　の授業を計画、実施するために必要な力量を育成するとともに授業技術の向上はかる。また、個人　またはグループで学習指導案を作成し、模擬授業を展開する事を通して生活科授業実践のための指導力を育成する。

学習目標・到達目標

・小学校教育における生活科の役割を理解し、生活科授業を構成する力を身につける。
・生活科の活動計画を作成する力を身につける。
・生活科における子どもの見方・支援(評価)の仕方について理解する。

評価方法その他

出席30%
指導案50%
模擬授業20%

週　テーマ・授業目標等

第1週　生活科の理念と目標　生活科で育てたい子ども像や生活科の役割
第2週　生活科の現状と課題　現在の生活科が置かれている状況、問題点
第3週　生活科の授業例　生活の理念に沿った学習展開の例を紹介
第4週　生活科の授業の見方と子ども理解授業の留意点や子どもの見取り方
第5週　授業の実際　評価の方法、授業展開上の疑問点などを整理
第6週　生活科の指導計画①　教材開発から単元計画の立て方について
第7週　生活科の指導計画②　単元目標の設定の仕方、子どもと教材との関わり
第8週　生活科の指導計画③　本時の授業計画案作りの仕方について
第9週　指導計画の実際①　各グループ(若しくは個人)で授業計画を立案1
第10週指導計画の実際②　各グループ(若しくは個人)で授業計画を立案2
第11週指導計画の実際③　教材製作、模擬授業準備
第12週模擬授業と討論①
第13週模擬授業と討論②
第14週模擬授業と討論③
第15週まとめ生活科を中心に据えた低学年学級経営などについて

使用教科書名

小学校学習指導要領解説－生活編－文部科学省

NO. G04057001　音楽科教育法

山原　麻紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本授業は，教職科目の教科教育法の一環として行われる。
学習指導要領「音楽」の位置づけを明確にし、目標および内容について基本的理解を図るとともに、教材研究や指導案作成および模擬授業を通して、音楽科の指導方法や評価について具体的に学ぶ。

学習目標・到達目標

音楽科の目標・内容・方法について、より実践的に理解を深めることを目指す。

評価方法その他

出席30%、授業参加態度30%、発表および提出物40%で評価する

週　テーマ・授業目標等

第1回　オリエンテーション(模擬授業グループ分け)
第2回　音楽科教育の目標と意義、我が国の現状と課題
第3回　学習指導案の作成について:模擬授業に向けて
第4回　模擬授業①　歌唱
第5回　模擬授業②　歌唱
第6回　模擬授業③　器楽
第7回　模擬授業④　器楽
第8回　模擬授業⑤　創作
第9回　模擬授業⑥　創作
第10回　模擬授業⑦　鑑賞
第11回　模擬授業⑧　鑑賞
第12回　模擬授業⑨　総合
第13回　模擬授業⑩　総合
第14回　総括 模擬授業を振り返って
第15回　総括　教育実習、教員採用試験に向けて
第16回　まとめ・レポート

使用教科書名

初等科音楽教育研究会(2009)『最新 初等科音楽教育法 小学校教員養成課程用 』音楽之友社

NO. G04058001　図画工作科教育法

立川　泰史

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

小学校「図画工作科」に必要な知識を学習し、具体的な指導方法として模擬授業を経験する。
模擬授業では教科指導案、授業の感想カードなどを作成し、授業の準備、進め方を経験する。
また、評価の観点、指導案の作成について、授業の進め方についてグループ討論を行う。

学習目標・到達目標

小学校図画工作科の指導や評価のために必要な基礎的な知識と技能を学ぶ。
「表現」においては、豊かなイメージの創造とそれを表現に結びつける技法との関連を明らかにし、実際の制作や活動を通して体験的に学習する。「鑑賞」においては、実際の教材を用いて、その背景となる美術史や鑑賞の視点等を学ぶ。
代表的な表現教育理論や歴史的な変遷を知り、現代的な教育課題を応える造形教育の観点を持

評価方法その他

平常点20%　、模擬授業40%、小論レポート40%(積極的な態度などの平常点と学習成果を総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション(図画工作科の今日的課題や動向)
2. 美術教育の歴史と理念
3. 図画工作科教育の変遷
4. 子どもを取り巻く問題と造形活動(社会的な教育課題と造形教育、美術文化と子ども)
5. 子どもを取り巻く問題と造形活動(子どもの発達と表現のかかわり)
6. 図画工作科の学習指導要領(目標・内容・共通事項)
7. 内容と方法(1)造形遊び
8. 内容と方法(2)絵や立体、工作に表す
9. 内容と方法(3)鑑賞
10. 図画工作科学習の評価活動(教師・自己評価・相互評価)
11. 題材・教材研究と指導計画
12. 学習指導案作成の基礎事項と討論
13. 模擬授業と討論
14. 模擬授業と討論
15. 模擬授業と討論・まとめ

使用教科書名

小学校学習指導要領の解説と展開　図画工作科編　Q&Aと授業改善のポイント・展開例

NO. G04059001　家庭科教育法

海野　りつ子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

・小学校家庭科教育の歴史と現状を踏まえ、教科としての位置づけ、意義、目標、指導内容について学ぶ。子どもたちを取り巻く生活の状況を見つめ、これからの家庭科教育の在り方も視野に入れて学習する。
・学習指導案の作成を通して、家庭科の指導を行うための実践力を養う。

学習目標・到達目標

・家庭科教育の意義と役割を理解し、解説できる。
・家庭科の指導を行うための知識、技能などの実践力を身につける。
・子どもの実態に合わせた授業計画、指導案を作成し、教師としての資質の向上に努めることができる。

評価方法その他

・授業後に書いてもらうミニレポート 30%
・授業や議論の積極的参加、作品の提出20%
・学習指導案　30%
・学習目標・到達目標の達成を記述（定期試験）20%

週　テーマ・授業目標等

1. ガイダンス　授業計画、評価等
2. 家庭科教育の変遷と今日的な意義や課題
3. 食生活に関しての基礎・基本1
4. 食生活に関しての基礎・基本2
5. 調理実習
6. 衣生活に関する基礎・基本1
7. 衣生活に関する基礎・基本2
8. 小物づくり
9. 授業づくり及び評価について
10. 住生活についての基礎・基本1
11. 住生活についての基礎・基本2
12. 子どもを取り巻く家族・家庭の状況
13. 家族・家庭に関してのの基礎・基本
14. 環境および消費に関しての基礎・基本
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

小学校学習指導要領・家庭
小学校家庭科教科書平成27年度版「わたしたちの家庭科」開隆堂

NO. G04060001　体育科教育法

金子　和正

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

小学校における生きる力を育成する体育を中心として、体育科の教科目標を中心に取り扱う。児童の発育・発達に応じた教材の適切な取り上げ方、指導法について代表的な教材を基に小学校体育科の目的・目標、学習内容、方法、評価等についての基本的理論を学ぶ。さらに学習指導要領と指導書の内容について取り上げ、小学校における体育科の意義を考える。また、小学校体育の各領域の内容を指導できることを目指し、指導計画及び指導方法についても学ぶ。

学習目標・到達目標

運動・スポーツの研究成果はめざましく、小学校教員もそれらの多くに関心を示し、より教育効果の期待される教材や教育方法を積極的に取り入れていくことが重要であることを理解する。さらに、小学校における体育教材を扱う上で、しっかりした体育の理解を修得する。

評価方法その他

平常点（40%）、指導案作成と模擬授業の展開（30%）、課題の提出（30%）

週　テーマ・授業目標等

第1週　教科としての体育の歴史と意義
第2週　発達と体育（低学年における目標と内容）
第3週　発達と体育（中学年における目標と内容）
第4週　発達と体育（高学年における目標と内容）
第5週　体育における指導と学習過程
第6週　体育における教材分析の方法
第7週　対象の理解と運動教材の選択
第8週　体育授業の留意点と展開
第9週　授業運営の留意点
第10週　体育における評価のあり方
第11週　運動の測定方法
第12週　指導計画の立案と討論
第13週　模擬授業の展開と討論
第14週　授業運営の課題と対策
第15週　まとめ
第16週 テスト

使用教科書名

文部科学省「小学校学習指導要領解説-体育編-」

NO. G04062001　小児保健Ⅱ

松井　知子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

小児保健では、小児期における心身両面の成長・発達の理論を学び、それを理解した上で自らは健康の保持増進の支援にいかに関わっていくことができるかを考えることを目標としている。

学習目標・到達目標

小児保健では、小児期における心身両面の成長・発達の理論を学び、それを理解した上で自らは健康の保持増進の支援にいかに関わっていくことができるかを考えることを目標としている。

評価方法その他

試験(60%)、授業への取り組み（10%）、課題レポート(30%)、その他等総合的に評価する。

週　テーマ・授業目標等

1. 健康の定義、健康・不健康とは（総論）
2. 生活環境と心身の健康1　小児期（新生児期、乳幼児期、学童期）
3. 生活環境と心身の健康2　青年期（青年期の課題）
4. 事故と応急処置
5. 感染症と予防接種
6. 感染症ガイドライン
7. 小児期の病気：感染症（発疹症）、消化器系疾患
8. 小児期の病気：呼吸循環器系疾患
9. 小児期の病気：その他の疾患
10. 小児の病気：　神経精神疾患（ダウン症を含む）
11. 小児の病気：　心身症、養育者との関係
12. 小児の病気：　学習障害・発達障害など
13. 小児の病気：　悪性腫瘍・川崎病など・母子保健
14. 母子保健、子育て・家庭の問題
15. 保健行政
16. 試験

使用教科書名

教科書「保育の中の保健」　萌文書林
配布するオリジナルテキスト

NO. G04063001　小児保健演習（1クラス）

田中　和香菜

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

子どもの保健の講義で学んだ知識を基に、今日の子どもたちを取り巻く様々な環境に目を向け、保育者として子どもの健康を保持増進するために必要な技術や小児期に多い疾病への対応、事故防止対策等についての具体的な対応法について学びます。
　子どもの発育発達の様子やその特徴の理解を体験的に深め、心身の健康を評価できるようになることを目標とし、また、集団保育において保育者が行うべき健康管理・安全管理とともに、子どもたちが自ら率先して健康で安全な生活を送ることができるようになるための支援についても考えます。

学習目標・到達目標

・子どもの発育の観察と評価。日々の健康状態の観察、健康的な日常生活習慣形成のための適切な養護、安全で衛生的な保育環境設備の方法、病気やけがの適切な対処ができる知識と技術を習得し、保育の場で実践できる能力を身につけます。
・子どもと保護者に健康相談と健康教育するための基礎的知識、技術を習得します。

評価方法その他

学期末試験（60%）、平常点（20%）、課題等（20%）
（平常点は授業への参加姿勢などから総合的に判断します）

週　テーマ・授業目標等

1. ガイダンス、乳幼児の養護（1）抱き方
2. 乳幼児の養護(2)おむつ交換、衣服の着脱、おんぶ
3. 保育における健康観察（体温、呼吸、脈拍）
4. 乳幼児の養護(3)沐浴
5. 身体計測の方法、身体発育の観察と評価
6. 健康診断
7. 乳幼児の養護(4)口腔内の衛生、歯みがき指導
8. 病気の症状とケア、感染症と感染症発生時の対応
9. 保育環境の整備、安全管理と事故防止
10. 応急手当（1）きずの種類と処置応急処置
11. 応急手当（2）三角巾、包帯法
12. 応急手当（3）心肺蘇生法、気道異物除去
13. 慢性疾患やアレルギーがある子どもの保育、職員の健康管理
14. 保育と健康教育
15. まとめ
16. 試験

使用教科書名

「これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ⅱ」（鈴木美枝子編著、創成社）

NO. G04064003　子どもの食と栄養

太田　百合子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

乳児期、幼児期、学童期、産前産後の食事、小児期の疾病の特徴と食事、児童福祉施設の給食の役割などDVD視聴や献立作成を通して実戦力を身に付け、食育支援を行うための能力を習得する。実習は、理論を生かして調乳から成人の調理実習や食育を題材にした教材づくりと発表を通して実践力を身に付ける。

学習目標・到達目標

子どもの発育・発達に即した栄養に関する基礎知識と実践を学び、理想的な食生活のありかたを知る。

評価方法その他

平常点および提出物(40%)、試験(60%)による総合評価。
ただし定期試験において6割以上取れていること。平常点は受講態度、調理実習や演習への参加状況等で総合的に判断する。

週　テーマ・授業目標等

1.総論一何をこれから学ぶのか
2.子どもの栄養と食生活の意義
3.子どもの発育・発達と栄養
4.栄養に関する基礎知識
5.栄養に関する基礎知識の応用
6.乳児期の食生活
7.摂食機能の発達
8.母親の月例ごとの悩みと考え方、味覚の発達
9.幼児期の食生活
10.幼児期の食生活の応用
11.学齢期、思春期の食生活
12.生涯発達と食生活、産前産後の食生活
13.特別な配慮を要する食事、食物アレルギー
14.家庭や児童養護施設における食生活
15.食育発表とまとめ
16.定期試験
実習
1.食事カードによるバランスのとれた食事
2.成人女性の調理実習
3.調乳、ベビーフード試食
4.離乳食調理実習
5.幼児食調理実習
6.おやつ、行事食調理実習
7.食育のための媒体作り

使用教科書名

新版子どもの食生活　上田玲子編著(ななみ書房)

NO. G04065001　児童体育演習

金子　和正

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

人間の発育・発達と運動との関連について幼児期・児童期を中心に考察していく。指導者は、子どもが自発的にからだを使ってする遊びに気づき、その子どもの遊びの充実と展開に関わる。子どものからだを使った遊びを尊重し、それが豊かに展開するようにかかわるだけでなく、新たな場面で新たな教材を提供するなど、子どもの身体能力や運動技能を高める道筋をさまざまに工夫する。子どもが自由にのびのびと活動する身体表現の楽しさを共有しつつも、指導者としての技術も習得する。

学習目標・到達目標

子どもたちと一緒に身体を動かす喜び、楽しさを修得する。子どもに対して運動やスポーツは無計画になされるのではなく、子どもの体調・環境・季節等多くの条件を考えなくてはならない。このような要因を考慮して、子どもの体育教材を考えられる保育士になることを目的とする。

評価方法その他

授業への2／3以上の出席を基本として、平常点50%、課題・レポートの内容50%

週　テーマ・授業目標等

1. 室内を使った運動遊びの実践と指導法Ⅰ(集団で行うアイスブレークゲーム)
2. 室内を使った運動遊びの実践と指導法Ⅱ(集団から少人数グループで行う協力ゲーム)
3. 室内を使った運動遊びの実践と指導法Ⅲ(ボール運動、マット運動、縄を用いた運動)
4. 屋外を使った運動遊びの実践と指導法Ⅰ(芝地や平地で行うレクリエーションゲーム)
5. 屋外を使った運動遊びの実践と指導法Ⅱ(ボールを使ったスポーティーなゲーム)
6. 屋外を使った運動遊びの実践と指導法Ⅲ(ボールを蹴ったり、投げたりするスポーツゲーム)
7. 自然環境を利用した運動遊びの実践と指導法Ⅰ(林を使った野外ゲーム)
8. 自然環境を利用した運動遊びの実践と指導法Ⅱ(追跡ハイキング等自然を生かせるゲーム)
9. 自然環境を利用した運動遊びの実践と指導法Ⅲ(自然環境を考えるゲーム)
10.運動教材を用いた運動Ⅰ(フープ・ボール・縄を用いて屋内・屋外で運動する)
11.運動教材を用いた運動Ⅱ(様々な運動を運動会様式に配列し実践する)
12.児童の運動遊びの創造
13.児童の運動遊びの指導と安全・管理の方法
14.幼児の運動遊びの評価方法
15.まとめ
16. テスト

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G04067001　野外活動論（児童と野外環境）

金子　和正

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

子どもの成長にとって自然環境の果たす役割は極めて重要です。自然の中で子どもたちは他者との関わり、自己への認識、自然との関わりをそれぞれの発育・発達段階のちょうど良いペースで学んでいきます。自然環境がもつ多くの魅力と、子どもの成長にとって重要な要素となる野外環境について内外の知見や身近な実践例から学んでいきます。

学習目標・到達目標

外環境が子どもの成長過程において重要な働きをしていることを理解する。「生きる力」を生み出す「感動体験」について、子どもたちが自然環境の豊かな中ではぐくまれることにを知る。同時に野外環境の消えゆく今日的現状についても理解し、個人で努力できる環境保護について考え、実践できる能力を身につける。

評価方法その他

授業に出席し考え、発言することを重要視します。授業の中で何回かのレポートの提出を求めます。評価は平常点(50%)、レポート点(50%)ととし、授業への積極的参加を望みます。

週　テーマ・授業目標等

1. 授業*ガイダンス*
2. 子どもの遊びと成長
3. 子どもの外遊びと環境
4. 野外環境と野外教育
5. 野外教育と環境教育
6. 環境教育と冒険教育
7. 野外教育の実践例から学ぶⅠ(日本の場合)
8. 野外教育の実践例から学ぶⅡ(アメリカからの報告)
9. 野外教育と安全教育
10. 野外教育と指導者
11. 野外環境を用いたプログラムの企画Ⅰ(短期野外教育プログラムを考える)
12. 野外環境を用いたプログラムの企画Ⅱ(長期の野外教育プログラムを考える)
13. アメリカの野外教育に学ぶ
14. 日本型野外環境と子どもの関わり
15. まとめ
16. テスト

使用教科書名

NO. G04068001　児童とことば

和田　美香

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

児童期の子どもの言葉の発達を理解し、その時期の言語生活を豊かにするための環境について考える。また、幼児期からの繋がりを意識した上で、小学校以降の強化の学習をしていくための基礎としての言葉についても考える。「言葉による思考の深まり」「言葉と人間関係」などのテーマごとに教材研究を行い、理解を深めていく。

学習目標・到達目標

児童期の子どもの言葉について理解を深め、
具体的な実践活動ができる力をつける。

評価方法その他

平常点(50%)、定期試験(50%)
(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等

1. 言葉の力の基礎、基本について
2. 児童期の子どもの言葉の発達(ディスコース構造の発達)
3. 児童期の子どもの言葉の発達(読み書きの発達)
4. 言葉による思考の深まり1(リーフレット作成の実践活動から)
5. 言葉による思考の深まり2(説明書作成の実践活動から)
6. 言葉による表現活動1(帯づくりの活動から)
7. 言葉による表現活動2(紹介カード作りの実践活動から)
8. 物語を味わう1(一人一人の感じ方の違いを感じる)
9. 物語を味わう2(ポップを作る)
10. 言葉と人間関係(おわかれの手紙)
11. 伝え方の効果について(バタフライマップ)
12. 言葉とイメージ(絵文字)
13. 評論文を読む
14. ブックトーク
15. 小学校教育の中の読書
16. 定期試験

使用教科書名

『のはらうた Ⅰ』工藤直子　童話屋
『問いのある言語活動の展開』香月正登(編著)　明治図書

NO. G04069001　児童と音楽A

山原　麻紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本授業の目的は、保育者として子どもの様々な音楽的な表現を受け止め、育むために必要な知識や技術の基礎を身につけることである。前期は、まずリズム・音階・和音などの楽典に関する学習を中心に行う。また、子どもの歌の歌唱、伴奏法、器楽アンサンブル、編曲や創作など、保育の現場で必要となる技術を体験しながら身につける。さらに手や声など自らの身体を柔軟に使った音楽表現や、身のまわりのものを用いた音楽活動を楽しみながら、音楽表現の様々な可能性を実感する。続いて後期は、楽譜の読み方や音楽理論について随時復習しながら、各自のレベルに応じたピアノ曲に取り組み、ピアノ演奏の基本的な技術を身につける。また、子どもの歌の伴奏や、

学習目標・到達目標

音楽理論の基礎的知識の習得と、音楽表現への応用を目指す。
具体的には、リズム・音階・和声などの基礎を学び、簡単な楽譜をスムーズに読んだり、演奏したりできるようになることを目指す。また、保育の現場で必要となる弾き歌いの基本的技術の習得を目指す。

評価方法その他

出席40%、試験40%、参加態度および授業内容に関連した課題20%で評価する

週　テーマ・授業目標等

前期1 オリエンテーション ＋ 五線と鍵盤
前期2 リズムと拍子(1)リズムを読んでみよう
前期3 リズムと拍子(2)ボディパーカッションで遊ぼう
前期4 音階と調(1)わらべうたや民謡などの音階
前期5 音階と調(2)長音階と短音階
前期6 和音と伴奏(1)主要三和音
前期7 和音と伴奏(2)いろいろな伴奏パターン
前期8 ピアノ弾き歌い基礎(1)
前期9 歌唱の基礎(1)
前期10 ピアノ弾き歌い基礎(2)
前期11 歌唱の基礎(2)
前期12 ピアノ弾き歌い基礎(3)
前期13 歌唱の基礎(3)
前期14 弾き歌い課題曲(1)
前期15 弾き歌い課題曲(2)
前期16 筆記試験
後期1 オリエンテーション
後期2 弾き歌い曲(ピアノ)①
後期3 弾き歌い曲(ピアノ)②
後期4 弾き歌い曲(歌唱)①
後期5 弾き歌い曲(ピアノ)③
後期6 弾き歌い曲(ピアノ)④
後期7 弾き歌い曲(歌唱)②
後期8 弾き歌い曲(ピアノ)⑤

使用教科書名

島田和昭・高倉秋子 編(1998)『うたってひいて童謡ぴっこりーの』共同音楽出版社

NO. G04070001　児童と音楽B

山原　麻紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

保育の現場で、音楽活動を充実させ、子どもとともに音楽を楽しむための応用力を身につけることを目標とする。
授業は、主にピアノ・弾き歌いの実技レッスン（個人別）を行い、必要に応じて随時、音楽理論その他に関する復習を行う。

学習目標・到達目標

保育者として必要な弾き歌いの技能の向上と、レパートリーの充実を目指す。

評価方法その他

出席・授業への参加態度50%、発表内容50%で評価する

週　テーマ・授業目標等

1　オリエンテーション(課題曲決め)
2　弾き歌い曲(ピアノ)①
3　弾き歌い曲(ピアノ)②
4　弾き歌い曲(歌唱)①
5　弾き歌い曲(ピアノ)③
6　弾き歌い曲(ピアノ)④
7　弾き歌い曲(歌唱)②
8　弾き歌い曲(ピアノ)⑤
9　弾き歌い曲(ピアノ)⑥
10　弾き歌い曲(歌唱)③
11　弾き歌い曲(ピアノ)⑦
12　弾き歌い曲(ピアノ)⑧
13　弾き歌い曲(歌唱)④
14　弾き歌い曲(ピアノ)⑨
15　弾き歌い曲(ピアノ)⑩
16　弾き歌い曲　発表

使用教科書名

NO. G04071001　児童と身体表現

荒金　幸子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

子どもが身体やその動きを通して表現する活動に気づき、その指導方法について学ぶ。子どものイメージ・感性・意欲を育てる為の運動遊びや身体表現を楽しむ為の技術・環境づくりの方法について、また児童の福祉増進を目的とした運動遊び等の展開方法、野外活動を広く展開する為の指導の基本・要点を理解する。　子どもたちが生き生きとした生活を送れるよう、運動遊びの教育的価値を語れるよう、表現の楽しさを共有しながら、自らの身体表現力向上にむけても十分動きを楽しむことが期待される。
履修条件：上手・下手を気にせず、子どもの心でリズムにのって楽しくからだを動か

学習目標・到達目標

・自ら動きを楽しむことができるように。
・子どもにとっての身体表現の意義を理解できる。
・いろいろな表現を体験し、子ども達にあった工夫や指導ができるように。

評価方法その他

出席状況80%以上を評価の対象とします。
授業の参加態度(積極性・協調性・安全性)70%、提出物30%とし総合的に評価します。

週　テーマ・授業目標等

1、親子で楽しむ体力・運動能力チェック／コミュニケーション遊び
2、アクティブコミュニケーション(リズムにのって動いてみよう)
3、アクティブコミュニケージョン(みんなで一緒に1.2.3.)
4、リズム体操　基礎的な技術の習得～展開(動きに慣れよう)
5、リズム体操　基礎的な技術の習得～展開(大きく動こう)
6、リズム体操　基礎的な技術の習得～展開(動きを確認しよう)
7、身近にある用具をいかして動いてみよう
8、縄跳びを工夫しよう
9、ボール遊びを工夫しよう
10、運動会作品の紹介
11、運動会作品にチャレンジ
12、運動会作品を工夫してみよう
13、運動会作品を見て楽しもう
14、実践～指導法について(言葉、動き、リズム)
15、まとめ:笑顔の素敵な先生を目指して

使用教科書名

必要に応じて配布します。

NO. G04072001　児童と造形（ＰＡ）

立川　泰史

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

子どもの遊びや物語から広がる造形表現の特色や意味について、具体的な題材の事例を通して体験的に学ぶ。
クレヨン・絵の具・粘土・自然材料、ハサミ・のりなど、さまざまな材料や用具に触れる実技演習を通して、発達にそった造形活動の楽しさを知り、それらとの出会い方、指導の内容や方法を理解していく。
造形遊びや場所づくり、体全体でかかわる表現や伝える表現などを体験しながら、表現するからだやことばの生かし方を考える。
保育環境の装飾や掲示物について活用場面を設定し、伝えたいことや美しさを考えた

学習目標・到達目標

幼児の豊かな造形活動を支えるために必要な造形表現の基礎的知識と基本的技能を習得する。
幼児の心身の発達に伴う造形表現の特徴や意味、変容と支援方法を理解する。
伝わりやすく美しい壁面・環境装飾について、表し方の知識や技法を習得する。
グループで創作物語による人形劇をつくることを通して、保育場面での活用方法や意義を理解する。

評価方法その他

平常点20%・提出物40%・小論レポート40%
(平常点は、授業での取り組み方、グループ活動での積極性などで、総合的に判断します。)

週　テーマ・授業目標等

1. 子どもの造形表現と保育の意義
2.「形や色」とふれる出会い
3.「描画材と用具」にふれる出会い
4.「身近な材料」にふれる出会い
5. 子どもの育ちと造形表現
6. さまざまな表し方と活用(1)
7. さまざまな表し方と活用(2)
8. 季節を感じる表現と壁面装飾
9. 遊びから生まれる造形
10. 人とつながる造形表現
11. からだで生みだす造形
12. かたまりから生まれる造形
13. 語りつがれるおはなしづくり(1)
14. 語りつがれるおはなしづくり(2)
15. おはなし発表会とまとめ

使用教科書名

使用しません(適宜、授業にて資料を配布)

NO. G04073001　保育表現技術

桜井　郁子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
・「情報とは何か？表現とは何か？」を考える。
・情報の読み取り方、伝え方の学習。
・情報伝達能力とコミュニケーション能力開発。
・独自な発想を大切にし、文章を作る。
・児童文学を読み深い読解力を開発する。

学習目標・到達目標
・人前で「楽しくお話できる人」になること。
・マイクを使って自分の情報をみんなに伝達。
・発声練習で「良く通る声」を作る。
・子どもたちに喜ばれる朗読のコツを習得。
・オリジナルの童話が書ける。

評価方法その他
・試験は行わない。
・成績基準①授業にどれだけ集中したか？
・同②仲間と協力し積極的に課題に取り組んだか？
・同③独創的な発想でモノづくりが出来たか？

週　テーマ・授業目標等
1. 情報伝達技術1　印象的な表現で自己紹介
2. 情報伝達技術2　言葉を使わず伝達　多様性の体験
3. 情報伝達技術3　自己体験を文章化して発表
4. 情報伝達技術4　他者の体験を理解し評価する
5. 読み聞かせ基礎1　発声・滑舌訓練
6. 読み聞かせ基礎2　朗読技術習得
7. 読み聞かせ基礎3　聴衆を巻き込む朗読技術取得
8. 表現技術1　グループで朗読劇発表　構想と推敲
9. 表現技術2　グループで朗読劇発表　上演と評価
10. 保育教材研究1　絵画をもとに創作童話をつくる
11. 保育教材研究2　各自の創作童話を発表し評価
12. 演出技術1　グループで創作朗読劇をつくる
13. 演出技術2　創作朗読劇　脚本演出の工夫
14. 演出技術3　創作朗読劇　情報機器の演出的利用
15. 情報伝達の成果発表　インタビューと情報処理技術

使用教科書名
随時配付

NO. G04074001　英語アクティビティ

畝部　典子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
英語圏の伝承童謡であるマザーグースの歌を含む英語の歌を実際に歌って覚える。同時に歌に伴うあそびやゲームを覚え、子どもたちに教えられるレベルをめざす。また、この授業では、KVA祭で「英語であそぼう」というアクティビティに参加することが単位取得の条件となる。

学習目標・到達目標
英語圏の伝承童謡であるマザーグースの歌を含む英語の歌とゲームを覚え、子どもたちに教えられるレベルをめざす。

評価方法その他
平常点（KVA祭への参加を含む）50％、試験50％で評価する。平常点は授業への参加態度、KVA祭への参加態度などから総合的に判断する。

週　テーマ・授業目標等
1. 授業の受け方、KVA祭への参加について、マザーグースとは
2. マザーグースの歌1（プリント）
3. マザーグースの歌2（プリント）
4. マザーグースの歌3（プリント）
5 KVA祭「英語であそぼう」練習
6. KVA祭「英語であそぼう」練習
7. KVA祭「英語であそぼう」発表
8. 動物、食べ物＆飲み物の歌
9. 街のなか、洋服、からだの歌
10. アルファベット、数字、気持ちを表現する歌
11. 家族・友だち、自然・天気の歌
12. 新学期、川・海（夏）の歌
13. ハローウィーン、クリスマスの歌1
14. クリスマスの歌2
15. バレンタインデー、イースターの歌
16. 試験

使用教科書名
アルクキッズ英語編集部（2005）『英語の歌＆アクティビティ集』アルク

NO. G04075001　児童と外国語A

畝部　典子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
本授業では、小学校での外国語活動の教育内容、言語習得理論と英語教授法、英語音声の知識、クラスルームイングリッシュ、共通教材Hi! Friendsの使い方、外国語活動指導案の作成など、小学校で児童に英語を教えるための知識について学習する。また、自分で作った指導案について発表する。

学習目標・到達目標
小学校で実施される外国語活動（英語）の進め方について学び、自信を持って英語の指導ができるようになることを目指す。

評価方法その他
平常点50％、試験50％で評価する。平常点は授業への参加態度を含め、総合的に判断する。

週　テーマ・授業目標等
1. 小学校の外国語活動の実際
2. 小学校の外国語活動の目標と役割
3. 言語習得理論、英語教授法
4. 英語音声（1）
5. 英語音声（2）
6. クラルルームイングリッシュ（1）
7. クラスルームイングリッシュ（2）
8. Hi! Friendsの使い方
9. 小学校外国語活動指導案（1）
10. 小学校外国語活動指導案（2）
11. 小学校外国語活動指導案（3）
12. 指導案発表（1）
13. 指導案発表（2）
14. 外国語活動で使えるゲーム（1）
15. 外国語活動で使えるゲーム（2）
16. 試験

使用教科書名
岡秀夫、金森強（2012）『小学校外国語活動の進め方ー「ことばの教育」としてー』成美堂

NO. G04076001　児童と外国語B

松野　妙子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
「児童と外国語A」をすでに受講した人も、まだ受講していない人も対象に、英語教育を実際に行うための考え方や技術について授業をします。
外国語学習と異文化理解の根底に位置づけられる、他者を理解する心（KVAのVにあたる）を育み、外国語と異文化についての知識を蓄積し（KVAのKにあたる）、外国語を操る能力を向上させる（KVAのAにあたる）ことが、教育目的です。

学習目標・到達目標
学習目標は次の二つです。
1. 子どもたちを対象とする外国語教育の意味について理解を深める。
2. 子どもに英語を指導する際の、英語を使った基本的な指示の仕方を身につけ、英語の歌やゲーム、紙芝居・絵本や人形劇など子どもの興味を呼び起こすような道具立てについて駆使できるように、技を磨く。

評価方法その他
リポート（50％）と平常点（50％）による評価。平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断します。

週　テーマ・授業目標等
1. 児童英語教育について―アルファベットと音声についての基礎知識
2. 実際に授業を始めるにあたって
3. 英語での指示の与え方
4. 指導を行うのに必要な英語表現
5. ALT（Assistant Language Teachers）とのコミュニケーションに必要な英語表現
6. ゲームを使って指導するのに必要な英語表現
7. からだの動きを伴う指導法に必要な英語表現
8. 作業（描く・色を塗る・作図する）を伴う指導法に必要な英語表現
9. 行事に関する英語表現
10. 学校生活一般に関する英語表現
11. 遊びに関する英語表現
12. スポーツに関する英語表現
13. 身近な生き物に関する英語表現
14. 英語の歌の指導
15. 日常生活に関する英語表現
16. リポート提出

使用教科書名
『子どもに英語を教えるための教室英語（Bright and Early―Classroom English for Teachers of Children）』カレイラ 松崎 順子 著（南雲堂）。その他は、授業時にプリントで配布。

NO. G04077001　児童と文学

石崎　公子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

幼児期から学童期にある子どもを主な対象とする児童文学作品を取り上げ、その内容、意義について考究する。絵本、童謡、童話、小説などを子どもの要求や発達に即した表現という観点から検証すると共に、文学作品とのかかわりの中で、子どもに何が育っていくのかについて明らかにしてゆきたい。

また、小学校児童向けの童話に関しては、国語教材となっている作品を選び、詳細な読み取りを通して教材研究を行う。

学習目標・到達目標

保育者あるいは小学校教諭として必要な童話や絵本についての専門知識を習得し、子どもへの指導力を身につける。

評価方法その他

期末試験70%、課題15%、学習態度および出席状況15%で総合的に評価する。

週　テーマ・授業目標等

1.導入　子どもの発達と児童文学
2.絵本　ファーストブック
3.絵本　ファーストブックから物語絵本へ
4.絵本　日本の物語絵本　1歳から3歳まで
5.絵本　日本の物語絵本　3歳から5歳
6.絵本　外国の物語絵本
7.絵本　外国の物語絵本
8.幼年童話『いやいやえん』
9.幼年童話『いやいやえん』
10.小学校低学年を対象にした童話『くまの子ウーフ』
11.国語教材『くまの子ウーフ』
12.高学年を対象とした児童文学作品『ごんぎつね』
13.国語教材『ごんぎつね』
14.国語教材『ごんぎつね』
15.まとめ
16.期末試験

使用教科書名

全体に膨大な数のテキストを扱うので、基本的にプリントを使用する。絵本については、複数冊を用意し回覧する。

NO. G04080001　相談援助（1クラス）

西口　守

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

社会福祉の専門援助技術の基本的な理論や方法を演習を通して学習する。また、援助の方法や技術を知識として理解するだけでなく、援助の展開過程をより深く理解するために、具体的な事例検討等を通して学生自身が主体的に考え参加できるようにすすめる。

学習目標・到達目標

保育実践で必要な社会福祉援助技術の総論と各論を理解する。

評価方法その他

出席数、授業態度及びレポート期末試験の総合評価。
割合は平常点10%　レポート30%　期末試験　60%
平常点：出席や授業態度、予習復習の状況の他、井上先生と合議し評価する

週　テーマ・授業目標等

1、オリエンテーション
2、自己理解（自己紹介）
3、人を援助することとは
4、ソーシャルワーカーの価値と倫理
5、援助関係形成の基本的態度
6、アセスメント
7、ケアマネジメント
8、相談面接の展開過程
9、面接技術
10、インテーク面接
11、事例検討①
12、事例検討②
13、事例検討③
14、事例検討④
15、まとめ
16、試験

使用教科書名

なし

NO. G04081001　保育相談支援（1クラス）

柳瀬　洋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

複雑化している日本の今日の子育てに関する諸問題保育相談支援の意義と原則、及び保護者支援の基本について理解する。また支援の実際を学び、その内容や方法を理解するとともに、保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際についての理解を深める。

学習目標・到達目標

・子育て中の保護者や子どもが抱える諸問題について知り、多様化する保育現場に求められるニーズについて考える。
・保育所、児童養護施設等、さまざまな現場で行われている保育相談の取り組みについて学ぶ。
・保育相談支援における基本的な姿勢や技法を身につけ、地域における子育て家庭を支える地域支援ネットワークについて知り、事例を通し、単に問題解決にとどまらない、保護者も子どもも「共に

評価方法その他

平常点（授業への参加状況・討論への参加などで総合的に判断）40%、授業内に出される課題30%、ミニテスト30%により総合的に評価

週　テーマ・授業目標等

1.保育相談支援とは～保育相談支援の目指すもの
2.現代日本の子育てに関する問題
3.保育現場の気になる子どもとその家族
4.保護者と家族に対する支援
5.保育相談に求められる基本的な姿勢と技法
6.事例を通して学ぶ保育相談①～発達の気になる子どもとその家族への支援
7.地域におけるさまざまな子育て支援の実際～地域子育て支援ネットワーク
8.園における保育相談～保育者の果たす役割とは
9.「保育相談」の実際～ロールプレイ体験
10.事例を通して学ぶ保育相談②～養育に課題を抱える家庭への支援
11.事例を通して学ぶ保育相談③～気になる保護者への対応
12.施設における保育相談支援①～児童福祉施設の果たす役割と現状
13.施設における保育相談支援②～社会的養護施設の子どもたちへの支援
14.保育者の成長と学び
15.まとめ

使用教科書名

NO. G04082001　家庭支援論

新開　よしみ

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現代において社会的な子育て支援が必要となった背景、家族を取りまく社会状況、子育て支援体制の現状をふまえ、家庭支援の実際や関係機関との連携のあり方について事例を通して具体的に考える。前半は，保育の場における保護者支援や子育て支援の実際について学ぶ。後半は、障害がある子どもとその家族の生活についての理解を深める。家族（とくの母親）が子どもの誕生から成長に伴い，どのような生活問題に直面することになるのかを考えていくことにより，家庭支援のあり方について学ぶ。

学習目標・到達目標

●保育の場に求められる家庭支援のあり方について理解する
●地域子育て支援の具体的方法について理解する
●家庭支援に必要な知識と技法を知る
●障害のある子どもと家族について理解する

評価方法その他

平常点（提出物を含む）20%・レポート80%の割合で評価する。

週　テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション～家庭支援の基礎知識～
2. 保育における家庭支援の実際Ⅰ～保護者支援における援助者の態度と技法～
3. 保育における家庭支援の実際Ⅱ～地域子育て支援のあり方～
4. 保育における家庭支援の実際Ⅲ～実習園（ボランティア園）の子育て支援の実態を知る～
5. 保育における家庭支援の実際Ⅳ～ジェノグラムとエコマップの活用～
6. 保育における家庭支援の実際Ⅴ～リスクとアセットから子ども虐待事例を考える～
7. 前半のまとめ（小テスト）
8. 家族援助のキーワード
9. 子育ての悩みと家族支援
10. 子どもの障害を知らされる・理解する（母親が体験する出産と障害の理解）
11. 自閉症の障害特性・幼児期
12. 障害児福祉制度
13. 特別支援学校と障害
14. 子どもの障害をオープンにする・分かってもらう（きょうだいとの関係）
15. 子育て家族を取り巻く状況と家庭支援のあり方

使用教科書名

加藤邦子・浜口順子編著「子どもと地域と社会をつなぐ 家庭支援論」福村出版

NO. G04084001　家庭科教育

山本　紀久子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
小学校家庭科が果たす役割や家庭科教育の特徴について知るとともに、児童の実態を踏まえた家庭科学習のあり方を具体的な教材、教材分析、実習的活動の体験、学習指導案の作成、評価問題の作成等を通して行う。

学習目標・到達目標
小学校家庭科の教育課程における位置付けや意義、家庭科授業の今日的課題、目標・評価等について学ぶとともに、教材の考え方や教材作成能力を身に付ける。さらに、学習指導計画を構想し、家庭科授業デザイン力と実践的指導に
必要な資質を身に付ける。

評価方法その他
平常点40％（授業への参加状況、討論への参加等で総合的に判断する）
平常の提出物30％（学習指導案、評価問題、玉結び・玉止め、ボタン付け、織物や編み物など）
最終レポート30％

週　テーマ・授業目標等
1. オリエンテーション　講義の概要　子どもの発達と家庭科
　家庭科のイメージを5キーワードで表す。
　小学校家庭科で学習した教材名を振り返る。
2. 家庭科教育の変遷と今日的意義
　今、必要とされる家庭科とは
3. 小学校家庭科における目標と内容
　学習指導要領のポイントと配慮
　（言語活動の充実　実習における安全への配慮など）
4. 家庭科の授業方法
5. 特色ある家庭科授業実践の分析
6. 評価とは　評価の種類　相互評価　自己評価
7. 教材研究と授業展開　ボタン付けの目標　教材分析　ボタンの種類分け
8. ボタン付け　教材選定　学習指導案の作成
9. 評価問題の作成　相互評価　自己評価
10.「衣食住生活」領域内容の教材研究と指導上の留意点
　エプロンのラベルの作成　布の組織と教材
11. ご飯とみそ汁　表示　食の安全　卵料理
12. より快適な住まい　自分の住まいを見直す　住まいの安全
13.「家族の生活と家庭」および「消費生活と環境」の内容と指導上の留意点
　現在の消費生活と消費者の行動　権利と責任　意思決定
14. 環境教育・消費者教育から家庭科授業を考える
15. まとめ

使用教科書名
小学校家庭科教科書「新しい家庭5・6」東京書籍

NO. G04100101　多変量統計入門

新海　公昭

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
現代は、扱うデータの量が多く、いかに効率的な処理をして分析するかが求められています。この授業では、データの種類が多い（多変量）場合の統計的手法を学びます。具体的には、予測・制御のための重回帰分析と判別分析、データ量の総合化のための主成分分析、共通因子を探す因子分析、データ分類のためのクラスター分析の基本概念を理解し、応用事例に適用できることを目標とします。
実際の処理・分析に当たってはパソコンの統計ソフトを用います。

学習目標・到達目標
単回帰分析、重回帰分析、確率変数と確率分布、重要な確率分布（正規分布・$\chi 2$乗分布・t分布・F分布）、仮説検定（p値とt値）、分散分析、主成分分析、因子分析、クラスター分析

評価方法その他
中間テスト(30点)、期末テスト(30点)、課題点(40点)

週　テーマ・授業目標等
第1週　多変量解析手法の紹介
第2週　平均値、分散、標準偏差、標準化、共分散、相関係数
第3週　単回帰分析
第4週　重回帰分析
第5週　重要な確率分布
第6週　仮説検定1
第7週　仮説検定2
第8週　中間テスト
第9週　分散分析1
第10週　分散分析2
第11週　主成分分析（概念説明）
第12週　主成分分析（応用事例の紹介）
第13週　因子分析（概念説明）
第14週　因子分析（応用事例の紹介）
第15週　クラスター分析（概念説明と応用事例の紹介）
第16週　期末テスト

使用教科書名
特になし。毎回プリントを配布する。

NO. G04100201　青年心理学

木村　文香

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
青年期は自我を確立していく大切な時期である。本講では、青年期が生涯発達の中で大切な時期であることを理解した上で、青年自身の問題と社会の問題がどのように関わっているのかについて考え、問題意識を高め、専門的な視点から理解していくことを目的とする。

学習目標・到達目標
各テーマを基点としながら各概念を正確に把握し、発達心理学、臨床心理学、社会心理学的な見識をもとに、現代の青年の心の成長や彼らを取り巻く社会的状況を科学的にとらえ、自分なりの考えをまとめる力を身につけることを目標とする。

評価方法その他
最終試験と授業への参加意欲、態度をもとに総合評価を行う。
（最終試験70％、授業への参加態度30％）

週　テーマ・授業目標等
1.青年心理学の理論1――青年期を学ぶ意義――
2.青年心理学の理論2――発達段階における青年期――
3.青年心理学の理論3――発達課題――
4.青年心理学の理論4――アイデンティティと自己――
5.青年心理学の理論5――自我の発達と機能――
6.青年心理学の理論6――対人関係の発達――
7.青年期をとりまく時代背景，世代性
8.現代社会の青年
9.青年期の問題解決――心理療法、カウンセリング入門――
10.青年期の問題――青年期とストレス――
11.青年期の問題2――不登校、ひきこもり――
12.青年期の問題3――摂食障害――
13.青年期の問題4――発達障害――
14.青年期の問題5――依存症，嗜癖――
15.総括

使用教科書名
特に指定しない。毎回の授業開始時にレジュメを配布する。

NO. G04100401　心理学実験Ⅰ

加地　雄一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
心理実験・調査を企画し実験者・被験者として体験する。
データの収集、データの処理、t検定を中心とした推計学的検定、心理学レポート作成、プレゼンテーションなどの一連の作業を通じて、心理学実験の基礎的知識と実践力を習得する。受講生は課題ごとにレポートの提出が義務づけられ、
レポートは添削返却するのでスキルアップが出来る。内容は、心理統計法１、反応時間実験、両側性転移実験、錯視実験、生理心理実験、記憶実験、実験全体の総括で構成される。
プレゼンテーションのスキルも学ぶ。心理学a、bおよび統計学入門，基礎統計学を履修[illegible]

学習目標・到達目標
新たな知識・情報を学習し日常生活場面への活用も考える。

評価方法その他
実験レポート80％、平常点（出席・コメント等の参加度）20％

週　テーマ・授業目標等
第1週心理学実験とは；反応時間実験、実験・調査のデザインとは、データの収集と分析法、レポートの作り方、その１
第2週心理学実験とは、実験・調査のデザインとは、データの収集と分析法、レポートの作り方、その２
第3週心理統計における相関分析、t検定、カイ自乗検定等を学ぶ、その1
第4週心理統計における相関分析、t検定、カイ自乗検定等を学ぶ、その2
第5週反応時間実験を行う。パソコンを使った心理実験としての技能も学ぶ
第6週鏡映描写実験により学習のプロセスを実験する、その1
第7週鏡映描写実験により学習のプロセスを実験する、その2
第8週錯視の発生メカニズムについて実験を通じて理解する、その1
第9週錯視の発生メカニズムについて実験を通じて理解する、その2
第10週中間の総括
第11週感情の変化と自律神経の機能を実験を通じ理解する、その1
第12週感情の変化と自律神経の機能を実験を通じ理解する、その2
第13週系列位置効果実験により記憶の情報処理過程を実験する、その1
第14週系列位置効果実験により記憶の情報処理過程を実験する、その2
第15週全体についての論議

使用教科書名
教材を毎回の授業に先立ちウェブサイトから提供します。
http://ichiichi3.web.fc2.com/index.htm

NO. G04100501　心理学実験Ⅱ

加地　雄一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「心理学実験Ⅰ」に引き続き心理実験・調査を自ら実験者・被験者として体験し、心理学の実験的な研究方法を習得する。ここでは、より高度な統計学分析を学習する。実験の進行状況によっては時間内に目的を達成できない場合もありうる。受講生は課題ごとにレポートの提出が義務づけられ、レポートは添削返却するのでスキルアップが出来る。内容は、心理統計法、視覚情報処理による認知実験、認知的葛藤の測定実験、SD法によるイメージ実験、家庭用ロボットを使った行動観察・動作分析実験、実験全体の総括で構成される。プレゼンテーション実習も行う。履修条件として「心理学実験 Ⅰ」を単位修得していること。

学習目標・到達目標

新たな知識・情報を学習し日常生活場面への活用も考える。

評価方法その他

実験レポート80%、平常点（出席・コメント等の参加度）20%

週　テーマ・授業目標等

第1週 ガイダンス、実験・調査の方法、データの分析とまとめ方、レポートの形式と内容について
第2週　心理統計における分散分析、多変量分析について学ぶ、その1
第3週　心理統計における分散分析、多変量分析について学ぶ、その2
第4週　視覚情報処理による認知実験
第5週　イメージなどの評定尺度構成を実習し因子分析法を習得する　その1
第6週　イメージなどの評定尺度構成を実習し因子分析法を習得する　その2
第7週　イメージなどの評定尺度構成を実習し因子分析法を習得する　その3
第8週　認知的葛藤の測定実験を行う　その1
第9週　認知的葛藤の測定実験を行う　その2
第10週 行動のコーディングと分析法を実験を通じて学習する　その1
第11週 行動のコーディングと分析法を実験を通じて学習する　その2
第12週 アンケート法の基礎と実践を行いデータの分析と解釈法を学ぶ　その1
第13週 アンケート法の基礎と実践を行いデータの分析と解釈法を学ぶ　その2
第14週 アンケート法の基礎と実践を行いデータの分析と解釈法を学ぶ　その3
第15週 全体についての論議

使用教科書名

教材を毎回の授業に先立ちウェブサイトから提供します。
http://ichiichi3.web.fc2.com/index.htm

NO. G04100601　家庭教育論

柳瀬　洋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現代社会の変容の中で、近年、家庭が果たす役割や機能もまた変化してきている。家庭とは何か、人が成長してゆく過程に沿って家庭と家庭をめぐる諸問題を見つめるとともに、保育園・幼稚園・学校・地域社会等、社会全体と家庭とのかかわりについても目を向け、今後の家庭教育のあり方について探究する。

学習目標・到達目標

・家庭と家庭教育をめぐる諸問題について現代社会全体との関連からとらえる。
・人が成長していく過程に沿って、家庭教育のあり方について考えていく。

評価方法その他

平常点（授業への参加状況・討論への参加など）30%、レポート20%、試験50%により総合的に評価

週　テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション・家庭とは何か
2. 子どもが育つ場としての家庭
（養育者と子どものかかわり方の基本原理）
3. 乳児期と家庭教育
4. 幼児期と家庭教育
5. 学童期・思春期と家庭教育
6. 青年期と家庭教育
7. 家庭教育にみる家族の発達的課題～育てられる者から育てる者へ
8. 現代社会の変容と家庭教育をめぐる諸問題①
9. 現代社会の変容と家庭教育をめぐる諸問題②
10. 現代社会の変容と家庭教育をめぐる諸問題③
11. 家庭教育支援の現状と課題
（家庭・保育所・幼稚園・学校・社会の連携）
12. 海外の家庭教育
13. 今後の家庭教育に求められるもの
14. 事例から考える家庭教育
15. まとめ

使用教科書名

特になし。必要な資料を配布します。

NO. G04100701　家庭経営学概論

上村　協子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

人間が人間らしく生きる拠点が家庭であり、家庭生活を中心とした家族・コミュニティの営みが家政＝家庭経営である。現代社会における家庭経営の課題を、「家族」「消費者」をキーワードに、概説する。特に、親と子、夫と妻など家族を核とする人と人の関係や、仕事や消費といった日々の生活と生命の再生産の営みを中心に現代社会の危機的状況を生活者の視点から見直し、誰もが安心してくらせる、持続可能性のある消費者市民社会につくりかえる方法を、自分の生活設計と重ねながら考える。

学習目標・到達目標

生活者の視点から、誰もが安心してくらせる、持続可能性のある社会につくりかえる方法を考えます。前半は消費者教育を中心にした生活課題解決の方法を社会的に考え、後半は家族の問題について、ワークショップを中心に捉えます。これらの学びを通して、自立した経済生活を営むための基礎的な力を身につけます。

評価方法その他

平常点　　50点（上村分:25点　井上分:25点）
レポート・試験50点（上村分:25点　井上分:25点）

週　テーマ・授業目標等

1.くらしをつくりかえる家庭経営学
2.自立のための意思決定
3.社会人になるための経済学
4.カード社会の歩き方
5.消費者市民社会
6.リスクマネジメント
7.持続可能な消費のための教育
8.「住まう」という観点から家族写真を読む
9. 映像にみる家族　家族構成の観点から
10.映像にみる家族　生活文化継承の観点から
11.映像にみる家族　コミュニティの観点から
12.ワークショップ　家族の風景
13.ワークショップのまとめ
14.育児をめぐる生活時間調査について
15.授業の振り返り
16.試験

使用教科書名

(1)暮らしをつくりかえる生活経営力/朝倉書店/2010
(2)これであなたもひとり立ち　金融広報中央委員会

NO. G04100801　児童学概論

田尻　さやか

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

子どもとは何か。私たちは子どもについてどのように考え、関わっていったらよいか。児童学における基礎的課題（子ども観、子どもの発達等）を、現実の生活と関連して捉え、子どもについての理解をすすめる。また、子どもの問題の解明に向けて、課題を捉え、知識を深め、実践できる力をつける。

学習目標・到達目標

子どもとは、どのような存在なのか、歴史や社会、大人との関係で、変化する関係的存在であることを知る。また、子どもの活動の実態を知り、発達の原理と過程、環境や学校との関係における諸問題と解決の方向についての、基礎的な知識と方法を理解し、現実の生活での実践に役立てることができるようにする。

評価方法その他

平常点(40%)、定期試験(60%)
（平常点は授業への参加状況・小レポート等で総合的に判断する）

週　テーマ・授業目標等

1. 児童学とは
2. 子どもとは何か(1)子ども観
3. 子どもとは何か(2)現代社会と子ども
4. 子どもとは何か(3)発達と臨床
5. 子どもと共に育つ(1)関係的存在としての子ども
6. 子どもと共に育つ(2)子どもとのかかわり方
7. 子どもと共に育つ(3)幼児の集団活動と遊び
8. 子どもと共に育つ(4)児童福祉施設(児童養護施設など)におけるかかわりの実践
9. 子どもと発達(1)乳児期の発達とかかわり方
10. 子どもと発達(2)幼児期の発達とかかわり方
11. 子どもと発達(3)児童期の発達とかかわり方
12. 子どもと発達(4)生涯発達とかかわり方
13. 児童と教育(1)地域で育つ子どもたち
14. 児童と教育(2)人とのかかわりで育つ子どもたち
15. 児童と教育(3)心豊かな子どもたちの育ち
16. テスト

使用教科書名

「共に育つ　一人間探究の児童学一　増補版」宣協社　2015年

NO. G04100901　食科学概論

山﨑　薫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
「食」は心豊かに健康な日常生活を送る上で重要な要素である。「食」を取り巻く環境や現状、変遷を踏まえ、日本国内に限らず、大きくな視野で「食」を捉え、幅広く最新の話題も交えながら総合的に学ぶ。

学習目標・到達目標
「食」に関する事柄を総体的に概略を理解する。

評価方法その他
筆記試験100%

週　テーマ・授業目標等
1. ヒトと食べ物
2. 日本の食文化(1)
3. 日本の食文化(2)
4. 日本の食文化(3)
5. 日本の食文化(4)
6. 世界の食文化(1)
7. 世界の食文化(2)
8. 世界の食文化(3)
9. 食べ物の特性と活用(1)畜肉・乳
10. 食べ物の特性と活用(2)魚介・卵
11. 食べ物の特性と活用(3)穀類
12. 食べ物の特性と活用(4)野菜
13. 食べ物の特性と活用(5)果物
14. 食べ物の特性と活用(6)調味料
15. 食べ物の特性と活用(7)飲料
16. 定期試験

使用教科書名
適宜、資料を配布します。

NO. G04101001　児童福祉論

安藤　洋

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
すべて児童は等しくその生活が保障され、愛護されるべきという児童福祉法の理念と意義を理解する。家庭内の問題・子どもの発達上の問題・生活上の問題など多様な問題から家庭で暮らすことができない児童への施設サービス(児童養護施設、乳児院、母子生活支援施設等)や障害児に対する在宅・施設サービスへの理解を深める。また、すべての児童が健全な発達をするために実施されている子育て支援サービスや、少子化や児童虐待といった課題に対応するための施策について学習する。

学習目標・到達目標
児童福祉の理念と意義、現代社会における児童の成長・発達と生活実態、それらにおける問題点や、児童福祉制度の歴史的社会的背景について理解する。さらに、児童に関する福祉ニーズの捉え方や、現在の児童福祉に関する法律および制度、福祉サービス体系について学ぶ。

評価方法その他
平常点(40%)、定期試験(60%)、平常点は授業への参加状況などで総合的に判断する。

週　テーマ・授業目標等
1　現代社会と児童
人間の成長・発達と児童　家族と児童　社会と児童
2　現代社会と児童福祉(1)
児童福祉理念の発達　概念と範囲　児童の権利
3　現代社会と児童福祉(2)
児童および家庭に関わる問題
4　児童の福祉ニーズ
成長・発達に関わるニーズ　家庭および社会的なニーズ
5　児童の福祉需要の把握方法とその具体的内容
6　児童福祉に関する法の目的、対象及びサービスの体系とその具体的内容(1)
児童福祉法
7　児童福祉に関する法の目的、対象及びサービスの体系とその具体的内容(2)
児童福祉法
8　児童福祉に関する法の目的、対象及びサービスの体系とその具体的内容(3)
母子及び寡婦福祉法　母子保健法　その他関連法規
9　児童に対する保健・医療・福祉サービスの実施体制(1)
児童養護
10　児童に対する保健・医療・福祉サービスの実施体制(2)
障害児
11　児童に対する保健・医療・福祉サービスの実施体制(3)
保育所
12　児童福祉と関連サービス
民間サービスの役割と意義及びその現状
13　児童福祉および関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
組織・専門職・連携のあり方

使用教科書名
特に指定しない

NO. G04101501　自然体験活動演習Ⅰ

金子　和正

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
小学校教育で施行される長期自然体験活動指導者の育成を目的とする。キャンプや自然体験のより多くの経験を積み、実践経験を通して得た知識をもつ指導者の養成を目的とする。様々な条件に臨機応変に対応できる指導者、対象者や環境を考慮した指導者の育成。

学習目標・到達目標
小学校で実施される長期自然体験活動プログラムに、積極的に参加できる能力をもった人材の育成を目的とする。実践体験を積んだ的確な判断ができる指導者の育成を目指す。

評価方法その他
実習のオリエンテーション及び実習への参加をもって単位の認定をする。オリエンテーション50%、実習参加50%

週　テーマ・授業目標等
9月上旬に本学山の家(蓼科)を中心に4泊5日で実施する。

・自然環境に対する考え方

・自然体験活動のとらえ方

・自然体験かつ指導者とは

・自然の中での危機管理と救急法

・子どもと自然体験活動

・生きる力、感動体験

・自然の中で生活する知恵と技術

使用教科書名
特に指定しない。

NO. G04101601　自然体験活動演習Ⅱ

金子　和正

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
自然体験活動演習Ⅰで学んだ知識や技術をさらに充実し、特に冬季の自然体験活動を中心に実施する。雪の中での遊びやゲーム、スキーやスノーボーでの雪山の楽しみ方、さらにテントでの宿泊体験も経験する。自然体験が夏季中心のなかで実施されている現況の中で、冬季の自然体験の素晴らしさを経験していく。

学習目標・到達目標
2015年度から全国の小学校で実施される長期自然体験活動。活動のメインとなるプログラムを積極的に企画・実施でき、またその評価ができるようになることを目的とする。様々な場面で多くの子ども達に楽しみや喜びを与えられ、さらに危機管理能力をも備えた人材の育成を目指す。

評価方法その他
実習への参加をもって評価の対象とする。オリエンテーション50%、実習参加50%

週　テーマ・授業目標等
本学の蓼科高原にある山の家を使用して3泊4日の集中授業を実施する。

雪上での伝承遊びやゲーム、スキー、スノーボード、雪上でのテント泊、キャンプファイヤーや飯ごう炊飯を学ぶ。また寒さに対する防寒方法、危機管理やクライシスマネイジメントについても学習する。

使用教科書名
特に指定しない。

NO. G04101801　初等教育演習A

新海　公昭

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
ボランティア（スクールサポーターや支援スタッフ）、授業研究会、校内研究会など、小学校の現場で体験活動を行うことで生じた疑問や課題に関して継続的に討議する。また自身の興味関心や適正について知る。採用試験（１次試験および２次試験）に対応できる基礎力を養う。

学習目標・到達目標
・小学校の現場で体験活動を行うことで生じた疑問に関して討議できる力を養う。
・自身の興味関心や適正について知る。
・採用試験に対応できる基礎学力を養う。

評価方法その他
講義時に課す課題と定期テスト(50点)＋体験活動報告(30点)＋平常点(20点)

週　テーマ・授業目標等
第1週　体験活動にのぞむにあたっての事前指導(担当:金子和正、新海公昭)
第2週　教員採用試験研究1:算数・数学(担当:新海公昭)
第3週　教員採用試験研究2:算数・数学(担当:新海公昭)
第4週　教員採用試験研究3:算数(担当:新海公昭)
第5週　教員採用試験研究4:英語(担当:畝部典子)
第6週　教員採用試験研究5:社会・教職教養(担当:尾崎利生)
第7週　採用試験対策講義1:教師に求められる力1(担当:佐々木悦子)
第8週　採用試験対策講義2:教師に求められる力2(担当:佐々木悦子)
第9週　採用試験対策講義3:教師に求められる力3(担当:佐々木悦子)
第10週　採用試験対策講義4:教育界の課題や子どもたちの抱える問題1(担当:佐々木悦子)
第11週　採用試験対策講義5:教育界の課題や子どもたちの抱える問題2(担当:佐々木悦子)
第12週　採用試験対策講義6:教育界の課題や子どもたちの抱える問題1(担当:佐々木悦子)
第13週　採用試験対策講義7:教職について1(担当:佐々木悦子)
第14週　採用試験対策講義8:教職について2(担当:佐々木悦子)
第15週　採用試験対策講義9:教職について3(担当:佐々木悦子)
第16週　テストまたはレポート課題

使用教科書名
使用しない。プリントを配布して説明する。

NO. G04101901　初等教育演習B

新海　公昭

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
ボランティア（スクールサポーターや支援スタッフ）、授業研究会、校内研究会など、小学校の現場で体験活動を行うことで生じた疑問や課題に関して継続的に討議する。また自身の興味関心や適正について知る。採用試験（１次試験および２次試験）に対応できる基礎力を養う。

学習目標・到達目標
・小学校の現場で体験活動を行うことで生じた疑問に関して討議できる力を養う。
・自身の興味関心や適正について知る。
・採用試験(1次試験)に対応できる基礎学を養う。
・採用試験(2次試験)に対応できる小論文を書く力、面接試験に対応する力を養う。

評価方法その他
講義時に課すテストまたは課題(レポート等)(50点)＋体験活動報告(30点)＋平常点(20点)

週　テーマ・授業目標等
第1週　体験活動報告と討議1:算数・数学的視点から(担当:新海公昭)
第2週　体験活動報告と討議2:算数・数学的視点から(担当:新海公昭)
第3週　教員採用試験研究1:英語(担当:畝部典子)
第4週　教員採用試験研究2:英語(担当:畝部典子)
第5週　教員採用試験研究3:社会・教職教養(担当:尾崎利生)
第6週　教員採用試験研究4:社会・教職教養(担当:尾崎利生)
第7週　採用試験対策講義1: 自己分析　(自分の性格、資質・能力、考え方の傾向など)(担当:佐々木悦子)
第8週　採用試験対策講義2:教職に活かせる自分の性格や資質・能力(担当:佐々木悦子)
第9週　採用試験対策講義3:理想の教師像と努力したいこと(担当:佐々木悦子)
第10週　採用試験対策講義4:これまでの人生で自分を大きく変えた出来事や体験(担当:佐々木悦子)
第11週　採用試験対策講義5:自己アピール文作成　その1(担当:佐々木悦子)
第12週　採用試験対策講義6:教育に求められている「生きる力」の育成について(担当:佐々木悦子)
第13週　採用試験対策講義7:新しい学力論(担当:佐々木悦子)
第14週　採用試験対策講義8:豊かな心や健やかな体(担当:佐々木悦子)
第15週　採用試験対策講義9:自己アピール文　完成(担当:佐々木悦子)
第16週 テストまたはレポート課題

使用教科書名
使用しない。プリントを配布して説明する。

NO. G04102001　初等教育演習C

新海　公昭

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
ボランティア（スクールサポーターや支援スタッフ）、授業研究会、校内研究会など、小学校の現場で体験活動を行うことで生じた疑問や課題に関して継続的に討議する。また自身の興味関心や適正について知る。採用試験（１次試験および２次試験）に対応できる基礎学力・小論文を書く力・面接試験に対応する力・授業実践指導力を養う。

学習目標・到達目標
・小学校の現場で体験活動を行うことで生じた疑問に関して討議できる力を養う。
・自身の興味関心や適正について知る。
・採用試験(1次試験)に対応できる基礎学を養う。
・採用試験(2次試験)に対応できる小論文を書く力、面接試験に対応する力を養う。
・採用試験(2次試験)に対応できる授業実践指導力を養う。

評価方法その他
講義時に課すテストまたは課題(レポート等)(50点)＋体験活動報告(30点)＋平常点(20点)

週　テーマ・授業目標等
第1週 教員採用試験研究1算数・数学(担当:新海公昭)
第2週 教員採用試験研究2:算数・数学(担当:新海公昭)
第3週 教員採用試験研究3:英語(担当:畝部典子)
第4週 教員採用試験研究4:英語(担当:畝部典子)
第5週 教員採用試験研究5:社会・教職教養(担当:尾崎利生)
第6週 教員採用試験研究6:社会・教職教養(担当:尾崎利生)
第7週　採用試験対策講義1:教育実習で学びたいこと　その1(担当:佐々木悦子)
第8週　採用試験対策講義2:教育実習で学びたいこと　その2(担当:佐々木悦子)
第9週　採用試験対策講義3:小論文と集団協議　教育における様々な課題　その1(担当:佐々木悦子)
第10週　採用試験対策講義4:小論文と集団協議　教育における様々な課題　その2(担当:佐々木悦子)
第11週　採用試験対策講義5:小論文と集団協議　教育における様々な課題　その3(担当:佐々木悦子)
第12週　採用試験対策講義6:小論文と集団協議　教育課題の解決に向けて　その1(担当:佐々木悦子)
第13週　採用試験対策講義7:小論文と集団協議　教育課題の解決に向けて　その2(担当:佐々木悦子)
第14週　採用試験対策講義8:学習指導案の作り方　授業力をつける　その1(担当:佐々木悦子)
第15週　採用試験対策講義9:学習指導案の作り方　授業力をつける　その2(担当:佐々木悦子)
第16週 テストまたはレポート課題

使用教科書名
使用しない。プリントを配布して説明する。

NO. G04102401　児童臨床実習BⅠ

田尻　さやか

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
幼児グループ活動(就園前親子集団活動)の意義と原理を講義や演習を通して理解し、参加者が共に育ちあいながら保育者としての実践力、児童臨床者としての資質を養成する。

学習目標・到達目標
幼児グループ(子どもグループ、親グループ)への参加に向けて、就園前集団活動の意義や運営について理解を深める。特に、個と集団が相即的に発展する過程とリーダーの役割、チームワークを実践的に心理劇などを通して理解する。また、活動環境の設定、準備などを経験し、自ら集団を運営する責任と役割が担えるように研鑽する。

評価方法その他
授業態度、レポートによる総合評価

週　テーマ・授業目標等
1. オリエンテーション
2. 幼児グループの概要の理解
3. 共に育ちあう活動としての幼児グループ―集団の発達を学ぶ
4. 集団における自己・人・ものの関係的発展―かかわり方を学ぶ
5. 親グループの心理劇①
6. 親グループの心理劇②
7. 子どもと遊び①指導者のかかわり方
8. 子どもと遊び②危機場面について考える
9. 子どもと遊び③もの・課題のとらえ方、活かし方
10. 子育て支援活動としての幼児グループ―親との面談から
11. 幼児グループ活動の展開①行事活動などの準備
12. 幼児グループ活動の展開②環境設定
13. 幼児グループ活動の展開③親グループ
14. 幼児グループ活動の展開④子どもグループ
15. まとめ(成果発表会)

使用教科書名
吉川暉美他「子育て・発達支援　―地域に開く大学として共に育つ保育活動から―　第3巻」(2010)東京家政学院大学「児童臨床実習」担当者グループ

NO. G04102501　児童臨床実習BⅡ

山原　麻紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

幼児グループ(就園前親子集団活動)の実習を通して、共に育ちあいながら保育者としての実践力、児童臨床者としての資質を養成する。

学習目標・到達目標

幼児グループ(子どもグループ、親グループ)への参加を通して、個と集団が相即的に発展する過程とリーダーの役割、チームワークを実践的に理解する。活動の計画、活動環境の設定、活動の準備から後片付けまでの一連の活動を経験し、自ら集団を運営する責任と役割が担えるように研鑽する。

評価方法その他

授業態度、レポートによる総合評価

週　テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション、活動準備
2. 幼児グループ　インテーク
3. 幼児グループ活動①(集団での安定、出会い体験)
4. 幼児グループ活動②(集団での自己確立)
5. 幼児グループ活動③(集団における課題の成立)
6. 幼児グループ活動④(集団における課題内容の深化)
7. 幼児グループ活動⑤(集団における課題内容の拡大)
8. 幼児グループ活動⑥(集団における役割の明確化)
9. 幼児グループ活動⑦(集団における役割の展開)
10. 幼児グループ活動⑧(集団における役割の発展)
11. 幼児グループ活動⑨(集団における役割の連携)
12. 幼児グループ活動⑩(集団における場面の明確化)
13. 幼児グループ活動⑪(集団における場面の展開)
14. 幼児グループ活動⑫(集団における場面の統合化)
15. 幼児グループ活動⑬(まとめ)

使用教科書名

吉川暁美他「子育て・発達支援　－地域に開く大学として共に育つ保育活動から―　第3巻」(2010)東京家政学院大学「児童臨床実習」担当者グループ

NO. G04102601　児童臨床実習CⅠ

柳瀬　洋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

学内で実施している乳児とその保護者を対象とした親子参加型のグループ活動実習を通し、現代日本の子育て支援の現状についてその実際を知り、保育者としての実践力、児童臨床者としての資質を養成する。なお、本実習授業は原則として、前期・後期通しての履修とする。

学習目標・到達目標

・乳児の発達について実践を通して学ぶ。
・個々の子どもに寄り添った保育者としてのかかわりについて実践的に学ぶ。
・保護者との交流を通し、現代日本の子育て支援の現状についてその実際を知る。

評価方法その他

平常点(授業への参加状況・討論への参加など)および実習課題への取り組みやレポートなどによる総合評価

週　テーマ・授業目標等

1 オリエンテーション・準備活動
2 子育て支援の現状と乳児グループ活動の基礎理論
3 乳児グループ　インテーク①(初回面談)
4 乳児グループ　インテーク②(初回面談)
5 乳児グループ活動①(集団での安定、出会い体験)
6 乳児グループ活動②(集団での安定)
7 乳児グループ活動③(集団における課題の成立①)
8 乳児グループ活動④(集団における課題の成立②)
9 乳児グループ活動⑤(集団における課題内容の深化)
10 乳児グループ活動⑥(集団における課題内容の拡大)
11 乳児グループ活動⑦(集団における役割の明確化)
12 乳児グループ活動⑧(集団における役割の展開)
13 乳児グループ活動⑨(集団における役割の発展)
14 乳児グループ活動⑩(集団における役割の連携)
15 前期活動の総括

使用教科書名

NO. G04102701　児童臨床実習CⅡ

柳瀬　洋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

学内における、乳児とその保護者を対象とした親子参加型のグループ活動実習。前期活動を踏まえ、個々の課題と取り組み、保育実践力や省察力の向上をはかる。児童臨床実習の活動体験にもとづく集団討議をおこない、児童学研究の方法、論文作成上の諸問題などについても考究する。
なお、本実習授業は原則として、前期・後期通しての履修とする。

学習目標・到達目標

・目の前の乳児ひとりひとりの個性や発達課題を踏まえ、個々に寄り添った対応をおこなう。
・個と集団の相即的発展を意識し、保育者としての役割について実践的に学ぶ。
・子育て支援のあり方について理解を深める。

評価方法その他

平常点(授業への参加状況・討論への参加など)および実習課題への取り組みやレポートなどによる総合評価

週　テーマ・授業目標等

1オリエンテーション
2後期乳児グループ準備活動
3乳児グループ後期インテーク(集団における個の課題の確認)
4乳児グループ活動⑪(集団におけるコーナー活動の展開①)
5乳児グループ活動⑫(集団における状況の発展)
6乳児グループ活動⑬(集団におけるコーナー活動の展開②)
7乳児グループ活動⑭(集団内活動の構造化)
8乳児グループ活動⑮(集団内活動の統合化)
9乳児グループ活動⑯(集団内活動と地域社会の構造化)
10乳児グループ活動⑰(集団内活動と地域社会の連結化)
11乳児グループ活動⑱(集団内活動と地域社会の統合化)
12集団活動体験のまとめ①
13集団活動体験のまとめ②
14集団活動体験による個人研究発表
15まとめ

使用教科書名

NO. G04102801　障害の基礎的理解

土谷　良巳

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

まず障害を捉える枠組みであるICFに関する基礎的な理解及び特別な教育ニーズの概念と関連させて学ぶ。次いで障害者の家族のダイナミックス、その発達及び発達診断、原因、生活における困難と支援、医療福祉との連携について取り上げる。さらに知的障害、肢体不自由、病弱、視覚障害、聴覚障害に関する基礎的な理解を図ってから、障害者の生涯学習についての一般的な理解を深める。

学習目標・到達目標

障害を捉える枠組み、障害の概念、特別な教育ニーズ、障害に関する基礎的な理解、障害児の発達と発達診断及び障害者の生涯学習について知的障害、肢体不自由、病弱、及び視覚障害と聴覚障害を含めて総合的・基礎的理解を図る。

評価方法その他

定期試験(60%)、授業への貢献(20%)、小テスト(20%)による総合評価とする。

週　テーマ・授業目標等

第1回:ガイダンス及び障害児者の概念規定
第2回:障害を捉える枠組み(1):ICFの概念
第3回:障害を捉える枠組み(2):学習の困難と特別な教育ニーズ
第4回:障害の基礎的理解(1)ICFにおける障害の理解
第5回:障害の基礎的理解(2)障害の受容と家族のダイナミックス
第6回:障害の基礎的理解(3)障害の原因と発達診断
第7回:障害の基礎的理解(4)生活における困難と支援
第8回:障害の基礎的理解(5)医療・福祉との連携
第9回:発達とその困難(1)運動発達とその障害(肢体不自由)及び教育ニーズ
第10回:発達とその困難(2)認知発達とその障害(知的障害)及び教育ニーズ-
第11回:発達とその困難(3)心身の健康とその障害(病弱)及び教育ニーズ-
第12回:発達とその困難(4)視覚の発達とその障害(盲、弱視)及び教育ニーズ-
第13回:発達とその困難(5)聴覚の発達とその障害(ろう、難聴)及び教育ニーズ-
第14回:障害者の発達と生涯学習
第15回:まとめ
定期試験

使用教科書名

使用しない

NO. G04103001　特別支援教育総論

杉野　学

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

近年、知的障害特別支援学校における障害の重度・重複化、多様化の傾向が著しい中、幼児児童一人一人の疾病や障害の状態及び学習特性に応じた教育内容・方法の工夫が求められている。そのためには、知的障害特別支援学校の教育課程編成に関する法令や教育課程編成・実施・評価について理解を深め確かな知識を身に付けることが重要である。知的障害教育の教育課程を理解するために教育課程の基本的な教育内容・方法について、教育課程編成・実施・評価に関する具体的な資料なども参考にしながら概説する。

学習目標・到達目標

知的障害教育の歴史、知的障害特別支援学校の教育課程編成に関する法令、学習指導要領等への理解を深め基礎的な知識を身につけるとともに、知的障害教育における教育課程編成・実施・評価への関心と理解を深める。

評価方法その他

定期試験50%、平常点50%とし、授業回数全体にわたり総合的に評価する。平常点は、授業への出席状況、討論への参加、課題に対するレポートの取り組み等で総合的に判断する。

週　テーマ・授業目標等

1. 知的障害児と教育の変遷
2. 特殊教育から特別支援教育への転換
3. 知的障害教育を取り巻く最近の動向
4. 知的障害特別支援学校における教育課程編成の基本的事項
5. 知的障害特別支援学校の教育課程
6. 知的障害特別支援学校における教育内容と指導形態の特徴
7. 知的障害特別支援学校における指導体制
8. 知的障害特別支援学校における教育課程の評価
9. 知的障害特別支援学校における学級経営計画
10. 知的障害特別支援学校における年間指導計画
11. 個別の教育支援計画の意義と概要
12. 個別の指導計画の意義と概要
13. 知的障害教育におけるキャリア教育
14. 知的障害特別支援学校における特別活動
15. 知的障害特別支援学校における特色ある教育活動
16. 定期試験

使用教科書名

・文部科学省：特別支援学校教育要領・学習指導要領　海文堂
・「特別支援学校における学校組織マネジメントの実際－組織的な特別支援教育の推進－」杉野学著　ジアース教育新社

NO. G04103401　知的障害者の心理・生理・病理

朝山　光太郎

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

知的障がい者の発生要因や病理的特徴、学習、記憶、認知、思考等の心理的特徴から障がい特性等の基礎的な知識を学び、知的障がい児の定義、評価法、障がい診断、病理、知的障がい児・者の生活課題等について事例を取り上げながら理解を図る。

学習目標・到達目標

知的障がい者の生物医学的発生要因や疫学、診断医学的側面からの病理的特徴の理解。および心理的側面から障がい特性の理解を深める。

評価方法その他

平常点(50%)、課題・試験結果(50%)の総合評価(平常点は授業への参加状況・等で総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等

1. *ガイダンス*
2. 知的障がいの定義
3. 知的障がいの生理①生物医学的要因
4. 知的障がいの生理②病的遺伝子、染色体異常
5. 知的障がいの生理③胎生期、周生期
6. 知的障がいの生理④後天性の異常的要因
7. 知的障がいの病理①症状と診断
8. 知的障がいの病理②疾患と治療
9. 知的障がいの病理③知覚、記憶
10. 知的障がいの病理④学習、言語
11. 知的障がいの心理特性と発達支援
12. 知的障がいの心理特性と日常生活、社会生活支援
13. 知的障がいの心理特性と家族支援
14. 知的障がいにおける関係機関との連携
15. まとめ・振り返り

使用教科書名

中村 義行、大石 史博（編）『障害臨床学ハンドブック』第2版（ナカニシヤ出版）

NO. G04103501　肢体不自由者の心理・生理・病理

岡澤　慎一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

肢体不自由がある子どもの心理・生理・病理に関する基本的な事項について講義する．実際的，具体的な理解を促進するために，肢体不自由がある子どもとの教育的係わり合いに関する映像資料を多用する．

学習目標・到達目標

肢体不自由のある子どもが抱える困難と障害状況について心理的あるいは生理・病理的な観点からの理解を深めるとともに，肢体不自由がある子どもとの教育的係わり合いの実際について具体的に検討することをとおして，肢体不自由がある子どもの行動の意味を捉えるための基本的な観点について学ぶことを目的とする．

評価方法その他

週　テーマ・授業目標等

第1回　肢体不自由の定義と状態像
第2回　肢体不自由のある子どもが抱える困難と障害状況／運動系の発達
第3回　肢体不自由のある子どもの生理・病理1(肢体不自由の原因疾患:脳原性疾患)
第4回　肢体不自由のある子どもの生理・病理2(肢体不自由の原因疾患:神経・筋疾患)
第5回　肢体不自由のある子どもの生理・病理3(肢体不自由の原因疾患:骨・関節疾患)
第6回　肢体不自由のある子どもの心理1(感覚・知覚・認知)
第7回　肢体不自由のある子どもの心理2(言語)
第8回　肢体不自由のある子どもの心理3(コミュニケーション)
第9回　肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点1(探索活動，Joyful shared event)
第10回　肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点2(コミュニケーション・システム)
第11回　肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点3(感覚運動)
第12回　肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点4(課題学習)
第13回　肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの実際1(知的障害を併せ有する肢体不自由事例)
第14回　肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの実際2(感覚障害を併せ有する肢体不自由事例)
第15回　肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの実際3(医療的ケアの必要な肢体不自由事例)
第16回　肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの実際4(当事者間のコミュニケーション)
定期試験

使用教科書名

テキストは使用しない．参考資料は適宜配布する．

NO. G04103601　病弱者の心理・生理・病理

市川　和男

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

病弱児の人体の生理、各種疾患や障がいの病理、心理的特性について学び、病弱児への適切な配慮、具体的な発達の支援について事例を取り上げながら理解を図る。

学習目標・到達目標

小児慢性疾患を抱える病弱児の人体の特徴等の生理、小児慢性疾患等の病理、心理特性等を理解し、必要な配慮や発達支援の方法について基本的な知識の理解を深める。

評価方法その他

平常点(50%)、課題・試験結果(50%)の総合評価(平常点は授業への参加状況・等で総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等

1.*ガイダンス*
2.病弱児の定義
3.病弱児の生理①身体的な特徴(運動器系、神経系)
4.病弱児の生理②身体的な特徴(呼吸器系、循環器系)
5.病弱児の生理②身体的な特徴(泌尿器系、消化器系、内分泌系)
6.病弱児の生理②身体的な特徴(身体機能の調節、その他)
7.病弱児の病理①周産期や生育時期等における病気と障がい
8.病弱児の病理②骨・関節、中枢神経系の疾患と障がい
9.病弱児の病理③腎臓病、心臓病、気管支喘息の疾患
10.病弱児の病理④小児がん、統合失調症・強迫性障がい、心身症などの疾患と障がい
11.病弱児の心理特性と発達支援
12.病弱児の心理特性と日常生活支援
13.病弱児の心理特性と社会生活支援
14.病弱児の心理特性と家族やきょうだいの支援
15.まとめ・振り返り

使用教科書名

小野次郎・西牧謙吾・榊原洋一編著『特別支援教育に生かす病弱児の生理・病理・心理』(ミネルヴァ書房)

NO. G04103701　視覚障害者の理解と支援

土谷　良巳

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「聴覚障害とはどのような障害か」という点について，聞こえの状態、発達上の特徴や課題について学ぶと共に、特別支援学校（聾学校）や特別支援学級（難 聴学級）、通級指導教室（聞こえの教室）といった各教育機関の役割や教育・指導上の特徴について講義を通じて学習する。また、学習指導要領の内容を踏まえ、自立活動および教科指導の側面を中心に教育・指導の理念や方法を巡る今日的課題について学習する。

学習目標・到達目標

特別支援教育においては，それぞれの障害や個人に応じた指導がより一層重視されている。本授業では聴覚障害の特性、聴覚障害児の発達や，教育システムについて学習することをねらいとする。本授業の受講によって、より専門的な内容を理解する上での、聴覚障害および聴覚障害教育に関する基礎的知識を学ぶことが 期待される。学生には基本的知識に加えて、聴覚障害児の自立を促すための教育や支援の在り方について、現状や課題への関心を高めて欲しい。

評価方法その他

・平常の授業への取り組み(レポート等を含む) 30%
・定期試験　70%
試験では学習内容の理解の定着を評価し、選択、穴埋め、記述問題等によって構成する。

週　テーマ・授業目標等

第1回：聴覚障害とはどのような障害か？(1)：聞こえの程度と障害の部位

第2回：聴覚障害とはどのような障害か？(2)：失聴時期による影響

第3回: 聴覚障害児の発達課題と支援(1)：認知・知的能力の発達とその支援

第4回：聴覚障害児の発達課題と支援(2)：言語・コミュニケーションの発達とその支援

第5回：聴覚障害児の発達課題と支援(3)：対人関係・社会性の発達とその支援

第6回：教育機関とその特徴(1)：特別支援学校の役割と教育内容―

第7回：教育機関とその特徴(2)：特別支援学級・通級指導教室の役割と教育内容

第8回：まとめ

定期試験

使用教科書名

中野善達・根本匡文 編著 聴覚障害教育の基本と実際 田研出版

NO. G00003001　インターンシップ

金森　敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

企業や行政等の現場における実践的な体験を通して、組織で働くことの意味を考えてもらう。仕事を外見だけで判断するのでなく、隠れている部分を含めて総合的に理解し、仕事を担う重さと充実感（働き甲斐）を感じてもらいたい。なお研修先の面接で許可が得られれば、研修生として受け入れてもらえる。従って、受講生の希望に沿う研修先がない場合、あるいは、面接で断られた場合は研修が受けられないケースもでてくる。また、本授業はインターン実習後も6回ほど集中講義を設け、振り返りを行う。本講義の受講者は全員参加を義務づける。これら２点を予め理解しておくこと。

学習目標・到達目標

インターンシップを通して、自分の適性をチェックするひとつの機会としてほしい。
インターンシップを行う目的を理解し、積極的かつ主体的に取り組む姿勢を確立する。
インターンシップの学びをキャリアデザインに結び付ける。
インターンシップの学びを、今後の学生生活（就職活動も含む）に結びつける。
実習先企業の研究を通して、業界・職種・会社についての知識を身に付ける。

評価方法その他

基本的に、研修報告書を中心に評価を行う。ただし、研修報告書並びに研修日誌は、どちらも提出を求める。なお、受入事業所から提出される個人別の研修評価については、研修報告書の評価の際、参考にする。成績考査のウエイトは、報告書50%、宿題30%、研修日誌20%。

週　テーマ・授業目標等

1.イントロ
2.受入先情報からインターンシップについて考える
3.昨年度参加した学生(5～6)を囲んでインターンシップについて考える
4.インターンシップの目的の再設定と明確化
5.履歴書、自己紹介書の書き方（自己分析を含む）
6.実習先の概要説明、マッチングの方法
7.業界、職種、会社の全体概要を知る(マッチング継続①)
8.業界研究・職種研究(マッチング継続②)
9.企業研究(マッチング継続③)
10.社会人としての意識を育む
11.ビジネスマナー①外部講師
12.ビジネスマナー②外部講師
13.実習先の企業研究①(実習先の調整・確定)
14.実習先の企業研究②(実習先の調整・確定)
15.実習前の総振り返り
16.後期授業イントロ
17.インターンシップの振り返りシートの作成
18.インターンシップの振り返りの共有
19.今後の学生生活の取り組み方、将来のキャリアを考える
20.インターンシップの活動を就職活動に生かす
21.報告会

使用教科書名

なし。必要な資料はプリントで配布します。

NO. G00094001　キャリアデザインA

金森　敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

社会には仕事の数だけ多様な働き方がある。みなさんは、どのような働き方をどれくらいイメージできますか？また、働く際において、大学の学びはどのように活きてくると思いますか？本授業では、単に多様な職業や働き方を知るのではなく、「大学での学びとキャリア」がどのようにつながっているのかなどを含めて、多様な働き方について考えてもらう。なお本授業では、グループワークを中心に授業を行う予定なので、受講者数の上限を設ける。また、授業外においても活動があることは付言しておく。

学習目標・到達目標

多様な働き方があることを知り、多様な考え方があることを知るができる。
興味が持てる働き方と大学での学びがどう関係しているのかを「自分の言葉」で記述ができる。

評価方法その他

レポート(60%)
宿題3～4回(40%)

週　テーマ・授業目標等

1.大学を自己成長の場としよう
2.大学での学びと働く
3.社会の多様な働き方
4.「社会にでる」ってどういうこと
5.学びと社会のつながりを知ろう
6.社会を知ろう「会社・職種編・業種編・チームワーク編」
7.リーダーシップについて考える
8.学びと社会を結びつける
9.ゲスト講師(予定)
10.社会に求められる能力
11.RJPとOGへのインタビュー準備
12.RJPとOGへのインタビュー実施
13.RJPとOGへのインタビューまとめ
14.RJPとOGへのインタビュー成果報告
15.振り返り

使用教科書名

なし。必要な資料はプリントで配布します。

NO. G00095001　キャリアデザインB

金森　敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

キャリアは就職という言葉と結びつきがちであるが、この講義の目的は、広い意味での働き方、幸せな職業人生について考えるものである。就職活動に役立つ力を「入社する力」と呼び、生き方や働き方を「働き続ける力」と呼び、両者を区別する。本講義では後者の「働き続ける力」に力点がある。キャリアというとどうしても個人の考え方から始まりがちだが、まずは、現代社会に対する理解を深める必要がある。また、実際に会社で働いている人にグループでインタビューに行ってもらう予定である。なお、本授業では、グループワークを中心に授業を行う予定なので、受講者数の上限を設ける。

学習目標・到達目標

自分がどのような時代や社会に生きているのかを認識し説明することができる。
他者とのコミュニケーションを通して、自己を見つめなおし自分の考えを他者に説明することができる。
自分の生き方や働き方を自分の言葉で記述することができる。

評価方法その他

レポート(60%)
宿題3～4回(40%)

週　テーマ・授業目標等

1.キャリア教育とは何か
2.働くとは
3.憧れの人や彼らを取り巻く職業について考える
4.これまでとこれからの時代の流れを知る
5.社会についてわかっていないことを考える
6.社会を知ろう
7.やりたいことのうそ
8.ゲスト講師(予定)
9.幸せとは
10.良い会社とは
11.良い会社を調べ、そこで働く人に対してのヒアリングの準備
12.良い会社で働く人へのヒアリング実施
13.良い会社で働く人へのヒアリングまとめ
14.良い会社で働く人のキャリアについての成果報告
15.振り返り

使用教科書名

なし。必要な資料はプリントで配布します。

NO. G05001001　現代生活論（人間福祉学科）

人間福祉学科　教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

人が生活していくうえでのさまざまな諸問題について自立して安定した生活を送ることができるように、「自分ではない他の人たちに対する共感性」を高めながら「現代生活」を捉える人間福祉学科における「現代生活」の視点からその諸問題をとらえ、課題の緩和、改善するために実際必要とされる社会福祉の支援の在り方を具体的に学び、社会福祉の分野における知識、教養、技術の学びの統合力を高める。

学習目標・到達目標

社会福祉は、自分ではない他の人たちに対して共感性をもつことが何よりも大切である。例えば、親が不在のために児童養護施設で生活するこどもや、心身に障害がある人、究極の経済的貧困によって路上や公園での生活を余儀なくされている人など、いずれの生活でも他人にはなかなか分からない辛さや苦しさがあるであろう。「現代」の人間が「生活」していくうえでのさまざまな問題や課題、具体的な取り組みを「社会福祉の分野」で捉えていく。

評価方法その他

平常点(50%)、毎時間のレポート(50%)の総合評価。平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等

第1週　全体オリエンテーション／授業の進め方
第2週　校外授業
第3週　校外授業(国際福祉機器展見学)
第4週　校外授業(有料老人ホーム見学)
第5週　教員又は外部講師による授業(1)
第6週　校外授業
第7週　教員又は外部講師による授業(2)
第8週　教員又は外部講師による授業(3)
第9週　教員又は外部講師による授業(4)
第10週　教員又は外部講師による授業(5)
第11週　教員又は外部講師による授業(6)
第12週　教員又は外部講師による授業(7)
第13週　救急法講習会(普通救命講習)
第14週　教員又は外部講師による授業(8)
第15週　教員又は外部講師による授業(9)

使用教科書名

NO. G05002001　ソーシャルワーク総論Ⅰ

西口　守

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

以下の５点を教育目的とします。
１　社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開　発を含む）と意義についての理解。
２　精神保健福祉士の役割と意義についての理解。
３　相談援助の概念と範囲についての理解。
４　相談援助の理念についての理解。
５　女性としてのあるべき福祉専門職像を考える

学習目標・到達目標

この科目は社会福祉相の基礎となる科目です。したがって、相談援助に関する基礎的な内容を理解することを目標とし、①相談援助者に求められる使命や役割とはどのようなものなのか、②専門職になるためにはどのような技法や価値は何なのか、③相談の体系や進め方はどのようなものか、などを学んでいきます。

評価方法その他

出席40％　課題発表とレポート30％　中間および期末試験30％　特に授業での活発な発言を求める。

週　テーマ・授業目標等

1 社会福祉士および介護福祉法
2 社会福祉士の専門性
3 精神保健福祉士法
4 精神保健福祉士の専門性
5 ソーシャルワークにかかわる各種の国際定義
6 ソーシャルワークの形成過程
7 ソーシャルワークの理論モデル
8 社会福祉援助の過程
9 社会福祉援助の共通課題1（契約、アセスメント、介入、モニタリン）
10社会福祉援助の共通課題2（参加、平等）
11社会福祉援助の共通課題3（援助者、自己覚知）
12社会福祉援助の共通課題4（自立支援、権利擁護）
13社会福祉援助の共通課題5（社会正義、社会的包摂）
14社会福祉援助の共通課題6（ノーマライゼーション）
15事例検討

使用教科書名

新・社会福祉士養成講座　相談援助の基盤と専門職　第2版

NO. G05003001　ソーシャルワーク総論Ⅱ

髙橋　幸三郎

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

この授業は社会福祉援助の基盤と専門職Ⅰの続編です。
１．損談援助における権利擁護の意義と範囲を理解する
２．相談援助に係わる専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解する
３．総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義と内容を理解する

学習目標・到達目標

社会福祉士(ソーシャルワーカー)のあり方を学ぶとともに、相談援助の方法と技術(ソーシャルワーク)の基本を習得する。

評価方法その他

●出席確認
●試験方法：中間レポート(50％)＋期末試験(50％)
●個人的な見解

週　テーマ・授業目標等

①相談援助における権利擁護の概念と範囲
②相談援助専門職の概念と範囲
③福祉行政における専門職
④民間の施設・組織における専門職
⑤諸外国の動向
⑥専門職倫理の概念、倫理綱領
⑦専門職倫理の実際、倫理的ジレンマ
⑧ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な援助の意義と内容
⑨ジェネラリストの視点に基づく他職種連携(チームアプローチ)の意義
⑩相談援助活動とエンパワメント
⑪相談援助活動の実際：事例検討1
⑫相談援助活動の実際：事例検討2
⑬相談援助活動の実際：事例検討3
⑭相談援助の新しい動向
⑮授業の振り返り
⑯テスト

使用教科書名

社会福祉の基盤と専門職Ⅰと同じテキストを用います。
『相談援助の基盤と専門職』(中央法規　2009年)

NO. G05004001　ソーシャルワーク各論Ⅰ

朝倉　和子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

さまざまな相談援助における理論と方法についての理解を深め、あわせて基本的な支援の方法・技術について具体的に学ぶ。

学習目標・到達目標

福祉援助職としての基礎的な相談援助の方法と技法を身につける。

評価方法その他

平常点（出席、授業態度などで50点）、定期試験（50点）

週　テーマ・授業目標等

1.相談援助とは何か
2.相談援助の構造と機能
3.相談援助における人と環境の交互作用
4.相談援助におえる援助関係
5.相談援助の展開過程①
6.同上②
7.相談援助のためのアウトリーチの技術
8.相談援助のためのアセスメントの技術
9.相談援助のための介入の技術
10.相談援助のための経過観察、再アセスメント、効果測定、評価の技術
11.相談援助のための契約の技術
12.相談援助のための記録の技術
13.相談援助のための面接の技術
14.相談援助のための交渉の技術
15.まとめ
16.定期試験

使用教科書名

「相談援助の理論と方法Ⅰ」 社会福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版株式会社

NO. G05005001　ソーシャルワーク各論Ⅱ

朝倉　和子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本講では個別相談援助(ケースワーク)と福祉援助技法のもう一つの柱であるグループワークについて、代表的な実践モデルや実際の福祉現場の事例に即して理解を深める。

学習目標・到達目標

社会福祉の方法論を大別し、直接援助技術の果たす役割、集団援助技術に求められる機能について、実践的に理解する。

評価方法その他

平常点(出席及び授業態度　50％)試験(50％)

週　テーマ・授業目標等

1 相談援助における対象の理解(概念と定義)
2 同上(対象の捉え方①)
3 同上(対象の捉え方②)
4 グループワークを活用した相談援助
5 同上
6 相談援助における社会資源の活用・調整・開発
7 同上
8 相談援助における実践モデルとその意味
9 相談援助における代表的な実践アプローチ①
10 相談援助における代表的な実践アプローチ②
11 相談援助における代表的な実践アプローチ③
12 相談援助における代表的な実践アプローチ④
13 相談援助における代表的な実践アプローチ⑤
14 相談援助における代表的な実践アプローチ⑥
15 まとめ
16 定期試験

使用教科書名

「相談援助の理論と方法Ⅱ」 社会福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版株式会社

NO. G05006001　社会福祉調査法

小野　由美子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
社会調査の目的と意義を理解し、先行調査の結果を読み取る経験を通して、専門職として求められる社会調査の企画、実施、結果報告といった一連の知識と技術に関わる理解を深める。

学習目標・到達目標
社会調査の目的と意義を知る。
社会調査の様々な種類と方法を学び、データの読み取り方を身につける。
調査票の作成について適切な質問や選択肢が設定できる能力を習得する。
調査結果の取りまとめとグラフ化のポイントを学習する。

評価方法その他
(1)期末試験 40%
(2)課題提出 30%
(3)平常点 30%
(平常点は、授業への参加状況等で総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等
1 ガイダンス(授業の目的・概要、授業計画、評価方法など)
2 社会福祉と社会調査
3 社会調査の概要:量的調査を中心に
4 社会調査の概要:質的調査を中心に
5 量的調査の方法①:特徴と種類
6 量的調査の方法②:調査票の作成方法と留意点
7 量的調査の方法③:調査の実施と集計
8 量的調査の方法④:集計結果の分析
9 質的調査の方法①:特徴と種類
10 質的調査の方法②:調査票の作成方法と留意点
11 質的調査の方法③:調査の実施と集計
12 質的調査の方法④:集計結果の分析
13 社会調査における倫理と個人情報保護
14 ITを活用した社会調査
15 社会科学としての社会福祉
16 期末試験

使用教科書名
社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座　社会調査の基礎』中央法規出版、2013年

NO. G05007001　社会福祉援助の理論と方法Ⅲ

嶋田　芳男

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
今日では、高齢者、児童、障害者福祉領域における援助技術として、ケアマネジメントが主流になりつつある。また、フォーマルなサービスとインフォーマルなサービスを組み合わせ、総合的に提供していくために必要なネットワークの構築も重要な課題となっている。そこで講義では、ケアマネジメントの手法およびネットワークの構築法を学ぶ。また、フィールドワークにより、福祉現場におけるネットワークの現状を理解する

学習目標・到達目標
ケアマネジメントの手法およびネットワーク構築法について理解する

評価方法その他
平常点(授業・グループ討議への参加状況)20%、プレゼンテーション30%、定期試験50%

週　テーマ・授業目標等
1. オリエンテーション
2. ケアマネジメントについて学ぶ(1)―ケアマネジメントとは―
3. ケアマネジメントについて学ぶ(2)―ケアマネジメントの過程―
4. ケアマネジメントについて学ぶ(3)―ケアマネジメントの過程―
5. ケアマネジメント演習(1)―事例を用いて各自がケアプランを作成―
6. ケアマネジメント演習(2)―グループでケアプランを作成―
7. ケアマネジメント演習(3)―各グループで作成したケアプランを発表し、全体で共有する―
8. ネットワークについて学ぶ(1)―ネットワークとは―
9. ネットワークについて学ぶ(2)―事例を用いたネットワークづくり―
10. ネットワークについて学ぶ(3)―ネットワークの課題と今後―
11. フィールドワーク―地域包括支援センターにおけるネットワークの現状を把握するための訪問調査―
12. フィールドワーク―地域包括支援センターにおけるネットワークの現状を把握するための訪問調査―
13. フィールドワーク―地域包括支援センターにおけるネットワークの現状を把握するための訪問調査―
14. プレゼンテーション―フィールドワークによる調査結果の発表―
15. プレゼンテーション―フィールドワークによる調査結果の発表―
16. 定期試験

使用教科書名
必要に応じて、授業時にプリントを配布

NO. G05008001　社会福祉援助の理論と方法Ⅳ

髙橋　幸三郎

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
社会福祉援助に係る専門職の在り方について、地域を基盤とした児童・障害・高齢分野の実践事例に沿って理解を深めていく。
さまざまな実践の課題に焦点を当てることにより、社会福祉援助の実践モデルやアプローチを身につける。

学習目標・到達目標
社会福祉士が行う援助活動の全体像を把握する。
さまざまな局面で用いられる概念や実践モデルを学ぶ。

評価方法その他
レポート
記述式テスト
出席状況

週　テーマ・授業目標等
1. 理論の方法に関する振り返り
2. 直接援助と間接援助という枠組み
3. 社会福祉士のお仕事
4. 地域を基盤とした社会福祉援助:①子育てと地域援助
5. 地域を基盤とした社会福祉援助:②子どもの障害を知らされる
6. 地域を基盤とした社会福祉援助:③障害児の福祉制度と地域援助
7. 地域を基盤とした社会福祉援助:④犯罪と地域支援
8. 外部講師:障害者の自立を考える
9. 地域を基盤とした社会福祉援助:⑤ボランティア参加の促進
10. 施設建設に反対する地域住民への対処
11、差別をなくす方法:社会活動法
12. 小テスト:国家試験対策
13. 援助活動の原型:①欧米に始まる
14. 援助活動の原型:②日本への導入
15. まとめ

使用教科書名
『地域づくりの福祉援助:コミュニティワークはじめの一歩』(ミネルヴァ書房)

NO. G05010001　人間の成長と発達

倉田　郁也

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
本講義では、人生の各発達段階（乳児期、幼児期、児童期、思春期、青年期、成人期、老年期）における、こころの成長・発達の特質を生徒が理解することを目的とする。また同時に、人生全体を通じて人間は成長・発達できるという視点を持つことを目的とする。
その結果、生徒が社会に出たとき、社会の人々の健康と安心を支えられる、社会福祉のスペシャリストとなる人材育成に寄与することを教育目的とする。

学習目標・到達目標
本講義では、生徒自身が自分の人生を振り返り、将来の人生に重ね合わせ、そして、本講義の知識を現在の自分に活かすことができるようになることを学習目標とする。具体的には、発達の各段階における課題事例に対し、授業内で生徒自身が考え、自身の課題に直面し、折り合いをつけ、意見を発表し、言語化できるようになることを到達目標とする。

評価方法その他
中間テスト＝50%(第08回授業内実施)範囲:第01回から第07回
期末テスト＝50%(第15回授業内実施)範囲:第08回から第15回
平常点＝(＋10%)

週　テーマ・授業目標等
1. ガイダンス：こころの一生をどう捉えるか(エリクソン、遺伝と環境、知能・言葉の発達)
2. 乳児期：人生への旅立ち(母子関係・愛着・基本的信頼感の形成)
3. 乳児期：乳児期の発達的つまずきとケア
4. 幼児期：三つ子の魂(身体的発達、遊びの発達)
5. 幼児期：幼児期の発達課題と臨床的問題
6. 児童期：学びと社会化(社会性の発達と友人関係、学校への適応)
7. 児童期：児童期の発達的つまずきとケア
8. 思春期：子どもから大人へ(心と体の変化、親子関係、友人関係)
9. 思春期：思春期の心理的失調、悩みへの援助
10. 青年期：自分との出会いと格闘(アイデンティティの模索と確立、社会に出るための準備)
11. 青年期：青年期の発達的つまずきとケア
12. 成人期：人生本番への関門(仕事に就くこと、配偶者の選択と結婚)
13. 成人期：子育ての楽しさとつらさ、親になれない親、虐待と放任
14. 中年期：人生の曲がり角(中年期の危機、女性のライフサイクル)
15. 老年期：人生をまとめる(人生の統合と死の受容、認知症者・施設入所高齢者の心理とそのケア)

使用教科書名
授業時にプリントを配布する

NO. G05011001　ソーシャルワーク演習Ⅰ

西口　守

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

社会福祉援助では、自己の価値観に基づいた援助は許されない。このため、演習では、主に事例やワークを通じて自己に気づくとともに、価値観の違いや態度・技法を意識した援助が可能となるような授業を展開していく。

学習目標・到達目標

自己理解、自己と他者の価値観の違いについて理解する。また、援助者の価値・態度・技法について理解する

評価方法その他

平常点（授業・グループ討議への参加状況）70%、レポート30%

週　テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 事例を通じて、社会福祉の専門性について考える（1）―事例検討―
3. 事例を通じて、社会福祉の専門性について考える（2）―意見交換―
4. 自己をふり返る（1）―人生曲線の作成―
5. 自己をふり返る（2）―エコマップの作成―
6. 自己と他者の価値観の違い（1）―各自で演習シートの課題に取り組む―
7. 自己と他者の価値観の違い（2）―グループで演習シートの課題に取り組む―
8. 自己と他者の価値観の違い（3）―グループごとに発表し、全体で共有する―
9. 援助者の価値・態度・技法について考える（1）―事例1に各自取り組む―
10. 援助者の価値・態度・技法について考える（2）―事例1にグループで取り組む―
11. 援助者の価値・態度・技法について考える（3）―グループ別に発表し、全体で共有する―
12. 援助者の価値・態度・技法について考える（4）―事例2に各自取り組む―
13. 援助者の価値・態度・技法について考える（5）―事例2にグループで取り組む―
14. 援助者の価値・態度・技法について考える（6）―グループ別に発表し、全体で共有する―
15. 援助者の価値・態度・技法について考える（7）―まとめ―
16. 定期試験

使用教科書名

授業時にプリントを配布

NO. G05012001　社会福祉援助演習Ⅱ

嶋田　芳男

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

面接技法などの基本的な相談援助技術について、ロールプレイを中心とした体験学習を通して具体的、実践的に習得させる。

学習目標・到達目標

体験学習を通して、社会福祉の相談援助で求められる基本的な相談援助技術を習得すると同時に、自己理解を深め、援助者としての資質の向上を図る。

評価方法その他

平常点70%（授業への参加状況）、レポート30%

週　テーマ・授業目標等

1　オリエンテーション
2　面接技法1－あいづち－
3　面接技法2－繰り返し－
3　面接技法3－質問－
4　総合演習（振り返り）
5　ロールプレイによる中間試験（あいづち・繰り返し・質問）
6　ロールプレイによる中間試験（あいづち・繰り返し・質問）
7　ロールプレイによる中間試験（あいづち・繰り返し・質問）
8　面接技法4－感情の反射－
9　面接技法5－支持－
10　総合演習（振り返り）
11　事例に基づいた相談援助演習1－高齢者－
12　事例に基づいた相談援助演習2－障害者－
13　事例に基づいた相談援助演習3－児童－
14　ロールプレイによる総合試験
15　ロールプレイによる総合試験
16　ロールプレイによる総合試験およびまとめ

使用教科書名

『社会福祉援助演習』中央法規出版

NO. G05013001　社会福祉援助演習Ⅲ

嶋田　芳男

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「社会福祉援助演習Ⅱ」に続いて、インテーク、アセスメント、プランニング、援助の実施、モニタリング、援助の終結とアフターケア、援助の効果測定について、具体例を通して、ロールプレイング等の実技指導による少人数のゼミ形式で取組んでいく。本演習からは、特に社会福祉援助実習指導・実習との関連付けを意識して取組み、社会福祉士に必要とされる実践的な倫理と価値、知識と技術に基づく社会福祉援助に必要な力を習得する。

学習目標・到達目標

社会福祉士に求められる相談援助の「知識」「技術」を学び、概念で考える方法を身に着ける。観察・理解・分析・概念化をするための基礎的な能力を養成する。

評価方法その他

出席、発表、レポートなど演習内容への参加意欲を総合して評価する。

週　テーマ・授業目標等

1、社会福祉援助の実際(1):インテーク、アセスメント、観察・記録・マッピング
2、社会福祉援助の実際(2):プランニング
3、社会福祉援助の実際(3):援助の実施、モニタリング
4、社会福祉援助の実際(4):援助の終結とアフターケア
5、社会福祉援助の実際(5):援助の効果測定
6、具体例検討:高齢者への社会福祉援助(1)
7、具体例検討:高齢者への社会福祉援助(2)
8、具体例検討:児童への社会福祉援助(1)
9、具体例検討:児童への社会福祉援助(2)
10、具体例検討:障害者への社会福祉援助(1)
11、具体例検討:障害者への社会福祉援助(2)
12、具体例検討:母子への社会福祉援助(1)
13、具体例検討:母子への社会福祉援助(2)
14、具体例検討:経済的困窮への社会福祉援助(1)
15、具体例検討:経済的困窮への社会福祉援助(2)
16、まとめ

使用教科書名

『社会福祉士相談援助演習』(中央法規　2009年)
授業時にプリント類を配布

NO. G05014001　社会福祉援助実習指導Ⅰ

朝倉　和子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

社会福祉援助実習指導Ⅰは社会福祉援助実習へ向けての基礎知識を培うと共に、社会福祉専門職としての実践的な力量を養成していくことを目的とする。学生自らが積極的に援助演習や援助実習に取組んでいけることを目標とする。

学習目標・到達目標

専門職養成における社会福祉援助実習の目的・意義を十分に理解すること。

評価方法その他

出席および授業への参加度・レポート等にて、総合的に判断する。

週　テーマ・授業目標等

第1週　実習オリエンテーション
第2週　事前指導:実習の意義と目的について
第3週　事前指導:実習生の立場、義務、心構えについて
第4週　在校生による現場実習報告会への参加
第5週　在校生による現場実習報告会への参加
第6週　領域別学習(高齢者)
第7週　領域別学習(障害者)
第8週　領域別学習(児童・母子)
第9週　領域別学習(事務所等)
第10週　グループワーク
第11週　グループワーク
第12週　事前指導:実習ノートの書き方
第13週　事前指導:倫理
第14週　事前指導:実習実施に向けての基本的な心得
第15週　まとめ

使用教科書名

実習の手引き他、適宜授業中に示します。

NO. G05015001　社会福祉援助実習指導Ⅱ

千葉　一博

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「社会福祉援助実習指導Ⅰ」に続いて、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理に加えて、具体的に求められる課題把握のための力、真摯に向う姿勢等を幅広く習得します。また次の課題に取り組みます。
①社会福祉援助に係る知識と技術について具体的、実際的に理解する②実習担当教員からの指導のもと、実習課題、実習計画について検討する。③「個人票」「実習計画票」等の作成を通して、実習に向けた具体的な準備を行う④実習中の巡回指導、実習後の実習課題、実習計画の達成状況の整理を行う。なお、本科目は社会福祉援助実習の実施条件を満たし

学習目標・到達目標

自己理解
①自己の思考・感情を理解する。
②自己の思考・感情の意味を理解し、表現する。
③現場実習の重要性を理解し、自身の適性を把握する。

評価方法その他

出席(50%)
レポートその他提出物(50%)

週　テーマ・授業目標等

①オリエンテーション
②現場実習について(グループワーク)
③担当教員別指導(個人票の作成)
④担当教員別指導(実習施設の理解)
⑤実習報告会(4年生による報告)
⑥実習ノートの記録法
⑦分野別学習(高齢者福祉)
⑧分野別学習(児童福祉)
⑨分野別学習(社会福祉協議会・社会福祉事務所・救護施設)
⑩分野別学習(障害福祉:外部講師)
⑪実習事前指導(担当教員別グループワーク)
⑫分野別学習(高齢者相談:外部講師)
⑬実習事前指導(担当教員別グループワーク)
⑭実習事前指導(担当教員別グループワーク)
⑮前期の振り返りと後期の授業(実習事前指導・礼状の書き方・必要書類の作成など)

使用教科書名

「社会福祉援助実習の手引き」その他、授業中に適宜紹介。

NO. G05016001　社会福祉援助実習指導Ⅲ

髙橋　幸三郎

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「社会福祉援助実習指導Ⅱ」に続いて、実習体験から得られた成果と課題、気付きと反省等を、「実習記録」「実習報告書」として記述、作成する。具体的に実習として取組んだ内容を概念化、理論化する。また、下記の通り、具体的、実践的で基本的な理解を行う。①実習を通しての気付きや反省についてのまとめを行う②実習によって得られた自身の課題について整理する③具体的な実習体験から、社会福祉援助に係わる社会福祉専門職としての援助の実際を整理する④実習先機関、施設の業務の状況と課題について、実習生としての考察を行う。

学習目標・到達目標

実習指導のまとめとして、現場実習での体験を中心に社会福祉専門職として必要な知識、技術を習得する。

評価方法その他

出席(50%)
レポートその他提出物(50%)

週　テーマ・授業目標等

1)オリエンテーション
2)実習の振り返り・グループワーク
3)実習の振り返り・個別
4)実習報告書作成
5)同上
6)同上
7)実習の振り返り・個別
8)9)実習報告会
10)実習報告会のまとめ
11)実習の振り返り・グループワーク
12)同上
13)同上
14)同上
15)全体のまとめ

使用教科書名

「社会福祉援助実習の手引き」、その他適宜紹介する。

NO. G05017001　社会福祉援助実習（3年次）

髙橋　幸三郎

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現場実習を通して社会福祉専門職として仕事をするための基礎となる「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」についての理解を深めます。
理論と実践の統合を目指していく。学内における事例研究、演習で学習したことを応用し、実習の中で体験的に社会福祉の制度的理解、職業倫理や心構えの基本的な理解、利用者の理解、社会福祉援助課程の理解、援助の実践、自己理解などを進め統合的理解を行っていきます。

学習目標・到達目標

社会福祉援助の実習に向けた個々の準備と、実習、実習後の整理について取組んでいく。

評価方法その他

・実習先からの実習内容の評価、実習担当教員による実習内容の評価、実習報告書の提出(必須)、その他実習先への提出物の確認/各種検査の有無/実習準備/実習期間の態度/礼状の提出など、実習の事前/事後について手続を完了しているかどうかを含め、総合的に判断する。(実習先からの評価50%、学内における評価50%)

週　テーマ・授業目標等

・高齢者施設、障害者・児施設、児童福祉施設、福祉事務所、病院等の施設・機関において、合計180時間以上の実習を行う。

・実習時期は8月～9月中旬もしくは2月～3月中旬を中心に実施する。(ただし、実習先によって実習時期は異なるので注意すること。)

・相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等の体得。

・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力の習得。

・関連分野の専門職との連携の在り方及びその具体的内容の実践的理解。

詳細は、実習指導室で確認をすること。

使用教科書名

社会福祉援助実習の手引き・他

NO. G05018001　社会福祉リカレント講座Ⅰ

木本　明

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の受験対策として、これまでの3年間で勉強してきた各科目の総復習を担当教員によって取組みます。冬期休暇期間にも受験対策の努力を続けます。1月第4週の国家試験前日まで、土日を除いて毎日、勉強を続けます。国家試験合格に向け全員で努力していきます。従って、授業に参加しない方は履修登録を行わないでください。
　また、この授業は時間割・履修登録上は月曜4限ですけれど、実際には月曜2・3限、木曜3・4限を通して行います。

学習目標・到達目標

社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験に向けて、"頑張った人たち全員の合格を！"を基本目標とします！

評価方法その他

国家試験の合格という目標に向けた努力を評価します。履修登録だけ行って授業に出席しないということのないようにしてください。

週　テーマ・授業目標等

第1回　社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第2回　社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第3回　社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第4回　社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第5回　社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第6回　社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第7回　社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第8回　社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第9回　社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第10回　社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第11回　社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第12回　社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第13回　社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第14回　社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第15回　社会福祉士国家試験全19科目の受験対策

使用教科書名

「2014必携社会福祉士、共通科目編・専門科目編」、筒井書房

NO. G05019001　社会福祉リカレント講座Ⅱ

木本　明

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の受験対策として、これまでの3年間で勉強してきた各科目の総復習を担当教員によって取組みます。冬期休暇期間にも受験対策の努力を続けます。1月第4週の国家試験前日まで、土日を除いて毎日、勉強を続けます。国家試験合格に向け全員で努力していきます。従って、授業に参加しない方は履修登録を行わないでください。
　また、この授業は時間割・履修登録上は月曜4限ですけれど、実際には月曜2・3限、木曜3・4限を通して行います。

学習目標・到達目標

社会福祉リカレント講座Ⅰに続いて、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験に向けて、"頑張った人たち全員の合格を！"を基本目標とします！

評価方法その他

国家試験の合格という目標に向けた努力を評価します。履修登録だけ行って授業に出席しないということのないようにしてください。

週　テーマ・授業目標等

第1回　社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第2回　社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第3回　社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第4回　社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第5回　社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第6回　社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第7回　社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第8回　社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第9回　社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第10回　社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第11回　社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第12回　社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第13回　社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第14回　社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第15回　社会福祉士国家試験全19科目の受験対策

使用教科書名

「2014必携社会福祉士、共通科目編・専門科目編」、筒井書房

NO. G05020001　卒業研究A

人間福祉学科　教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

3年間学修した知識や実習で得た技術を統合して研究テーマを考え、成果をまとめることを目的とする。
Aでは個々のテーマに沿った調査、資料収集、整理分析をしながら論文としてまとめる準備を行い、前期終了時には中間報告を行う。

学習目標・到達目標

各自の論文テーマに沿った内容の枠組みを完成することができる。
資料収集するための文献検索の方法が理解でき、実際の検索から文献の収集ができる。

評価方法その他

平常点50%　中間報告書の成果50%

週　テーマ・授業目標等

1. 研究計画書の作成・提出
2. 研究目的・内容・方法の検討
3. 資料の収集と整理
4. 研究目的・内容・方法の再検討
5. 卒業研究の継続
6. 個別指導、グループ検討
7. 問題点の把握
8. 問題解決
9. KJ法
10. 文章化
11. 再構成
12. 資料批判
13. 結論への前提示
14. 中間報告書作成
15. 中間報告書提出

使用教科書名

各指導教員が個別に提示する。

NO. G05021001　卒業研究B

人間福祉学科　教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

卒業研究Aでまとめた資料（文献、調査項目等）をもとに論文としてまとめることを目的とする。終了後にはその成果を発表する。

学習目標・到達目標

各自の論文テーマに沿った内容を論文としてまとめることができる。
成果を発表でき、自己の論文を客観的に批判し、検証することができる。

評価方法その他

平常点50%　中間報告書の成果50%

週　テーマ・授業目標等

1. 中間報告書にもとづいた論文作成の準備
2. 各自の進捗状況に応じて個別指導を受ける。必要時グループ検討
3. 同上
4. 同上
5. 同上
6. 同上
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 同上
11. 論文提出準備
12. 論文提出
13. 卒業研究発表会
14. 事後検討
15. 事後検討

使用教科書名

NO. G05022001　社会保障論Ⅰ

木本　明

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

社会保障制度は、社会福祉援助の具体的な実践活動に比べて、何か機械的で堅苦しいイメージを持たれる方は少なくないかもしれません。けれど、社会保障制度は人が社会で生きることの基礎となる、ある意味とても人間臭い制度でもあります。社会福祉援助では社会保障制度に関する具体的な知識を持っていることはとても大切なことです。例えば、福祉や医療、雇用、年金など、社会保障制度はさまざまな形で私たちの生活に具体的に関係する役割を担っています。そのようなことを意識して勉強していきたいと思います。

学習目標・到達目標

具体的な社会保障制度を「分かる」こと！

評価方法その他

出席と試験。より具体的な評価方法については第1回目の授業で皆さんと確認したいと思っています。

週　テーマ・授業目標等

1　オリエンテーション、社会保障の歴史的発展と沿革
2　社会保障の理念の発達、社会保障の概念と範囲
3　社会保障の財政、社会保障の機能、社会保障の現代における課題
4　社会保障制度の体系と国際動向
5　社会保障制度の体系と国際動向　その2
6　年金保険制度
7　年金保険制度　その2
8　年金保険制度　その3
9　年金保険制度　その4
10　年金保険制度　その5
11　年金保険制度　その6
12　年金保険制度　その7
13　年金保険制度　その8
14　年金保険制度　その9
15　年金保険制度　その10

使用教科書名

ミネルヴァ書房「社会福祉士テキストブック」共通科目編、レジュメ資料を配布します。

NO. G05023001　社会保障論Ⅱ

木本　明

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

社会保障論Ⅰに続いて、何か機械的で堅苦しいイメージを持たれる方の少なくないかもしれない社会保障制度について、人が社会で生きることの基礎としての、ある意味とても人間臭い制度として社会保障制度を勉強していきたいと思います。“実は大切なのですよ！”というようなことを意識して勉強していきたいと思います。

学習目標・到達目標

具体的な社会保障制度を「分かる」こと！！

評価方法その他

出席と試験。より具体的な評価方法については第1回目の授業で皆さんと確認したいと思っています。

週　テーマ・授業目標等

1、医療保険制度
2、医療保険制度　その2
3、医療保険制度　その3
4、医療保険制度　その4
5、医療保険制度　その5
6、医療保険制度　その6
7、医療保険制度　その7
7、労働者災害補償保険制度
8、労働者災害補償保険制度　その2
9、雇用保険制度
10、雇用保険制度　その2
11、その他の社会保障制度
12、その他の社会保障制度　その2
13、民間保険
14、社会保険の管理運営
15、社会保障論まとめ

使用教科書名

ミネルヴァ書房「社会福祉士テキストブック」共通科目編、レジュメ資料を配布します。

NO. G05024001　社会福祉管理運営論

西口　守

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

この授業では、社会福祉施設の現状、歴史的発展、現代の課題、社会福祉施設の新しい動き、社会福祉施設のサービス、特に手順書の作り方（ＰＤＣＡサイクルの方法）を学び、後半では、グループ学習として、サービスを起業する取組を行う。

学習目標・到達目標

この授業では、社会福祉施設の置かれている状況を歴史的に概観し、また経営環境における課題、またビジネス手法や財務管理、ビジネスに関する様々な理論と社会福祉ビジネスを取り巻く課題について理解する。また起業トレーニングを通じて、実際のシュミレーションを学ぶ。題を実践的に学び、その意義を理解する

評価方法その他

1)平常点10%2)レポート30%
3)グループ学習の発表60%　かかわりの度合いも評価するこれらの総合点

平常点:出席や授業態度、予習の状況の他/)

週　テーマ・授業目標等

1)オリエンテーション　社会福祉施設で暮らすとは何か
2)　社会福祉施設の現状
3)　社会福祉施設の歴史的発展　①
4)　社会福祉施設の歴史的発展　②
5)　社会福祉施設の現代的課題
6)　社会福祉施設の新しい動き　サービスの小規模化　総合化
7)　PDCAサイクルとは何か　手順書の作り方
8)　特別授業　現場では
9)　グループ学習　デイサービスを起業する①
10)　同上②
11)　同上③
12)　同上④
13)　まとめ
14)　グループ発表
15)　社会福祉施設の財務を学ぶ

使用教科書名

なし

NO. G05025001　福祉行政論

木本　明

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

2000年の社会福祉法施行、社会福祉の基礎構造改革以降、社会福祉の行財政と、関連する福祉計画は、公的責任の果たされ方や、民間社会福祉部門との連携のあり方など、実際にはいくつもの問題に直面しています。
　この授業では、机上の勉強ではなく、＜生存権＞の保障を原点とする社会福祉行政の実際、その具体的な問題点について、具体的に勉強していきたいと思います。

学習目標・到達目標

社会福祉行財政の仕組みと現状を具体的に理解することを通して、社会福祉計画の意味を把握する。

評価方法その他

出席と試験。より具体的な評価方法については第1回目の授業で皆さんと確認したいと思っています。

週　テーマ・授業目標等

1.福祉計画
2.福祉行財政
3.福祉計画と福祉行財政の関係
4.福祉行政その1
5.福祉行政その2
6.福祉財政その1
7.福祉財政その2
8.福祉援助の実施・提供機関その1
9.福祉援助の実施・提供機関その2
10.福祉計画の目的と意義その1
11.福祉計画の目的と意義その2
12.福祉計画の理論と技法その1
13.福祉計画の理論と技法その2
14.福祉計画の実際その1
15.福祉計画の実際その2

使用教科書名

ミネルヴァ書房「社会福祉士テキストブック」共通科目編、その他の資料(配布予定)

NO. G05026001　公的扶助論

木本　明

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

憲法第25条に規定されている＜生存権＞は社会的な「セイフティネット」としての生活保護制度によって保障されているはずです。けれども、実際の社会では、この制度を利用できずに餓死したり、路上・公園・河川敷等での野宿生活を強いられている人たちが実在します。何故なのでしょうか？
　権利とは言っても、実際にはとても利用しにくい制度、利用しにくい運用が行われている、それが現在の生活保護制度だと思います。あえて見ようとしないとなかなか見えてこない、この制度の実際を皆さんと一緒に考える勉強をしていきたいと思います。

学習目標・到達目標

人が不運にして経済的貧困状況に至った際に、「最低限度の文化的な生活」を保障する役割を担う生活保護制度について、その制度・運用の実際を理解します。また、同制度とその運用上の問題点・課題を整理して、制度・運用のあり方について考えます。

評価方法その他

出席と試験。より具体的な評価方法については第1回目の授業で皆さんと確認したいと思っています。

週　テーマ・授業目標等

1.オリエンテーション、経済的貧困状況とは…
2.公的扶助の概念と範囲
3.公的扶助の歴史-欧米と日本-
4.公的扶助の役割と意義
5.生活保護制度の目的
6.生活保護制度の原理
7.生活保護制度の原則
8.制度利用者の権利と義務
9.保護の種類と内容・方法、保護施設
10.生活保護の運営実施体制(福祉事務所)と財源・予算
11.生活保護の運営実施体制(福祉事務所)の実際
12.生活保護の最近の動向
13.低所得対策の概要と他法・他施策等
14.現行生活保護法・制度の問題点と課題
15.現行生活保護法・制度の運用上の課題と問題点

使用教科書名

ミネルヴァ書房「社会福祉士テキストブック」共通科目、他に資料レジュメを配布します。

NO. G05027001　医療福祉論

砂田　淳一郎

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

近年、保健医療と福祉の連携が強調されており、入院のみならず地域で暮らす高齢者・障害者にとって、両者は切っても切り離せない関係にある。また、昨今は不況による失業も深刻な社会問題となっており、低所得の無保険者に対する医療サービス提供の問題も表面化している。従来は、病院の医療ソーシャルワーカーが保健医療サービスに対する知識を必要としていたが、今は、地域支援に当たるすべての支援者にとって、保健医療の動向・制度の理解・他職種連携の理解等は欠かせないものとなっている。そこで、より現場目線に近い内容で授業を展開していき、また、社会福祉士国家試験対策の内容についても取り入れていく。

学習目標・到達目標

本科目においては、次の5つのテーマを学習目標・到達目標とする。①保健医療制度の変遷とそれを生み出した社会背景について理解する。②保健医療サービスの概要について理解する。③診療報酬制度の概要について理解する。④保健医療サービスにおける専門職の役割について理解する。⑤専門職の連携のあり方について理解する。

評価方法その他

最終試験（50%）、課題レポート（30%）、講義の出席状況（20%）で総合的に判断する。より具体的な評価方法等については、第1回目の授業の際に確認する。

週　テーマ・授業目標等

①オリエンテーション・授業全体の説明
②医療保険制度の概要と仕組みについて①
③医療保険制度の概要と仕組みについて②
④医療保険制度の概要と仕組みについて③
⑤介護保険制度の概要と仕組みについて①
⑥介護保険制度の概要と仕組みについて②
⑦介護保険制度の概要と仕組みについて③
⑧地域包括ケアシステムの概要と仕組みについて①
⑨地域包括ケアシステムの概要と仕組みについて②
⑩地域包括ケアシステムの概要と仕組みについて③
⑪保健医療サービスの概要について
⑫医療法における医療施設の機能と類型について①
⑬医療法における医療施設の機能と類型について②
⑭医療ソーシャルワーカーの役割について①
⑮医療ソーシャルワーカーの役割について②
⑯最終テスト

使用教科書名

特に指定しない。資料については適宜配布する。

NO. G05028001　権利擁護と成年後見制度

木本　明

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

実際の社会には社会的排除や権利の侵害、また、「契約社会」にあって、自身の権利を正当に主張することの困難な状況を生きざるを得ない人々が存在する。そのような人達にとって、その権利を擁護し、社会福祉援助の力をもった社会福祉援助者としての基礎をしっかりと形成する。

学習目標・到達目標

社会福祉援助の活動に際して必要とされる日本国憲法の原理、民法、行政法等の理解、成年後見制度と日常生活自立支援制度の内容の理解、さらに、実際の権利擁護の実践活動に際しての問題点を理解する。以上の基本的理解に立脚して実際に社会的排除や権利侵害、認知症、知的障害、精神障害のために生活問題に遭遇する人達への具体的援助を展開していく力をつける。

評価方法その他

出席と試験。より具体的な評価方法については第1回目の授業で皆さんと確認したいと思っています。

週　テーマ・授業目標等

生活に身近な法律知識と成年後見制度、日常生活自立支援事業を軸とした、援助の内容を確実に理解することに重点をおく。

1、社会福祉援助に関係する法律問題
2、日本国憲法の基本原理
3民法の理解
4、行政法の理解
5、成年後見制度の概要
6、成年後見・成年補佐・成年補助制度の理解
7、親権と扶養の概要
8、成年後見制度の現状
9、日常生活自立支援事業の概要
10、日常生活自立支援事業の現状
11、成年後見制度利用支援事業
12、市町村、家庭裁判所等の関係機関
13、権利擁護活動の実際-認知症-
14、権利擁護活動の実際-消費者被害・虐待・障害児者-
15、権利擁護活動の実際-野宿生活者・アルコール依存等-

使用教科書名

ミネルヴァ書房「社会福祉士テキストブック」共通科目編、その他の資料(配布予定)

NO. G05029001　カウンセリング論

加地　雄一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

歴史的背景も含めたカウンセリングの主な理論についての基礎的な知識と技法を学んでもらう。また、カウンセラーに必要な倫理も習得させる。カウンセリングの基礎的な知識と理論および技法を、実際にカウンセリングの場面で活用できるように、その基礎となる知識や理論および技法の習得を目指してもらう。

学習目標・到達目標

歴史的背景も含めたカウンセリングの主な理論についての基礎的な知識と技法を学ぶ。また、カウンセラーに必要な倫理も習得する。カウンセリングの基礎的な知識と理論および技法を、実際にカウンセリングの場面で活用できるように、その基礎となる知識や理論および技法の習得を目指す。

評価方法その他

毎回の授業中の課題(40%)、受講態度(30%)、定期試験(30%)

週　テーマ・授業目標等

1.カウンセリングの歴史と目的
2.精神分析
3.行動理論と行動療法
4.論理療法
5.自己理論（来談者中心理論）
6.交流分析
7.家族療法
8.森田療法・内観療法
9.カウンセリングの基礎的技法
10.カウンセリングとカウンセラーの倫理
11.教育の場におけるカウンセリング
12.職場におけるカウンセリング
13.障がい者とその家族を支えるカウンセリング
14.被害者と加害者およびその家族支援のカウンセリング
15.カウンセリングとソーシャルワーク
16.定期試験

使用教科書名

使用しない。

NO. G05032001　就労支援

木本　明

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現在の社会の中で、人が生きる際に「働く」ということは不可欠に必要なこととされている。しかし、実際にはさまざまな理由から「働く」ことから社会的に遠ざけられている人々がいる。そのため、就労にあたって何らかの支援を必要とする人々へ社会的に人が「働く」ことを支援していくことの必要性や労働を取り巻く環境について学ぶ。さらに、現代における就労支援の本質として、人が「働く」ということの社会的な意味を考え、人が「働く」ことを社会的に保障する方向性や今後の改善につながる視点を学ぶ。

学習目標・到達目標

ソーシャルワーカーが担う就労支援の特徴として、生活全体への支援、権利擁護の視点が重要である。就労支援制度と就労支援に係る組織や団体、専門職の意義等について社会福祉士に求められる役割を理解し、福祉・教育・保健医療の各分野との連携や課題、その実際について学ぶことを目標とする。

評価方法その他

平常点（50%）、終了時考査課題（50%）の総合評価(平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等

1.オリエンテーション・働くことの意味と社会福祉士の役割
2.雇用・就労の動向と施策
3.障害と就労支援(1)
4.障害と就労支援(2)
5.専門職の役割と実際(1)
6.低所得者と就労支援(1)・専門職の役割と実際(2)
就労支援の連携と実際(1)
7.低所得者と就労支援(2)・専門職の役割と実際(3)
就労支援の連携と実際(2)
15.まとめ(8～14更生保護制度)

使用教科書名

社会福祉士養成講座編集委員会編　新・社会福祉士養成講座18「就労支援サービス」中央法規

NO. G05033001　更生保護制度

飯田　邦男

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
刑事政策（犯罪対策）としての更生保護制度の位置づけを明確にしたうえで、更生保護制度の概要を説明する。また、更生保護制度の担い手である諸機関・団体及び担い手等について説明し、更生保護制度の特色である官民協働システムについて理解する。さらに、最近の更生保護で課題になっている司法と福祉との連携の必要性についても理解を深めていく。

学習目標・到達目標
社会福祉士等専門職としての相談援助活動において必要とされる更生保護制度（医療観察制度を含む）の全容について理解する。また更生保護を中心に、刑事司法、少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職について理解する。そのうえで、刑事司法、少年司法分野の他機関等との連携の重要性について理解し、究極のソーシャルワークとしての更生保護制度のあり方を考える。

評価方法その他
定期試験（70%）とレポート・平常点（30%）で評価する。

週　テーマ・授業目標等
1 刑事司法と更生保護制度
2 仮釈放と生活環境の調整
3 保護観察
4 更生緊急保護
5 更生保護制度の担い手、関係機関・団体との連携
6 医療観察制度の概要
7 更生保護の動向と今後の展望

使用教科書名
辰野文理著『要説更生保護（第2版）』成文堂（2016）。また、担当教員が作成したレジュメや資料を適宜配布する。

NO. G05034001　スクールソーシャルワーク

朝倉　和子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
スクールソーシャルワークの理論と基礎を学習したうえで、新聞記事や教育現場を訪問することのなかから我が国の学校教育現場が抱える課題をとりあげ、スクールソーシャルワーカーの果たすべき役割と支援方法について学ぶ。

学習目標・到達目標
・今日の学校教育現場が抱える課題について理解する。
・スクールソーシャルワークの発展過程と実践モデルについて理解する。
・スクールソーシャルワーカーの役割と支援方法について理解する。

評価方法その他
平常点50%、レポート50%
（平常点は、授業への参加状況、受講への意欲、討論への参加等で総合的に判断する）

週　テーマ・授業目標等
1. 子どもたちの現状
2. スクールソーシャルワークの国際的動向
3. スクールソーシャルワークをめぐる行政と民間の動向
4. スクールソーシャルワークの理論
5. 子どもの権利擁護実践者としてのスクールソーシャルワーカーの役割
6. スクールソーシャルワークと社会資源
7. メンタルヘルスに関わる問題とスクールソーシャルワーク
8. スクールソーシャルワークと子ども虐待
9. 特別支援教育とスクールソーシャルワーク
10. 学校・教師・学習とスクールソーシャルワーク
11. スクールソーシャルワークと他職種との連携
12. 事例検討（貧困）
13. 事例検討（虐待）
14. 事例検討（不登校）
15. 事例検討（発達障害）

使用教科書名
スクールソーシャルワーク論 中央法規

NO. G05035001　精神保健福祉相談援助の理論と方法Ⅰ

中島　直行

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
精神障害者の相談支援、リハビリテーションについて具体的な事例を通して学ぶことで、精神障害者の疾病と障害、生活の実情とハンデを理解するとともに、様々な援助機関と機能、そこで働く精神保健福祉士の業務と役割を理解し、実践的な援助技術を高める。

学習目標・到達目標
まずは精神障害者の置かれている現状、病気と付き合いながら生きる人生について理解、共感ができること。その上で、基本的な援助技術やリハビリテーションの概要について学ぶ。

評価方法その他
定期試験 60%、平常点 40%
平常点は、出席、参加意欲、学習態度、レポート、リアクション・ペーパー等を総合して評価する。

週　テーマ・授業目標等
週 テーマ・授業目標等
1 日本の精神保健医療福祉の歴史と動向
2 諸外国の精神保健医療福祉の歴史と動向
3 精神保健福祉士における活動の歴史
4 精神障害者支援の理念と支援対象者
5 精神障害者の人権
6 精神科リハビリテーションの概念
7 精神科リハビリテーションの沿革と現状 －日本
8 精神科リハビリテーションの沿革と現状 －諸外国
9 精神科リハビリテーションの理念、意義と基本原則
10 精神科リハビリテーションの構成と展開
11 精神科リハビリテーションの分類、対象、職種
12 精神科リハビリテーションの施設
13 精神科リハビリテーションの計画とプロセス
14 精神科リハビリテーションの評価
15 疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション
16 まとめ、定期試験

使用教科書名
毎回プリントを配布して、それに沿って授業を進める。教科書は授業の中で別途指示する。

NO. G05036001　精神保健福祉相談援助の理論と方法Ⅱ

中島　直行

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
精神障害者を対象とするリハビリテーションプログラムの実際と具体的な展開方法、面接や相談援助における基本的な関わり方と具体的なアプローチの方法等、精神保健福祉分野の援助者に必須の基本的知識を学ぶ。

学習目標・到達目標
リハビリテーションプログラムの実際や相談援助の基本を理解し、精神保健福祉士として、病院に入院している、あるいは地域で暮らす精神障害者に対する具体的支援を組み立てることができる。

評価方法その他
定期試験 60%、平常点 40%
平常点は、出席、参加意欲、学習態度、レポート、リアクション・ペーパー等を総合して評価する。

週　テーマ・授業目標等
週 テーマ・授業目標等
1 医療機関における精神科リハビリテーション
－作業療法、レクリエーション療法、集団精神療法
2 医療機関における精神科リハビリテーション
－行動療法、認知行動療法
3 医療機関における精神科リハビリテーション
－ SST(社会生活技能訓)
4 家族教育プログラム(心理教育)
5 精神科デイケア・ナイトケア
6 医療機関のアウトリーチ
7 チーム医療、多職種との協働・連携
8 精神障害者支援の実践モデル(1)
－治療モデルと伝統的アプローチ
9 精神障害者支援の実践モデル(2)
－生活モデル、ストレングスモデル
10 相談援助の過程と対象者との援助関係(1)
－ケース発見、受理面接、契約
11 相談援助の過程と対象者との援助関係(2)
－アセスメント、支援計画、支援の実施
12 相談援助の過程と対象者との援助関係(3)
－モニタリング、効果測定、終結、アフターケア
13 相談援助活動のための面接技術
14 スーパービジョンの意義、方法、展開
15 コンサルテーションの意義、方法、展開

使用教科書名
毎回プリントを配布して、それに沿って授業を進める。教科書は授業の中で別途指示する。

NO. G05037001　家族支援論

髙橋　幸三郎

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
「家族支援」と言っても、その対象は限りなく広範囲に及ぶ。この授業では、、障害児を育てる家族が直面する課題と援助の方法についての学びを深めていきます。

学習目標・到達目標
障害児を育てる親が直面するたいへんさと、支援のあり方が理解できるようになる。

評価方法その他
出席率、授業態度、レポート等により、総合的に評価。

週　テーマ・授業目標等
1. 家族支援とは何をすることか
2. 障がいのある人の家族支援の先駆者:石井筆子
3. 障がいイメージの変化と福祉施設での支援
4. 母親に子どもの障がいを知らされる
5. 子どもの障がいを理解する
6. 子育て支援と福祉制度
7. 学齢期の支援
8. きょうだいとの関係支援
9. 発達障害者を抱える家族への支援
10. 精神障害者を抱える家族への支援
11. ハンセン病資料館見学
12. ハンセン病資料館見学
13. 家族が障がいをオープンにする
14. 家族から自立して生活する:ダンの自立観
15. 家族支援の課題
16. 試験

使用教科書名
特に使用しないが、参考書については、授業開始後に追って指示。

NO. G05038001　精神保健福祉相談援助の理論と方法Ⅲ

中島　直行

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
精神障害者を対象とした相談援助の実際の過程と、家族調整を含む家族支援について、具体的事例を通して理解する。
精神障害者の地域移行支援、医療機関と地域の連携のあり方や支援体制について、具体的事例を通して理解する。
精神障害者の地域生活の実態を理解し、地域相談援助における支援のあり方について具体的事例を通して理解する。

学習目標・到達目標
精神保健福祉における相談援助の実際について具体的事例の検討を通してに理解することができる。

評価方法その他
定期試験 60%、平常点 40点
平常点は、出席、参加意欲、学習態度、レポート、リアクション・ペーパー等を総合して評価する。

週　テーマ・授業目標等
週 テーマ・授業目標等
1 個別支援の実際と事例分析
2 集団を活用した支援の実際と事例分析
3 事例による相談援助活動の検討
4 精神保健福祉の歩みにおける家族の位置
5 精神障害者と家族の関係と支援のあり方
6 家族支援の方法と実際
7 事例による家族調整、家族支援の検討
8 地域移行支援事業の対象とこれまでの経過
9 地域移行支援事業の体制と組織・機関、制度
10 地域移行における精神保健福祉士の役割と多職種の連携
11 地域移行の具体的事例の検討
12 地域における精神障害者の生活実態と取り巻く社会的状況
13 地域を基盤にした相談援助の主体と対象
14 事例による地域を基盤とした相談援助活動の検討
15 精神科リハビリテーション特別講義(1) 木下玲子先生
16 まとめ、定期試験

使用教科書名
毎回プリントを配布して、それに沿って授業を進める。教科書は授業の中で別途指示する。

NO. G05039001　精神保健福祉相談援助の理論と方法Ⅳ

中島　直行

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
地域リハビリテーション、ケアマネジメント等、精神障害者の地域生活支援におけるキーワードを通して、保健・医療・福祉等の包括的支援の実際について理解する。

学習目標・到達目標
精神障害者の地域生活支援の全体像を描くことができる。

評価方法その他
定期試験 60%、平常点 40点
平常点は、出席、参加意欲、学習態度、レポート、リアクション・ペーパー等を総合して評価する。

週　テーマ・授業目標等
週 テーマ・授業目標等
1 精神科リハビリテーションと地域ネットワーク
2 地域生活支援事業と訪問援助
3 家族会、セルフヘルプがループ
4 精神保健福祉ボランティアの育成と活用
5 精神障害者ケアマネジメントの原則
6 ケアマネジメントの意義と方法
7 ケアマネジメントの展開過程
8 チームケアとチームワーク
9 事例による精神障害者ケアマネジメントの実際
10 地域を基盤とした支援の基本と具体的展開
11 事例による地域を基盤とした支援の検討
12 包括的地域精神保健福祉活動の意義と展開
13 事例による包括的地域支援活動の検討
14 精神科リハビリテーション特別講義(2)　木下玲子先生
15 相談援助の理論と方法のまとめ
16 定期試験

使用教科書名
毎回プリントを配布して、それに沿って授業を進める。教科書は授業の中で別途指示する。

NO. G05042001　精神保健福祉の制度とサービスⅠ

風間　康子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
日本における精神障害のある人への施策の歴史、生活の実情を整理し、現状のかかわりの課題を考える。

学習目標・到達目標
精神医療保健福祉の歴史、現状を整理することを通して、精神障害のある人への必要な生活支援とは何か検討する。

評価方法その他
平常点60%　定期試験40%
（平常点は授業への参加状況及び毎回実施する感想レポートを総合的に判断する）

週　テーマ・授業目標等
1 「障害」とはなにか？　オリエンテーション
2 「障害」の概念の変化Ⅰ　医学概念とリハビリ
3 「障害」の概念の変化Ⅱ　国連と障害者権利条約
4 日本における精神医療保健福祉の歴史Ⅰ(戦前)
5 日本における精神医療保健福祉の歴史Ⅱ(精神衛生法から精神保健法へ)
6 日本における精神医療保健福祉の歴史Ⅲ(精神保健福祉法から自立支援法へ)
7 精神障害のある人の生活の変化(家族と精神科病院)
8 精神障害のある人への生活実態調査から見える生活
9 障害者就労から見える精神障害のある人の実態
10 精神科医療と精神障害のある人の生活
11 精神障害のある人への政策と理念
12 精神保健福祉法と生活支援
13 障害者自立支援法と生活支援
14 障害者虐待防止法と権利擁護
15 国際的な障害者政策の現状(障害者権利条約)
16 定期試験

使用教科書名
講義が始まってから紹介する。

NO. G05043001　精神保健福祉の制度とサービスⅡ

風間　康子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
精神保健福祉サービスの制度及び内容を整理し、生活支援とは何かを考える。

学習目標・到達目標
精神障害のある人への保健福祉サービスの体系を理解するとともに、内容の概要を把握し、支援の課題を検討する。

評価方法その他
平常点60%　定期試験40%
（平常点は授業への参加状況及び毎回実施する感想レポートを総合的に判断する）

週　テーマ・授業目標等
1 精神保健福祉政策の概要
2 精神保健福祉法Ⅰ
3 精神保健福祉法Ⅱ
4 障害者総合支援法の概要
5 障害者総合支援法における生活支援サービス
6 障害者総合支援法における就労支援サービス
7 障害者雇用促進法と障害者雇用
8 精神障害のある人の経済保障（障害年金）
9 精神障害のある人と生活保護制度
10 精神科医療における支援サービス（精神科デイケア）
11 新たな支援方法とサービス（ACTとアウトリーチ）
12 障害者虐待防止法と生活支援システム
13 権利擁護と成年後見制度
14 意思決定支援と生活支援
15 精神障がいのある人々の生活支援の方向
16 定期試験

使用教科書名
講義が始まってから紹介する。

NO. G05044001　精神障害者の生活支援

風間　康子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
精神障害者の地域生活を支える支援の制度・施策について、居住支援、就労支援、日中活動支援等の具体的な取り組みを通して理解し、トータルな生活支援システムについて考える。

学習目標・到達目標
精神保健福祉関連科目の総集編として、関連知識を確実に身につけ、国家試験に対応できる総合的な力を獲得する。

評価方法その他
定期試験 60%、平常点 40%
平常点は、出席、参加意欲、小テスト、リアクション・ペーパー等を総合して評価する。

週　テーマ・授業目標等
週 テーマ・授業目標等
1 精神障害者が地域で暮らすということ
2 精神障害者の地域生活の実際
3 精神障害者の地域生活と人権
4 精神障害者の居住支援に関する制度、施策
5 精神障害者の居住支援の実際－グループホーム、ケアホーム
6 精神障害者の居住支援の実際－単身生活支援、アウトリーチ
7 精神障害者の就労支援に関する制度、施策
8 精神障害者の就労支援の歴史と現在
9 精神障害者の就労支援の実際
10 発達障害、高次脳機能障害の就労支援、うつ病のリワーク支援
11 地域活動支援センターと精神障害者の日中活動支援
12 精神障害者の地域性活支援システム
13 行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動
14 市町村における精神保健福祉士の相談援助活動
15 精神保健福祉センター、保健所における精神保健福祉士の相談援助活動
16 まとめ、定期試験

使用教科書名
毎回、レジメ、プリントを配布する。

NO. G05045001　精神保健福祉援助演習Ⅰ

風間　康子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
面接技術やグループワークの技法等、精神保健福祉士に求められる専門的援助技術について、ロールプレイ等の体験学習を通して実践的に習得させる。様々な問題場面、援助場面から構成されている「事例」に関する小グループの討議を通して、具体的・実際的な援助の視点、技術を体得させる。

学習目標・到達目標
対人援助の基本、自己理解・受容、他者理解・受容　を体験学習を通して身につける。

評価方法その他
出席、学習への参加態度、発表、レポートなどを総合して評価する。

週　テーマ・授業目標等
週 テーマ・授業目標等
1 オリエンテーション（演習の進め方）
2 面接場面ロールプレイ1
3 面接場面ロールプレイ2
4 事例研究1（病院におけるケースワーク）
5 事例研究2（保健所におけるケースワーク）
6 事例研究3（退院援助におけるケースワーク）
7 事例研究4（社会復帰施設におけるケースワーク）
8 事例研究5（地域生活支援のケースワーク）
9 グループ場面ロールプレイ1
10 グループ場面ロールプレイ2
11 事例研究6（精神科デイケア・グループワーク）
12 当事者グループとの交流会（外部講師）
13 SST演習1
14 SST演習2
15 SST演習3
16 演習1まとめ

使用教科書名
プリント中心、教科書は指定しない

NO. G05046001　精神保健福祉援助演習Ⅱ

中島　直行

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
セルフヘルプグループへの支援やコミュニティワークの技法等、精神保健福祉士に求められる専門的援助技術について、体験学習を通して実践的に習得させる。様々な問題場面、援助場面から構成されている「事例」に関する小グループの討議を通して、具体的・実際的な援助の視点、技術を体得させる。

学習目標・到達目標
討議を通して事例に対する実際的な支援の組み立てができる。

評価方法その他
出席、学習への参加態度、発表、レポートなどを総合して評価する。

週　テーマ・授業目標等
週 テーマ・授業目標等
1 オリエンテーション（演習Ⅱの進め方）
2 心理教育演習1
3 心理教育演習2
4 事例研究8（当事者セルフヘルプ・グループ）
5 事例研究9（家族セルフヘルプ・グループ）
6 事例研究10（アルコール・グループ）
7 コミュニティ・アセスメント演習
8 事例研究11（医療施設におけるコミュニティワーク）
9 事例研究12（社会復帰施設におけるコミュニティワーク）
10 事例研究13（地域組織化とコミュニティワーク）
11 ケアマネジメント演習1
12 ケアマネジメント演習2
13 事例研究14（チームアプローチ）
14 事例研究15（ケアマネジメント）
15 事例研究16（ソーシャルサポート・ネットワーク）
16 演習まとめ

使用教科書名
プリント中心、教科書は指定しない

NO. G05047001　精神保健福祉援助実習指導Ⅰ

中島　直行

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

精神保健福祉士としての必要な倫理、価値、知識、技術について理解を深めるとともに、精神障害者の医療・リハビリ・地域生活を支えている第一線の医療機関や福祉施設が果たしている役割、課題、およびその中での精神保健福祉士の業務の実際について、具体的・体験的に理解し、４年次の配属実習に向けての準備を整える。

学習目標・到達目標

実習準備のための事前学習として、精神保健の現場を具体的に理解する。

評価方法その他

出席、授業への参加態度、課題への取り組み、レポート等を総合して評価する。

週　テーマ・授業目標等

週 テーマ・授業目標等

1 実習指導オリエンテーション
2 実習施設の概要と配属希望調査
3 精神科病院、精神科診療所における実習のすすめ方
4 就労継続支援B型、就労移行支援事業所における実習の進め方
5 地域活動支援センター、相談支援事業所における実習のすすめ方
6 精神保健福祉センター、保健所、市町村保健センターにおける実習のすすめ方
7 精神障害者を支えるその他の地域社会資源
8 4年生からの実習体験報告Ⅰ
9 4年生からの実習体験報告Ⅱ
10 視聴覚学習
11 精神保健福祉の現場から(本学卒業の外部講師による特別授業)
12 見学体験学習Ⅰ
13 見学体験学習Ⅱ
14 体験学習の共有Ⅰ
15 体験学習の共有Ⅱ
16 まとめ

使用教科書名

実習の手引き、授業ごとに配布するプリントを使用

NO. G05048001　精神保健福祉援助実習指導Ⅱ

中島　直行

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

実習の実習生個人票、実習計画表の作成から、実習中の日誌・まとめまで、主に文章化を通して、自分の思いや考え方、実習体験からの学びを的確に人に伝えることが出来ること。

学習目標・到達目標

周到な心身の準備を整えて実習に臨むとともに、実習で学んだ具体的な体験や学び、気づきを的確に概念化、文章化し、人に伝えることができるようになること。

評価方法その他

出席、授業への参加態度、個人票や実習計画表等の課題への取り組み、実習のまとめや、実習報告書等を総合して評価する。

週　テーマ・授業目標等

週 テーマ・授業目標等

1 実習オリエンテーション
2 実習生個人票作成(精神科医療機関)
3 精神科医療機関実習に必要な専門知識
4 精神科医療機関におけるPSWの援助技術
5 実習計画票作成
(配属実習1:精神科医療機関)
6 精神科医療機関実習振り返り
7 精神科医療機関実習振り返り
8 精神科医療機関実習のまとめ
9 実習生個人票作成(地域支援・相談支援施設)
10 地域支援施設実習に必要な専門知識
11 地域支援施設におけるPSWの援助技術
12 実習計画票作成
(配属実習2:地域支援・相談支援施設)
13 地域支援・相談支援施設実習振り返り
14 地域支援・相談支援施設実習振り返り
15 地域支援施設・相談支援施設実習まとめ

使用教科書名

NO. G05049001　精神保健福祉援助実習

中島　直行

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

２ヶ所、計24日間の配属実習では、精神障害者の医療・リハビリテーション・地域生活支援の実際を知ると同時に、実習先で出会った精神障害者たちと直接向き合う体験を通して、病気や障害を抱えての生きづらさへの共感を深め、精神保健福祉士の役割を認識し、必要な支援を組み立てる力を高めることができるよう期待する。

学習目標・到達目標

精神保健福祉援助実習は、原則として4年次の前期の期間内に、精神科病院と地域生活支援施設の2ヶ所で、12日間ずつ計24日間の配属実習を行う。現場体験を通して、精神障害者の医療・リハビリテーション・地域生活支援の実際をこの目で知ることを目標とし、その際、個人票・実習計画票の作成という事前準備から、実習中の日誌、実習後の報告書作成まで、書くことを通して「伝えるという作業が重要視される。

評価方法その他

3年後期の実習準備から、4年次の計24日間の配属実習での課題達成度、及び報告書作成までを総合評価し、4年次の終わりに成績をつける。

週　テーマ・授業目標等

1 事前学習
(1)精神保健福祉援助実習指導Ⅰ(3年後期)－見学、当事者との交流等
(2)　〃　　Ⅱ(4年前期)－個人票、実習計画書等作成
2 配属実習
(1)精神科医療機関　12日間、90時間以上
(基本実習モデル)
・初日　:オリエンテーション、医療相談室(or地域連携室)
・4日間:病棟体験、作業療法等
・2日間:デイケア・ナイトケア
・1日間:外来診療・訪問看護
・3日間:医療相談室(相談面接、家族支援、家族教室、地域連携)
・最終日:まとめ、実習報告
(2)地域生活支援施設　12日間、90時間以上
(基本実習モデル)
・初日　:オリエンテーション
・4日間:相談支援事業所or地域活動支援センター
・4日間:就労移行or就労継続支援事業所
・1日間:グループホーム・ケアホーム
・1日間:地域連携、アウトリーチ
・最終日:まとめ、実習報告
3 事後学習
(3)精神保健福祉援助実習指導Ⅲ(4年後期)－実習報告書作成、実習報告会

使用教科書名

「実習の手引き」他

NO. G05052001　障害の理解

市川　和男

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

障害は大きく分類すると、身体障害、知的障害、精神障害の3分類となる。
いかなる障害であっても、個人としての生活のQOL(人生や生活の質)は権利として保障されなければならない。
そのため、障害のある人を1人の人間として身体的、心理的、社会的な側面から個別性を理解し、本人のみならず家族への支援を含めた視点や障害があることによりリスクとなる生活への支障をどのようにサポートして支援をしていくのか専門職間の連携や協働の在り方についても学習する。

学習目標・到達目標

障害の概念や障害者福祉の基本理念を理解する。
視覚障害、聴覚障害、盲聾機能障害、肢体不自由、内部障害についての基礎知識が理解できる。
精神障害、知的障害、発達障害、高次脳機能障害、難病の障害についての基礎知識が理解できる。
障害のある人の身体、心理、社会的機能に関する基礎的知識を理解し、障害による生活支障に対

評価方法その他

平常点(50%)、課題・試験結果(50%)の総合評価(平常点は授業への参加状況・等で総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション／障害の基礎的理解(1)(障害の概念、障害者福祉の基本理念)
2. 障害の基礎的理解(2)(障害が及ぼす心理的影響と自己概念、障害が及ぼす心理的影響と自己概念)
3. 精神障害のある人の理解と生活支援
4. 知的障害のある人の理解と生活支援
5. 発達障害のある人の理解と生活支援
6. 高次脳機能障害のある人の理解と生活支援
7. 難病のある人の理解と生活支援
8. 視覚・聴覚障害のある人の理解と生活支援
9. 肢体不自由のある人の理解と生活支援
10. 内部障害定義と動向
11. 心臓・呼吸器機能障害のある人の理解と生活支援
12. 腎臓・排泄器官機能障害のある人の理解と生活支援
13. 小腸・肝臓機能障害のある人の理解と生活支援
14. 免疫機能障害のある人の理解と生活支援
15. まとめ・振り返り

使用教科書名

最新介護福祉全書11障害の理解　谷口敏代編　メヂカルフレンド社

NO. G05054001　介護技術

市川　和男

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

介護を必要とする障がい者、高齢者の適正な支援を行うための基本的な支援技術を学ぶ。
この授業では、主に衣、食、住、移動、排泄、清潔に関する支援技術の基礎を学内実習を通して学ぶ。

学習目標・到達目標

個別の生活ニーズの充足を図るために自立を支援し、個々に合わせた支援の基本的展開ができるようになる。

評価方法その他

定期試験の評価(80%)授業中の実技試験(10%)平常点(10%)(授業への参加状況、演習時の参加状況、態度などを総合的に判断する。)

週　テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション／自立を支える介護
2. 利用者とのコミュニケーション／介護における倫理的心構え
3. 目覚めの介護(起き上がり動作)
4. 着替えの介護
5. 移動の介護
6. 身だしなみを整える介護
7. おいしい食事を提供する介護／口腔をさわやかにする介護
8. 気持ちの良い入浴の介護
9. 心地よい排泄のための介護
10. 気分転換のための介護
11. ベッド上生活を余儀なくされる人への介護
12. 実施した介護の記録
13. 介護者が行う医療的処置／感染症への対応
14. 終末期のケア
15. まとめ・振り返り

使用教科書名

写真でわかる生活支援技術　是枝祥子(監修)　インターメディカ

NO. G05058001　社会福祉援助演習Ⅳ

髙橋　幸三郎

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

相談援助で求められる実際の援助過程を想定した実技指導を行う。

学習目標・到達目標

実際の相談事例に対応できるような関わり方や対応の仕方を学びながら、事例を読み解く理解力や分析力を培い、ひいては実際の事例に対応できる力を身につける。

評価方法その他

出席、学習態度、発表、レポートなどによる総合評価。

週　テーマ・授業目標等

1.事例に学ぶ(1)－事例研究の意義
2.事例に学ぶ(2)－事例の読み方
3.事例に学ぶ(3)－事例研究の進め方
4.実際の事例の展開過程(1)－インテーク、アセスメント、プランニング
5.実際の事例の展開過程(2)－インターベンション、モニタリング、アフターケア
6.具体的な事例の把握(1)－児童虐待、老親虐待
7.具体的な事例の把握(2)－ドメスティック・バイオレンス
8.具体的な事例の把握(3)－低所得者、ホームレス
9.具体的な事例の把握(4)－その他、権利擁護に係わる事例
10.事例検討(1)－児童・家庭の問題
11.事例検討(2)－障害者の問題
12.事例検討(3)－高齢者の問題
13.事例検討(4)－地域福祉の問題
14.相談援助実習後の問題
15.授業の振り返り

使用教科書名

演習の中で随時提示。

NO. G05059001　社会福祉援助演習Ⅴ

西口　守

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「社会福祉援助演習Ⅳ」に続いて、本演習Ⅴは社会福祉援助実習指導Ⅲとともに、社会福祉援助実習の事後指導と密接に関係付けて実施する。アウトリーチとニーズ把握、地域福祉の基盤整備と開発、地域福祉の計画、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、サービス評価などの理解・習得、それらを実践的に担っていく能力の獲得に向けて、具体例を通したロールプレイング等の実技指導による少人数のゼミ形式で取組んでいく。

学習目標・到達目標

社会福祉学を始め、隣接科学の知識を福祉現場に応用できるようにする。自分の持っている潜在的な力を発見し、それを開花させ、成長するよろこびを体験することを目的とする。また、自分の考えを自分の言葉で正確に相手に伝えるコミュニケーション力を高めると同時に、他者の意見に耳を傾け、冷静に意見を交換できる力や、年齢の異なった世代ともつながっていけるようにする。

評価方法その他

出席、学習態度、発表、レポートなどによる総合評価。

週　テーマ・授業目標等

演習の中で指示する。

使用教科書名

授業で提示する

NO. G05062001　ストレスマネジメント論

西口　守

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

この授業では、まず、現場の葛藤や矛盾を文献からレビューし、その本質的課題を検証する。そしてそこから生じるワーカーのストレスの実態や実際を検討し、それにどのように向き合ってきたのかを学び、そして私はこれからこのストレスにどのように向き合うのかを個別に考え、そのマネジメント方法を理解する。

学習目標・到達目標

社会福祉の実践は、ある意味矛盾との連続的なかかわりである。老年学者の木下康仁は、「現場はつねに不完全さを含んでいる」と述べる。だから現場には葛藤も課題もあるのだと‥そしてそれは現場にいる限り、引き受けていかなくてはならないのだという。まさに現場はいいか、悪いかで決められない、合理的な決定が難しい状況がある。だから、そこに働くワーカーには当然、いろいろな意味でのストレスが発生する。この授業では、この現場のありようを基本的に直視し、その矛盾や葛藤

評価方法その他

平常点30%　発表　40%　レポート　30%

週　テーマ・授業目標等

授業内容は、文献学習、事例学習、対処方法を学ぶロールプレーまたアサーショントレーニングからストレスマネジメントの方法を学ぶ。

使用教科書名

特になし

NO. G05063001　交渉法入門

西口　守

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

この授業においては、①現代ソーシャルワークの特徴をブラックワイスとブレナンから学ぶ②その中で交渉法の意味と意義を理解する③交渉法のメッソッドを学ぶ④ハーバード交渉法のを概観する⑤対決的交渉法と協調的交渉法について概念理解を試みる⑥交渉法の実際をソーシャルワークの実際から学ぶという6つのステージで授業を進める

学習目標・到達目標

ブラックワイスとブレナンは、現代のソーシャルワークにおいて、クライエントの周囲との調整活動が重要になってきていると述べ、そのために、交渉術が大切だとしている。この交渉法はアメリカではハーバード大学がその中心的な学びの場になっていて、「ハーバード交渉法」というスキルもある。実はこれは協調的交渉法を指しているが、授業ではこの協調的交渉法について学ぶことを目標としている。協調的交渉法は、win-winの関係を構築する交渉法だが、その原理を福祉の現場でどの

評価方法その他

出席　30%　発表　40%　試験30%

週　テーマ・授業目標等

1)オリエンテーション
2)現代ソーシャルワーク考える　①
3)同上②
4)ブラックワイスとブレナンの主張を学ぶ①
5)同上②
6)交渉法概論①
7)交渉法概論②
8)ハーバード交渉法とは何か①
9)同上②
10)協調的交渉法①
11)協調的交渉法②
12)協調的交渉法③
13)ソーシャルワークにおける交渉法の実際①
14)同上②
15)まとめ
16)試験

使用教科書名

なし

NO. G05064001　ヘルスプロモーションと介護予防

鈴木　知佐子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

健康の概念について理解し、健康寿命の重要性を学ぶ。また、健康維持と人々の人生、生活のＱＯＬとの関係について学び、健康を推進するための地域の役割、個人の役割を考え、疾病予防、介護予防の方法を学ぶ。

学習目標・到達目標

健康の概念について言語化できる。
健康をプロモートするための地域の役割、個人の役割について理解できる。
介護予防についてまとめることができる。

評価方法その他

レポート試験80%　中間レポート10% 授業の総合評価10%

週　テーマ・授業目標等

1.健康の概念について　WHOおける健康の定義
2. ヘルスプロモーションとはその意味と定義
3. ヘルスプロモーションに掲げられている用語の理解
4. プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション
5. 高齢者のイメージ(演習)
6.老年期の健康と病気
7. 加齢と成人病
8. 老化に伴う心身の変化の特徴・防御反応、回復力
9. 高齢者の心理とアセスメント
10. 高齢者の疾患と生活上の留意点
11. 不調の兆しの特徴と観察
12. 認知症の予防
13. 疾病の予防
14. ヘルスプロモーションの評価
15. まとめ

使用教科書名

指定テキストはない。必要時資料配布する

NO. G05065001　福祉の心理学

加地　雄一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

福祉の心理学の課題は広い。児童、障害者、高齢者など福祉的対応を必要とする人々やその家族の心理的な問題、さらにはケースワーカーなど福祉の援助活動に携わる人々の心理的な問題等広範多岐に及ぶ。ここでは主として障害者や高齢者の心理的な問題に焦点を当てて、その援助方法について探求する。

学習目標・到達目標

社会福祉の実践現場で、すぐに役に立つような利用者の心理を理解し、また基本的な援助方法の理論を学習する。

評価方法その他

毎回の授業中の課題(40%)、受講態度(30%)、定期試験(30%)

週　テーマ・授業目標等

1. 高齢者の心理的な特徴
2. 高齢者の課題
3. 高齢者への効果的な援助方法
4. 障害者の心理的な特徴
5. 障害者の課題
6. 障害者への効果的な援助方法
7. クライエント理解の方法
8. ケース理解の方法
9. 受容的態度と共感的理解
10. 面接の意義と方法
11. アセスメントの福祉心理学的な視点
12. 心理検査の効用と限界
13. 心理検査－質問紙法、投影法など
14. 心理療法－カウンセリング、家族療法、交流分析等
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

授業開始後、追って指示。

NO. G05073001　地域福祉論Ⅰ

嶋田　芳男

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

わが国の社会福祉も大きな転換を遂げ、今や住民にとって身近な市町村を基盤に、行政と地域社会が協働して、福祉システムを形成し、サービスを提供していく時代に入っている。そこで授業では、新しい社会福祉のあり方や地域福祉に係わる基礎的な知識や枠組みを学ぶことで、社会福祉専門職として身につけておくべき視点の習得をめざす

学習目標・到達目標

地域福祉推進の背景、地域社会、コミュニティ、概念、地域福祉の流れ(日本とイギリス)、地域福祉組織と人について理解する

評価方法その他

平常点20%(授業・グループ討議への参加状況)、課題提出20%、
定期試験60%

週　テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 地域福祉推進の背景(1)-産業構造の変化から―
3. 地域福祉推進の背景(2)―少子高齢社会から―
4. 地域社会の特性(1)―地域共同体・伝統型アノミー型地域社会―
5. 地域社会の特性(2)―個我・コミュニティ型地域社会―
6. コミュニティとは
7. 地域福祉の概念(1)―構造的アプローチからみた概念―
8. 地域福祉の概念(2)―機能的アプローチからみた概念―
9. 地域福祉の理念(1)―ノーマライゼーション・住民主体―
10. 地域福祉の理念(2)―ボランタリズム・ソーシャルインクルージョン―
11. 日本における地域福祉
12. イギリスにおける地域福祉
13. 地域福祉を支える組織(1)―国・都道府県・市町村の役割―
14. 地域福祉を支える組織(2)―民間部門の役割―
15. 地域福祉を支える人
16. 定期試験

使用教科書名

『(第2版)地域福祉の原理と方法』学文社
必要に応じてプリントを配布

NO. G05074001　地域福祉論Ⅱ

嶋田　芳男

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

地域福祉論Ⅰを基盤に本授業では、地域福祉を推進するために必要な援助技術（コミュニティワーク、コミュニティソーシャルワーク）や福祉計画についての知識や技術を習得するとともに、権利擁護や福祉教育などに関する知識の習得をめざす。また、フィールドワークで収集した各地域包括支援センターの「地域づくり」に向けた取り組みを共有する

学習目標・到達目標

地域福祉の推進方法、地域における権利擁護、福祉教育について理解する

評価方法その他

平常点20%（授業・グループ討議への参加状況）、フィールドワークおよびプレゼンテーション20%、課題提出10%、定期試験50%

週　テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. フィールドワーク発表
3. フィールドワーク発表
4. 地域福祉の推進法(1)―地域福祉推進法の概要―
5. 地域福祉の推進法(2)―コミュニティワークの過程―
6. 地域福祉の推進法(3)コミュニティソーシャルワークの過程―
7. 地域福祉の推進法(4)地域福祉計画の概要
8. 地域福祉の推進法(5)地域福祉計画の立案過程
9. 地域における権利擁護(1)―権利擁護の概要―
10. 地域における権利擁護(2)―日常生活自立支援事業―・成年後見制度―
11. 福祉教育(1)―福祉教育の概要―
12. 福祉教育(2)―福祉教育の課題―
13. 地域福祉演習(1)―各グループごとに事例を基に課題解決を図る計画を立案―
14. 地域福祉演習(2)―各グループごとの計画を発表し、共有する―
15.まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

『(第2版)地域福祉の原理と方法』学文社
必要に応じて、プリントを配布

NO. G05075001　精神保健福祉援助実習指導Ⅲ

中島　直行

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

・グループ討議による実習振返り。
・実習報告書の作成
・実習報告会開催

学習目標・到達目標

・実習体験とその総括を通して、精神保健福祉士としての基本的な能力、資質を確立する。

評価方法その他

出席、学習態度、発表、実習報告書、その他の提出物等を総合して評価する。

週　テーマ・授業目標等

週　テーマ　授業目標等
1　オリエンテーション
2　精神科医療機関実習を終えてのグループ討議(1)
3　精神科医療機関実習を終えてのグループ討議(2)
4　精神科医療機関における精神保健福祉士
5　地域支援・相談支援施設実習を終えてのグループ討議(1)
6　地域支援・相談支援施設実習を終えてのグループ討議(2)
7　地域支援・相談支援施設における精神保健福祉士
8　4年生から3年生に向けての実習申し送り(1)
9　4年生から3年生に向けての実習申し送り(2)
10　実習報告書作成(1)
11　実習報告書作成(2)
12　実習報告書作成(3)
13　実習報告会(1)
14　実習報告会(2)
15　全体総括

使用教科書名

NO. G05100001　基礎ゼミ

市川　和男

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

課題レポートの作成、フィールドワーク（社会福祉関係機関の見学）、ボランティア体験、課題発表などを通して「見る」「聞く」「感じる」「考える」「表現する」ことができる学習を重視している。この講座が基礎となり、学生各自が自分の可能性に気づき、今後、意欲的に学生生活を送ることができるようになることを期待している。

学習目標・到達目標

学生自身が主体的に学び、それぞれの将来像への礎を培うことを目標とする。

評価方法その他

平常点(50%)、課題・報告書の提出(20%)、ボランティア・見学の実施(10%)、課題・報告書の発表(20%)の総合評価(平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等

第1週　全体オリエンテーション／授業の進め方／日程等
第2週　福祉の動向を知ろう(1)
第3週　福祉の動向を知ろう(2)
第4週　ボランティア学習ガイダンス(1)
第5週　ボランティア学習ガイダンス(2)
第6週　ボランティア学習ガイダンス(3)
第7週　ボランティア学習ガイダンス(4)
第8週　ボランティア期間(1)
第9週　ボランティア期間(2)
第10週　ボランティア期間(3)
第11週　ボランティア期間(4)
第12週　ボランティア期間(5)
第13週　ボランティア学習まとめの作成(1)
第14週　ボランティア学習発表会(1)
第15週　ボランティア学習発表会(2)

使用教科書名

NO. G05100101　多変量統計入門

新海　公昭

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現代は、扱うデータの量が多く、いかに効率的な処理をして分析するかが求められています。この授業では、データの種類が多い（多変量）場合の統計的手法を学びます。具体的には、予測・制御のための重回帰分析と判別分析、データ量の総合化のための主成分分析、共通因子を探す因子分析、データ分類のためのクラスター分析の基本概念を理解し、応用事例に適用できることを目標とします。
実際の処理・分析に当たってはパソコンの統計ソフトを用います。

学習目標・到達目標

単回帰分析、重回帰分析、確率変数と確率分布、重要な確率分布(正規分布・χ2乗分布・t分布・F分布)、仮説検定(p値とt値)、分散分析、主成分分析、因子分析、クラスター分析

評価方法その他

中間テスト(30点)、期末テスト(30点)、課題点(40点)

週　テーマ・授業目標等

第1週　多変量解析手法の紹介
第2週　平均値、分散、標準偏差、標準化、共分散、相関係数
第3週　単回帰分析
第4週　重回帰分析
第5週　重要な確率分布
第6週　仮説検定1
第7週　仮説検定2
第8週　中間テスト
第9週　分散分析1
第10週　分散分析2
第11週　主成分分析(概念説明)
第12週　主成分分析(応用事例の紹介)
第13週　因子分析(概念説明)
第14週　因子分析(応用事例の紹介)
第15週　クラスター分析(概念説明と応用事例の紹介)
第16週　期末テスト

使用教科書名

特になし。毎回プリントを配布する。

NO. G05100201　青年心理学

木村　文香

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

青年期は自我を確立していく大切な時期である。本講では、青年期が生涯発達の中で大切な時期であることを理解した上で、青年自身の問題と社会の問題がどのように関わっているのかについて考え、問題意識を高め、専門的な視点から理解していくことを目的とする。

学習目標・到達目標

各テーマを基点としながら各概念を正確に把握し、発達心理学、臨床心理学、社会心理学的な見識をもとに、現代の青年の心の成長や彼らを取り巻く社会的状況を科学的にとらえ、自分なりの考えをまとめる力を身につけることを目標とする。

評価方法その他

最終試験と授業への参加意欲、態度をもとに総合評価を行う。
（最終試験70%、授業への参加態度30%）

週　テーマ・授業目標等

1.青年心理学の理論1――青年期を学ぶ意義――
2.青年心理学の理論2――発達段階における青年期――
3.青年心理学の理論3――発達課題――
4.青年心理学の理論4――アイデンティティと自己――
5.青年心理学の理論5――自我の発達と機能――
6.青年心理学の理論6――対人関係の発達――
7.青年期をとりまく時代背景，世代性
8.現代社会の青年
9.青年期の問題解決――心理療法、カウンセリング入門――
10.青年期の問題――青年期とストレス――
11.青年期の問題2――不登校、ひきこもり――
12.青年期の問題3――摂食障害――
13.青年期の問題4――発達障害――
14.青年期の問題5――依存症，嗜癖――
15.総括

使用教科書名

特に指定しない。毎回の授業開始時にレジュメを配布する。

NO. G05100401　心理学実験Ⅰ

加地　雄一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

心理実験・調査を企画し実験者・被験者として体験する。
データの収集、データの処理、t検定を中心とした推計学的検定、心理学レポート作成、プレゼンテーションなどの一連の作業を通じて、心理学実験の基礎的知識と実践力を習得する。受講生は課題ごとにレポートの提出が義務づけられ，
レポートは添削返却するのでスキルアップが出来る。内容は、心理統計法１、反応時間実験、両側性転移実験、錯視実験、生理心理実験、記憶実験、実験全体の総括で構成される。
プレゼンテーションのスキルも学ぶ。心理学a、bおよび統計学入門，基礎統計学を履[illegible]

学習目標・到達目標

新たな知識・情報を学習し日常生活場面への活用も考える。

評価方法その他

実験レポート80%、平常点（出席・コメント等の参加度）20%

週　テーマ・授業目標等

第1週心理学実験とは;反応時間実験、実験・調査のデザインとは、データの収集と分析法、レポートの作り方、その 1
第2週心理学実験とは、実験・調査のデザインとは、データの収集と分析法、レポートの作り方、その 2
第3週心理統計における相関分析、t検定、カイ自乗検定等を学ぶ、その1
第4週心理統計における相関分析、t検定、カイ自乗検定等を学ぶ、その2
第5週反応時間実験を行う。パソコンを使った心理実験としての技能も学ぶ
第6週鏡映描写実験により学習のプロセスを実験する、その1
第7週鏡映描写実験により学習のプロセスを実験する、その2
第8週錯視の発生メカニズムについて実験を通じて理解する、その1
第9週錯視の発生メカニズムについて実験を通じて理解する、その2
第10週中間の総括
第11週感情の変化と自律神経の機能を実験を通じ理解する、その1
第12週感情の変化と自律神経の機能を実験を通じ理解する、その2
第13週系列位置効果実験により記憶の情報処理過程を実験する、その1
第14週系列位置効果実験により記憶の情報処理過程を実験する、その2
第15週全体についての論議

使用教科書名

教材を毎回の授業に先立ちウェブサイトから提供します。
http://ichiichi3.web.fc2.com/index.htm

NO. G05100501　心理学実験Ⅱ

加地　雄一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「心理学実験Ⅰ」に引き続き心理実験・調査を自ら実験者・被験者として体験し、心理学の実験的な研究方法を習得する。ここでは、より高度な統計学分析を学習する。実験の進行状況によっては時間内に目的を達成できない場合もありうる。受講生は課題ごとにレポートの提出が義務づけられ、レポートは添削返却するのでスキルアップが出来る。内容は、心理統計法、視覚情報処理による認知実験、認知的葛藤の測定実験、SD法によるイメージ実験、家庭用ロボットを使った行動観察・動作分析実験、実験全体の総括で構成される。プレゼンテーション実習も行う。履修条件として「心理学実験 Ⅰ」を単位修得していること。

学習目標・到達目標

新たな知識・情報を学習し日常生活場面への活用も考える。

評価方法その他

実験レポート80%、平常点（出席・コメント等の参加度）20%

週　テーマ・授業目標等

第1週 ガイダンス、実験・調査の方法、データの分析とまとめ方、レポートの形式と内容について
第2週　心理統計における分散分析、多変量分析について学ぶ、その1
第3週　心理統計における分散分析、多変量分析について学ぶ、その2
第4週　視覚情報処理による認知実験
第5週 イメージなどの評定尺度構成を実習し因子分析法を習得する その1
第6週 イメージなどの評定尺度構成を実習し因子分析法を習得する その2
第7週 イメージなどの評定尺度構成を実習し因子分析法を習得する その3
第8週　認知的葛藤の測定実験を行う その1
第9週　認知的葛藤の測定実験を行う その2
第10週 行動のコーディングと分析法を実験を通じて学習する その1
第11週 行動のコーディングと分析法を実験を通じて学習する その2
第12週 アンケート法の基礎と実践を行いデータの分析と解釈法を学ぶ その1
第13週 アンケート法の基礎と実践を行いデータの分析と解釈法を学ぶ その2
第14週 アンケート法の基礎と実践を行いデータの分析と解釈法を学ぶ その3
第15週 全体についての論議

使用教科書名

教材を毎回の授業に先立ちウェブサイトから提供します。
http://ichiichi3.web.fc2.com/index.htm

NO. G05100701　家庭教育論

柳瀬　洋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現代社会の変容の中で、近年、家庭が果たす役割や機能もまた変化してきている。家庭とは何か、人が成長してゆく過程に沿って家庭と家庭をめぐる諸問題を見つめるとともに、保育園・幼稚園・学校・地域社会等、社会全体と家庭とのかかわりについても目を向け、今後の家庭教育のあり方について探究する。

学習目標・到達目標

・家庭と家庭教育をめぐる諸問題について現代社会全体との関連からとらえる。
・人が成長していく過程に沿って、家庭教育のあり方について考えていく。

評価方法その他

平常点（授業への参加状況・討論への参加など）30%、レポート20%、試験50%により総合的に評価

週　テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション・家庭とは何か
2. 子どもが育つ場としての家庭
（養育者と子どものかかわり方の基本原理）
3. 乳児期と家庭教育
4. 幼児期と家庭教育
5. 学童期・思春期と家庭教育
6. 青年期と家庭教育
7. 家庭教育にみる家族の発達的課題～育てられる者から育てる者へ
8. 現代社会の変容と家庭教育をめぐる諸問題①
9. 現代社会の変容と家庭教育をめぐる諸問題②
10. 現代社会の変容と家庭教育をめぐる諸問題③
11. 家庭教育支援の現状と課題
（家庭・保育所・幼稚園・学校・社会の連携）
12. 海外の家庭教育
13. 今後の家庭教育に求められるもの
14. 事例から考える家庭教育
15. まとめ

使用教科書名

特になし。必要な資料を配布します。

NO. G05100901　消費者情報論

小野　由美子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

IT化、グローバル化、少子高齢化など、著しい変化をみせる社会において、一人の消費者・生活者として、自らの生活をどう守り、いかに創造していくかについて、消費者をめぐる情報の観点から検討する。消費生活に関する情報には消費者マークに代表される表示やチラシといった広告のほか、企業や行政、消費者団体などから提供・発信される情報がある。これらの消費者情報は消費者にもたらされるだけでなく、消費者から提供・発信することも重要である。講義では具体的な消費者問題を取り上げながら、情報の収集と整理、内容の分析と評価、情報発信などの技術について、消費者の視点から学ぶ。

学習目標・到達目標

現代市場の構造問題である消費者問題のさまざまな実相を知る。消費者行政や消費者法について理解を深める。主体形成としての消費者教育の役割を認識し、意識変容や行動変容の重要性を認識できるようになる。

評価方法その他

(1)期末試験 40%
(2)視察レポートの提出 30%
(3)平常点 30%
(平常点は、授業への参加状況等で総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等

1 ガイダンス
2 消費者情報とは何か:企業、行政、消費者の立場から
3 消費者教育をめぐる動向
4 企業と消費者教育
5 企業における消費者情報:消費者信用情報と利用者
6 行政における消費者情報①:消費者教育の実践
7 行政における消費者情報②:消費生活相談情報
8 行政における消費者情報③:消費者事故情報
9 メディアリテラシーとは何か
10 生活と宣伝・広告、チラシ広告の検討
11 消費者マーク:記号・絵表示・絵文字の活用
12 消費者情報の収集と整理:新聞記事の活用方法
13 消費者情報に関わる統計の分析と評価
14 消費者情報をめぐる取組み:消費者ニーズの活用
15 まとめ
16 期末試験

使用教科書名

国民生活センター編『くらしの豆知識(2016年版)』2015年

NO. G05101001　消費経済論

金森　敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

消費経済について、消費者の視点を中心に授業を行う。主に、①個人消費者へのマーケティング、②個人としての消費者、③社会的存在としての消費者の３点から消費経済を学ぶ。①個人消費者へのマーケティングでは企業経営、②個人としての消費者では人間の心理・認知行動、③社会的存在としての消費者では集団心理などが関係する。これら3点から消費経済をダイナミックに見ていく。なお本授業では、グループワークを中心に授業を行うので、受講者数に上限を設ける。

学習目標・到達目標

消費経済としての、消費者行動の全体像を把握することができる。
消費者としての自身の行動について、理論を用いて他者に説明することができる。

評価方法その他

期末試験(60%)
宿題3～4回(40%)

週　テーマ・授業目標等

1.イントロ
2.なぜ人の好みはこんなにも違うのか:セグメンテーション
3.どのように消費者を納得させるのか:コミュニケーション
4.売れるお店はどうやって作る:店頭マーケティング
5.人間はしょせんパブロフの犬か:学習とは何か
6.思い出は美化される:記憶
7.好き嫌いは、どのように生まれるのか:態度
8.なぜそれを買ったのか？意思決定
9. 消費で自己表現をしている:アイデンティティ
10. 家族の買い物は誰が決めているのか:家族
11. なぜ友人同士の服装は似てしまうのか:集団
12. なぜものが集団のシンボルになるのか:ステイタス
13. 日本人は全員納豆が好き:サブカルチャー
14. 聖地巡礼も消費者行動:文化
15. 全体の振り返り
16. 定期試験

使用教科書名

なし。必要な資料はプリントで配布します。

NO. G05101101　保育学

新開　よしみ

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

子どもにとって大人と一緒にいることには、また、大人にとって子どもと一緒にいることにはどのような意味があるのだろうか。子どもと大人が共に豊かな成長を続けていくことのできる社会を目指し、家庭保育及び保育所・幼稚園保育のもつ今日的課題、大人の果たすべき役割について考究するとともに、共に育つ保育実践について学んでいく。また、「一日保育体験」（自主実習）により、実際の子どもの発達や遊びの実態を体験的に理解する。

学習目標・到達目標

●保育の基本的な方法・原理を理解する
●保育の今日的課題について理解する
●乳幼児の発達の流れを理解する
●子どもの遊びをはぐくむスキル・方法を身につける
●実際に子どもとかかわる体験により実践的に子どもを理解する

評価方法その他

課題点40%・最終レポート60%
(課題点には，自主実習・レポーター・絵本の読み聞かせ等に加え，平常の授業への取り組みが含まれます)

週　テーマ・授業目標等

1. 保育学とは何か
2. 保育の原理と方法
3. 発達と保育(1)乳児期
4. 発達と保育(2)幼児期前期
5. 発達と保育(3)幼児期後期
6. 子どもの育ちと家族(1)家族の役割と機能
7. 子どもの育ちと家族(2)現代における家庭保育の現状
8. 子どもの育ちと家族(3)子育て支援の実際
9. つくって遊ぼう
10. 児童文化に親しむ
12. 園生活と子ども(1)
13. 園生活と子ども(2)
14. 保育における遊びの実際
15. 一日保育体験(実習)のまとめ

使用教科書名

家庭支援の保育学/武藤安子他/建帛社/2010

NO. G05101201　衣環境学概論

藤居　眞理子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

健康で豊かな衣生活を目標に、服飾史、被服デザイン、被服製作、被服材料、被服衛生、被服管理などの分野の基礎を総括的に講義し、被服の役割と機能を分かりやすく概説する。

学習目標・到達目標

被服・服飾の領域全般を広く学び、魅力的で賢い衣生活を送ることに役立つ基礎知識を習得する。

評価方法その他

1～7週担当者と8～15週担当者による担当者別の筆記試験(80%)および平常点(20%)による総合評価

週　テーマ・授業目標等

1. 被服学の領域、被服の着用目的・起源
2. 被服の基本形態と表現(1)
3. 被服の基本形態と表現(2)
4. 服飾の変遷(1)
5. 服飾の変遷(2)
6. 服飾の変遷(3)
7. 服飾の変遷(4)
8. 被服材料(1)天然繊維
9. 被服材料(2)天然繊維と合成繊維
10. 被服材料(3)合成繊維と新合繊
11. 糸・布地・加工・性能
12. 被服の性能と衛生
13. 被服管理(1)被服の整理・洗濯の意義と方法
14. 被服管理(2)洗剤の成分と働き・合理的な洗濯と仕上げ
15. 被服管理(3)洗浄の実際等
16. 試験

使用教科書名

プリントの配布等

NO. G05101301　食科学概論

山﨑　薫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「食」は心豊かに健康な日常生活を送る上で重要な要素である。「食」を取り巻く環境や現状、変遷を踏まえ、日本国内に限らず、大きくな視野で「食」を捉え、幅広く最新の話題も交えながら総合的に学ぶ。

学習目標・到達目標

「食」に関する事柄を総体的に概略を理解する。

評価方法その他

筆記試験100％

週　テーマ・授業目標等

1. ヒトと食べ物
2. 日本の食文化(1)
3. 日本の食文化(2)
4. 日本の食文化(3)
5. 日本の食文化(4)
6. 世界の食文化(1)
7. 世界の食文化(2)
8. 世界の食文化(3)
9. 食べ物の特性と活用(1)畜肉・乳
10. 食べ物の特性と活用(2)魚介・卵
11. 食べ物の特性と活用(3)穀類
12. 食べ物の特性と活用(4)野菜
13. 食べ物の特性と活用(5)果物
14. 食べ物の特性と活用(6)調味料
15. 食べ物の特性と活用(7)飲料
16. 定期試験

使用教科書名

適宜、資料を配布します。

NO. G05101401　基礎調理

小口　悦子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

日本・西洋・中国料理の調理実習を通して基礎的調理技術、食品の性質とその取り扱い方、食事作法など食事に関する基礎的総合的能力を養うことを目的とする。また、原則として１回の食事となる献立を実習しながら、それぞれの料理様式の特徴や食卓の調え方についても理解し、多様な場面で実践することが可能となることを目的とする。

学習目標・到達目標

1. 食材の下処理法や衛生的な取扱い方を身につける。
2. 食品の種類と概量を理解でき、味付け(調味割合)の基本を身につける。
3. 日本・西洋・中国料理の基礎な調理法を理解し、技術を身につける。
4. 栄養価計算を可能にし、食品の栄養的な特徴を理解する。また、献立作成、食器・調理器具扱い方、配膳法、食事のマナーを身につける。

評価方法その他

平常点(30%授業への参加状況)、筆記試験(20%)、実習試験(20%)、ノート等提出物(30%)の総合評価。

週　テーマ・授業目標等

1.オリエンテーション目的と進め方、実習上の心得、準備等
2.栄養価計算について、菓子の実習
3.日本料理の基礎・1　白飯、かき卵汁、魚照り焼き、青菜胡麻和え、果物
4.日本料理の基礎・2　親子丼、味噌汁、鰺香味揚げ、酢の物、果物甲州煮
5.日本料理の基礎・3　栗ご飯、薩摩汁、鯖みぞれ煮、酢の物、餅菓子
6.日本料理の基礎・4　松茸飯、清まし汁、立田揚げ、白和え、果物
7.日本料理の基礎・5　炊き込み飯、味噌汁、粟麩の煮物、柿なます、饅頭
8.日本料理の基礎・6　散らしずし、茶わん蒸し、お浸し、餅菓子
9.西洋料理の基礎・7　赤飯、蛤潮汁、いり鶏、天ぷら、寄せ菓子
10.西洋料理の基礎・1　ビーフシチュー、バターライス、冷野菜、ババロア
11.西洋料理の基礎・2　オードブル、肉料理、温野菜、冷野菜、焼き菓子
12.西洋料理の基礎・3　スープ、肉料理、温・冷野菜、カスタードプリン
13.西洋料理の基礎・4　スープ、リゾット、冷野菜、アップルパイ　冷菜、
14.中国料理の基礎・1　炸菜、湯菜、蝕点心(炒飯)、甜点心
15.中国料理の基礎・2　冷菜、炸菜、点心(粥)、甜点心
16. 定期試験

使用教科書名

五訂増補　食品成分表　2016/ 女子栄養大学出版部委
五姫増補　調理のためのベーシックデータ/ 女子栄養大学出版部
「基礎調理」のテキストを配布する。

NO. G05101501　住居学概論

小池　孝子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

住居全般についての基礎的知識を習得する。個人・家族の生活の拠点である住居について、様々な角度から検討を行う。

学習目標・到達目標

住居は個人や家族の生活の拠点であり、人間生活の最も基本的な場である。人間にとって住まいとは何かを考え、人間らしい生活を送るための空間としての住居のあり方について理解する。建築製図の基本的な技術を習得する。

評価方法その他

小課題20％、製図課題40％、テスト40％により総合的に評価する。

週　テーマ・授業目標等

1) ガイダンス・住居の機能
2) 寸法と空間
3) 日本の住まいの変遷(1)
4) 日本の住まいの変遷(2)・生活様式と住居
5) 現代の家族と住まい
6) 日本の住宅政策
7) 住居の選択と管理
8) 住まいと環境
9) 安心・安全な住まい
10) 高齢者・障害者の住まい－集まって住む(1)
11) 集まって住む(2)
12) 住まいの設計
13) 住まいの設計／製図(1)
14) 住まいの設計／製図(2)
15) 住まいの設計／製図(3)
16) 定期試験

使用教科書名

定行まり子「生活と住居」光生館

NO. G05101601　社会福祉Ⅰ

西口　守

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

この講義では、社会福祉の意味と意義また制度の側面また実践の側面について学び、現代社会における社会福祉の理解を深める

学習目標・到達目標

この講義は社会福祉概論として位置づけ、初学者の入門として考える。すなわち授業では、社会福祉、社会保障の概念規定、歴史また現代的課題について、網羅し、社会福祉の意味と意義を大まかに理解する。

評価方法その他

出席:15%、学期途中の小レポート:25%、学期末大レポート:30%、学期末試験:30%

週　テーマ・授業目標等

1. 新聞記事を読んでみる
2. 社会福祉の意味
3. 社会福祉の理念の1
4. 社会福祉の理念の2
5. 社会福祉の実際　社会福祉六法を中心に
6. 社会福祉の歴史
7. ニーズとは何かの1
8. ニーズとは何かの2
9. ニーズの測定方法
10.貧困の問題　派遣問題を手がかりとして
11.貧困の問題　ホームレスから考える
12.貧困の問題　虐待から
13.現場の実践を聞く
14.国際福祉とまとめの授業(1)
15.国際福祉とまとめの授業(2)
16.試験

使用教科書名

開講時説明

NO. G05101701　社会福祉Ⅱ

木本　明

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「社会福祉総論Ⅰ」に続いて、現代社会における社会福祉・社会保障政策、制度、具体的な社会福祉援助の展開、今後の課題と展望について、なるべく分かりやすく具体的に勉強していきたいと思います。

学習目標・到達目標

社会保障・社会福祉の現代社会における意味を把握することをもとに、具体的に社会保障・社会福祉関連制度等の入門編として勉強していきたいと思います。

評価方法その他

試験またはレポート。具体的な評価方法については第1回目の授業で皆さんと確認したいと思っています。

週　テーマ・授業目標等

1.経済学と社会保障・社会福祉
2.J・ロールズの正義論、A・K・センの潜在能力アプローチ
3.社会政策と行政需要
4.社会政策の意味-市場から調達されない必要-
5.資源と社会指標
6.市民資格
7.市場・家族・政府
8.規制と社会サービス給付
9.福祉レジーム論-福祉国家と福祉社会-
10.福祉計画
11.政策決定の過程
12.政策評価
13.所得政策、保健医療・住宅・雇用の保障
14.人権と社会福祉・社会保障
15.公共性

使用教科書名

レジュメを配布します。

NO. G05101801　福祉の医学

鈴木　知佐子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

人体の基本的な構造、機能、加齢や障害によって変化する心身機能について学ぶ。また、成人、高齢者に最も関連する疾患の原因、治療、リハビリテーションについて学ぶ。さらに健康増進と疾病予防保健医療対策、医療と介護の関係についても理解を深める。

学習目標・到達目標

人体の基本的な仕組み、生理機能について理解できるようになる。
成人、高齢者に発症しやすい疾患、障害について、一連の健康増進と疾病予防、発症原因、治療（リハビリテーション含む）の概要及び地域包括医療について理解できる。

評価方法その他

平常点20%、試験80%
（平常点は、授業への参加状況、受講への意欲、討論への参加等で総合的に判断する）

週　テーマ・授業目標等

1. 身体の仕組みの概観
2. 精神の成長・発達
3. 人の成長・発達と老化
4. 疾病の概要の理解と予防（生活習慣病と未病）
5. 疾病の概要の理解と予防・治療（悪性腫瘍）
6. 疾病の概要の理解と予防・治療（脳血管疾患）
7. 疾病の概要の理解と予防・治療（心疾患）
8. 疾病の概要の理解と予防・治療（高血圧）
9. 疾病の概要の理解と予防・治療（糖尿病と内分泌疾患）
10. 疾病の概要の理解と予防・治療（呼吸器疾患）
11. 疾病の概要の理解と予防・治療（消化器疾患）
12. 疾病の概要の理解と予防・治療（血液疾患と膠原病）
13. 疾病の概要の理解と予防・治療（腎臓・泌尿器疾患）
14. 疾病の概要の理解と予防・治療（骨・関節疾患）
15. 疾病の概要の理解と予防・治療（感染症）
16. 試験

使用教科書名

MINERVA社会福祉士養成テキストブック20　人体の構造と機能及び疾病
黒田研二・住居広士編著　ミネルヴァ書房

NO. G05101901　福祉の社会学

鈴木　元久

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

人間は他者との結びつきなしには、生きられない。そこに「社会」がある。私たちは家族・地域社会・国家等、様々な社会との関わりの中で生きている。そこで社会学的観点から、家族問題や地域問題を中心に、「福祉」のあり方について考えてみたい。これからの女性が様々な社会において生き抜いていくとき、社会学的な福祉観を持つことは重要であろう。

学習目標・到達目標

社会に潜む福祉にかかわる問題点を明確に捉え、その解決策を模索する能力を身につけることを目標とする。

評価方法その他

レポート70%、小論文15%、平常点(15%、平常点は授業への参加状況・取り組み方の積極性等で総合的に判断します。)

週　テーマ・授業目標等

第1週　オリエンテーション
第2週　社会学とは
第3週　社会理論と社会システム論
第4週　パーソンズ以降の社会システム論
第5週　社会の推移
第6週　人口問題
第7週　社会集団
第8週　社会と個人
第9週　社会的ジレンマ
第10週　生活の理解
第11週　家族
第12週　結婚と少子高齢化
第13週　家族（個人）と社会
第14週　社会問題
第15週　まとめ

使用教科書名

NO. G05102101　児童福祉論

安藤　洋

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

すべて児童は等しくその生活が保障され、愛護されるべきという児童福祉法の理念と意義を理解する。家庭内の問題・子どもの発達上の問題・生活上の問題など多様な問題から家庭で暮らすことができない児童への施設サービス（児童養護施設、乳児院、母子生活支援施設等）や障害児に対する在宅・施設サービスへの理解を深める。また、すべての児童が健全な発達をするために実施されている子育て支援サービスや、少子化や児童虐待といった課題に対応するための施策について学習する。

学習目標・到達目標

児童福祉の理念と意義、現代社会における児童の成長・発達と生活実態、それらにおける問題点や、児童福祉制度の歴史的社会的背景について理解する。さらに、児童に関する福祉ニーズの捉え方や、現在の児童福祉に関する法律および制度、福祉サービス体系について学ぶ。

評価方法その他

平常点（40%）、定期試験（60%）、平常点は授業への参加状況などで総合的に判断する。

週　テーマ・授業目標等

1　現代社会と児童
　人間の成長・発達と児童　家族と児童　社会と児童
2　現代社会と児童福祉(1)
　児童福祉理念の発達　概念と範囲　児童の権利
3　現代社会と児童福祉(2)
　児童および家庭に関わる問題
4　児童の福祉ニーズ
　成長・発達に関わるニーズ　家庭および社会的なニーズ
5　児童の福祉需要の把握方法とその具体的内容
6　児童福祉に関する法の目的、対象及びサービスの体系とその具体的内容(1)
　児童福祉法
7　児童福祉に関する法の目的、対象及びサービスの体系とその具体的内容(2)
　児童福祉法
8　児童福祉に関する法の目的、対象及びサービスの体系とその具体的内容(3)
　母子及び寡婦福祉法　母子保健法　その他関連法規
9　児童に対する保健・医療・福祉サービスの実施体制(1)
　児童養護
10　児童に対する保健・医療・福祉サービスの実施体制(2)
　障害児
11　児童に対する保健・医療・福祉サービスの実施体制(3)
　保育所
12　児童福祉と関連サービス
　民間サービスの役割と意義及びその現状
13　児童福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
14　専門職の連携の実際

使用教科書名

特に指定しない

NO. G05102201　認知症の理解

市川　和男

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
認知症の原因となる疾患の理解とともに、多様な生活環境の中で生活している認知症の高齢者に対して生活環境の特性を理解しながら個々にあった支援の方法を学ぶ。地域で生活している認知症高齢者とその家族に愛するインフォーマル、フォーマルサービスと地域支援の在り方を学ぶ。

学習目標・到達目標
認知症の原因となる疾患やその症状についての特徴、中核症状、周辺症状が整理でき、さまざまな環境に即応しながら支援できる知識を理解することができる。

評価方法その他
平常点(50%)、課題・試験結果(50%)の総合評価(平常点は授業への参加状況・等で総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等
1.認知症と認知症ライフパートナー／認知症の原因と種類
2.認知症の症状と経過
3.認知症と生活
4.認知症の治療とケア
5.認知症の人の心理
6.周辺症状、BPSDの理解と対応
7.認知症と家族
8.認知症への人のケアのポイント
9.コミュニケーションの基本と手法
10.認知症におけるコミュニケーション
11.言葉を超えたコミュニケーション
12.認知症ケアとアクティビティ／アクティビティ・ケアの基本
13.アクティビティ・ケアの実際
14.認知症ケアに関するサービスと活用法／認知症ケアの地域での取組み
15.まとめ・振り返り

使用教科書名
認知症ライフパートナー検定試験 3級　公式テキスト　日本認知症コミュニケーション協議会
中央法規出版

NO. G05102301　高齢者福祉論Ⅰ

西口　守

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
この授業では、高齢者の心身の状況、社会的課題、高齢者関連法規として老人福祉法、高齢者医療確保法（旧老人保健法）、介護保険を学ぶ。また虐待防止法や、その他の高齢者サービス法令を学習する。

学習目標・到達目標
わが国の少子高齢社会の現状を理解し、特にこの中でも高齢者を支える、福祉、介護、医療、住宅制度について理解する。

評価方法その他
平常点　20%　ミニテスト(小論文)　15%　学期末試験　65%
これらの総合点とする
平常点:出席や授業態度、予習復習の状況の他、井上先生と合議し評価する

週　テーマ・授業目標等
1)　オリエンテーション
2)　命の終わりを考える・・安楽死と尊厳死
3)　高齢者の心身の状況　身体的側面
4)　高齢者の心身の状況　心理的側面
5)　高齢者の社会的状況①
6)　高齢者の社会的状況②
7)　高齢者の生活困難
8)　高齢者の保健福祉制度の体系
9)　老人福祉法
10)　高齢者医療の体系理解
11)　高齢者医療確保法　後期高齢者医療とは何か
12)　特別講演
13)　介護保険法
14)　介護保険法の実際
15)　授業のまとめ
16)　試験

使用教科書名
新　社会福祉士養成講座　高齢者に対する支援と介護保険制度　中央法規

NO. G05102401　高齢者福祉論Ⅱ

嶋田　芳男

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
公的介護保険制度の創設により、措置から契約へとパラダイムの転換が図られた。そこで問われるのは、利用者本位の視点に基づいたサービス提供であり、これを可能とする支援システムの構築である。講義では、介護保険制度における居宅と施設サービス等の内容を詳細に示すことで、介護保険に関する基礎的知識の習得をめざす

学習目標・到達目標
介護保険制度に関する基礎的知識を習得する

評価方法その他
平常点(授業・グループ討議への参加状況)20%、課題提出20%、
定期試験60%

週　テーマ・授業目標等
1. 公的介護保険制度が導入された背景
2. 公的介護保険制度の現状
3. 居宅サービスの内容(1)－訪問介護・訪問看護・訪問リハビリ―
4. 居宅サービスの内容(2)―居宅療養管理指導・訪問入浴介護・通所介護―
5. 居宅サービスの内容(3)―通所リハビリ・短期入所生活介護・短期入所療養介護―
6. 居宅サービスの内容(4)―特定施設入居者生活介護・福祉用具の貸与・住宅改修―
7. 居宅サービスの内容(5)―介護予防の各種サービス―
8. 地域密着型サービスの内容(1)―夜間対応型訪問介護・認知症対応型通所介護―
9. 地域密着型サービスの内容(2)―小規模多機能型居宅介護・認知症対応型共同生活介護―
10. 施設サービスの内容(1)―介護老人福祉施設―
11. 施設サービスの内容(2)―介護老人保健施設・介護療養型医療施設―
12. 地域支援事業の内容
13. 公的介護保険制度における介護報酬(居宅・施設)
14. 介護報酬を踏まえたケアマネジメント演習(1)―事例を用いてグループでケアプランを作成―
15. 介護報酬を踏まえたケアマネジメント演習(2)―グループ別に作成したケアプランを発表し、全体で共有―
16. 定期試験

使用教科書名
高齢者に対する支援と介護保険制度(高齢者福祉論Ⅰで使用したテキスト)／福祉士養成講座編集委員会／中央法規出版

NO. G05102501　精神保健学Ⅰ

中島　直行

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
精神保健活動を通して社会に貢献するために必要な、学生自身の心の健康、成長の礎となる授業を目指す。よって精神保健の基本、各論を学ぶにあたり、できるだけ具体的に精神保健への取り組みをイメージしながら学生が主体的に学習に参加することを大切にする。

学習目標・到達目標
精神保健学は、カウンセリングなど対人援助をめざすための基盤であるが、自らが社会人として成長していくための礎となる知識でもある。人間の心の健康がそこなわれる原因を理解し、そこからの回復のためにどのような工夫が必要か、またどのような制度や支援があるのかを理解することを学習目標とする。本科目は精神保健福祉士国家試験に必要な科目であるが、日々の生活の中での、心の安らぎや人格の成長に関心のある人にも役に立つ内容を学習する。

評価方法その他
定期試験60%、平常点40%
平常点は、出席、学習態度、レポート、リアクション・ペーパー等を総合して評価する。

週　テーマ・授業目標等
1. 精神保健の概要・意義と課題
2. ストレスマネージメント
3. ライフサイクルにおける精神保健(胎児期・乳幼児期)
4. ライフサイクルにおける精神保健(学童期・思春期)
5. ライフサイクルにおける精神保健(青年期・成人期)
6. ライフサイクルにおける精神保健(老年期)
7. 精神保健における個別的課題への取組(精神障害者対策)
8. 精神保健における個別的課題への取組(認知症対策)
9. 精神保健における個別的課題への取組(アルコール依存症)
10. 精神保健における個別的課題への取組(薬物乱用防止)
11. 精神保健における個別的課題への取組(思春期の精神保健)
12. 精神保健における個別的課題への取組(自殺予防)
13. 精神保健における個別的課題への取組(ターミナルケア)
14. 精神保健における個別的課題への取組(職場メンタルケア)
15. 災害時における精神保健
16. テスト

使用教科書名
新・精神保健福祉士養成講座2　精神保健の課題と支援
日本精神保健福祉士養成校協会編集　中央法規出版

NO. G05102601　精神保健学Ⅱ

中島　直行

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

精神保健活動を通して社会に貢献するために必要な、学生自身の心の健康、成長の糧となる授業を目指す。よって精神保健の基本、各論を学ぶにあたり、できるだけ具体的に精神保健への取り組みをイメージしながら学生が主体的に学習に参加することを大切にする。

学習目標・到達目標

精神保健学は、カウンセリングなど対人援助をめざすための基盤であるが、自らが社会人として成長していくための糧となる知識でもある。人間の心の健康がそこなわれる原因を理解し、そこからの回復のためにどのような工夫が必要か、またどのような制度や支援があるのかを理解することを学習目標とする。本科目は精神保健福祉士国家試験に必要な科目であるが、日々の生活の中での、かかわっていく人格の成長に関心のある人にも役に立つ内容を学習する。

評価方法その他

定期試験60%、平常点40%
平常点は、出席、学習態度、レポート、リアクション・ペーパー等を総合して評価する。

週　テーマ・授業目標等

1. 精神保健活動を進めるにあたって
2. 家庭における精神保健
3. 学校における精神保健
4. 職場における精神保健その1
5. 職場における精神保健その2
6. 震災関連（メンタルケアにおける人と人とのつながり）
7. 地域精神保健施策の概要
8. 関連法規
9. 関連施策
10. 諸外国における精神保健対策の現状
11. 世界的に見た精神保健の流れ
12. 今日における重要な精神保健課題（自殺対策）
13. 今日における重要な精神保健課題（高齢化社会、末期医療）
14. なぜこんなに心の健康が保ちにくくなったのか
15. 人を支えるということ
16. テスト

使用教科書名

新・精神保健福祉士養成講座2　精神保健の課題と支援
日本精神保健福祉士養成校協会編集　中央法規出版

NO. G05102901　自然体験活動演習Ⅰ

金子　和正

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

小学校教育で施行される長期自然体験活動指導者の育成を目的とする。キャンプや自然体験のより多くの経験を積み、実践経験を通して得た知識をもつ指導者の養成を目的とする。様々な条件に臨機応変に対応できる指導者、対象者や環境を考慮した指導者の育成。

学習目標・到達目標

小学校で実施される長期自然体験活動プログラムに、積極的に参加できる能力をもった人材の育成を目的とする。実践体験を積んだ的確な判断ができる指導者の育成を目指す。

評価方法その他

実習のオリエンテーション及び実習への参加をもって単位の認定をする。オリエンテーション50%、実習参加50%

週　テーマ・授業目標等

9月上旬に本学山の家（蓼科）を中心に4泊5日で実施する。

・自然環境に対する考え方

・自然体験活動のとらえ方

・自然体験かつ指導者とは

・自然の中での危機管理と救急法

・子どもと自然体験活動

・生きる力、感動体験

・自然の中で生活する知恵と技術

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G05103001　自然体験活動演習Ⅱ

金子　和正

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

自然体験活動演習Ⅰで学んだ知識や技術をさらに充実し、特に冬季の自然体験活動を中心に実施する。雪の中での遊びやゲーム、スキーやスノーボードでの雪山の楽しみ方、さらにテントでの宿泊体験も経験する。自然体験が夏季中心のなかで実施されている現況の中で、冬季の自然体験の素晴らしさを経験していく。

学習目標・到達目標

2015年度から全国の小学校で実施される長期自然体験活動。活動のメインとなるプログラムを積極的に企画・実施でき、またその評価ができるようになることを目的とする。様々な場面で多くの子ども達に楽しみや喜びを与えられ、さらに危機管理能力をも備えた人材の育成を目指す。

評価方法その他

実習への参加をもって評価の対象とする。オリエンテーション50%、実習参加50%

週　テーマ・授業目標等

本学の蓼科高原にある山の家を使用して3泊4日の集中授業を実施する。

雪上での伝承遊びやゲーム、スキー、スノーボード、雪上でのテント泊、キャンプファイヤーや飯ごう炊飯を学ぶ。また寒さに対する防寒方法、危機管理やクライシスマネイジメントについても学習する。

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G05103201　ナチュラルセラピー

川人　紫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「ナチュラルセラピー」は、現代西洋医学だけでは解決できない人の心と身体の問題を、植物など自然の力を利用することによって解決するための自然療法である。特に「アロマセラピー（芳香療法）」は、EBM(医学的根拠)が確立した「ナチュラルセラピー」として、今や多くの医療及び福祉施設でも応用されている。
授業では、ナチュラルセラピー及びアロマセラピーの定義や歴史、精油の知識からアロマトリートメントの方法まで広く学ぶことにより、知識、技術と徳性を兼ね備えたセラピストとしての資質を養うことを目的とする。

学習目標・到達目標

社会でナチュラルセラピーが必要とされている現状と背景を理解した上で、アロマセラピーの理論を学ぶ。一般的な癒しとして要求されるアロマセラピーのレベルを超えて、医療や福祉、教育の現場で活用することのできる、高度な知識と専門的な技術、豊かな徳性を身につけることを目標とする。

評価方法その他

授業中の小テスト(80%)
平常点(20%)

週　テーマ・授業目標等

1. ナチュラルセラピーの定義と種類・癒し産業の市場規模
2. アロマセラピーの定義・アロマセラピーの使用方法・アロマバスソルトづくり
3. アロマセラピー関連の職業・アロマセラピーの歴史
4. 認知症とアロマセラピー・アロマスプレーづくり
5. 精油の品質と選びかた・精油の製造方法
6. アロマセラピーで使われる代表的な精油と作用・アロマせっけんづくり
7. 精油の使い方と注意
8. 精油の特徴と効果・香水づくり
9. 生活を豊かにする香り
10. 医療・福祉領域におけるナチュラルセラピー1・アロマトリートメント実習
11. 医療・福祉領域におけるナチュラルセラピー2・アロマトリートメント実習
12. 医療・福祉領域におけるナチュラルセラピー3・アロマトリートメント実習
13. 香りと地方創生
14. ナチュラルセラピーとソーシャルビジネス
15. まとめ

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G05103301　園芸論

本田　ともみ

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

植物と人間の関係は従来の衣食住などの関わりだけでなく、近年においては精神的・文化的側面からも期待や関心が高まっている。その活用の１つに園芸療法がある。本講義では、園芸療法を実践する上で基礎となる園芸学全般について説明する。

学習目標・到達目標

園芸療法を行う上で必要となる基本的な植物の構造や生態系について知るとともに、地域特性、農作物に関する知見を深める。

評価方法その他

試験及びレポートにより評価し、点数が60点以上の場合に単位を与える。原則として5回以上欠席した場合は不可とする。
【評価割合】試験60%、レポート40%

週　テーマ・授業目標等

1. 授業ガイダンス:園芸とは？－私たちの身の回りの植物について考える
2. 種子と発芽:多様な種子と発芽条件について知る
3. 分類と構造:植物の分類と構造について知る
4. 生育環境1:光合成のしくみについて知る
5. 生育環境2:植物と水の関係について知る
6. 生育環境3:土壌の構造や性質について知る
7. 植物の生長:生長に必要な肥料について知る
8. 環境ストレス:植物が受ける環境ストレスについて知る
9. 植物の管理:生長のための管理方法について知る
10. 植物の繁殖:植物の繁殖方法について知る
11. 地域特性1:日本における植生分布について知る
12. 地域特性2:日本における農作物について知る
13. 地域特性3:世界における植生分布について知る
14. 植物の多様性:多様な植物の生態系について整理する
15. 学外見学:都内の植物園で生態系を観察する
16. 定期試験

使用教科書名

特に指定しない

NO. G05105901　心理学研究法

加地　雄一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

心理学分野における研究法の基礎から応用にいたるまでをわかりやすく実演・講義する。科学的研究の原理から始め、行動観察、アンケート法による各種調査、実験計画法による心理学研究のデザインのたてかた、得られたデータの処理と分析法、結果の解釈、研究結果のプレゼンテーション、研究における倫理的問題等について具体的に紹介する。
心理学a、bを履修していること。

学習目標・到達目標

新たな知識・情報を学習し日常生活場面への活用も考える。

評価方法その他

期末試験80%、平常点（出席・コメント等の参加度）20%

週　テーマ・授業目標等

第1週　心理学研究法の紹介
第2週　科学的研究とは　1
第3週　科学的研究とは　2
第4週　仮説の立て方について（帰納と演繹）
第5週　データによる行動の記述　1（行動観察）
第6週　データによる行動の記述　2　（データの集計とビジュアル化）
第7週　心理統計について　1　（統計の基礎）
第8週　心理統計について　2　（有意差の検定）
第9週　実験計画法　1
第10週　実験計画法　2
第11週　アンケートによる調査について　1（調査計画）
第12週　アンケートによる調査について　2　（結果の分析と解釈）
第13週　心理学的アセスメント　1　（パーソナリティ）
第14週　心理学的アセスメント　2　（知能）
第15週　心理学的アセスメント　3　（行動）
第16週　試験

使用教科書名

教材を毎回の授業に先立ちウェブサイトから提供します。
http://ichiichi3.web.fc2.com/index.htm

資　格　科　目

NO. 610001001　教師論

佐藤　広美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

教師とはどのような仕事をする職業なのかを論じます。その職務、身分、研修など。現代の教師にとって最も重要な仕事の一つは、子どもをどうとらえるか、です。つまり、教師の子ども観です。これは、みなさん自身の問題に直接つながる問題でもあります。また、教師以外の職業選択についても考えます。

学習目標・到達目標

子どもを理解するとは、どのようなことなのか。この課題が、じつは、大変に困難な課題であることが分かること、である。子どもを理解するとは、自分自身を考えることであり、自分の問題を通して、教師論の課題が理解されなければならない。教師の仕事は、どのように教材を教えるかだけではない、さまざまな仕事を持っており、学級経営や同僚との関係維持、保護者や地域の人々との話し合い、があることを理解すること。

評価方法その他

平常点15%、試験85%、など総合評価

週　テーマ・授業目標等

1. 教師をめざす人たちへ
2. 現代における子ども・青年
3. いじめ自殺問題
4. 学力と競争
5. 暴力と子ども
6. 消費社会と子ども
7. 登校拒否
8. 思春期・青年期とは何か
9. 現代の教師とは
10. 身分と服務
11. 教師の養成と研修
12. 父母と地域との共同
13. 教育にたずさわる人びと
14. 社会教育施設、福祉施設の職員
15. NPO関連の人びと
16. 試験

使用教科書名

特に指定はしない。

NO. 610002001　教育原理

河田　敦子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

教育が人間にとってどのような意味をもっているかを根本的に考えるために、人類の歴史、教育の歴史、教科書問題、学力とは何か、生涯教育の必要性、子どもの権利等の多様な観点から理解が深められるように授業を行う。

学習目標・到達目標

教育が人間固有の営みであることを理解し、現代教育問題の本質にあるものを見つめられるようになることを学習目標とする。教育の意義を理解することで、教職を志す者としての心構えを身につけ、広い視野で社会貢献できる教員を目指す姿勢が備わることも目標である。

評価方法その他

平常点30%、小テスト20%、最終レポート50%で総合評価。
積極的な授業参加態度と真面目に考える姿勢を持つことが評価のポイントとなる。

週　テーマ・授業目標等

1. 教育が人間にとってもつ意味
2. 人間は教育をどのように考えてきたか
3. 「子ども」の発見
4. 西洋における教育の歴史
5. 近代日本に影響を与えた西洋教育思想
6. 近世日本の教育思想
7. 近世日本の教育者たち
8. 近代日本公教育制度の歴史(1)学制の頒布と教育令
9. 近代日本公教育制度の歴史(2)初代文部大臣森有礼の教育政策と教育勅語
10. 教科書の歴史
11. 大正自由教育運動について
12. 学力とは何か
13. 学力はどのように評価できるか
14. 生涯教育
15. 現代日本における教育課題

使用教科書名

田嶋一ほか『やさしい教育原理　改訂版』有斐閣

NO. 610002031　教育原理

佐藤　広美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

1，教育とは何か、を論じる。人間にとって教育とは何か、教育は発達に働きかける営みである、ことを論じる。2，学校とは何か、を論じる。古代の学校はなぜ、成立したのか、そして、近代学校はどのよう成立したのか、を論じる。
3，つぎに、学力とは何か、授業とは何か、教育評価はどうあるべきか、教育課程の編成原理について、生活指導とは何か、そして、道徳教育の意義、ついて論じる。教育の内的事項の説明である。
最後の、4，教師の仕事とは何か、教育行政の原理とは何か、を論じる。
現代日本の教育現実を批判的に見つめ、どのような改革が必要か、自分の頭で考え[illegible]

学習目標・到達目標

テキストを厳密に読み、理解することができるようにすること。
教育の基本原理(教育、学校、教育評価、教育課程、授業づくり、生活指導、教育行政、教師、子どもの権利など)について、簡潔に、説明できるようになること。
実際の教育現場の具体的問題を教育の理論問題にして考える能力をつけてもらいたい。つまり、教育問題の理論的解決という姿勢の形成、である。

評価方法その他

平常点20%、試験80%、など総合評価。
教科書の要点や講義の話しなど、きとっと自分のノートにまとめておくことが肝心である。
自宅に帰ったら、かならず、家庭学習ノート(KGノート)を再度、つくること。KGノートを作成しなければ、おそらく、単位修得は難しいだろう。

週　テーマ・授業目標等

1. 教育学を学ぶ、主体的契機とは
2. 教育とは何か一人間と教育の関係
3. 教育とは何か一発達と教育の関係
4. 文明と学校の誕生
5. 近代学校の成立、
6. 学力とは何か、学習指導要領とは何か、
7. 教育評価とは何か
8. 教育課程の編成原理
9. 生活指導とは何か
10. 道徳教育の意義
11. 授業とは何か
12. 教師の仕事
13. 教育行政の課題一教育を受ける権利
14. 教育行政の課題一教師の自由
15. 教育行政の課題一地域に開かれた学校
16. 試験

使用教科書名

田嶋一ほか『やさしい教育原理　改訂版』有斐閣

NO. 610003001　教育心理学

木村　文香

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

学校・家庭・社会でよりよい教育を展開するために必要な、教育心理学の基礎的概念と基本的事項を様々な具体例から習得させ、生涯発達的観点から乳児期から死に至るまでの能力の発達過程と、個々の発達に応じた教育的対応への理解を深めさせる。障害のある幼児、児童・生徒の心身の発達及び学習の過程も理解させ、実践的な問題解決能力を習得させる。

学習目標・到達目標

「教師」という立場で、生徒、保護者、他の教師、関連諸機関に接するにあたり、必要な教育心理学的な知識、およびと心理学に基づく考え方やものの見方を概観する。その上で、生徒にまつわるさまざまな現場での問題解決手段の一つとして、これらの考え方やものの見方を用いることができるようになることをこの授業の到達目標とする。そのため、テキストや資料を基にした講義を行うが、受講者が主体的に「考える」ことを重視する予定である。

評価方法その他

授業への姿勢(50%)、及び定期試験の結果(50%)をもとに総合的に判断します。

週　テーマ・授業目標等

1.イントロダクション――教育心理学とは――
2.発達と教育1――家族と発達――
3.発達と教育2――身体・運動機能の発達――
4.発達と教育3――認知の発達――
5.発達と教育4――社会性――
6.個別性の客観的な評価――パーソナリティと知能――
7.子どもの学び1――動機づけ――
8.子どもの学び2――学習のメカニズム――
9.子どもの学び3――記憶と技能学習――
10.特別支援教育と障害1――特別支援教育とは――
11.特別支援教育と障害2――障害特性――
12.教育評価
13.学級集団――適応と不適応――
14.現代の教育問題
15.総括
16.定期試験

使用教科書名

『教育心理学』丸善出版　¥2,700

NO. 610004001　教育制度論

佐藤　広美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
近代日本における教育制度の展開を論じる。教育制度は、教育政策と教育運動のダイナミックな動きによって、改編されてきた。教育政策の本質と機能、教育運動の果たした役割などを講じる。戦前と戦後、その違いが重要であるので、特に詳しく論じたい。また、今後の教育制度上の課題は何か、具体的に論じたい。

学習目標・到達目標
テキストをきちっと読みこなすことが重要。要約を求める。要約をした上で、自分の感想を、述べることができること。
日本の教育制度が、どのような変遷をたどったのか、とくに、教育政策と教育運動（民衆の教育要求）との関連というその事実をふまえて理解できること。そして、未来に向かって、いかなる教育制度上の課題を解決する必要があるのか、具体的にイメージできることが重要である。

評価方法その他
平常点15%、試験85%、など総合評価。

週　テーマ・授業目標等
1. 教育政策と教育運動
2. 明治国家の成立と教育制度の展開
3. 学制頒布
4. 自由民権運動と教育政策
5. 教育勅語
6. 天皇制国家体制と教育制度の改編
7. 教育制度の拡充（女子教育、実業教育、高等教育）
8. 社会主義運動と教育政策
9. 大正期新教育運動
10. 臨時教育会議
11. 新教育運動、芸術教育運動
12. 戦時教育体制と教育運動
13. 戦後教育改革
14. 教育基本法の成立
15. 教育を受ける権利、など
16. 試験

使用教科書名

NO. 610005001　教育課程論

河田　敦子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
講義形式で行います。授業で教授した知識が積み重ねられているかを小テストで確認しながら進めます。学力とは何か、どのように教育し評価することができるか、という課題に取り組みます。
将来教員となった時に、より広い視野で多様な観点で、生徒の可能性を引き出し、学習意欲を高める教育ができるようになる理論的知識を修得することを目的に授業を行います。

学習目標・到達目標
どのようにしたら教育の目標を遂成できるかを考え、その目標遂成のためのより効果的な教育の道筋を組み立てていくのが教育課程論です。基礎的な学習理論や授業設計、教育評価の手法を学ぶことによって、より良い教育とは何かを考えられるようになる基礎的能力を身につけることを学習目標とします

評価方法その他
平常点(20%)
小テスト2回(30%)
期末試験(50%)
により評価する。

週　テーマ・授業目標等
1. 教育課程とは何か
2. 諸外国の教育課程論（コメニウス・デューイ）
3. 諸外国の教育課程論（タイラー・ブルーナー）
4. 日本の教育課程論　学習指導要領の歴史(1)
5. 日本の教育課程論　学習指導要領の歴史(2)
6. 教育評価
7. 諸外国のカリキュラム編成
8. 試験

使用教科書名
『教育課程論』／柴田　義松　（編著）／学文社／2013年

NO. 610006001　家庭科教育法A

植竹　桃子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
家庭科は、人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させ、主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる教科である。教材研究、学習指導案の作成、模擬授業などを通して、特に衣食住に関する消費者教育を軸に、家庭科教師としての実践力を養う。

学習目標・到達目標
家庭科の教員においては、生徒が主体的に生活を見直し改善するよう指導するための能力が求められている。家庭科教員に求められる指導能力を、実践を通して開発する。

評価方法その他
平常点（ビデオ教材分析、グループ研究活動等）：40点
授業記録（アースノートへの授業記録・自宅学習記録）：20点
学期末試験：40点

週　テーマ・授業目標等
1. 家庭科とは、アースノートの書き方
2. 学習指導要領、家庭科の歴史とジェンダー、グループ分け
3. 学習指導案の書き方
4. 家族・家庭経済・消費者領域の学習内容と課題
5. 衣・住領域の学習内容と課題
6. 食領域の学習内容と課題
7. 学習指導案の作成／映像教材による教材研究(1)家族・家庭経済・消費者
8. 学習指導案の作成／映像教材による教材研究(2)衣・食・住領域
9. 家庭科教員の役割、授業計画
10. 家庭科教育の事例
11. 学習指導案グループ研究発表（1）家族、子ども、高齢者
12. 学習指導案グループ研究発表（2）食生活、衣生活、住生活
13. 学習指導案グループ研究発表（3）消費行動、家庭経済
14. 家庭科教育の現場について
15. 教育実習報告会
16. 学期末試験

使用教科書名
(1)学習指導要領解説（高等学校　家庭）／文部科学省
(2)高等学校　家庭総合　パートナーシップでつくる未来／実教出版

NO. 610006031　家庭科教育法A

上村　協子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
家庭科は、人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させ、主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる教科である。教材研究、学習指導案の作成、模擬授業などを通して、特に衣食住に関する消費者教育を軸に、家庭科教師としての実践力を養う。

学習目標・到達目標
家庭科の教員においては、生徒が主体的に生活を見直し改善するよう指導するための能力が求められている。家庭科教員に求められる指導能力を、実践を通して開発する。

評価方法その他
平常点（ビデオ教材分析・教育実習報告会への参画等）：40点
授業記録（アースノートへの授業記録・自宅学習記録）：20点
学期末試験：40点

週　テーマ・授業目標等
1. 家庭科とは（アースノート記入方法説明）
2. 学習指導要領、家庭科の歴史とジェンダー、グループ分け
3. 学習指導案の書き方
4. 家族・家庭経済・消費者領域の学習内容と課題
5. 衣・住領域の学習内容と課題
6. 食領域の学習内容と課題
7. 学習指導案の作成／映像教材による教材研究(1)家族・家庭経済・消費者
8. 学習指導案の作成／映像教材による教材研究(2)衣・食・住領域
9. 家庭科教員の役割、授業計画（家庭科教員経験者による）
10. 家庭科教育の事例（家庭科教員経験者による）
11. 学習指導案グループ研究発表（1）家族、子ども、高齢者
12. 学習指導案グループ研究発表（2）食生活、衣生活、住生活
13. 学習指導案グループ研究発表（3）消費行動、家庭経済
14. 家庭科教育の現場について（教育現場の教員による）
15. 教育実習報告会
16. 学期末試験

使用教科書名
(1)学習指導要領解説（高等学校　家庭）／文部科学省
(2)学習指導要領解説（中学校　技術・家庭）／文部科学省
(3)高等学校　家庭総合　パートナーシップでつくる未来／実教出版

NO. 610007001　家庭科教育法B

植竹　桃子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
家庭科全般にわたる広い視野から、また消費者教育を軸として、学習指導案および教材研究を行う。全員が模擬授業を行い、評価し合う。

学習目標・到達目標
家庭科教育法Aとの継続をはかりながら、家庭科教員に求められる指導能力を、実践を通じて開発する。

評価方法その他
平常点(学習指導案・授業用教材など):40点
授業記録(アースノートへの授業記録・自宅学習記録):20点、
学期末試験:40点

週　テーマ・授業目標等
1. 授業の進め方、学習指導案の確認
2. 指導教材の作成
3. 学習指導案・指導教材研究事例紹介(1)消費者教育
4. 学習指導案・指導教材研究事例紹介(2)食生活
5. 学習指導案の作成・考察および模擬授業(1)家族
6. 学習指導案の作成・考察および模擬授業(2)子ども・高齢者
7. 学習指導案の作成・考察および模擬授業(3)食生活
8. 学習指導案の作成・考察および模擬授業(4)衣生活
9. 学習指導案の作成・考察および模擬授業(5)住生活
10. 学習指導案の作成・考察および模擬授業(6)消費行動
11. 学習指導案の作成・考察および模擬授業(7)家庭経済
12. 学習指導案・教材作成および模擬授業の振り返り
13. 家庭科教員への道
14. 模擬授業ビデオ撮影
15. まとめ
16. 学期末試験

使用教科書名
「家庭科教育法A」と同一
(1)学習指導要領解説(高等学校　家庭)／文部科学省
(2)高等学校　家庭総合　パートナーシップでつくる未来／実教出版

NO. 610007031　家庭科教育法B

上村　協子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
家庭科全般にわたる広い視野から、また消費者教育を軸として、学習指導案および教材研究を行う。全員が模擬授業を行い、評価し合う。

学習目標・到達目標
家庭科教育法Aとの継続をはかりながら、家庭科教員に求められる指導能力を、実践を通じて開発する。

評価方法その他
平常点(学習指導案・授業用教材など):40点
授業記録(アースノートへの授業記録・自宅学習記録):20点
学期末試験:40点

週　テーマ・授業目標等
1. 授業の進め方、学習指導案の確認
2. 指導教材の作成
3. 学習指導案・指導教材研究事例紹介(1)消費者教育
4. 学習指導案・指導教材研究事例紹介(2)食生活
5. 学習指導案の作成・考察および模擬授業(1)家族
6. 学習指導案の作成・考察および模擬授業(2)子ども・高齢者
7. 学習指導案の作成・考察および模擬授業(3)食生活
8. 学習指導案の作成・考察および模擬授業(4)衣生活
9. 学習指導案の作成・考察および模擬授業(5)住生活
10. 学習指導案の作成・考察および模擬授業(6)消費行動
11. 学習指導案の作成・考察および模擬授業(7)家庭経済
12. 学習指導案・教材作成および模擬授業の振り返り
13. 家庭科教員への道(在学生などからの報告)
14. 模擬授業ビデオ撮影
15. まとめ
16. 学期末試験

使用教科書名
「家庭科教育法A」と同一
(1)学習指導要領解説(高等学校　家庭)／文部科学省
(2)高等学校　家庭総合　パートナーシップでつくる未来／実教出版

NO. 610008001　家庭科教育法C

石川　麗子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
家庭科教育法A，Bで学習した中学校「技術・家庭」の「家庭分野」と高等学校「家庭」の目標及び内容について確認する。家庭科の授業づくりでは教材研究、年間指導計画、題材（単元）別指導計画、学習指導案の作成、模擬授業を通して実践力を高める。

学習目標・到達目標
家庭科の教育目標と学習内容を理解し、社会の変化に対応して教材を設計するための情報収集力、それらを活用した授業が想像し、中高の授業時間に沿った学習指導案を作成し、模擬授業を通して家庭科教師として必要な指導力等を養う。

評価方法その他
小レポート、学習指導案、模擬授業案などの課題提出。･･･70%
模擬授業の発表と質疑応答。･･･30%

週　テーマ・授業目標等
1. オリエンテーション
2. 家庭科教育の目標と内容、授業形態、授業計画
3. 家庭科教育の意義、指導方法
4. 学習指導案の作成および模擬授業・省察
5. 学習指導案の作成および模擬授業・省察
6. 学習指導案の作成および模擬授業・省察
7. 学習指導案の作成および模擬授業・省察
8. 学習指導案の作成および模擬授業・省察
9. 学習指導案の作成・考察および模擬授業・省察
10. 学習指導案の作成・考察および模擬授業・省察
11. 学習指導案の作成・考察および模擬授業・省察
12. 学習指導案の作成・考察および模擬授業・省察
13. 学習指導案の作成・考察および模擬授業・省察
14. 教育実習報告会
15. 学習指導案の作成・考察および模擬授業・省察
16. 総括

使用教科書名
中学校 技術・家庭科学習指導要領解説
高等学校 家庭科学習指導要領解説 家庭編
家庭総合 パートナーシップでつくる未来(実教出版)

NO. 610008031　家庭科教育法C

小野瀬　裕子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
中学校技術・家庭科の「家庭分野」の目標及び内容、高等学校家庭科の目標及び内容、各領域ごとの具体的な知識と内容を確認し、家庭科教師として、家庭科の授業をつくる実践力を身につける。
①各項目の目標と内容確認・指導計画
②教材研究
③授業の形態
④学習指導案の作成
⑤模擬授業・省察・改善

学習目標・到達目標
家庭科は、生活が家庭・地域・社会のつながりのうえに成り立っていることを踏まえて、衣食住、情報、産業の基礎的な知識と技能を養うとともに、それらを活用して生活課題を解決し、より良い生活を工夫創造していく科目である。中学校と高等学校の家庭科の目標及び内容を各領域ごとに確認し、生徒自身が主体的に取り組める教材を研究し、学習指導案作成と模擬授業を実施することにより家庭科教員としての授業実践力を養う。

評価方法その他
各時間、講義・演習に関しての小レポート、学習指導案、模擬授業案などの課題を提示、次の授業時に提出。･･･80%
模擬授業の発表と質疑応答。･･･20%

週　テーマ・授業目標等
1.オリエンテーション
2.家庭科教育の目標と内容 自立と共生
3.家庭科教育の目標と内容 問題解決と生活文化
4.人とのかかわり(家族・保育・福祉)のポイントと学習指導案の作成
5.食生活のポイントと学習指導案の作成
6.住生活のポイントと学習指導案の作成
7.生活のポイントと学習指導案の作成
8.経済生活のポイントと学習指導案の作成
9.模擬授業　家族・子ども・高齢者
10.模擬授業　食生活
11.模擬授業　住生活
12.模擬授業　衣生活
13.教育実習報告会
14.模擬授業　経済生活
15.模擬授業の省察・改善

使用教科書名
荒井紀子編著『生活主体を育む』ドメス出版,￥2400
『スキルアップ家庭科2016』大修館書店,￥700
中学校 技術・家庭科学習指導要領解説
高等学校　家庭科学習指導要領解説　家庭編

NO. 610009001　家庭科教育法D

石川　麗子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
家庭科教育法Cを継続しながら家庭科の目標と学習内容を確認する。家庭科の授業づくりをとおし学習指導の諸方法における留意点等また評価の意義、目的等を具体的に学び、家庭科教師としての実践力を養う。

学習目標・到達目標
家庭科の教育目標と学習内容を理解し、中高の授業時間に沿った学習指導案を作成し、模擬授業を通して家庭科教師として必要な指導力等を養う。

評価方法その他
小レポート、学習指導案、模擬授業案などの課題提出。･･･70%
模擬授業の発表と質疑応答。･･･30%

週　テーマ・授業目標等
1. オリエンテーション、学習指導案の作成および模擬授業
2. 学習指導案の作成および模擬授業・省察
3. 学習指導案の作成・考察および模擬授業・省察
4. 学習指導案の作成・考察および模擬授業・省察
5. 学習指導案の作成・考察および模擬授業・省察
6. 学習指導案の作成・考察および模擬授業・省察
7. 学習指導案の作成・考察および模擬授業・省察
8. 学習指導案の作成・考察および模擬授業・省察
9. 学習指導案の作成・考察および模擬授業・省察
10. 学習指導案の作成・考察および模擬授業・省察
11. 学習指導案の作成・考察および模擬授業・省察
12. 学習指導案の作成・考察および模擬授業・省察
13. 学習指導案の作成・考察および模擬授業・省察
14. 学習指導案の作成・考察および模擬授業・省察
15. 学習指導案の作成および模擬授業・省察
16. 総括

使用教科書名
中学校 技術･家庭科学習指導要領解説
高等学校 家庭科学習指導要領解説 家庭編
家庭総合 パートナーシップでつくる未来(実教出版)

NO. 610009031　家庭科教育法D

小野瀬　裕子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
家庭科教育ＡＢＣにおいて学習した中学校技術・家庭科「家庭分野」の目標及び内容、高等学校家庭科の目標及び内容を確認しながら、生徒が主体的に取り組み、生活改善を考える家庭科の授業づくりを行う。
特に、家庭科の特色ある指導方法や教材研究の工夫をすることに重点を置き、学生各自が一時間の学習指導案を作成して模擬授業を行い、その省察・改善から家庭科の授業の実践力を養う。

学習目標・到達目標
家庭科は、生活が家庭・地域・社会のつながりのうえに成り立っていることを踏まえて、衣食住、情報、産業の基礎的な知識と技能を養うとともに、それらを活用して生活課題を解決し、より良い生活を工夫創造していく科目である。中学校と高等学校の家庭科の目標及び内容を各領域ごとに確認し、生徒自身が主体的に取り組める教材を研究し、学習指導案作成と模擬授業を実施することにより家庭科教員としての授業実践力を養う。

評価方法その他
各回の講義と演習に関しての小レポートの合計点･･･30%
各項目ごとの学習指導案、模擬授業、省察・改善･･･70%

週　テーマ・授業目標等
1. オリエンテーション
2. 家庭科で行う特色ある学習指導　様々な授業形態
3. 年間指導計画と学習指導案、評価
4. 学習指導案の検討　家族とのかかわり・福祉
5. 学習指導案の検討　衣食住・経済
6. 模擬授業
7. 模擬授業
8. 模擬授業
9. 模擬授業
10. 模擬授業
11. 模擬授業
12. 模擬授業
13. 模擬授業の 省察・改善
14. 指導計画と学習指導案のまとめ
15. 家庭科教育の現状と課題、総括

使用教科書名
荒井紀子編著『生活主体を育む』ドメス出版,￥2400
『スキルアップ家庭科2016』大修館書店,￥700
中学校 技術･家庭科学習指導要領解説
高等学校 家庭科学習指導要領解説 家庭編

NO. 610020001　福祉科教育法A

嶋田　芳男

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
高等学校における福祉科の学科において教授するために必要な基本的な教育方法と教授法を学ぶための科目として位置づけられている。福祉科教育法Aでは、福祉科の教育目標、及び内容、指導計画の立て方、学習指導案の作成、教材研究について学修する。

学習目標・到達目標
福祉科で展開する授業の教育目標、学習指導案の作成ができるようになる。

評価方法その他
筆記試験50%　レポート30%
平常点(20%)授業への参加状況等、総合的に判断する。

週　テーマ・授業目標等
1. 福祉科教育の意義　教科「福祉」の創設とその意義
2. 教科の位置づけと「福祉に関する学科」設置
3. 福祉の概念、理念と教科「福祉の構造」
4. 福祉科の学習指導・学習指導要領の解説
5. 学習指導と能力育成
6. 学習指導の形態
7. 福祉科の教育課程、教育課程の編成
8. 福祉科の構成
9. 福祉科の教育課程
10. 福祉科の教材研究と評価学習教材の研究
11. 学習資料の活用
12. 学習指導と評価
13. 福祉科授業の方法
14. 社会福祉の理解
15. まとめ
16. 試験

使用教科書名
福祉科教育法
硯川眞旬･佐藤豊道･柿本誠編著
ミネルヴァ書房
2004年

NO. 610021001　福祉科教育法B

嶋田　芳男

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
福祉科教育法Ｂでは、学習指導の方法、評価の方法、福祉教育の動向を踏まえた今後の方向性と展望、課題について事例をもとに検討していく。また、教育実習において実践した成果について結果を考察し、将来、福祉科の教員として教育現場での実践に有用な基礎を構築していく。

学習目標・到達目標
模擬授業を通して、学習指導案をもとに授業の展開ができるようになり、結果について考察、再検討ができるようになる。

評価方法その他
プレゼンテーション・授業実践50%で判定する.
レポート30%
平常点(10%)授業への参加状況など総合的に判断する。

週　テーマ・授業目標等
1. 福祉科教育法の実際　教育計画の作成法
2. ノーマライゼーションと共生の教育法
3. 高齢者に関する教育法
4. 児童、家族に関する教育法
5. 生存権と生活保護に関する教育法
6. バリアフリーに関する教育法
7. ボランテイア活動、フォーマルインフォーマル資源に関する教育法
8. 障害者、高齢者の介護に関する教育法
9. 相談面接の教育法
10. 教材研究と指導案作成の実際　その1
11. 教材研究と指導案作成の実際その2
12. 模擬授業1
13. 模擬授業2
14. 模擬授業3
15. 評価と考察
16. 試験

使用教科書名
福祉科教育法
硯川眞旬･佐藤豊道･柿本誠編著
ミネルヴァ書房
2004年

NO. 610022001	道徳教育論(小)
	河田　敦子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

子ども・青年のなかにある発達しつつある人間的な知性と徳性とは何か、を考える。そのために、日本の近代以降の道徳教育の理念や実態、その問題点を明らかにする。そして、今日の子ども・青年の道徳性をめぐる生活や意識の実態についても論じる。

学習目標・到達目標

道徳教育の歴史をまずは論じたいので、道徳教育が近代日本の教育の中で、きわめて重要な位置づけをもっていたことを理解すること。
知識と道徳性の発達という、この両者の関係を考えられるようになってほしい。知識の形成がどのように道徳性を発達させるのかという、基本課題への自覚である。

評価方法その他

平常点20%、レポート、試験80%、など総合評価。

週　テーマ・授業目標等

1. 道徳教育とは何か
2. 人間形成と道徳
3. 道徳性の発達
4. 今日の子ども・青年の道徳性(規範意識など)
5. 戦前日本の道徳教育
6. 教育勅語
7. 修身教科書
8. 植民地教科書
9. 戦後の道徳教育
10. 教育基本法と道徳教育
11. 国家と道徳の関係
12. 道徳教育の実際
13. 学習指導要領の変遷
14. 指導案の作成
15. 生徒指導と道徳教育
16. 試験

使用教科書名

特に指定しない。

NO. 610022002	道徳教育論(中・高)
	河田　敦子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

・道徳に関する国内外の歴史および実践に関する知識を深める。
・学生が、現代社会の道徳問題について多様な考え方に触れながら、柔軟な思考と理解力を持ち、発言できるようにする。
・毎時、学生が1人1回ずつ、「心に残る言葉」というテーマで5分程度の発表をする。
・1人20分程度の学習指導案の作成と道徳の模擬授業を行う。

学習目標・到達目標

道徳教育とは、社会的自己を形成することである。自己主張を正しく行い、他者の存在を理解して受け入れ、協調しながら社会生活を営むためにはどのようにしたらよいのかを考え、教員として学習指導を実践していく姿勢をもてるようになることを到達目標とする。

評価方法その他

・「心に残る言葉」発表(20%)
・学習指導案の作成(20%)
・模擬授業(30%)
・平常点(30%)
※　平常点は積極的な意見交換およびリアクションペーパーで総合的に評価する。作成

週　テーマ・授業目標等

1. 道徳とは何か
2. 道徳と道徳教育
3. 日本における道徳教育の歴史(1)教育勅語と道徳教育
4. 日本における道徳教育の歴史(2)戦後日本における「道徳の時間」特設
5. 日本における道徳教育の歴史(3)『心のノート』に至るまで
6. 新教育基本法と道徳教育　道徳の教科化
7. 世界の道徳教育(1)道徳性の発達理論：モラルジレンマ
8. 世界の道徳教育(2)諸外国の道徳教育
9. 世界の道徳教育(3)子どもの権利条約成立の歴史的背景
10. 日本における道徳教育と人権
11. 道徳教育と学校教育(いじめ問題について)
12. 道徳の授業の学習指導案の作成
13. 模擬授業(1人20分程度、受講者の人数により変動する)
14. 模擬授業(1人20分程度、受講者の人数により変動する)
15. 講義のまとめ

使用教科書名

特に指定しない
参考文献は授業中に紹介する

NO. 610023001	特別活動論(中・高)
	長谷　徹

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

学校で、家庭で、地域で、子どもたちは、仲間との“かかわり”方に非常なエネルギーを費やしてしまっている。その要因は？また、そのための対策は？今日的な課題は、余りにも多い。本講では、「特別活動の果たすべき役割と課題」「戦後教育史からみた特別活動が意義とその歴史」等を中心として、実践的課題に即して学び合う。
履修条件：教員免許資格に必要

学習目標・到達目標

中学校、高等学校で行われている特別活動の、具体的な目標や内容等についての理解を深め、指導案づくりを経験しながら実践的な指導力を身に付けていくことができる。

評価方法その他

指導案・まとめ　70%　　平常点　30%

週　テーマ・授業目標等

第1週 オリエンテーション
第2週 特別活動で育つ力
第3週 社会性の育成について
第4週 特別活動の目標
第5週 学級活動・ホームルーム活動
第6週 生徒会活動と自主的活動
第7週 小学校のクラブ活動と部活動
第8週 学校行事　1
第9週 学校行事　2
第10週 特別活動の歴史
第11週 特別活動と進路指導
第12週 学級活動(ホームルーム活動)の実践
第13週 学級活動(ホームルーム活動)の指導案の作成
第14週 学級活動(ホームルーム活動)の模擬授業の実施
第15週 まとめと小論文

使用教科書名

学習指導要領　指導書　特別活動(中学校、高等学校)

NO. 610023031	特別活動論
	齋藤　史夫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

ホームルーム（学級）活動・生徒会活動・学校行事からなる特別活動は、「望ましい集団活動を通して，心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り，集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的，実践的な態度を育てるとともに，人間としての在り方生き方についての自覚を深め，自己を生かす能力を養う。」（高等学校学習指導要領）ことが目標とされている。
授業では、学生相互の協力によって、特別活動の実践を模擬的に創造する。今日の教育と生徒の現状を学び、共同して指導案を具体的に構想し、模擬実践する。
履修条件：教員免許資格に必要

学習目標・到達目標

「人格の完成」をめざす教育の目的(教育基本法)の実現のために、学校の教育課程において教科と共に特別活動が位置付けられている。将来の、学校教育の研究的共同実践者である教師として、現場で主体的に研究し、他の教職員と協力して、生徒の自発性をひきだす特別活動を構想・実践する能力を培う。

評価方法その他

特別活動指導案(30%)
模擬授業とプレゼンテーション(30%)
BRD(当日ブリーフレポート)(40%)

週　テーマ・授業目標等

1.特別活動論の課題と目的―授業ガイダンス
2.特別活動実践演習　ホームルーム(学級)開き
3.教育の目的と特別活動1　エピソード記述から探る生徒の願い
4.教育の目的と特別活動2　ホームルーム班活動による教育目標の検討
5.教育の目的と特別活動3　生徒の視点から見た教育の目的(BRD)
6.コミュニケーション能力の育成と特別活動
7.コミュニケーション・ワーク演習1(ホームルーム活動)
8.コミュニケーション・ワーク演習2(学校行事)
9.BRD　今日の生徒とコミュニケーション能力育成の課題
10.事例検討・教師の専門性・生きがいと特別活動
11.憲法・子どもの権利条約・児童憲章・教育基本法
12.特別活動の指導案(生徒会活動)
13.特別活動の指導案(学校行事)
14.特別活動計画と職員会議
15.特別活動論のまとめ(BRD)

使用教科書名

高等学校学習指導要領解説　特別活動編

NO. 610030001　教育方法・技術論（幼・小）

齋藤　毅雄

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

教育方法には、教育内容や教材内容、教育評価、さらに生活指導や学級経営などの問題を含むが、教授・学習指導の領域を中心とする。主に、西洋における教育思想と教育方法の歴史や日本における教育改革と教育方法の歴史を学ぶことを通して、現在の教育方法や技術とのつながりを理解する。具体的な授業のデザインや評価についても取り上げる。

学習目標・到達目標

教育方法とは、教育の目標を達成し、教育の目的である人間形成を図るための道を意味する。教授・学習過程に焦点をしぼり、その原理や一般的理論をふまえながら、問題解決型の授業構成や指導のあり方の基本を理解する。さらに、学校教育で必要な指導技術の基礎的な理解を図る。

評価方法その他

・試験 70%　平常点 30%
・試験：重要な用語を理解し、覚える。
・平常点：授業への積極的な参加状況、レポート

週　テーマ・授業目標等

第1回 西洋における教育思想と教育方法の歴史① 近代教育思想と教授学の成立

第2回 西洋における教育思想と教育方法の歴史② 教育学の体系化と授業の組織化

第3回 西洋における教育思想と教育方法の歴史③ カリキュラム研究の成立と展開

第4回 日本における教育改革と教育方法の歴史① 近代学校制度と授業の成立

第5回 日本における教育改革と教育方法の歴史② 近代学校制度と授業の成立

第6回 日本における教育改革と教育方法の歴史③ 授業改造の試み

第7回 授業をどうデザインするか

第8回 何をどう評価するか

試験

使用教科書名

『新しい時代の教育方法』 田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宜之 有斐閣 2012年

NO. 610030031　教育方法・技術論

木村　文香

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

実践的指導力の土台の構築をこの授業では最終的な目的とする。実践的指導力とは、教師が教育実践において人格育成を目指し子どもにはたらきかける方法と技術の力量を意味している。この構築には、教育方法の実践活動の背後に働いている理論の理解が不可欠である。自分が生徒として体験した経験に基づく教育は、科学的考察に基づく合理的な判断ではないため、同じ結果を安定的に導き出すことが非常に難しい。そのため、子の授業を通して、学問的、理論的な背景をもって、客観的に自分自身や、自分のやり方を見ることができるようになることを目的とする。

学習目標・到達目標

本講義では、教育方法の理論を理解したうえで学校現場での実践的な技術を身につけることを目標とします。

評価方法その他

最終課題と授業への意欲、態度をもとに総合評価を行う。
（最終課題50%、意欲・態度50%）

週　テーマ・授業目標等

1. イントロダクション――教育の「方法」と「技術」とは――

2. 教育評価と学習指導1――学習指導案の作成――

3. 教育評価と学習指導2――子どもの学習促進としての技法――

4. 学級集団の創造と学級経営1――グループのマネージメント――

5. 学級集団の創造と学級経営2――発問づくりの方法と集団思考の展開――

6. 学級集団の創造と学級経営3――子どもを理解するための方法と技術――

7. 視聴覚教材の活用と技術1――ICTの活用――

8. 視聴覚教材の活用と技術2――特別支援における活用と技術――

使用教科書名

使用しない。プリント資料を配布する。

NO. 610031031　生徒指導論

佐藤　博

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

今日の学校現場と向きあいながら、中学生・高校生をとりまく世界といま教室でおきている事実をもとに生徒理解を深め、生徒指導の基本的な考え方と指導法をできるだけ具体的に検討する。優れた教育実践記録にも触れ、テーマに基づく討論や意見交換をふくみ、問題意識の触発と学生の参加・交流のある授業をめざす。
現代の生徒指導の困難と苦悩を見据えながらも、生徒の成長と重ねて自ら学び続ける生徒指導の意義と魅力を伝え、教職への意欲を高めたい。

学習目標・到達目標

中学校・高等学校における生徒指導の意義と役割について理解するとともに、思春期の生徒の成長過程および生徒の発達援助への課題と方法を考察する。
事例をもとに中学生・高校生の実態と具体的な生徒指導について学び、実践的な生徒理解と指導力を身につける。

評価方法その他

レポート・まとめ 70%　平常点 30%

週　テーマ・授業目標等

1 オリエンテーション
2 現代の子ども理解
3 生徒指導とは何か
4 学級づくり・集団の成長と個人の成長
5 思春期と「悪」・少年犯罪と少年法
6 生徒処分と「体罰」・内面に届く指導とは
7 道徳教育・教育課程と生徒指導
8 人間関係トラブルと「いじめ」「不登校」
9 生徒の暴力・発達困難と心的外傷
10 愛と性は教えられるか・男子をどうみるか
11 進路指導とキャリア教育の意義と課題
12 教育相談とカウンセリング
13 保護者への対応と関係諸機関との連携
14 問題行動に関する事例研究
15 事例研究と生徒指導についてのまとめ

使用教科書名

テキストは使用しない。

NO. 610032001　教育相談論（幼小）

木村　文香

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

様々な具体例から、生徒ひとり一人の教育上・発達上の諸問題の問題解決に必要な「教育相談の基礎的な知識と技能、態度、および実践力」を習得し、生徒の適応や発達を促し、充実した学校生活が送れるための支援ができる実践的能力を身につける。

学習目標・到達目標

生徒ひとり一人の教育上・発達上の諸問題の問題解決に必要な「教育相談の基礎的な知識と技能、態度、および実践力」を習得し、生徒の適応や発達を促し、充実した学校生活が送れるための支援ができる実践的能力を身につける。具体的には、学校現場において問題とされている学校不適応等の諸問題を概観し、正しい知識を身につける。その上で、教師として、生徒の学習、健康、生活といった学校適応にどのようにかかわり、またどのように支援していったらよいのかを理解し、身

評価方法その他

最終課題と授業への意欲、態度をもとに総合評価を行う。
（最終課題50%、意欲・態度50%）

週　テーマ・授業目標等

1. イントロダクション――教育相談の目的と領域――
2. 学校における「相談」とは
3. 子どもの発達課題と教育相談1――各発達段階の特徴――
4. 子どもの発達課題と教育相談2――仲間関係の発達――
5. 学校現場における「問題行動」――実態の紹介――
6. 学校現場における「問題行動」の解決に向けて1――校種間移行と不登校に着目して――
7. 学校現場における「問題行動」の解決に向けて2――解決法の概観――
8. 学校現場における「問題行動」の解決に向けて3――具体的な解決法の検討――
9. 学校現場における「問題行動」の解決に向けて4――具体的な解決法の実践的習得――
10. 特別支援教育と教育相談1――歴史的背景と実際――
11. 特別支援教育と教育相談2――現代における問題――
12. 予防・開発的取り組み――アセスメントから具体的技法まで――
13. 学校における教育相談1――予防を目指した取り組みの企画――
14. 学校における教育相談2――予防を目指した取り組みの検討――
15. 総括

使用教科書名

使用しない。

NO. 610035001　教育実習指導

河田　敦子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

教育実習についての事前・事後指導を行う。45分乃至50分の模擬授業がスムーズに実施できるようになり、教科担当の先生や、担任の先生との事前の連絡をしっかり取れるようになることを目的とする。

学習目標・到達目標

まず、教育実習時にしっかりとした授業が実施できるようになることを目標とする。また、実習記録簿がきちっとかけるようになること。たとえば、教材の工夫、教材の配置、教師の働きかけ、児童・生徒の動き、結果と評価などについて、書けること。生徒の生活指導、学級運営、放課後の生徒指導、クラブ・部活の指導、学級給食指導、保護者との応対、などなど、さまざまな活動への関心をしっかり示せるようになること、目標である。

評価方法その他

出席および模擬授業により評価する。

週　テーマ・授業目標等

1. 事前指導としては、以下のような内容をとりあげる。

　授業観察の訓練

2. 模擬授業とその分析

3. 実習日誌の書き方

4. VTRによる実習全般の模擬体験

5. 実習に当たっての諸注意

6. 事後指導としては、以下のような内容をとりあげる。

　実習のまとめ

7,実習報告会（大学教員との懇談）

8,指導案の検討など

使用教科書名

毎回、プリントを用意する。

NO. 610035031　教育実習指導

佐藤　広美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

教育実習についての事前・事後指導を行う。授業実習については教科教育法等で主要事項を扱うので、本授業ではより全般的・包括的な事項を扱う。また、実習実施にあたっての諸連絡もこの時間に行うので、毎時間必ず出席すること。教員免許資格に必要。教育実習参加（派遣）基準に合致していること。

学習目標・到達目標

実習記録簿がきちっとかけるようになること。たとえば、教材の工夫、教材の配置、教師の働きかけ、児童・生徒の動き、結果と評価などについて、書けること。生徒の生活指導、学級運営、放課後の生徒指導、クラブ・部活の指導、学級給食指導、保護者との応対、などなど、さまざまな活動への関心をしっかり示せるような、教師としての基本的な力量の前提が形成されることである。

評価方法その他

出席および毎時のレポートにより評価する。

週　テーマ・授業目標等

1. 事前指導としては、以下のような内容をとりあげる。

　授業観察の訓練

2. 模擬授業とその分析

3. 実習日誌の書き方

4. VTRによる実習全般の模擬体験

5. 実習に当たっての諸注意

6. 事後指導としては、以下のような内容をとりあげる。

　実習のまとめ

7,実習報告会（大学教員との懇談）

8,指導案の検討など、試験

使用教科書名

毎回、プリントを用意する。

NO. 610036001　教育実習Ａ

河田　敦子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

教育実習校において実習を行う。授業実習だけでなく、教員として行う全般的な業務に携わることになる。大学での学習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、教員になる自覚を高めてほしい。中学・高校教員免許資格に必須の科目です。教育実習参加（派遣）基準に合致していること。

学習目標・到達目標

教育実習先の教科担当の先生や学級担任とのコミュニケーションを良く取り、授業を担当する単元（とくに、研究授業）の目標を具体的に定め、教材の作成の工夫を怠らず、また、教師の働きかけと児童・生徒の学習の実際の動きを、きめ細かく想定できるよう、綿密な計画を立てられるようにしてほしい。

また、児童・生徒の普段の様子を教育実習に行く前に観察し、彼らが、いったいどのような生活をし

評価方法その他

実習校の評価に『教育実習記録』を加味して評価する。

週　テーマ・授業目標等

使用教科書名

NO. 610036031　教育実習Ａ

佐藤　広美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

教育実習校において実習を行う。授業実習だけでなく、教員として行う全般的な業務に携わることになる。大学での学習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、教員になる自覚を高めてほしい。中学・高校教員免許資格に必要。教育実習参加（派遣）基準に合致していること。

学習目標・到達目標

担当科目（とくに、研究授業）の目標を具体的に定め、教材の作成の工夫を怠らず、また、教師の働きかけと児童・生徒の学習の実際の動きを、きめ細かく想定できるよう、綿密な計画を立てられるようにしてほしい。

また、児童・生徒の不断の様子を観察し、彼らが、いったいどのような生活をしているのか、友人関係や学習上の悩みなど、その内面を想像できよう、子ども理解を深める、というつもりで臨む態度を

評価方法その他

実習校の評価に『教育実習記録』を加味して評価する。

週　テーマ・授業目標等

使用教科書名

NO. 610037001　教育実習B

河田　敦子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

教育実習校において実習を行う。授業実習だけでなく、教員として行う全般的な業務に携わることになる。大学での学習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、教員になる自覚を高めてほしい。高校教員免許資格に必要。教育実習参加（派遣）基準に合致していること。

学習目標・到達目標

教育実習先の教科担当の先生や学級担任とのコミュニケーションを良く取り、授業を担当する単元（とくに、研究授業）の目標を具体的に定め、教材の作成の工夫を怠らず、また、教師の働きかけと生徒の学習の実際の動きを、きめ細かく想定できるよう、綿密な計画を立てられるようにしてほしい。
また、児童・生徒の普段の様子を教育実習に行く前に観察し、彼らが、いったいどのような生活をしているのか、友人関係や学習上の悩みなど、その内面を想像できるよう、子ども理解を深める、とい

評価方法その他

実習校の評価に『教育実習記録』を加味して評価する。

週　テーマ・授業目標等

使用教科書名

NO. 610037031　教育実習B

佐藤　広美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

教育実習校において実習を行う。授業実習だけでなく、教員として行う全般的な業務に携わることになる。大学での学習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、教員になる自覚を高めてほしい。高校教員免許資格に必要。教育実習参加（派遣）基準に合致していること。

学習目標・到達目標

担当教科（とくに、研究授業）の目標を具体的に定め、教材の作成の工夫を怠ることなく、また、教師の働きかけと児童・生徒の学習の実際の動きを、きめ細かく想像できるよう、綿密な計画をたてられるようにしてほしい。
また、児童・生徒の不断の様子を観察し、彼らが、いったいどのような生活をしているのか、友人関係や学習上の悩みなど、その内面を想像できるよう、子ども理解を深める、というつもりで臨む態度

評価方法その他

実習校の評価に『教育実習記録』を加味して評価する。

週　テーマ・授業目標等

使用教科書名

NO. 610038031　栄養教育実習指導

辻　雅子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

栄養教諭免許取得に関わる教育実習について、事前・事後指導を行う。食に関する専門的事項については、栄養士免許取得必須科目で習得済みであり、また、「学校栄養教育実習」など必須授業は履修済みである。したがって、本授業では、包括的な内容を学ぶ。特に、事前指導においては連絡等も行うため、必ず毎時間出席すること。

学習目標・到達目標

学校の組織を理解する。栄養教諭の職務内容をよく理解する。また、実習における教育実習生としての心構えを勉強しておく。教師像をイメージして実習に望める様に準備する。

評価方法その他

レポート 80%、平常点10%　その他　総合評価

週　テーマ・授業目標等

1 教育実習前のオエンテーション（事前指導として、以下の内容を行う）

2 関連授業と授業観察の方法

3 実習日誌の書き方など

4 模擬授業の準備

5 模擬授業の模擬体験

6 教育実習参加にあたっての諸注意

7 教育実習後のオリエンテーション（事後指導として、以下の内容を行う）

8 実習日誌の書き方・整理

9 実習の評価

10 実習報告

使用教科書名

NO. 610039031　栄養教育実習

辻　雅子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

教育実習校において実習を行う。「食に関する指導」と「学校給食管理」、および、教員として学校で行う全般的な業務に携わる。大学での学びや実習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、栄養教諭となる自覚を高めるような学びを実施してもらいたい。

学習目標・到達目標

教育実習期間は、5日間という極めて短期間ではあるが、可能な限り、現場の先生方、栄養教諭（管理栄養士・栄養士）、養護教諭の方々が、児童・生徒適にどのように、「食」「栄養」「健康」に関わる教育を展開しているかを参観し、学びを深め、理解することも目標とする。また、指導の時間では、学習の指導案を作成し、実施ができること、また実施に対する適切な評価が出来ることを目標とする。

評価方法その他

実習校の評価と「栄養教育実習記録」を加味して評価する。

週　テーマ・授業目標等

教育実習校と打ち合わせて決める。

使用教科書名

NO. 610040001　初等教育実習指導（小学校）

齋藤　義雄

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

幼稚園・小学校における教育実習についての事前・事後指導を行う。学校・園との連絡や訪問についての手続き、教育実習に出かける上での心構え、教育実習に留意すること等について講義で理解を進める。また、指導案について、実習日誌の書き方など、実務的な指導も行う。さらに、実習後の措置や実習についての報告等も行い、教員への自覚を深める。

学習目標・到達目標

教育実習に取り組む前に、実習中に必要な事務的な処理や心構え、授業への取り組み（学習指導案）等についての理解を深め、意欲をもって教育実習に取り組もうとする姿勢をつくる。

評価方法その他

レポート・実習日誌　70%　報告会等の取り組み等　30%

週　テーマ・授業目標等

1 教育実習の意味

2 教育実習に臨んで（心構え、服務等）

3 学校の組織や学校生活の流れ

4 指導案の書き方、日誌の書き方

5 模擬授業の実施

6 指導案の修正と模擬授業

7 実習報告会

使用教科書名

NO. 610041001　初等教育実習C

齋藤　義雄

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

教育実習校において実習を行う。授業実習だけでなく、教員として行う全般的な職務に携わることを通して、教育職員としての資質を養う。大学での学習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、教員になる自覚を高める。小学校教員免許取得に必要。教育実習派遣基準に合致していること。

学習目標・到達目標

実際に小学校に出かける。教員としての自覚をもって実習に取り組むことができる。授業観察、子どもたちとの関わり、実際の授業実践等を通して、教員としての実践的指導力を身に付ける。

評価方法その他

実習校による評価に『教育実習記録』への記入内容等を考慮し、総合的に評価する。

週　テーマ・授業目標等

1 教育実習に臨む心構え

2 学校における教育実習の位置づけ等について

3 学習指導案の作成について

4 学習指導案の作成

5 同上

6 模擬授業1

7 模擬授業2

8 まとめ

使用教科書名

特になく、授業中に必要なものを紹介、もしくはプリントする。

NO. 610042001　初等教育実習指導（幼稚園）

中田　範子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

前回の観察実習をふりかえり、今回の参加・責任実習についての課題を明確にする。幼稚園教育の基本・目的・方法・内容について、実習計画を立てるなかで学ぶ。模擬授業、ロールプレイ等を通して、幼稚園教諭（保育者）としての役割、関わり方について体験する。実習後は、体験を振り返り、省察し、発表し共有し、将来の進路に役立てる。

学習目標・到達目標

教育実習に取り組む前に、実習中に必要な事務的な処理や心構え、授業への取り組み（学習指導案）等についての理解を深め、意欲をもって教育実習に取り組もうとする姿勢をつくる。

評価方法その他

実習状況（日誌内容、小学校・幼稚園からの評価等）80%
報告会等への取り組み　20%

週　テーマ・授業目標等

1. 実習の概要、内容についてのオリエンテーション

2. 前回の実習のふりかえりと本実習の課題の成立

3. 日誌の書き方、指導案の作成

4. 模擬授業①

5. 模擬授業②

6. 特別講義ー幼稚園教諭を迎えて

7. 実習報告会

8. まとめ

使用教科書名

幼稚園教育要領（2009年）

NO. 610043001　初等教育実習A

齋藤　義雄

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

幼稚園教育の実践現場において、幼児の生活と教育とは何かについて学ぶ。
幼稚園実習を通して、参加・観察者として、子どもと触れ合いながら、子どもの発達や遊びの姿、幼稚園教諭のかかわり、園生活における１日の流れなどを実感し、省察、理解を深める。
また、幼稚園教諭の全般的業務を知り、補助する体験を通して、幼稚園における教育活動の実際を理解する。

学習目標・到達目標

幼稚園教育実習を通して、子ども理解を勧め、幼稚園における教育活動の実際を理解する。

評価方法その他

幼稚園における実習について、実習を通しての学びや成長、実習園の評価、等を参考にし、総合的に評価する。

週　テーマ・授業目標等

実際に実習園で1週間、実習生として、参与観察を行い、幼稚園における教育活動の実際を理解する。

使用教科書名

初等教育実習A　実習の手引き

NO. 610044001　初等教育実習B

齋藤　義雄

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

初等教育実習Ａ（観察実習）から得た学びを復習し、自らの実習に対する反省点や指導者から得てアドバイスを振り返る。さらに何を学ぶかという課題意識を明確にし、将来の幼稚園教諭へのステップアップをはかっていくことがめざされる。責任実習、全般的な職務に携わることを通して、教育職員としての資質を養う。大学での学習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、教員になる自覚を高める。子ども、教育活動集団の理解を深め、共に育ちあう課程を実践し、幼稚園教諭としての役割、責任を果たすことを学ぶ。

学習目標・到達目標

将来の幼稚園教諭へのステップアップをはり、責任実習、全般的な職務に携わることを通して、教育職員としての資質を養う。大学での学習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、教員になる自覚を高める。子ども、教育活動集団の理解を深め、共に育ちあう課程を実践し、幼稚園教諭としての役割、責任を果たすことを学ぶ。

評価方法その他

実習校による評価に『教育実習記録』への記入内容等を考慮し、評価する。

週　テーマ・授業目標等

幼稚園において、3週間の実習を行う。園の指導により全日実習を含む実習を行う。

使用教科書名

幼稚園教育要領、初等教育実習Bの手引き

NO. 610045001　教職実践演習（中等）

河田　敦子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

大学4年間で学んだ知識と教育実習などで得られた教科指導力や生徒理解力や指導力の実践力とのさらなる統合を図り、教師としての使命感や責任感に基づく、教師としての資質形成を目的とする。教育実習で指摘された改善点に取り組み、教師としての能力を更に高める時間としたい。おもな授業形態は、講義や演習、模擬授業、ロールプレイ、学校見学などを組み合わせ、実際の教育現場を想定した教育課題を取り扱う。

学習目標・到達目標

教育実習の反省に基づき、本学で履修した教職課程の集大成として位置付ける。教師としての使命感や責任感、教育的愛情、保護者や同僚教師（管理職を含めて）との共同協力を進める関係能力、生徒理解や学級経営、教科内容の指導力、表現力やコミュニケーション能力の理解し、その能力を向上させるにはどのようにしたらよいかを考え、実践できるようになることを、本演習の到達目標とする。

評価方法その他

授業参加の姿勢、各授業ごとの話し合いの姿勢の評価。発表内容の評価。レポート課題の評価など、総合的に評価する。

週　テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 教職と教育実習に関するディスカッション
3. 自らの反省に基づく授業改善計画の作成
4. 授業力向上のための教材研究・学習会（被服分野　人数によって変動する）
5. 授業力向上のための教材研究・学習会（食分野　人数によって変動する）
6. 授業力向上のための教材研究・学習会（住分野　人数によって変動する）
7. 授業力向上のための教材研究・学習会（家族分野　人数によって変動する）
8. 授業力向上のための教材研究・学習会（環境・消費者問題　人数によって変動する）
9. 学級経営
10. 教員間のコミュニケーション
11. 学校訪問・見学
12. 学校訪問・見学
13. 家庭科教師と現代社会
14. これからの家庭科教育（ディスカッション）
15. まとめ、レポート

使用教科書名

特に指示しない。各講義中で、参考文献を明示する。

NO. 610045031　教職実践演習（中等）

佐藤　広美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

大学4年間で学んだ学習知と教育実習などで得られた教科指導力や生徒理解力・生徒指導力の実践知とのさらなる統合を図り、使命感や責任感に裏打ちされた教師としての資質形成を目的とする。おもな授業形態は、講義や演習、発表。ロールプレイなどを組み合わせ、実際の教育現場を想定した教育課題を取り扱う。

学習目標・到達目標

教師としての使命感や責任感、教育的愛情、保護者や同僚教師（管理職を含めて）との共同協力を進める関係能力、児童・生徒理解や学級経営能力、教科内容の指導力、表現力やコミュニケーション能力について、理解し、その能力の形成を具体的に実感できるようにすること

評価方法その他

授業の参加姿勢と各授業ごとの評価テスト。発表内容、レポートなどをみて、総合評価を行う。

週　テーマ・授業目標等

1, オリエンテーション
2, 教職の意義と教師の役割
3, 教師の使命感
4, 子ども理解
5, 現代社会と家庭
6, 現代社会と地域
7, 現代社会と消費
8, 家庭科授業の実施のために、衣と環境
9, 家庭科授業の実施のために、食と環境
10, 家庭科授業の実施のために、生活
11, 家庭科授業の実施のために、女性
12, 家庭科授業の実施のために、子育てと家庭
13, 家庭科と保護者
14, 学校の中の家庭科授業
15, まとめ、レポート

使用教科書名

特に使用はしない。授業の中で、その都度、参考文献を指示する。

NO. 610046001　教職実践演習（栄養）

佐藤　広美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

大学4年間で学んだ知識と教育実習などで得られた栄養を中心とする教科指導力や生徒理解力及び指導力とのさらなる統合をはかり、使命感や責任感に裏打ちされた教諭としての資質形成を目的とする。おもな授業形態は、講義、演習、発表、ロールプライ、学校訪問見学などを組み合わせ、実際の教育現場を想定した教育課題を取り扱う。

学習目標・到達目標

教諭として使命感や責任感、教育的愛情、保護者や同僚教諭（管理職を含む）との共同協力を進める関係能力、給食調理師との連携、児童生徒の理解や学級経営力、教科内容、とくに栄養及び食関連教科の指導力、表現力やコミュニケーション能力、などをきちんと理解すること。そして、その能力を具体的に実践できることを目ざす。

評価方法その他

各授業の参加姿勢、発表、レポート、等の総合評価

週　テーマ・授業目標等

1 オリエンテーション
2 教師の使命・意義
3 学校とは何か、学校経営
4 子ども理解
5 現代日本の食生活の問題と食をめぐる学校の役割
6 子どもの食と栄養
7 親の食生活と子どもの食
8 学校給食の課題
9 学校訪問と学校経営の課題
10 学校訪問から、地域の住民と学校の関係
11 学校訪問から、教師の食意識
12 学校訪問から、子どもの食環境について
13 学校訪問から、栄養指導の実際
14 学校訪問から、親の食生活と子どもの実態
15 まとめとレポート

使用教科書名

テキストは指定しない。参考文献は、随時、紹介する。

NO. 610047001　教職実践演習（幼・小）

立川　泰史

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

教師として教育の理念を学ぶとともに、実践的な指導力・反省力を身に付け、それらを向上させることを目指す。
教育実習園や小学校との連携し、実践的な経験や観察を通して教師としての姿勢・態度・意識、および自ら資質・能力を高める価値や意義について理解を深める。
教育実習終了後も園や学校と連絡を取りながらボランティアとして教育活動にかかわり、教育現場でのふるまいや人間関係、人権や安全の保障などの基礎・基本的な知識・技能を身に付ける。

学習目標・到達目標

幼稚園・小学校の教諭を目指すにあたって、教師としての資質と実践的な能力を身に付ける。
教育実習園や小学校と連携し、具体的な教育活動を通して、子どもとの関わり方や指導の望ましいあり方等の実践的な指導力を習得する。また実践の反省的改善の視点を探る方法について理解する。

評価方法その他

日常の学ぶ態度、レポート、教育実習園や小学校でのボランティア活動の様子、指導案作成から模擬授業等により総合的に評価する。

週　テーマ・授業目標等

教員の資質の向上に向けて、教育に関する基本的な法律等について学習指導要領を本に分析する。また、実践的な指導力を身に付けるために、教育実習園・小学校にボランティア活動に赴き、子どもたちとかかわりながら資質を磨く。さらに、教育実習を振り返り、協議会等の反省を踏まえ望ましい指導案を再作成する。それをもとに模擬授業を行う。

1 オリエンテーション

2 教育の基本（法律と学校教育　学習指導要領）

3 教育実習からの学び（教育実習における成果と課題）

4～11 教育実習校でのボランティア活動（学校行事への参加、教育活動の補　助等、教育実習校での教育活動）

12 教育実習校での活動の整理とまとめ

13 学習指導案の再作成

14 活動の報告と模擬授業1

15 活動の報告と模擬授業2 授業のまとめ

使用教科書名

特になし。

NO. 620001031　学校栄養教育論Ⅰ

田中　延子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

栄養教諭教職免許の必修科目である。学校栄養教育論Ⅱ、そして教職実習に向けた基礎の学習として、小・中学校での食に関する指導のあり方や指導方法を学んでいく。

学習目標・到達目標

子どもを取りまく食に関する課題・社会的背景を踏まえ、栄養教諭としての使命、職務内容についての理解を深める。食に関する全体計画の作成方法、学校給食を活用した給食の時間、食に関連する教科等、個別的な対応指導方法について学ぶ。

評価方法その他

平常点(40%),教員が課するレポート,指導案等(60%)
平常点は、授業態度、授業や討論への積極的な参加状況を重視

週　テーマ・授業目標等

第1週･･･オリエンテーション

第2週･･･児童生徒の食に関する諸課題

第3週･･･食育に関する法律及び諸制度

第4週･･･栄養教諭制度に関する法律及び諸制度

第5週･･･栄養教諭の職務内容、使命、役割

第6週･･･食に関する指導の全体計画のあり方

第7週･･･食に関する全体計画の作成(演習)

第8週･･･学校給食の意義役割

第9週･･･給食の時間における食に関する指導

第10週･･･給食の時間における食に関する指導案作成(演習)

第11週･･･食に関する個別的な対応指導

第12週･･･教科等における食に関する指導

第13週･･･教科等における食に関する指導案作成(演習)

第14週･･･教科等における食に関する指導の模擬授業

第15週･･･諸外国における学校給食および食に関する指導・まとめ

使用教科書名

小学校学習指導要領, 文部科学省, 2010
食に関する指導の手引－第1次改訂版－(平成22年3月), 文部科学省, 2010

NO. 620002031　学校栄養教育論Ⅱ

酒井　治子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

学校栄養教育論Ⅰの実践編として、まず栄養教諭が配置される義務教育の仕組みを理解する。その学校において食育を実践するための指標となる、食に関する指導の全体計画の作成から、栄養教諭が職務として取り組む個別的相談指導、家庭や地域との連携指導についての実践方法や、関連する教科等の具体的な指導の手法を習得する。

学習目標・到達目標

学校栄養教育論Ⅰに引き続き、食に関する指導の全体計画から、家庭や地域と連携した各教科や特別活動等、また、個別指導までの具体的な実践方法を理解する。指導案作成、発表、相互評価等の実践演習や模擬授業を通して指導の手法を取得する。

評価方法その他

この科目は実践論なので、課題の提出と実践演習で評価する。主な内容は<課題>食に関する指導の全体計画の作成(10%)。食育の教材となる給食献立1週間分の作成(30%)。個別指導、家庭や地域との連携指導の指導事例等(15%)を提出。また、義務教育1時限の指導案を作成し(30%)、その指導案による授業を演習し(15%)、指導過程を評価する。

週　テーマ・授業目標等

第1週　オリエンテーション・授業の進め方・食に関する指導の立案方法

第2週　食生活に関する歴史

第3週　食事・食物の文化的事項

第4週　児童の発達に応じた教科における食に関する指導(家庭科、技術・家庭科)

第5週　教科における食に関する指導(家庭科、技術・家庭科)の指導案の立案方法1

第6週　教科における食に関する指導(家庭科、技術・家庭科)の指導案の立案方法2

第7週　教科における食に関する指導(家庭科、技術・家庭科)の演習1(指導案を含む)

第8週　教科における食に関する指導(家庭科、技術・家庭科)の演習2(指導案を含む)

第9週　教科における食に関する指導(家庭科、技術・家庭科)の演習3(指導案を含む)

第10週　教科・教科外の模擬授業及び授業研究

第11週　教科・教科外の模擬授業及び授業研究

第12週　教科・教科外の模擬授業及び授業研究

第13週　教科・教科外の模擬授業及び授業研究

第14週　強化・教科外の模擬授業及び授業研究

第15週　まとめ

使用教科書名

1)栄養教育論, 金田雅代著, 建帛社, 2006
2)小学校学習指導要領, 文部科学省
3)小学校学習指導要領解説　家庭編, 文部科学省
4)食に関する指導の手引, 文部科学省, 2007

NO. 630001001　博物館概論

小瀬　康行

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

わが国の博物館総数は年々増加しており、平成20年10月で5775館となった。博物館という社会教育施設を理解するために、まず博物館と博物館学芸員とのかかわりを明確にして、そのうえで博物館の基本的な性格を学ぶ。さらに今日の博物館が形成された歴史的な過程を概観し、加えて今日の諸問題について理解する。

学習目標・到達目標

かつては学術研究を公開する場として位置づけられることが大きかった博物館であるが、生涯学習社会の到来とともに博物館も変化が求められるようになった。本講義では、こうした変化がはじまった博物館の現状を考察するとともに具体例に即して博物館の定義、博物館の目的と機能、博物館の歴史、博物館関連法規について理解し、次年度から学ぶ各論(博物館資料論、博物館情報論、博物館経営論等)をスムーズに学べるように博物館学の基礎知識を習得する。

評価方法その他

小テスト(複数回)(80%)、平常点(20%)
(平常点は授業への参加状況、討論への参加などで総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等

1. 博物館概論・学芸員資格ガイダンス:博物館学芸員の職務について理解するとともに、博物館業務との関連性について概説する。
2. 博物館の目的と役割:博物館は社会教育施設としてどのような目的を持っているのか、生涯学習の時代における博物館の役割について考える。
3. 博物館の定義:博物館と見間違う施設が増えてきた中で、博物館の定義について学ぶ。おもに、ICOM, UNESCO,博物館法の定義を対象とする。
4. 博物館の分類と種類:多種多様な特色を持つ博物館をさまざまな分類基準にしたがって整理して、現在の博物館の性格を明らかにする。
5. 博物館の機能(1):博物館が持つ機能(収集・保管整理・調査研究・公開展示)のそれぞれの特徴と学芸員の職務との関連について学ぶ。
6. 博物館の機能(2):同上
7. 博物館と町づくり:博物館が生涯学習の場としてだけでなく、町おこし的な活動例として盛んになってきたエコミュージアムを考察する。
8. 博物館の歴史(1)博物館誕生
9. 博物館の歴史(2)ヨーロッパ、アメリカ
10. 博物館の歴史(3)日本、その他
11. 博物館法と関連法規(1)博物館法以前
12. 博物館法と関連法規(2)博物館法他
13. 博物館の現状(1):博物館の各種統計にあらわれている数字からわが国の博物館の動向を把握する。
14. 博物館の現状(2):指定管理者制度、博物館評価、学会、組織など現在の博物館に関する現状と課題について学ぶ。
15. まとめ

使用教科書名

講義の時に資料を配布します。

NO. 630002001　博物館資料論

小瀬　康行

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

博物館において最も重視される業務のひとつに博物館資料の保存作業があげられる。この業務が博物館の中で十分に機能しないと、博物館資料の有効な活用が期待できないばかりか、次世代への確実な受け渡しもできなくなる。講義に当たっては、博物館資料の意味を考えるところからはじまり、資料の収集、資料の保存整理、資料の町研究、そして資料の活用にいたるまでの一連のプロセスを追って博物館資料の取扱いに関する考え方について理解する。

学習目標・到達目標

博物館活動を維持し発展させるために必要とされる基本的な要素が「博物館資料」であるという視点に立って、博物館資料の収集・整理保管・保存・展示・調査研究など博物館学芸員がたずさわるさまざまな専門的分野に関する理論や方法および知識や技術の習得を目的とする。

評価方法その他

小テスト(複数回)(80%)、平常点(20%)
(平常点は授業への参加状況、討論への参加などで総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等

1. 博物館資料論の目的と意義:博物館資料とは何か、ということを学ぶために博物館資料の種類と分類、物館資料とするための手続きについて考察する。
2. 博物館資料の性格:実物資料(一次資料)だけが博物館資料と考えられがちであるが、二次資料とよばれる資料について学ぶ。
3. 博物館資料の収集方法:博物館の収集の方法を、採集・購入・寄贈・寄託・借用・製作などに視点あてて考察する。
4. 博物館資料の保存:博物館資料の材質は多種多様であるため、ぞれぞれの材質に対応する保存方法について学ぶ。
5. 博物館資料の整理:具体的に収蔵品カードを扱いながら、博物館で資料を整理しデータを保存するために必要な手続きについて学ぶ。
6. 博物館資料の記録化(1):博物館の資料を学術資料として活用するために、データとして残す記録について学ぶ。実測図の作成の意味について学ぶ。
7. 博物館資料の記録化(2)拓本:拓本技術の特色と資料データ保存の有効性について学ぶとともに、使用される道具類について理解する。
8. 博物館資料の記録化(3)写真:資料のデータを保存する上で写真の有用性と撮影の技術とその特色について学ぶ。
9. 博物館資料の収蔵と梱包:収集、整理された資料が収められる収蔵庫の構造と特徴について学ぶとともに搬送の際の梱包の方法について理解する。
10. 博物館資料の活用:博物館の資料を活用する代表的な形態としての展示業務について、おもに展示企画の作成と展示技術について考察する。
11. 博物館の刊行物:博物館における調査研究などの活動を公開するさまざまな刊行物を取り上げて、博物館における活動について考察する。
12. 実物資料から読み解く(1):民俗学・民族学資料(木地玩具、染織品など)から資料の観察方法を学ぶ。
13. 実物資料から読み解く(2):考古学資料(土器・石器など)から資料の観察方法を学ぶ。
14. 博物館の未来　現代社会で博物館が果たすべき役割を、博物館経営の立場から総括する。

使用教科書名

講義の時に資料を配布します。

NO. 630003001　博物館経営論

田尾　誠敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

日本における経済的危機は悪化の一途をたどっていたが、この間、企業や行政における組織改革や業務内容の改善が重要な課題となっていることは周知の通りである。こうした社会的な潮流は博物館の運営においても例外とはいえず、近年、博物館の生き残りを賭けた多角的な検討が行われてきている。本講義では、博物館経営において学芸員が取り組むべき課題や現代社会における博物館の役割について、テーマを設けて解説する。

学習目標・到達目標

これからの博物館学芸員は、個別分野の専門家としてだけではなく、博物館の運営や将来計画に積極的に参加していかなければならない立場にある。こうした学芸員の業務の多様化を踏まえて、博物館を経営する上で重要と思われるテーマを個別に取りあげながら、博物館が直面している課題を概観し、現代社会における博物館のあり方、学芸員の役割を理解して欲しい。

評価方法その他

・平常点および授業への取り組み　30%
・期末試験またはレポート　　70%
を基準として、総合的に評価する。

週　テーマ・授業目標等

1 博物館経営論とは何か　行政が積極的にとりいれているニュー・パブリック・マネジメントの視点から、博物館経営論の必要性を解説する。
2 博物館の設立と理念　博物館の設置要件や博物館の基本理念等について概観する。
3 博物館の行財政制度　博物館を経営する上での法的根拠と財政のあり方について述べる。
4 博物館の組織と職員　博物館の組織づくりと人員について概観する。
5 博物館の人的資源　博物館の専門職員である学芸員に焦点をあて、その役割や特質を概観する。
6 博物館の施設と設備　近年における博物館施設の傾向やリニューアル等の問題点について触れる。
7 博物館の倫理　ICOM(国際博物館会議)の倫理規定と行動規範を参考に、博物館の倫理について解説する。
8 ミュージアム・マーケティングと事業評価　博物館の集客戦略としてのミュージアム・マーケッティングの手法と、事業評価のあり方を述べる。
9 指定管理者制度と博物館　行政が行う指定管理者制度について、博物館における制度の実態と利点、問題点を検討する。
10 博物館のサービス　今日の博物館が利用者に対して行うべきサービスについて、多角的に概観する。
11 ミュージアム・リテラシー　利用者側から見た博物館のあり方を、多面的に捉えていく。
12 博物館のバリアフリー施策　博物館が行うバリアフリー施策について概観する。
13 博物館のネットワーク　博物館の従来型のネットワークと情報社会におけるネットワークについて、事例を挙げながら解説する。
14 地域社会と博物館　博物館と地域社会との関係を、実践例を挙げて紹介する。
15 博物館の未来　現代社会で博物館が果たすべき役割を、博物館経営の立場から総括する。

使用教科書名

各回の項目に沿ったプリントを教材として配付する。

NO. 630006001　生涯学習概論

矢内　琴江

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

人間は、生涯を通して学び続けています。また、学び続けることは、私たちの権利でもあります。では、人は何のために学ぶのでしょうか。また、どこで、どのようにして学ぶのでしょうか。この授業では、多様な実践事例を通して生涯学習について理解するとともに、グループ・ワーク、フィールド・ワークなどで、自分たちで自分たちの学習を創っていきます。それにより、生涯学習について、実践的に学びます。そして、自分にとっての学ぶことの意味を捉えなおしながら、なぜ私たちは生涯にわたる学習の権利を保障することが大事なのか、どのようにその権利を保障することが出来るのかを学びます。また、博物館の活動における生涯学習の意味について考えます。

学習目標・到達目標

①生涯学習とは何かを理解し、説明することができる。
②博物館における生涯学習の意味について説明することができる。
③主体的に学習を組織することができる。

評価方法その他

平常点50%(授業への積極的な参加、リフレクション・ペーパーの提出)
冬休みのレポート20%
期末レポート30%

週　テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 生涯学習とは何か
3. なぜ・何のための学習か
4. 生涯学習の政策動向
5. 私たちの暮らしと生涯学習①　地域の子ども、若者、高齢者をつなぐ学習
6. 私たちの暮らしと生涯学習②　働くことを支える学習
7. 私たちの暮らしと生涯学習③　女性たちの生き方と生涯学習
8. 中間まとめ(学習の主体は誰か。生涯学習とはどのような学習か。何のための学習か。)
9. 生涯学習を支える施設①公民館
10. 生涯学習を支える施設②美術館・博物館
11. 生涯学習を支える多様な場
12. 生涯学習を支える人の役割・機能・資格
13. 生涯学習の展開を支える仕組み
14. 海外における生涯学習の取り組み
15. 生涯学習の課題と展望

使用教科書名

特に指定しない。

NO. 630008001　博物館実習

小瀬　康行

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「学内実習」「見学実習」「館園実習」の面から博物館の実務に対する理解を図る。「学内実習」では、資料の取り扱いをはじめとして博物館資料の収集、整理、保管、展示に関する理論や技術など基礎的な手続きについて学ぶ。「博物館見学」では、博物館の構造や施設、バックヤード(研究室、収蔵庫、作業室、燻蒸庫など)、展示技術などを見学して具体的に博物館施設と業務の多様性について理解する。また「館園実習」として、博物館所蔵の実物資料を用いての資料の取り扱い方法、整理方法、各種道具類などの習熟を踏まえたうえで、総括的な実習として博物館展示室において展示実習を行い一般公開する。

学習目標・到達目標

多様な博物館の実態や博物館学芸員の業務を理解し、実践的な能力を身につけることを目的とする。そのために学内実習として、博物館資料の取り扱いや博物館運営の実務を習得するとともに、さまざまな博物館の実態を見学し理解する。館園実習では実際に博物館の現場にはいり、博物館資料の収集、整理、展示、調査研究などの実務を体験する。

評価方法その他

小テスト(複数回)(40%)、レポート(30%)、平常点(30%)
(平常点は実習への参加状況、討論への参加などで総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等

1. 学内実習(9時間)(1)
・オリエンテーション、博物館の環境と保存(測定機器の取り扱いと習熟)
2. 学内実習(9時間)(2)
・博物館資料の取り扱い方法　(ⅰ)ビデオ学習　(ⅱ)講義　(ⅲ)取り扱い実習
3. 学内実習(9時間)(3)
・博物館資料の梱包と輸送　(ⅰ)ビデオ学習　(ⅱ)講義　(ⅲ)取り扱い実習
4. 学内実習(9時間)(4)
・博物館リテラシーの実践:解説文の検討と作成　各種広報資料の作成
5. 学内実習(9時間)(5)
・博物館資料の整理保存実習:収蔵品カードの整理、二次資料化作業
6. 博物館見学(9時間)(1)
・各種博物館の団体見学(歴史系博物館の施設・バックヤードの見学)
7. 博物館見学(9時間)(2)
・各種博物館の団体見学(美術系博物館の施設・バックヤードの見学)
8. 博物館見学(9時間)(3)
・各種博物館の団体見学(その他博物館の施設・バックヤードの見学)
9. 博物館見学(9時間)(4)
・各種博物館の個人テーマ見学(歴史系／美術系博物館の展示・テーマ見学)
10. 博物館見学(9時間)(5)
・各種博物館の個人テーマ見学(その他博物館の展示・テーマ見学)
11. 館園実習(9時間)(1)
・事前指導、オリエンテーション(実習のねらい、日程説明、館の概要と見学)
12. 館園実習(9時間)(2)
展示機器の準備と企画案の作成等)
13. 館園実習(9時間)

使用教科書名

授業中に資料を配布します。

NO. 630009001　博物館資料保存論

田尾　誠敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

博物館において資料（コレクション）とは、博物館活動を支える重要な役割を果たすと同時に、後世に伝えるべき貴重な遺産である。このような資料は現代社会において、環境や二次適当な要因による物理的な劣化や、喪伝統による喪失といった人為的な理由により、常に滅失の危機にさらされている。本講義では、博物館が行っている資料保存のあり方を、多面的に解説していく。

学習目標・到達目標

博物館でおこなわれている資料保存に関する基礎的な知識や考え方を学ぶ。資料保存の実際では、学芸員が自ら日常的に行うべき事項と、高度な専門知識・技術を必要とする事項の二つの側面が存在し、どのように資料を取り扱っていくのかという判断は学芸員に委ねられている。こうしたことから、資料保存についての幅広い知識を身につけることによって、多様な資料の個々の特性を把握し、次世代へと資料を継承していく姿勢を身につけることを目標としたい。

評価方法その他

授業への取り組みなど平常点　30%
定期試験　70%
を勘案して、総合的に評価する。

週　テーマ・授業目標等

1 博物館の資料保存　－守る・残す・伝える－　博物館の使命のひとつである資料保存について、その意義や法的根拠について述べると共に、資料の種類や特性について解説する。
2 文化財保護法の理念と特質　博物館と文化財保護の関わりを取り上げ、文化財保護法の成り立ち、理念、特質を知る。
3 わが国の気候・風土と伝統的保存　年間気候変化が激しく、劣化しやすい材質の資料が多いわが国において培われた、伝統的保存法を概観する。
4 正倉院にみる伝統的保存　伝統的保存法の代表例として、奈良時代から続く正倉院の資料保存を取り上げる。
5 博物館資料と文化財科学　資料の保存と修復に関わる理科学的研究分野である文化財科学について解説する。
6 博物館の保存環境　博物館における資料の保存環境について、その調査や保存環境の整備について具体例を挙げて検討する。
7 博物館資料の生物被害対策　博物館資料に対する生物被害対策として、臭化メチルの全廃を受け手導入されたIPM（総合的有害生物管理）について概説する。
8 考古資料の保存と修復　考古学的発掘調査による出土資料が、博物館資料として整理・修復される過程を追う。
9 文献史料の保存と修復　光や温湿度に影響を受けやすい古文書史料の保存・修復について概説し、アーカイブ化にも触れる。
10 映像資料・写真資料の保存とアーカイブ　資料の二次的な保存手段である映像・写真を取り上げ、劣化しやすい性質や保存方法およびアーカイブ化について概観する。
11 美術工芸資料の保存　美術系博物館や歴史系博物館が取り扱う、幅広い美術工芸品の取り扱いと保存について概観する
12 自然資料の保存　自然科学系の博物館のうち、動植物園や水族館が行う種の保護・増殖と意義について概説する。

使用教科書名

特に使用しないが、その都度プリント等を配布する。

NO. 630010001　博物館展示論

西海　賢二

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

多くの博物館は各地区の特徴を展開させながら展示が行われている。
展示論の中では歴史学・民俗学・口承文芸などの視点から一つの学問体系からの展示ではなくより、地域と密着しているかを紹介したい。

学習目標・到達目標

全国各地にある博物館のうちできるだけ関東地方の、これまでの博物館展示を紹介しつつ、その展示方法が地域とのつながりをどのようにして展示しているかを文献・伝承・民具の具体例から紹介する。

評価方法その他

通常点・および各自が行う1・2回程度の博物館見学のレポート作成。

週　テーマ・授業目標等

一こまの時間帯で一つの博物館展示を紹介しながら、ただ「モノ」を展示することを目的として博物館が運営されているものではなく、いかにその地域社会との関わりが大であるかを多くの事例から紹介したい。
1. 博物館展示と地域社会の概要
2. 郷土資料と地域
3. ムラが蘇るとき
4. 小田原における歴史・文化の掘り起こし
5. 高島屋・渋谷区松濤美術館・郡山美術館特別展によせて
6. 福島県立博物館企画展「生の中の死」によせて
7. 茨城県立歴史館企画展「ねがい・うらない・おまじない」によせて
8. 神奈川県・静岡県 － 九博物館・資料館共同企画によせて
9. 相模原市立博物館収蔵品展によせて
10. 文化遺産学の継承をめぐって
11. 地域の文化どうつくるか
12. 大根おろし考 － 記念銘民具再考 －
13. 相模原市立博物館・高知県立歴史民俗資料館二つの石造物展示によせて
14. 千葉県立中央博物館の展示「語る・観る　房総の石仏」によせて
15. ベルナールフランクの「お札」にみる日本文化によせて

使用教科書名

西海賢二著『博物館展示と地域社会－民俗文化史からのまなざし－』
岩田書院　2014年

NO. 630011001　博物館教育論

高木　幸枝

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

多様な実例も用いて博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得させ、博物館の教育機能に関する基礎的能力を身につけさせる。

学習目標・到達目標

多様な実例も用いて博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を身につける。

評価方法その他

授業中の課題(40%)、受講態度(30%)、定期試験(30%)

週　テーマ・授業目標等

1.博物館教育論を学ぶ意義
2.博物館教育の双方向性
3.博物館諸機能の教育的意義
4.生涯学習の場としての博物館
5.人材養成の場としての博物館
6.地域における博物館の教育機能
7.博物館リテラシーの涵養
8.博物館教育の方針と評価
9.博物館の利用実態と利用者の博物館体験
10.博物館における学びの特性
11.博物館内での教育活動の手法
12.博物館外での教育活動の手法
13.博物館教育活動の企画と実施
14.博物館と学習指導要領
15.博物館と学校教育
16.定期試験

使用教科書名

使用しない。

NO. 630011031　博物館教育論

佐藤　広美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

博物館教育の意義を理念を理念じる。生涯学習の場としての意義を論じる。博物館の利用を考え、利用者の実態を調べてみる。その体験を通じて、利用者は何を学ぶ、考えたのか、その特性を考えてみる。学校教育と異同を考え、学びの本質を考え、人間の成長を論じてみたい。

学習目標・到達目標

生涯学習の場である博物館の存在を考えられるようになること。その歴史を知ること。博物館の種類を知ること。多様な学習の場が展開されていることを理解すること。なにより、人間が物事を知ることの意義を深く考えて見ることができることが重要である。

評価方法その他

毎回の発言を重視。レポート等総合評価。

週　テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 博物館教育とは何か、その歴史
3. 博物館教育とは何か、その種類
4. 博物館教育とは何か、利用者の要望、体験
5. 博物館教育とは何か、学芸員の仕事
6. 教育とは何か、歴史、学ぶとは何か
7. 教育とは何か、学校とは何か
8. 教育とは何か、博物館と学校の歴史
9. 教育とは何か、子どもの学びと成長、
10. 教育と展示、文化と国家との関係
11. 教育と展示、文化と教育
12. 教育と展示、文化と子ども
13. 教育と展示、教科書とは何か
14. 教育と展示、漫画と教育
15. まとめ

使用教科書名

テキストは指定しない、参考文献を紹介する。

NO. 630012001　博物館情報・メディア論

木村　涼

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

博物館において、情報がどのように整理され、社会にどのように提供され活用されるのか、大規模な博物館から市町村規模の博物館に至るまで代表的な事例を紹介していきます。その上で、博物館における情報の取り扱いを理解し、その活用方法を考えます。これからの学芸員は、コンピューターなどのデジタル機器を使いこなして編集作業も出来る事が求められます。実際の博物館の事例をみることによって、情報、メディア活用の実態を学びます。

学習目標・到達目標

博物館における情報の意義及び提供、活用などに関する基礎的な知識を身につけることを目標とします。また、博物館における情報発信の現状と課題について理解することを目指します。

評価方法その他

小テスト（複数回）（70%）、平常点（30%）で評価します。なお、平常点は授業の参加状況、討論への積極的な参加などをもとに総合的に判断します。

週　テーマ・授業目標等

1. 博物館情報・メディア論とは：博物館における情報・メディアの提供について概観します。

2. 博物館における情報・メディアの意義：展示映像や音声ガイドといった視聴覚メディアの特性や学芸員の果たす役割を学びます。

3. 博物館の機能からみた情報の蓄積と活用：博物館は情報をどのように扱うか、また、現代社会における博物館の情報をより良く活用する取り組みを解説します。

4. 情報教育の意義と重要性：博物館の展示や教育に利用されているメディアについて解説します。

5. データベースの構築と運用：博物館におけるデータベースの役割、機能について解説します。

6. 博物館標本のデジタル化の技法：デジタル技術が収蔵品の管理や展示にどのように利用されているのかを把握します。

7. デジタルミュージアム：デジタルミュージアムを構成する基本技術を解説します。

8. デジタル・アーカイブ：デジタル・アーカイブの意義とその構築の流れを解説します。

9. 情報通信技術の活用：博物館が行う情報発信について、特に博物館展示に視点を向け、近年の活用事例をあげて解説します。

使用教科書名

西岡貞一・篠田謙一編『博物館情報・メディア論』(NHK出版、平成25年)

NO. 640006001　保育実習指導Ⅰ

新開　よしみ

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を修得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。保育現場で乳幼児の生活と発達の現実にふれ、これまで学んできた知識を再構築し、社会福祉への意欲を活性化し、援助者としての保育者の役割への関心を育てる。事前指導として、学内において講義や視聴覚教材を用いた演習を行い、また実習施設において見学・オリエンテーションを行う。実習中には巡回訪問指導を行い、実習後には、実習総括・評価・自己評価・事例研究を行い、新たな学習目標を明確化する。

学習目標・到達目標

●実習の意義・目的・内容・方法を理解する
●実習生としての心構えを正しく身につける
●実習課題を明確化する
●実習施設の概要と機能を理解する
●基本的な保育技術を身につける

評価方法その他

本授業においては出席率100%が前提である。評価は授業に対する事前・事後の取り組みや平常の態度について，総合的に行う。

週　テーマ・授業目標等

1. ＜事前指導＞(1)保育実習の意義・目的・内容の理解
2. (2)保育実習の方法の理解
3. (3)実習の心構えの理解
4. (4)個人情報の保護と守秘義務、子どもの人権尊重についての理解
5. (5)実習課題の明確化とロールプレイ
6. (6)実習記録の意義・方法の理解
7. (7)実習施設の理解
8. (8)保育指導案作成の実際
9. ＜巡回訪問指導＞実習施設指導担当者との連携によるスーパービジョン
10. ＜事後指導＞(1)実習総括
11. (2)実習日誌の評価とふりかえり
12. (3)指導実習の評価とふりかえり
13. (4)心理劇法によるふりかえり
14. (5)自己課題と学習目標の明確化
15. 実習Ⅱ・Ⅲに向けて

使用教科書名

1. 実習日誌の書き方/相馬和子・中田カヨ子/萌文書林/2004
2. 指導計画の考え方・立て方/久富陽子編/萌文書林/2009
3. 福祉施設実習ハンドブック/内山元夫ほか編/みらい/2007
4. 感性をひらく表現遊び/岡本拡子編著/北大路書房/2013

NO. 640007002　保育実習ＩＢ（3年次）

新開　よしみ

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

保育所における保育に参加し、乳幼児の生活・遊び・発達等についての理解を深め、保育所の機能、保育士の業務等について学ぶ。各科目で修得した知識と技術を保育所での実践や子どもとの関係を通して再構築する。実習段階としては、「参加観察実習」から「部分実習」までの範囲とする。
※履修条件：規定による保育実習参加基準を満たしていること（学生便覧参照）

学習目標・到達目標

●保育所の機能や、保育所保育の実際、園内外の環境、保育所における子どもの生活を具体的に知る。
●子どもたちと遊び、生活する中で、子どもへの理解を深める。
●保育所における保育士の役割と業務内容について具体的・体験的に学習する。
●参加観察実習を経て、部分実習指導案作成・実践までを体験する。

評価方法その他

実習保育所による評価（50%）と担当教員による評価（50%）を合わせて総合的に評価する。

週　テーマ・授業目標等

1. 実習施設を多面的に理解する。
2. 保育の一日の流れを理解し、参加する。
3. 子どもの観察やかかわりを通して乳幼児の発達を理解する。
4. 保育計画・指導計画を理解する。
5. 生活や遊びなどの一部を担当し、保育技術を修得する。
6. 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。
7. 参加観察の記録方法を体験的に習得する。
8. 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。
9. 保育士としての倫理を具体的に学ぶ。
10. 安全および疾病予防への配慮について理解する。
11. 保育者の子どもへのかかわり方、環境構成の工夫を詳細に観察する。
12. 実習生としてふるまう中で自己課題に気づく。
13. 指導計画を立て、部分実習に臨む。
14. 保育マップを作成する。
15. 反省会に出席し、実習全体を省察する。

使用教科書名

・実習日誌の書き方/相馬和子・中田カヨ子編/萌文書林
・指導計画の考え方・立て方/久富陽子編/萌文書林

NO. 640008001　保育実習ＩＣ（4年次）

柳瀬　洋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

・保育所以外の施設で働く保育士の職務について、実習経験を通して学ぶ。
・実習施設の果たす役割や機能について理解する。
・施設利用児（者）への理解を深めるとともに、その社会的背景について考える。

学習目標・到達目標

入所型児童福祉施設や障害児通園施設等の生活や活動に参加し、施設の利用児（者）への理解を深めると共に、施設の果たす役割や機能等について理解し、施設で働く保育士の職務について学ぶ。

評価方法その他

実習施設における実習担当者による評価（50%）、実習日誌・学生自身の自己評価・実習前学習や実習直前・事後指導の様子（50%）を統合して評価する。

週　テーマ・授業目標等

1. 実習施設の役割や機能・拠って立つ法律について理解する。
2. 実習施設の利用児（者）について理解を深める
3. 自分の課題や実習の目的を明らかにする（以上、実習前学習）
4. 養護の1日の流れを理解し、参加する。
5. 子どもや子どもと職員とのかかわりを観察し、保育者として学ぶべきことや自らの課題に気づく。
6. 生活や援助などの一部を担当し、積極的に養護技術の習得に努める。
7. 安全および個々の利用児（者）への配慮について理解する。
8. 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。
9. 実習中盤では、記録などを通して前半の実習を振り返り、自分自身の課題に気づき、後半の実習に向けて目標を設定する。
10. 利用児（者）とのかかわりを通し、利用児（者）の最善の利益についての配慮を学ぶ。
11. 保育士としての職業倫理を理解する。
12. 利用児（者）や施設のおかれている社会的背景について理解を深める。
（以上、実習時）
13. 実習終了後、実習全体を振り返り、実習で得た気づきや学びを整理し、施設で行われる反省会などの機会を通し、自らの課題に気づく。
14. 実習で得た学びについて、グループで共有する。（事後指導）
15. ミニ実習報告会

使用教科書名

岡本幹彦・神戸賢次編「3訂　保育士養成課程　福祉施設実習ハンドブック」みらい

NO. 640009001　保育実習Ⅱ

児童学科　教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

保育の実践現場に置いて子ども達とふれあい、生活を共にするなかで、保育所における子どもの生活を理解する。
また、保育者の関わり方や保育技術を体験的に学ぶ。
保育実習Ⅱ（保育所）は「参加観察実習」（部分実習を含む）を経て「指導実習（責任実習）」（部分実習から全日実習）へと移行する段階である。実習生は、保育の場に積極的に参加し、実習を行うクラスの主担任の展開する保育の流れを理解するとともに、子どもへの基本的かつ適切な関わり方を習得する。また、実習保育所の指導のもと、半日から一日の保育を保育者として実践させていただく。
[illegible]

学習目標・到達目標

1)実習態度(学びの姿勢・責任感・協調性・自発性等)を身につける
2)子ども理解(観る・共感する・子どもに即してかかわる等)
3)保育に向かう姿勢(保育に臨む姿勢・動き・配慮等)
4)実習園を理解する(保育所の役割・園の方針・特色・環境の理解等)
5)自己理解(実習を通じて自己課題に気づく省察する等)

評価方法その他

実習保育所による評価(50%)と担当教員による評価(50%)を合わせて総合的に評価する。

週　テーマ・授業目標等

1. 保育全般に参加し、保育技術を習得する。
2. 子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。
3. 発達の遅れや生活環境に伴う子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。
4. 子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に学ぶ。
5. 地域社会に対する理解を深め、子育て支援のための手法や連携方法について学ぶ。
6. 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。
7. 保育士としての倫理を具体的に学ぶ。
8. 保育者の子どもとかかわる姿勢から、効果的な援助と指導の内容と方法を学ぶ。
9. 園環境と子どもの遊びの実態について理解する。
10. 子どもの実態を把握し、これに即した指導計画を立案する。
11. 子どもの遊びや活動を促す環境を構成する。
12. 立案した指導計画に基づいて実践し、子どもの実態に即した援助の方法を試みる。
13. 自己の保育を省察するための記録(日誌)を工夫して書く。
14. 保育マップを作成する。
15. 反省会に出席し、実習全体を省察する。

使用教科書名

NO. 640010002　保育実習Ⅲ

柳瀬　洋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

保育実習Ⅲの目的は、実習生によってさまざまです。実習生は自分自身の関心の持ち方について幅広く、深く考えるようにしてから、実習施設を選定しましょう。
実習施設としては、３年生の時の実習ＩＣに新たに児童厚生施設である児童館が加わります。

学習目標・到達目標

児童への福祉は現在、特別な支援を必要とされる児童に対する施策だけでなく、すべての家庭において児童が健全に育成されることや児童を生み育てやすい社会環境を整備することを目指した施策が中心となっています。このため保育実習Ⅲでは保育士を目指す人が、保育所や保育所以外の入所型児童福祉施設だけでなく、児童福祉施設についての幅広い理解をすすめます。

評価方法その他

評価は下記の2つの観点で行う。
1. 実習施設からの評価80%
2. 日誌評価20%

週　テーマ・授業目標等

1. 養護全般に参加し、養護技術を習得する。好ましい援助の方法を具体的に体得する。
2. 子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。特に発達の遅れや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。
3. 利用者（児）の実態を把握し、集団による生活を全体的に体得する。
4. 処遇計画案または余暇活動案の立案の実際について学び実践する。
5. 子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。
6. 地域社会に対する理解を深め、連携の方法について学ぶ。
7. 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。
8. 保育士としての倫理を具体的に学ぶ。
9. 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。

使用教科書名

保育実習ＩＣで用いた教科書を続けて使用します。

NO. 640013001　保育実習指導Ⅱ

丹羽　さがの

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

保育実習Ⅰにおいて課題となったテーマについて、課題解決の過程を各自がプログラムし、実行できるようにする。
保育所実習Ⅱに向けた準備を行う。実習後には、その経験をを手掛かりとして、卒業後保育士として働く意欲が育つような準備をする。さらに、卒業後、子どもたちや他の保育士に学び、育ち続けることができるような基盤づくりをする。

学習目標・到達目標

1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。
2. 実習や既習の教科の内容とその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確に

評価方法その他

授業参加　60%
指導案作成・ロールプレイ・レポート提出　40%

週　テーマ・授業目標等

＜内容＞

1. 保育実習による総合的な学び
(1)子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解
(2)子どもの保育と保護者支援
2. 保育実践力の育成
(1)子どもの状態に応じた適切なかかわり
(2)保育の表現技術を生かした保育実践
3. 計画と観察、記録、自己評価
(1)保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践
(2)保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善
4. 保育士の専門性と職業倫理
5. 事後指導における実習の総括と評価
(1)実習の総括と自己評価
(2)課題の明確化

使用教科書名

NO. 640014001　保育実習指導Ⅲ

柳瀬　洋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

1．保育実習の内、保育所以外の児童福祉施設実習（以下、施設実習）の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。
2．実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。
3．保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。
4．施設における保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5．実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

学習目標・到達目標

1. それぞれの学生が3年生までに体験した保育実習において課題となったテーマを中心に、それらの課題解決の過程を各自がプログラムし、実行できるようにする。
2. 実習する施設の特色について十分に事前学習し、新たに自己課題を明確に設定する。さらに、卒業後、保育士として育ち続けることができるような基盤づくりをする。

評価方法その他

平常点60%
指導案作成・ロールプレイ・レポート提出40%

週　テーマ・授業目標等

1. 保育実習を手掛かりとして総合的・俯瞰的に学ぶ
(1)子どもの最善の利益をについて考える
(2)子どもの保育と保護者支援
2. 実習施設に必要とされる専門性と保育実践力の育成
(1)子どもの状態に応じた適切なかかわり
(2)保育技術を生かした保育実践
3. 実習施設に応じた実習計画と観察・記録の仕方を知る。
(1)保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践
(2)保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善
4. 保育士の専門性と職業倫理
5. 事後指導における実習の総括と評価
(1)実習の総括と自己評価
(2)課題の明確化

使用教科書名